

# 大国地頭所遺跡

2018年9月

国土交通省松江国道事務所  
島根県教育委員会



# 序

現在、一般国道9号の大田市静間町～仁摩町間は、急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい状況にあります。また一般国道9号の代替路線がなく、交通事故や災害等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしております。そのため、中国地方整備局松江国道事務所では、緊急時の代替路線の確保、医療・観光・物流活動の支援を目的として、静間・仁摩道路を平成20年度から事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、静間・仁摩道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

この報告書は平成27年度に実施した、大田市仁摩町大国に所在する大國地頭所遺跡の発掘調査をとりまとめたものです。今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡や中世の建物跡や貿易陶磁器など、当時の社会の様子がうかがうことのできる重要な資料を得ることができました。本報告書がふるさと島根県の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査および調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成30年9月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所長 鈴木 祥弘

# 序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、平成 25 年度から一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。本書は、このうち平成 27 年度に実施した大国地頭所遺跡の発掘調査成果をとりまとめたものです。

大国地頭所遺跡は、大田市仁摩町大国に所在する弥生時代後期から中近世にかけての遺跡です。調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡のほか、この時期の北部九州から瀬戸内西部地域や出雲地域の特徴を持つ土器などが多量に見つかりました。また、中世の区画溝や貿易陶磁が発見されるなど、当時の社会や人々の生活の様子を知る上で貴重な資料を得ることができました。

本書が地域の歴史を解明していくための基礎資料として、広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の作成にあたりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市教育委員会、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 9 月

島根県教育委員会

教育長 新田 英夫

# 例言

1. 本書は国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成27年度に実施した一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

平成27年度	大国地頭所遺跡（大田市仁摩町大国291外）
平成29・30年度	整理等作業・報告書作成
3. 調査組織  
調査主体 島根県教育委員会  
平成27年度事務局 廣江耕史（埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）、池淵俊一（管理課長）  
調査担当者 守岡正司（調査第二課第二係長）、坂根健悦（同課臨時職員）、片寄雪美（同）、無川美和子（同）、幸村康子（同）  
平成29年度事務局 萩 雅人（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋 聰（総務課長）、池淵俊一（管理課長）  
調査担当者 守岡正司（調査第二課長）、中川寧（調査第一課第一係長）、増田浩太（同課企画員）、阿部智子（同課臨時職員）、片寄雪美（同）、岩橋康子（同）  
平成30年度事務局 植 真治（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋 聰（総務課長）  
調査担当者 守岡正司（管理課長）、片寄雪美（調査第一課臨時職員）
4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については株式会社堀工務店に委託した。
5. 発掘調査にあたっては、以下の方々から御指導いただいた。（五十音順・肩書きは当時）  
柳原博英（浜田市教育委員会文化財係長）、高田健一（鳥取大学地域学部准教授）、武末純一（福岡大学人文学部教授）、田中義昭（元島根県文化財保護審議会委員）、田畠直彦（山口大学情報機構助教）、中村唯史（島根県立三瓶自然館課長代理）
6. 発掘調査に際して、以下の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた。（肩書きは当時）  
穴澤義功（たたら研究会委員）、大庭康時（福岡市埋蔵文化財センター所長）、片山まび（東京藝術大学美術学部准教授）、田中克子（アジア水中考古学研究所理事）、長嶺康典、西尾克己、野島智実（大田市教育委員会）、米田克彦（岡山県古代吉備文化財センター総括主任）、山本信夫（山本考古学研究所所長）、
7. 掃図中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系X軸方向を示し、座標系XY座標は世界測地系による。レベルは海拔高を示す。
8. 本書で使用した第2・3図は国土地理院発行1/25,000地形図（仁万・大浦）を使用して作成したものである。
9. 本書に掲載する土層名は『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所 色票監修に従って表記した。

- 発掘調査に伴って、出土鉄製品等の保存処理は公益財団法人大阪市博物館協会に委託した。
- 本書に掲載した遺構・遺物の写真は守岡・増田が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員・臨時職員・整理作業員が行ったほか、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。
- 本書の執筆は、第1～3章、第5章は守岡が行い、第4章は各節ごとに執筆者を明記している。
- 本書の編集は守岡が行った。
- 註は各章ごとに連番を振り当該頁下に配置し、参考文献等は各章末にまとめて示した。写真、挿図及び表の番号は全体の通し番号により表示した。
- 本書に掲載した遺物及び実測図・写真等の資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）にて保管している。

## 凡例

本書で用いた土器の分類及び編年観は下記の論文・報告書に依拠している。

### ●弥生土器・土師器

松本岩雄 1991「出雲・隱岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社

松山智弘 1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相・大東式の再検討」『島根考古学会誌』第8集

鹿島町教育委員会 1992「講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書 5 南講武草田遺跡」

松山智弘 2000「小谷式再検討・出雲平野における新資料から」『島根考古学会誌』第17集

島根県教育委員会 2008『九景川遺跡 一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

松山智弘 2010「最後の四隅突出型墳丘墓」『古代文化研究』第18号

松山智弘 2015「山陰」『前期古墳編年を再考するⅡ - 古墳出土土器をめぐって -』中国四国前方後円墳研究会

### ●須恵器

大谷晃二 1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

島根県教育委員会 2013『史跡出雲国府跡-9 総括編 - 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書』22

### ●陶磁器

国立歴史民俗博物館 1993『日本出土の貿易陶磁 - 西日本編 -』

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV - 陶磁器分類編 -』

遺構名対比表

旧	新
DT1	土器群 1
DT2	土器群 2
DT3	土器群 3
DT4	土器群 4
DT5	土器群 5
DT6	
DT7	土器群 6
DT8	

旧	新
DT9	土器群 7
弥生面・土器群 1～8	土器群 8
DT01 西側横土器群 SDS2付近	土器群 9

# 本文目次

第1章 調査の経過 .....	1
第1節 調査に至る経緯と経過 .....	1
第2節 発掘作業と整理作業の経過 .....	4
第2章 遺跡の位置と環境 .....	6
第1節 地理的環境 .....	6
第2節 歴史的環境 .....	6
第3章 大国地頭所遺跡の調査成果 .....	10
第1節 調査の方法 .....	10
1. 発掘調査区の設定 .....	10
2. 調査地区割の設定 .....	10
3. 表土・包含層掘削と遺構検出 .....	10
4. 遺構掘削 .....	10
5. 記録の作成 .....	12
6. 整理等作業 .....	12
第2節 大国地頭所遺跡の調査 .....	13
1. 基本層序 .....	13
2. 検出遺構とその遺物 .....	13
3. 包含層出土の遺物 .....	113
第4章 自然科学分析 .....	129
第1節 大国地頭所遺跡から出土した赤色顔料付着遺物と銭貨の蛍光X線分析 .....	129
第2節 大国地頭所遺跡発掘調査に係る自然科学分析 .....	136
第5章 総括 .....	143
第1節 大国地頭所遺跡の変遷 .....	143
第2節 その他の遺物の概要 .....	154

# 挿図目次

第 1 図	大国地頭所遺跡の位置	1
第 2 図	事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地 (S=1:30,000)	2
第 3 図	大国地頭所遺跡と周辺の遺跡 (S=1:25,000)	7
第 4 図	大国地頭所遺跡の位置 (S=1:1000)	11
第 5 図	大国地頭所遺跡 トレンチ土層図	12
第 6 図	大国地頭所遺跡 調査地区割り図 (S=1:800)	13
第 7 図	大国地頭所遺跡 1区東壁、4ライン土層図 (S=1:80)	14
第 8 図	大国地頭所遺跡 3区西壁土層図 (S=1:80)	15
第 9 図	大国地頭所遺跡 5区 T1、T2 東壁土層図 (S=1:40)	16
第 10 図	大国地頭所遺跡 1面遺構配置図 (S=1:400)	17
第 11 図	大国地頭所遺跡 2区遺構配置図 (S=1:200)	19
第 12 図	大国地頭所遺跡 2区遺構実測図 (S=1:40)	19
第 13 図	大国地頭所遺跡 1面 1区遺構配置図 (S=1:200)	20
第 14 図	大国地頭所遺跡 1面 3区遺構配置図 (S=1:200)	21
第 15 図	大国地頭所遺跡 1面 4区遺構配置図 (S=1:200)	22
第 16 図	大国地頭所遺跡 1.5面 1区遺構配置図 (S=1:200)	23
第 17 図	大国地頭所遺跡 1.5面 3区遺構配置図 (S=1:200)	24
第 18 図	大国地頭所遺跡 1.5面 4区遺構配置図 (S=1:200)	25
第 19 図	大国地頭所遺跡 石積遺構実測図 (S=1:40)	26
第 20 図	大国地頭所遺跡 石列 1 実測図 (S=1:40)	27
第 21 図	大国地頭所遺跡 石列 2 ~ 4 実測図 (S=1:100)	28
第 22 図	大国地頭所遺跡 石列出土遺物実測図 (S=1:4)	29
第 23 図	大国地頭所遺跡 SK04 ~ 12 実測図 (S=1:40)	31
第 24 図	大国地頭所遺跡 SK17・18、SD68・81 実測図 (S=1:80) (土層図: S=1:40)	32
第 25 図	大国地頭所遺跡 1面土坑出土遺物実測図 (S=1:4)	33
第 26 図	大国地頭所遺跡 燃土 1 ~ 3・5 実測図 (S=1:40)	34
第 27 図	大国地頭所遺跡 1面溝跡実測図 1 (S=1:80) (土層図: S=1:40)	36
第 28 図	大国地頭所遺跡 1面溝跡実測図 2 (S=1:100、1:200) (土層図: S=1:40)	38
第 29 図	大国地頭所遺跡 4区 1面礎石関連実測図 (S=1:200) (土層図: S=1:80) (礎石: S=1:40)	39
第 30 図	大国地頭所遺跡 1面溝跡実測図 3 (S=1:80) (土層図: S=1:40)	41
第 31 図	大国地頭所遺跡 SA01 実測図 (S=1:40)	41
第 32 図	大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 (S=1:4)	42
第 33 図	大国地頭所遺跡 SB01 ~ 03 実測図 (S=1:80)	44
第 34 図	大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 1 (S=1:40)	45
第 35 図	大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 2 (S=1:40)	46
第 36 図	大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 3 (S=1:40)	47
第 37 図	大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 4 (S=1:40)	48
第 38 図	大国地頭所遺跡 柱穴出土遺物実測図 1 (S=1:4)	50
第 39 図	大国地頭所遺跡 柱穴出土遺物実測図 2 (S=1:4)	51
第 40 図	大国地頭所遺跡 土器群 1 遺物出土状況 (S=1:80)	53
第 41 図	大国地頭所遺跡 土器群 1 出土遺物実測図 1 (S=1:4)	55
第 42 図	大国地頭所遺跡 土器群 1 出土遺物実測図 2 (S=1:4)	56
第 43 図	大国地頭所遺跡 土器群 1 出土遺物実測図 3 (S=1:4)	57
第 44 図	大国地頭所遺跡 土器群 1 出土遺物実測図 4 (S=1:4)	58

第 45 図	大国地頭所遺跡	土器群 1 出土遺物実測図 (S=1:4) .....	59
第 46 図	大国地頭所遺跡	土器群 5・2 遺物出土状況 (S=1:20) .....	61
第 47 図	大国地頭所遺跡	土器群 5 出土遺物実測図 (S=1:4) .....	62
第 48 図	大国地頭所遺跡	土器群 2 出土遺物実測図 (S=1:4) .....	62
第 49 図	大国地頭所遺跡	出土木製品実測図 (S=1:8)(S=1:4) .....	63
第 50 図	大国地頭所遺跡	出土金属器実測図 (S=1:3) .....	64
第 51 図	大国地頭所遺跡	出土錢貨実測図 (S=1:1) .....	64
第 52 図	大国地頭所遺跡	2面遺構配置図 (S=1:400) .....	65
第 53 図	大国地頭所遺跡	2面 1 区遺構配置図 (S=1:200) .....	66
第 54 図	大国地頭所遺跡	2面 3 区遺構配置図 (S=1:200) .....	67
第 55 図	大国地頭所遺跡	2面 4 区遺構配置図 (S=1:200) .....	68
第 56 図	大国地頭所遺跡	2面 SK、SD 実測図 (S=1:80)( 土層図 : S=1:40) .....	69
第 57 図	大国地頭所遺跡	2面遺構出土遺物実測図 (S=1:4) .....	70
第 58 図	大国地頭所遺跡	2面溝跡配置図 (S=1:400) .....	72
第 59 図	大国地頭所遺跡	2面溝跡出土遺物 (S=1:400) .....	73
第 60 図	大国地頭所遺跡	2面溝跡土層図 (S=1:60) .....	74
第 61 図	大国地頭所遺跡	土器群 9 遺物出土状況 (S=1:20) .....	77
第 62 図	大国地頭所遺跡	溝跡出土遺物実測図 (S=1:4) .....	78
第 63 図	大国地頭所遺跡	溝跡・土器群 9 出土遺物実測図 (S=1:4)(S=1:8) .....	79
第 64 図	大国地頭所遺跡	溝跡出土遺物実測図 (S=1:4) .....	80
第 65 図	大国地頭所遺跡	溝跡出土遺物実測図 (S=1:4) .....	81
第 66 図	大国地頭所遺跡	溝跡出土遺物実測図 (S=1:4) .....	82
第 67 図	大国地頭所遺跡	溝跡出土遺物実測図 (S=1:4)(S=1:8) .....	83
第 68 図	大国地頭所遺跡	2面 Pit 実測図 (S=1:40) .....	85
第 69 図	大国地頭所遺跡	焼土 4・6～9 実測図 (S=1:40) .....	86
第 70 図	大国地頭所遺跡	柱穴出土遺物実測図 (S=1:4) .....	87
第 71 図	大国地頭所遺跡	焼土出土遺物実測図 (S=1:4) .....	87
第 72 図	大国地頭所遺跡	土器群 3・8 遺物出土状況 (S=1:40) .....	89
第 73 図	大国地頭所遺跡	土器群 8 出土遺物実測図 (S=1:4) .....	90
第 74 図	大国地頭所遺跡	土器群 3 出土遺物実測図 (S=1:4) .....	90
第 75 図	大国地頭所遺跡	土器群 4 遺物出土状況 (S=1:40) .....	91
第 76 図	大国地頭所遺跡	土器群 4 出土遺物実測図 1(S=1:4) .....	92
第 77 図	大国地頭所遺跡	土器群 4 出土遺物実測図 2(S=1:4) .....	93
第 78 図	大国地頭所遺跡	土器群 6 遺物出土状況 (S=1:80) .....	94
第 79 図	大国地頭所遺跡	土器群 6 出土遺物実測図 1(S=1:4) .....	95
第 80 図	大国地頭所遺跡	土器群 6 出土遺物実測図 2(S=1:4) .....	96
第 81 図	大国地頭所遺跡	土器群 6 出土遺物実測図 3(S=1:4) .....	97
第 82 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 遺物出土状況 (S=1:100) .....	101
第 83 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 1(S=1:4)(S=1:8) .....	102
第 84 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 2(S=1:4) .....	103
第 85 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 3(S=1:4) .....	104
第 86 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 4(S=1:4) .....	105
第 87 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 5(S=1:4) .....	106
第 88 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 6(S=1:4) .....	107
第 89 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 7(S=1:4) .....	108
第 90 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 8(S=1:4) .....	109

第 91 図	大国地頭所遺跡	土器群 7 出土遺物実測図 9(S=1:4) .....	110
第 92 図	大国地頭所遺跡	段 1 遺物出土状況 (S=1:100)( 土層図 : S=1:40 ) .....	111
第 93 図	大国地頭所遺跡	段 1 出土遺物実測図 1(S=1:4) .....	112
第 94 図	大国地頭所遺跡	段 1 出土遺物実測図 2(S=1:4) .....	113
第 95 図	大国地頭所遺跡	包含層出土遺物実測図 1(S=1:4) .....	118
第 96 図	大国地頭所遺跡	包含層出土遺物実測図 2(S=1:4) .....	119
第 97 図	大国地頭所遺跡	包含層出土遺物実測図 3(S=1:4) .....	120
第 98 図	大国地頭所遺跡	包含層出土遺物実測図 4(S=1:4)(S=1:8) .....	121
第 99 図	大国地頭所遺跡	包含層出土遺物実測図 5(S=1:4)(S=1:8) .....	122
第 100 図	大国地頭所遺跡	包含層出土須恵器実測図 1(S=1:4) .....	123
第 101 図	大国地頭所遺跡	包含層出土須恵器実測図 2(S=1:4) .....	124
第 102 図	大国地頭所遺跡	包含層出土須恵器実測図 3(S=1:4) .....	125
第 103 図	大国地頭所遺跡	包含層出土陶磁器実測図 (S=1:4) .....	126
第 104 図	大国地頭所遺跡	包含層出土玉・石器実測図 1(S=1:1)(S=1:4) .....	127
第 105 図	大国地頭所遺跡	包含層出土玉・石器実測図 2(S=2:3)(S=1:4) .....	128
第 106 図	大国地頭所遺跡	遺構の変遷模式図 (S=1:800) .....	144
第 107 図	島根県内出土の青白磁梅瓶 (S=1:4)	.....	146
第 108 図	大国地頭所遺跡出土の非在地系土器 (S=1:8)	.....	150
第 109 図	赤色顔料付着土器 (S=1:8)	.....	153

## 表 目 次

第 1 表	一般国道 9 号 ( 静間仁摩道路 ) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧	3
第 2 表	大国地頭所遺跡出土中世陶磁器集計表	145
第 3 表	島根県内出土の青白磁梅瓶	146
第 4 表	仁万平野の中世陶磁器消長表	147
第 5 表	大国地頭所遺跡出土金属生産関連遺物種別計量表	149
第 6 表	赤色顔料付着土器	152
第 7 表	大国地頭所遺跡出土石器集計表	155
第 8 表	大国地頭所遺跡 遺構計測表	157
第 9 表	大国地頭所遺跡 出土土器観察表 ( 陶磁器を除く )	159
第 10 表	大国地頭所遺跡 出土土製品観察表	175
第 11 表	大国地頭所遺跡 出土陶磁器観察表	175
第 12 表	大国地頭所遺跡 出土錢貨観察表	177
第 13 表	大国地頭所遺跡 出土石器観察表	177
第 14 表	大国地頭所遺跡 出土金属器観察表	178
第 15 表	大国地頭所遺跡 出土木製品観察表	178
第 16 表	大国地頭所遺跡 出土玉観察表	178

## 本 文 写 真 目 次

写真 1	調査指導風景 1	5
写真 2	調査指導風景 2	5
写真 3	発掘作業風景	5
写真 4	現地説明会風景	5

# 写真図版目次

- 図版 1 大国地頭所遺跡（上空：西から）  
大国地頭所遺跡（上空：東から）  
大国地頭所遺跡（上空：北から）
- 図版 2 4 区完掘状況（上空：下が東）  
1・3 区 1 面完掘状況（西から）  
2 区遺構検出状況（西から）  
3 区 1 面完掘状況（北から）  
4 区完掘状況（東から）
- 図版 3 調査前近景（東から）  
調査前近景（西から）  
1 区東壁土層堆積状況（西から）  
1 区東壁土層堆積状況（西から）  
1 区東壁土層堆積状況（西から）  
3 区西壁土層堆積状況（北東から）  
3 区西壁土層堆積状況（南東から）  
5 区 T1 東壁土層堆積状況（西から）
- 図版 4 1 区石積遺構（南から）  
1 区石積遺構（南東から）  
1 区石積遺構土層堆積状況（西から）  
1 区石積遺構（西から）  
1 区石列 1（南から）  
1 区石列 1（東から）  
1 区 4 ライン土層堆積状況（西から）  
1 区 4 ライン土層堆積状況（西から）
- 図版 5 3 区石列 2（北から）  
5 区石列 2（西から）  
3・5 区石列 3（南から）  
3・5 区石列 2～4（南から）  
3 区石列 3（南から）  
3・5 区石列 2～4 完掘状況（南から）  
5 区石列 2～4（東から）  
5 区石列 2 岩石（西から）
- 図版 6 5 区石列 2・3 南壁土層堆積状況（北から）  
5 区石列 3・4 南壁土層堆積状況（北から）  
5 区石列 2～4 南壁土層堆積状況（北から）  
3 区石列 3 土層堆積状況（南から）  
3 区石列 4（南から）  
3 区石列 4（北から）  
2 区 SK03（北東から）  
2 区 SK03 土層堆積状況（南西から）
- 図版 7 1 区 SK04 土層堆積状況（南西から）  
1 区 SK06（北西から）
- 図版 8 1 区 SK06 土層堆積状況（南西から）  
3 区 SK08 遺物出土状況（北から）  
1 区 SK07（南から）  
3 区 SK08 鉄滓出土状況（西から）  
4 区 SK10 完掘状況（南から）  
4 区 SK10 土層堆積状況（南から）  
4 区 SK11（北から）  
5 区 SK17（南から）  
5 区 SK17 土層堆積状況（南から）  
5 区 SK17 完掘状況（南から）  
5 区 SK17 遺物出土状況（西から）  
5 区 SK18（南から）
- 図版 9 4 区 SK12 検出状況（南から）  
4 区 SK12（南から）  
4 区 SK12（北から）  
4 区 SK12（南から）  
4 区 SK12 西側石組（南から）  
4 区 SK12 東側石組（南から）  
4 区 SK12 土層堆積状況（南から）  
4 区 SK12 下層土層堆積状況（南から）
- 図版 10 4 区 SK12 完掘状況（北から）  
1 区焼土 2 検出状況（南から）  
1 区焼土 2 完掘状況（南西から）  
1 区焼土 3 土層堆積状況（北西から）  
1 区焼土 3 完掘状況（北西から）  
4 区杭列（東から）  
1 区北東端地山部分完掘状況（東から）  
1 区東側 1 面完掘状況（南から）
- 図版 11 1 区 SD01 完掘状況（南から）  
1 区 SD01 土層堆積状況（東から）  
1 区 SD02 土層堆積状況（東から）  
1 区 SD03 完掘状況（南西から）  
1 区 SD05 遺物出土状況（南から）  
1 区 SD06（北東から）  
1 区 SD06 土層堆積状況（南東から）  
1 区 SD07 土層堆積状況（南から）
- 図版 12 1 区 SD04（南から）  
1 区 SD04 完掘状況（南から）  
1 区 SD05 土層堆積状況（南から）  
3 区 SD08 検出状況（西から）
- 図版 13 3 区 SD08 土層堆積状況（東から）  
3 区 SD08 完掘状況（西から）

図版 13	4 区 SD09 ~ 11 検出状況 (西から)	4 区 Pit439 (南から)
	4 区 SD10 完掘状況 (南から)	4 区 Pit456 (東から)
	4 区 SD09 完掘状況 (南から)	4 区 墓石 8 と Pit1337 (西から)
	1 区 SB01 (西から)	4 区 Pit458 (北から)
図版 14	4 区 SD11 (南から)	4 区 Pit491 (東から)
	4 区 SD13 (東から)	4 区 Pit492 (西から)
	4 区 SD13 (西から)	4 区 Pit498 (南から)
	4 区 SD14 完掘状況 (東から)	4 区 Pit525 (東から)
	4 区 SD13 完掘状況 (東から)	4 区 Pit535 (北西から)
	4 区 SD16 (南から)	図版 20 4 区 Pit573 (西から)
	3 区 Pit237 遺物出土状況 (東から)	4 区 Pit577 (南から)
	3 区 Pit313 遺物出土状況 (北から)	4 区 Pit577 土層堆積状況 (南から)
図版 15	4 区 墓石 1 (西から)	4 区 Pit595 (西から)
	4 区 墓石 2 (南西から)	4 区 Pit603 (西から)
	4 区 墓石 3 (南西から)	4 区 Pit616 (左) Pit615 (右) (北から)
	4 区 墓石 4 (南から)	4 区 Pit617 土層堆積状況 (南から)
	4 区 墓石 6 (南西から)	4 区 Pit634 (南から)
	4 区 墓石 8 (南西から)	図版 21 4 区 Pit636 (西から)
	4 区 墓石 13 (西から)	4 区 Pit658 (南から)
	4 区 墓石 10(左) 墓石 11(右) (南西から)	4 区 Pit688 (南西から)
図版 16	4 区 墓石 13 (南から)	4 区 Pit708 土層堆積状況 (南から)
	4 区 墓石 14 (南から)	5 区 Pit730 (北西から)
	4 区 墓石 15 (西から)	1 区 Pit928 土層堆積状況 (南から)
	1 区 Pit01 土層堆積状況 (南西から)	4 区 Pit1195 (東から)
	1 区 Pit08 土層堆積状況 (南西から)	4 区 Pit1197 (西から)
	1 区 Pit54 銭貨出土状況 (南西から)	図版 22 4 区 Pit1206 (西から)
	1 区 Pit58 (左) Pit57 (右) (南東から)	4 区 Pit1222 (南東から)
	1 区 Pit66 (北東から)	4 区 Pit1224 遺物出土状況 (南から)
図版 17	1 区 Pit67 (南から)	4 区 Pit1226 銭貨出土状況 (北から)
	1 区 Pit81 遺物出土状況 (西から)	4 区 Pit1241 (南西から)
	1 区 Pit93 土層堆積状況 (南から)	4 区 Pit1283 (南西から)
	1 区 Pit145 (南から)	4 区 Pit1298 (西から)
	3 区 Pit259 (西から)	4 区 Pit1303 土層堆積状況 (南から)
	3 区 Pit278 遺物出土状況 (南から)	図版 23 4 区 Pit1309 (西から)
	3 区 Pit290 (北西から)	4 区 Pit1334 土層堆積状況 (南西から)
	3 区 Pit297 (西から)	4 区 Pit1334 (南から)
図版 18	3 区 Pit306 (東から)	4 区 Pit1336 (南から)
	3 区 Pit358 (南から)	4 区 Pit1338 (南から)
	4 区 Pit380 (北から)	4 区 Pit1349 (西から)
	4 区 Pit399 土層堆積状況 (南から)	4 区 Pit1358 (東から)
	4 区 Pit410 木製品 (第 49 図 10) 出土 状況 (北から)	4 区 Pit1363 (Pit453) (東から)
	4 区 Pit428 (西から)	図版 24 1 区土器群 1 遺物出土状況 (南から)
	4 区 Pit429 (北西から)	1 区土器群 1 遺物出土状況 (第 43 図 10) (西から)

図版 24	1区土器群 1 遺物出土状況（南から） 1区土器群 1 遺物出土状況 1区土器群 1 遺物出土状況（第 43 図 13）（南から） 1区土器群 1 遺物出土状況（西から） 1区土器群 1 遺物出土状況（西から） 1区耳環出土状況（南から）	1区 SD63 遺物出土状況（北から） 1区 SD64 土層堆積状況（東から） 1区 SD68 土層堆積状況（南西から）
図版 25	1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（南から） 1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（北から） 1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（西から）	図版 30 1区 SD68（左）SD63（右）土層堆積 状況（東から） 1区 SD69 土層堆積状況（東から） 1区 SD71 土層堆積状況（西から） 3区 SD72 土層堆積状況（東から） 3区 SD76 遺物出土状況（東から） 3区 SD76 土層堆積状況（東から） 3区 SD77 遺物出土状況（西から） 3区 SK20（左）SD80（右）土層堆積 状況（北から）
図版 26	1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（南から） 1区 2面完掘状況（西から） 1区 2面完掘状況（東から） 1・5区 2面完掘状況（南から） 1・5区 2面完掘状況（南から） 1・3・5区 2面完掘状況（西から） 3区 2面完掘状況（南から）	図版 31 5区 SD81 土層堆積状況（北から） 3区 SD82 土層堆積状況（北から） 3区 SD83 土層堆積状況（西から） 3区 SD94 遺物出土状況（東から） 3区 SD97 土層堆積状況（東から） 3区 SD97（東から） 3区 SD98 遺物出土状況（北東から） 3区 SD98 土層堆積状況（東から）
図版 27	4区 SD22（西から） 4区 SD22（左）土層堆積状況（西から） 4区 SD23 土層堆積状況（東から） 1区 SD35 土層堆積状況（東から） 1区 SD38 土層堆積状況（南から） 5区 SD44 土層堆積状況（南から） 5区 SD46 土層堆積状況（南から） 1区 SD52 遺物出土状況（南から）	図版 32 1区 SK13 土層堆積状況（西から） 1区 SK14 土層堆積状況（東から） 1区 SK16 土層堆積状況（南から） 1区 SK16 遺物出土状況（南から） 1区 焼上 4（南から） 1区 焼上 4 遺物出土状況（南から） 1区 焼上 4 検出状況（西から） 1区 焼上 6 土層堆積状況（東から）
図版 28	1区 SD53（左）土層堆積状況（西から） 1区 SD58 遺物出土状況（東から） 1区 SD58 土層堆積状況（北から） 1区 SD59 遺物出土状況（西から） 1区 SD60 土層堆積状況（北から） 1区 SD61（北から） 1区 SD61（北から） 1区 SD62（西から）	図版 33 1区 焼上 7（北から） 1区 焼上 7 土層堆積状況（北から） 1区 焼上 8（南から） 1区 焼上 8 土層堆積状況（南から） 1区 焼上 8 遺物出土状況（南から） 1区 焼上 9 土層堆積状況（西から） 5区 Pit805 遺物出土状況（南西から） 1区 Pit933 遺物出土状況（西から）
図版 29	1区 SD62 土層堆積状況（西から） 1区 SD63（横）SD62（縦）（北から） 1区 SD63 遺物出土状況（北から） 1区 SD63（南から） 1区 SD63 土層堆積状況（南西から）	図版 34 1区 Pit1050 土層堆積状況（東から） 3区 Pit1124 遺物出土状況（南東から） 3区 Pit1137 遺物出土状況（南から） 3区 Pit1216（南から） 1区 Pit1228 遺物出土状況（西から） 3区 Pit1242 遺物出土状況（北から） 3区 Pit1274（東から）

図版 34	4 区 Pit1337 (南から)	図版 50	土器群 6 出土土器
図版 35	3 区土器群 8 遺物出土状況 (南東から)		土器群 7 出土土器
	3 区土器群 8 遺物出土状況 (南東から)	図版 51	土器群 7 出土土器
	3 区土器群 3 遺物出土状況 (南から)		土器群 7 出土土器
	3 区土器群 3 遺物出土状況 (南から)	図版 52	土器群 7 出土遺物
	3 区土器群 4 遺物出土状況 (南から)		土器群 7 出土遺物
	3 区土器群 4 遺物出土状況 (南から)	図版 53	土器群 7 出土土器
	1 区土器群 7 遺物出土状況 (西から)		土器群 7 出土土器
	1 区土器群 7 遺物出土状況 (南西から)	図版 54	土器群 7、包含層出土遺物
図版 36	1 区土器群 7 遺物出土状況 (南から)		段 1 出土土器
	1 区段 1 (南から)	図版 55	段 1 出土土器
	1 区段 1 土層堆積状況 (西から)		包含層出土遺物
	遺物出土状況 (第 97 図 29) (南から)	図版 56	包含層出土土器
	遺物出土状況 (第 98 図 4) (北から)		包含層出土土器
	遺物出土状況 (第 98 図 4) (北から)	図版 57	包含層出土土器
	土器群 9 遺物出土状況 (北から)		土器群 6、土器群 7 出土土器
	土器群 9 遺物出土状況(第 63 図 11)(東から)	図版 58	土器群、包含層出土土器
図版 37	石列出土土器	図版 59	石列、SK 出土陶磁器
	石列、SK 出土土器		SD、Pit 出土陶磁器
図版 38	SD、Pit 出土遺物	図版 60	出土陶磁器
	Pit 出土遺物		出土陶磁器
図版 39	Pit、土器群 1 出土土器	図版 61	石列、SK、SD 出土石器
	土器群 1 出土土器		SD、Pit、土器群出土石器
図版 40	土器群 1 出土土器	図版 62	出土石器
	土器群 1 出土土器		出土石器
図版 41	土器群 5・2 出土土器	図版 63	試掘、SD、Pit、土器群出土土器
	土器群 2、SK 出土遺物	図版 64	土器群出土土器
図版 42	SD 出土土器	図版 65	土器群、SD 出土土器
	SD 出土土器	図版 66	SK、SD、土器群出土遺物
図版 43	SD 出土土器	図版 67	土器群、SD 出土土器
	SD 出土土器	図版 68	焼土、土器群出土土器
図版 44	SD 出土土器	図版 69	土器群出土土器
	SD 出土土器	図版 70	土器群 7 出土土器
図版 45	SD 出土土器	図版 71	土器群 7 出土土器
	SD 出土土器	図版 72	土器群 7、段 1、包含層出土土器
図版 46	SD、Pit 出土土器	図版 73	土器群 7、包含層出土土器
	Pit 出土土器	図版 74	包含層、SK 出土土器
図版 47	Pit、焼土、土器群出土遺物	図版 75	包含層出土遺物
	土器群 4 出土土器	図版 76	SD、包含層出土土器
図版 48	土器群 4 出土土器	図版 77	出土金属器、錢貨、玉
	土器群 4 出土土器	図版 78	出土柱根、木製品
図版 49	土器群 6 出土土器		
	土器群 6 出土土器		

# 第1章 調査の経過

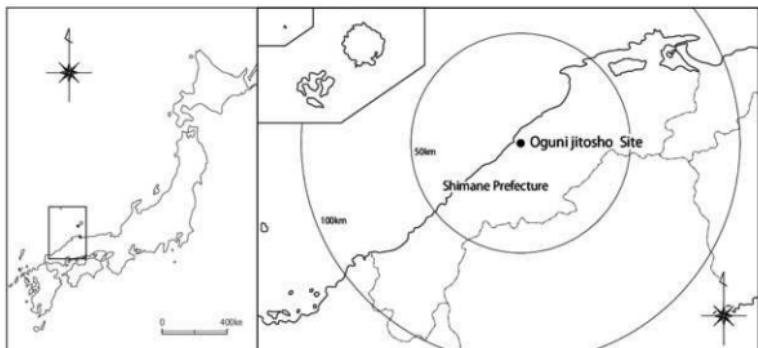
## 第1節 調査に至る経緯と経過

**事業計画の概要** 一般国道9号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約750kmで、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。この内、静間～仁摩間の現道は急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい状況にある。また、この区間では、国際規格コンテナの通行支障トンネルや、事故・災害発生時の通行止めが発生し、大幅な迂回が必要となるなど、社会経済活動に大きな支障をきたしている。こうした問題を解決するため、島根県大田市静間町から大田市仁摩町大国に至る延長7.9kmを結ぶ自動車専用道路が計画され、平成20年度から「静間・仁摩道路」として事業着手されている。

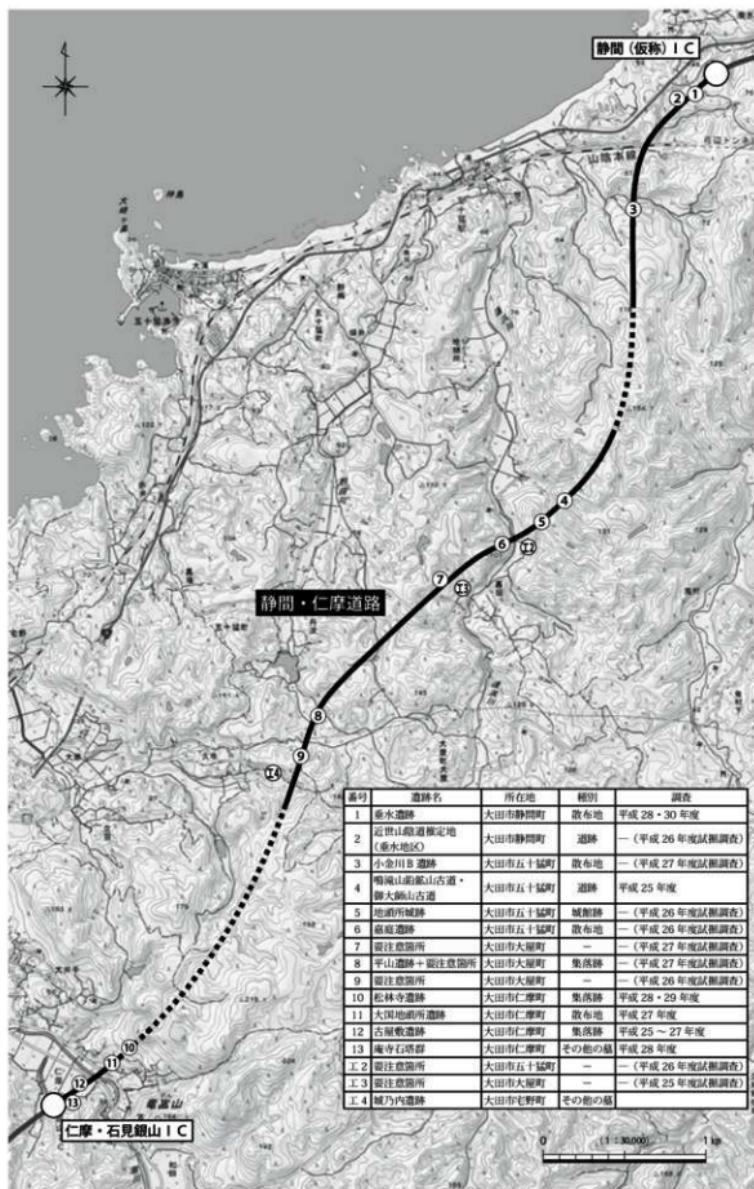
**埋蔵文化財保護部局への照会と調整** この計画に先立ち、国土交通省から島根県教育委員会に対して計画地内の埋蔵文化財についての照会があり、平成16・17年度に最初の分布調査を実施した。その後、平成18年2月、平成22年2月にも分布調査を実施した。島根県教育委員会では、平成22年5月25日付け島教文財第233号で、本線予定地内に所在する8遺跡と4箇所の要注意箇所を回答している。平成23年度末には工事用道路の分布調査を行い、これについては、平成24年4月9日付け島教文財第49号で回答した。

これらの結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で、予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、平成25年3月22日付け国中整松一管第248号で文化財保護法第94条第1項の規定による通知が国土交通省から文化庁長官あてに提出された。それに対し、平成25年3月26日付け島教文財第11号の62で、島根県教育委員会教育長から10遺跡について記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。

この間の平成21年5月には、静間仁摩道路の計画線に近い大田市五十猛町に所在する鳴滝山鉛鉱山跡について、世界遺産である石見銀山の操業に関わる鉛鉱山である可能性があることから、同年7月に現地協議を行った。平成23年3月に再度分布調査を行った結果、坑道そのものは事業地内に含



第1図 大国地頭所遺跡の位置



第2図 事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地 (S=1:30,000)

まれていないことを確認したが、坑道に至る古道、及びそこから枝分かれする通称「御大師山古道」の取り扱いについては、平成25年8月19日付け国中整松調設第50号で文化財保護法第94条第1項の通知があり、平成25年8月20日付け島教文財第15号の35で発掘調査の実施が勧告された。鳴滝山鉛鉱山古道と御大師山古道については、平成25年9月に周辺の測量と発掘調査を行った。

静間仁摩道路と仁摩温泉津道路の接点で仁摩・石見銀山インターインジに隣接する大田市仁摩町大国地内には庵寺石塔群と呼ばれる岩窟があり、宝筐印塔などが納められている。この遺跡は、平成14年3月の分布調査で確認されていたが、平成15年7月に仁摩温泉津道路に関係して島根県教育委員会教育長から国土交通省へ回答した際には、仁摩温泉津道路建設予定地内には含まれていないと認識されていた。その後、平成19年7月には『石見銀山遺跡とその文化的景観』が世界遺産に登録されると、この付近は世界遺産のバッファゾーンとなった。岩窟内に安置される宝筐印塔は、元禄2(1688)年銘がある福光石製石塔で、保存状態がよく、紀年銘があることから石見銀山にある同型式の石塔類研究の基準資料となるもので、貴重なものとされた。この石塔と周囲の遺跡の保存について、平成22年10月の取り扱い協議で、「静間・仁摩道路」に事業地内に含まれることが判明したため、島根県教育委員会から国土交通省に対し重要性を説明。同月、大田市石見銀山課が国土交通省に対し、「石見銀山景観保全条例」との調整について協議を行った。それを受けて、国土交通省では工法変更により岩窟付近を保存することになったが、工事の影響を受ける岩窟前面のテラス部分については遺構の広がりを確認する必要が生じた。

静間仁摩道路建設予定地内の試掘確認調査は、国庫補助事業により平成24年度の古屋敷遺跡を最初に、平成25年10月に大田市五十石町地内で、平成26年7月から12月には大国地頭所遺跡など6箇所で実施、平成27年度は静間町及び仁摩町地内で7箇所の試掘確認調査を実施した。その結果をもとに、垂水遺跡・松林寺遺跡・大国地頭所遺跡・庵寺石塔群（テラス部分）の発掘調査範囲を定めた。

第1表 一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧

調査年度	遺跡名	シリーズ番号	刊行年
平成25年度	古屋敷遺跡（A区）	1	2017.1
	古屋敷遺跡（B区）	5	2017.6
	鳴滝山鉛鉱山古道・御大師山古道	6	2017.6
平成26年度	古屋敷遺跡（C・F区）	3	2017.3
	古屋敷遺跡（D区）	2	2017.3
	古屋敷遺跡（E区）	1	2017.1
平成27年度	古屋敷遺跡（G区）	4	2017.7
	古屋敷遺跡（H・I区）	3	2017.3
	大国地頭所遺跡	7	2018.9
平成28年度	垂水遺跡・庵寺石塔群・松林寺遺跡		
平成29年度	松林寺遺跡		
平成30年度	垂水遺跡		

シリーズ名：『一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

発掘調査は、平成 25 年度に古屋敷遺跡（A・B 区）と鳴滝山鉛鉱山古道、御大師山古道を、平成 26 年度に古屋敷遺跡（C・D・E・F 区）を、平成 27 年度に古屋敷遺跡の残された部分（G・H・I 区）と大国地頭所遺跡を、平成 28 年度に垂水遺跡と庵寺石塔群、松林寺遺跡を実施した。平成 29 年度には用地買収の関係で実施できなかった松林寺遺跡と垂水遺跡の一部について、試掘確認調査を行った。その結果を受け、松林寺遺跡の発掘調査を実施した。垂水遺跡の一部の発掘調査は、平成 30 年度の予定である。

なお、平成 25 年度には、工事用道路に関連する大田市仁摩町宅野の城乃内遺跡の発掘調査を行う予定であったが、工事の都合により延期され、平成 32 年度以降実施することとなった。この年の 6 月 10 日には、城乃内遺跡周辺の石塔類について、立正大学文学部教授の池上悟氏、元島根県文化財保護審議会委員の田中義昭氏の調査指導を受けた。

平成 27 年度には大国地頭所遺跡約 2,500m<sup>2</sup>及び古屋敷遺跡の残り（G・H・I 区）約 2,500m<sup>2</sup>について発掘調査を行うとともに、古屋敷遺跡（A・E 区）の遺物整理作業を行った。平成 28 年度には古屋敷遺跡（B・C・D・F・G・H・I 区）、鳴滝山鉛鉱山古道、御大師山古道、大国地頭所遺跡の整理作業や報告の執筆・編集を行い、古屋敷遺跡（A・C・D・E・F・H・I 区）の報告書印刷を行った。

平成 29 年度には古屋敷遺跡（B・G 区）、鳴滝山鉛鉱山古道、御大師山古道の報告書印刷、大国地頭所遺跡、垂水遺跡、庵寺石塔群、松林寺遺跡の整理作業や報告の執筆・編集を行った。平成 30 年度に大国地頭所遺跡の報告書印刷を行った。

大国地頭所遺跡の文化財保護法第 99 条第 1 項の規定による通知は、平成 27 年 4 月 14 日付け島教理第 60 号で埋蔵文化財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あてに提出した。現地終了後、遺跡の取り扱いは記録保存とすることとなり、平成 28 年 2 月 12 日付け島教文財第 879 号により島根県教育委員会教育長から国土交通省松江国道事務所長あてに終了報告を提出した。

## 第2節 発掘作業と整理作業の経過

**発掘作業の概要** 調査対象地は、暫定 2 車線で工事を行われる橋台部等で、潮川右岸の丘陵南斜面から平野に位置し、東側から 1 ~ 4 区、南側市道部分を 5 区とした。発掘作業は、平成 27 (2015) 年 6 月 1 日～平成 28(2016) 年 1 月 29 日にかけて実施した。調査区は宅地跡や市道であり、現地には地下埋設物等が残っていた。試掘確認調査の結果から表土・造成土層等を重機により除去し、並行して 6 月 8 日より人力掘削を開始した。

調査区は宅地の区画により 4 区画に分かれ、1 区から開始したが、近現代の搅乱が多くあり、遺構が削平されている箇所もあった。2、1、3、4、5 区の順で調査を行ったが、5 区は市道の付替が終了した 10 月 21 日から開始した。上層からは中世から近世の遺構、特に柱穴が多く確認でき、根固め石や礎石があり、実測に手間取った。その下層には、古墳時代後期から古代の遺物が多量に出土し、石列等も確認できた。さらに下層は弥生時代後期から古墳時代前期の遺物を多量に含む包含層となり、各地点で土器溜りを確認できた。地山上からは柱穴や切り合いを持つ弧を描く溝跡が複数検出され、遺物と遺構の実測に時間を要した。

土坑や柱穴等の遺構は、半裁・写真撮影、実測を行った。11 月 16 日には空中写真撮影を行い、継続して下層の調査を 12 月 28 日まで実施し、1 月 4 日から再開した。完了協議を経て平成 28 年

1月29日に図面作成等の作業を終了し、埋め戻しを開始した。2月10日にすべての作業を終了し、国土交通省へ引き渡しを行った。

調査中、11月14日には国土交通省の協力を得て、古屋敷遺跡と合同で現地説明会を開催し、約80人の参加を得た。9月29日に中村唯史氏から遺跡の土層堆積状況や石積遺構で使用されている石材の石材同定の、10月27日に田中義昭氏から遺跡の性格の調査指導を受けた。整理作業と並行し、平成29年2月13～14日に松林寺遺跡とともに武末純一氏から北部九州系土器の調査指導を受けた。平成29年度は整理作業を本格的に行い、6月9日に柳原博英氏から須恵器の、7月13日～14日に田畠直彦氏から北部九州から西部瀬戸内系土器の、10月10日に中村唯史氏から出土石器の石材同定の、10月30日に高田健一氏から山陰地域の他遺跡との比較等の調査指導を受けた。

**整理等作業** 遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センターにて前述した作業を継続し、統いて復元・実測等の整理作業を行った。平成29年度に出土品を通覧して非掲載品についても分類し、遺跡の全体像が把握できるよう計量を行った。現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレイス、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等にはAdobe社のソフトを使用した。



写真1 調査指導風景1



写真2 調査指導風景2



写真3 発掘作業風景



写真4 現地説明会風景

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

かつて石見国であった島根県西部は中国山地から北に伸びる丘陵が日本海に迫り、深い入り江となったりアス海岸と、その間に開けた平野や砂丘が交錯する変化に富んだ地形となっている。このうち、大国地頭所遺跡の位置する大田市仁摩町は石見東部にあたり、北は大田市五十町、南は大田市温泉津町、東は世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の中心部である大田市大森町に接している。遺跡のある大田市仁摩町大国地区は、大田市仁摩町冠方面から大きく蛇行して日本海に注ぐ潮川の下流部に位置し、狭い山間を抜けた潮川が仁万平野で急に開ける場所にある。大国地頭所遺跡は、西流する潮川が運んだ堆砂によって形成された平野の最奥部に位置しており、周囲の標高は約10m、日本海からは東へ約2.3kmの位置にある。大田市仁摩町付近では、海岸線が南北方向に伸びており、西に日本海が広がっている。よって、国道9号やJR山陰本線は北へ向かうと出雲・松江方面へ、南に向かうと江津・浜田方面に向かうことになる。

潮川の対岸、遺跡の南側にある丘陵尾根上には平成24年までに発掘調査が行われた庵寺古墳群があったが（島根県2014）、現在では仁摩温泉津道路の仁摩・石見銀山インターチェンジとなっている。また、その下に接して、元禄2（1688）年銘のある宝筐印塔などを納めた岩窟があり、岩窟とその周辺は庵寺石塔群と呼ばれる遺跡となっている。平野部には、平成27年度まで発掘調査が行われた古屋敷遺跡があり、縄文時代後期から弥生時代前期の集落跡や水田跡が確認されている。遺跡の南東には標高153mの竜嵐山があり、その山頂付近に平坦面や土壠等が残っている。この竜嵐山は、石見城跡として世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の構成資産に含まれている。遺跡の南側には潮川が西流し、潮川北岸は斜面が迫っている。潮川右岸には大国地頭所遺跡、松林寺遺跡など弥生時代から中世に至る遺跡が知られている。

### 第2節 歴史的環境

**旧石器・縄文時代** 大田市仁摩町周辺では旧石器時代の遺跡は知られていない。

久根ヶ曾根遺跡（52）、鳥居原遺跡（55）、仁万大橋遺跡（24）などで縄文前期にさかのぼる土器が出土している。中期・後期になると川向遺跡（26）や坂灘遺跡（29）の他、古屋敷遺跡（2）や五丁遺跡（8）など、次第に遺跡数が増加する。晩期の突堤文土器の時期になると庵寺遺跡（6）、千後田遺跡（14）などで土器の出土が知られるようになる。これらの遺跡は、いずれも仁万平野縁辺の低湿地や海岸近くの砂丘にあり、当時、入り込んでいた入り海の周囲に縄文人の生活環境が広がっていたことが想像される。大国地頭所遺跡から南東約20kmに位置する三瓶山北麓では三瓶小豆原埋没林が発見されており、炭化木片について $4310 \pm 80$  yrsBPの年代が測定され（島根県2000）、この頃に三瓶山の大規模な噴火があったことが推定される。三瓶山の東側にあたる飯南町の志津見ダム関連の発掘調査では厚い火山噴出物層が確認されているが、仁摩町周辺は三瓶山の北西にあたるため三瓶山の噴火に伴う噴出物等はほとんど見られない。

**弥生時代** 園場整備に伴って旧仁摩町が発掘調査を行った古屋敷遺跡（2）からは、多量の弥生時代



1 大国地頭所遺跡	2 古屋敷遺跡	3 松林寺遺跡	4 庵寺石塔群
5 庵寺古墳群	6 庵寺遺跡	7 才於追遺跡	8 五丁遺跡
9 孫四田遺跡	10 大月遺跡	11 コヲスミ遺跡	12 ヒヨトリケ市遺跡
13 京内原遺跡	14 千後田遺跡	15 入石遺跡	16 清石遺跡
17 白石遺跡	18 千人塚遺跡	19 榆ノ木谷横穴墓群	20 榆ノ木遺跡
21 安養寺古墳群	22 飯田遺跡	23 善興寺橋遺跡	24 仁万大橋遺跡
25 中配前遺跡	26 川向遺跡	27 毘沙門塚古墳	28 毘沙門遺跡
29 坂瀬遺跡	30 坂瀬古墳	31 矢迫屋横穴墓群	32 田尻遺跡
33 菴田遺跡	34 大井手遺跡	35 大寺遺跡	36 高浜遺跡
37 明神古墳	38 墓原遺跡	39 打落し遺跡	40 立平浜遺跡
41 赤崎山横穴墓群	42 宝隆寺裏古墳群	43 石見城跡	44 志源寺遺跡
45 大国城跡	46 天垣内城跡	47 横屋前遺跡	48 白石上屋敷遺跡
49 半城跡	50 ナメラ追遺跡	51 狐城跡	52 久根ヶ曾根遺跡
53 琴ヶ浜遺跡	54 鳥居原古墳	55 鳥居原遺跡	56 虹ヶ谷城跡
57 茶臼山城跡	58 駒岩遺跡		

第3図 大国地頭所遺跡と周辺の遺跡 (S=1:25,000)

前期の土器とともに複数の土坑が検出されている（仁摩町 1999）。古屋敷遺跡や隣接する五丁遺跡（8）、庵寺遺跡（6）からも、縄文晚期から弥生前期に流れていたと見られる自然流路が見られ、庵寺遺跡では 34 点もの田下駄をはじめ木製品が出土している（島根県 2009）。川向遺跡（26）では円形に配された杭列遺構をはじめ、前・中期の土器・石器・木製品など多くの遺物が出土している（仁摩町 1993）。庵寺古墳群（5）では、仁万平野を見下ろす丘陵上から後期の短期間に営まれた加工段が発見され、いわゆる高地性集落として注目される（島根県 2014）。榆ノ木遺跡（20）からは後期の竪穴建物跡が検出された。この他、同時期の遺跡としては大寺遺跡（35）、孫四田遺跡（9）などがあり、仁万平野周辺の丘陵部に遺跡が点在している。

**古墳時代** 仁万平野を望む位置に築かれた安養寺 1 号墳は  $12 \times 8$ m の方墳で、箱式石棺をはじめ、4 基の主体部を持つ（仁摩町 1989）。安養寺古墳群（21）や坂瀧遺跡（29）からは壺棺と見られる大型の土師器壺が出土している。坂瀧古墳（30）は石を 2 ～ 3 段に積み上げ、床面に石を敷いた箱式石棺が明らかになっており、人骨や鹿角装刀子が出土している（島根県 1970）。また、古屋敷遺跡を見下ろす庵寺古墳群（5）から、八禽鏡を出土した 1B 号墳など複数の古墳が前期に遡ることが確認された（島根県 2010）。

後期になると、明神古墳（37）、鳥居原古墳（54）をはじめ、五十猛の赤井穴ヶ迫古墳など、小平野毎に有力な古墳が築かれるようになる。庵寺古墳群でも、横穴式石室を持つ 1A 号墳が築かれるなど各地で横穴式石室が見られる。この内、明神古墳は全長 10.1m の大型の横穴式石室に家形石棺を納め、金銅装円頭大刀や銅碗など優れた副葬品を持っていたことが知られ、鳥居原古墳からも双龍環頭大刀など優れた遺物が出土した。五十猛町の赤井穴ヶ迫古墳は石見地方では唯一の切石製横穴式石室を持つ古墳で、海上交通を介した出雲地方などの交流を伺わせる（出雲考古学研究会 1987）。また、榆ノ木谷横穴墓群（19）、矢追屋横穴墓群（31）、赤崎山横穴墓群（41）など横穴墓も非常に多く知られる地域となっている。一方、大寺遺跡（35）、岐田遺跡（33）など古墳時代の遺物を出土する遺跡は少なくないが、住居跡を伴う集落遺跡の発見は少ない。

**古代** この付近は、「和名類聚抄」では邇摩郡大國郷に含まれると思われ、近隣には託農郷がある。また、「延喜式」に見える石見国には波祢、詫濃、楠道、江東、江西、伊甘の 6 郡家があったとされている。古代山陰道の位置は判明していないが、託農駅が現在の大田市仁摩町宅野付近であれば、比較的近くを山陰道が通っていた可能性がある。近隣での古代の遺跡の様相は明らかでないが、大田市温泉津町の中祖遺跡では古代の瓦を葺いた建物跡が発見された。また、大田市水上町の白坏遺跡からは「延喜 9（909）年」銘の木簡が出土し、末端官衙の可能性が指摘されている（大田市 1989）。近隣では五丁遺跡（8）から条里制の畦畔が検出されている。

**中世・近世** 平安時代末～鎌倉時代の遺跡には白石遺跡（17）がある。多数の掘立柱建物跡の他、白磁・青磁などの貿易陶磁が出土した（仁摩町 1989）。また、潮川左岸に広がる五丁台地には古屋敷遺跡、末ヶ坪遺跡、孫四田遺跡、大月遺跡、コラスミ遺跡、京円原遺跡、清石遺跡など中世の遺跡が集中している。多くの遺跡からは 11 世紀後半から 12 世紀の中国製白磁、15 世紀から 16 世紀の中国製青磁や白磁、青花が確認されている。コラスミ遺跡や原田遺跡からは防長系の瓦質擂鉢が出土し、石見西部から山口地域との関連も指摘されている（新川 2013）。

石見国守護職の変遷を見ると、南北朝期は上野頼兼、高師泰など目まぐるしく変わり、康暦元（1379）年に大内氏が守護職を獲得する。応永 6（1399）年に大内義弘が幕府に背くと、京極高誼、山名氏

に守護職が与えられ、戦国期に大内氏が守護になるまで、山名氏が勤めた。しかし、応永の乱後に守護職を失った後も大内氏は邇摩郡を分都知行し、影響力を保持していたという。

大永7（1526）年、石見銀山が再発見され、銀鉱山開発が活発化すると、戦国大名の争奪の場となる。大国地区においても世界遺産に含まれる石見城跡（43）があり、銀山開発初期に銀鉱石を運んだとされる石見銀山街道鞆ヶ浦道が近くを通っている。

天正15（1587）年、九州攻め中の豊臣秀吉の元に陣中見舞いに向かう細川幽斎は、その行程を『九州道の記』に残している。丹後から日本海沿いに西に進む幽斎は石見銀山にも立ち寄っており、それによると、大浦に泊まり、大浦から仁万まで海路で移動し、仁万から石見銀山へ向かったとされていることから仁万から銀山へ向かう、つまり潮川沿いに大国地頭所遺跡の周辺を通過して石見銀山へ向かう道が当時のルートの一つであったと考えられる（岩橋 2015）。

古屋敷遺跡南側の岩盤に穿たれた岩窟には元禄2（1688）年の銘を持つ大型の宝筐印塔や正徳5（1715）年銘の方柱状石塔などが納められ、その周辺を含め庵寺石塔群（4）と呼ばれている。特に、宝筐印塔は石見銀山最盛期に当たる17世紀代のもので、組み合わせ式でありながら、すべての部材が良好にそろい、保存状態も良いことから、きわめて貴重な資料となっている。

#### 【参考文献】

- 島根県教育委員会 1970『島根県埋蔵文化財調査報告』Ⅱ
- 島根県教育委員会 1984『島根県生産遺跡分布調査報告書』Ⅱ 石見部製鉄遺跡
- 島根県教育委員会 1987『島根県埋蔵文化財調査報告』Ⅷ
- 出雲考古学研究会 1987『石棺式石室の研究』
- 仁摩町教育委員会 1989『仁摩健康公園造成工事に伴う発掘調査報告書』
- 大田市教育委員会 1989『白坏遺跡発掘調査概報』
- 中澤四郎 1991『隱岐・出雲・石見の条里—その地域と地理的背景—』
- 角川書店 1991『角川日本地名大辞典 32 島根県』
- 仁摩町教育委員会 1993『潮川小規模河川改修工事に伴う川向遺跡発掘調査報告書』
- 平凡社 1995『日本歴史地名体系 第33巻 島根県の地名』
- 仁摩町教育委員会 1998『清石遺跡外発掘調査報告書』
- 仁摩町教育委員会 1999『五丁地区遺跡発掘調査報告書』
- 島根県環境生活部景観自然課 2000『三瓶理沒林調査報告書』
- 島根県教育委員会 2002『増補改訂 島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』
- 仁摩町教育委員会 2005『仁万大橋遺跡・善興寺橋遺跡発掘調査報告書』
- 島根県教育委員会 2009『五丁遺跡・庵寺遺跡Ⅰ・於才追遺跡』
- 島根県教育委員会 2010『梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群Ⅰ・庵寺遺跡Ⅱ』
- 新川 隆 2013『陶器器からみた石見銀山周辺地域—仁摩町出土資料を中心にして—』  
『世界遺産石見銀山遺跡の調査研究』3 島根県教育委員会・大田市教育委員会
- 島根県教育委員会 2014『庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』
- 岩橋 孝典 2015『16世紀後半における山陰地域水上交通の一断面—島津家久と細川幽斎の旅を題材として—』  
『日本海沿岸の渦潮における景観と生業の変遷の研究』 島根県古代文化センター
- 川岡 勉 2018『中世後期の守護支配と石見国衆』『石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター

## 第3章 大国地頭所遺跡の調査成果

### 第1節 調査の方法

#### 1. 発掘調査区の設定

遺跡は、大田市仁摩町内を流れる潮川右岸（河口から約2.3km上流）に立地し、標高8～10mの丘陵麓に位置する。調査前は宅地で、上下2段の平坦面からなり、上段は丘陵を削平し、下段は盛土によって平坦面を造成していた。調査区南側は市道（宮村1号線）及び水路、さらに、市道の南側は水田及び盛土造成した土地を宅地や畑に利用していた。市道南側は本来、かなり標高が低かったと考えられ、試掘確認調査T1によれば砂層や砂礫層を確認し、旧流路あるいは氾濫原であったと考えられる。平成26年度の試掘確認調査ではT2、T3から土師器や古代の須恵器（第5図1、2）などの遺物が比較的まとまって出土した。また、T3からは石積遺構が検出された。第5図1、2は須恵器環である。1は口径12cm、器高4.2cmの小型で、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。2は口径15.9cm、器高7.1cmの大型で、底部は回転糸切り後、端部内側をナデすることにより、沈線状の凹みとなり、底部端部が高台に見える。9世紀と考えられる。

T4とT5は丘陵部の平坦面に設定した。表土下、崩落土等を確認し、遺構、遺物は確認できなかった。試掘確認調査の結果を受け、本調査が必要な範囲について、用地買収や工事の進捗状況により、平成27年度に島根県教育委員会が調査主体となり本調査を実施した。現地調査期間は平成27年6月1日から平成28年1月29日、調査面積は2,490m<sup>2</sup>である。

#### 2. 調査地区割の設定

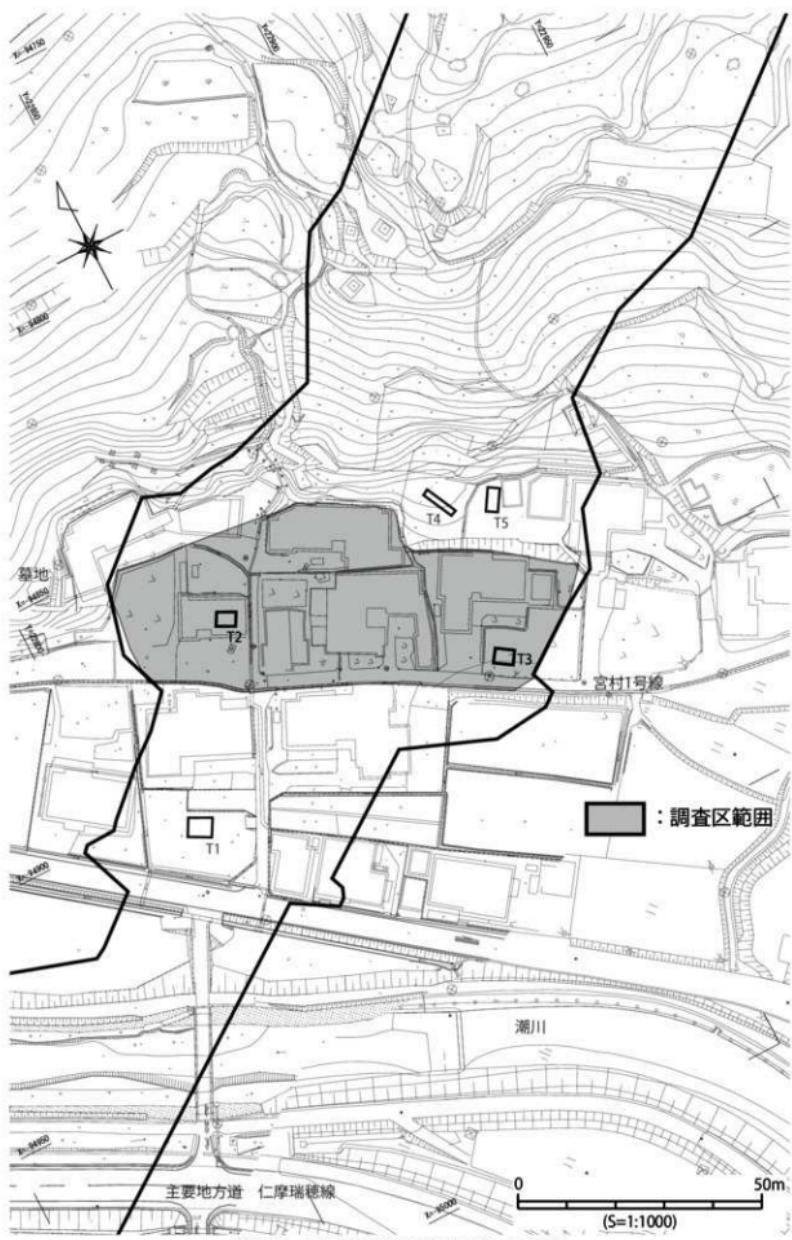
調査にあたり、重機掘削の後、調査区の長軸の中央付近を基準に5m四方グリッドを設定した（第6図）。北に向かアルファベットを、西に向かアラビア数字を振った。それぞれの区画は各交点の南東端をもってグリッド名称とし、遺構等に伴わない遺物はグリッドで取り上げを行った。

#### 3. 表土・包含層掘削と遺構検出

試掘確認調査を受け、表土や造成土の除去はバケットに平爪を装着したバックフォーを使用し、少しづつ漉き取るようにして面的に振り下げを行った。調査前は宅地として使用されていたため浄化槽や暗渠等があり搅乱を受けている箇所も多く存在し、造成土とあわせて取り除いた。その後、ベルトコンベヤーを設置した後、遺物包含層の掘削は主にスコップやジョレンを用いて人力で振り下げた。出土する遺物の粗密に応じて適宜、草削りや移植ゴテ等を使用した。

#### 4. 遺構掘削

遺構の埋土掘削には草削りや移植ゴテを使用した。掘削にあたっては基本的にベルトを設定するか半裁し、土層観察を行いつづけた。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構から出土した遺物については適宜、出土状況を記録した後、取り上げた。



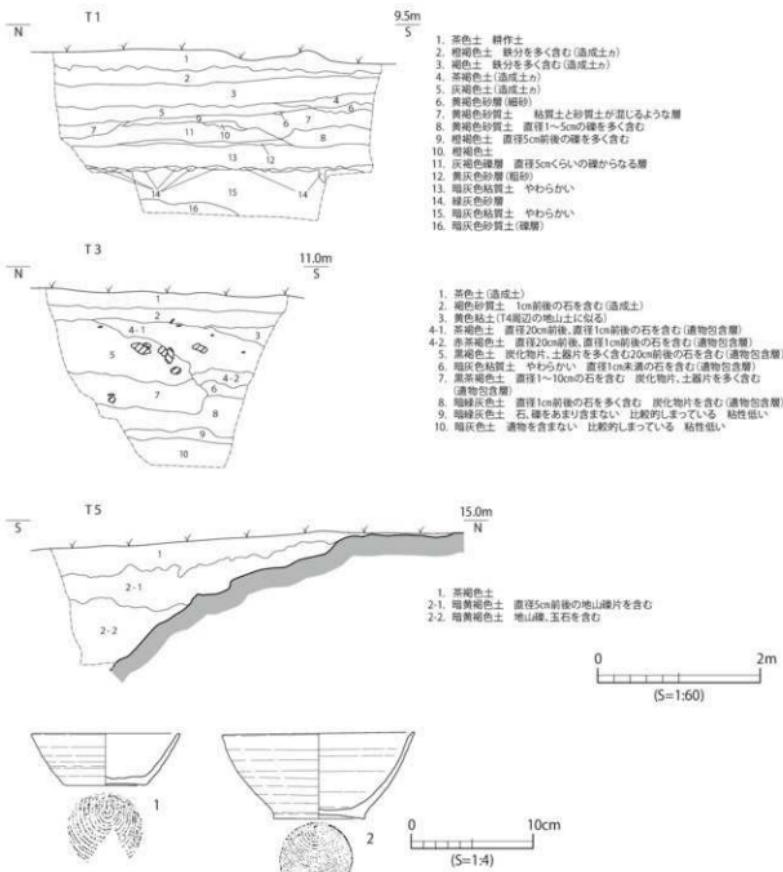
第4図 大国地頭所遺跡の位置 (S=1:1000)

## 5. 記録の作成

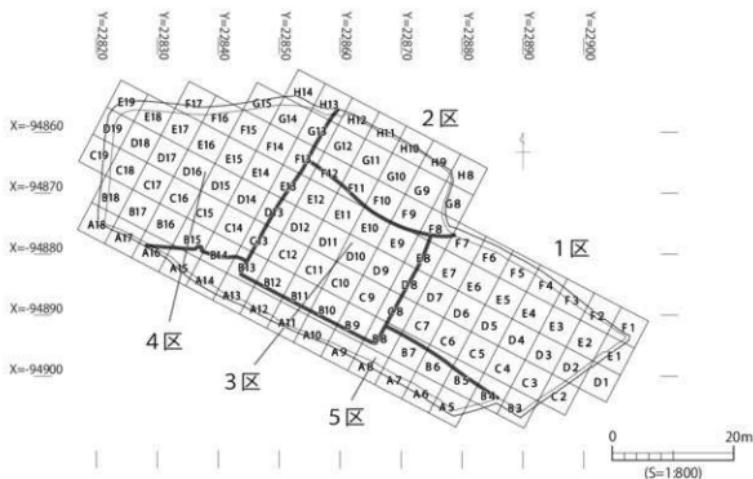
遺構の平面図は、遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行った。必要に応じて手測りで平面図や遺物出土実測図を作成した。遺構の写真は、原則として35mmデジタルカメラで撮影し、必要に応じて記録保存のため6×7判フィルムカメラ（モノクロネガ・カラー・ポジフィルム）による撮影も行った。

## 6. 整理等作業

報告書作成はDTP方式を採用し、トレースや図の加工などはAdobe社製IllustratorCS5.1・PhotoshopCS5.5を用いた。遺構・遺物写真是デジタルカメラで撮影した後、PhotoshopCS6を用いて調整しEPSデータ化した。最終的な原稿執筆、編集作業はAdobe社製InDesignCCを用いて行った。



第5図 大国地頭所遺跡 トレンチ土層図



第6図 大国地頭所遺跡 調査地区割り図 (S=1:800)

## 第2節 大国地頭所遺跡の調査

### 1. 基本層序

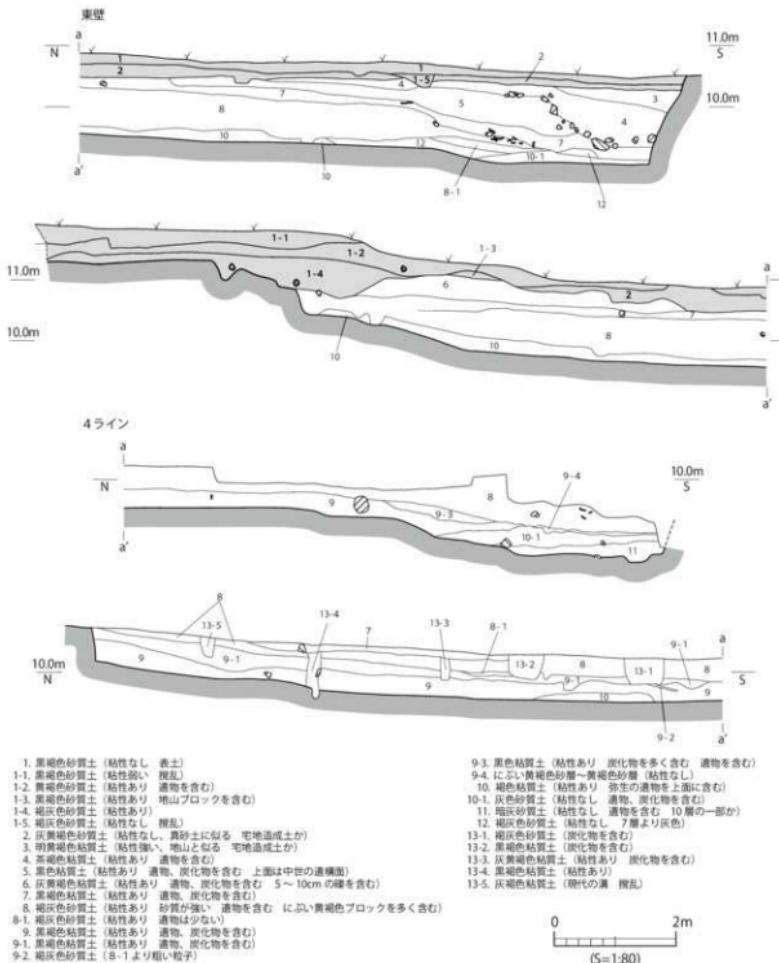
調査区は、宅地造成のため地表はほぼ平坦に盛土されていた。基本層序は、最上層が宅地のための表土・造成盛土、その下に茶褐色土や黒褐色土、褐色等の遺物包含層、最下層は地山である黄褐色土となる。北側の丘陵斜面から南側の潮川に向けて緩やかに傾斜し、調査区東端で地山の南北の比高差は約2.4mを測る。東壁5層は南側に石積遺構を作り、造成している。5層上面には中世以降の遺構が確認できた(第1面)。5層の下層にある7層や8層からは古墳時代後期から古代の遺物がまとまって出土した(土器群1)。8-1層は8層より少し砂質で、明るいが8層と同一の可能性がある。調査区中央の8~10層は弥生時代後期から古墳時代前期の包含層で、多量の土器等が出土した。地山である黄褐色土上からは遺構が検出された(第2面)。一方、調査区北端は造成土を除去するとすぐに黄褐色土(地山)が検出され、包含層が確認できなかった。調査区南端からは砂層を数面検出し、洪水等の影響を受けていると考えられる。1区や5区南端の地山上から遺構が確認できない範囲があり、遺構面が削平された可能性がある。5区のT1の2層とT2の1層の黄褐色土(第9図)は1区東壁土層の3層に対応し、遺物がなく時期は不明であるが、地山を使用した造成土である。

### 2. 検出遺構とその遺物

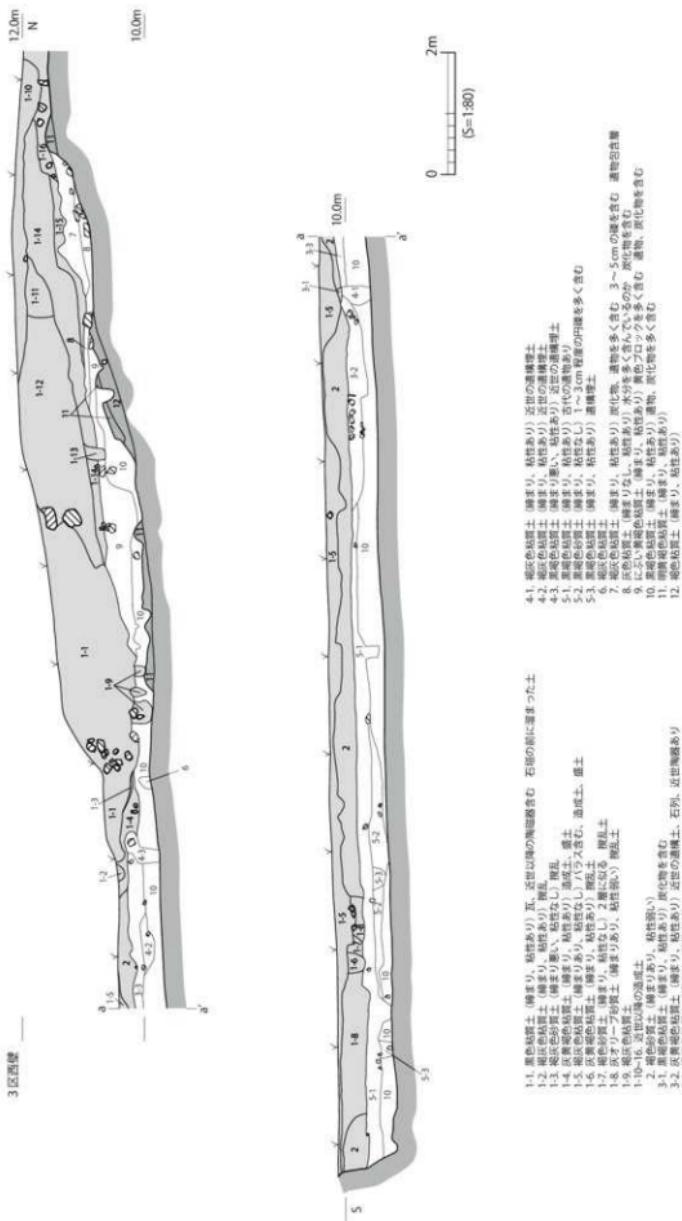
遺構は、第1面から中世から近世の、第2面から弥生時代後期から古墳時代前期のものを検出した。第1面を1~2段掘り下げた所で明確な面は確認できなかったが遺構があり、第1.5面とした。出土遺物から古墳時代後期から古代の遺構が中心である。しかし、第1面で検出できなかった遺構を検

出している場合も多いと考えられる。5区では第1面での遺構検出が困難で、中世の遺構を第2面で検出することがあり、第2面から検出したピットも上層から掘り込まれたピットを含んでいる。

大国地頭所遺跡からは、弥生時代後期から古墳時代前期の溝状遺構、ピット、土器溜まり、古墳時代後期から古代の土器溜まり、中世の石積遺構、溝状遺構、石列、土坑、ピットが確認された。ピットは約1,300穴、焼土は9基、土坑18基、溝跡は大小合わせて99条である。

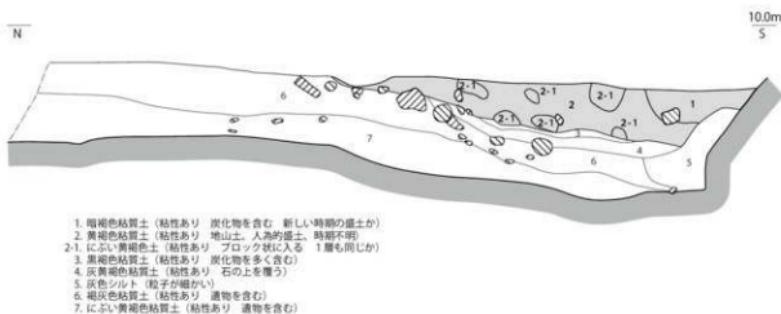


第7図 大国地頭所遺跡 1区東壁、4ライン土層図 (S=1:80)

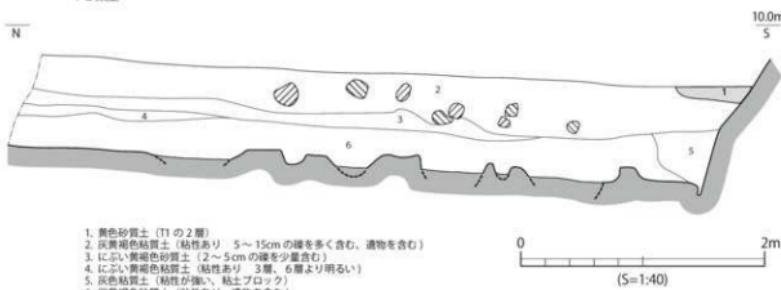


第8図 大国地頭所遺跡 3区西壁土層図 (S=1:80)

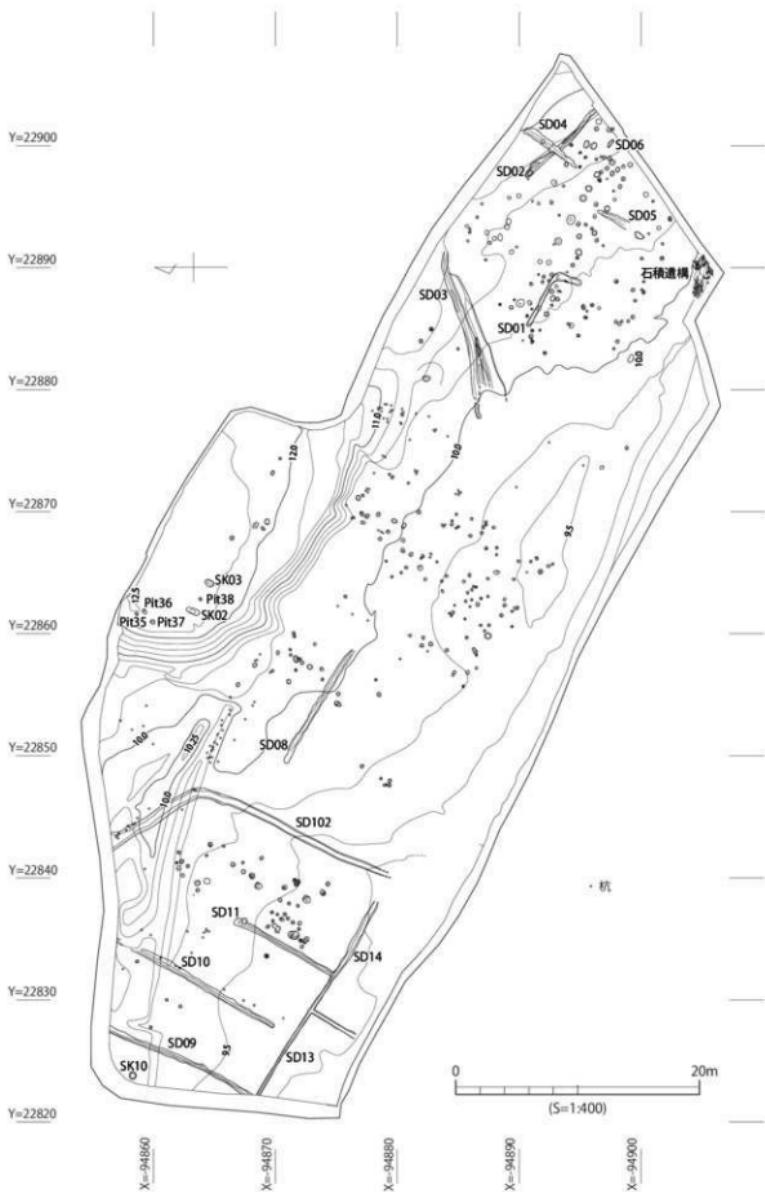
T 1 東壁



T 2 東壁



第9図 大国地頭所遺跡 5区 T1、T2 東壁土層図 (S=1:40)



第10図 大国地頭所遺跡 1面遺構配置図 (S=1:400)

## 2区（第11図）

2区は調査区中央北側に位置し、南側に石垣を構築し、北側丘陵斜面を削平して平坦面を造り出していた。山際は幅50～60cmの溝や幅40cmのコンクリート製側溝により排水し、西側は墓地へ行く道の水路に接続している。東側は自然に下段に流れる。調査区北側は地山上に、コンクリート製枠を伴う土坑や搅乱が存在し、南側は削平されていた。中央付近に時期不明の土坑やピットを確認した。いずれも遺物がなく、時期は不明である。

**SK02（第12図）** 長さ1.12m、幅0.4m、深さ0.44mを測る楕円形の土坑である。埋土は単層で、時期・性格は不明である。

**SK03（第12図）** 長さ0.75m、幅0.46m、深さ0.28mを測る楕円形の土坑である。SK02との距離は2.4mを測る。埋土は円礫を含む灰黄色土で、時期・性格は不明である。

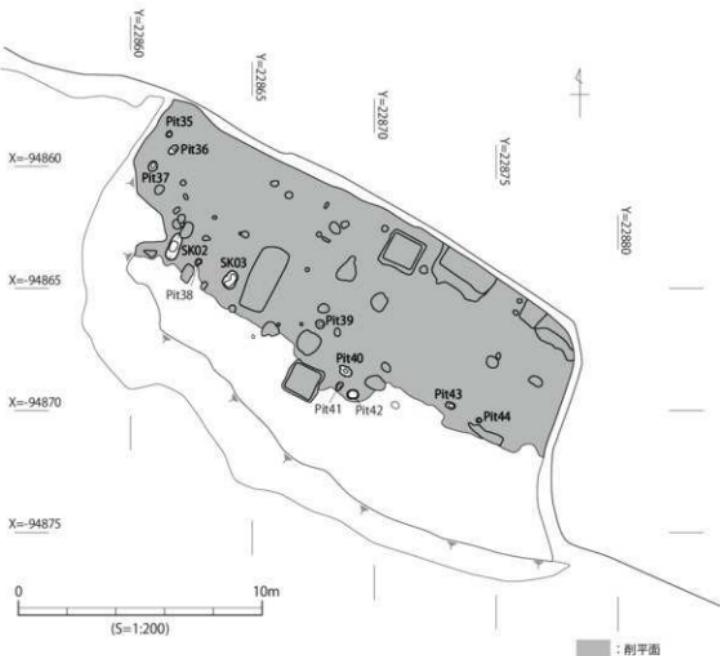
## 1・3～5区

**石積遺構（第19図）** 第1区第1面の南東端から長さ3.7mにわたり検出した。調査区外に続いているため本来の長さは不明である。第19図第1層（第7図1区東壁第5層）を盛土する過程で、石材を斜面前面に貼り付けた可能性があり、土中に埋没している石材は石の自重で沈み込んだ可能性がある。第1層上面が水平に移行した箇所にも石材があり、本来は立ち上がりがさらに上方まで続いている可能性もある。転落している石材も多くあった。石材は拳大から人頭大の20～30cmの石材を使用している。石材は流紋岩～デイサイトが多い。石の丸み等表面の状況や大きさから周辺から持ち込まれた可能性が高い。潮川沿いには産出しない花崗岩が1点確認できた。遺構の性格は中世の盛土端で検出されたことから、盛土の崩落を防ぐためものと考えられる。

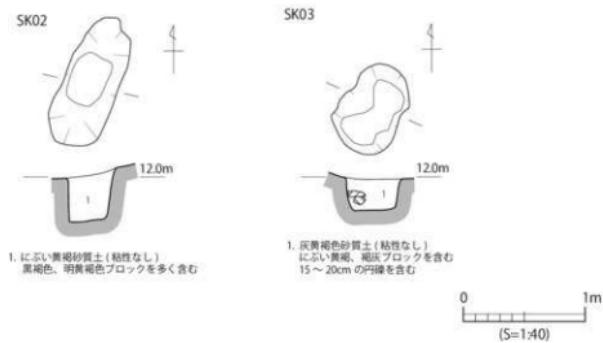
**石列1（第20図）** 第1面石積遺構の下層から検出された土器群1が周囲に存在する。石列1は2列の石列からなるが、その周辺から同規模の石材が検出された。その石材の周囲や一部下層からも土器がまとまって出土し、土器群1として取り上げた。2列の石材は地面に刺さるように下に尖った面を持っている。北列は長さ4mを測り、西側から0.9m、0.6m、0.7mの間隔で25～30cmの上面が平坦な石材が配され、その間に10～20cmのやや小規模な石材がある。南列は長さ3.3mを測り、西側から0.6m、0.5m、0.8m、0.4mの間隔である。北列と南列の間隔は0.7～0.8mを測る。石材は流紋岩～デイサイトがほとんどで、溶結凝灰岩や流紋岩中の貫入岩である白色を呈したアップライトがある。周辺から出土した土器から古墳時代後期から古代の時期と考えられる。

**石列2～石列4・SD21（第21図）** 3区と5区から検出した石材を伴う溝跡である。検出時に溝跡の堀方が検出できず、先に石列を検出した。東側から石列2、中央を石列3、西側を石列4とした。3区では個別の石列を伴う溝であったが、5区（南側）では石列3と石列4の間にも幅約1m、深さ0.5mの溝跡がある（SD21）。各溝跡の床面は北側から南側に向かって傾斜している。

石列2の溝は幅0.7m、残存長6.9m、深さ0.5mを測る。北側では長さ1.5mにわたり20～50cmの石が一列に検出され、溝の深さは0.08mと浅い。石列は一旦途切れ、南側は幅2.2mの溝になり、埋土に10～20cmの石材が多量に混在していた。一部50～60cmの石も落ち込んでいた。東側溝堀方肩部には30～40cmの上面が平坦な石材が3石分確認できた。落ち込んでいた石材も当初は溝堀方肩部にあった可能性がある。遺物は石の間や溝跡内から出土した。第22図1は白磁碗で、外面に縦籠花弁文がある。2は土師器鼓形器台である。



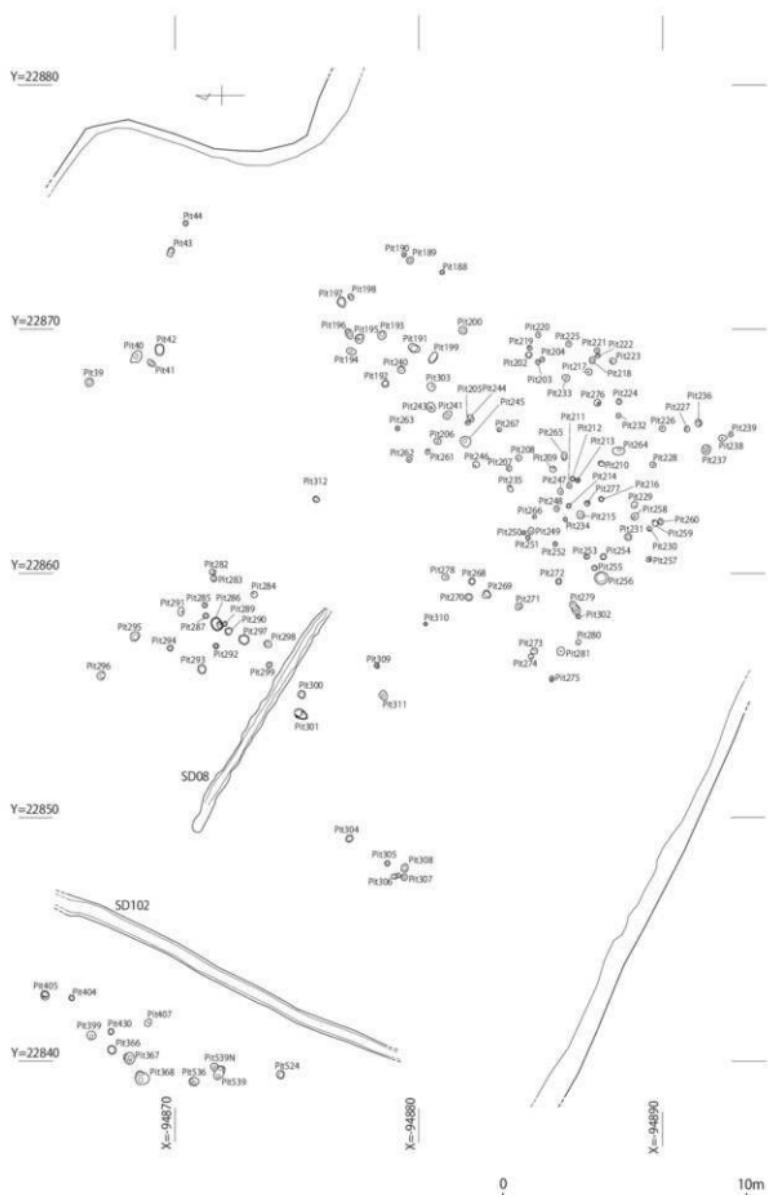
第11図 大国地頭所遺跡 2区遺構配置図 (S=1:200)



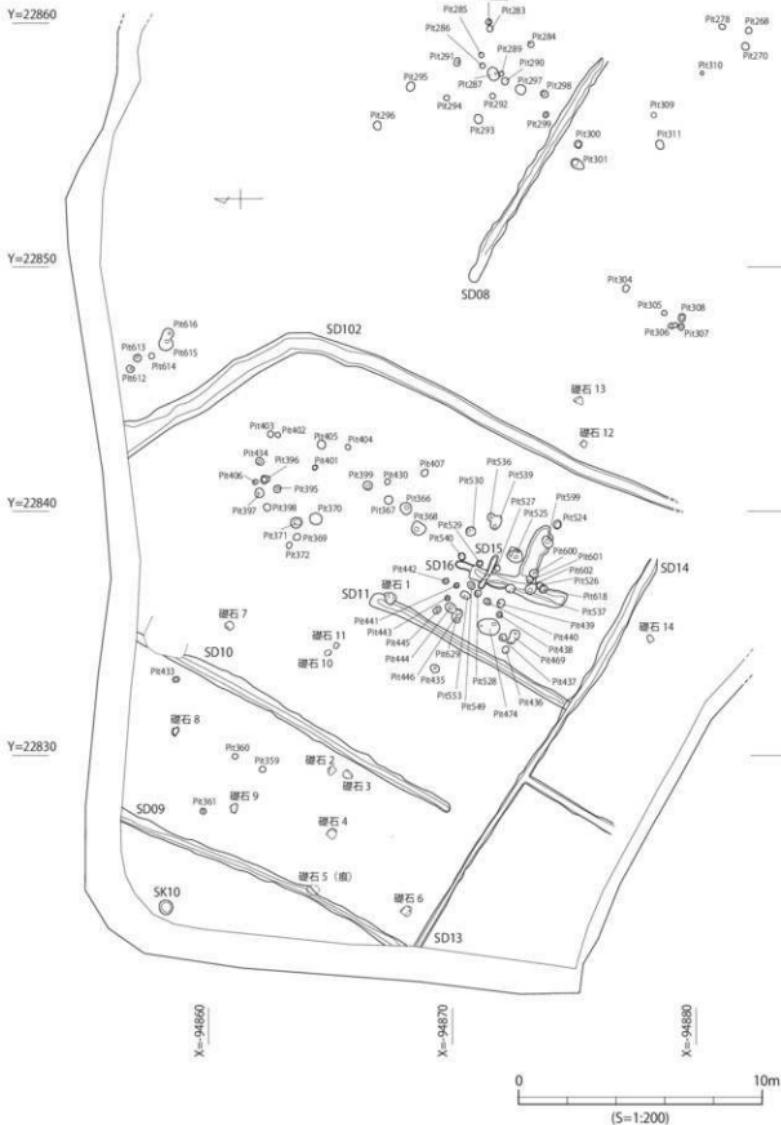
第12図 大国地頭所遺跡 2区遺構実測図 (S=1:40)



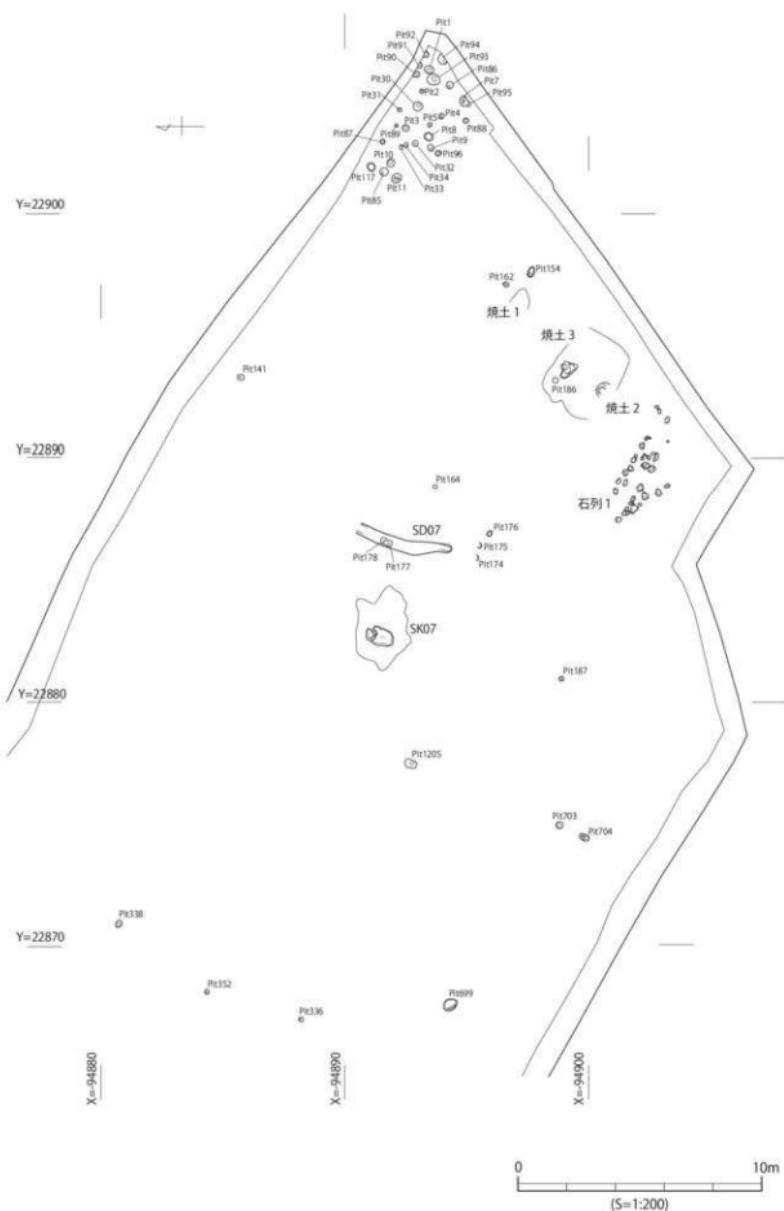
第13図 大国地頭所遺跡 1面1区遺構配置図 (S=1:200)



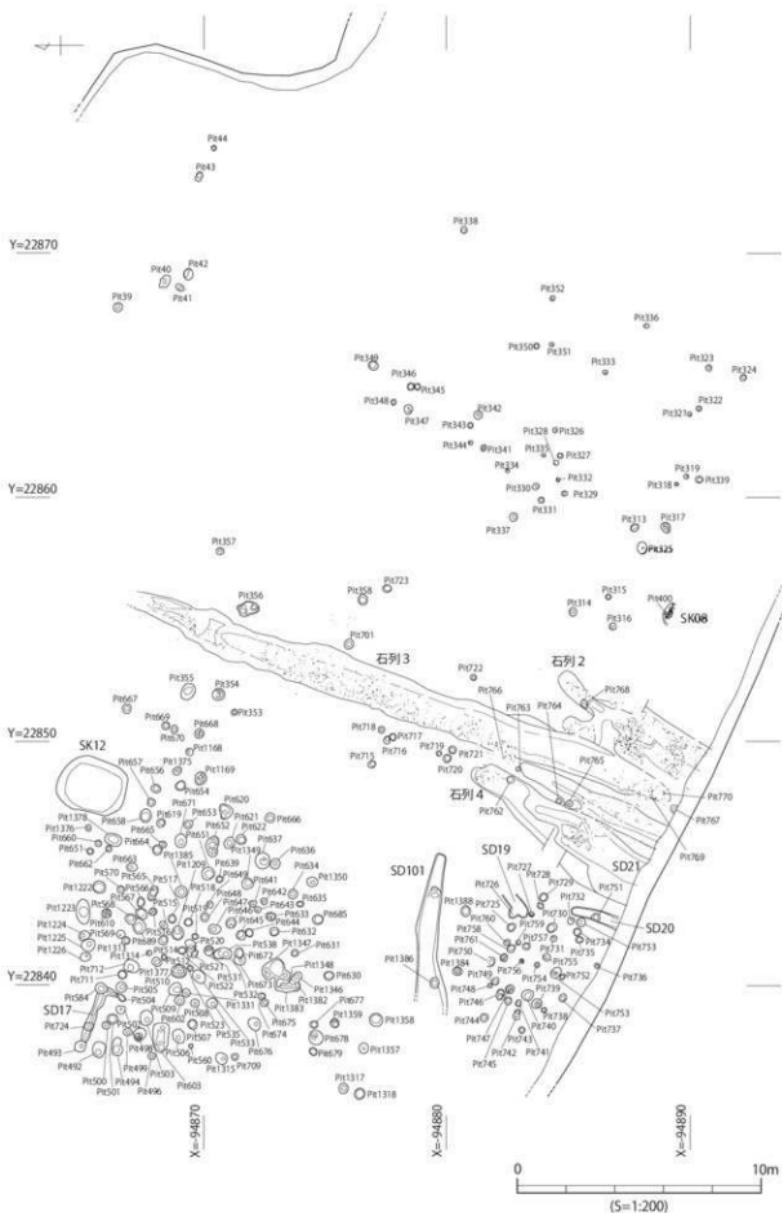
第14図 太国地頭所遺跡 1面3区遺構配置図 ( $S=1:200$ )



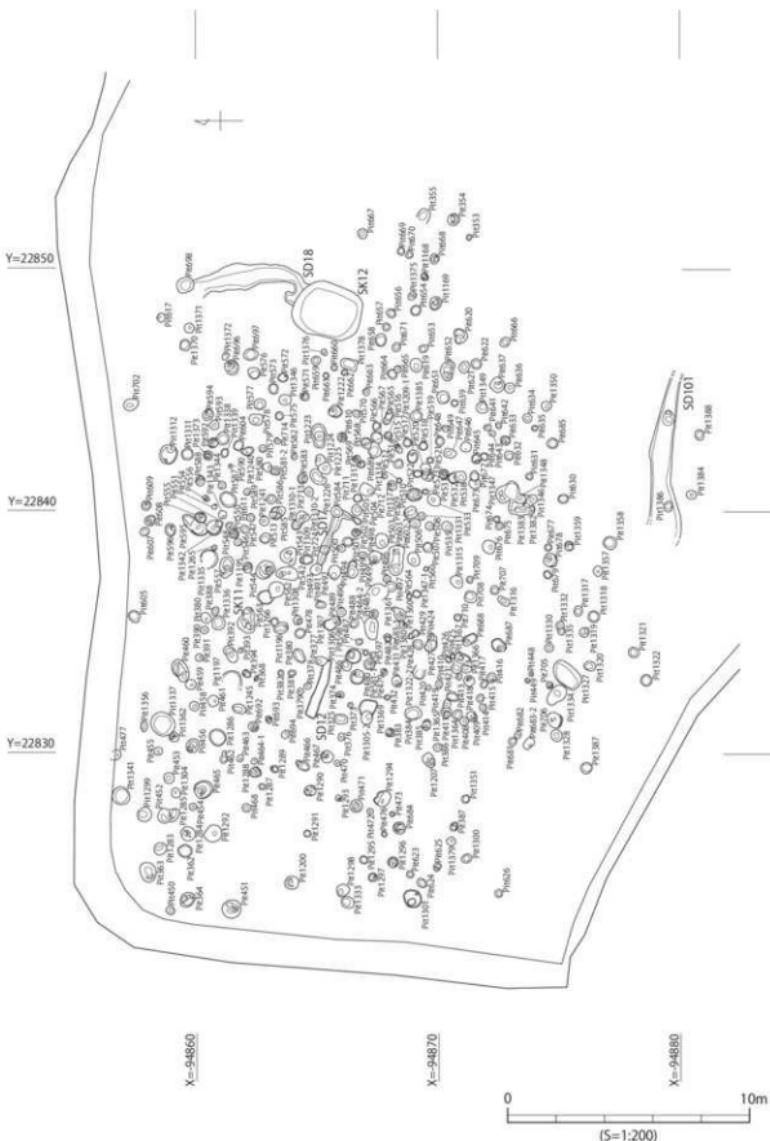
第15図 大国地頭所遺跡 1面4区遺構配置図 (S=1:200)



第16図 大国地頭所遺跡 1.5面1区遺構配置図 (S=1:200)

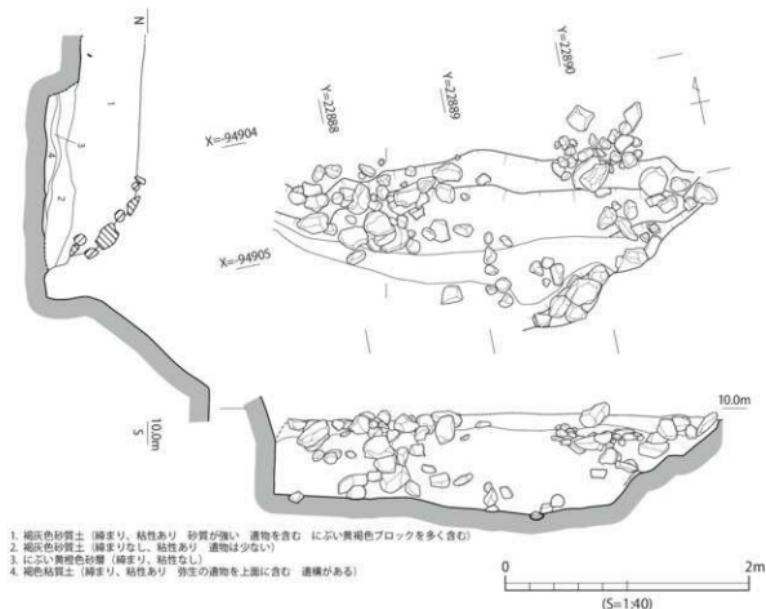


第17図 大国地頭所遺跡 1.5面3区遺構配置図 (S=1:200)



第18図 大国地頭所遺跡 1.5面4区遺構配置図(S=1:200)

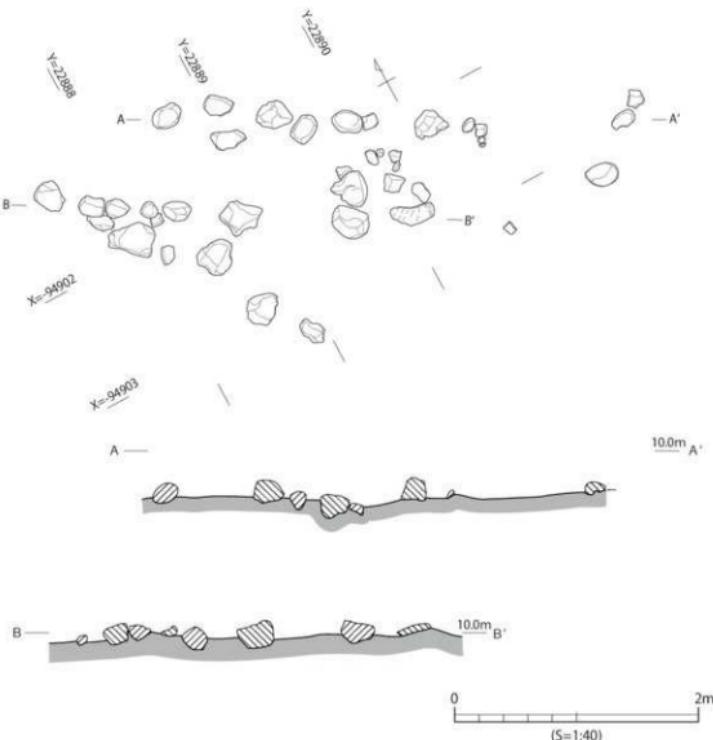
石列3の溝は南北方向に軸を持つ幅0.7～1.7m、残存長23.7m、深さ0.3～0.53mを測る。北側は石材が少なく、中央付近は10～50cm程度の石材が密集した状態で検出された。南側は石材が少なく石列2の溝跡より浅く、切り合いは確認できなかった。溝の西側（4区）から直径約40cmのピットが多数確認されたことから、排水溝や区画溝の性格が考えられる。石列3と石列4の間の溝跡（SD21）の規模は幅0.4～1.1m、残存長6.4m、深さ0.4mである。石材の間からは土師器や陶磁器、モモ（第4章第2節）が出土した。第22図3～21は土師器で、3～10は皿、11～20は壺、21は鍋である。皿は口縁部が短く、端部は丸い。3、4の底部は厚い。5、6は器高が低く、浅い。6は底部から横方向に立ち上がった後、上方につまみ上げられる。9は口縁端部が平坦である。10の内面は強いロクロ目である。11は底部から内湾しながら立ち上がる。12は底部からの立ち上がりに段がある。13は底部からハの字に広がる。17は底部内面が平坦である。18の底部内面は中央の器壁が厚い。19は内面に黒色付着物がある。21は内外面ハケ目調整である。22は中世須恵器甌で、外面は平行タタキ、内面はナデ調整である。23は東播系須恵器鉢で、口縁端部がつまみ上げられる。24、25は瓦質土器鉢である。内外面ハケ目調整で、内面は摩滅している。口縁部外面は僅かに凹む。24はSD21出土と考えられる。26は防長型瓦質擂鉢と考えられる。底部内面に擂目を施す。27～30は白磁である。27、28は広東系の白磁で、高台から外面胴部下半は露胎である。高台は内側が斜めに削られる。29はD群の壺で、高台周辺は露胎である。30はE群と考えられる口縁部が外反する皿である。31は龍泉窯系青磁碗E群で、口縁部外面に1条沈線がある。32は同安窯系青磁皿I-1b類である。33は青白磁小壺で、口縁部は露胎である。外面に文様がある。34は全面施釉され



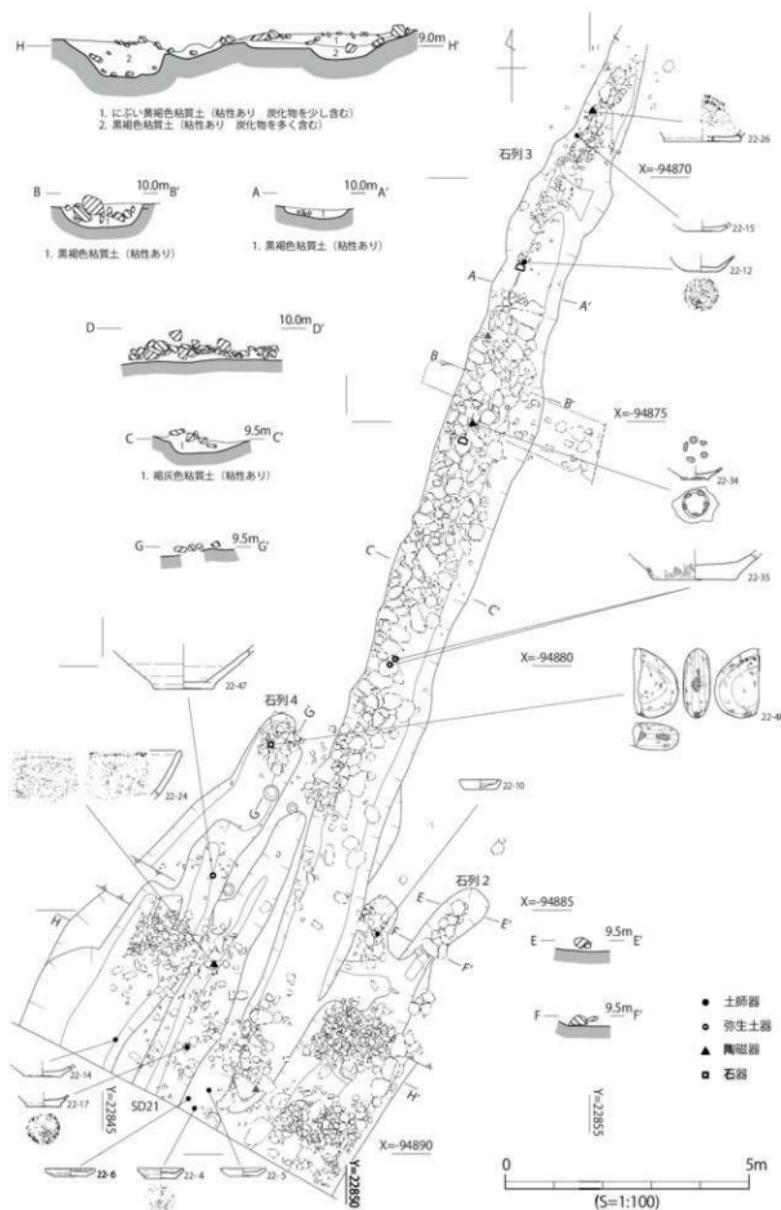
第19図 大国地頭所遺跡 石積遺構実測図 (S=1:40)

た朝鮮陶磁器灰青沙器皿である。底部内面に5箇所、高台に6箇所の目跡がある。目跡は茶色から暗茶色である。生産地年代は1460～1550年代。35は弥生土器壺底部で、器壁は厚い。36は円形で平滑な白石で、碁石の可能性がある。37は平坦な石で、3箇所抉りがある。石錘か。表面は赤褐色に変色している。

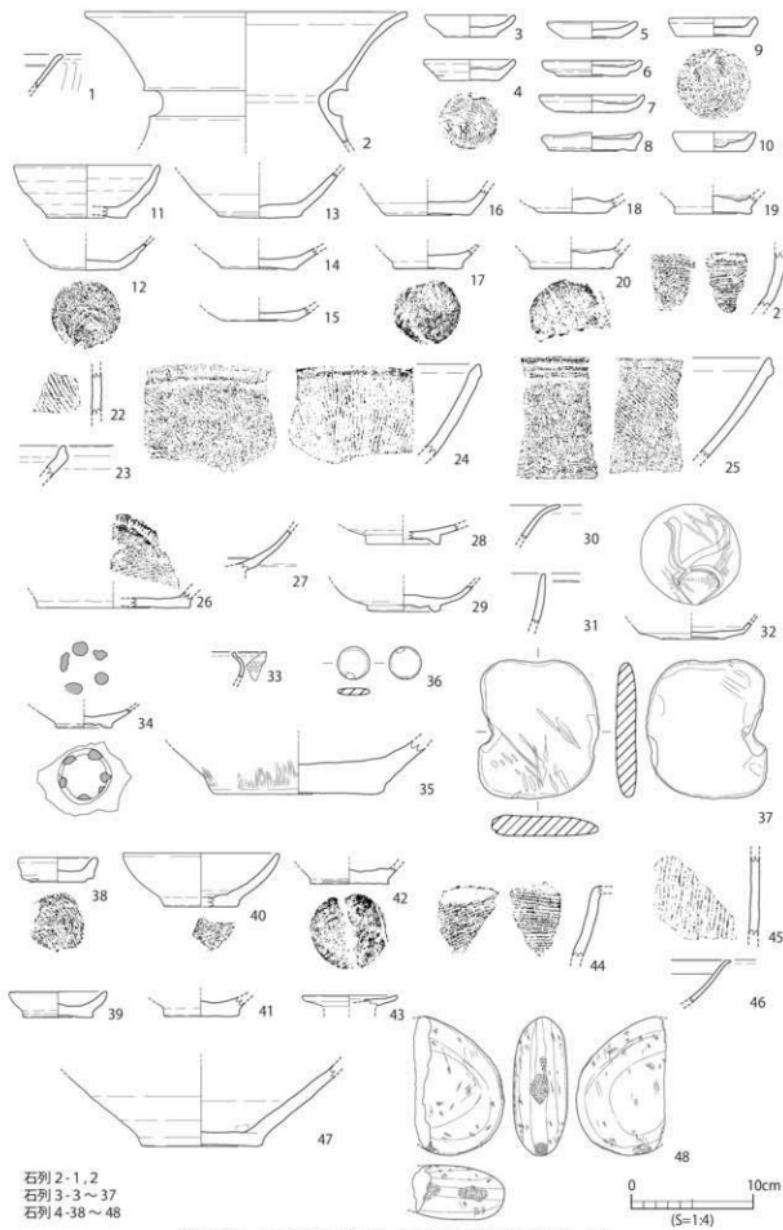
石列4の溝は幅が北側で1m、南側で2.1m、残存長8m、深さ0.7mを測る。北端の幅0.7m、長さ1.2mの範囲に15～25cm程度の石材が密集していた。また、5区側にも幅1.2m、長さ1.2mの範囲に10～20cmの石が密集していた。遺物は石の間や溝跡内から出土した。第22図38～44は土師器である。38、39は扁平で、立ち上がりの低い皿である。40～42は壺で、43は高台付の皿の可能性がある。40は底部から内湾しながら立ち上がる。41は内面に黒色物が付着する。42の底部脇には細く深い溝があり、糸切り時の痕跡か。44は鍋である。ハケ目調整で、外面頸部は横方向のナデ調整である。45は中世須恵器甕で、外面は平行タタキ、内面はナデ調整である。46は白磁碗で、口縁部が屈曲し、上端部が水平となる。内面に1条沈線がある。大宰府分類碗V-4類あるいはVII類である。47は大型の弥生土器壺底部で、直線的に立ち上がる。48の磨石は表裏面とも研磨され、側面の一部には敲打痕がある。



第20図 大国地頭所遺跡 石列1実測図 (S=1:40)



第21図 大国地頭所遺跡 石列2～4実測図 (S=1:100)



第22図 大国地頭所遺跡 石列出土遺物実測図 (S=1:4)

### 土坑（第23～25図）

**SK04（第23図）** 1区第1面E2グリッドから検出した。SK05の北0.7mに位置する。長さ0.63m、幅0.39m、深さ0.15mを測る。平面形は長方形である。埋土は褐色土で、小片の遺物や炭化物を含む。第25図1は土師器環である。外面に赤色顔料が塗布される。

**SK05（第23図）** 1区第1面E2グリッドから検出した。長さ0.59m、幅0.48m、深さ0.21mを測る。平面形は楕円形で、内部から5～10cmの石材が検出された。北側にSK04、南東側に1m離れてSD06がある。遺物は古墳時代後期から古代の土師器がある。第25図2は土師器壺である。口縁部と胴部の内面の境は明瞭である。

**SK06（第23図）** 1区第1面C3グリッドから検出した。長さ0.81m、幅0.45m、深さ0.06mを測る。平面形は楕円形である。SK06の北側には炭化物を多く含んだSD06が位置する。第25図3～5は弥生土器で、3は鼓形器台、4、5は甌と考えられる。5は底部付近で、僅かに底部が残る。

**SK07（第23図）** 1区D5グリッドの第1面から数cm掘り下げた後に検出した焼土面を伴う土坑である。長さ1.18m、幅0.75m、深さ0.19mを測る。平面形は不整形である。北側の壁面が被熱により赤褐色に変色していた。埋土は炭化物や焼土片を含み、床面は凸凹であった。また、土坑の周囲は南北2.3m、東西3.5mの範囲が不整形に硬化していた。焼土3との距離は13mを測る。第1面より下層にあり、古墳時代後期から古代の可能性がある。

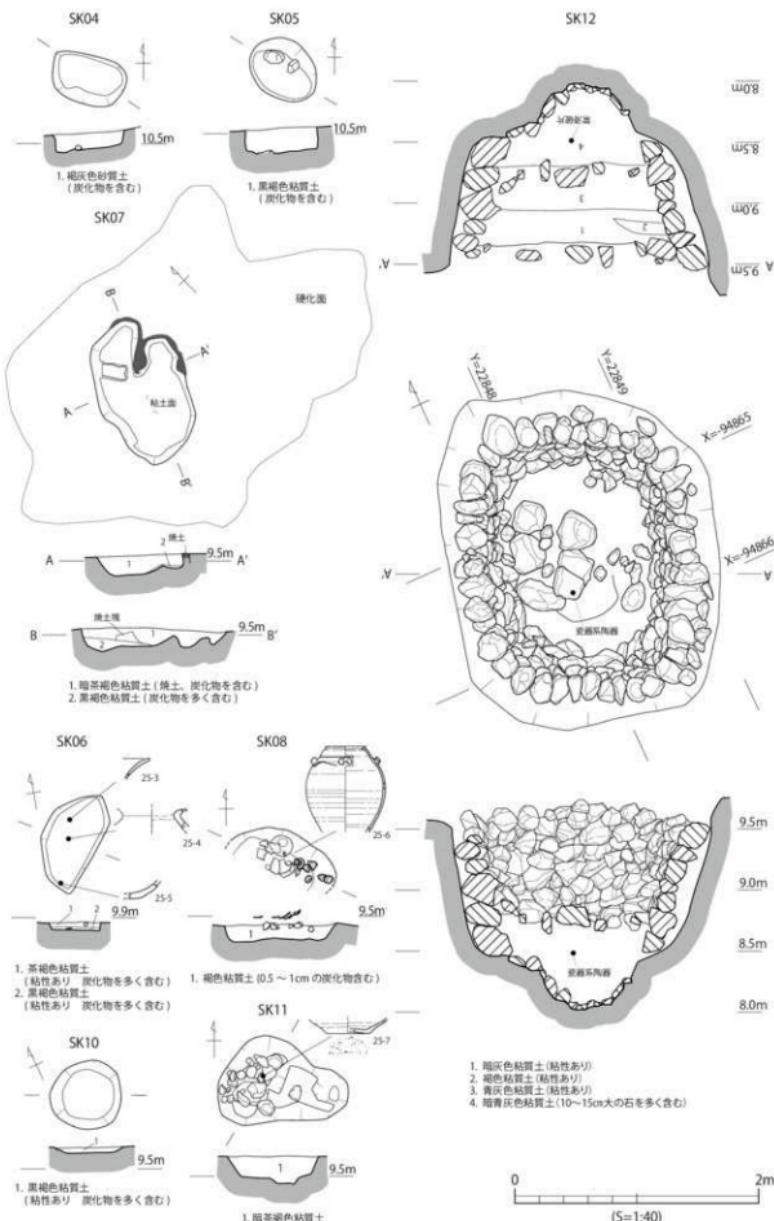
**SK08（第23図）** 3区第1.5面から数cm下がった面のB10グリッド付近から検出した。長さ1.18m、残存幅0.27m、深さ0.14mを測る。平面形は楕円形である。上面からは中国製褐釉四耳壺の破片が重なるように、下層からは鉄滓が出土した。土坑の性格は不明である。第25図6は褐釉四耳壺で、胴部内面以外は施釉される。くの字口縁部は短く、端部は丸い。横耳は粘土紐の両端を潰して、胴部に接合する。耳部の下方には1条の波状沈線があり、胴部下方はロクロ目が残る。大宰府分類耳壺VI-2類で、12世紀末～13世紀前半。

**SK10（第23図）** 4区第1面D19グリッドから検出した。長さ0.58m、幅0.57m、深さ0.04mを測る。平面形は円形である。時期・性格は不明である。

**SK11（第23図）** 4区第1.5面E16グリッド付近から検出した。長さ0.77m、幅0.72m、深さ0.22mを測る。平面形は楕円形である。西側から5～10cmの石材が出土した。東側はピットと重なっていると考えられる。第25図7は中世土師器環で、器壁が薄く、上げ底である。胴部途中から外反する。

**SK12（第23図）** 4区第1.5面E14グリッド付近から長さ2.75m、幅2.26m、深さ1.75mを測る石積土坑が検出された。平面形は隅丸長方形である。土坑内には上端で2m×1.8m、高さ1.1mの石積みがあり、厚さ10～20cmの石材が使用されていた。石積は四面あり、隅は丸みを持つ。土坑は石積の下層から中央付近が一段深くなり、下層には大きさ10～20cm、厚さ5～10cmの扁平な石材が使用されていた。上段の石積には裏込めではなく、内側に石の平坦面を揃えている。石組み中央下寄りから25～30cm厚さ15cm程度の扁平な石材が1つ確認できた。

遺物は小片となり、土師器、貿易陶磁、国産陶器等が出土した。第25図8～12は土師器で、8～11は皿、12は环である。8は静止糸切りである。9は口縁端部の一部に煤が付着する。灯明皿か。12は底部と胴部の境に段があり、内面は全面黒色付着物がある。13は中国製褐釉陶器壺で、全面施釉され、内面は刷毛で塗ったように、横方向に釉が流れる。大宰府分類壺IV類。14、15は壺系陶器壺で、N字口縁の内面には凹みがある。16、17は備前描鉢で、口縁部は肥厚し、内面は使用によ



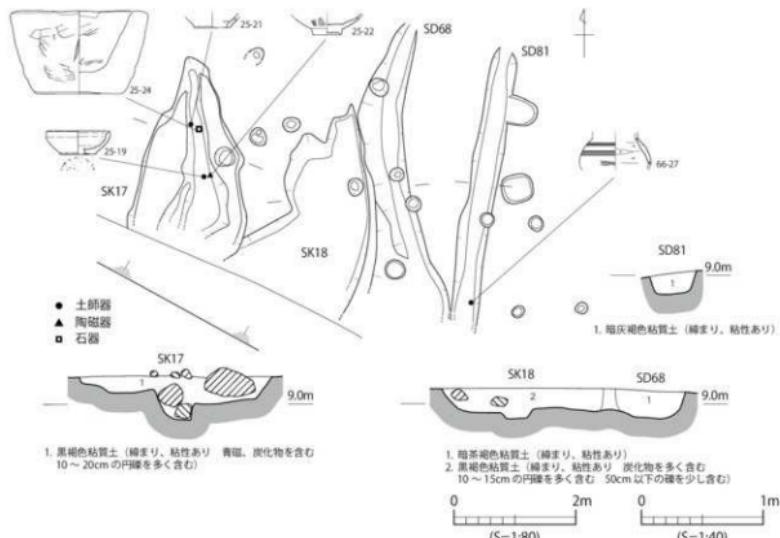
りかなり摩滅している。18は備前壺と考えられる。底部には圧痕が残る。

**SK17(第24図)** 5区第2面のA8グリッド付近から検出した。残存長3.19m、幅1.9m、深さ0.22mを測る。南側は調査区外へ伸び、平面形は北側が細くなり、溝跡の可能性がある。土坑内からは拳大から人頭大の石が多く検出された。SK18と切り合いがあり、SK17が新しい。中央は幅0.2~0.8m、深さ0.3cmほど一段深く、溝状になる。溝内から20~30cmのやや大きい石が検出された。規模や埋土等はSK18と類似している。

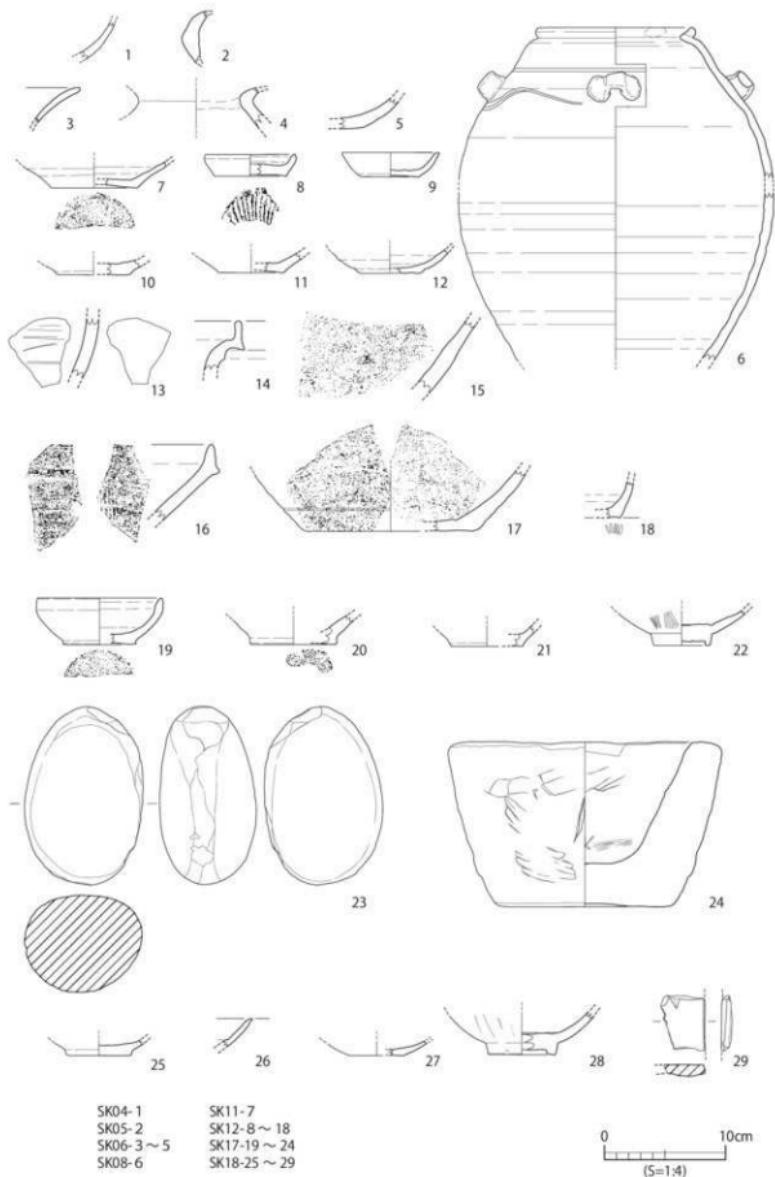
遺物は中国製青磁、土師器、石鉢、磨石等が出土した。第25図19~21は土師器で、19、20は壺、21は皿である。19は上げ底で、内湾しながら立ち上がり、口縁部の器壁がやや厚くなる。22は同安窯系青磁碗I類で、外面に細い縦の櫛目文、内面に花弁文、ジグザグ文がある。内面底部と胴部との境には段を有する。底部は厚く、高台は細く短い。23の磨石は、表裏面は研磨され、側面に敲打痕がある。24は石鉢で、外面に平刃の工具痕が残る。口縁部端部は平坦である。底部内面は摩滅し、平底である。第2面から検出されたが、遺物から中世前半の遺構である。

**SK18(第24図)** 5区第2面のA8グリッド付近から検出した。残存長3.14m、幅2.06m、深さ0.25mを測る。南側は調査区外へ伸び、平面形は北側が細くなり、溝跡の可能性がある。土坑内からは拳大から人頭大の石が多く検出された。SK17と切り合いがあり、SK18が古い。切り合いよりSD68より新しい。規模や埋土等はSK17と類似している。

遺物は中国青磁、白磁、土師器等がある。第25図25は白色系の土師器皿である。26、27は白磁皿である。26の口縁端部は先細りで、外反する。内面胴部に段がある。27は露胎の平底である。大宰府分類皿VI類である。28は龍泉窯系青磁碗II-b類である。外面には錦蓮弁文があり、底部は厚い。29は砥石である。表面は平滑で、右側面は溝を作り、そこで切断しているように観察できる。第2面から検出されたが、遺物から中世前半の遺構である。



第24図 大国地頭所遺跡 SK17・18、SD68・81実測図 (S=1:80)(土層図: S=1:40)



第25図 大国地頭所遺跡 1面土坑出土遺物実測図 (S=1:4)

### 焼土（第26図）

**焼土1** 1区第1面D2 グリッドから検出した。長さ0.74m、残存幅0.58mを測り、不整形を呈する。暗赤褐色を呈する範囲を図化するが、かなり不明確で、深さはほとんどなく削平を受けている可能性がある。

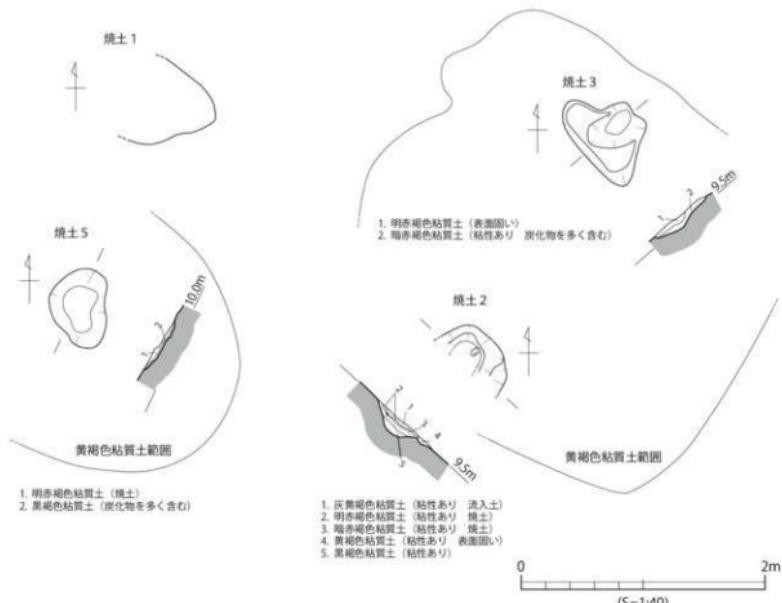
**焼土2** 1区C3 グリッドの第1面から数cm掘り下げた面から検出した。長さ0.49m、幅0.27m、深さ0.14mを測り、平面形は方形である。南西側は近世に削平されている。第1層の流入土を取り除くと、表面が凸凹する焼土面を検出した。周囲の一部（第4層）は硬化していた。焼土2と焼土3を含んだ $3.3 \times 3.5\text{m}$ の方形の範囲に黄褐色粘質土が広がっている。建物跡の貼床の可能性もある。焼土2と焼土3の距離は2.2mを測る。

**焼土3** 1区C3 グリッドの第1面から数cm掘り下げた面から検出した。長さ0.79m、最大幅0.52m、深さ0.1mを測り、平面形は不整形である。長さ0.7m、幅24cmの第1層は硬化し、第2層は綿まりがあり、炭化物を含んでいる。SK07との距離は13mを測る。

**焼土5** 1区第1面E7 グリッドから検出した。長さ0.7m、残存幅0.09mを測り、楕円形を呈する。第1層が焼土で、硬く、明赤褐色を呈する。残存長1.6m、幅2.2mの円形の範囲に黄褐色粘質土が広がっている。建物跡の貼床の可能性もある。

### 溝跡（第27～30・32図）

**SD01(第27図)** 1区第1面D4 グリッド付近から検出した。長さ7.2m、幅0.7m、深さ0.28cmを測り、



第26図 大国地頭所遺跡 焼土 1～3・5 実測図 (S=1:40)

主軸は等高線に沿った北西から南東で、平面形はL字状に曲がる。SD07より新しい。遺物は中世土師器、中国白磁が出土した。第32図1は白色系の土師器皿で、底部から胴部の境が凹む。2は白磁碗であり、全面施釉され、貫入が多く入る。中世前半の遺構と考えられる。

**SD02(第27図)** 1区第1面E2グリッド付近から検出した。残存長8.0m、幅0.7m、深さ0.07cmを測り、調査区外へ伸びる。Pit17や近世のSD04によって切られている。遺物は、須恵器が出土した。第32図3、4は須恵器で、3は平瓶口縁部、4は壺胴部と考えられる。4の外面は上方が横方向のカキ目、下方がタタキのちナデ調整である。古墳時代後期から古代の遺構と考えられる。

**SD03(第27図)** 1区第1面E5グリッド付近から検出した。残存長14.0m、最大幅2.6m、深さ0.34cmを測る。北東側は黄褐色土の地山が削平されていることから遺構上面が削平されている可能性があり、南側は近代以降の擾乱により削平されている。SD03は、土層観察から2時期あることが判明する。下層の溝跡は幅80cm、断面方形を呈する。溝の主軸はSD04・08～11・13・14とずれており、性格が異なっていた可能性がある。遺物は土師器、須恵器、陶器、肥前陶磁器が出土した。第32図5は土師器甕、6は土師器高环、7は須恵器壺、8～15は陶磁器、18は砥石である。5は外面に黒斑があり、内面調整は頸部から下がった位置からヘラケズリを施す。6は脚部と坏部の接合部は直径3.5cm程度の粘土円盤を充填し、円盤の外側（脚部内面側）に直径2mm、深さ6mm程度の刺突痕（軸痕）を持つ。これは松山智弘による高环の坏部と脚部の接合法 $\alpha$ である（松山1991）。7の口縁端部は丸みを持ち、僅かに垂下する。肩部外面はタタキ後力キ目である。8の鉢は内面が使用により摩滅している。9の瓦質土器火鉢は貼り付けの脚部が付く。10は肥前陶器灰釉皿で、底部に胎目がある。11は肥前陶器溝縁皿で、口縁端部内面に溝がある。口縁部内外面のみ施釉される。底部内面に砂目がある。12は肥前陶器折縁鉢で、口縁部内外面のみ施釉される。内面は二彩刷毛目である。13は瓶で、外面の底部以外は灰釉が施される。14は肥前陶器甕で、底部内面以外は施釉され、外面に釉の流れた痕跡がある。外面底部端部に砂目がある。15は肥前磁器皿で、高台内外面は露胎で、底部内面は輪状釉剥ぎされる。

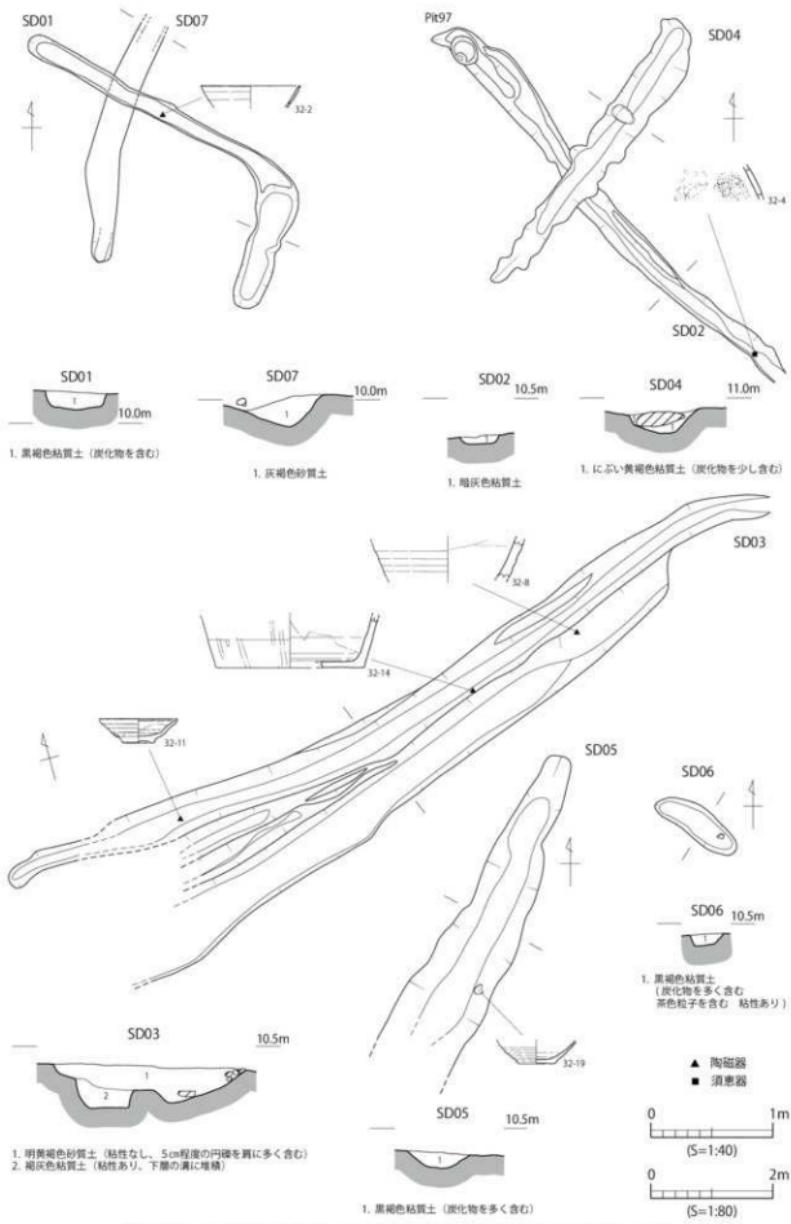
**SD04(第27図)** 1区第1面E2グリッド付近から検出した。長さ5.3m、幅1.0m、深さ0.22cmを測り、SD02より新しい。主軸は北東から南西(N-30°-E)を測り、溝内からは15～80cmほどの石が密集していた。床面は北側から南側へ傾斜し、区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。遺物は肥前陶器、瓷器系陶器が出土した。第32図16は壺器系陶器甕である。17は肥前陶器鉢で、口縁端部は敲打痕があり、露胎となる。18の砥石は3面使用され、一部は使用により磨り減り凹む。

**SD05(第27図)** 1区第1面D3グリッド付近から検出した。残存長3.1m、幅0.7m、深さ0.13cmを測り、南側にSK06がある。主軸は北東から南東(N-30°-E)で、床面は北側から南側へ傾斜し、溝埋土は炭化物が多く含む黒褐色土である。性格は不明である。遺物は土師器や中国白磁が出土した。第32図19、20は土師器坏、21は白磁碗である。21は大宰府磁器区分C期である。

**SD06(第27図)** 1区第D2グリッドの第1面から数cm下がった面から検出した。長さ0.8m、幅0.3m、深さ0.11cmを測り、SK05の南東側に位置する。遺物は弥生土器が出土した。第32図22は弥生土器甕と考えられ、外面に多条沈線がある。

**SD07(第27図)** 1区D5グリッド付近の第1面から数cm下がった面で検出した。長さ4.1m、幅0.6m、深さ0.27cmを測り、SD01より古い。断面U字形を呈する。遺物がなく時期は不明である。

**SD08(第28図)** 3区第1面D12グリッド付近から検出した。長さ10.5m、幅0.6m、深さ0.27cm



第27図 大国地頭所遺跡 1面溝跡実測図 1(S=1:80)( 土層図 : S=1:40)

を測り、主軸は北西から南東（N=60°—W）である。溝内には15～25cmほどの石が密集していた。断面はU字形を呈し、区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。遺物は肥前陶器、中国白磁が出土した。第32図23は白磁碗で、口縁部は外反し、外面に綵籠花弁文がある。大宰府分類V-28類。24は陶胎染付碗である。25は肥前陶器鉢で、底部内面に目跡がある。高台内外面以外は灰釉が施される。26は肥前陶器片口鉢で、内外面に刷毛目が施される。口縁端部は露胎である。

**SD09（第28・29図）** 4区第1面E18グリッド付近から検出した。残存長13.0m、幅0.5m、深さ0.15cmを測り、主軸は北東から南西（N=30°—W）である。SD10・11と平行し、SD10との距離は6～7mを測る。溝内には15～30cmほどの石が密集していた。床面は北側から南側へ傾斜し、区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。遺物は肥前陶器や黒瓦がある。第32図27は肥前陶器碗で、外面胴部は施釉される。17世紀代。28はいぶし瓦の平瓦で、全面黒化し、近世以降に使用される「キラホ技法」による。近代以降の可能性もある。

**SD10（第28・29図）** 4区第1面F17グリッド付近から検出した。残存長14.7m、幅0.7m、深さ0.14cmを測り、北側は調査区へ伸びる。主軸は北東から南西（N=30°—W）である。SD11との距離は6mを測る。溝内には15～80cmほどの石が密集していた。床面は北側から南側へ傾斜し、区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。遺物は土師器、須恵器、肥前陶器、硯が出土した。第32図29は土師器皿である。30の須恵器壺は平底で、板状工具の擦痕が残る。31～33は肥前陶器である。31は片口鉢で、胴部下方以外は施釉される。口縁部は外側に折り返し、肥厚する。32は壺等の袋物で、内面上方は同心円状のタタキ後ナデ調整である。31、32は17世紀前半。33は鉢の可能性があり、器壁は厚い。34は表面の剥離が著しいが硯と考えられる。中央に楕円形の凹みがある。凹みに斜行するが、一部端部が残る。

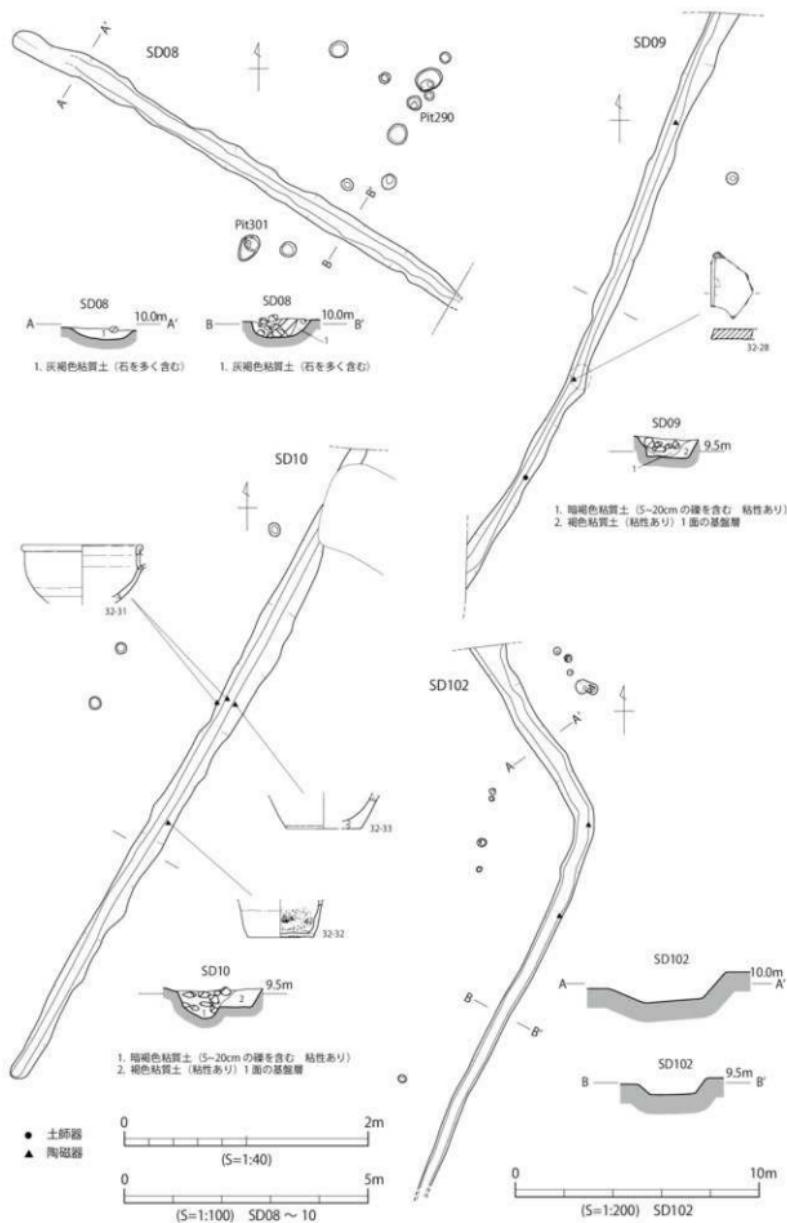
**SD11（第29図）** 4区第1面D16グリッド付近から検出した。残存長9.2m、幅0.6m、深さ0.19cmを測り、南側はSD14に繋がる。主軸は北東から南西（N=30°—W）である。溝内には15～25cmほどの石が密集していた。床面は北側から南側へ傾斜し、区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。形態や方位からSD09やSD10と同時期と考えられる。

**SD13（第29図）** 4区第1面B17グリッド付近から検出した。残存長12.6m、幅0.3m、深さ0.14cmを測り、L字形に曲がり、角でSD14に繋がる。SD14との明確な切り合いは不明であった。西側及び南側は調査区外に伸びる。主軸は北西から南東（N=60°—W）である。溝の断面はコの字形を呈し、溝内には15～25cmほどの石が密集していた。区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。

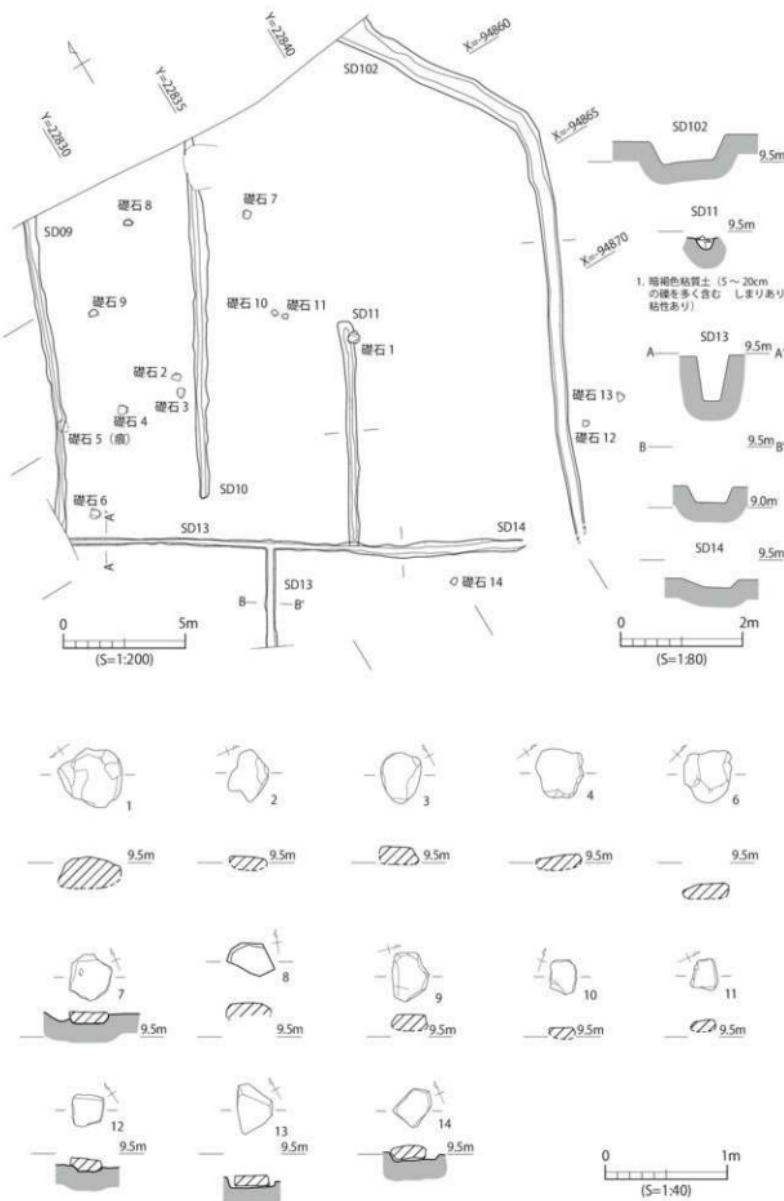
**SD14（第29図）** 4区第1面B15グリッド付近から検出した。長さ10.4m、幅0.6m、深さ0.12cmを測り、西側はSD13に繋がる。SD13との明確な切り合いは不明で、SD13とSD14は直線を呈し、本来は1本の溝であった可能性があり、両溝の東西の残存長は19mである。主軸は北西から南東（N=60°—W）を測り、溝内には15～80cmほどの石が密集していた。区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。

**SD102（第28・29図）** 4区第1面F16グリッド付近から検出した。残存長27.4m、幅0.6m、深さ0.26cmを測り、南北端は調査区外へ伸びる。平面形はくの字を呈し、調査区を横断する。主軸は北側で北西から南東（N=30°—W）、南側でN=30°—Eを測り、区画溝あるいは暗渠排水の可能性がある。

**礎石（第29図）** 4区は重機掘削を行った後、礎石と溝跡が確認できたので、第1面として、遺構掘削を行った。礎石は14個検出し、礎石5は石材を確認できなかったが、据え付け痕跡があった。礎石8は扁平な石材が2段に重なり、上段が40cm×26cm、下段は58cm×35cmで、間から粘質土



第28図 大国地頭所遺跡 1面溝跡実測図 2(S=1:100、1:200)(土層図:S=1:40)



第29図 大国地頭所遺跡 4区1面礎石関連実測図 (S=1:200)( 土層図 : S=1:80)( 磐石 : S=1:40)

が検出された。下段は掘方が存在し、Pit1337とした。他の礎石は扁平な自然石あるいは割石を用している。規模は、長さ30～60cm、厚さ8～15cmを測り、長さ30～40cmの扁平な石材が多い。据え付け穴がない礎石もあり、当初から動いている可能性があり、また、礎石の数が少なく建物は復元できない。礎石間の距離は、礎石1と3が7.5m、礎石3と4が2.4m、礎石4と5が2.4m、礎石5と6が3.8m、礎石3と8が7.5m、礎石4と9が4.0mを測る。礎石1と5を結ぶ主軸はN-76°-Wである。

**SD12（第30図）** 4区D17グリッド付近の第1面から数cm下がった面から検出した。長さ2.5m、幅0.5m、深さ0.05cmを測り、北西端はPit377により切られている。深さが浅く、掘り込み面は上層にあった可能性がある。遺物は須恵器が出土している。第32図35は須恵器縁の口縁部と考えられ、内湾口縁で、端部内面に凹みを持つ。36は須恵器環身で、底部外面に板状圧痕がある。

**SD15（第30図）** 4区第1面C15グリッドから検出した。長さ1.5m、幅0.2m、深さ0.05cmを測り、切り合いからSD16より新しい。深さが浅く、掘り込み面は上層にあった可能性がある。遺物は出土していない。

**SD16（第30図）** 4区第1面C15グリッドから検出した。主軸を南北方向に取り、長さ4.7m、幅0.8m、深さ0.13cmを測る。途中からT字形に東側に長さ2.4m、幅0.6mの溝が伸びる。床面は東側に延びる溝が浅い。切り合いからSD15より古い。深さが浅く、掘り込み面は上層にあった可能性がある。遺物は弥生土器、土師器、中国青磁が出土している。第32図37は土師器環、38は土師器皿で、39は弥生土器壺と考えられる。口縁下端部は外側に広がる。40は龍泉窯系青磁碗B4類で、二次的に被熱し、外面の線描蓮弁文が僅かに見える。

**SD17（第30図）** 4区D16グリッド付近の第1面から数cm下がった面で検出した。長さ2.8m、幅0.4m、深さ0.04cmを測り、主軸は等高線に沿った北西から南東で、平面形はL字状に曲がる。Pit584等のピットより古い。

**SD18（第30図）** 4区第1面F16グリッドから検出した。長さ5.0m、幅0.2～1.1m、深さ0.2cmを測り、主軸は南北方向で、僅かに湾曲して、SK12によって切られている。この周辺は、谷筋にあたり、自然流路の可能性がある。

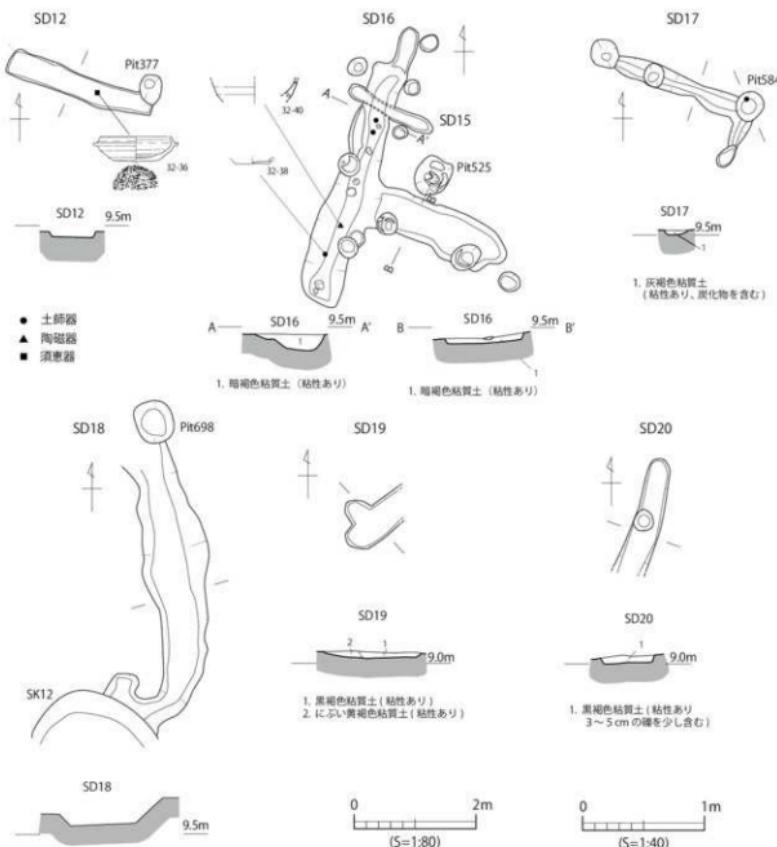
**SD19（第30図）** 5区B13グリッドの第1面より数cm下がった面から検出した。長さ1.1m、幅0.5m、深さ0.05cmを測り、深さは大変浅く、北側は不明瞭で、掘り込み面は上層にあった可能性がある。

遺物は弥生土器が出土した。第32図41は弥生土器壺で、口縁部に擬凹線がある。42は弥生土器壺と考えられ、大型の平底である。内面には茶褐色付着物がある。

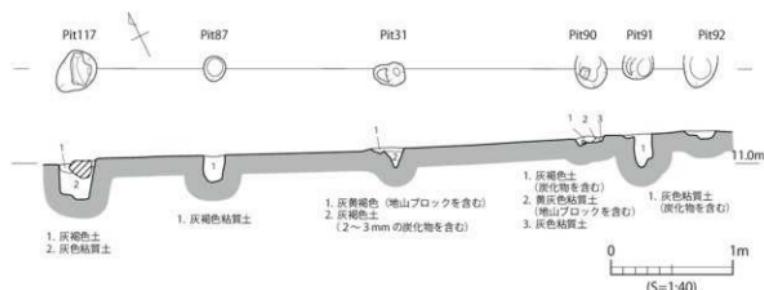
**SD20（第30図）** 5区A13グリッドの第1面より数cm下がった面から検出した。残存長1.9m、幅0.5m、深さ0.06cmを測り、南側は調査区外へ伸びる。深さが大変浅く、掘り込み面は上層にあつた可能性がある。

**SD22（第55図）** 4区B18グリッド付近の第1面より数cm下がった面から検出した。残存長10.1m、幅0.8m、深さ0.28cmを測り、両端は調査区外へ伸びる。弧状を呈し、SD100より新しい。

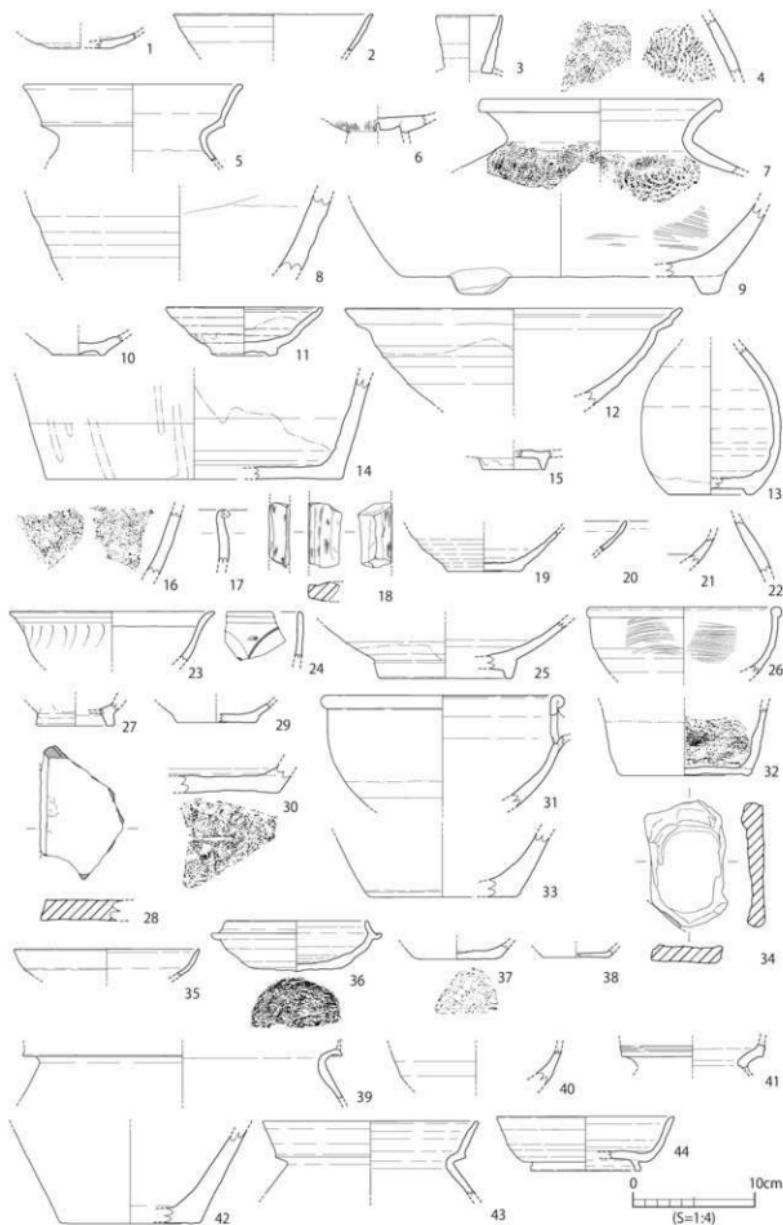
**SD23（第55図）** 4区B18グリッド付近の第1面より数cm下がった面から検出した。残存長6.2m、幅0.7m、深さ0.45cmを測り、両端は調査区外へ伸びる。弧状を呈し、SD100より新しい。遺物は須恵器が出土する。第32図43は土師器壺、44は須恵器高台付壺である。44は底部が静止糸切りで、内面が摩滅している。石見7～8期。



第30図 大国地頭所遺跡 1面溝跡実測図3(S=1:80)( 土層図 : S=1:40)



第31図 大国地頭所遺跡 SA01 実測図 (S=1:40)



第32図 大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 (S=1:4)

### 掘立柱建物跡（第33図）

大国地頭所遺跡からはピットを確認したが、数が多く、切り合い関係が著しいことから建物跡を復元することは難しかった。建物復元の可能性があるものについて、候補を示しておきたい。

**SB01（第33図）** 1区D3 グリッド付近から等高線に平行に建つ掘立柱建物跡で、柵列跡（SA01）とほぼ並行である。主軸はN-62°-Wである。北東端の柱穴は検出できなかったが、桁行3間、梁間1間の建物を復元できた。柱穴は直径40～70cmと大きく、Pit160が直径30cm前後とやや小さい。Pit61やPit160は深さが浅い。北側の柱間は2.01m、2.33m、南側は西から2.25m、2.15m、1.19mを測り、梁間は2.16m、2.22mである。柱穴からの出土遺物はないが、検出面から中世と考えられる。

**SB02（第33図）** 1区北西端E2 グリッド付近の地山面から検出した掘立柱建物跡で、柵列跡（SA01）と重複する。また、Pit31はSA01とSB02で重複しており、切り合い関係がある。主軸はN-41°-Wである。Pit93は直径45～55cm、深さ50cmほどあり、土層から柱痕が確認でき、柱根に接して根固石が確認できた。Pit11は直径40cm程度で、他の柱穴は直径20～30cm、深さ10cm程度と浅い。北西端の柱穴は検出できなかったが、桁行2間、梁間1間の建物を復元できた。北側の柱間は1.77m、南側は西から1.86m、1.8mを測り、梁間は2.1mである。Pit11から瓷器系陶器が出土した。第38図1は瓷器系陶器甌の肩部で、湾曲しながら立ち上がる。時期は出土遺物から中世と考えられる。

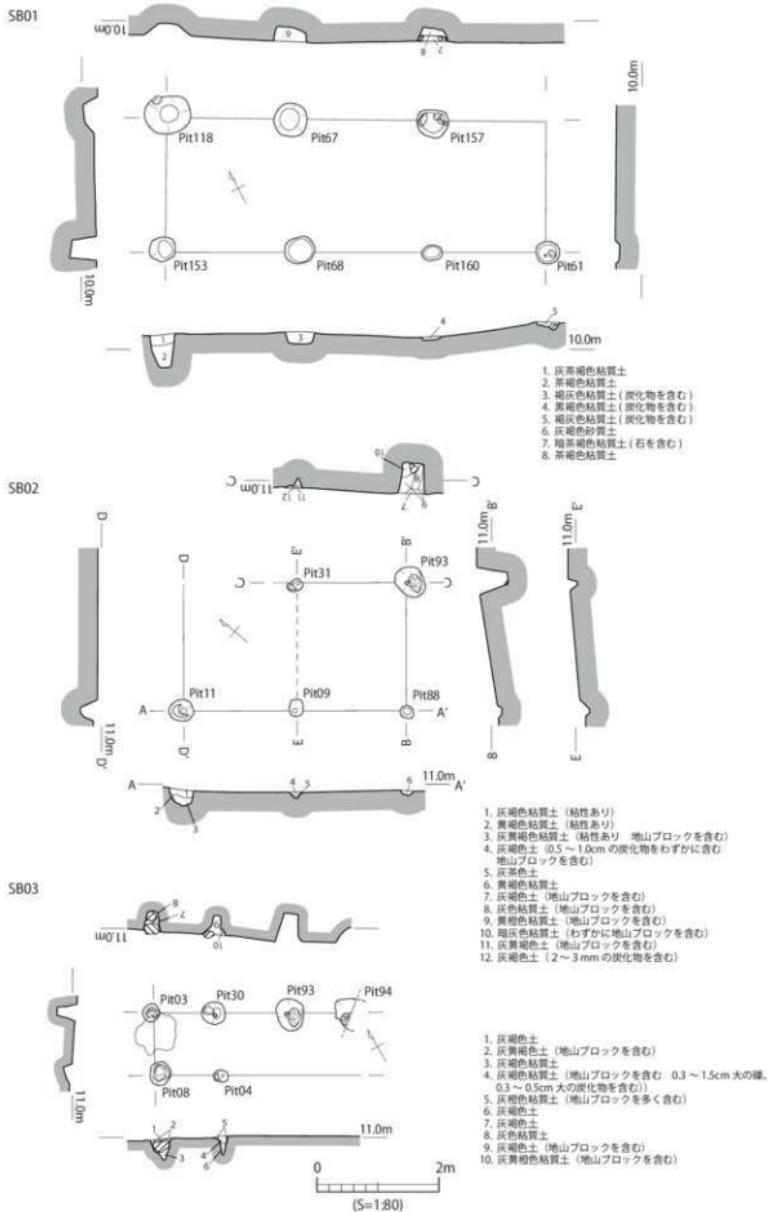
**SB03（第33図）** 1区北西端E2 グリッド付近の地山面から検出した掘立柱建物跡で、掘立柱建物跡（SB02）と重複する。また、Pit93が重複しており、SB02とSB03のどちらかで復元が必要であるが、確定できる根拠がなく、可能性を提示しておきたい。主軸はN-61°-Wである。南東の柱穴は検出できなかったが、桁行3間以上、梁間1間の建物を復元できた。北側の柱間は西から1.05m、1.29m、0.93m、南側は1.06m、梁間は1.0mと規模が小さい。柱穴は直径25～50cm、深さ25～40cmである。規模が小さく、遺物はなく、地山面からの検出のため時期は不明である。

### 柵列跡

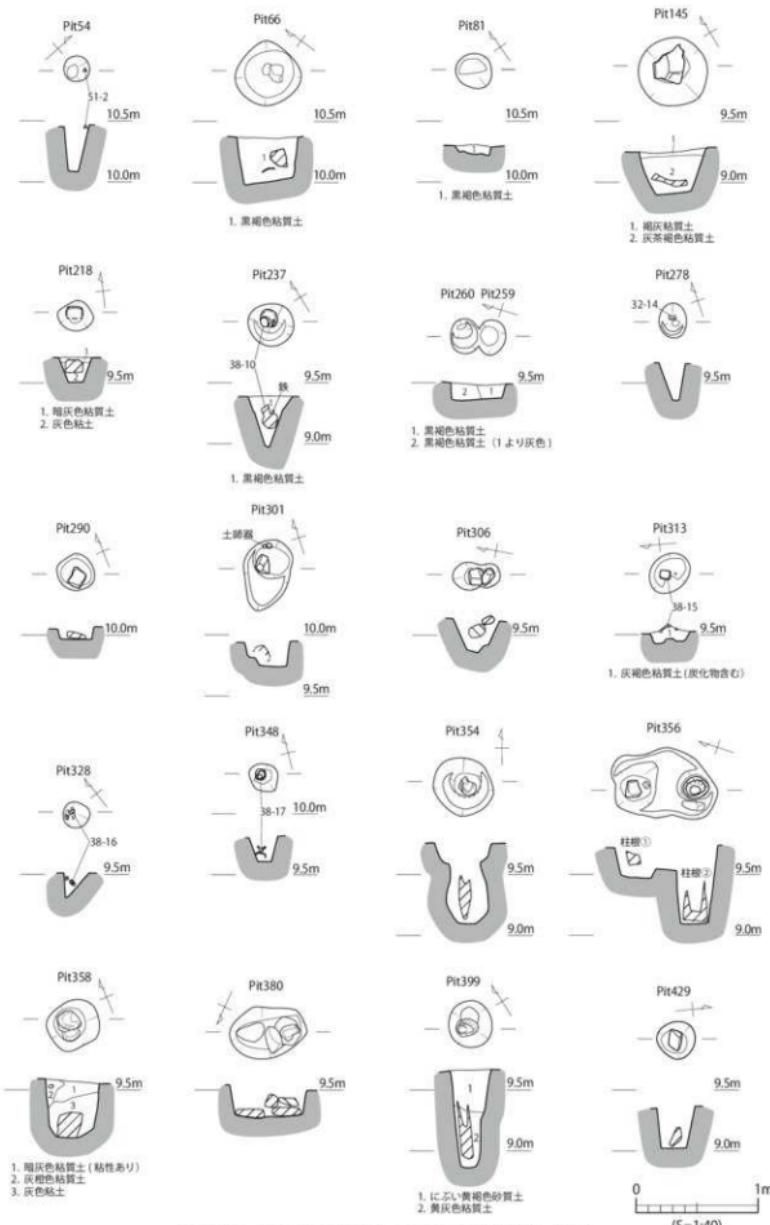
**SA01（第31・38図）** 1区北西端F2 グリッド付近から等高線に平行に並ぶ4間の柵列跡を地山面で検出した。主軸はN-63°-Wである。柱間の距離は西から1.14m、1.48m、1.60m、0.91mで、全長5.13mを測る。東端のPit90とPit92の間にはPit91があり、0.39mと0.52mの柱間になる。Pit91は柵列に伴わない可能性もある。柱穴は直径20～40cm、深さ20～30cmを測り、Pit31とPit90、Pit92は深さ8～16cmと浅い。出土遺物はPit90から土師器が出土した。第38図7は土師器皿で、底部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。時期は出土遺物から中世と考えられる。

### ピット（第34～39図）

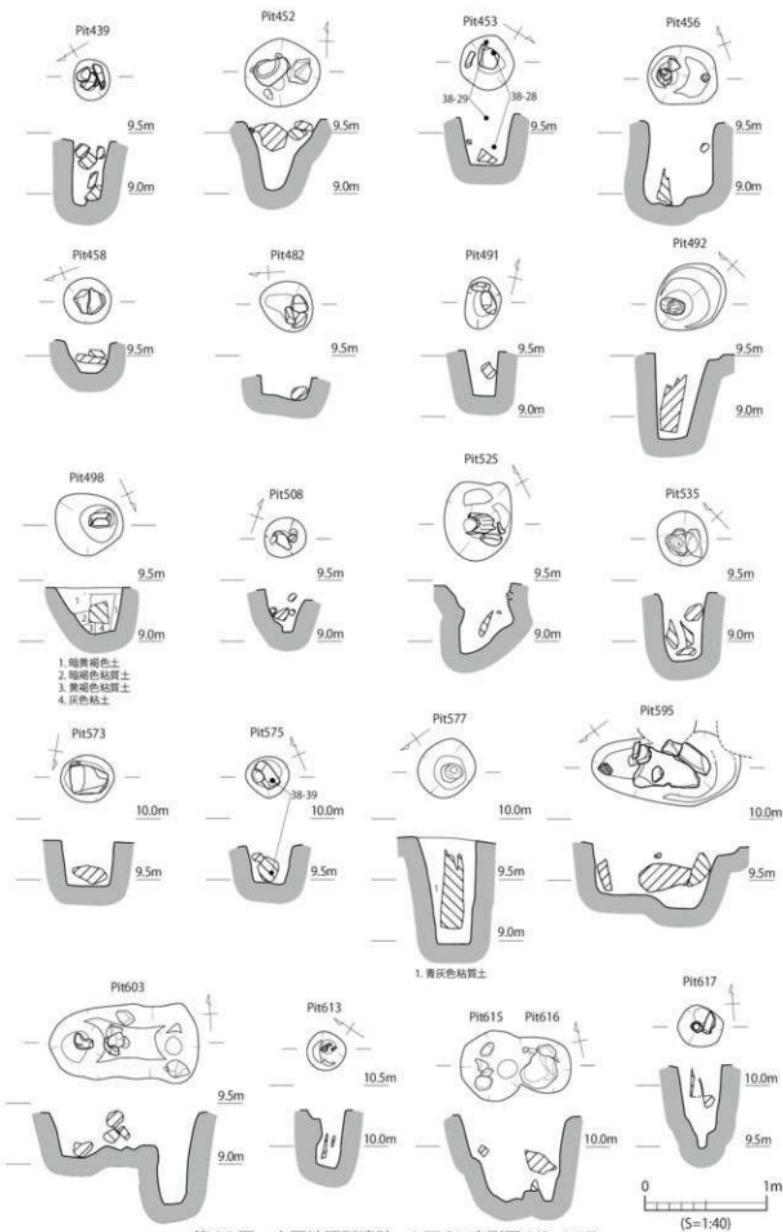
大国地頭所遺跡からは約1300基のピットを確認した。その内第1面及び第2面以外のピットが多く、第1.5面のピットは切り合い関係も著しく、建物跡等を復元できたものは少なかった。1～3区の第1面から検出したピットは中世以降、また、1・3区第2面のピットは弥生時代後期から古墳時代前期が多いと考えられる。4区のピットは第1面からの検出は少なく、第1.5面・2面から検出されたが、規模・出土遺物から中世以降と考えられる。ピットの内部には径約20cmの柱根や礎盤石、根固石が残っているものが確認できた。礎盤石や根固石には煤が付着したものや被熱し、赤色に変色した跡が残っているものがあった。



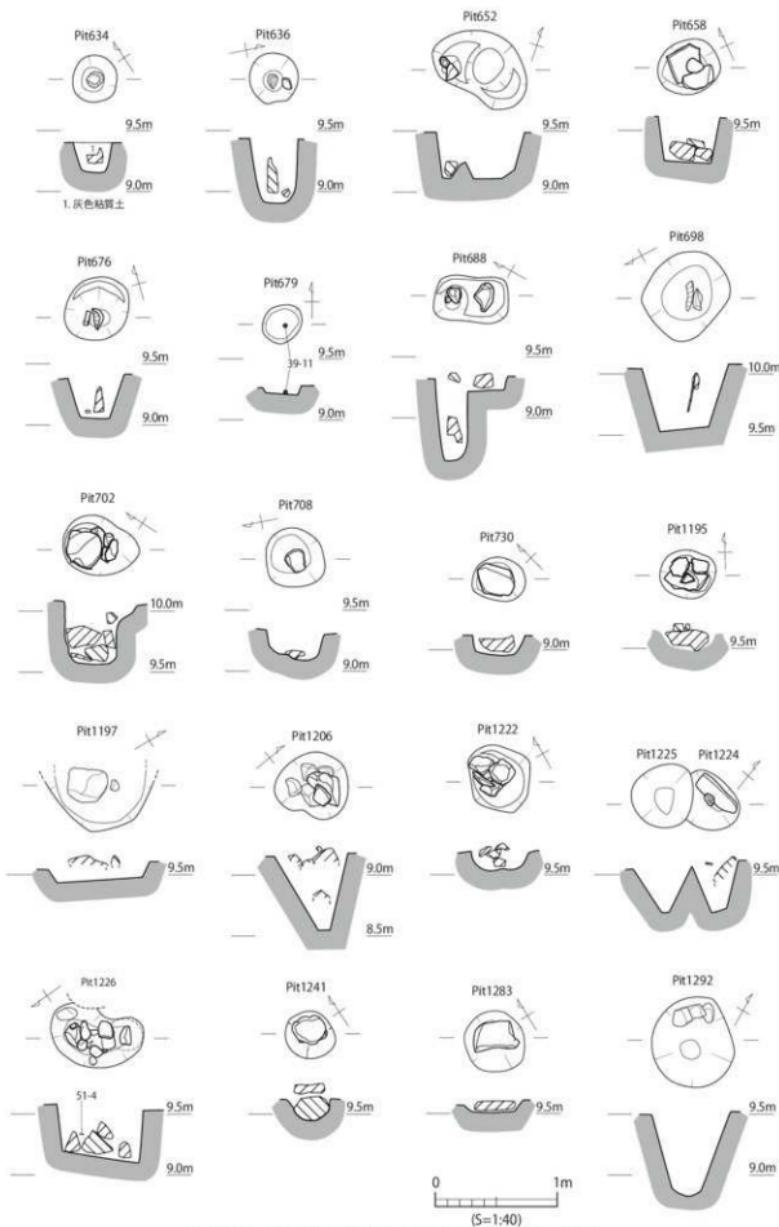
第33図 大国地頭所遺跡 SB01～03 実測図 (S=1:80)



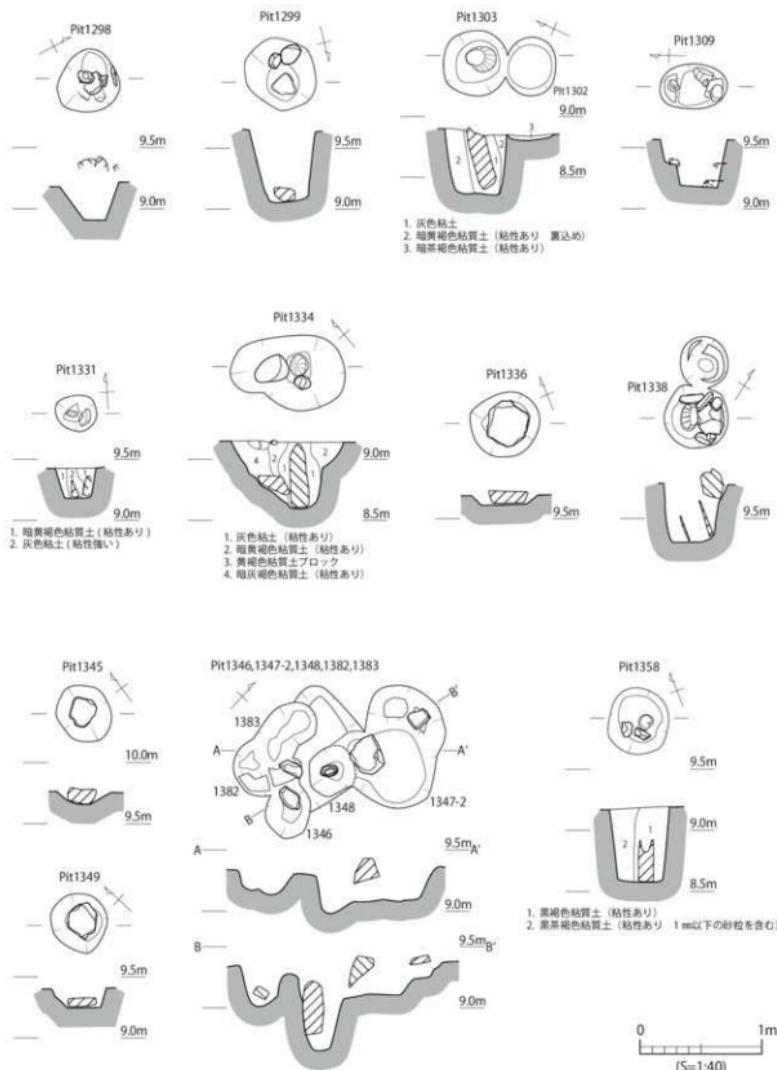
第34図 大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 1(S=1:40)



第35図 大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 2(S=1:40)



第36図 大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 3(S=1:40)

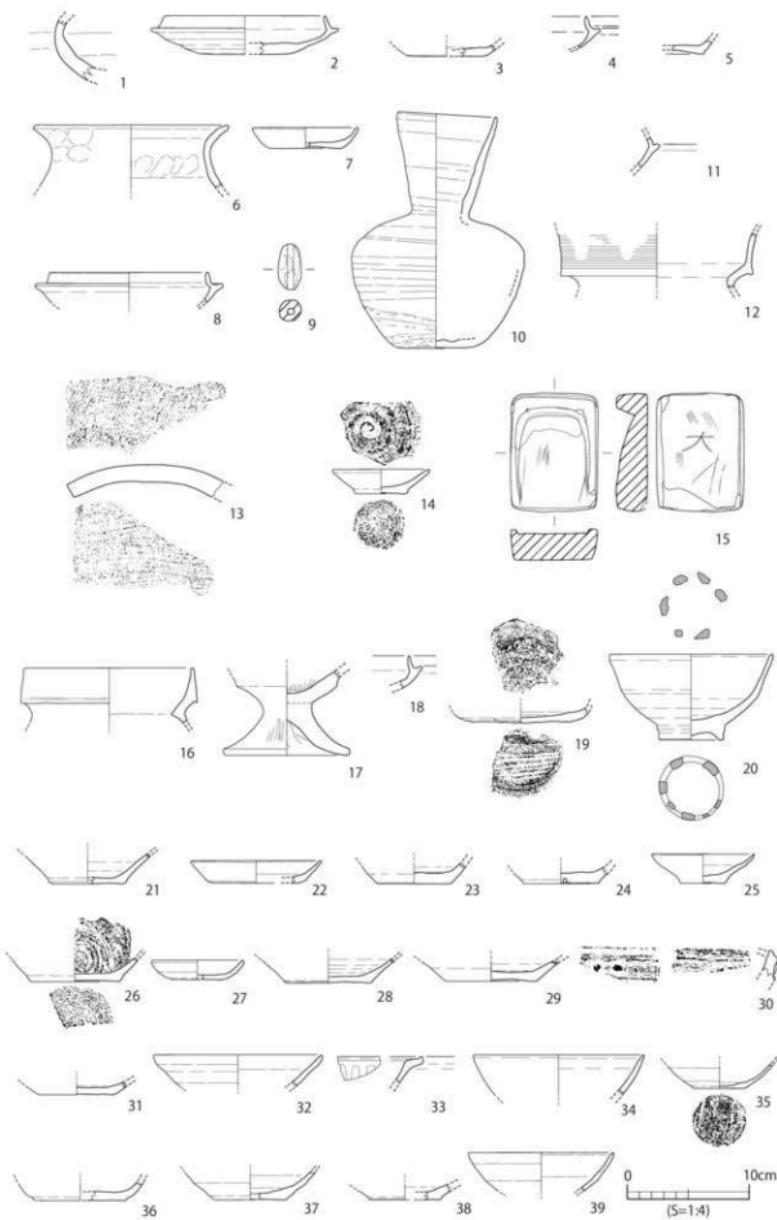


第37図 大国地頭所遺跡 1面 Pit 実測図 4(S=1:40)

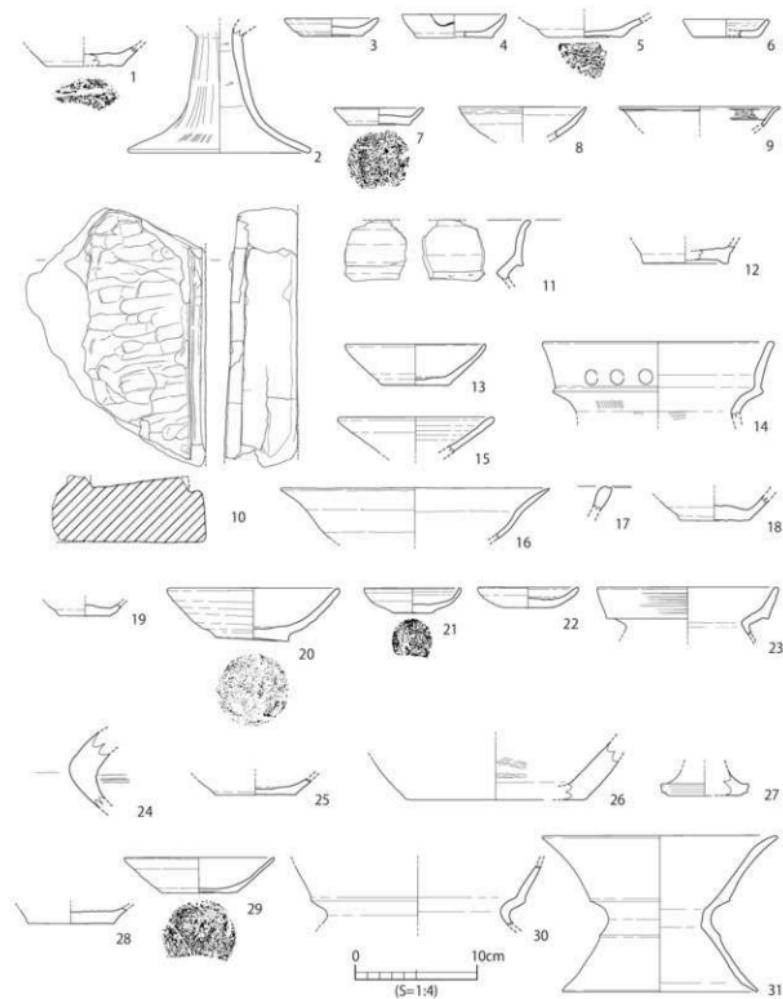
柱根が残存していたピットは Pit354、356、399、456、492、498、525、535、577、617、658、1226、1303、1334、1338、1348、1358である。Pit356は2本確認できたが、2基が重なっていたと考えられる。Pit145は床面から板状の22×30cmの石材が3分割で出土し、礎盤石と考えられる。Pit259、290、380、458、658、702、730、1195、1241、1283、1336、1345、1349などもピット床面から平坦な石材が出土し、礎盤石と考えられる。Pit658は礎盤石の上から僅かに柱根が確認できた（図版21）。Pit491、525、535、595、615、616、688、1206、1222、1226などは複数の拳大の石材が柱穴から確認でき、根固め石の可能性がある。

**ピット出土遺物（第38・39図）** 銭貨が出土したピットは3基あり、Pit54から銭貨が水平に出土した（第51図2）。Pit1226から石材と共に銭貨（第51図4）が、Pit1333でも出土した（第51図1）。

第38図2はPit23出土の須恵器环身で、底部は回転ヘラケズリである。器高が低く、底部は平坦である。3はPit48出土の土師器皿で、内面に黒色付着物がある。4はPit75出土の須恵器环身で、立ち上がりが高い。5、6はPit81から出土し、5は須恵器环で、底部は糸切りである。6は土師器甕で、口縁部は大きく外反する。頸部内外面に指頭圧痕がある。8はPit136から出土した須恵器环身で、立ち上がりが高い。9はPit207から出土した長さ3.7cm、幅1.85cmの管状土錐である。10はPit237から口縁部を上に向けて出土した須恵器長頸壺で、ほぼ完形である。肩部に浅い沈線状の凹みが1条ある。底部から胴部下半は回転ヘラケズリである。最大径は14.2cm。11はPit244から出土した須恵器环身で、立ち上がりが高い。12はPit264から出土した弥生土器甕で、表面が風化しているが、口縁部外面には擬凹線がある。草田3期。13は第1面Pit269から出土した移動式甕と考えられる破片で、外面は斜め方向の、内面は上下方向のハケ目である。端部は切ったように平坦である。14はPit278から出土した土師器皿で、内面に強いクロ口がある。15はPit313の上層から底面を上に、少し傾いて出土した石製硯である。3方向に縁が廻り、硯尻には縁がない。硯尻が折れて再加工した可能性もある。海には墨痕が僅かにある。側面は横方向に研磨されている。底面は平坦で、中央に「大」の刻書がある。横断面は底面の幅が狭い逆台形を呈する。16はPit328から出土した弥生土器甕である。表面が風化しているが、口縁部外面に僅かに擬凹線がある。草田3～4期か。17はPit348から脚部を上にして出土した土師器高環で、脚部から大きく広がった後、口縁部は外反しながら上方に立ち上がる。脚部は器壁が厚く、ハの字に広がる。脚部内面はナデ調整である。18はPit350から出土した須恵器环身で、立ち上がりが高い。19はPit376から出土した須恵器环身で、底部に糸切り後の板状圧痕がある。环蓋の可能性もある。20～22はPit392から出土した。20は朝鮮陶磁器軟質白磁碗で、全面施釉される。目跡は、底部内面と高台上に6箇所ある。高台内の中央は高くなり、高台端部は平坦で、三日月高台である。生産地年代で1460～1550年代で、山清窯ではない（片山2017）。21は土師器环、22は小片の土師器皿で、もう少し口径が小さい可能性もある。23はPit400から出土した土師器环で、底部が平坦で広い。24はPit411から出土した土師器环で、底部外面から直径3mmの非貫通孔がある。25はPit424から出土した土師器皿で、口縁端部や端部が欠損した箇所にも黒色物が付着し、灯明皿として使用されていたと考えられる。26はPit444から出土した土師器环で、底部内面は強いクロ口である。27～30はPit453（Pit1363）から出土した。27は土師器皿、28、29は土師器环、30は瓦質土器火鉢である。27は内湾しながら立ち上がる短い口縁部を持つ。28、29は口縁部に向け大きく広がる。30の外面には幅1.5cmの凹みに貼り付け円形浮文及びS字押印文がある。31はPit456から出土した土師器皿である。32、



第38図 大国地頭所遺跡 柱穴出土遺物実測図 1(S=1:4)



第39図 大国地頭所遺跡 柱穴出土遺物実測図2(5=1:4)

33はPit461から出土した。32は土師器環で、33は龍泉窯系青磁環である。32の口縁部はハの字に広がる。33は僅かに内湾する胸部で、口縁部は横方向に屈曲させ、端部が上方つまみ上げる。胸部内面にはケズリを入れ花弁文とする。大宰府分類III-3b類（太宰府市2000）。34はPit465から出土した土師器環である。35はPit512から出土した土師器皿で、底部に板状圧痕がある。36はPit542から出土した土師器環で、底部と胸部の境に段がある。37はPit550から出土した土師器環である。38はPit543（Pit561）出土の土師器環で、内面に黒色付着物がある。39はPit575出土の

土師器環で、口縁部は僅かに内湾する。

第39図1はPit576から出土した土師器環で、底部に断面円形の沈線状压痕がある。2はPit578から出土した土師器高環で、外面はミガキである。脚部は途中からハの字に広がる。3はPit585から出土した扁平な土師器皿で、立ち上がりは低い。4はPit592から出土した土師器皿で、口縁部をU字形に打ち欠き、その箇所に黒色付着物が付着しているので、灯明皿として使用されたと考えられる。5はPit593から出土した土師器皿で、底部端部に板状压痕がある。胴部が外反する。6はPit1342から出土した土師器皿で、立ち上がりが低い。7はPit604から出土した土師器皿で、立ち上がりが低い。8はPit645から出土した土師器皿で、外面に煤が付着する。9はPit647から出土した青花端反皿で、口縁部の内面に四方擗文、外面に1条圓線を描く。10はPit653から出土した礎盤石として使用されていたが、表面に幅1.2cm程度の平刃の工具痕が残る。裏面は平坦で、丁寧に加工されている。表面の右側はL字形に掘り窪められ、左側は立ち上がり、礎盤石に再利用されたと考えられる。11はPit679から出土した弥生土器甕で、口縁端部は僅かに屈曲する。12はPit684から出土した須恵器高台付環で、高台は断面三角形で、低い。13はPit686から出土した土師器環で、僅かに内湾する。14はPit696から出土した弥生土器甕で、口縁部下端に竹管文が施される。草田5期。15はPit702から出土した土師器皿で、ハの字形に広がる。内面は強いロクロ目。16はPit722から出土した土師器高環と考えられる。内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。17はPit733から出土した越前鉢で、口縁端部は凹む。18はPit767から出土した土師器環で、底部の器壁は厚い。19、20はPit810から出土した。19は土師器皿で、20は土師器環である。20は厚い底部から内湾しながら立ち上がる。21はPit818から出土した土師器皿で、器壁は薄く、内湾しながら立ち上がる。22はPit1166から出土した土師器皿で、胴部は丸みを持つ。23はPit1197から出土した弥生土器甕である。口縁外面には擬四線がある。草田3～4期。24はPit1207から出土した土師器甕と考えられ、頸部に2条の沈線がある。25はPit1224から出土した土師器皿である。26は瓦質火鉢である。内面はハケ目がある。27はPit1225から出土した土師器柱状高台である。28はPit1308から出土した土師器環で、内面は強いロクロ目。29はPit1311から出土した土師器皿で、底部外面に「×」のヘラ記号がある。内面は底部と胴部の境が不明瞭である。30はPit1381から出土した土師器甕で、31は土師器鼓形器台である。

**木製品** 第49図1～9は柱根である。直径は10～20cm程度で、5は残存長65.5cmを測る。17本樹種同定を行い、ほとんどがクリ材で、シイノキ属類似とマツ属が各1本確認された（第4章第2節）。底面が平坦に丁寧に加工されたものと側面から底面に向け斜めに加工したものがあり、両加工ともハツリ仕上げである。鼻繰りはない。10は傘の骨状をしたもので、中央から6方向に枝が伸びているようにみえる。底面は平らに加工されている。元は柱根で、中心部と節が残り周辺が腐食した可能性もある。11は桶状に加工されたもので、床面は平坦で、平面形は弧状を呈し、中心部は残存しない。周辺が残った柱根の可能性もある。12～14は漆器である。12の皿表面全体に黒漆があり、口縁端部に赤漆がある。13の皿内面には赤漆がある。14の碗表面には漆が塗られず、白木碗である。

**金属器・錢貨** 第50図1～29は金属品である。1は簪である。頭部に耳搔きが付き、髪に押す部分は二股になっている。2は土器群1から出土した耳環である。表面の剥離が著しい。3は鏃先で、片側が欠損する。端部は折り曲げられる。4は弥生時代の板状鉄斧の可能性がある。断面は方形で、刃部は両側から造り出す。5、6は鉄斧である。5は両側から折り曲げられ、木部を装着する。7は

刀と考えられる。柄と間が確認できる。8～11は同一個体と考えられるが、接点がない。11には目釘孔が確認できる。12は方形の板状鉄製品ある。13は鉄鎌で、先端は欠損する。14は鉄鎌の茎と考えられ、断面方形である。15は板状鉄製品で、用途は不明。16の平面形は長方形を呈し、厚みを持つ。17は鉄鎌の茎あるいは鉄釘と考えられる。18～29は鉄釘と考えられる。断面方形で、頭はL字状に曲がるものがある。

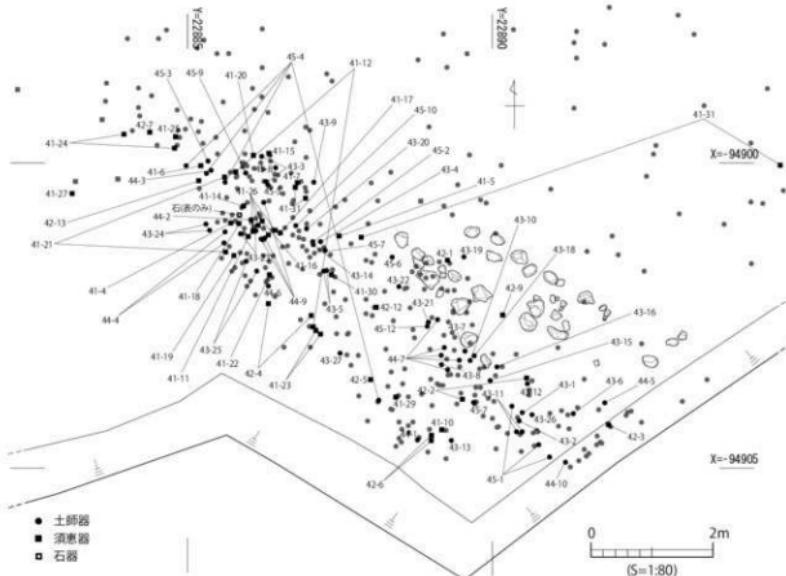
第51図1～6は銭貨である。1は開元通寶、2は熙寧元寶、3は元符通寶、4は表面が白色を呈し、銘文は不明である。表面の科学分析では、鉛と銅等が高い割合で検出されている(第4章第1節参照)。5は寛永通寶で、背文字はない。6は明治23年の五銭銭貨である。

## 土器群

**土器群1 (第40～45図)** 1区南東端で、中世の造成土下から確認され、幅約3m、長さ約11.5mの帶状に土器が重なり合いながら出土した。石列1からその南側に位置し、石列1の石材に絡むように出土し、土器の一部は水平に土器片が何枚も重なるように検出されたものもある。これらの遺物は、旧流路に平行し、南東から北西に主軸を持ち、南側へ向けて傾斜が急になる場所に堆積している。遺物は自然に流されたものか、人間が故意に廃棄・投棄したものかは確定できなかった。土器捨て場や祭祀跡等の性格も考えられる。

土器群1の遺物は須恵器や土師器、製塙土器、土製支脚、移動式竈、管状土錘、鉄生産関連遺物、耳環等があり、手程ね土器が一定量出土した。

第41図1～31、第42図1～13は須恵器である。第41図1～6は壺蓋で、7、8は壺身、9



第40図 大国地頭所遺跡 土器群1 遺物出土状況 (S=1:80)

~19は壺、20~26は高台付壺、27、28は皿、29、30は高壺、31は提瓶、第42図1~6は長頸壺、7~10、13は壺、11、12は甌である。第41図1は天井部がやや丸く、壺蓋としたが、壺身の可能性もある。天井部はヘラケズリがなく、カキ目あるいは板状圧痕がある。石見4~5A期か。2の天井部は丸く、ヘラ切り後ナデ調整である。3はかなり歪んでいる。擬宝珠のつまみが付き、口縁部端部は僅かにかえりがある。石見6C期。4の輪状つまみは器壁が薄く短く、口縁部は垂下する。5はボタン状つまみが付き、器高が高い。6は扁平で、天井部は糸切りである。7は器壁が厚く、重い。石見3期か。受け部は沈線状に凹む。8は底部にカキ目がある。9は小型で、底部に板状圧痕がある。蓋の可能性がある。10の底部は丸みがあり、蓋の可能性がある。口縁部は僅かに外反する。口縁部外面は強いナデにより凹む。11の口縁端部は僅かに先細りとなる。12の底部内面は摩滅する。13、17の底部端部には板状圧痕がある。15の底部には「×」のヘラ記号がある。18は外面に薄い自然釉が付着する。20は口縁部が直線的に立ち上がり、高台は底部のやや内側に付く。高台脇には高台貼り付け前の板状圧痕あるいは刺突痕が確認できる。底部内面は摩滅する。21は深みのある壺で、底部はヘラケズリである。高台端部は凹む。底部からの立ち上がり付近に棒状工具によるミガキと考えられる調整がある。22、23は静止糸切りで、高台内側を1周ナデる。高台端部は凹む。22の底部内面は摩滅する。23は底部に2条の細くて深い沈線を施し、そこに高台を貼り付けている。24は深みのある壺で、口縁部が外反する。高台端部は凹む。25の底部内面は摩滅する。26の口縁部は短頸壺のように一段内側に狭くなってから立ち上がる。底部はヘラケズリで、高台端部は凹む。高台の特徴は石見9A~9B期である。27の口縁部は大きく広がる。底部内面には重ね焼き痕が明瞭にある。29の口縁部は僅かに外反する。30は2条の沈線間に刺突を行う。透かしは長方形で、3方向、長脚の可能性がある。31は把手がない。外面は接合痕がある面がカキ目調整、もう一方はヘラケズリである。内面には指頭圧痕がある。

第42図1は長頸壺の頸部で、逆くの字状に刺突文を施し、刺突文の上下と中央に浅い沈線がある。胴部との接合部付近の内面にはシボリ目がある。2の高台は細くて高い。胴部は丸みを持ち、肩部外面には平行沈線間に刺突文がある。3の高台端部は内側に肥厚し、胴部はやや張る。肩部には沈線間に3段のクシ状工具による波状文がある。4の胴部下半は平行タタキ後カキ目がある。5の高台端部は凹み、肩部は張る。内面下半には漆と思われる茶褐色付着物がある。胎土や焼成が第41図24の高台付壺に類似する。6の高台端部は凹み、肩部は張る。底部内面中央には直径3.5cm程度の範囲に自然釉が付着する。7は底部に近い胴部片である。8は小型で、低く扁平な高台が付く。底部内面は粗いナデ調整である。9の口縁部は下方に肥厚する。10、11の口縁部は4mm程度の平坦面を持つ。12は口径21.2cmで、口縁部は丸みを持つ。肩部の外面には平行タタキ、内面は同心円タタキがある。13の底部端部に、ガラス質の付着物がある。底部内面中央付近に直径5cm程度の範囲に自然釉が付着する。須恵器は6世紀末の石見4期から石見9B期(8世紀末~9世紀初)に該当する。

第43図1~第45図4は土師器である。第43図1、2は高壺、3~5は皿、6~8は壺、9~11は鉢である。第43図1の脚部は厚く、ハの字に広がる。口縁部内面にアクセントがある。2の壺部外面は指頭圧痕があり、内面は黒色を呈する。3~5の胎土は灰白色で、表面に赤色顔料がある。3、4の口縁端部は段になり、5の口縁部内面は沈線状になる。暗文は不明。6~8の胎土は橙色で、6の胎土は精良である。8は器高が高く、内外面ハケ目があり、他の皿や壺と形態や調整が異なる。9は口縁部内面が横方向のナデ調整である。外面下半に黒斑がある。10は口縁部が窄まり、最



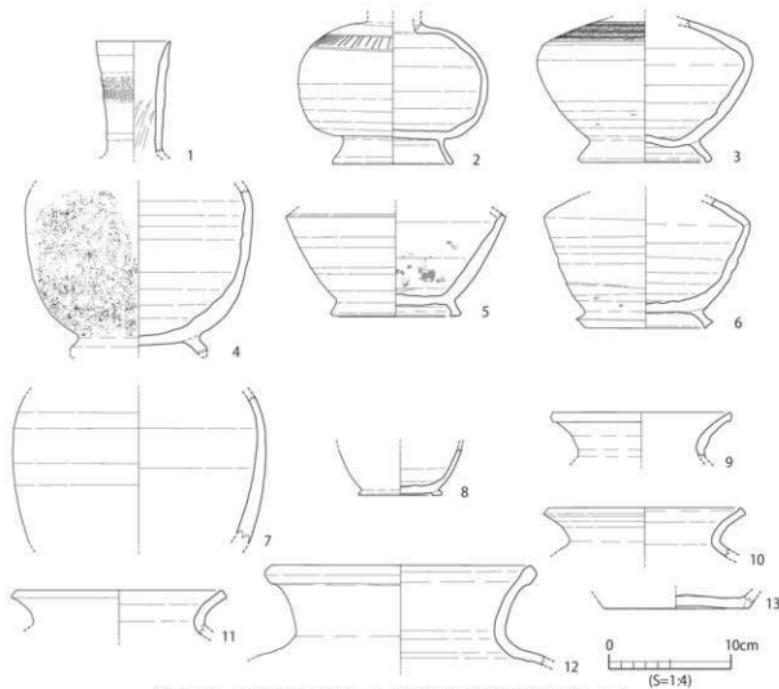
第41図 大国地頭所遺跡 土器群1出土遺物実測図1(S=1:4)

大径が胴部下半にある。長さ4.1cmの把手は扁平で、端部が上方に曲がる。底部は平坦である。11は10と形態が似ている。把手が剥離した痕跡がある。底部は平坦である。

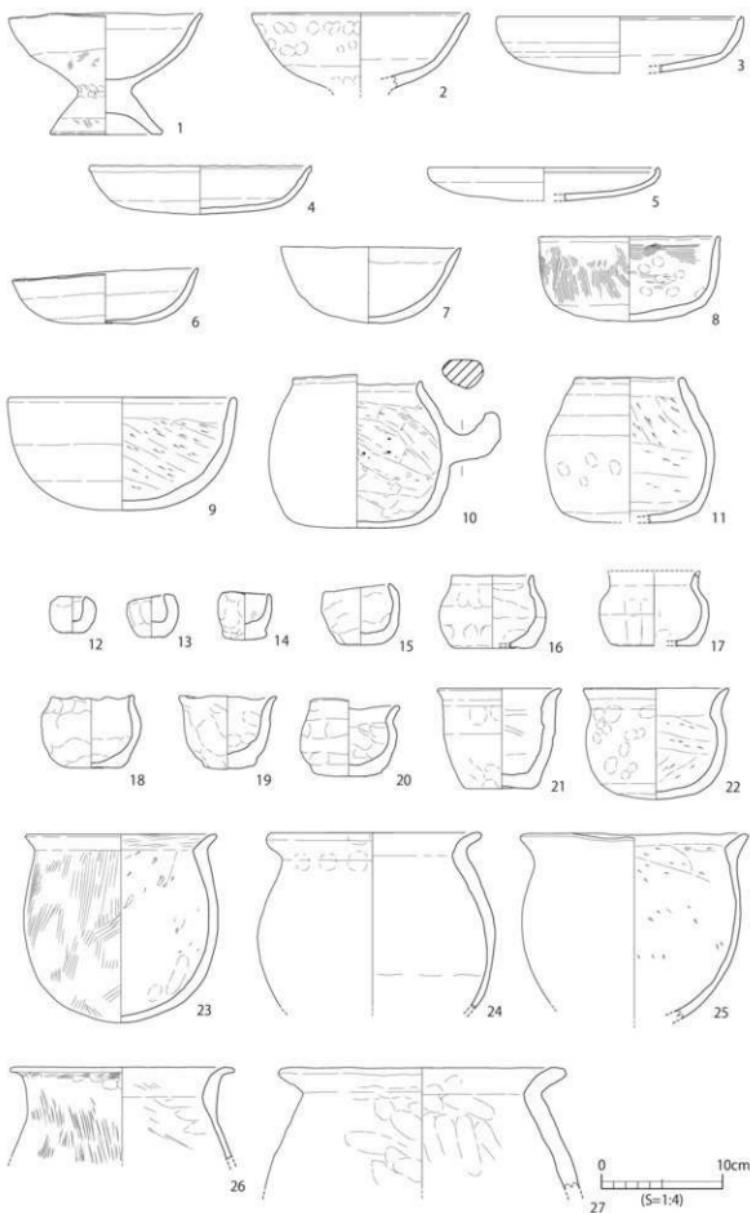
12～20は手捏ね土器、21、22は小型壺である。12～20はミニチュア土器の可能性がある。表面は指頭圧痕があり、口縁部が内湾するもの、外反するもの、直立するものもある。平底が多い。12の内面はきれいな円形で、粘土に円柱状のものを差し込んで作ったと考えられる。21は平底で、口縁端部を外反させる。22は丸みのある胴部を持ち、丸底である。

23～第44図10は甕である。23は丸みのある胴部に、短い口縁部を持つ。口縁部内面はハケ目で、底部内面は指頭圧痕があり、黒色を呈する。24、25の底部内面に黒色付着物があり、外面は被熱や煤が付着する。26の口縁端部は大きく外反する。第44図1の口縁端部は巻き込むように外反する。2、5～10の外面は被熱し、器表は荒れ、8～10は黄橙色に、他は赤色系に変色する。4は内外面被熱し、赤色系に変色する。胎土中に8mm以下の砂粒が目立つ。7の口縁部は大きく広がる。

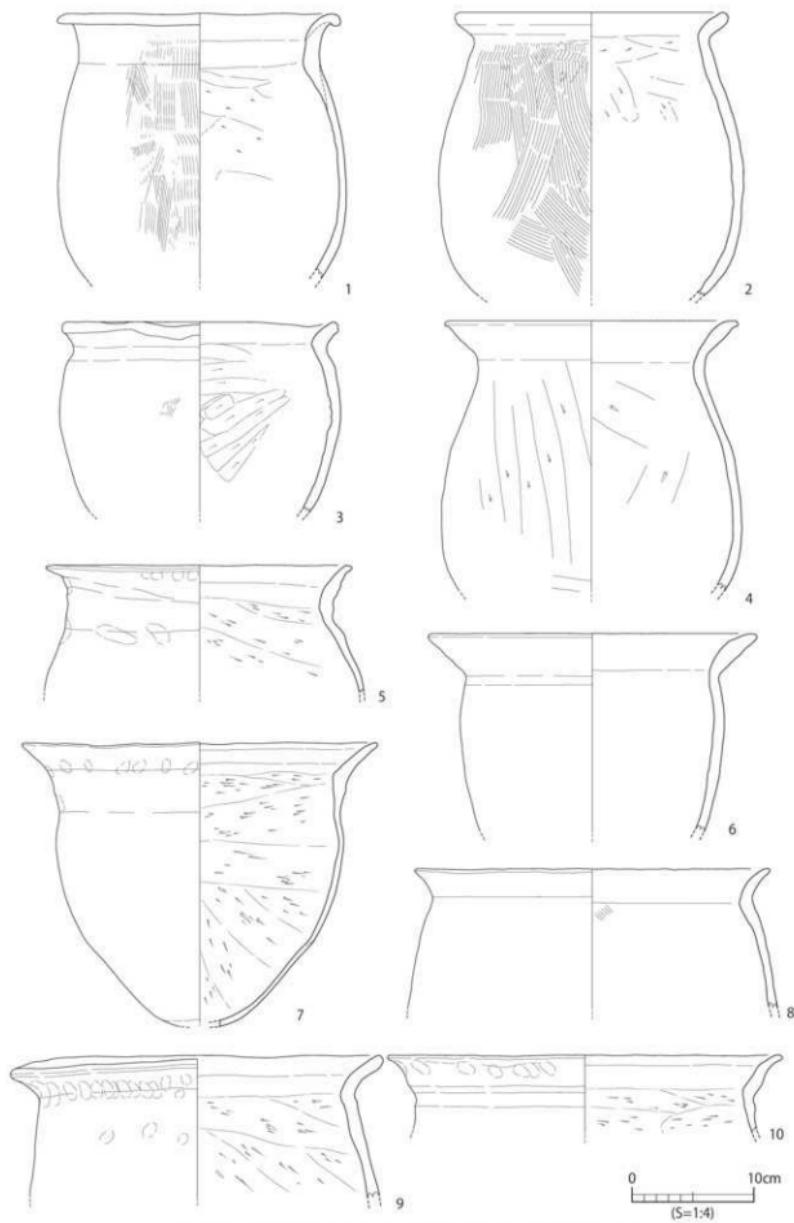
第45図1～3は櫃で、1、2は同形を呈し、口縁部は僅かに外反し、横方向のナデ調整である。把手は短く扁平で、端部は上方に曲がる。脚部端部には穿孔が対になるように2箇所にある。3は口縁部から胴部が直線で、短く先細りの小さな把手がつく。4は製塩土器で、器壁は薄く、粘土紐接合痕がある。表面には指頭圧痕がある。5は移動式竈の受け部から炊き口と考えられる。受口の端部は平坦で、煤が付着する。炊き口は上方に反る。6は管状土錘で、小口側が窄まる。側面に直径2mm



第42図 大国地頭所遺跡 土器群1出土遺物実測図2(S=1:4)



第43図 大国地頭所遺跡 土器群1出土遺物実測図3(S=1:4)

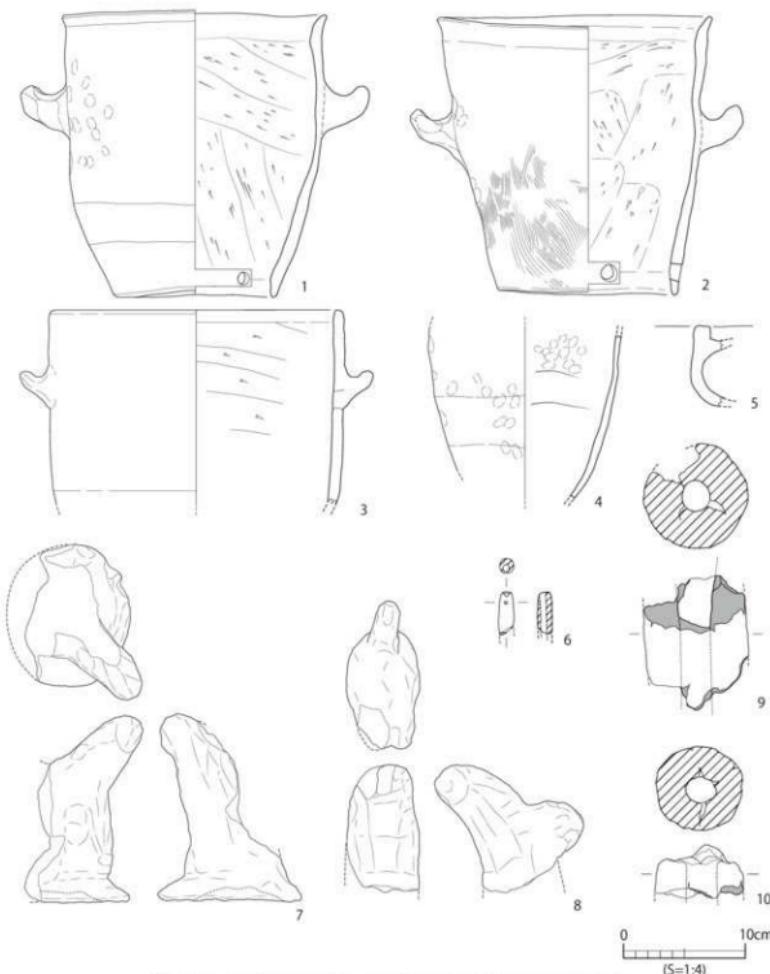


第44図 大国地頭所遺跡 土器群1出土遺物実測図 4(S=1:4)

程度の穿孔がある。7、8は土製支脚である。7は2方向突起で背面は欠損し、穴の有無は不明。腹面には浅い凹みがある。底部は凹む。8は3方向突起と考えられ、背面の突起はヒレ状を呈する。2方向突起は短く、突起の間が凹む程度である。9、10は羽口である。表面は被熱し灰色を呈する。

**土器群5 (第46・47図)** 3区D9グリッドから等高線と平行に  $0.7 \times 2.0\text{m}$  の範囲でまとめて遺物が出土した。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、遺物がまとめて出土した範囲を土器溜まりとした。遺物は土師器、須恵器が出土した。

第47図 1～2は須恵器、3～11は土師器、12は移動式竈である。1は壺身で、立ち上がりは



第45図 大国地頭所遺跡 土器群1出土遺物実測図5(S=1:4)

低い。底部は平坦で、外面周囲は回転ヘラケズリがあり、中央は板状圧痕がある。底部内面は回転ナデで消えているが、タタキ当て具痕がある。2は壺で、口縁部外面に2条の沈線があり、端部は丸い。頸部外面はカキ目である。3の高环は、器壁が厚く、脚部端部が広がる。4～10は壺である。4は口縁部が短い。5は最大径が胴部のかなり低い位置にあり、長胴である。5～7の口縁部はくの字に広がる。7の外面は被熱する。8、10は器壁が厚く、竈や瓶の可能性もある。9の器壁は薄く、色調が灰白色系である。11は口縁部が欠損しているが、瓶である。厚手の把手は胴部の器壁に差し込まれて接合され、端部は上方に曲がる。12は移動式竈の底の可能性がある。上面は平らで、接合部が剥離した可能性がある。端部は丸みを持つ。遺物は古墳時代後期と考えられる。

**土器群2（第46・48図）** 3区C10・11グリッド付近の1面から数cm掘り下げた面から検出した土器群である。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、遺物がまとまって出土した0.7×1.6mの範囲を土器溜まりとした。中央の遺物が出ない箇所を挟んで東西に分かれて出土した。遺物は土師器、移動式竈が出土し、須恵器は確認できなかった。第48図1～5は土師器甕、6は土師器高环で、7は移動式竈の可能性がある。1はくの字口縁で、端部が丸い。2、3のくの字口縁は端部が平坦で、口縁部は長く、ナデ肩である。4の底部内面は指頭圧痕があり、中央に直径4mm程度の穿孔がある。5は口縁部が二段になり、端部が広がる。口縁部内面から胴部外面まで赤褐色を呈する箇所がある。古墳時代中期でも新しい時期か。第96図11と類似している。6は脚部が長く垂直に立ち上がる。脚部端部はハの字に広がる。7は器壁が1.5cm程度と厚く、外面は斜め方向のハケ目、内面は縱方向のハケ目後横方向の強いナデ調整である。端部は自重のためか器壁がさらに厚くなる。古墳時代中期と考えられ、大国地頭所遺跡での遺物量が少ない時期である。

## 2面

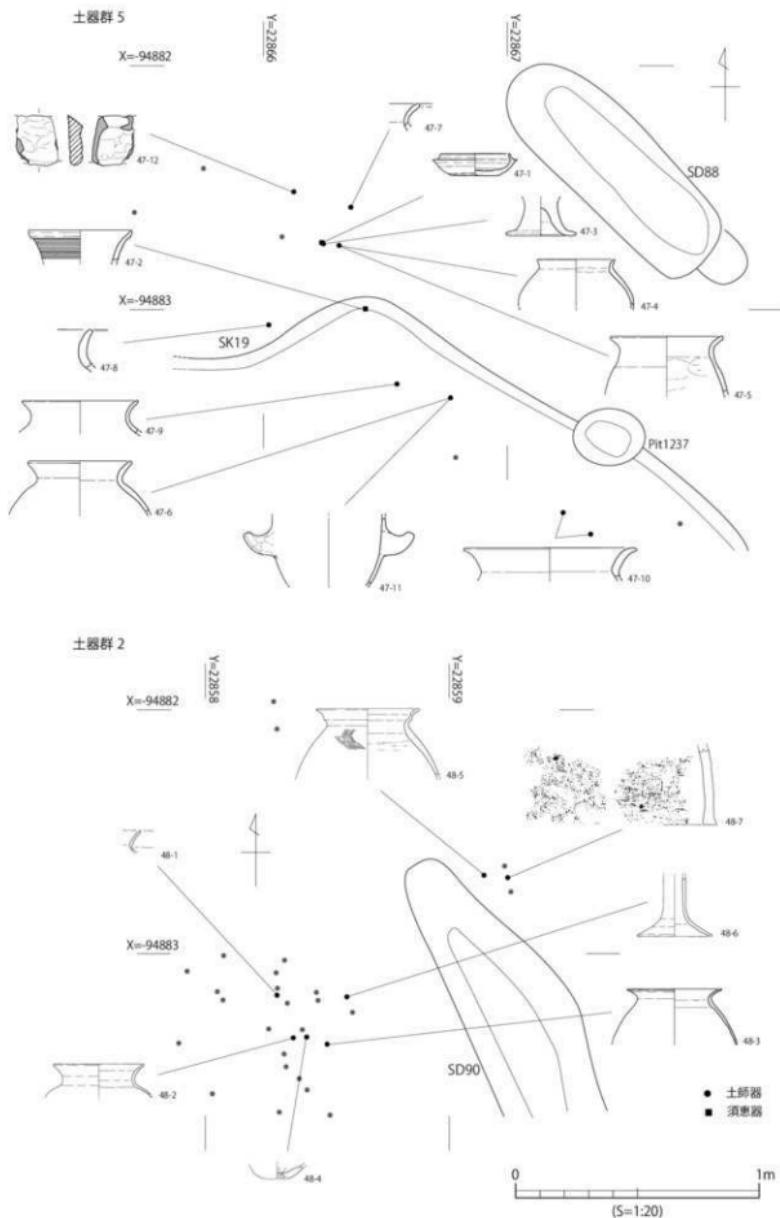
### 土坑（第56・57図）

**SK13（第56図）** 1区2面D2グリッドから検出した。長さ0.83m、幅0.51m、深さ0.13mを測り、平面形は長方形である。遺物は出土していないが、検出面から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。性格は不明である。

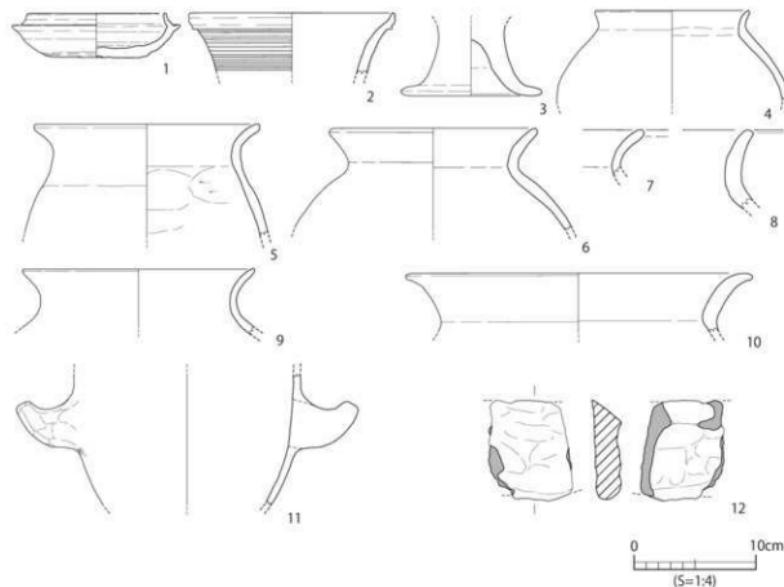
**SK14（第56・57図）** 1区2面C3グリッドから検出した。長さ0.97m、幅0.41m、深さ0.22mを測り、平面形は隅丸の長方形である。南東側が一段深くなり、ピット状遺構と切り合い関係がある。遺物は土師器が出土した。第57図1は土師器甕である。口縁部は外側に広がる。検出面や遺物から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。

**SK15（第56図）** 1区2面C2グリッドから検出した。長さ0.87m、幅0.57m、深さ0.18mを測り、平面形は隅丸の長方形である。南東側が一段深くなり、ピット状遺構と切り合いがある。遺物は出土していないが、検出面から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。

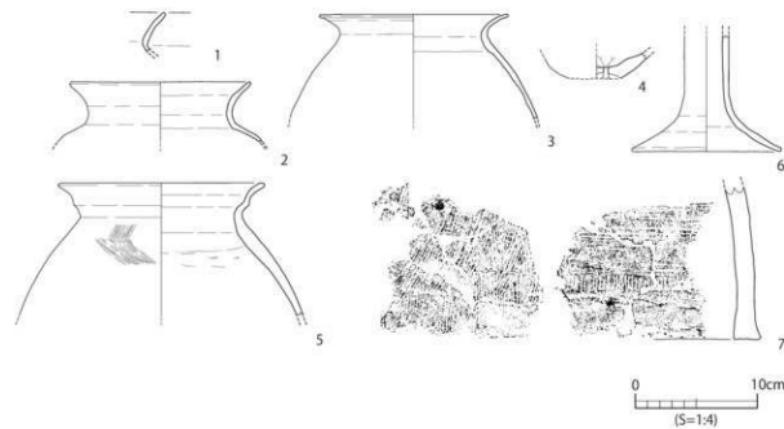
**SK16（第56・57図）** 1区2面D2グリッドから検出した。長さ1.0m、幅0.58m、深さ0.28mを測り、平面形は長方形である。北東側が一段深くなり、北東隅でピット状遺構と切り合い関係がある。遺物は北西隅から土器が出土した。第57図2～4は甕である。2は弥生土器で、口縁部が狭く、5条の擬凹線がある。3は口縁部が外側に広がる。4は二重口縁と考えられ、口縁部は僅かに立ち上がる。3と4は同一個体の可能性があるが接点がなかった。検出面や遺物から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。



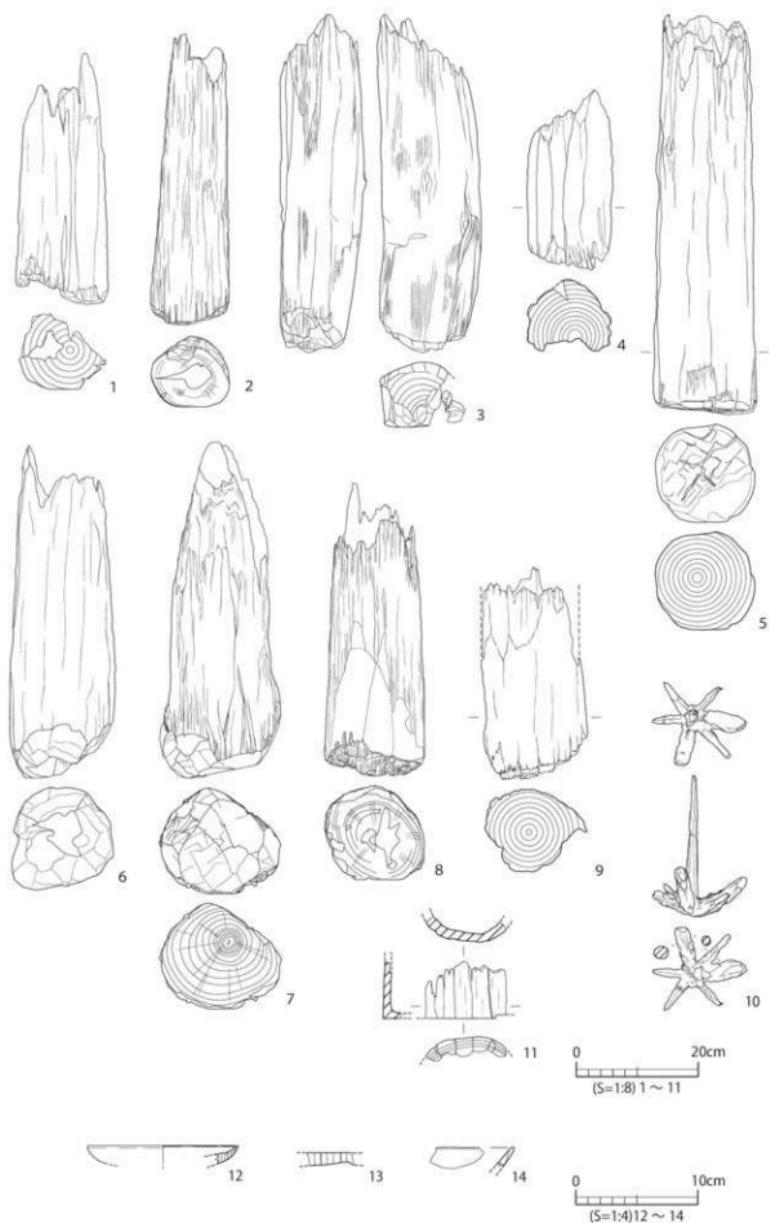
第46図 大国地頭所遺跡 土器群5・2遺物出土状況 (S=1:20)



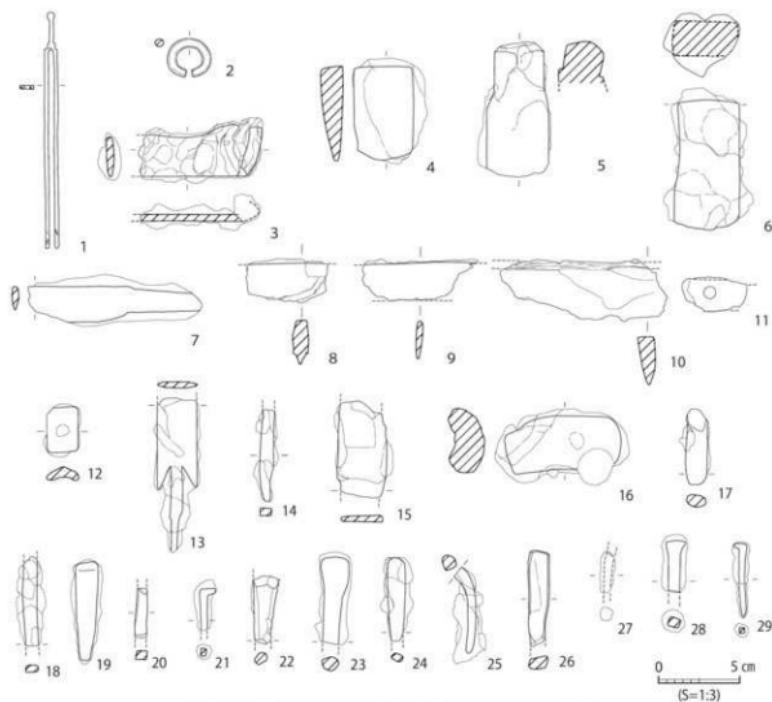
第47図 大国地頭所遺跡 土器群5出土遺物実測図 ( $S=1:4$ )



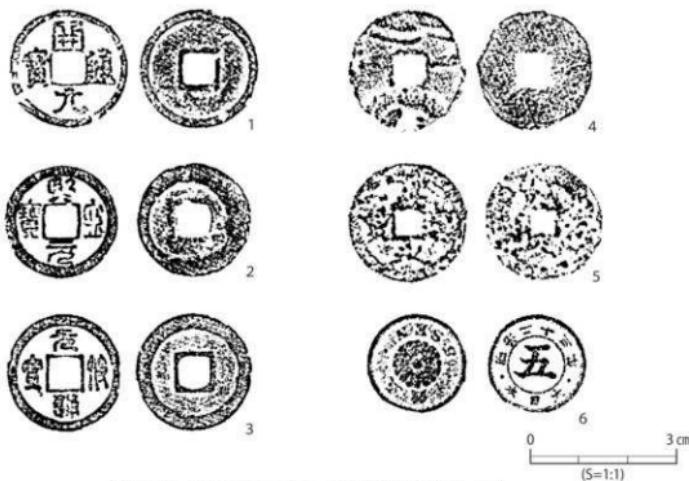
第48図 大国地頭所遺跡 土器群2出土遺物実測図 ( $S=1:4$ )



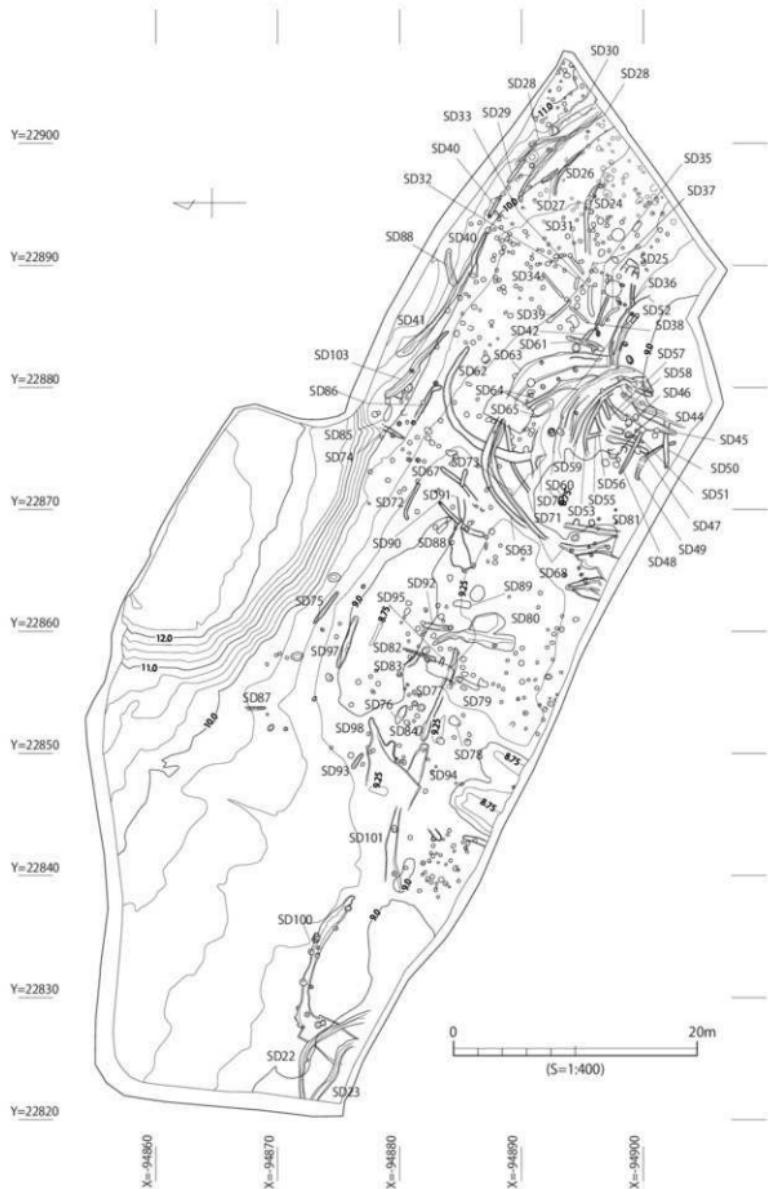
第49図 大国地頭所遺跡 出土木製品実測図 (S=1:8)(S=1:4)



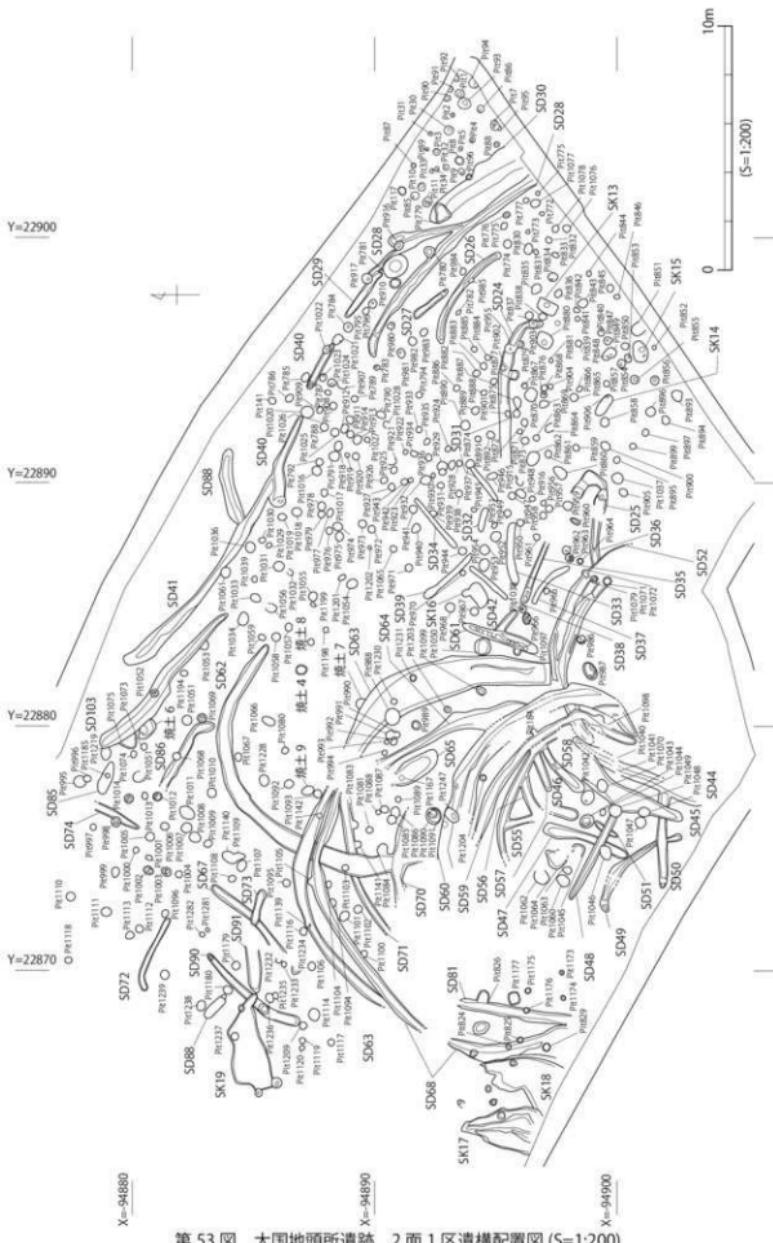
第50図 大国地頭所遺跡 出土金属器実測図 (S=1:3)



第51図 大国地頭所遺跡 出土銭貨実測図 (S=1:1)



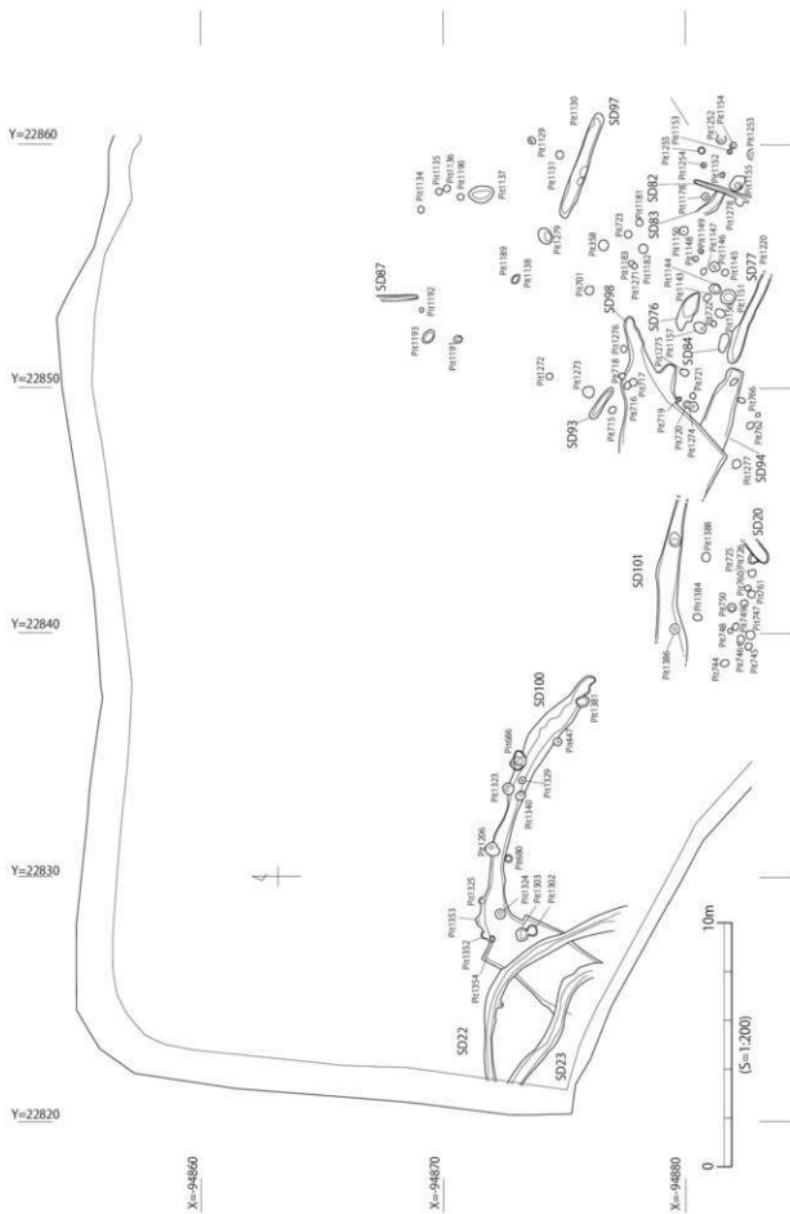
第52図 大国地頭所遺跡 2面遺構配置図 (S=1:400)



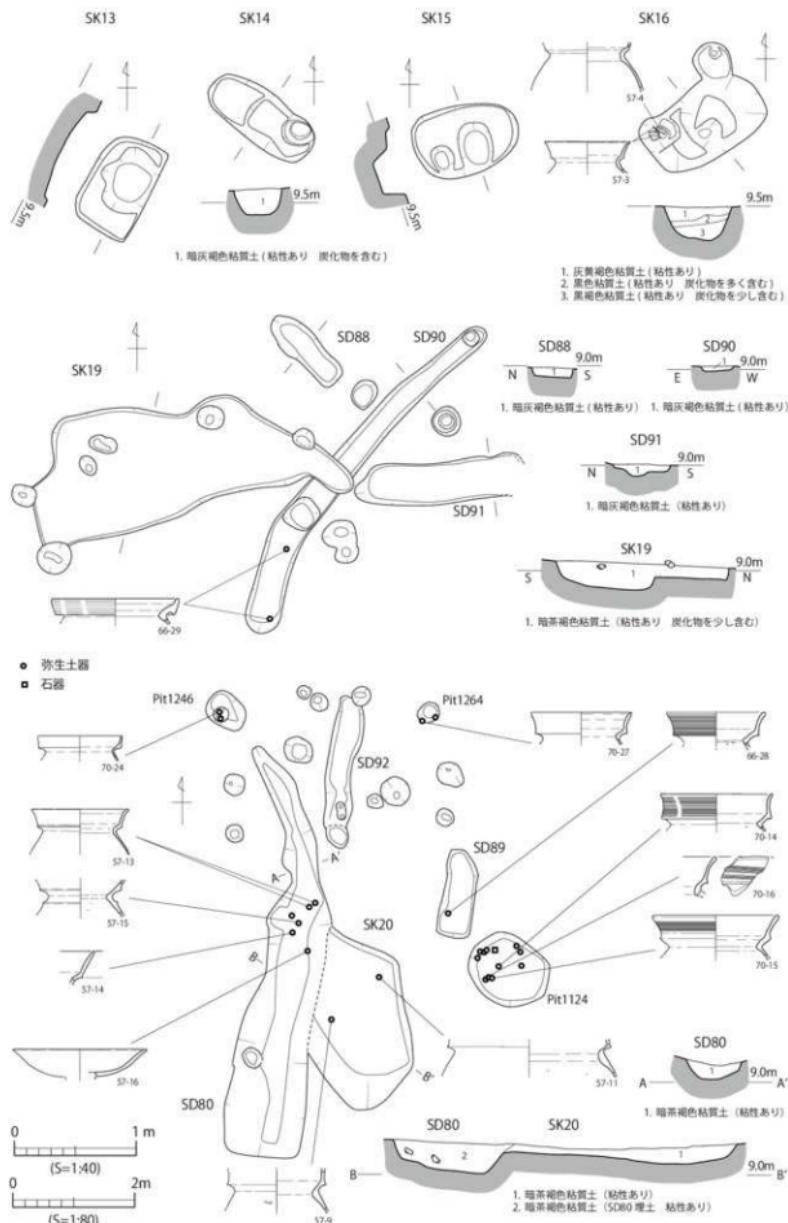
第53図 大国地頭所遺跡 2面1区遺構配置図 (S=1:200)



第54図 大国地頭所遺跡 2面3区遺構配置図 (S=1:200)



第55図 大国地頭所遺跡 2面4区遺構配置図 (S=1:200)



第56図 大国地頭所遺跡 2面 SK、SD 実測図 (S=1:80)(土層図: S=1:40)

**SK19（第 56・57 図）** 3 区 2 面 C9 グリッド付近から検出した。長さ 3.94m、幅 1.52m、深さ 0.22m を測り、平面形は不整形である。東側は溝状になり、西側は幅広になる。3 箇所でピットに切られ、土坑内のピットは土坑検出時には確認できなかったことからピットが古いと考えられる。弥生時代後期中葉の SD90 を切っている。

遺物は弥生土器が出土した。第 57 図 5 は壺で、口縁部には 5 条の擬凹線がある。6 は鼓形器台で、16 条の擬凹線がある。7 は高环脚部と考えられる。上方から 1 条沈線、刺突文、4 条沈線、刺突文、6 条沈線が施され、端部が垂下した外面に刺突文、端部外面に 3 条沈線がある。検出面や遺物から弥生時代後期と考えられる。

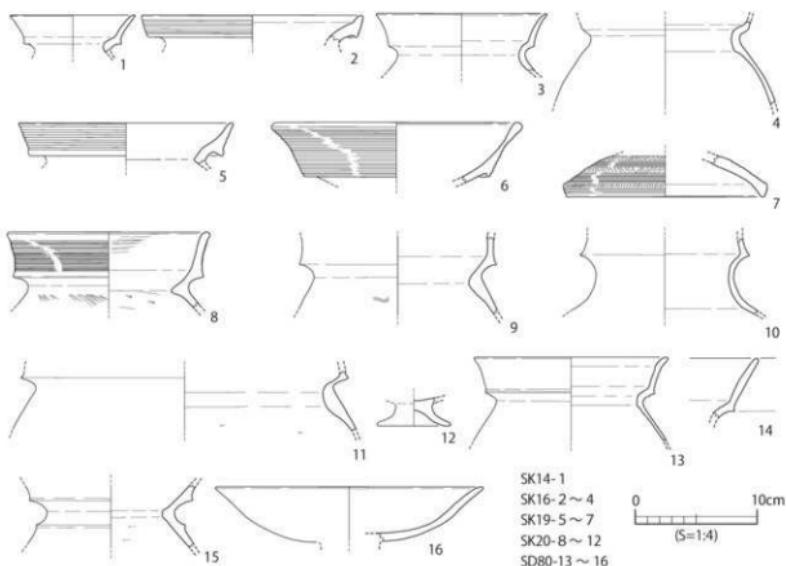
**SK20（第 56・57 図）** 3 区 2 面 C10 グリッド付近から検出した。長さ 2.72m、幅 1.79m、深さ 0.15m を測り、平面形は長方形を志向している。西側は SD80 で切られている。

遺物は弥生土器が出土した。第 57 図 8 は壺で、口縁部に 17 ~ 20 条程度のクシ状工具による沈線がある。肩部外面に貝殻による刺突文がある。口縁部内面は横方向のミガキである。草田 3 期。9 は肩部外面に波状文が僅かにある。草田 3 期。10 は器壁が薄く、胎土が精良である。口縁部は内傾する。11 の口縁下端部は外側に突出する。12 は低脚環の脚部であり、端部は外反する。検出面や遺物から弥生時代後期末と考えられる。

#### 溝跡・土器群 9（第 56 ~ 67 図）

SD24 ~ SD98・103

1 ~ 3 ~ 5 区の地山上（第 2 面）から検出した溝跡である。地山は調査区北側から急激に南側に傾



第 57 図 大国地頭所遺跡 2 面遺構出土遺物実測図 (S=1:4)

斜し、5mほどでやや平坦になり調査区南側に続く。3区では中央まで傾斜した後、南側に向けやや標高が高くなり、調査区中央付近が窪地状になる。遺構は1区から弧状の、3区から直線上の溝跡が切り合い関係を持ちながら集中して検出された。

溝跡は直線的なものと弧状を呈するものがある。直線的なSD27～29・40・41・103は等高線に平行で、北側の斜面から平坦面に傾斜が変わる付近に位置する。これらの溝跡の南側には平坦面が広がり、弧状を呈する溝跡やピットが検出された。弧状の溝跡は切り合い関係によりSD62がSD63やSD71より古く、SD52がSD59・60より古く、溝により時期差が存在している。弧状の溝跡の直径は復元で、SD63やSD68が約13m、SD62が約10mほどである。弧状の溝跡の多くは南側（平地側）がとぎれている。

これら弧状の溝跡の性格は断定できないが、建物に伴う周溝の可能性がある（岡本2006）。

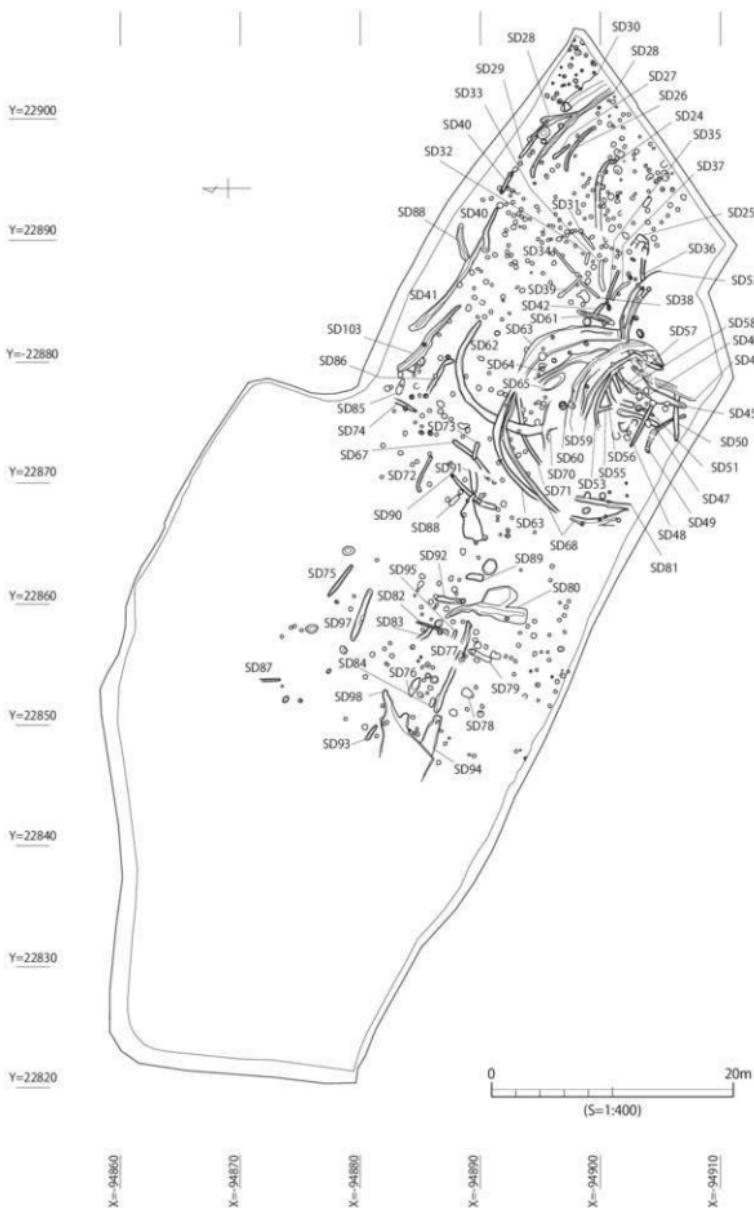
**SD61（第53図）** 1区から検出され、長さ3.2m、幅0.5m、深さ0.27mを測り、溝底面に径15～20cmのピットを伴う。

**SD80（第56・57図）** 3区から検出され、長さ6.9m、幅0.3～1.3m、深さ0.24mを測り、SK20を切っている。主軸は南北方向で、等高線に垂直に位置する。出土遺物は土器がある。第57図13、14は口縁部が長く、外反する。15は鼓形器台である。筒部は短い。16は高环の環部で、中央部は直径5.4cmの円形に剥離している。脚部と環部の接合部と考えられる。

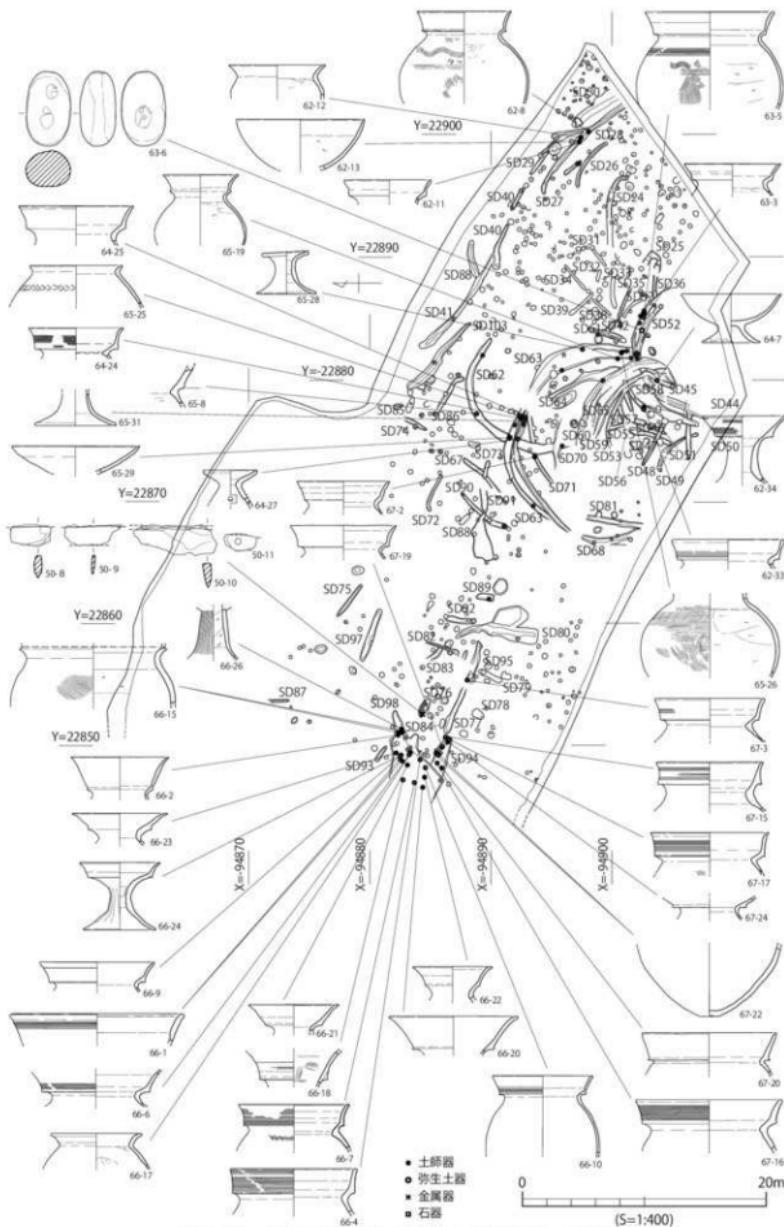
**SD90（第56・66図）** 3区から検出され、長さ4.8m、幅0.4m、深さ0.04mを測り、SK19により切られている。出土遺物は土器がある。第66図29の壺は口縁部が短く、外面に擬凹線がある。草田3期。

**土器群9（第61図）** 1区から検出した。第1面から数cm掘り下げるとき完全の壺と甕、高环がまとまって出土した。周囲には埴方等は確認できず、土器溜まりとして取り上げた。地山まで掘り下げると、SD52とSD60、SD63の3つの溝跡の交差地点に位置している。遺物が溝跡に伴うかは不明である。

**溝跡・土器群9出土遺物（第62～67図）** 第62図1、2はSD24から出土した。1は甕底部で、上げ底で、内面ハケ目である。弥生時代中期か。外面は被熱している可能性がある。2は砥石で、使用面は凹む。底面は平坦である。3、4はSD25から出土した。3は甕で、口縁部に13条程度の擬凹線がある。肩部外面にクシ状工具による波状文がある。草田3期。4は弥生時代中期の高环脚部で、外面に6条の四線がある。5、6はSD26から出土した。5は直口壺で、口縁部は内湾しながら立ち上がる。6の壺の口縁端部は外側に僅かに反り、上面が平坦になる。7～14はSD28から出土した。7は直口壺で、口縁部が外反し、端部は丸い。口縁部内面下方は斜め方向のヘラケズリか。8～12は甕である。8は口縁端部が平坦で、肩部には波長の間隔が広い波状文がある。内面調整は、頸部よりやや下がった胸部からヘラケズリである。胎土に白色粘土を含む。草田6期。9、10は口縁部が長く、端部が僅かに外反する。9は胎土中に白色粘土を含む。草田6期。11は口縁部中央の器壁が薄くなる。12はくの字口縁で、口縁端部は丸い。頸部外面には指頭圧痕があり、ナデ肩である。13の鉢は口縁部内面がヨコナデで、下方はヘラケズリである。口縁端部は丸く、外面に黒斑がある。14の鼓形器台は、脚部が広がり、端部は丸い。15はSD35から出土した甕で、器壁が厚く、端部は丸い。16、17はSD36から出土した甕である。16は口縁部が長く、端部が大きく外反する。17は口縁部が長く、端部は丸い。18はSD38から出土した甕で、口縁部が長く、端部はやや平坦である。19～21はSD40から出土した。19の甕は肩部と考えられ、連続刺突文がある。20、21は壺である。20の口縁部は短く、6条程度の擬凹線がある。口縁部内面は明瞭な段ではなく、滑らかに頸部に至る。草田3



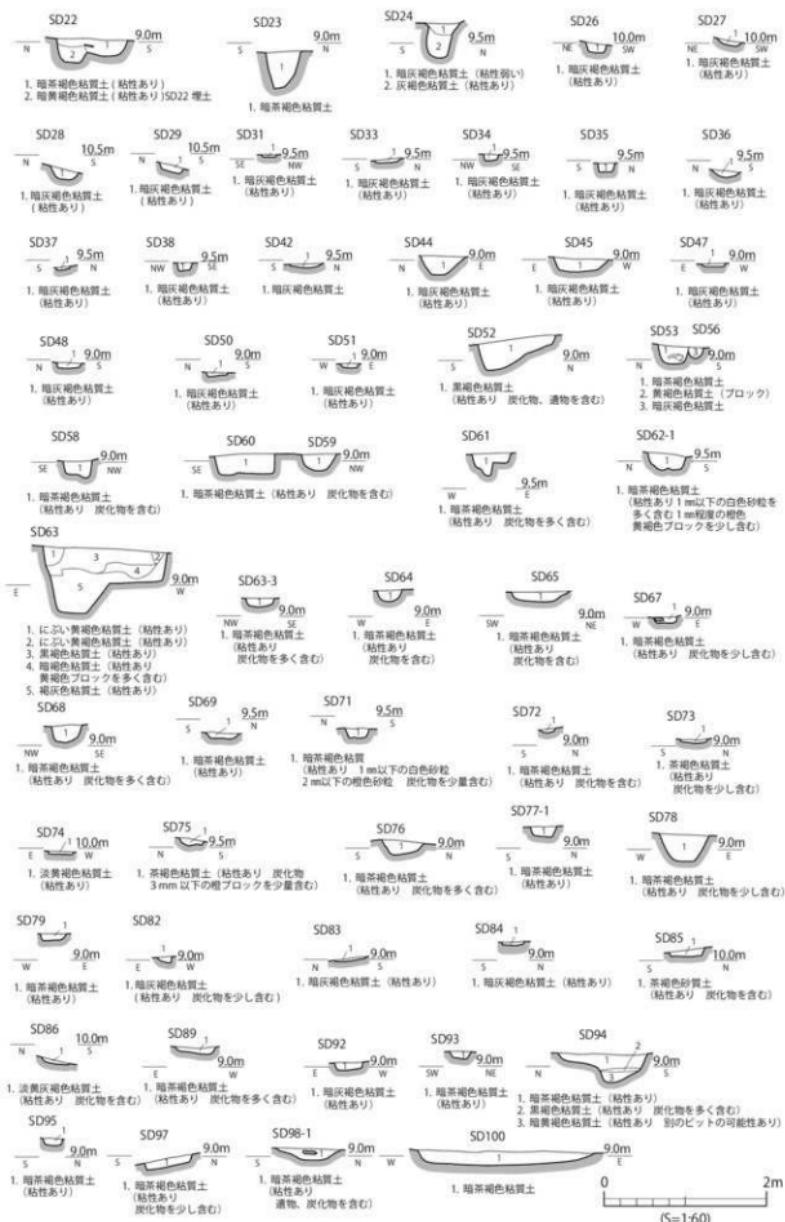
第58図 大国地頭所遺跡 2面溝跡配置図 (S=1:400)



第 59 図 大国地頭所遺跡 2 面溝跡出土遺物 (S=1:400)

-

### 第3章 大国地頭所遺跡の調査成果



第60図 大国地頭所遺跡 2面溝跡層図 (S=1:60)

期。21の口縁部には擬凹線があり、肩部にクシ状工具による波長の間隔が短い波状文がある。22～25はSD41から出土した。22～24は壺である。22は肩部に刺突文がある。草田5期か。23は頸部から胴部にかけてあまり広がらない。24の底部は器壁が厚い。25の甕は口縁部に15条程度の沈線がある。26、27はSD44から出土した。26は甕と考えられるが、鼓形器台の可能性もある。口縁部は長く外反する。端部は丸い。27は器台か。中央部に直径1.2cm程度の穴が開く。28はSD46から出土した壺で、口縁部が短く、擬凹線がある。草田3期か。29はSD47から出土した甕で、口縁部が長く、外反する。草田5期か。30はSD49から出土した甕で、二重口縁で、口縁端部は平坦である。外面調整は横方向のハケ目で、煤が付着する。31はSD53から出土した甕で、口縁部に11条程度の擬凹線があり、端部は丸い。32～34はSD58から出土した。32は壺と考えられるが鼓形器台の可能性もある。口縁部は大きく外反し、頸部は狭い。33の甕は口縁部に擬凹線がある。草田3期。34の鼓形器台は口縁部に擬凹線があり、筒部は長い。

第63図1～6はSD52から出土した。1は装飾壺で、2条の突帯間にC字刺突文、突帯から口縁部側に貝殻による羽状文、3条の浅く狭い沈線、刺突文、底部側に貝殻による羽状文がある。2～5は甕である。2は口縁部が長く、外面に擬凹線がある。草田3期。3は口縁部が外反する。4は上げ底の底部で、外面に指頭圧痕がある。5は口縁部が長く、外反する。肩部外面に7条以上の直線文と波状文がある。6は敲石で、側面は敲打痕が幅1.5～2cmで一周する。表裏面にも1～2箇所に敲打痕がある。7～14は土器群9から出土した。7の甕は口縁部が直線的に開き、端部は丸い。頸部には有軸羽状文とその下に浅い沈線がある。口縁部から頸部にかけてヨコナデで、頸部内面下半にシボリ目がある。口縁部が広がり、羽状文の中央に沈線が入ることから草田5～6期で、6期の可能性がある。8は大型の甕で、口径20.2cmを測る。口縁部が長く、端部が丸い。底部は僅かに平底である。肩部に二段のクシ状工具による直線文がある。内面調整は胴部がヘラケズリ、底部付近は指頭圧痕がある。草田5期。9、10は甕である。9の口縁部は長く、端部が外側に肥厚する。肩部には波長の間隔が短い波状文がある。草田5期。10はくの字口縁で、端部は僅かに内側に肥厚する。11は片口鉢である。底部は僅かに平らにする。外面に黒斑があり、煤が付着する。内面には水銀朱が付着する（第4章第1節）。12～14は低脚环である。12は口縁部や脚部がハの字に広がる。草田5期。13、14は内湾しながら口縁部が立ち上がる。14の脚部には4方向の穿孔がある。

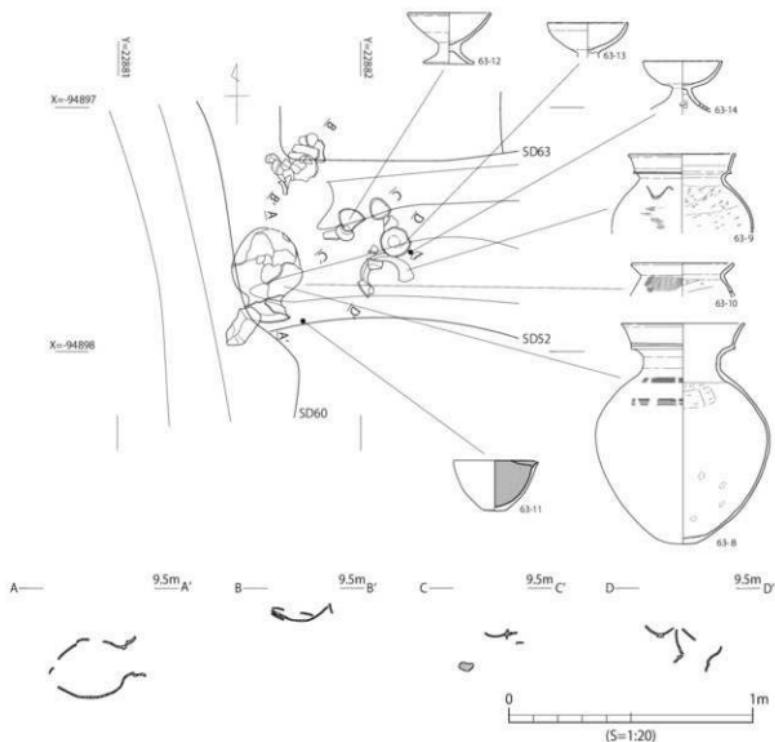
第64図1～8はSD59から出土した弥生土器である。1の甕は口縁部が水平に広がり、端部が垂下する。中期か。2～5は甕である。2の口縁部は垂直に立ち上がり、外面に擬凹線がある。3は口縁部に擬凹線、頸部に波状文がある。4の口縁部は厚く、外面に擬凹線がある。2～4は草田3期。5の底部は平底で、外面に黒斑がある。6は甕あるいは甕、鼓形器台の口縁部である。垂直に立ち上がり、口縁端部が僅かに外反する。7の低脚环は脚部が大きく外反し、环部は内湾しながら立ち上がり、口縁部が僅かに外反する。8は高环の口縁部の可能性がある。口縁部は外反し、端部の器壁がやや薄くなる。9～19はSD60から出土した。9の甕は口縁部が内湾し、端部が平坦である。色調は橙色を呈する。豊前から長門系の土器と考えられる。10の甕は頸部から口縁部に向け水平に伸び、口縁部は垂直気味に立ち上がる。外面は強いヨコナデで、凹線状になる。11～17は甕の口縁部である。11～13は口縁部が短く、外面に8～12条の擬凹線がある。草田3期。14の口縁部は上端と下端付近に強いヨコナデがあり、凹む。草田5期。15、16の口縁端部は平坦である。17の口縁部は長く、端部は丸い。18、19は高环である。18は19に比べ屈曲点が高い。18はミガキ調整、19は

ハケ目で、脚部が長い。20～23はSD64から出土した。20の甕は口縁部外面に擬凹線があり、色調は白色系である。21の低脚坏は脚部が大きく広がり、高さが低い。畿内系か。22は高坏の坏部と考えられる。口縁部端部は僅かに平坦である。23の磨石は直径7.1cm程度の円盤で、表面は研磨され、側面に敲打痕がある。24～30はSD68から出土した。24～26は甕である。24、25の口縁部は長く、外面に擬凹線があり、端部は丸い。草田3～4期。26は精良な胎土で、表面が風化剥離している。口縁部端部は先細りである。SD68出土破片とSD71出土破片が接合した。27は器台と考えられ、脚部はハの字に広がり、径8mm程度の円形の穿孔が3～4箇所ある。口縁部は短く、端部は丸みを持つ。28の鼓形器台は外面がヨコナデで、無文である。口縁端部は僅かに外反する。29は高坏の坏部と考えられる。口縁端部は強いヨコナデにより僅かに外反する。30の磨石は楕円形で、表裏面に摩滅痕がある。31～36はSD76から出土した。31～35は甕である。31の外面には14条程度の沈線があり、煤が付着する。草田3期。32～34は口縁部が長くて器壁が薄く、端部が丸い。草田5期。35の外面はハケ目後、2段の刺突文がある。36の鼓形器台は、無文で、口縁部が大きく外反する。

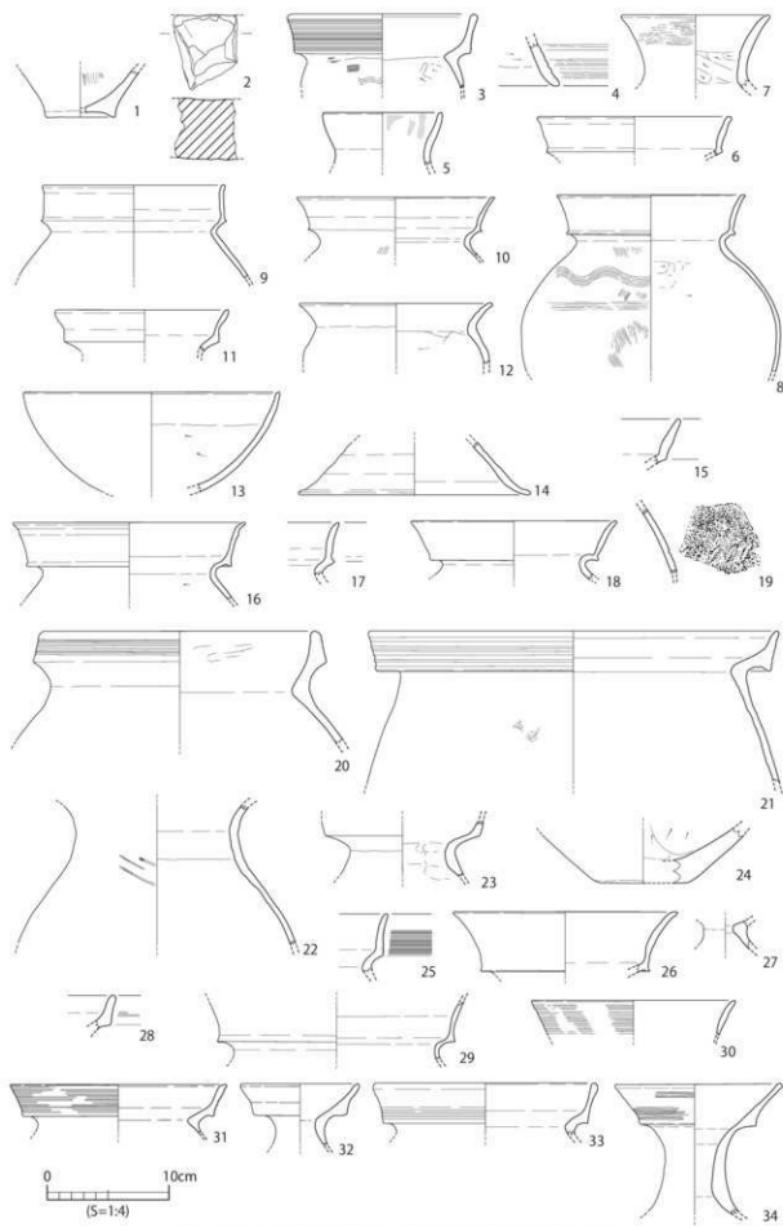
第65図1～13はSD62から出土した。1～3は壺である。1は貼り付けた突带上に3条の四線があり、その下に3段の刺突文がある。IV様式か。2の口縁部は短く、端部は丸い。肩部はナデ肩である。3の口縁部には僅かに沈線がある。口縁部の受け部はしっかりとしている。4～9は甕で、4の口縁部外面には擬凹線があり、口縁部中位から端部にかけて外反する。5～7の口縁部は長く、端部は丸い。5は8条以上、6は13条、7は18条以上の擬凹線がある。7、8の肩部には波長の間隔が狭い波状文がある。5～8は草田3～4期。9はくの字口縁で、口縁部は短く、端部は丸く、ナデ肩である。10の鼓形器台は、脚部外面に擬凹線があり、赤色顔料（水銀朱）がある。脚端部は器壁が厚く、端部は平坦になる。草田3期。11の高坏は外面に8条の四線がある。脚端部にも1条の四線がある。弥生IV様式。12の高坏は脚部が長く、坏部との接合は粘土充填で、軸痕はない。13は石包丁の可能性がある剝片石器である。周囲は幅1cm以外欠損する。表裏面は研磨痕がある。14～33はSD63から出土した。14～16は壺と考えられる。14は器壁が厚く、端部は平坦で、僅かに肥厚する。15は直口壺で、口縁部は僅かに広がる。口縁部の中位にアクセントがある。16は丸底であるが、底部を意識している。外面には黒斑がある。胎土や色調は15に類似する。17～24、26は甕である。17の外面には擬凹線がある。草田3～4期。19の口縁部は長く、端部が肥厚する。20の口縁部は長く、先細りである。21の口縁部は短く、端部は平坦である。22は直立気味の口縁部で、器壁は厚い。肩部から胴部は横方向のハケ目で、肩部には斜め方向のハケ目があり、刺突文状になる。草田6期。23、24はくの字口縁である。23の口縁部は長く、端部は先細りである。24の口縁部端部は丸い。25は短頸壺と考えられる。外反する口縁部を持ち、肩部には貝殻による羽状文がある。外面に煤が付着する。26の肩部には連続刺突文がある。27の鼓形器台は脚部が大きく外反し、筒部は短い。28の器台は口縁部端部を僅かにつまみ上げる。透かしはない。脚部内面には対置に黒斑がある。29は低脚坏の坏部の可能性がある。30～32は高坏と考えられる。30は9条沈線と円形刺突文がある。刺突文の一部は貫通している。弥生IV様式。31は脚部、32は坏部である。33は手捏ね土器である。外面には指頭圧痕があり、内面は外面に比べ丁寧にナデ調整される。

第66図1～26はSD98から出土した。1は壺で、口縁部は器壁が厚く、外面は擬凹線の後、下半はナデ調整である。口縁端部はナデ調整である。2～17は甕である。2は器壁が薄く、口縁部が長く、山陰系直口壺あるいは山陰系丸底壺の可能性もある。3～7は器壁が厚く、口縁部に擬凹線が

ある。5は口縁部中位から大きく外反する。7の肩部には波長の間隔が短い波状文がある。草田3～4期。8の口縁部外面はヨコナデで、肩部には波長の間隔が短い波状文がある。9、10は口縁部が長く、器壁が薄く、口縁部端部は丸い。11の口縁部は長く、端部が外反する。胎土に白色粘土を含む。草田6期。12の口縁部は短く、やや厚く、端部は平坦である。肩部には波長の間隔が長い波状文がある。内面のヘラケズリ調整の位置が頸部から胴部側に下がっている。古谷期か。13の口縁部は長く、端部は平坦である。14は沈線間に浅いノの字刺突文がある。草田4～5期。15は口縁部が欠損する。16、17はくの字口縁で、16は短い口縁部が外反し、端部は丸い。17の短い口縁部は端部が肥厚する。18～23は鼓形器台である。18は口縁部に擬四線がある。21～23は小型で、口縁端部が外反し、平坦面を持つ。草田6期か。24の高环は外反する短い口縁部を持ち、ハの字に広がる脚部である。焼成が良好で、脚部上面で色調が変化しており、充填粘土が剥離していると考えられる。25は器台と考えられる。外反する脚部の上方途中から粘土を外側に接合している。脚端部は上部からみると輪花状になる。26の高环は脚部内面の屈曲が明瞭である。27はSD81から出土した小型の壺と考えられる。外面には肩部に4条沈線、胴部に5条の沈線があり、その下位にはハ目あるいは細くて浅い沈線がある。28はSD89から出土した壺で、15条以上の擬凹線があり、草田3期。



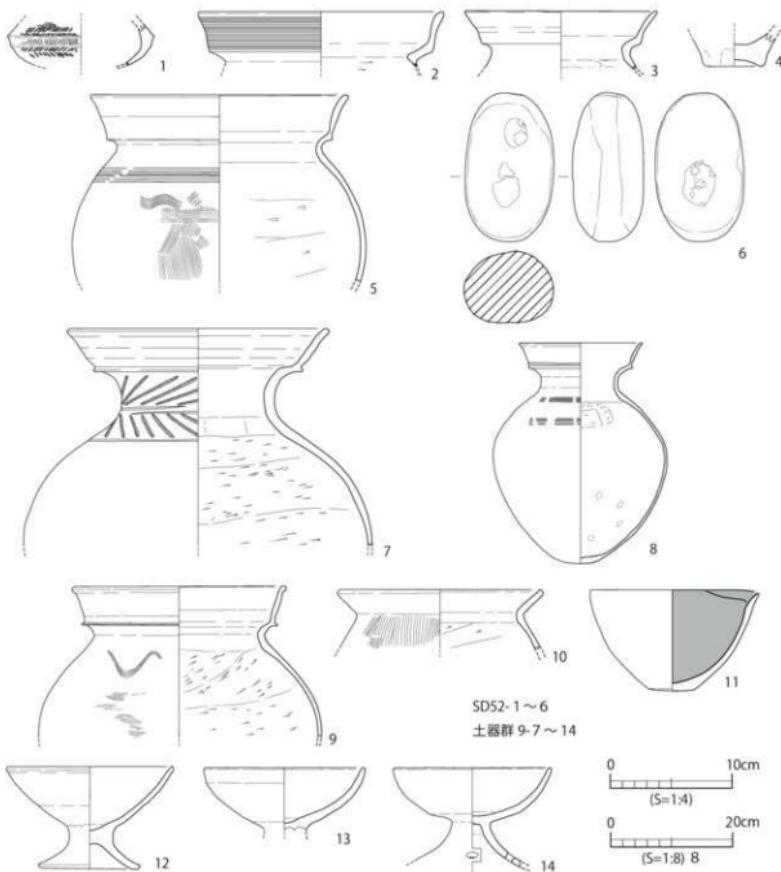
第61図 大国地頭所遺跡 土器群9 遺物出土状況 (S=1:20)



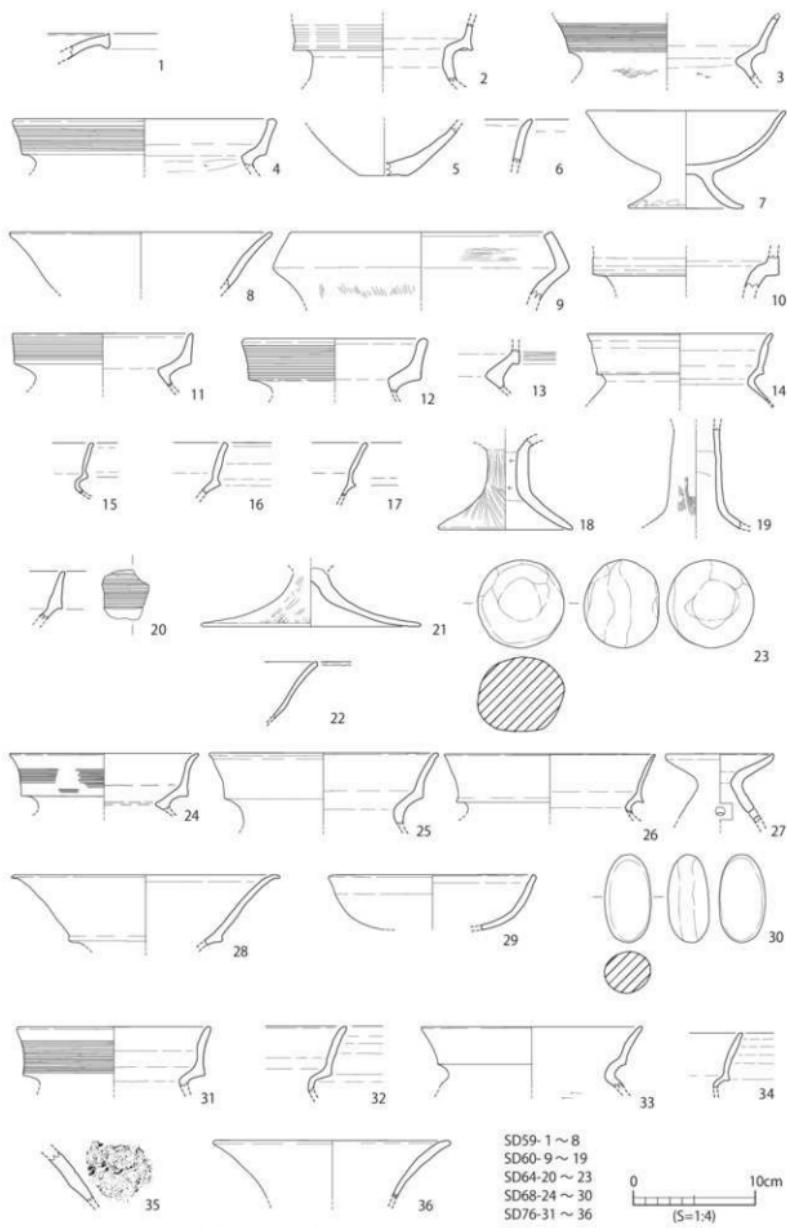
第62図 大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 (S=1:4)

30はSD92から出土した甕で、口縁部が短く、外面に6条の擬凹線がある。31はSD93から出土した甕で、口縁部に擬凹線、肩部に波長の間隔は短い波状文があり、草田3期。

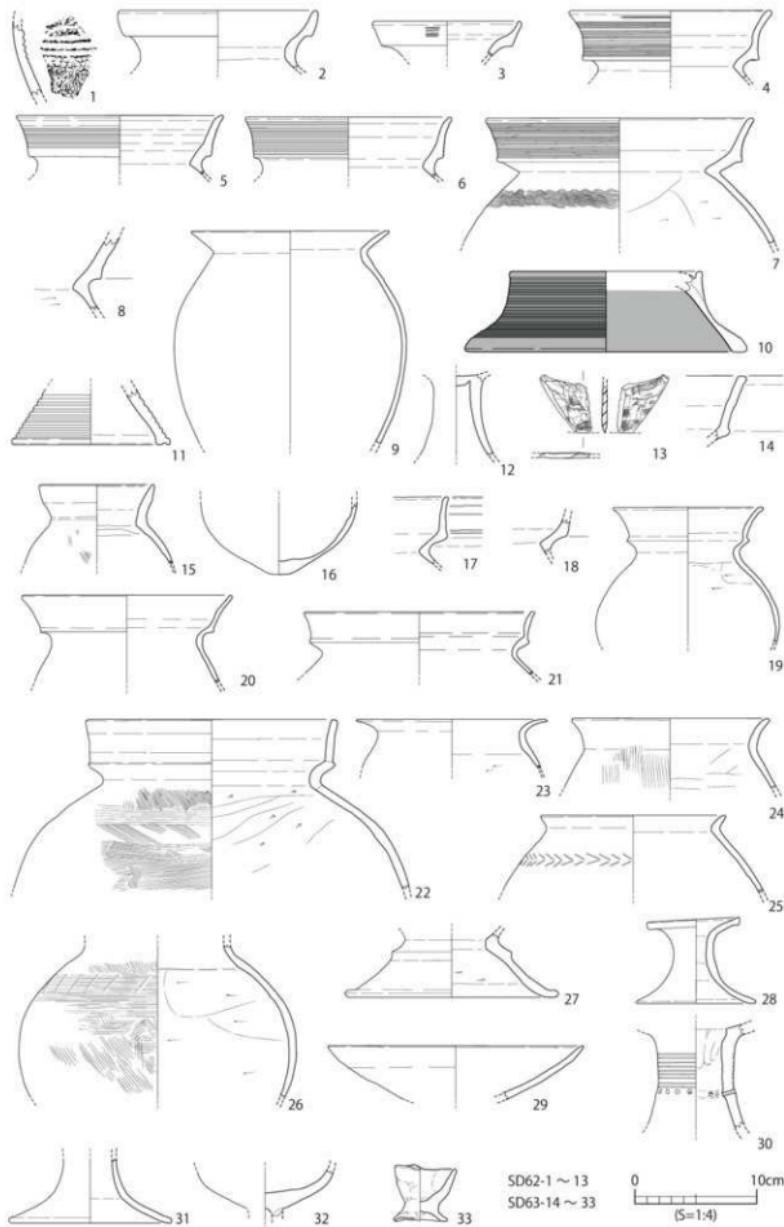
第67図1はSD70から出土した甕で、長く器壁が厚い口縁部で、端部は丸い。頸部には連続ノの字刺突文がある。胴部中央には5~6cmの穿孔があり、その周囲は表面が剥離している。2はSD71から出土した甕で、口縁部が長く、ヨコナデにより中央付近が凹む。草田5期。3~5はSD77から出土した。3~5は甕である。3は外面に擬凹線があり、端部は丸い。草田3期。4は口縁部が長く、口縁部中位から外反する。草田5期。5はくの字口縁で、口縁部は長く端部は平坦である。6~8はSD78から出土した。6、7は甕である。受け部が深く、口縁部外面に擬凹線がある。草田3期。8の鼓形器台は、脚部の可能性もある。9~13はSD80から出土した。9~12は甕である。9は口縁部が短く、外面に9条の擬凹線がある。10の口縁部は器壁が厚く、外面に擬凹線がある。



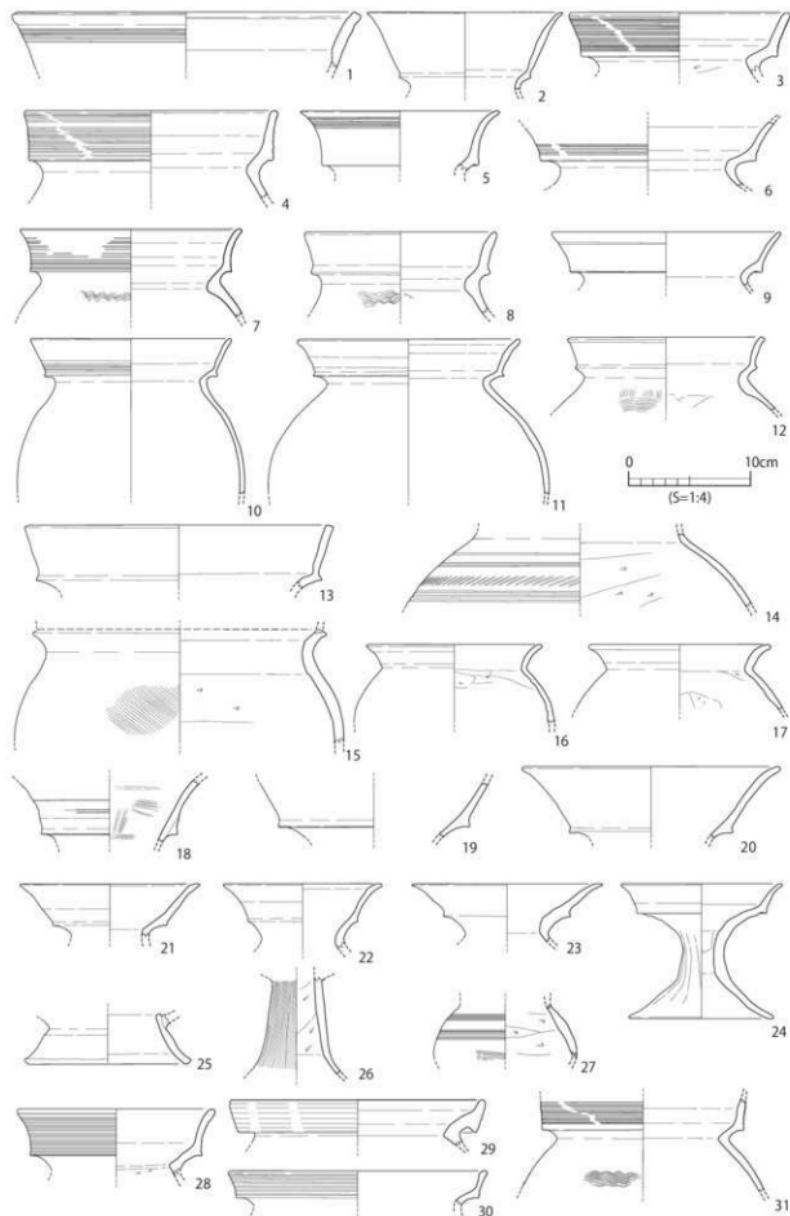
第63図 大国地頭所遺跡 溝跡・土器群9出土遺物実測図 (S=1:4)(S=1:8)



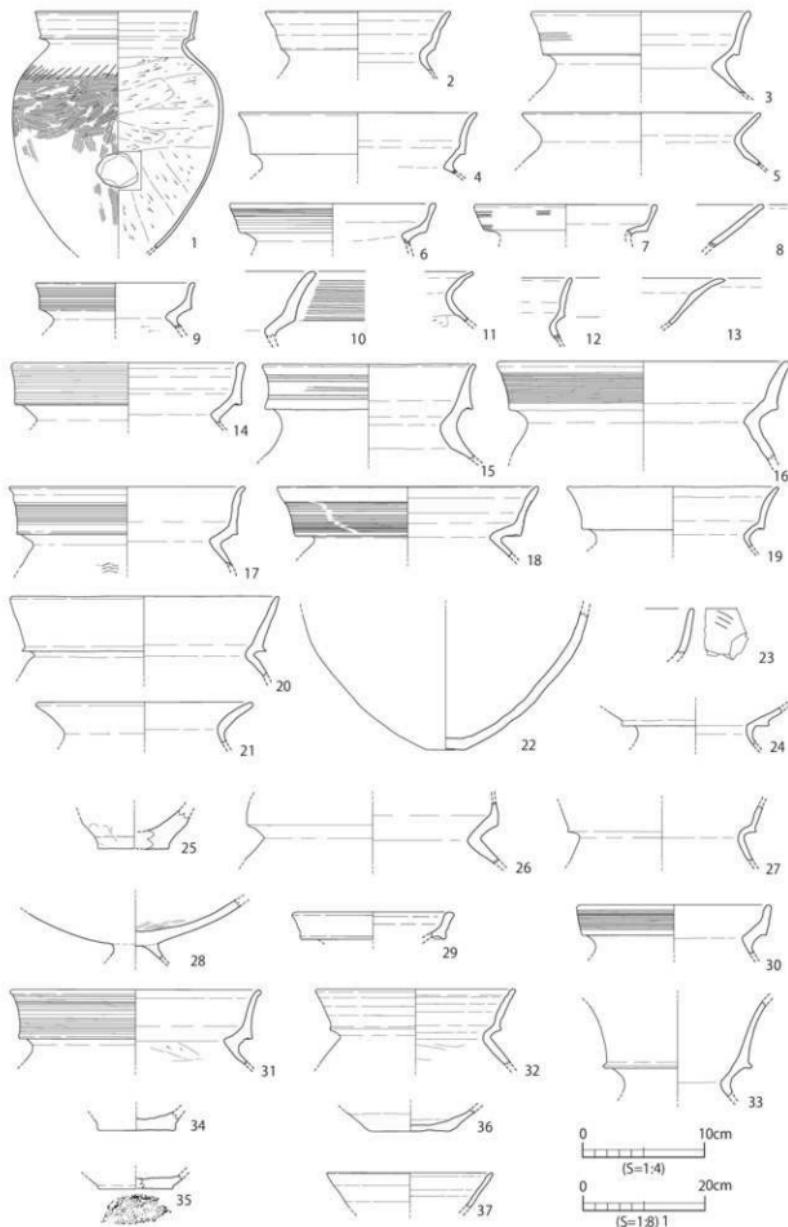
第64図 大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 (S=1:4)



第65図 大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 (S=1:4)



第66図 大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 ( $S=1:4$ )

第67図 大国地頭所遺跡 溝跡出土遺物実測図 ( $S=1:4$ ) ( $S=1:8$ )

9、10は草田3期。11はくの字口縁で、口縁部は長く、端部は丸い。12は器壁が薄く、口縁部が長い。草田5期。13の鼓形器台は、口縁部内面中位にアクセントがある。14～24はSD94から出土した。14～22は甕である。14～18の口縁端部は丸く、外面に擬凹線がある。17の肩部には波長の間隔が短い波状文がある。18は口縁部中位より端部が外反する。草田3期。19、20は表面が風化し、調整等は不明である。20の口縁端部は先細りである。21はくの字口縁で、厚く、端部は丸い。22は底部に向かって窄まり、底部は僅かに平坦面があり、少し凹む。23は鉢か。内湾しながら立ち上がり、外面に3条の短沈線がある。内外面丁寧な調整である。24の鼓形器台は、脚の可能性もある。25はSD97から出土した甕底部で、平底である。

**SD100（第55図）** 4区C15グリッド付近の第1面より数cm下がった面から検出した。残存長15.4m、幅1～2.0m、深さ0.11cmを測り、一部二段掘りになり深さ0.18cmである。南西端はやや広がる。SD22・23より古い。遺物は弥生土器がある。

**SD101（第55・67図）** 4区B14グリッド付近の第1面より数cm下がった面から検出した。残存長6.5m、幅1.3m、深さ0.13cmを測り、両端は不明瞭になる。出土遺物は須恵器、弥生土器が出土した。第67図26、27は甕である。26は器壁が厚く、口縁部は垂直気味に立ち上がる。27は器壁が薄く、胎土が精良である。草田5期か。28の低脚環は环部が大きく、内湾しながら立ち上がる。内面に煤が付着し、黒色に変色していることから蓋として使用した可能性がある。第67図29～32は甕である。29の口縁部は短く、外面に擬凹線がある。30は外面に擬凹線が、31は細い沈線があり、端部が外反する。29～31は草田3期。32の口縁内面は強いヨコナデで凹む。口縁下端の稜が明瞭である。草田5期。33は鼓形器台である。34の土師器環や35～37の須恵器環は小片で、混入品と考えられる。

### ピット（第68・70図）

大国地頭所遺跡の第2面からは多くのピットが確認できた。第2面は弥生時代後期から古墳時代前期の遺構面であるが、上層で確認できなかつた古墳時代後期以降のピットが第2面で確認できた場合がある。第2面で確認できたピットの多くは、第1面のピットと比較すると、規模は小さく、石材が入るものは少ない。一方、Pit1337は規模が大きく、底面から礎盤石が確認したので、中世の可能性がある。その他、Pit1216、1274、1381等も中世の可能性がある。柱根を確認したピットはない。Pit1124は長さ1.07m、幅1.39m、深さ0.18mを測り、平面形は円形で、規模が大きく土坑とすべきかもしれない。

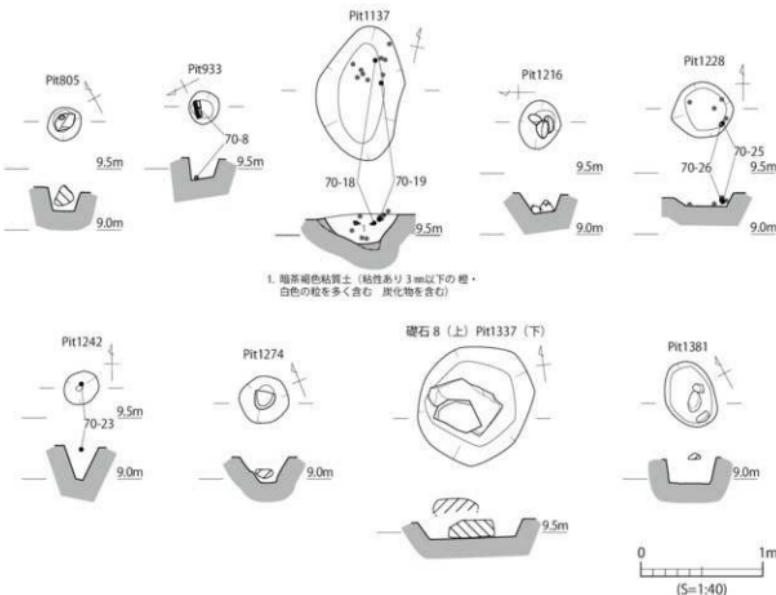
### ピット出土遺物（第70図）

第70図1はPit775から出土した甕で、短い口縁部で、器壁は厚い。胸部内面はハケ目である。2はPit776から出土した甕で、口縁部は長く、端部が僅かに反る。3はPit853から出土した甕で、口縁部外面に4条の擬凹線がある。4はPit880から出土した甕で、口縁部外面に8条の擬凹線が、肩部に波長の間隔が短い波状文がある。5は甕で、口縁部が短く、外面に黒斑がある。弥生時代中期か。6はPit892から出土した黒曜石製石鏃である。全長4.6cm、最大幅1.7cm、茎長1.6cm、茎幅1.1cmを測る。重量は4g。7はPit897から出土した甕で、外面に9条以上の擬凹線がある。8はPit933から出土した甕の口縁部で、口縁部に10条の擬凹線、肩部に波長の間隔が短い波状文がある。9はPit1024から出土した高環で、口縁部は肥厚し、外面に4～5条の凹線がある。弥生時代中期。

10はPit1054から出土した甕で、8条以上の擬凹線があり、外面に煤が付着する。11はPit1064から出土した甕で、口縁部は長く、器壁が薄い。12はPit1080から出土した鉢あるいは高环で、口縁端部は平坦で、外面に5条程度の凹線があり、煤が付着する。弥生時代中期。13はPit1099から出土した甕で、口縁部が長く、器壁が薄い。14～16はPit1124から出土した甕で、14は口縁部に15条の擬凹線があり、口縁部中位より外反する。15は口縁部に9条の擬凹線があり、口縁端部は厚く丸い。16は口縁部が長く、擬凹線がある。17はPit1127から出土した甕で、口縁部は長く、端部が外反する。18はPit1137から出土した直口壺で、口縁部は僅かに外反する。19は壺の可能性があり、口縁端部は平坦である。20はPit1160から出土した甕で、口縁部に9条の擬凹線があり、口縁端部は外反する。21はPit1186から出土した鼓形器台で、丁寧なミガキ調整である。筒部は狭い。22はPit1239から出土した甕で、口縁部は短い。23はPit1242から出土した甕で、口縁部は長く、器壁は薄い。24はPit1246から出土した甕で、口縁部は短い。25、26はPit1228から出土した甕で、25の外面に煤が付着する。26は器壁の厚い口縁部を持ち、口径はもう少し小さくなる可能性がある。27はPit1264から出土した甕で、口縁部は長く、器壁が薄い。

### 焼土（第69・71図）

**焼土4（第69・71図）** 1区第2面E6グリッドから検出した。長さ0.62m、幅0.49m、深さ0.13mを測り、平面形は楕円形を呈する。西側に上面が平坦な被熱した石材がある。埋土は炭化物が多く混じる。北側で潰れた状態で弥生土器が出土した。第71図1は甕で、口縁部外面に8条の擬凹線がある。



第68図 大国地頭所遺跡 2面 Pit 実測図 (S=1:40)

肩部には波長の間隔が短い波状文がある。2は平底の底部である。外面に被熱痕がある。内面は黒色に変色している。時期は出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

**焼土6（第69図）** 1区第2面E7 グリッド付近から検出した。長さ0.89m、幅0.48m、深さ0.18mを測り、平面形は楕円形を呈する。北東側はSD103に切られている。焼土面の下（第2層）に炭化物層がある。遺物は出土していないが、検出面から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。

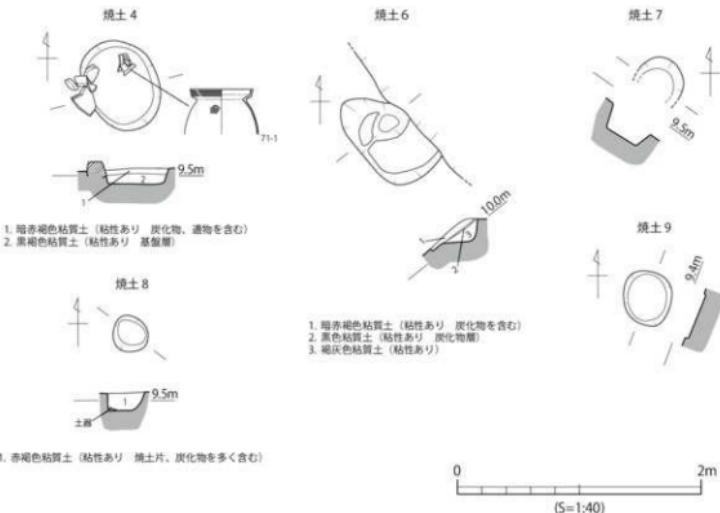
**焼土7（第69・71図）** 1区第2面D6 グリッドから検出した。長さ0.4m、幅0.22m、深さ0.2mを測り、平面形は楕円形を呈する。南西側はSD63に切られている。遺物は弥生土器が出土した。第71図3は甕で、口縁部は短く、6条の擬凹線がある。内面に黒斑がある。4は甕と考えられ、肩部に波長の間隔が短い波状文がある。時期は検出面や出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

**焼土8（第69図）** 1区第2面E6 グリッドから検出した。長さ0.3m、幅0.26m、深さ0.15mを測り、平面形は円形を呈する。埋土には焼土片や炭化物を多く含み、底部から土器片が出土した。検出面や土器から弥生時代後期と考えられる。

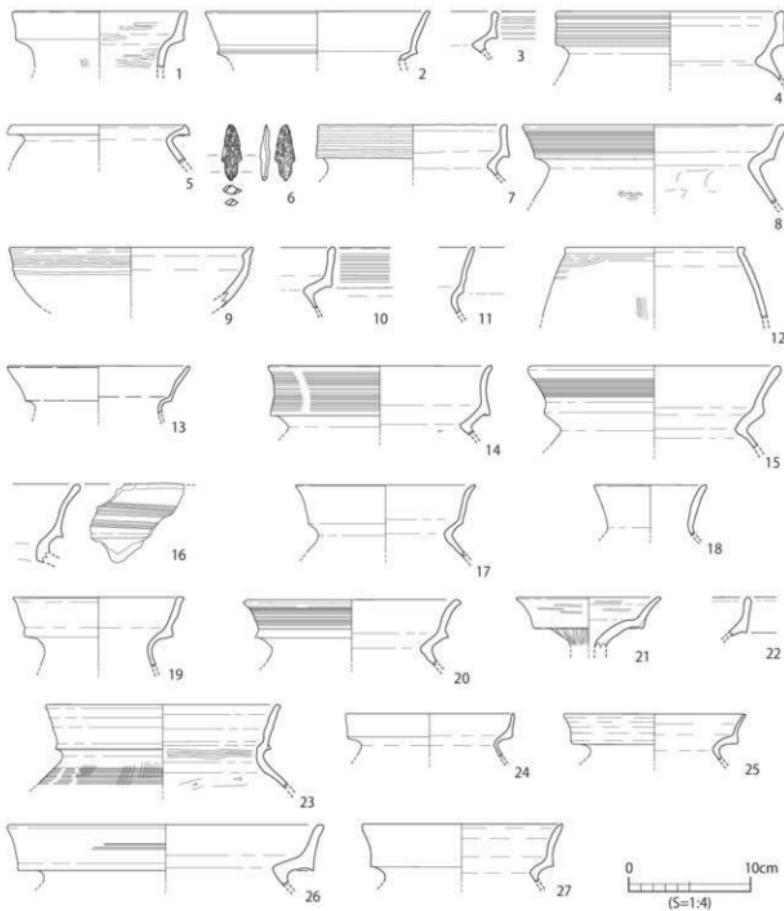
**焼土9（第69図）** 1区第2面D7 グリッド付近から検出した。長さ0.4m、幅0.37m、深さ0.03mを測り、平面形は円形を呈する。大変浅く、掘り込みは上層にあった可能性がある。遺物は出土していないが、検出面から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。

### 土器群（第72～92図）

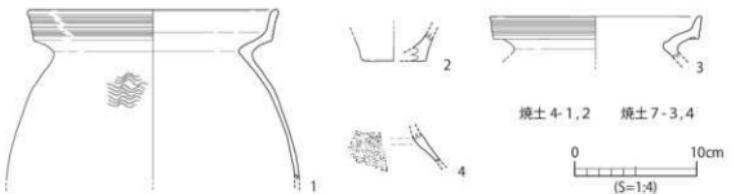
**土器群3（第72・74図）** 3区D8付近の1面から数cm掘り下げた面から検出した土器群である。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、遺物がまとまって出土した $1.15 \times 2.9m$ の範囲を土器溜まりとした。壺の胴部がやや大きい破片となり、内面を上にしたものが多く、山側で口縁部が出土した。下層の遺構との関係は不明である。遺物は土師器壺である。第74図1は大型の壺である。口縁部は



第69図 大国地頭所遺跡 焼土4・6～9実測図 (S=1:40)



第70図 大国地頭所遺跡 柱穴出土遺物実測図 (S=1:4)



第71図 大国地頭所遺跡 焼土出土遺物実測図 (S=1:4)

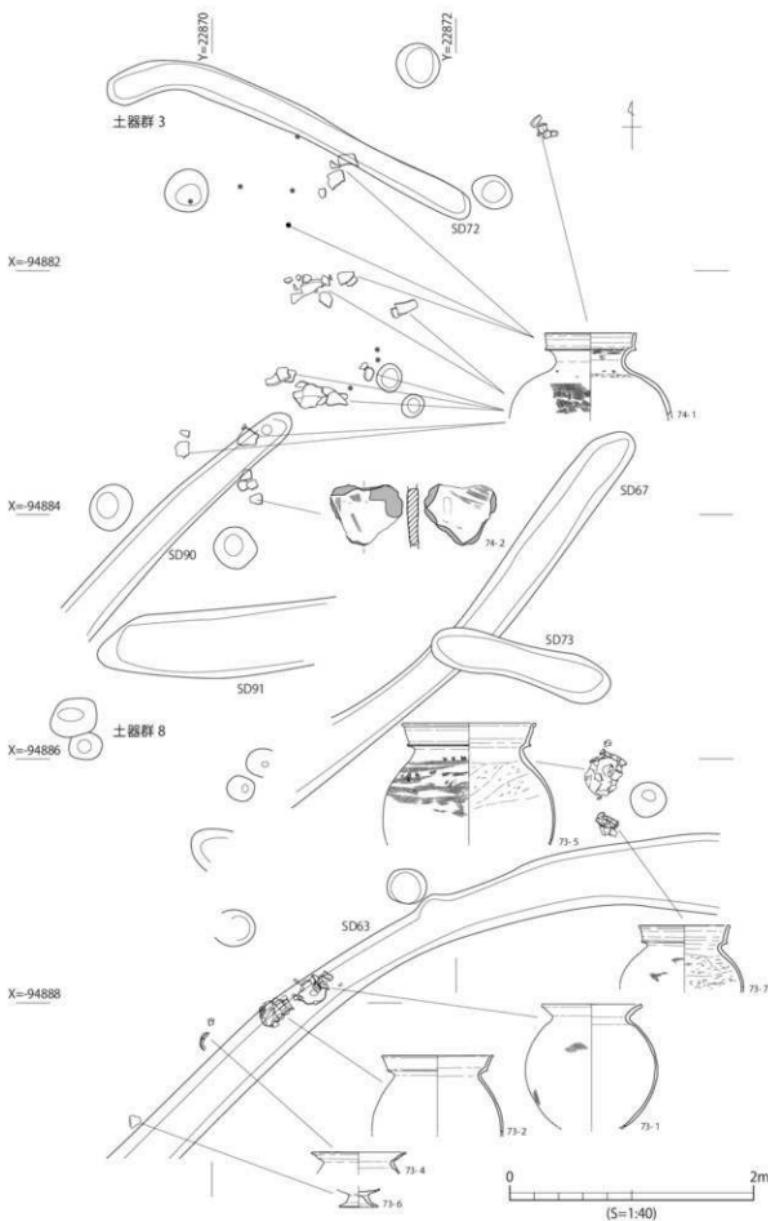
垂直に立ち上がり、端部は平坦である。頸部内面は横方向のハケ目である。古墳時代前期後半から末か。隣接する庵寺1B号埴土器棺に類似する。2は内外面ハケ目で、黒色を呈し、接合しないが1と同一個体と考えられる。

**土器群8（第72・73図）** 1区D8付近の1面から数cm掘り下げた面から検出した土器群である。ほぼ完形の土器であるが、周囲に明確な掘り込み等の遺構は検出できず、6箇所に分かれた遺物が出土した $2.0 \times 5.0\text{m}$ の範囲を土器溜まりとした。第73図1、2、5、7はその場で潰れていた。土器を取り上げ掘り下げると、第73図1と2はSD63の上面に位置していた。第73図1はくの字口縁の壺で、口縁部は長く、上方に僅かに立ち上がる。胴部は球形で、内面は黒色に変色している。2、3は壺である。2は短い口縁部をもち、端部は平坦面がある。3はくの字口縁で、口縁部は長く、端部は肥厚する。4は壺で、口縁部は長く、端部は肥厚する。5は壺で、口縁端部は外側に肥厚する。口縁下端は横方向に突出する。胴部は横方向の細いハケ目である。6は低脚杯で、脚部は反る。7は壺で、口縁部は短く、端部は外側に肥厚する。

**土器群4（第75～77図）** 3区E10付近の1面から数cm掘り下げた面から検出した土器群である。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、遺物がまとまって出土した $2.5 \times 5.3\text{m}$ の範囲を土器溜まりとした。下層からはSD75やPit1127が検出されたが、関係は不明である。遺物は弥生時代後期から古墳時代前期の土器、石錘、凹石等が出土した。第76図1～6は壺、7～9は直口壺である。1は口縁部に竹管文、頸部に羽状文がある。2、3は口縁端部がやや平坦で、頸部に羽状文あるいは有輪羽状文がある。1、2は草田5期か。3は草田5～6期か。4は内傾する口縁部で、口縁部外面には2～3条の凹線があり、頸部に羽状文がある。豊前から長門系の土器の可能性がある。5は内傾する口縁部である。北部九州系の土器か。6は平底の底部で、器壁が厚く、大型の壺の底部と考えた。7の口縁部は外反し、外面に煤が付着する。8は胎土や色調は7と類似し、直口壺の胴部と考えられ、外面は粗いハケ目調整である。9は口径12.9cmの大型で、口縁端部は平坦である。

第76図10～77図18は壺である。10は口縁部に擬凹線がある。草田3期。11、12は口縫部が長く、器壁が厚い。草田3～4期。13～77図4は器壁が薄く、口縁部がやや長い。草田5期か。5は口縁端部が玉縁状を呈する。6～8は口縁部が長く、端部が平坦である。草田6期か。9は口縁部が内傾する。10は壺としたが、壺の可能性もある。長い口縁部の端部は平坦で、第76図2と類似する。12は長い口縁部が直線的に立ち上がり、器壁は薄い。13～17はくの字口縁である。13～15は口縁部が長く、端部は13、15が丸く、14は平坦である。16は口縁部や頸部内面が長い。17の口縁部は水平に近く、端部が丸い。内面胴部はヘラケズリにより器壁は薄い。18の底部は僅かに平底である。19は鼓形器台で、筒部は狭い。草田5期か。20、21は低脚杯で、底径は20が5.2cm、21が9.4cmと21が大きい。22、23は高杯である。22は脚部途中から端部に向け広がり、23は脚部全体がハの字に広がる。22は4方向に穿孔がある。24は石錘の可能性がある。中央に幅1.0cm程度の凹みがある。石材は玄武岩あるいは安山岩と考えられる。時期は弥生時代後期末から古墳時代前期初頭にかけてであるが、上層の遺物が混入している可能性がある。

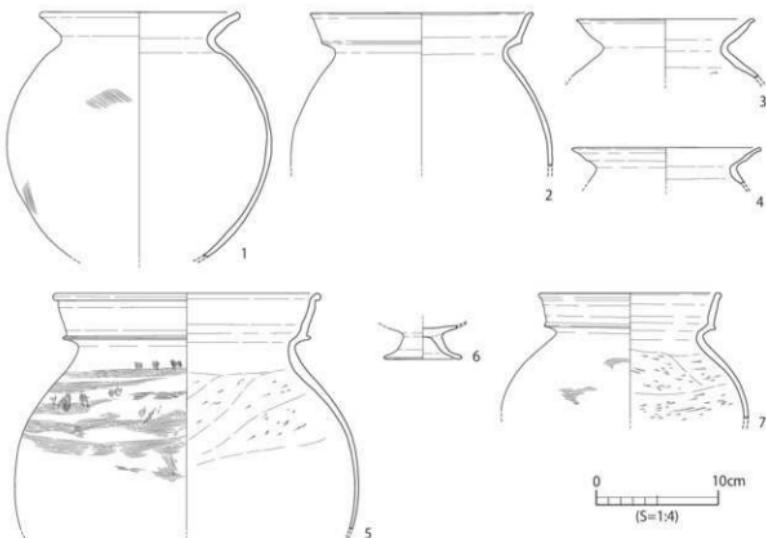
**土器群6（第78～81図）** 3区D9付近の1面から数cm掘り下げた面から検出した土器群である。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、遺物がまとまって出土した $5.6 \times 17.2\text{m}$ の範囲を土器溜まりとした。遺物は等高線と平行に北西から南東に帶状に出土し、下層からは明確な遺構は確認できなかった。地山が溝状に窪んでいる箇所にあたり、斜面上方から廃棄や流れ込みにより集まつた可能性



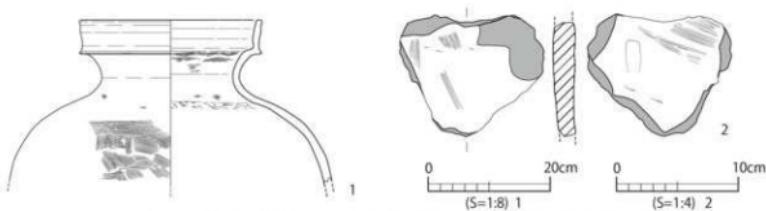
第72図 大国地頭所遺跡 土器群3・8 遺物出土状況 (S=1:40)

もある。遺物は弥生時代後期の土器や砥石等が出土した。

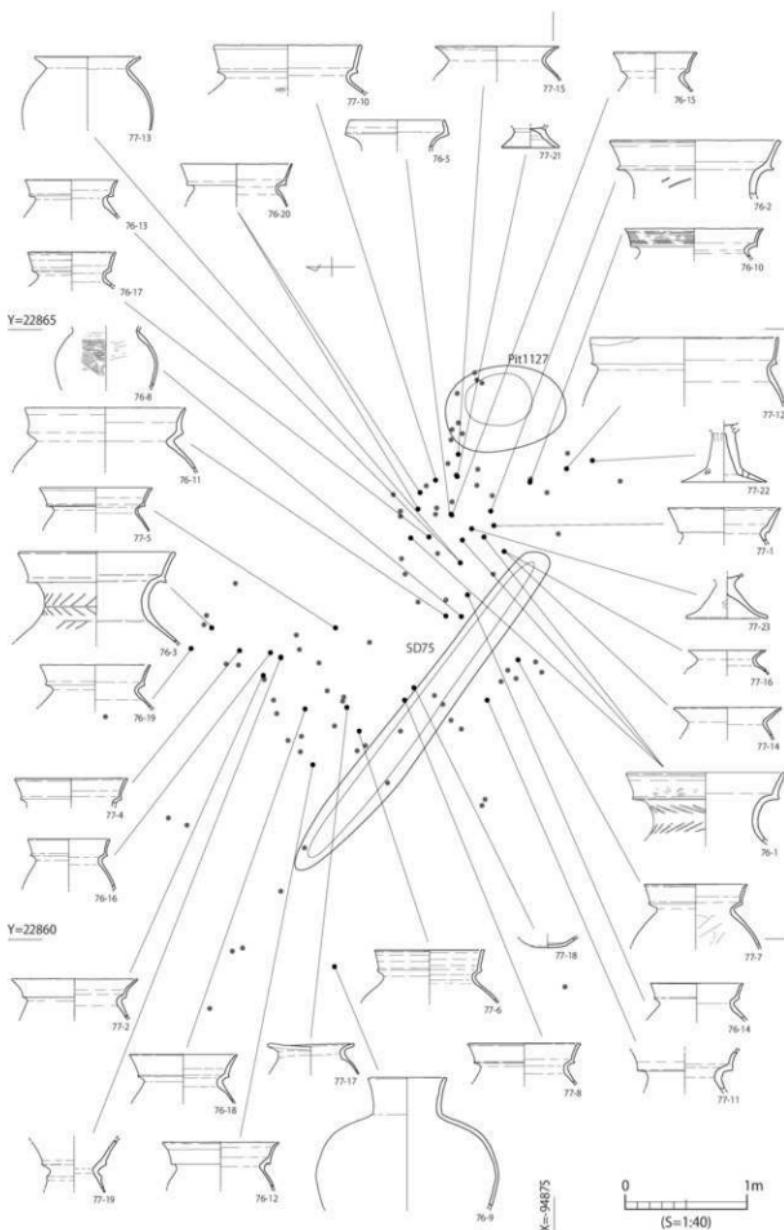
第79図1～8は壺である。直口で、口縁端部は平坦である。胎土は粗く、内外面風化が著しい。弥生時代後期の豊前から長門系の土器である。2～4は同一個体の可能性がある。口縁部は内傾し、屈曲部外面に刺突文がある。頸部下端と胴部下に低い突帯があり、胴部下突帯には刺突文がある。頸部から胴部の外面はハケ目で、色調が橙色である。下大隈式と考えられる。5～7は口縁部外面に擬凹線があり、端部は丸い。肩部はナデ肩である。草田3期か。8はやや大型で、器壁が厚い。第79図9～第80図18は甕である。9、10は口縁部幅が狭く、2条の四線がある。10は肩部に円形刺突文がある。IV様式。11～第80図10は口縁部外面に擬凹線あるいは沈線があり、端部が丸い。12～16の肩部には波長の間隔が短い波状文がある。17は肩部に貝殻により刺突文がある。第80図9は口縁部中位から端部にかけて外反し、肩部には平行直線文がある。草田3期か。第80図11は内外面風化し、調整等は不明で、擬凹線の有無は不明。12は口縁部が長く、器壁は厚い。肩部外面には直線文と3段以上の波状文がある。草田4期。13は肩部上段に波長の間隔が短い波状文、下



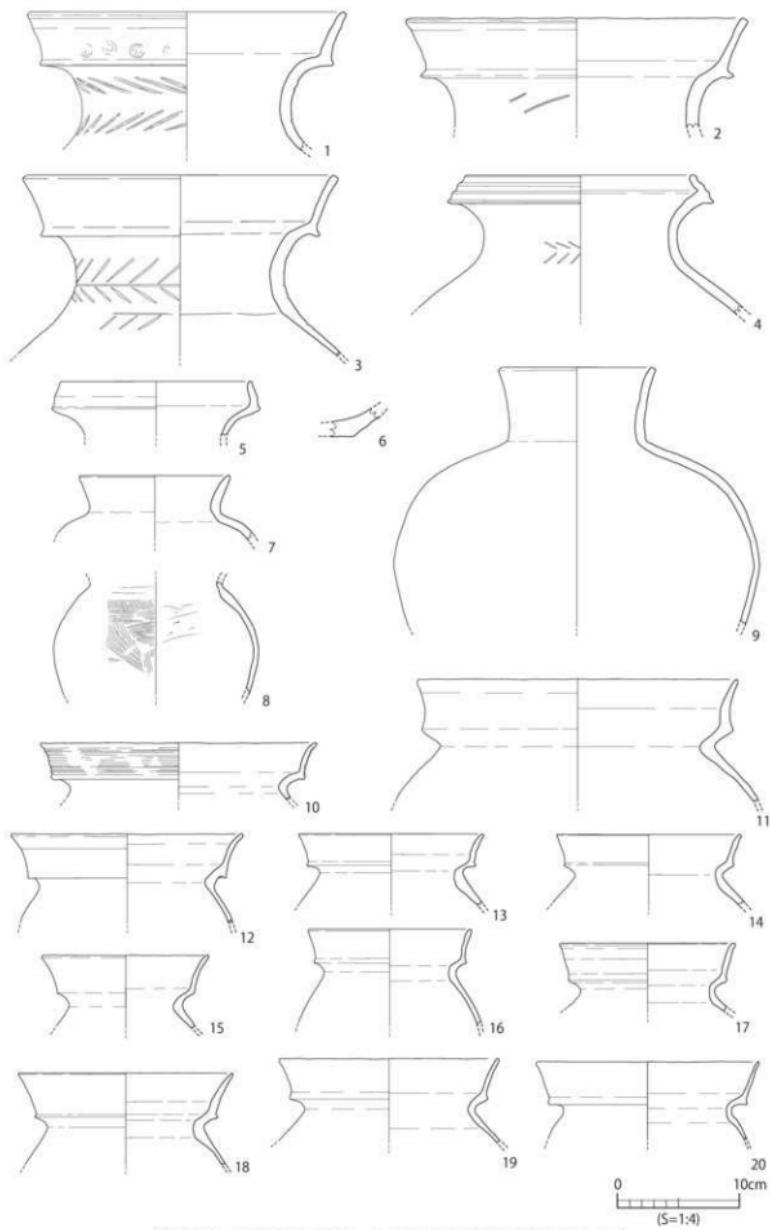
第73図 大国地頭所遺跡 土器群8出土遺物実測図 (S=1:4)



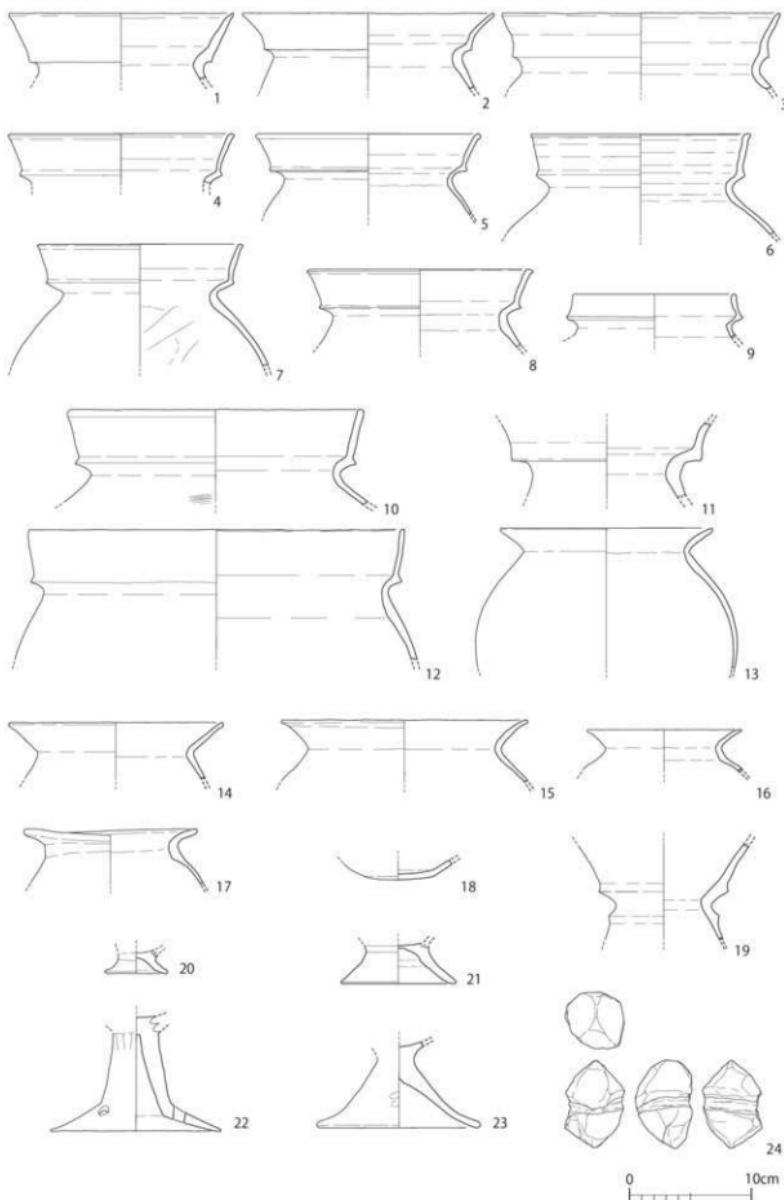
第74図 大国地頭所遺跡 土器群3出土遺物実測図 (S=1:4)



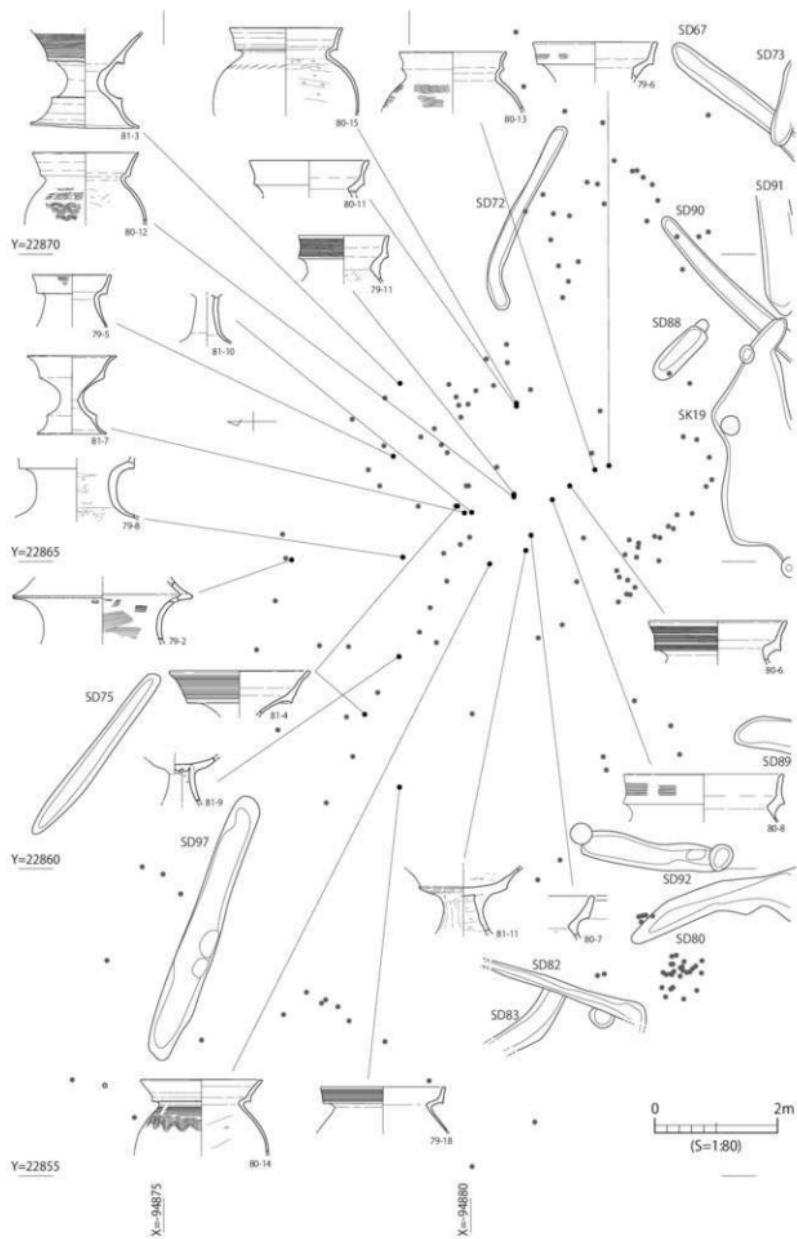
第75図 大国地頭所遺跡 土器群4 遺物出土状況 (S=1:40)



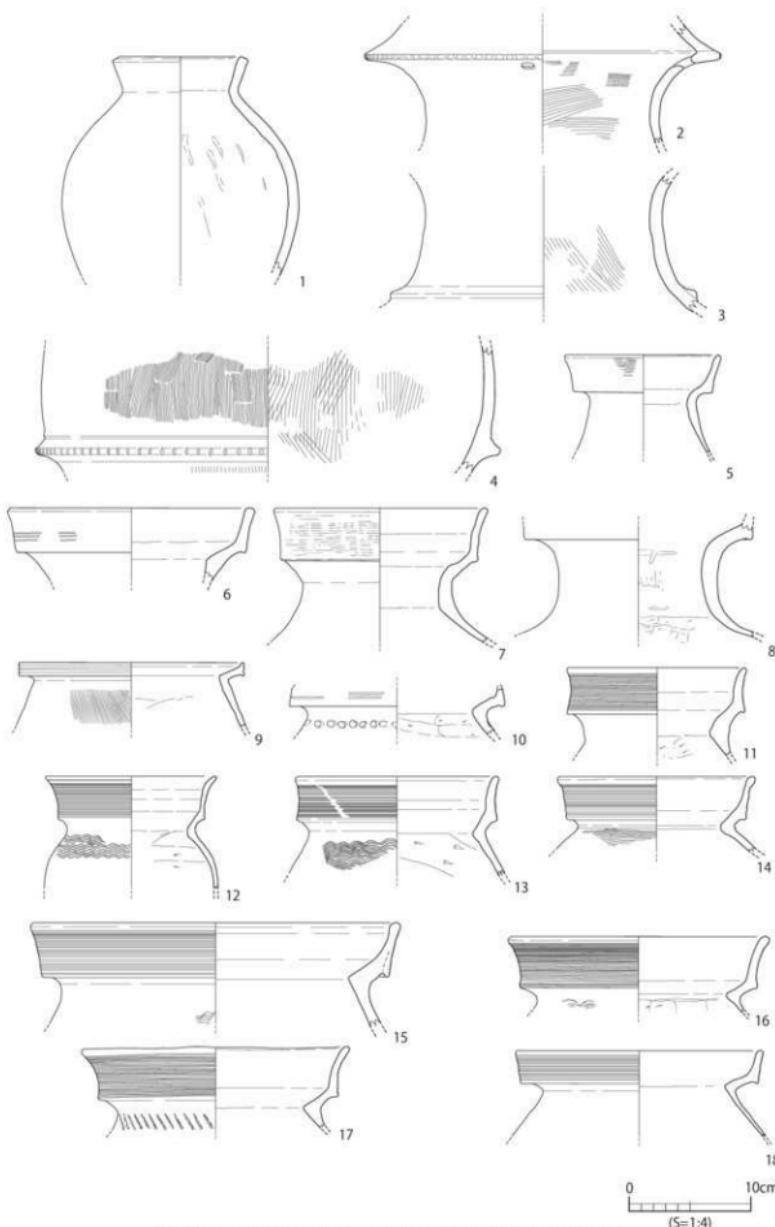
第76図 大国地頭所遺跡 土器群4 出土遺物実測図 1(S=1:4)



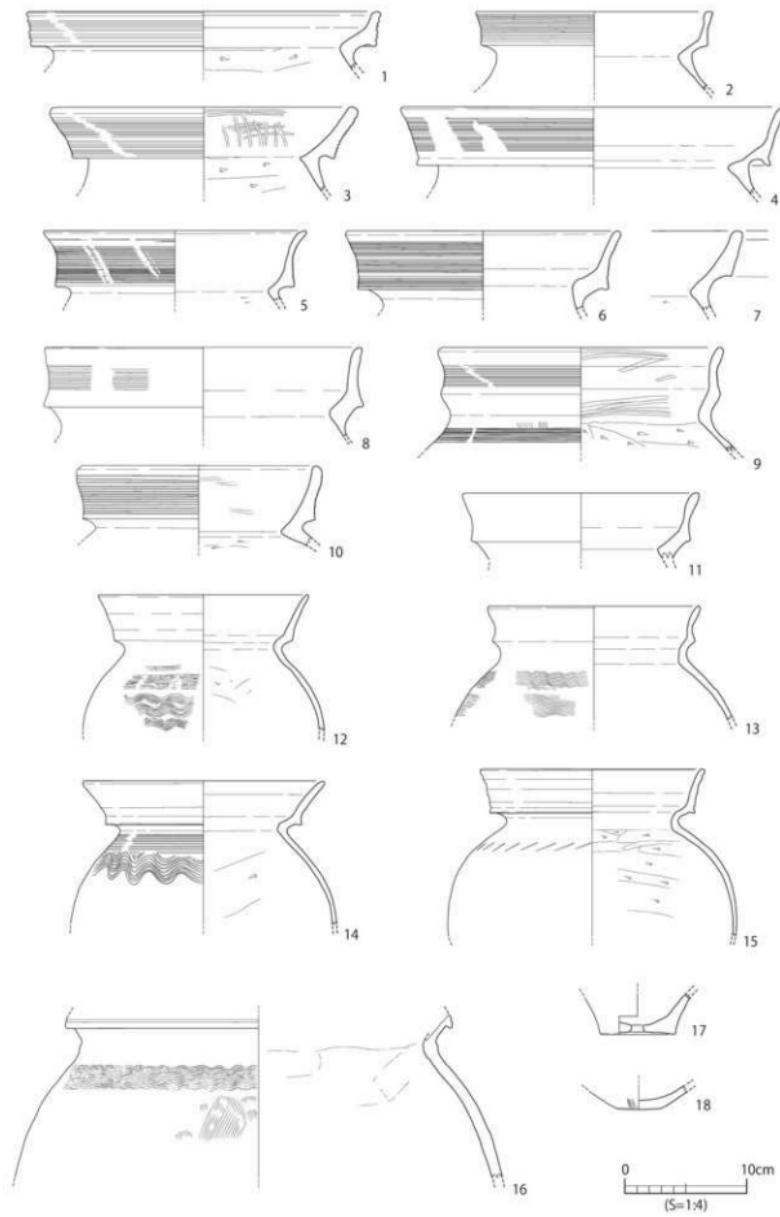
第77図 大国地頭所遺跡 土器群4出土遺物実測図2(S=1:4)



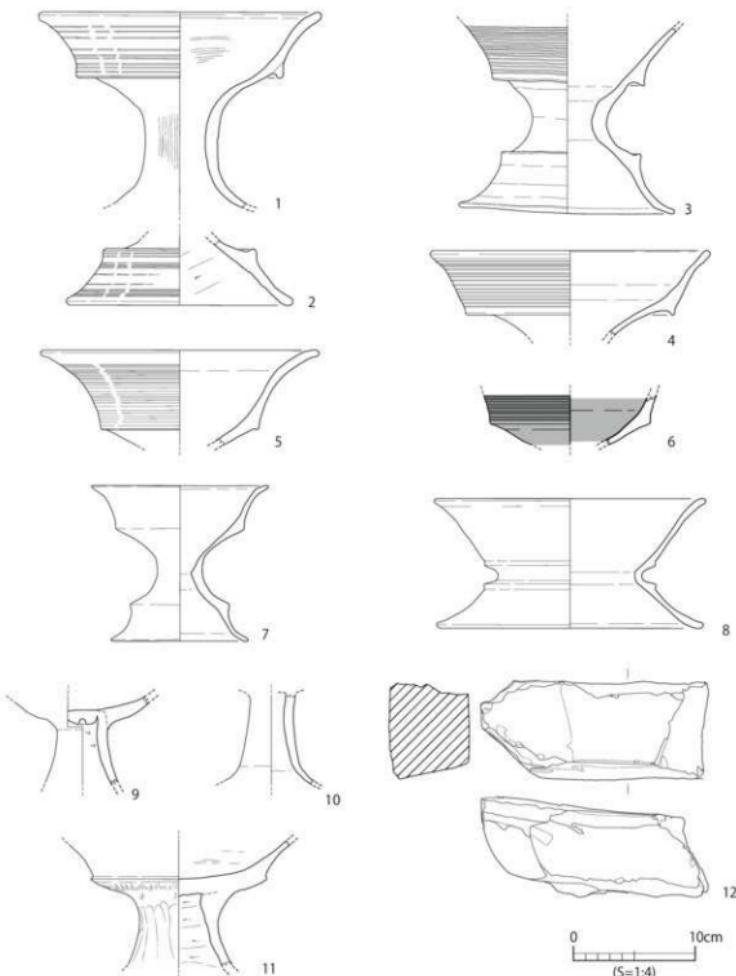
第78図 大国地頭所遺跡 土器群6 遺物出土状況 (S=1:80)



第79図 大国地頭所遺跡 土器群6 出土遺物実測図 1(S=1:4)



第80図 大国地頭所遺跡 土器群6 出土遺物実測図2(S=1:4)



第81図 大国地頭所遺跡 土器群6出土遺物実測図 3(S=1:4)

に直線文がある。14は口縁部がハの字に広がり、端部は先細りとなる。肩部にはしっかりした直線文と波長の間隔が短い波状文がある。外面に煤が付着する。15は口縁部が長く、端部は丸い。肩部に刺突文がある。16は器壁が厚く、壺の可能性もある。肩部に幅の広い波状文がある。17、18は甕底部である。17は平底で、僅かに上げ底になる。中央には径0.9cmの穿孔がある。18は僅かに底部があり、外面に煤が付着する。

第81図1～8は鼓形器台である。1、2は口縁部、筒部、脚部に接点はないが、同一個体の可能

性がある。口縁部及び脚部外面に擬凹線があり、長い筒部を持つ。草田3期。3の色調は白色系で、口縁部外面に擬凹線がある。脚部内面は端部に向かって広がる。4～6は口縁部に擬凹線があり、6の外面に赤色顔料がある。草田3期。7の器高は高いが、口径、底径とも小さい。8は扁平で、口径、底径は広い。筒部は高さが低い。9～11は高环である。9は环部と脚部の間の充填粘土に軸痕がある。草田5期以降。10の脚部は下半からハの字に広がる。11は焼成が良好である。环部の外面は丁寧なヨコナデで、外面の稜は明瞭である。段やアクセントではなく、滑らかである。脚部径は大きく、外面は縦方向のミガキか。非在地系か。12は磁石で、2面使用か。

**土器群7（第82～91図）** 1区E6～E2付近の1面から数cm掘り下げた面あるいは2面上面から検出した土器群である。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、遺物がまとまって出土した4.0×23.4mの帯状の範囲を土器溜まりとした。斜面の傾斜が緩やかになる箇所に位置し、下層地山上からは北西から南東に主軸を持つ、溝跡が検出されたが、関係は不明である。遺物は等高線と平行に帯状に出土し、住居跡からの出土ではなく、周辺集落からの廃棄、地滑りや流出による土器の溜まり、祭祀行為の廃棄などの可能性がある。遺物は弥生土器、土師器、土製品、須恵器等が出土した。北側は地山上の包含層が薄く、上層の古墳時代後期以降の遺物を土器群として取り上げていると考えられ、混入である。

第83図1～9は弥生時代中期の土器である。1～4は甌で、口縁部は短く、外面に凹線がある。1は胴部下半に刺突文がある。2の肩部に刺突の後3条の沈線を施す。胴部下半に刺突文がある。3は2条突帯の上に刺突文がある。5の高环は口縁部が垂直に立ち上がり、口縁部外面に縦方向の隆帯がある。6～9は高环である。6は9条の沈線の下に円形刺突がある。7は11条以上の凹線がある。8の脚部は長く風化しているが、外面に凹線があるか。器壁が厚い。9の脚端部には凹線がある。10～第84図13は壺である。10、11は接点がないが、同一個体の可能性がある。口縁部に竹管文、頸部に有軸羽状文、肩部に波状文、直線文がある。底部は丸底である。草田4期か。12の頸部は長く、沈線間に4段の波長の間隔が短い波状文がある。口縁部は短く、端部は丸い。13は頸部に2条突帯があり、頸部は大きく広がる。胎土は粗く、豊前から長門系の土器である。14は口縁部に竹管文、頸部に竹管文と羽状文がある。草田5期。15は口縁部端部が肥厚し、外反する。頸部には有軸羽状文がある。肩部に横方向のハケ目あるいは平行直線文がある。16は肩部に平行直線文と刺突文がある。17は口縁部が長く、器壁は厚い。口縁部下端の稜は明瞭である。第84図1～4は口縁部がハの字に広がる。3、4は口縁端部が肥厚し、3は頸部に1条突帯が、4は口縁部に円形浮文がある。小谷3期か。5は口縁部が長く、端部は丸い。口縁部がハの字に広がる。6～10、12は口縁部がくの字に内傾する。6の外面は粗いハケ目で、一部は横方向の沈線状を呈する。7は頸部に刺突文がある。9は口縁端部に平坦面を持つ。11の口縁部はハの字に広がり、器壁が厚い。口縁部下端の稜は横方向に伸びる。12は口縁部端部が肥厚し、上面は平坦である。肩部にはハケ目あるいは横方向の沈線がある。13は2段の羽状文があり、上段は有軸である。

第85図1～5は直口壺である。1は橙色で、口縁部は垂直に立ち上がる。頸部には低い突帯がある。2は口縁部端部が外反する。3は口縁部が長く、底部は丸底で、内面に指頭圧痕がある。内面はハラケズリで、器壁は薄い。底部外面に煤が付着する。4、5は緩やかに外反する。6～8は壺と考えられる。6は器壁が厚く、口縁部は垂直に立ち上がる。外面には波長の間隔が短い波状文がある。肩部には断面方形のしっかりした突帯がある。7の頸部は垂直に立ち上がり、頸部から口縁部にかけて水平に広がる。頸部にはしっかりした突帯がある。非在地系か。8は口縁部が内傾し、端部は平坦である。

肩部に断面方形の突帯がある。内面は黒色になる。6、8は山陰型壺の可能性もある。9は小型の壺である。二重口縁は短く、胴部は扁平である。胴部中央には径0.5cmの焼成前穿孔がある。10～第88図13は甕である。10～16は口縁部外面に擬凹線がある。12、13、15の肩部には波長の間隔が短い波状文がある。14の口縁部は端部が外反する。16の口縁部は長く、端部が丸い。口縁部外面に16条以上の擬凹線があり、肩部に1周しない沈線の上下に貝殻による刺突文がある。17～19は口縁部が長く外反する。18の肩部に直線文がある。第86図1～8は口縁部が長く、外反する。1は肩部に直線文と刺突文がある。4の口縁部中位にアクセントがある。5の胴部は球体で、胎土の白色粘土を含む。8の口縁部は肥厚し、肩部に波状文があり、胴部はハケ目である。器壁は薄く、胴部外面に煤が付着する。9の口縁部は垂直に立ち上がり、端部は丸い。13は肩部と胴部に直線文がある。口縁部は強いナデで、一部擬凹線が見える箇所がある。外面に煤が付着する。14の肩部に波長の間隔が長い波状文がある。15は口縁部が長く、端部が肥厚する。

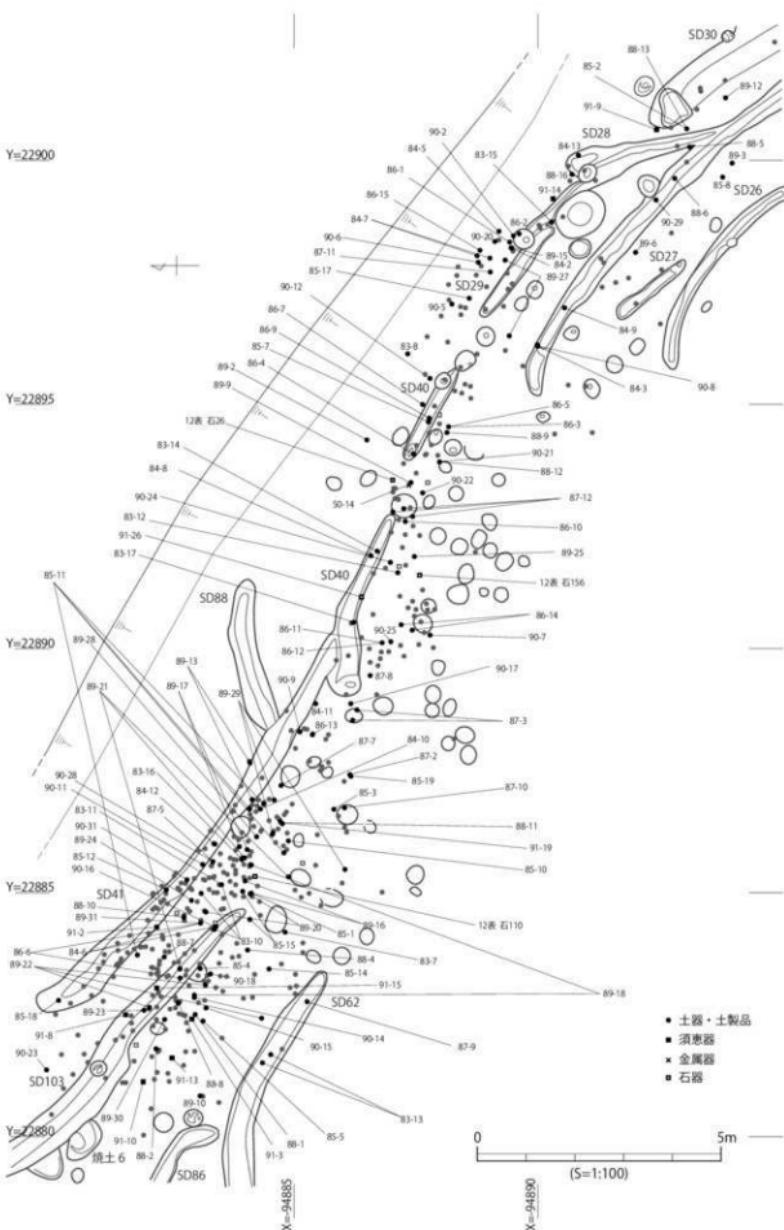
第87図1は大型で、口縁部が長く、端部は平坦である。胴部外面下半には煤が付着する。草田5期。2は口縁部が外反し、器壁が厚い。底部は丸底で、内面に指頭圧痕がある。3は口縁部が長く、端部は肥厚する。胴部下半から底部の内面は指頭圧痕がある。小谷2期。4、5は口縁部が長く、端部が外側に肥厚する。頸部は短く、内面ケズリ範囲が胴部側に寄る。小谷3期か。6は二重口縁が退化し、受け部は痕跡化している。口縁部端部が外反し、器壁は厚い。古墳時代中期か。7～第88図13はくの字口縁の甕である。7～12は口縁部が長く、端部は10以外丸い。12の胎土には白色粘土を含む。外面は煤が付着する。第88図1は長い口縁部がハの字に広がり、端部は丸い。2の口縁部は短く、端部は丸い。底部は丸底である。胴部下半内面には黒色物が付着する。3の内面のケズリは胴部側に寄る。5の口縁部は長く、端部は丸い。胴部外面は縦方向のハケ目である。6の口縁端部は平坦である。9、10の口縁端部は肥厚する。11の口縁端部は上方に摘まみ上げる。14～16は注口である。14は短く、15、16は長く直線的である。

第89図1～6は甕底部である。1は底径が6.2cmあり、大型の平底である。弥生時代中期か。2は凹み底である。底部周辺に指頭圧痕がある。4の底部外面に粒の圧痕がある。5の外面は中央部が凹み、内面は一段凹む。内面はハケ目である。6は突出する底部で、丸みを持つ。7は脚付鉢と考えられる。脚部は欠損するが、精製な胎土である。口縁部は長く、端部は丸い。外面に煤が付着する。草田5～6期。8～15は壺である。8は丸底で、口縁部端部は平坦で、中央が凹む。外外面に赤色顔料があるか。蓋の可能性もある。9は丸底で、口縁部が外反する。10は平底で、口縁部は内湾しながら立ち上がる。11は平底で、口縁部外面に指頭圧痕があり、端部が外反する。12は外外面に指頭圧痕がある。13は丸底で、湾曲しながら立ち上がる。外外面風化し調整不明。14は無頸壺の可能性もある。口縁部は僅かに立ち上がり、端部は丸い。波状口縁の可能性がある。底部は僅かに平底である。内面の調整は粗く、板状工具でナデているか。15は内傾する口縁部を持ち、胴部で底部に向け屈曲する。胴部下半に煤が付着する。草田5期ぐらいまでか。16～28は鼓形器台である。16、17は内外面風化し、器壁が薄い。口径は大きく、口縁部は広がる。18、19はやや小型で、筒部が高さはないが、幅はある。21の胎土に白色粘土を含む。16～24は草田5期。25は口縁部が大きく外反する。筒部の高さはさらに低くなる。26は脚部に1箇所穿孔がある。脚部端部の内面はナデで、筒部の高さは低い。草田6期以降。27、28の脚径は広く、筒部の高さは低い。27は口縁部の可能性もある。草田6期。29～31は器台である。29の口縁部はハの字に広がり、内面はハケ目である。頸部は器

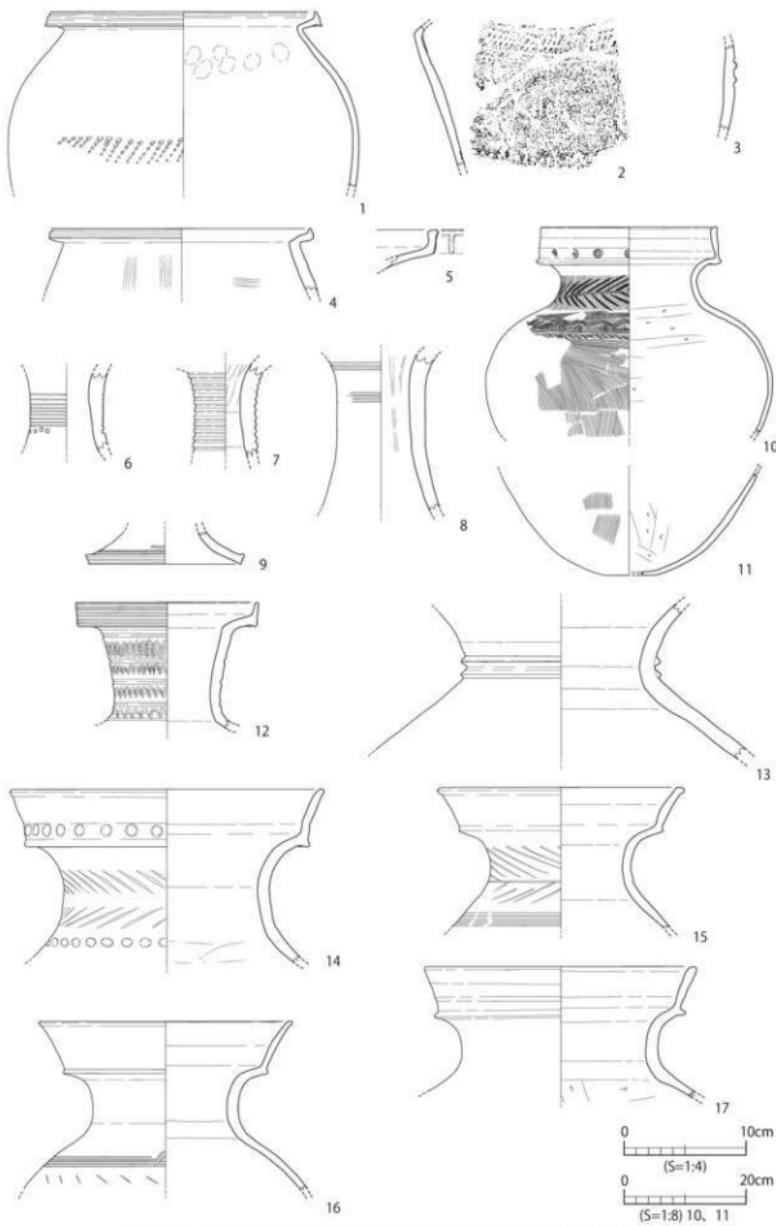
壁が厚く、垂直気味に立ち上がる。脚部は一旦外に広がり、端部に向け外反しながら広がる。30は器壁が薄く、脚部に復元で4方向に円形の穿孔がある。頸部は口縁部に向け大きく外反し、口縁部は立ち上がる。頸部内面に色調が白色になる箇所があり、もとは充填粘土があり剥離した痕跡とも考えられ高环の可能性もある。环部と脚部で色調が異なり、使用する粘土を変えている可能性がある。31は口縁部と脚部が外反する。脚部外面は斜め方向のハケ目、口縁部はヨコナデである。松江市草田遺跡から類似品が出土している。

第90図1～15は低脚環である。1～3は大型で、环部が内湾しながら立ち上がる。草田5期。4は口縁部がハの字形に広がる。胎土に白色粘土を含む。蓋の可能性がある。5、6は中型である。8、9、11の环部は口縁部が内湾しながら立ち上がる。10は环部が剥離し、脚部上方は接合痕である。中央が丸く突出している。12は口縁部がハの字に広がり、环部と接合する脚部は直径が小さい。13の环部は水平に広がり、途中から上方に立ち上がる。器壁が厚い。14は精良な胎土である。大きく広がる脚部には4箇所の円形の穿孔がある。口縁部は湾曲しながら立ち上がる。庄内系と考えられる。草田6期以降か。15は大きく広がる脚部で、器壁が薄い。16～31は高环である。16は环部底部と口縁部の境に稜があり、口縁部はさらに外反する。17は环部底部と口縁部の境にアクセントはなくなだらかに繋がる。草田6期以降か。18は大型で、内湾する口縁部を持ち、端部は外反する。草田5期。19は大型で、口縁部は滑らかに端部に向かい、胴部は外反する。充填粘土に径0.8cm程度の軸痕がある。20の脚部は途中から広がる。脚部内面はヘラケズリ、ハケ目であるが、工具端を止めて刺突文状にしている。环部の底部は平坦である。充填粘土に軸痕がある。21は脚部径が大きく、脚端部はハの字に広がる。充填粘土には新旧2個の軸痕がある。22は脚端部がハの字に広がり、3方向に円形の穿孔がある。草田6期。23は精製な胎土で、脚部に3方向に円形の穿孔がある。脚部はミガキの単位で面取り状となる。4方向に円形の穿孔がある。24の脚部には円形の穿孔がある。26の脚端部は平坦で、断面三角形を呈する。环部底部と口縁部の境にアクセントがある。27の脚端部は屈曲している。28の脚部は短く、器壁は厚い。29の脚端部は外反し、脚部の器壁が厚い。古墳時代後期以降の混入か。31の口縁部は垂直に立ち上がり、端部が外反する。後期末の豊前から長門系の土器である。32は瓶の把手の可能性がある。断面梢円形で、壁面に挿入して接合している。縦耳か横耳かは不明。

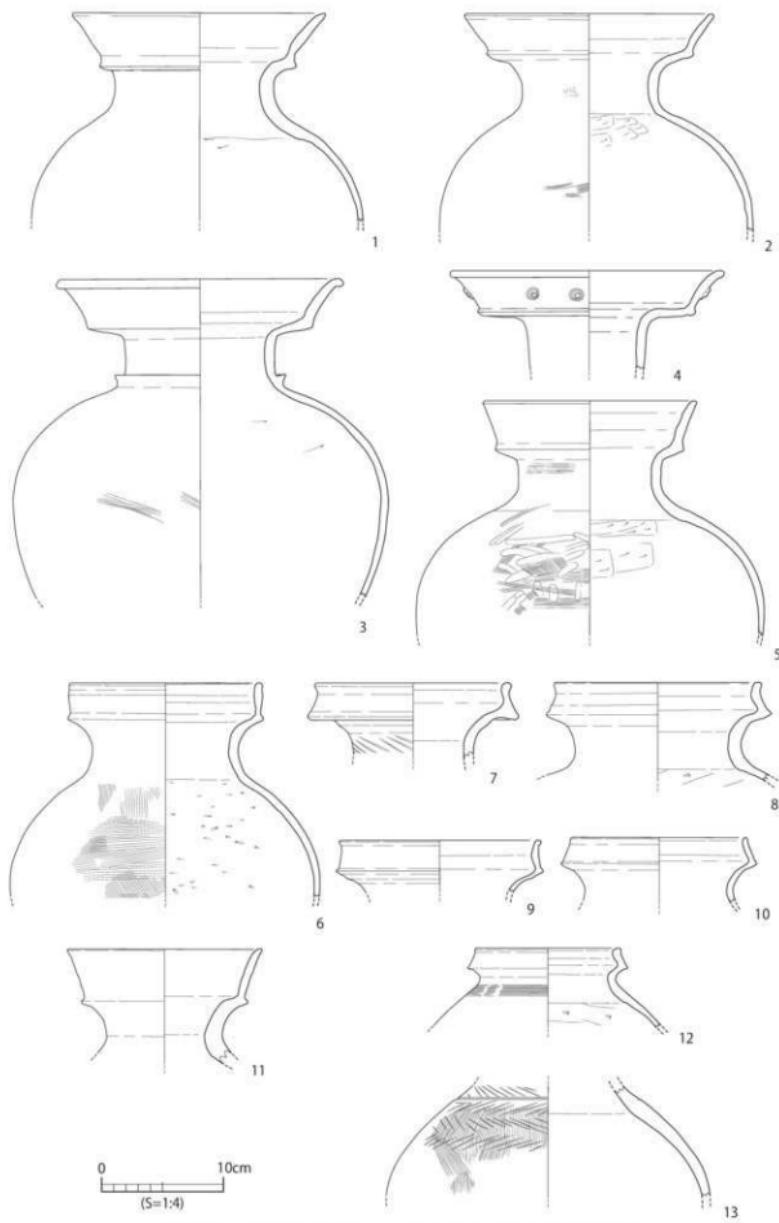
第91図1～17は須恵器で、上層の包含層と明確に区別できず、土器群として取り上げたが、混入と考えられる。1～5は环蓋である。1は外面に明瞭な稜があり、口縁端部には段を持つ。立ち上がりは高い。2、3は环身の可能性がある。口縁部が強くナデられ、凹む。4は軟質な胎土で、口縁端部は斜めになる。5の天井部には3本のヘラ記号がある。6～8は环身である。6の口縁部の立ち上がりは高く、口径はもう少し大きい可能性がある。7は底部が広く平坦で、底部内面にタタキ痕がある。内外面に自然軸の付着のためか光沢がある。8は小型で、底部はナデ調整。石見5～6A期。9～12は高环である。9の环口縁部は歪み、垂直気味に立ち上がる。透かしはない。11の脚部は短く、透かしはない。环部外面にはカキ目がある。12の脚部は細い。13は壺の肩部の可能性がある。沈線があり、外面に自然軸が付着する。14～17は甕である。14の口縁部は断面三角形で、沈線と波状文がある。15、16の口縁部は玉縁状に肥厚する。17の甕肩部外面は平行タタキ後カキ目、内面は同心円タタキがある。18～20は断面方形の把手と考えられる。先端が窄まる弓状を呈し、上面に羽状文があり、下面是無文である。上面には厚さ1.2cm程度、下面には厚さ3cm程度の器壁に挿入されていたと考えられる剥離面がある。明確な器形は不明。



第 82 図 大国地頭所遺跡 土器群 7 遺物出土状況 (S=1:100)



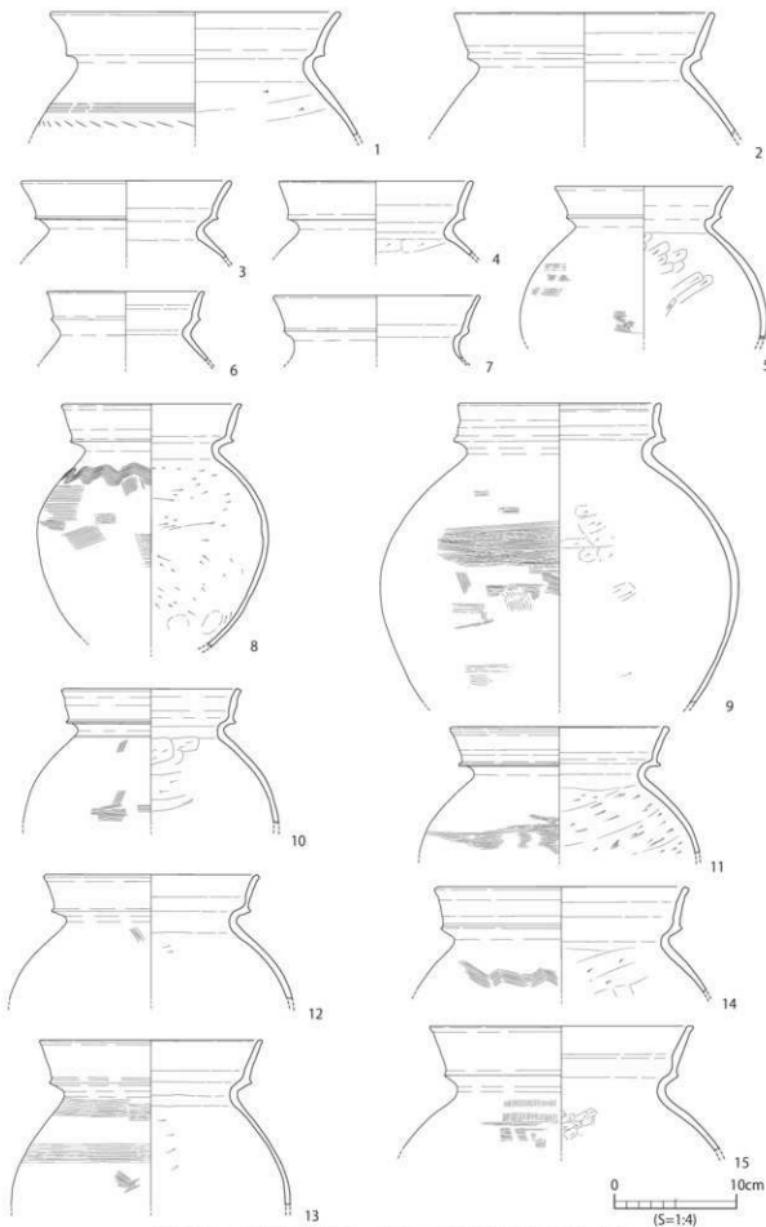
第83図 大国地頭所遺跡 土器群7出土物実測図 1(S=1:4)(S=1:8)



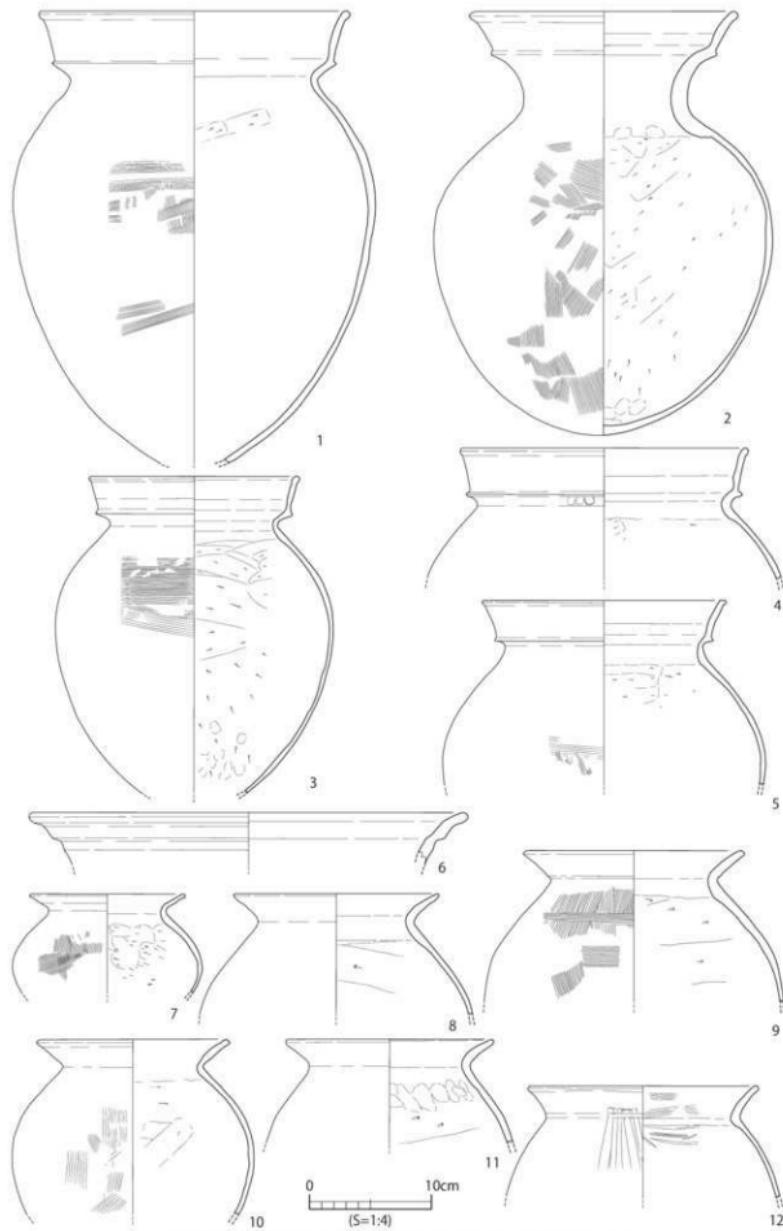
第84図 大国地頭所遺跡 土器群7 出土遺物実測図 2(S=1:4)



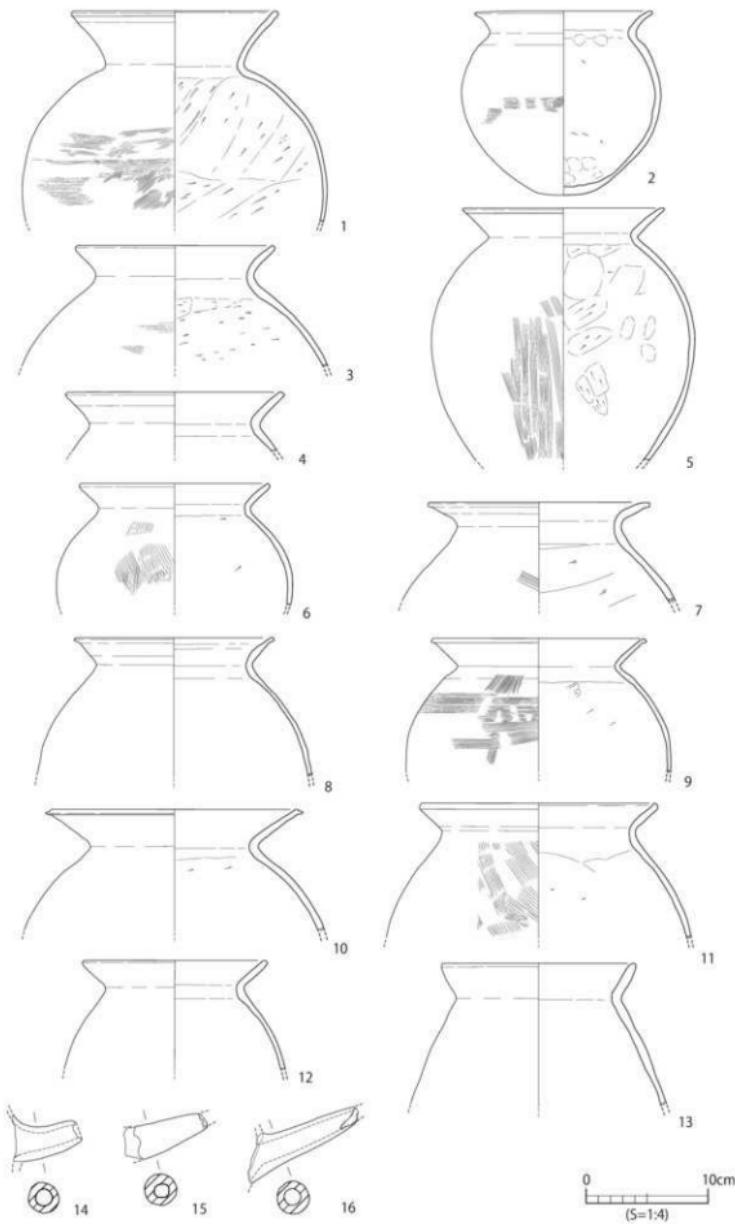
第85図 大国地頭所遺跡 土器群7 出土遺物実測図3(S=1:4)



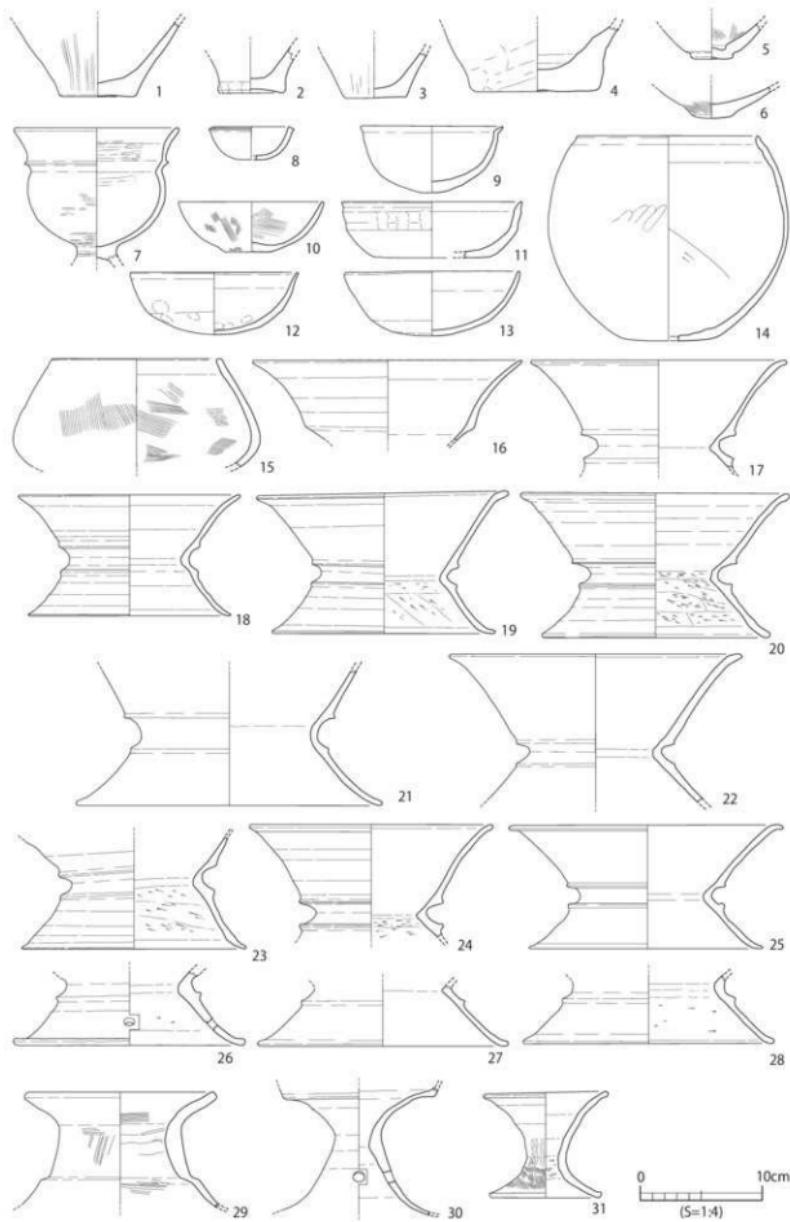
第86図 大国地頭所遺跡 土器群7出土遺物実測図 4(S=1:4)



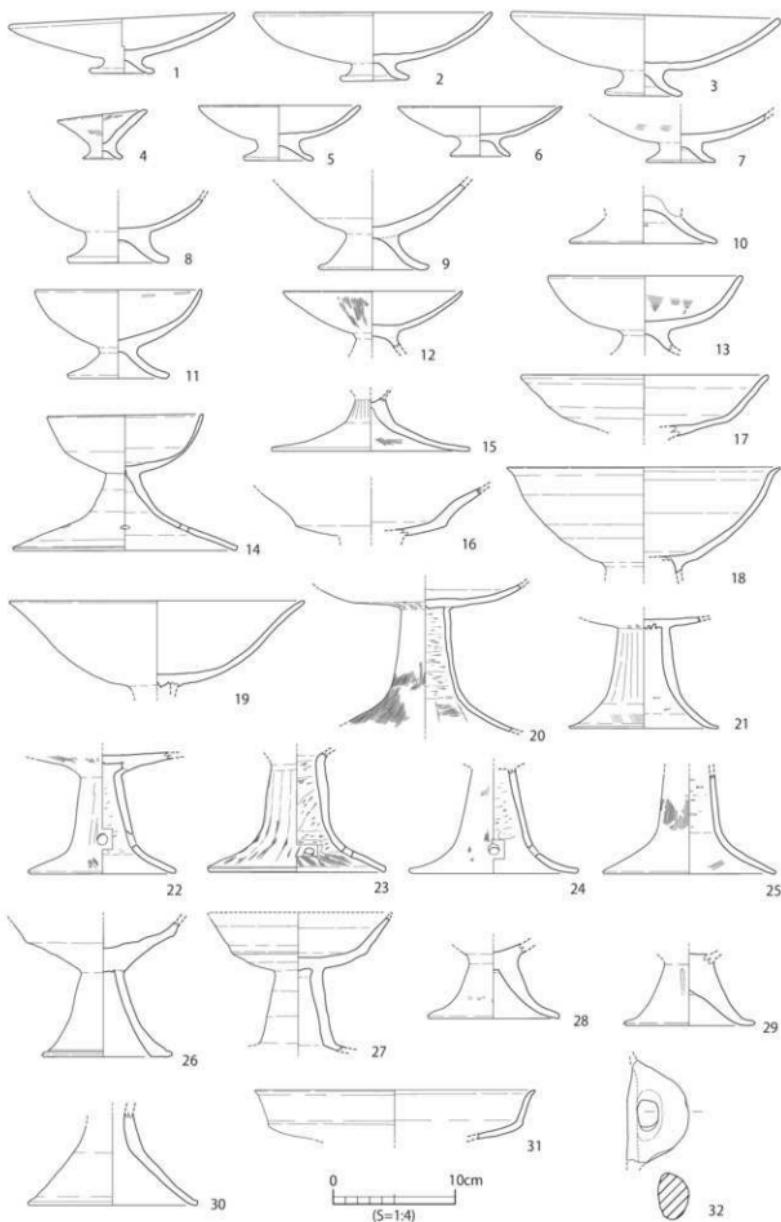
第87図 大国地頭所遺跡 土器群7 出土遺物実測図 5(S=1:4)



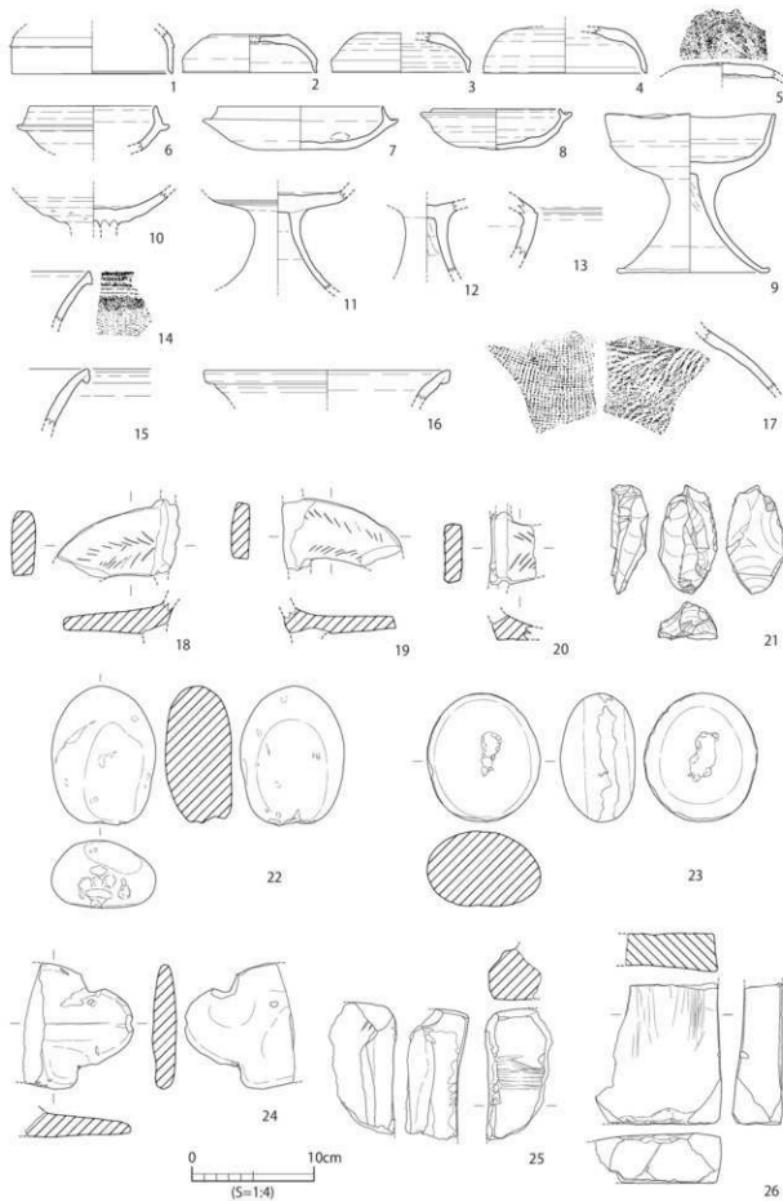
第88図 大国地頭所遺跡 土器群7出土遺物実測図 6(S=1:4)



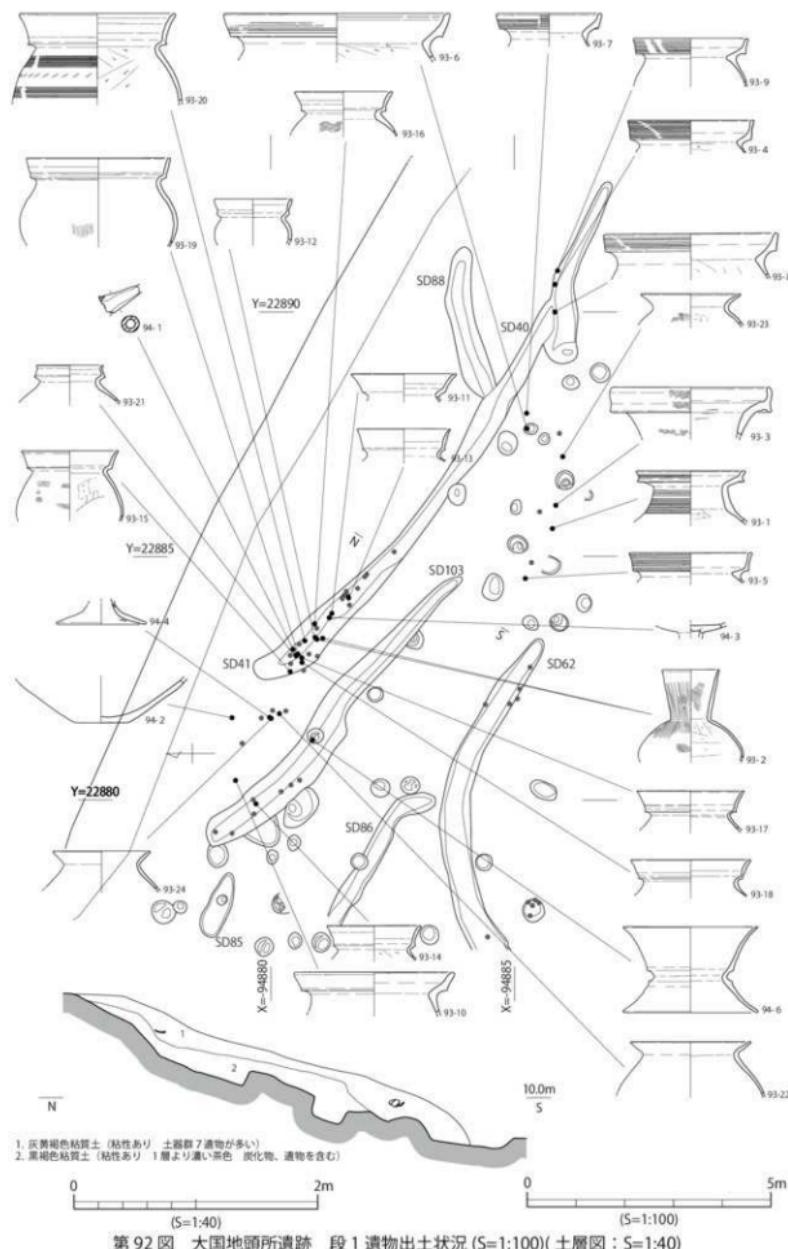
第89図 大国地頭所遺跡 土器群7 出土遺物実測図 7(S=1:4)

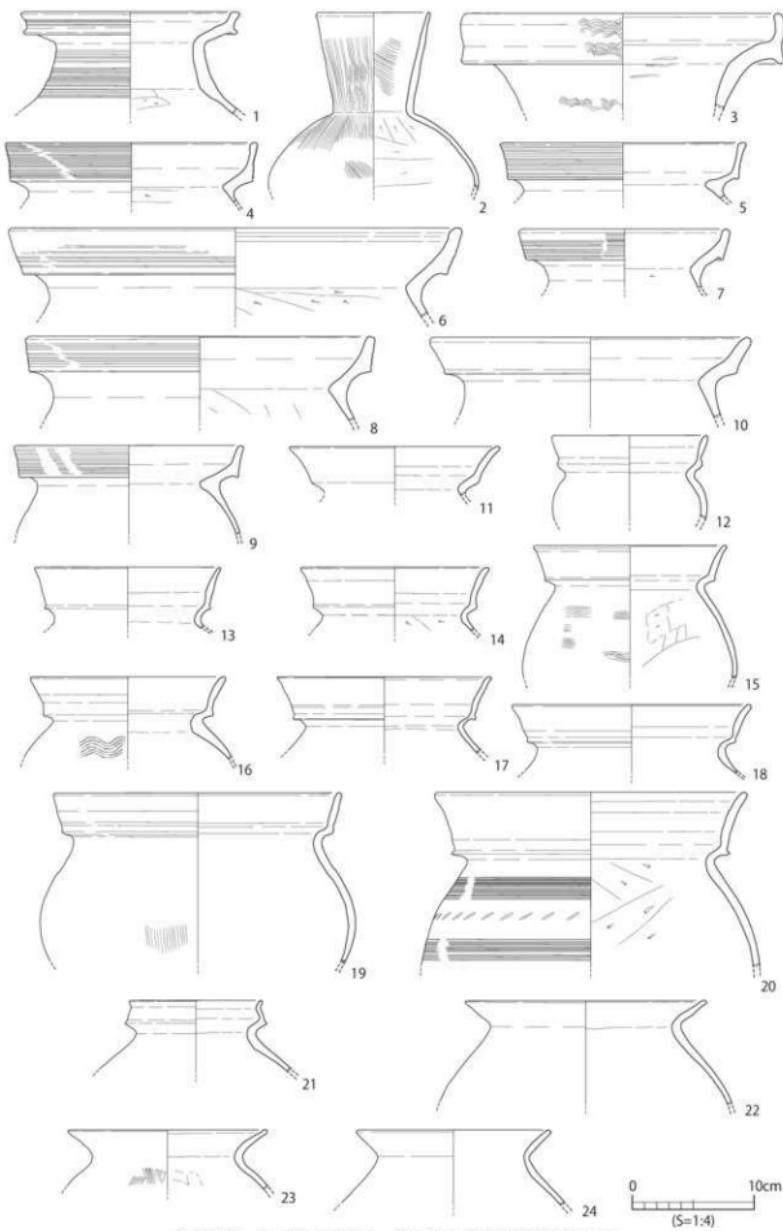


第90図 大国地頭所遺跡 土器群7出土遺物実測図 8(S=1:4)



第91図 大国地頭所遺跡 土器群7 出土遺物実測図 9(S=1:4)





第93図 大国地頭所遺跡 段1出土遺物実測図 1(S=1:4)

21～26は石器である。21は石核、22、23は敲石である。22、23は表面に敲打痕と摩滅痕もあり、磨石としても使用されている。24は石錘で、3箇所に抉りがあり、中央に浅い溝がある。25、26は砥石である。25は表面に横方向の溝状の痕跡がある。26は使用面が凹み、擦痕がある。右側面と使用面の角は溝状になり、分割するときの痕跡の可能性がある。表面には煤が付着する。

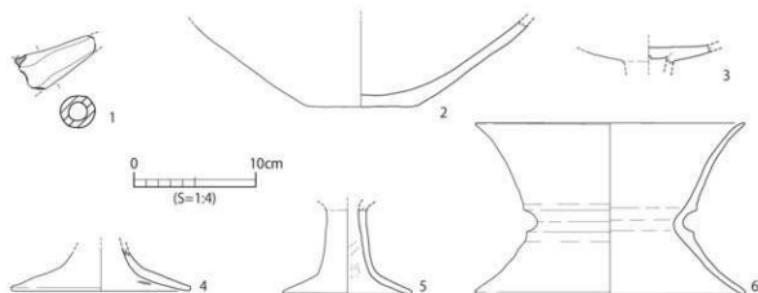
段1（第92～94図）1区E7付近の土器群7の下層から検出した土器群である。明確な掘り込み等の遺構は検出できず、土器を取り除くと、SD40、SD41やSD103があり、それらの溝に伴う遺物も含まれている可能性がある。遺物は弥生時代後期から古墳時代前期の土器等が出土したが、土器群7と明確な時期差ではなく、同一の土器群と考えることもできる。土器群7の最下層と位置付けられる。

第93図1は壺で、口縁部に3条の擬四線があり、端部は平坦である。頸部に四線があり、胴部に向け広がる。草田3期。2は直口壺で、肩部は張り、屈曲して底部に向かう。口縁部外面はミガキ、内面はハケ目である。草田7期。3～21は甕である。3の口縁端部は内湾し、口縁部外面に2段、頸部に1段の波長の間隔の狭い波状文がある。4～9は口縁部外面に擬四線がある。4、5は同一個体の可能性もある。草田3期。6は口径37cmを測る大型品である。口縁端部内面に浅い1条凹線がある。10、11は口縁部が開く。13～16の口縁部は長い。15は草田6期。17の口縁端部は平坦である。20の口縁部は長く、口縁部下端の稜は横方向に明瞭である。胴部に2段の直線文とその間に刺突文がある。21は内湾する口縁部を持ち、端部が外反する。胎土に白色粘土を含む。草田6期以降。22～24はくの字口縁の甕である。22、23は口縁端部内面が僅かに凹む。24は口縁端部が平坦である。

第94図1は注口土器で、直線的で長い。草田5期か。2の甕底部は広い平底。3～5は高杯である。充填粘土に軸痕がある。草田5期以降。4の脚部はハの字に広がる。5の脚部は端部のみハの字に広がる。6は鼓形器台である。無文で、筒部の幅は広い。草田5期。

### 3. 包含層出土の遺物

大国地頭所遺跡からは弥生後期から古墳時代前期の土器を中心にコンテナ約230箱が出土した。遺構に伴う遺物は107箱でそれ以外は包含層からの出土である。包含層からの遺物についても土器群からの出土が考えられるものもある。本来なら第1面上層の包含層と第2面上層の包含層である第1面の基盤層に分けて、集計すべきであるが、調査区やグリッドにより、明確に区別できない箇所が多く、今回は両方をあわせて包含層出土遺物とした。報告では、弥生土器、古墳時代から古代の



第94図 大国地頭所遺跡 段1出土遺物実測図 2(S=1:4)

土師器、土製品、須恵器、陶磁器、石器、木製品、金属器に分類した。なお、木製品と金属器については、第1面に伴うものが多いため、前述した（第49・50図）。

**弥生土器・土師器** 第95図1は装飾壺である。2条突帯の間に逆C字の刺突文、底部側に逆C字の刺突文、口縁部側に沈線とC字の刺突文がある。2は壺の可能性がある。くの字に屈曲し、屈曲部に刺突が入る。明褐色で、非在地系と考えられる。3、4は小型の壺である。3の口縁部外面には稜があり、胴部も屈曲する。器壁は厚く、丸底である。4は山陰型直口壺か。長く器壁の薄い口縁部を持ち、胴部は屈曲する。胴部内面はヘラケズリである。小谷2～3期。5～12は壺である。5は単純口縁で、口縁部は外反し、頸部には刺突を持つ突帯がある。内外面ハケ目で、豊前から長門系の土器である。6は直線的な頸部を持ち、胴部との境に突帯がある。形態的に豊前から長門系の土器である。7は頸部に断面三角形の突帯がある。8の口縁部は短く、擬凹線がある。頸部は長く、無文である。9の口縁部は短く、頸部の器壁は厚い。10の口縁部は長く、端部は丸い。11の口縁部外面に8条の擬凹線がある。12の口縁部外面に竹管文、頸部に羽状文、竹管文、有軸羽状文がある。口縁部は長く、端部は丸い。草田5期。13～16は直口壺である。13の口縁部は垂直気味に立ち上がり、端部は平坦である。14の口縁部はやや外反し、端部は丸い。肩部に直線文がある。15の口縁部はやや外反し、肩部に直線文と刺突文がある。底部は丸底である。16の口縁部は外反する。

17～第96図7は甕である。17の口縁部は短く、器壁が厚い。肩部に2段の刺突文がある。18の口縁部に3条の凹線が、肩部に刺突後、沈線を3条入れる。19の肩部に刺突後、4条の沈線を入れる。18、19は弥生時代中期。20の口縁部は垂直に立ち上がり、端部が丸く肥厚する。21は内外面に赤色顔料（水銀朱）がある。第96図2の口縁部は長く、端部は丸い。肩部に直線文がある。胴部内面に指頭圧痕がある。3の口縁部は強いヨコナデで、肩部に刺突文がある。胴部には直線文があるように見えるがハケ目か。底部は僅かにある。4の口縁部は長く、胎土に白色粘土を含む。5～7の口縁部端部は平坦である。6、7は胴部に直線文がある。草田6～7期。8～11はくの字口縁の甕である。8は口縁部の器壁が厚く、外反する。底部は平底である。9の口縁部は緩やかに外反し、外面及び口縁部内面に赤色顔料がある。10の口縁部は短く、端部は平坦である。外面には多量の煤が付着する。底部は丸底である。小谷2期か。11の口縁部は退化した稜がある。胴部外面に煤が付着し、被熱痕がある。古墳時代中期か。

第97図1～3は把手と考えられる。1、2は断面円形で、調整が丁寧なことから注口土器の把手の可能性がある。1は煤が付着する。3は円形突起状を呈し、表面は指頭圧痕で整えられている。内面（底面）は平らである。4～9は底部である。4は壺の可能性があり、貼り付け高台である。5は高台を持ち、器壁が厚い。6は底部端が僅かに接地し、高台状になる。7は大型で、平底である。内外面に指頭圧痕がある。8の底部は突出し、厚みがある。底部の平面形は梢円形である。9は大型で、平底である。内面はヘラケズリである。10は鉢である。口縁部がハの字に広がり、胴部は内湾し、平底である。11～14は鼓形器台である。11、12は大型で、口縁部に擬凹線がある。13、14は小型で、脚部に擬凹線がある。12、14は外面に赤色顔料がある。15～17は器台である。15は口縁部と頸部の境には段がある。16の器形は鼓形器台に類似する。口縁部及び脚部に擬凹線がある。17の脚部は内湾しながら端部に至る。底部中央には径0.5cm程度の穿孔がある。内面は黒色を呈する。詳細な時期は不明。18～23は低脚壺である。18の口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部が肥厚する。脚部はハの字に広がり、外面に逆C字の刺突がある。19の口縁部は内湾ながら立ち上

がり、器壁は薄い。草田3期か。20、21は大型で、21の脚部は大きく外反する。22は脚部が高い。23は环部が内湾し、脚付壺の可能性がある。24は製塙土器で、外面に指頭圧痕がある。内面は黒色を呈する。低脚環の可能性がある。25～31は高环である。25の脚は低脚で、脚端部が外反する。环部内面は一部黒色になる。26、27は湾曲しながら立ち上がり、口縁部がさらに外反する。充填粘土に軸痕がある。26の脚部は直線的で、端部がハの字に広がる。27は内面に煤が付着する。28の环部は丸みを持つ。29は大型で、环部に段ではなく、口縁部は外反する。中央に径1cm程度、その横に径0.3cm程度の穿孔があり、その周囲に环底部からの非貫通孔がある。口縁端部内外面に煤が付着し、蓋として再利用された可能性がある。草田5期。30は大型で、环部の外面の段が明瞭である。脚部は太く、安来市塩津山1号墳第5主体の出土高环と類似する。小谷3期か。环部内面に煤が付着し、蓋として再利用した可能性がある。31の口縁部は内湾しながら立ち上がる。脚部はなだらかに開く。

**土製品** 第98図1～4は山陰型壺と考えられる。1は直口の口縁部に突帯が廻る。突帯下からやや広がり胴部に至る。胴部上方には断面楕円形の横方向の把手が2方向に付く。2は口縁部、3は突帯と考えられる。内面は灰色を呈する。4は口縁部を欠損しているが、全体がほぼ復元できる。口縁部から広がった胴部の上方に横方向の、下方に縱方向の把手が2方向に付く。内面は灰色を呈する。5は軟質土器で、外面に格子目タタキ痕がある。胎土はサンドイッチ状に中央の色が濃くなる。朝鮮半島系あるいは、焼成の悪い須恵器とも考えられる。6以降は古墳時代後期から古代の土師器である。6は短頸壺の可能性がある。直口の口縁部を持ち、外面に赤色顔料がある。7は皿である。口縁部は短く、端部は内側に巻き込む。全面に赤色顔料がある。8～12は土師器杯である。口縁部が内湾しながら立ち上がり、端部が外反するものある。13～15は手捏ね土器である。13は平底で、口縁部は垂直に立ち上がる。14、15の器壁は薄く、口縁部は外反する。丸底。16は高环と考えられ、口縁部は内湾しながら立ち上がる。17は低脚環。脚部は短く、口縁端部は外反する。18は甌で、胴部下半に最大径を持ち、下ふくれである。19は壺と考えられる。20～第99図1は土製支脚である。20、21は2方突起の小型品で、突起が退化し、凹み状を呈する。胴部に貫通孔がある。22、第99図1は2方突起の大型品で、突起は退化し、突起は凹み状を呈する。胴部に22は貫通孔、第99図1は非貫通孔があり、底部は凹む。第99図2、3は移動式竈である。3は口縁部が外反し、焚き口は直線的である。底部は平坦で、両側に肥厚する。庇部は剥離している。4は管状土錘で、小口は平坦である。5は平面形が円形で、断面台形を呈する。中央に頂部からと底部からの径0.4cm程度の孔が開くが、貫通していたかは不明。紡錘車の可能性がある。6以降は古代末から中世の环皿である。6～9は环で、底部糸切りである。10～21は皿である。10～14は口縁部がハの字に開く。15、16は口縁部の立ち上がりが低い。17、19の口縁部は内湾しながら立ち上がる。21は底部内面に「×」のヘラ記号がある。22は底部内面に浅い物を含め9箇所の凹みあるいは穿孔がある。中央の穿孔は径7mm程度、凹みは深い物で深さ3mmを測る。凹みはその中央が径1.5mmで一段下がり、凹状を呈する。内面は灰色化しているが底部外面は被熱していない。土師器皿を小玉用の鋳型や何かを穿孔するための台等に再利用した可能性がある。

**須恵器** 第100図1～第102図10は須恵器である。1～16は环蓋である。1、2、4の天井部はヘラケズリで、2の口縁端部は面を持つ。3、6は天井部周辺をヘラケズリし、中央部に板状圧痕がある。4の天井部は平坦で、外面に板状圧痕がある。7の天井部内面には円形の当て具痕がある。8、9は小型で、石見6A期である。10は小型であるが、天井部ヘラケズリである。11は口縁部が垂直

で、壺等の蓋の可能性がある。12の口縁端部は外面が平坦、内面は凹む。石見9A期。14は口縁端部が垂下し、つまみが剥離する。15の輪状つまみは高い。16の天井部は糸切りで、つまみを貼り付ける。口縁端部は短く、シャープに垂下する。石見9期。17～27は环身である。17、18は底部へラケズリで、立ち上がりが高い。石見4期。18、24の底部は平坦で、ヘラケズリ、板状圧痕がある。20の底部は手持ちヘラケズリである。21は底部が平坦で、口縁部の器壁が薄い。23の器高は低く、扁平である。25の底部はヘラケズリで、内面に漆が付着する。26の底部はヘラケズリで、板状圧痕がある。石見5・6A期である。28～31は环である。28、29の口縁部は垂直に立ち上がる。29は底部静止糸り。30の口縁部はハの字に開く。31の口縁部は器壁が薄く、底部端部が凹み、高台状を呈する。32～35は高台付环である。33の底部は静止糸切りである。33、35は高台内側の底部が凹む。34の底部端部が凹み、高台状を呈する。36～41は高环である。36は有蓋高环で、环部底部外面にカキ目がある。37の脚部は器壁が厚く、直線状を呈する。38の脚部は細く、3方向に長方形透かしがある。39の脚は緩やかに開く。40の口縁部は内湾しながら立ち上がり、脚部は低い。

第101図1～4は皿である。1は口縁部の立ち上がりが急である。口径がもう少し小さい可能性がある。石見8期か。2の口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部が反る。3の口縁部はハの字に広がる。4は高台が付き、高台内側が凹む。口縁部は直線的に立ち上がり、端部が外反する。5、6は甕と考えられる。5は球形の胴部で、底部は丸底。6は胴部に穿孔があり、その周囲にカキ目がある。底部は丸底で、ヘラケズリ後ナデ調整。7は提瓶と考えられる。器壁が薄く、内面は粗いナデ、外面は不定方向のヘラケズリである。周囲は打ち欠きされている。8は口縁部が欠損した平瓶である。底部はヘラケズリで、胴部に1条沈線がある。9は平瓶の口縁部と考えられる。10、11は横瓶と考えられる。10は円形の接合痕がある。接合充填粘土はナデ調整、その他は内面同心円タタキ痕である。11は口縁部から片方しか残存せず、図上復元した。胴部小口に充填接合痕がある。12～20は壺と考えられる。12は長頸で、口縁部は内湾した後垂直に立ち上がる。13の口縁部は広がる。14は無高台の底部に焼台か砂粒が付着する。15は胴部が垂直に立ち上がり、外面にカキ目があり、底部はヘラケズリである。16、17の底部内面には円形の圧痕がある。18、19は器壁が薄く、小型の壺と考えられる。20は把手が付き、径0.8cmの円形の穿孔が開く。把手より上部は丁寧なナデ調整、下は同心円タタキ痕である。21～第102図10は甕である。21、22の口縁端部は沈線状に凹み、外面に沈線を挟んで2段の刺突がある。23の口縁端部は平坦で、無文である。第102図1、3の口縁部は短く、端部を上方に摘み上げる。2は口縁端部を内側に肥厚する。4は口縁端部の内側が平坦である。5～7の口縁部は丸く、5、7は小さい玉縁状を呈する。8の口縁端部は下に肥厚する。頸部にカキ目がある。9、10の外面は平行タタキ後カキ目がある。

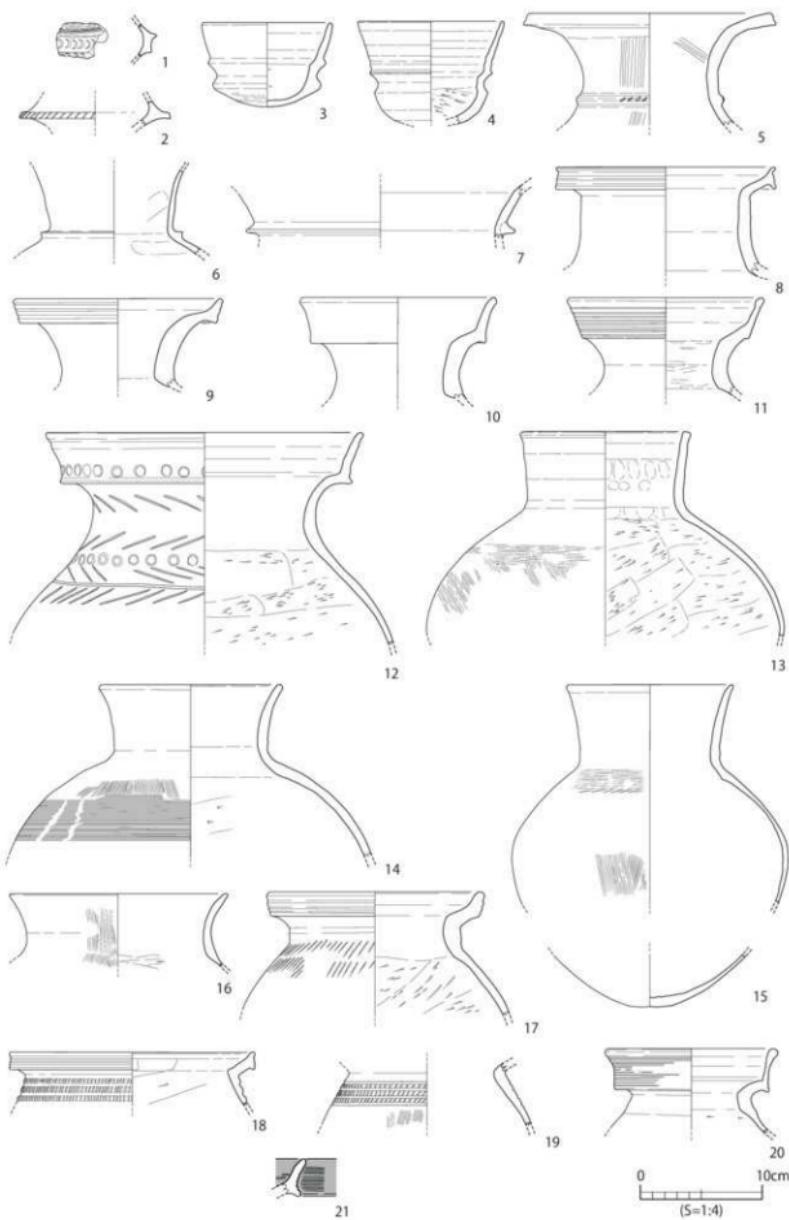
**陶磁器** 第103図1～34は陶磁器である。35は須恵質陶器である。1～6は中国製白磁である。1、2は低い高台から胴部が立ち上がり、口縁部が外反する。高台付近は露胎である。大宰府分類皿II-1類。3、4は底部内面が蛇ノ目釉剥ぎされる。高台付近は露胎である。大宰府分類碗VII類。5は硬質で、内湾口縁を持ち、高台付近は露胎である。底部内面に目跡がある。森田分類D群。6は壺と考えられ、内面は露胎である。7～13は青磁である。7の同安窯系皿は底部外面が釉剥ぎされ、上げ底になる。底部内面にはヘラによる文様とジグザグ状の櫛点描文がある。大宰府分類皿I-2b類。8～13は龍泉窯系青磁と考えられる。8の碗II-b類は外面に鎬蓮弁文を有する。9の碗は底部内面に印花文があり、断面に漆が付着する。高台内は蛇ノ目釉剥ぎされる。10、11の碗は高台外面ま

で施釉され、高台内は露胎である。10は底部内面には沈線内に印花文を施す。11の底部内面は印花文が施されるが、円形に釉剥ぎされ、器表は摩滅している。断面に漆が付着する。12は口縁部外面にスタンプによる雷文帯があり、内面にも雷文帯があり、人形手と考えられる。13は折縁口縁の盤と考えられる。上面に1条沈線、内面に蓮弁文が施される。14は粗製の青花皿で、高台内は露胎である。文様は太く、色も淡い。15～17は青白磁である。15は梅瓶で、外面にクシ状の渦文がある。16は口縁部が露胎の小壺と考えられる。胴部外面は蓮弁文が施される。17は合子蓋と考えられる。口縁端部は平坦で、内面は露胎である。18、19は中国製褐釉陶器壺である。18は削り出し高台を持ち、灰緑色釉が高台脇までかかる。19は小さい玉縁口縁部を持ち、端部に目跡がある。口縁部内面以下は露胎。20は中国磁州窯盤である。口縁部が大きく外反し、内外面施釉される。21は朝鮮半島産の刷毛目粉青皿で、内面は全面、外面は胴部上面に白土が残る。高台には復元で5箇所目跡がある。22は垂直な口縁部をもつ擂鉢で、胴部は内湾する。表面が赤褐色を呈し、赤泥が塗られているか。備前あるいは珠洲か。23～25は備前である。23は片口を持つ擂鉢で、口縁部が僅かに下垂する。24の壺は玉縁口縁である。25の甕の口縁部は厚みを持つが、やや潰れている。26、27は瀬戸美濃である。26は口縁部外面のみ施釉された鉢皿である。27は天目茶碗で、高台脇が水平に削り出されている。28～30は東播系須恵器鉢と考えられる。29の口縁部は上方に摘み上げられるが、30は厚みがなく端部は先細りとなる。31～34は瓦質土器である。31は玉縁口縁で、内面はハケ目調整である。32の口縁部は内側に肥厚する擂鉢で、防長型の可能性がある。33の風炉は口縁部外面に縱連子がある。34は3足の香炉と考えられる。外面には花文のスタンプが施される。35は須恵質で、湾曲する。内面には3条の筋がある。器形は不明である。

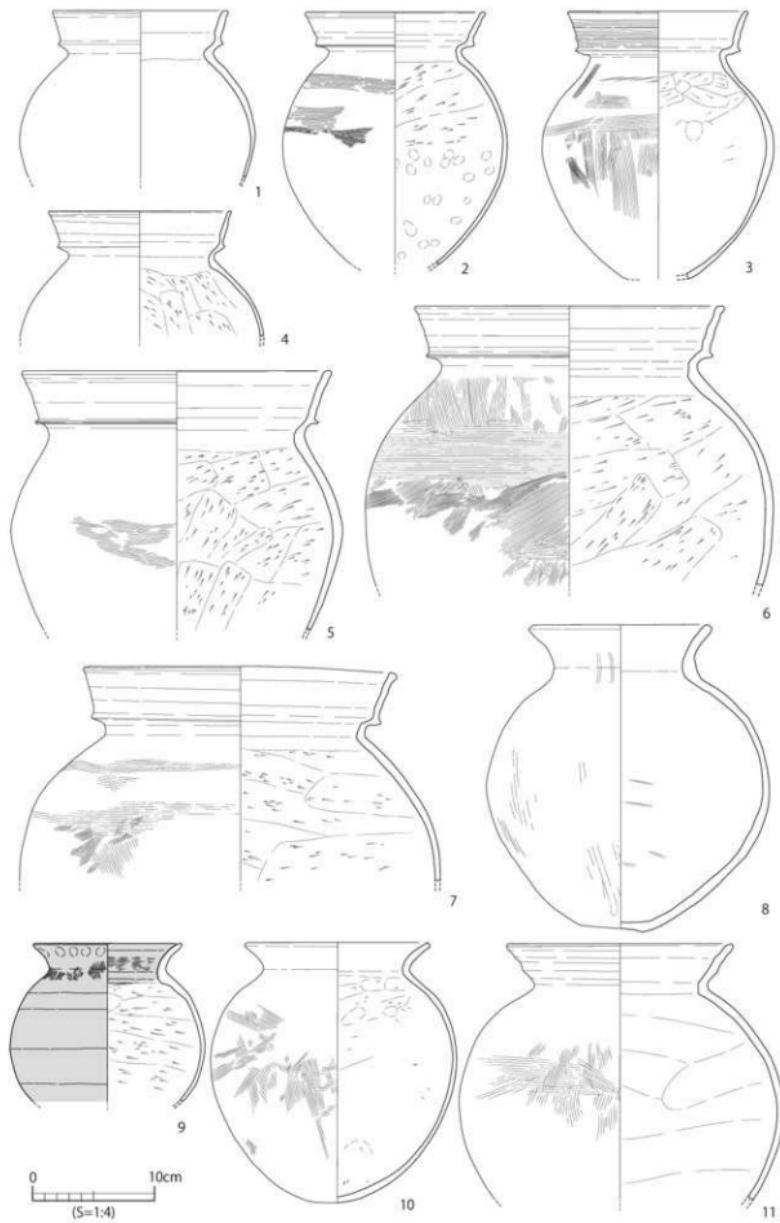
**玉類・石器** 第104図1～3は玉類である。1、2はガラス小玉である。1の小口の平坦面は狭く、孔が占める割合が大きい。気泡は縱方向に伸びる。第2面から出土。2は高さがあり、側面は丸みを持つ。3は蛇紋岩製の勾玉で、厚さは薄い。孔は梢円形で、長期間の使用による摩滅のため孔の周辺は両側とも凹む。表面には白い筋が入る。

第104図4～第105図19は石器である。4は黒曜石製の石錐で、稜が潰れている。5は大型の石包丁で、表面は研磨され、刃部は両側から剝離している。6は2方向が抉られ、石錐と考えられる。表面に敲打痕がある。7～12は敲石である。側面及び表面に敲打痕がある。10は表面に摩滅痕があり、磨石としても使用される。13は周囲に研磨痕がある。表面の一部に敲打痕がある。玄武岩で、片岩の周辺で産すると考えられ、搬入品の可能性がある。

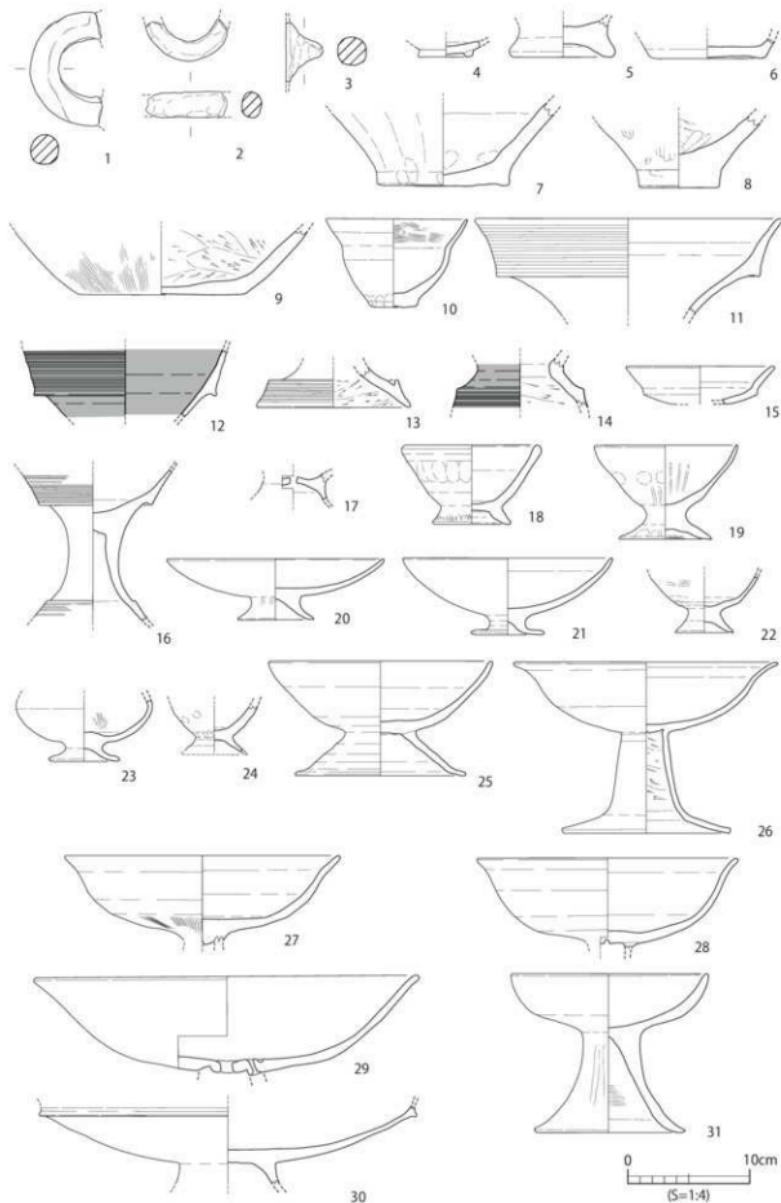
第105図1～5は磨製石斧である。丸みのある板状の石材の一方を刃部としている。表面は少し凸凹している。2、3は断面方形を呈し、長方形の石材の一方を刃部としている。4、5は板状に剥離する石材を使用し、側面は研磨している。裏面には径3.5mm程度の円形の凹みがある。穿孔途中か。6、7は黒色を呈する縞石で、径1.8cm程度である。8～13は砥石である。中央部は細く、両端が厚い。4面とも使用されているものが多く、筋状の擦痕がある。8以外は欠損している。変質した凝灰岩が多い。14は珪化木で、砥石と考えられる。表裏面に摩滅痕がある。15は表面の下端と右端に幅0.3cm程度の段や擦痕があり、左上側はU字に凹むことから、当初は縁を持った硯と考えられる。裏面が緩やかに弧を描いている。現状では中央に表面と右側壁に断面V字の溝があり、切断するために溝を入れた可能性がある。16は用途不明である。断面方形で、上側が弧状を呈する。周囲は研磨により丁寧に加工されている。17は16と同質の板状の石材である。平面形が円形で、中央に径



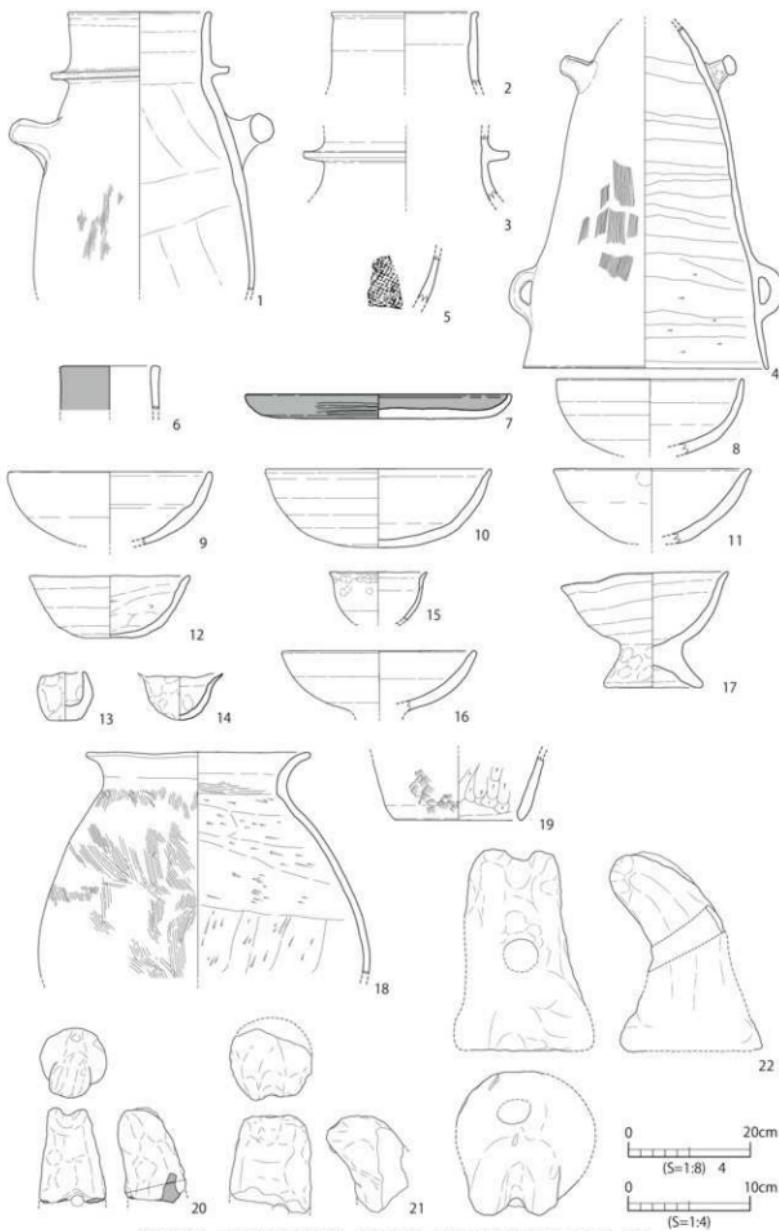
第95図 大国地頭所遺跡 包含層出土遺物実測図 1(S=1:4)



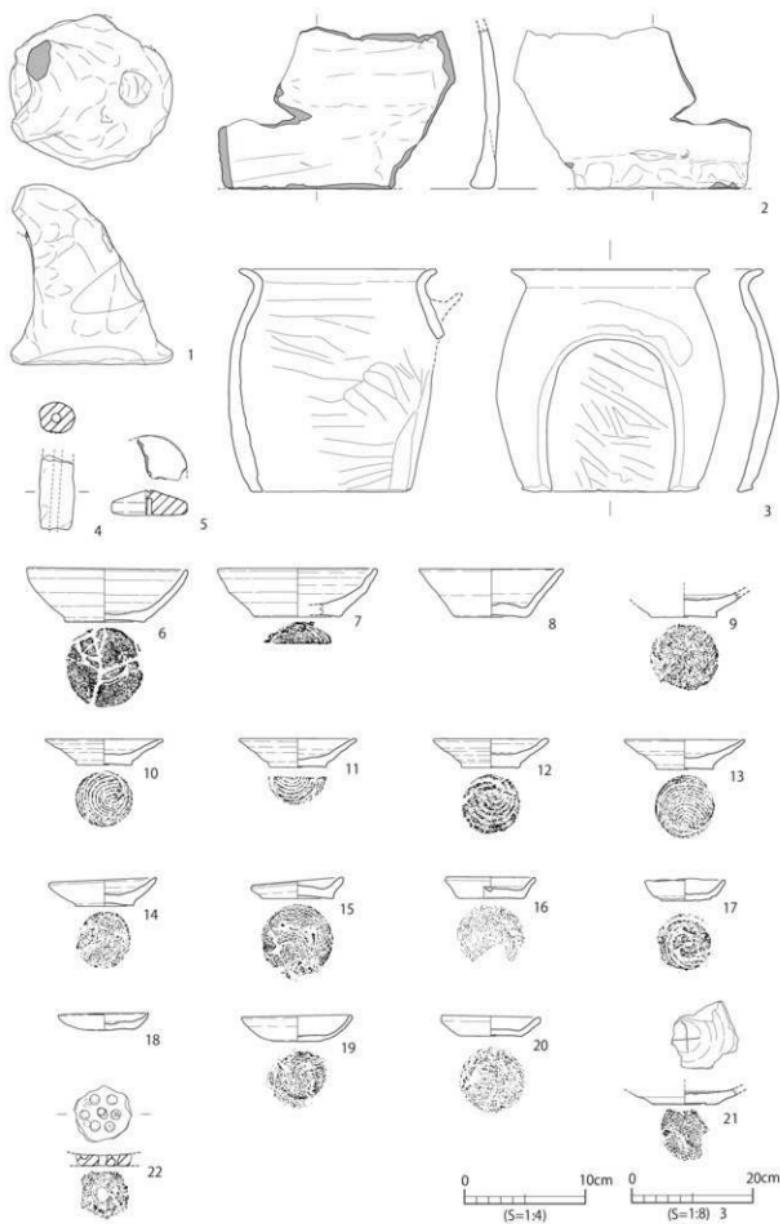
第96図 大国地頭所遺跡 包含層出土遺物実測図 2(S=1:4)



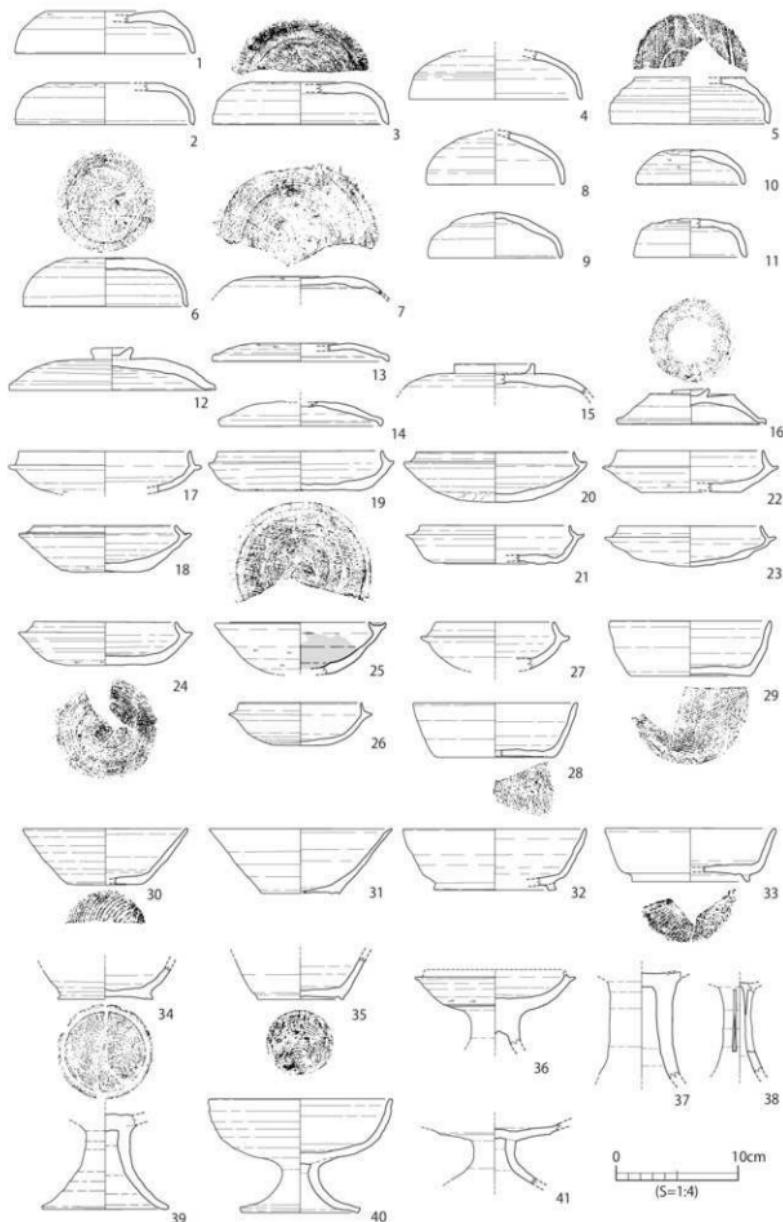
第97図 大国地頭所遺跡 包含層出土遺物実測図 3(S=1:4)



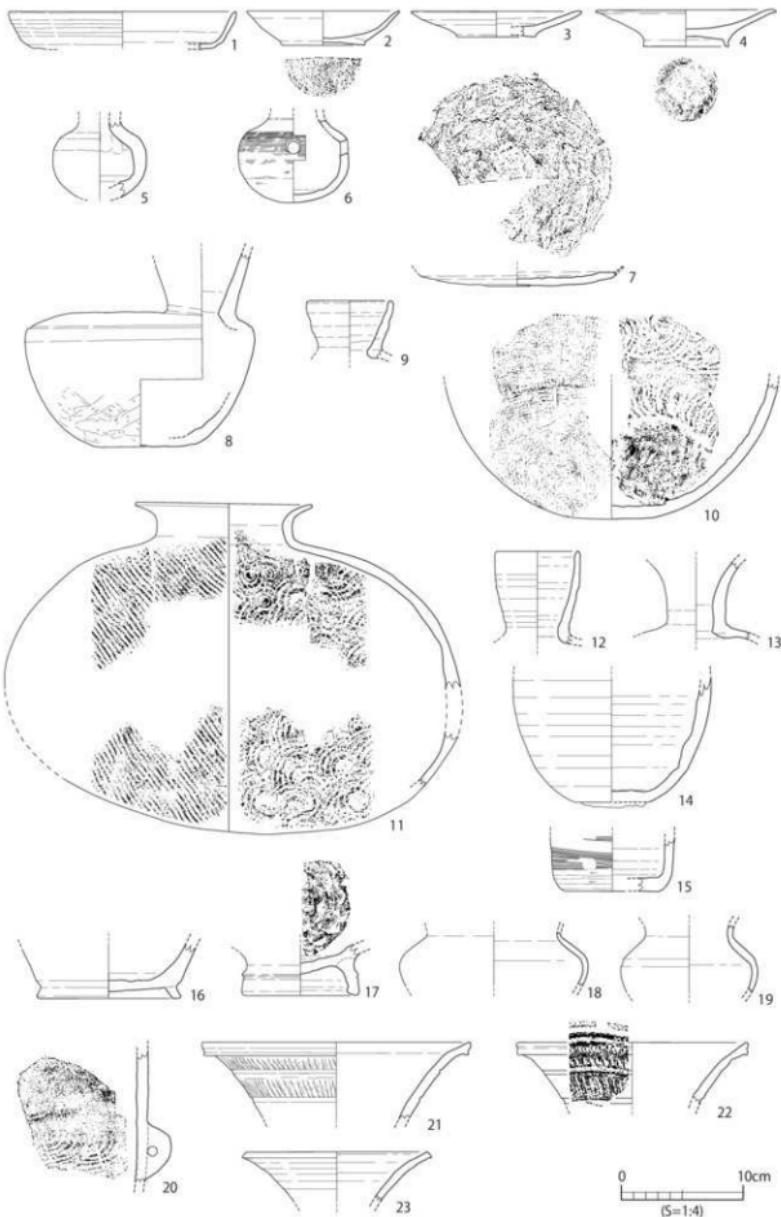
第98図 大国地頭所遺跡 包含層出土遺物実測図 4(S=1:4)(S=1:8)



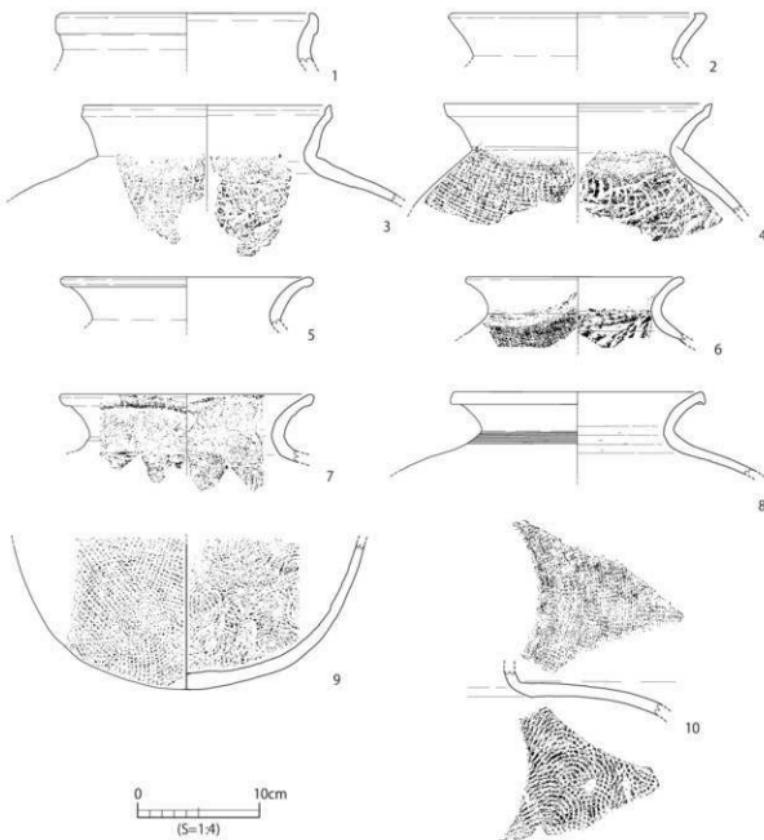
第99図 大国地頭所遺跡 包含層出土遺物実測図 5(S=1:4)(S=1:8)



第100図 大国地頭所遺跡 包含層出土須恵器実測図 1(S=1:4)



第101図 大国地頭所遺跡 包含層出土須恵器実測図 2(S=1:4)



第102図 大国地頭所遺跡 包含層出土須恵器実測図3(S=1:4)

0.8cmの穿孔がある。18は板状の平面形が楕円形の石材で、径0.4cm程度の穿孔が2箇所ある。さらに同規模の非貫通孔があり、孔は2.2cmと2.5cmの間隔がある。19は径28cm程度の下白である。中央には軸孔があり、表面は盛り上がり、6本単位の擗目ある。裏面は粗い調整で凹む。福光石。

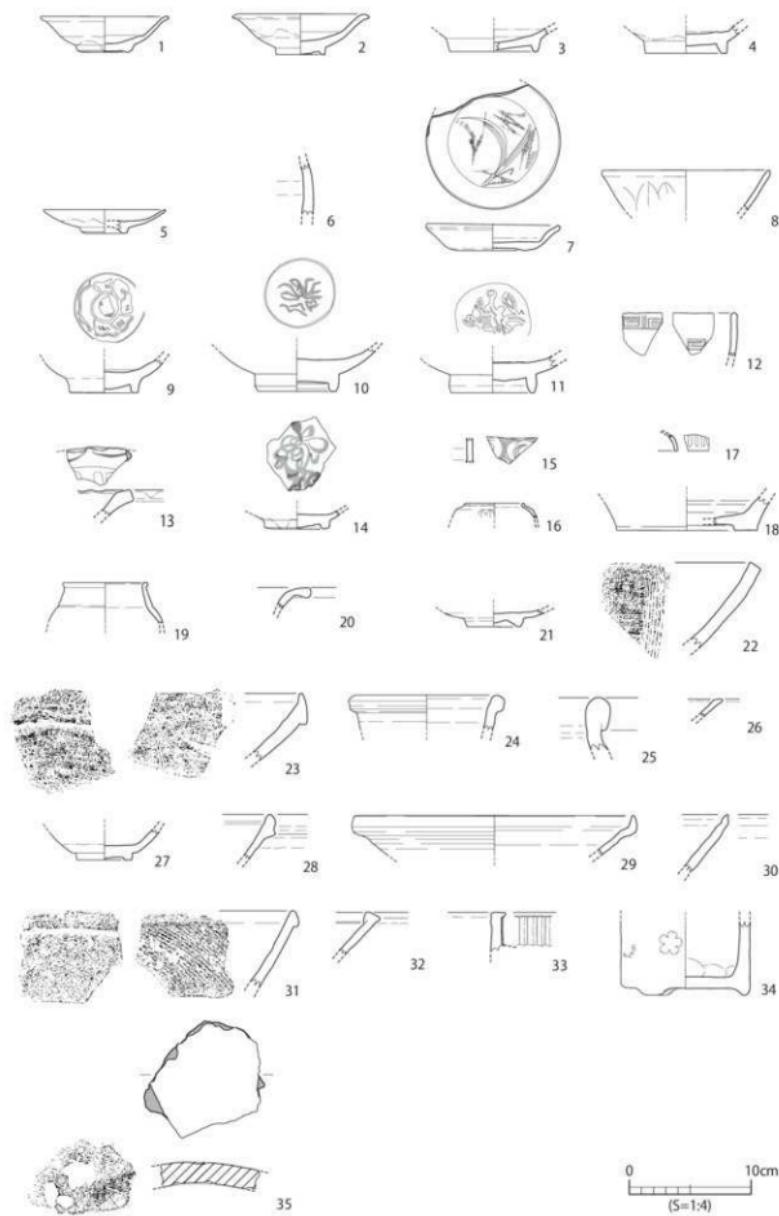
## 【引用・参考文献】

松山智弘 1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」『島根考古学会誌8』

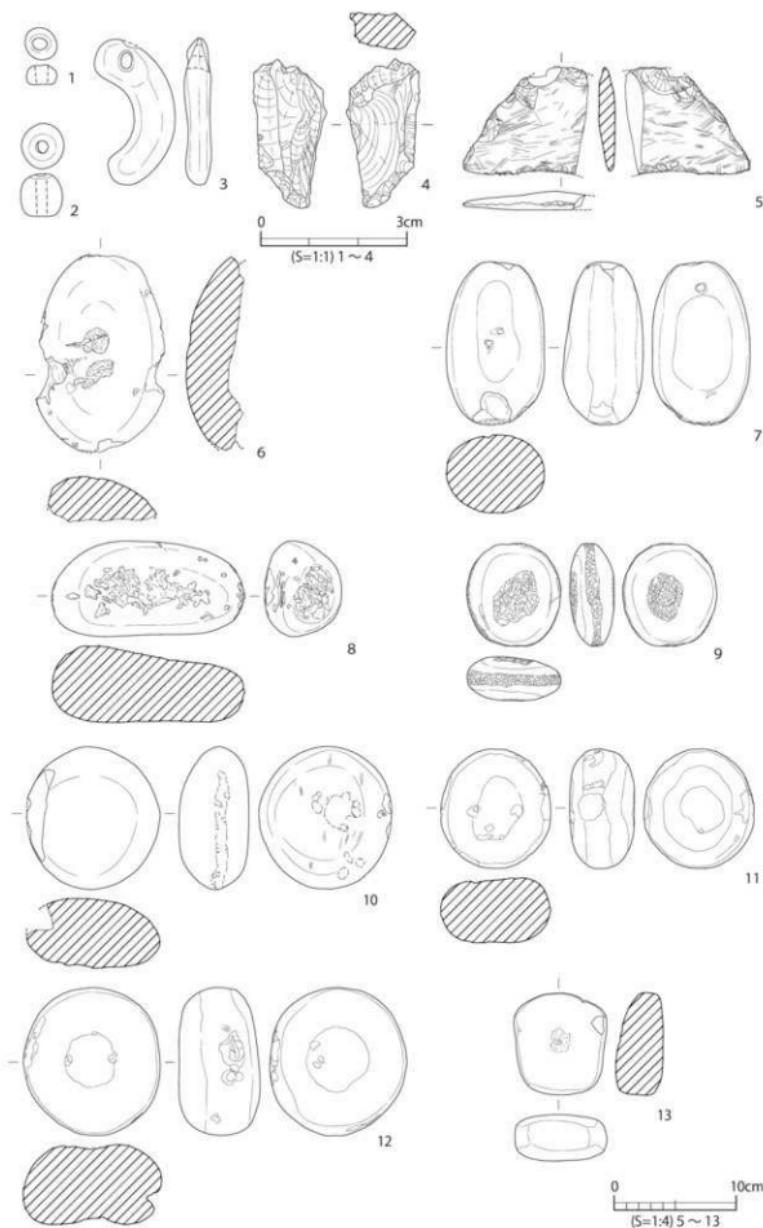
鹿島市教育委員会 1992『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書5』

太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV -陶磁器分類編-』

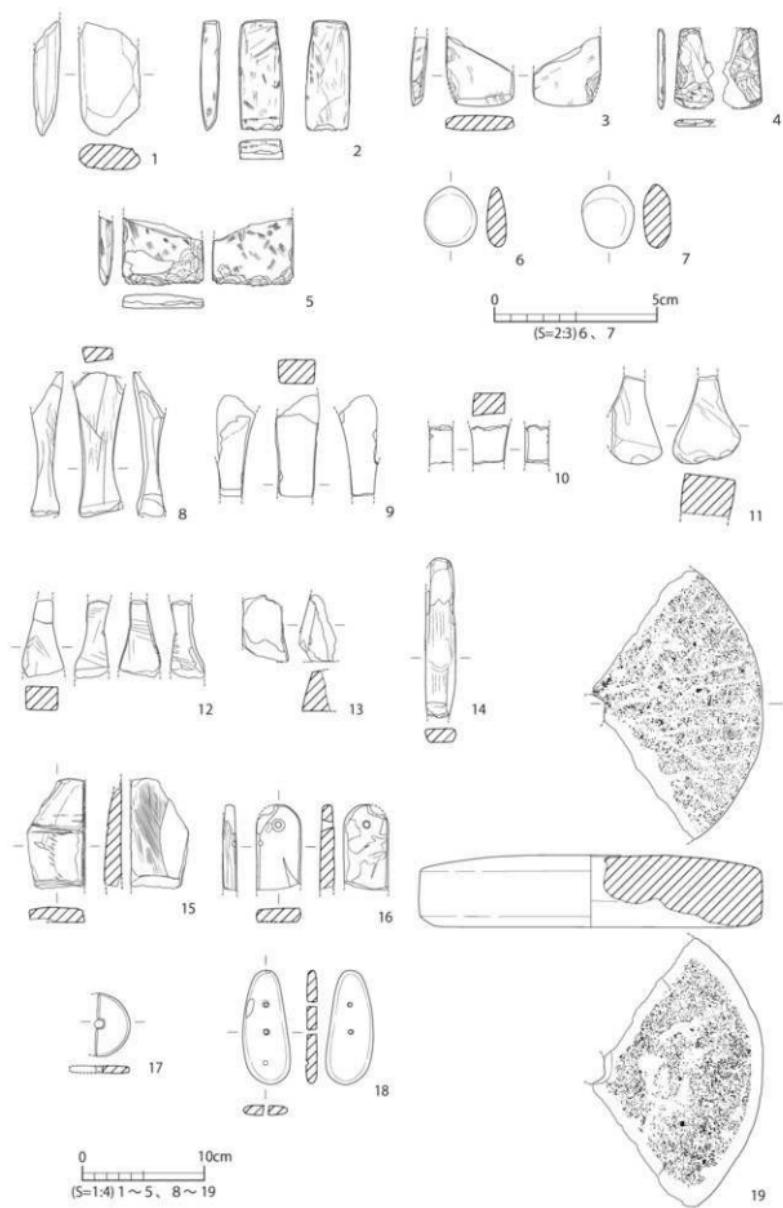
片山まび 2017「高麗・朝鮮陶磁の概要 -14世紀中葉から17世紀初を中心に-」『山陰地域における高麗・朝鮮陶磁』



第103図 大国地頭所遺跡 包含層出土陶磁器実測図 ( $S=1:4$ )



第104図 大国地頭所遺跡 包含層出土玉・石器実測図 1(S=1:1)(S=1:4)



第105図 大国地頭所遺跡 包含層出土玉・石器実測図 2(S=2:3)(S=1:4)

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 大国地頭所遺跡から出土した赤色顔料付着遺物と 銭貨の蛍光X線分析

上山晶子：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

大田市の大国地頭所遺跡からは赤色顔料の付着した弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器や、赤色を呈する磨石や叩石、砥石が出土した。古墳時代以前に汎用された赤色顔料としては、硫化第二水銀 ( $HgS$ ) を主成分とする鉱物の辰砂由来する水銀朱（朱）、酸化第二鉄 ( $Fe_2O_3$ ) を多く含むベンガラが知られている<sup>1)</sup>。これらの遺物の性格を知る手がかりとして、石器4点、土器7点について蛍光X線分析法による元素定性分析を行なった。また、銭貨1点の材質分析も蛍光X線分析によつて行なった。

#### 1. 分析の方法

分析方法は、蛍光X線分析による元素定性分析(非破壊)である。使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置の「エスアイアイ・ナノテクノロジー(現:日立ハイテクサイエンス)社製 SEA1200VX 卓上型ケイ光X線分析計(エネルギー分散型)」である。赤色顔料付着遺物の測定条件は、測定時間200秒(うち測定可能な有効時間は122~173秒)、試料室雰囲気は大気/真空、測定範囲は直径8.0mm、管電圧50kV(測定室雰囲気真空時には15kV)、管電流55~1000μA(管電圧による自動設定)、X線管球はRh(ロジウム)、検出器はSi半導体検出器(SSD)、一次フィルタとしてPbフィルタ(測定室雰囲気真空時にはClフィルタ)を設定し、装置の仕様上、マイラーカバーを使用している。測定は肉眼、あるいは10~40倍の実体顕微鏡観察にて赤色顔料の付着がみられた箇所のうち赤彩が顕著な部分と、比較対照資料として胎土部分(土器の破断面)を行なった。このうち、水銀(Hg)と硫黄(S)を高く検出したものを水銀朱、鉄(Fe)を高く検出し、水銀と硫黄を検出しなかったものは、胎土部分のスペクトルピークの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラ(ここでは酸化鉄を多く含む「広義のベンガラ」)<sup>2)</sup>であると判断した。

銭貨の測定条件は測定時間100秒(うち測定可能な有効時間は65~68秒)、試料室雰囲気は大気、測定範囲は直径8.0mm、管電圧50kV、管電流525~535μA(管電圧による自動設定)、X線管球はRh(ロジウム)、検出器はSi半導体検出器(SSD)、一次フィルタとしてPbフィルタ・Cdフィルタを設定し、装置の仕様上、マイラーカバーを使用している。

#### 2. 結果

測定を行なった試料とその結果を第1・2表と蛍光X線分析スペクトルピーク(以下ピーク)に示す。

##### (1) 赤色顔料付着遺物

###### ①石器

石器4点は赤く発色している箇所とそれ以外の部分(非赤色部分)の測定を行ない、全ての試料から鉄の高いピークを検出したが、赤色顔料と推測されるような物質の付着はみられず、非赤色部分と比較しても顕著な差がみられないため、鉄のピークは赤色顔料由来のものであるとは言い難く、石

(1) 市毛歟 1998 『新版 朱の考古学』 雄山閣

材に由来するものであると推測される。

## ②土器

土器7点のうち、赤色顔料付着部分から鉄のピークを示したものは、第81図6、第97図14、第98図6であった。したがって、これらの土器に付着している赤色顔料はベンガラであると推測される。また、水銀と硫黄のピークを示したものは、第63図11、第65図10、第95図21、第97図12であった。したがって、これらの土器に付着している赤色顔料は水銀朱であると推測される。このうち、第63図11は片口を持つ鉢（片口鉢）であり、内面や土器の破断面にも水銀朱が付着している。また、土器外面には煤が付着していることから、水銀朱の精製に用いられた土器である可能性が高い。<sup>⑨</sup>

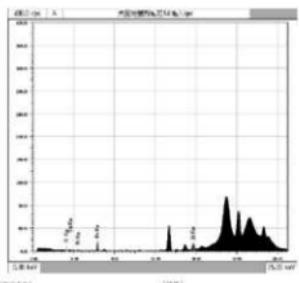
## (2) 銭貨

銭貨1点（第51図4）からは、鉛（Pb）とスズ（Sn）の高いピークを検出し、銅（Cu）のピークはわずかに検出した。今回の分析では研磨によって銭貨の「地」の部分を出さず、完全に非破壊で行なっており、また肉眼観察の結果では表面が白い炭酸鉛（ $PbCO_3$ ）に覆われていることから、鉛の高いピークは表面の炭酸鉛の成分を示しているとみられ、銭貨の成分を十分に示しているとは言い難い。

第1表 大国地頭所遺跡 赤色顔料付着遺物 蛍光X線分析結果

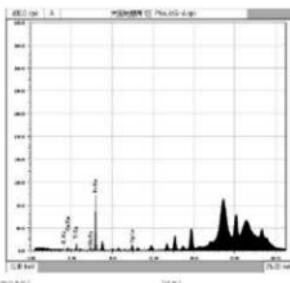
件名	種別	器種	測定箇所	検出元素			推測される顔料の種類	備考
				Hg	S	Fe		
第63図6	石器	叩石	敲打痕	-	-	+	-	赤色顔料の付着はみられない
			敲打痕以外	-	-	+	-	
第63図11	弥生土器／土師器	片口鉢	外側	+	-	++	水銀朱	破断面にも朱が浸透している可能性がある
			内面	+	+	++	水銀朱	
第64図30	石器	磨石	胎土	+	-	++	-	赤色顔料の付着はみられない
			摩滅面	-	-	++	-	
第65図10	弥生土器	鼓形器台	摩滅面以外	-	-	++	-	内面にも赤彩が見られるが、試料形状により測定できない
			外側	+	-	++	水銀朱	
第81図6	弥生土器	鼓形器台	内面	×	×	×	-	
			胎土	-	-	++	-	
第95図21	弥生土器	壺	外側	++	+	+	水銀朱	
			内面	++	-	++	水銀朱	
第97図12	弥生土器	鼓形器台	胎土	-	-	++	-	
			外側	++	+	++	水銀朱	
第97図14	弥生土器	鼓形器台	内面	+	-	++	水銀朱	内面には赤彩が視認できない
			胎土	+	-	++	-	
第98図6	土師器	短頸壺	外側	-	-	++	ベンガラ	
			内面	-	-	++	ベンガラ	
第104図10	石器	砥石	胎土	-	-	++	-	赤色顔料の付着はみられない
			研磨面（赤色）	-	-	+	-	
第104図12	石器	砥石	研磨面（赤色）	-	-	+	-	赤色顔料の付着はみられない
			研磨面	-	-	++	-	

検出元素凡例：++…スペクトルピークを高く検出／+…検出／-…検出せず／×…測定せず（赤彩なし・試料形状により測定不可）



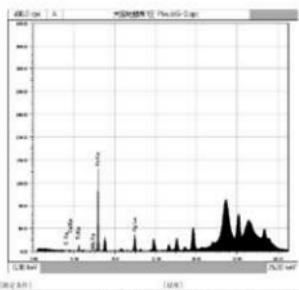
(測定条件)		SEAD200VX					
測定位置	試料名	Z	元素	式別名	サイト	Alight	H.O.I.(keV)
表面付近 (1)	表面付近 (1)	16	K	カリウム	K	0.00	1.00-1.60
表面付近 (2)	表面付近 (2)	23	Al	アルミニウム	Al	17.00	1.00-1.60
内部付近 (1)	内部付近 (1)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
内部付近 (2)	内部付近 (2)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
マトリクス	マトリクス	40	Zn	ジン	Zn	103.00	15.00-20.00
粒度測定 (A)	粒度測定 (A)	30					
平均粒径 (μm)	平均粒径 (μm)	113					
標準偏差 (μm)	標準偏差 (μm)	96.70					
分散度 (%)	分散度 (%)	87.1%					
ビーコン強度 (A)	ビーコン強度 (A)	0.0000					
マトリクス	マトリクス						

第63図6 敲打痕（大気）



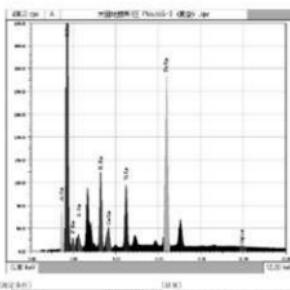
(測定条件)		SEAD200VX					
測定位置	試料名	Z	元素	式別名	サイト	Alight	H.O.I.(keV)
表面付近 (1)	表面付近 (1)	16	K	カリウム	K	0.00	1.00-1.60
表面付近 (2)	表面付近 (2)	23	Al	アルミニウム	Al	17.00	1.00-1.60
内部付近 (1)	内部付近 (1)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
内部付近 (2)	内部付近 (2)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
マトリクス	マトリクス	36	Ca	カルシウム	Ca	103.00	15.00-20.00
粒度測定 (A)	粒度測定 (A)	30					
平均粒径 (μm)	平均粒径 (μm)	113					
標準偏差 (μm)	標準偏差 (μm)	96.70					
分散度 (%)	分散度 (%)	87.1%					
ビーコン強度 (A)	ビーコン強度 (A)	0.0000					
マトリクス	マトリクス						

第63図11 外面（大気）



(測定条件)		SEAD200VX					
測定位置	試料名	Z	元素	式別名	サイト	Alight	H.O.I.(keV)
表面付近 (1)	表面付近 (1)	16	K	カリウム	K	0.00	1.00-1.60
表面付近 (2)	表面付近 (2)	23	Al	アルミニウム	Al	17.00	1.00-1.60
内部付近 (1)	内部付近 (1)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
内部付近 (2)	内部付近 (2)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
マトリクス	マトリクス	40	Zn	ジン	Zn	103.00	15.00-20.00
粒度測定 (A)	粒度測定 (A)	30					
平均粒径 (μm)	平均粒径 (μm)	113					
標準偏差 (μm)	標準偏差 (μm)	96.70					
分散度 (%)	分散度 (%)	87.1%					
ビーコン強度 (A)	ビーコン強度 (A)	0.0000					
マトリクス	マトリクス						

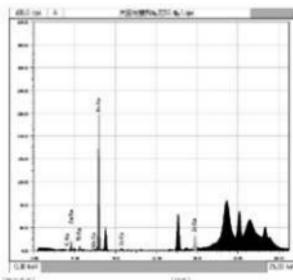
第63図11 内面（大気）



(測定条件)		SEAD200VX					
測定位置	試料名	Z	元素	式別名	サイト	Alight	H.O.I.(keV)
表面付近 (1)	表面付近 (1)	16	K	カリウム	K	0.00	1.00-1.60
表面付近 (2)	表面付近 (2)	23	Al	アルミニウム	Al	17.00	1.00-1.60
内部付近 (1)	内部付近 (1)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
内部付近 (2)	内部付近 (2)	26	Fe	鉄	Fe	140.00	6.25-8.00
マトリクス	マトリクス	36	Ca	カルシウム	Ca	103.00	15.00-20.00
粒度測定 (A)	粒度測定 (A)	30					
平均粒径 (μm)	平均粒径 (μm)	113					
標準偏差 (μm)	標準偏差 (μm)	96.70					
分散度 (%)	分散度 (%)	87.1%					
ビーコン強度 (A)	ビーコン強度 (A)	0.0000					
マトリクス	マトリクス						

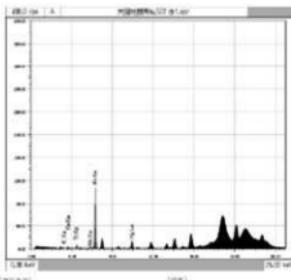
第63図11 内面（真空）

蛍光X線分析 スペクトル図（赤色顔料付着遺物）1



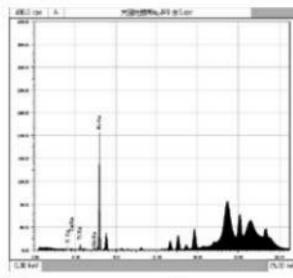
測定条件		測定結果 (keV)		
波長範囲	0.5~10.0 keV	Z	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.05	I	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Fe	2.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Ca	3.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Mn	5.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Fe	7.5 keV	Alpeak
半周期数 (A)	30			
半周期数 (A)	60			
ノイズカット	0.05			
ノイズカット	0.10			
ノイズカット	0.20			
ノイズカット	0.50			

第 64 図 30 摩滅面（大気）



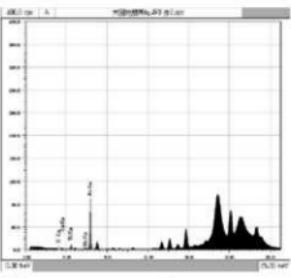
測定条件		測定結果 (keV)		
波長範囲	0.5~10.0 keV	Z	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.05	I	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Al	2.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Ca	3.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Mn	5.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	1.00	Fe	7.5 keV	Alpeak
半周期数 (A)	30			
半周期数 (A)	60			
ノイズカット	0.05			
ノイズカット	0.10			
ノイズカット	0.20			
ノイズカット	0.50			

第 65 図 10 外面（大気）



測定条件		測定結果 (keV)		
波長範囲	0.5~10.0 keV	Z	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.05	I	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Al	2.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Ca	3.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Mn	5.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Fe	7.5 keV	Alpeak
半周期数 (A)	30			
半周期数 (A)	60			
ノイズカット	0.05			
ノイズカット	0.10			
ノイズカット	0.20			
ノイズカット	0.50			

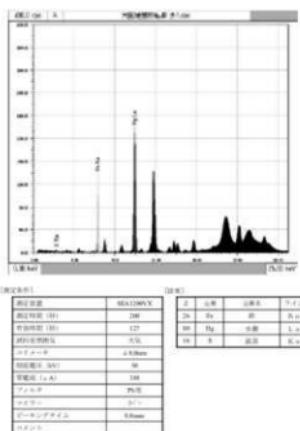
第 81 図 6 外面（大気）



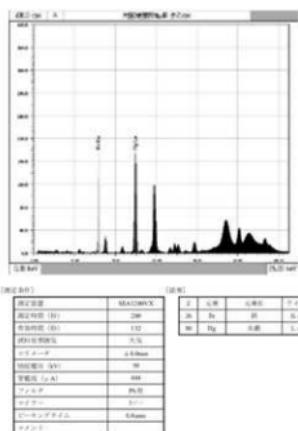
測定条件		測定結果 (keV)		
波長範囲	0.5~10.0 keV	Z	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.05	I	1.7 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Al	2.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Ca	3.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Mn	5.5 keV	Alpeak
波長間隔 (keV)	0.25	Fe	7.5 keV	Alpeak
半周期数 (A)	30			
半周期数 (A)	60			
ノイズカット	0.05			
ノイズカット	0.10			
ノイズカット	0.20			
ノイズカット	0.50			

第 81 図 6 内面（大気）

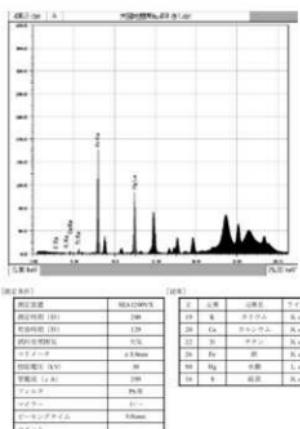
## 蛍光 X 線分析 スペクトル図（赤色顔料付着遺物）2



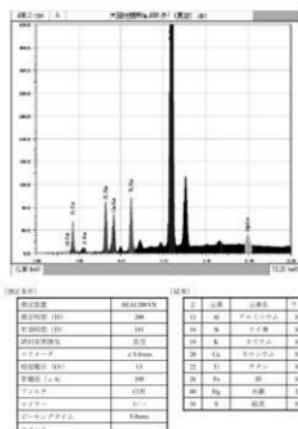
第95図21 外面（大気）



第95図21 内面(大気)

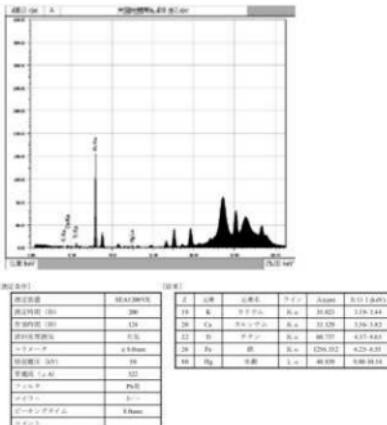


第97図12 外面(大気)

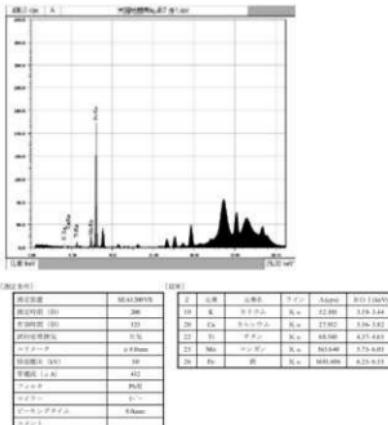


第97図12 外面(真空)

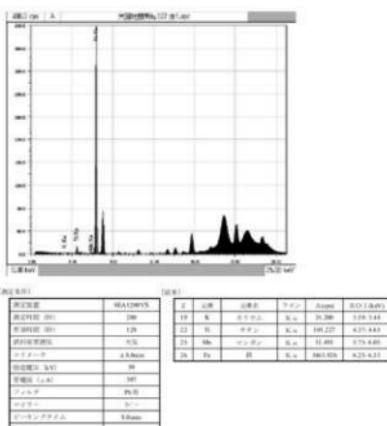
### 電光 X 線分析 スペクトル図（赤色顔料付着遺物）



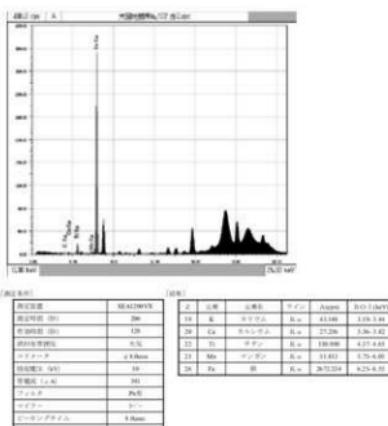
第97図12 内面(大気)



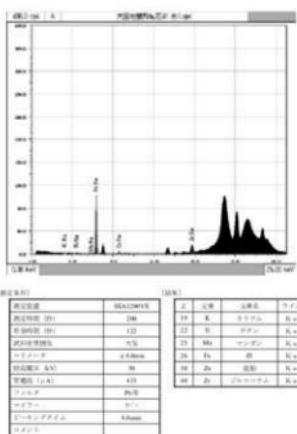
第97図14 外面（大気）



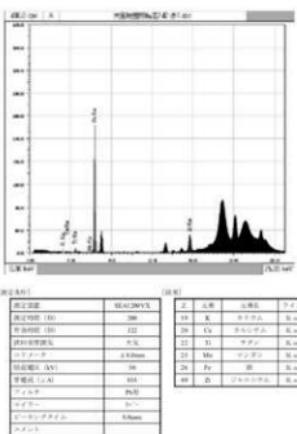
第98図6 外面(大気)



第98圖6 内面(大氣)



第 104 図 10 研磨面・赤色部分（大気）

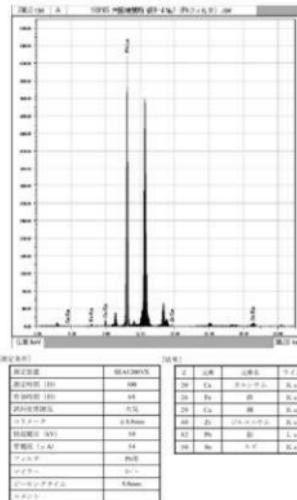


第 104 図 12 研磨面・赤色部分（大気）

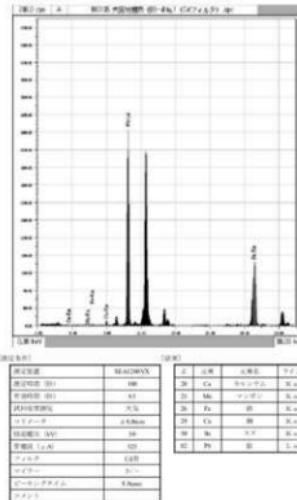
蛍光X線分析 スペクトル図（赤色顔料付着遺物）5

第2表 錢貨 常光X線分析結果

押印No	種別	器種	高いピークを示した元素	備考
第 51 図 4	金属製品	銭貨	Pb（鉛）・Sn（スズ）	Cu（銅）はわずかに検出した



### 第51図4 錢貨（大気・Pb フィルタ）



第51図4 錢貨（大気・Cd フィルタ）

## 蛍光X線分析 スペクトル図（銭貨）

## 第2節 大国地頭所遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

### はじめに

大国地頭所遺跡は島根県中央部の大田市仁摩町大国に位置する。

本報は、発掘調査によって検出された建物群の年代、柱などの樹種、及び出土種実の種類を確認する目的で、島根県教育庁埋蔵文化財センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施したAMS年代測定、樹種同定、種実同定業務の概報である。

### 分析試料について

樹種同定試料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センターとの協議の上、文化財調査コンサルタント（株）が採取し、種実試料は、同センターよりご提供を受けた。また、以下に示す平面図及び断面図は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターよりご提供を受けた原図をもとに作成した。

第1図（調査区平面図）中に試料採取地点を示すと共に、第1表に試料の詳細粗示した。

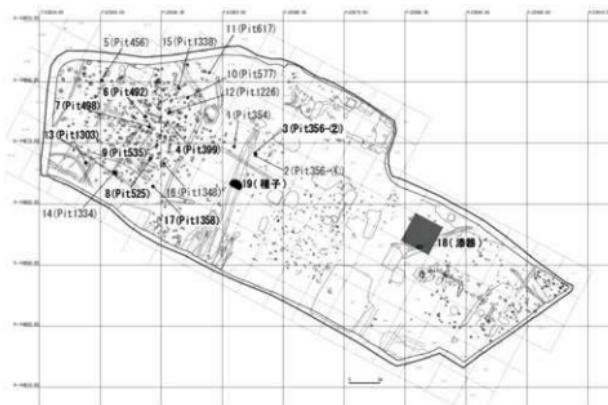
### 分析方法

#### 1. AMS年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。 $^{14}\text{C}$ 濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568年で年代計算を行った。曆年代較正にはOxCal ver. 4.3 (Bronk Ramsey, 2009) を用い、INTCAL13 (Reymer et al., 2013) を利用した。

#### 2. 樹種同定方法

顕微鏡観察用永久プレパラートは、渡辺（2010）に従い作成した。作成した永久プレパラートに



第1図 調査区平面図（試料採取地点）

は整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で4倍～600倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、顕微鏡写真撮影を行うとともに、島地ほか(1985)の用語に基本的に従い、記載を行った。

### 3. 種実同定方法

選別済みの試料を御提供いただいた。肉眼及び実体顕微鏡にて、現生標本及び図鑑類との対比により同定した。また、同定後の試料はガラス瓶に入れ、60%エタノールにて液浸標本とした。

## 分析結果

### 1. AMS年代測定結果

測定結果を第2表、第2図に示す。第2表には、 $\delta^{13}\text{C}$ 値と3種類の年代を示している。第2図では試料ごとに確率分布と $\sigma$ 、 $2\sigma$ の較正範囲を示した。

### 2. 樹種同定結果

同定結果を第3表に示す。分類群ごとに代表的な試料(下線で示す)の記載を、以下に記すほか、顕微鏡写真を掲載した。

(1) マツ属(複維管束亞属)*Pinus* (sub.*Diploxylon*) sp.

整理No: 14(W16042614)

第1表 分析試料一覧

整理No.		出土地点					分析項目	
		Pit No.	調査区	Gr (ほか)	遺構面ほか	日付	樹種同定	年代測定
1	(第49回1)	354	3区	E-13Gr	1-2面	151119	○	
2		356-①	3区	E-12Gr	1-2面	151119	○	
3		356-②	3区	E-12Gr	1-2面	151119	○	
4	(第49回2)	399	4区	D-15Gr	1面	151020	○	○
5		456	4区	E-18Gr	1-2面	160107	○	
6	(第49回3)	492	4区	D-16Gr	1-2面	151116	○	○
7	(第49回4)	498	4区	D-16Gr	1-2面	151104	○	
8		525	4区	C-15Gr	1面	151023	○	
9		535	4区	D-15Gr	1-2面	151019	○	
10	(第49回5)	577	4区	E-15Gr	1-2面	151117	○	○
11		617	4区	F-15Gr	1-2面	151019	○	
12		1226	4区	E-15Gr	1-2面	160118	○	
13	(第49回6)	1303	4区	B-17Gr	1-2面	160116	○	○
14	(第49回7)	1334	4区	B-16Gr	1-2面	160118	○	○
15		1338	4区	F-15Gr	1-2面	160126	○	
16	(第49回8)	1348	4区	C-15Gr	1-2面	160125	○	○
17	(第49回9)	1358	4区	B-15Gr	1-2面	160125	○	
18	(第49回12)	漆器	1区	E-6Gr	1面	150710	○	
19		種子	3区	D-12Gr	右列3区中軸トレチ南側)	151120		○
合計							18	6
								1

第2表 AMS年代測定結果

整理回	試料番号	採取場所	樹種	量(㌘)	前処理	測定値( $\delta^{13}\text{C}$ )	$\delta^{13}\text{C}$	測定値(年代)	樹種別正答率(%)		14C年代をもとに算出された正答率(%)	14C年代をもとに算出された正答率(%)
									14C	14C+2σ		
4	488	3-15Gr 1-2面	木片	0.009	酸性洗浄 アルカリ・酸性洗浄 酸性ナトリウム	-26.10±0.19	-26.10±0.17	385±19	365±20	AH1452-1490(58.3%) AH1803-1810(6.3%) AH1805-1819(17.9%)	AH1446-1519(77.3%) AH1802-1810(6.3%) AH1803-1819(17.9%)	355±8
6	488	3-16Gr 1-2面	木片	0.1696	酸性洗浄 アルカリ・酸性洗浄 酸性ナトリウム	-26.38±0.19	-26.38±0.18	292±18	296±23	AH1527-1559(46.7%) AH1528-1546(23.7%) AH1529-1560(38.8%)	AH1521-1526(64.8%) AH1528-1546(23.7%) AH1529-1560(38.8%)	305±7
10	488	3-17Gr 1-2面	木片	0.0709	酸性洗浄 アルカリ・酸性洗浄 酸性ナトリウム	-26.80±0.19	-27.10±0.18	344±18	345±20	AH1512-1552(25.2%) AH1513-1553(25.2%) AH1514-1554(25.2%)	AH1470-1529(37.7%) AH1511-1551(25.2%) AH1512-1552(25.2%)	305±8
12	488	3-17Gr 1-2面	木片	1.0018	酸性洗浄 アルカリ・酸性洗浄 酸性ナトリウム	-27.30±0.19	-27.30±0.18	312±18	310±20	AH1580-1591(5.2%) AH1513-1601(7.2%) AH1525-1625(14.0%)	AH1517-1587(1.7%) AH1513-1601(7.2%) AH1618-1655(21.2%)	315±9
14	488	3-18Gr 1-2面	木片	0.4357	酸性洗浄 アルカリ・酸性洗浄 酸性ナトリウム	-28.00±0.19	-30.32±0.18	327±19	325±20	AH1541-1599(40.7%) AH1542-1600(16.7%) AH1543-1628(13.7%)	AH1490-1505(76.7%) AH1541-1600(16.7%) AH1542-1617(19.7%)	325±9
16	488	3-19Gr 1-2面	木片	0.0243	酸性洗浄 アルカリ・酸性洗浄 酸性ナトリウム	-28.54±0.18	-28.54±0.17	299±18	300±20	AH1524-1559(48.9%) AH1525-1562(25.7%)	AH1519-1558(76.7%) AH1524-1562(25.7%)	303±7

\* = 14C標準参考値

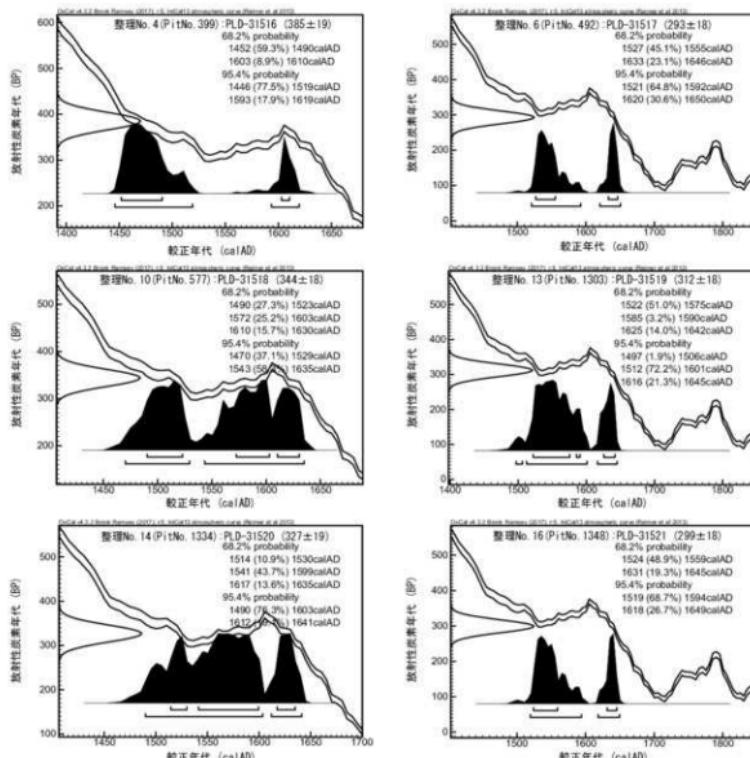
○ = 14C標準参考値

記載：構成細胞は仮道管、放射仮道管、放射柔細胞、垂直樹脂道及び水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は狭い。放射仮道管には鋸歯状肥厚が認められる。放射組織は単列であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を示す。エピセリウム細胞は薄壁である。垂直樹脂道は早、晩材部ともに分布し、チロソイドが見られる。分野壁孔は窓状であることなどから、マツ属（複維管束亞属）と同定した。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

整理 No. : 1(W16042601)、2(W16022602)、3(W16022603)、4(W16022604)、5(W16022605)、6(W16022606)、8(W16022608)、9(W16022609)、10(W16022610)、11(W16022611)、12(W16022612)、13(W16022613)、15(W16022615)、16(W16022616)、17(W16022617)、18(W16022618)

記載：環孔材で大きい円形ないし梢円形の道管が単独で多列に配列し、孔圈部の幅はかなり広い。孔圈外では中庸まで大きさを減じた道管が放射状に配列し、更に外側で小さい道管がやや火炎状に配列する。道管せん孔は単せん孔である。また、道管にはチロースが顯著に認められる。孔圈道管の周りに



第2図 历年較正図

は周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は単接線状に配列するのが認められる。放射組織は平伏細胞からなる單列同性型で、道管放射組織間壁孔は階段状を示す。以上の組織上の特徴からクリと同定した。

### (3) シノキ属類似 cf. *Castanopsis* sp.

整理No: 7(W16042607)

記載: 中庸の道管が単独で放射方向に配列し、道管径が外側に向かい徐々に減ずる放射孔材である。道管せん孔は単せん孔で、道管内腔にチロースが発達し、濃色の着色物質も含有している。周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は豊富に分布し、短接線状配列が顕著である。放射組織は単列同性で、分布がかなり密である。道管放射組織間壁孔は水平、柵状が混在する。以上の組織上の特徴から、シノキ属と推定されるが断定には至らず、シノキ属類似とするに止めた。

### 3. 種実同定結果

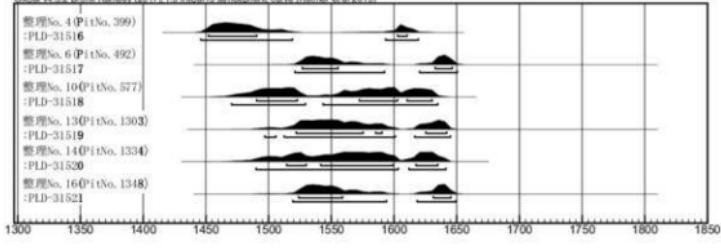
1 個体分の破片としてお預かりした試料中に、異なる3個体分の破片が存在した。破片の大きさが異なるものの、いずれもモモ(核)と同定できた。記載を以下に記すほか、写真を掲載した。

モモは食されたほか、祭祀に用いられたことが知られている。更に、花や葉、核を割って出てくる「仁」も漢方薬として用いられる。出土地周辺の遺構との関連から、今回出土したモモ(核)の用途が推定できる可能性もある。

第3表 樹種同定結果表

整理No	整理番号	樹種名	出土地点(調査区、PitNo.ほか)				時代
1	W16042601	クリ	3区	PitNo.354	E-13Gr	1-2面	151119 不明
2	W16042602	クリ	3区	PitNo.356-①	E-12Gr	1-2面	151119 不明
3	W16042603	クリ	3区	PitNo.356-②	E-12Gr	1-2面	151119 不明
4	W16042604	クリ	4区	PitNo.399	D-15Gr	1面	151020 385±20
5	W16042605	クリ	4区	PitNo.456	E-18Gr	1-2面	160107 不明
6	W16042606	クリ	4区	PitNo.492	D-16Gr	1-2面	151116 295±20
7	W16042607	シノキ属類似	4区	PitNo.498	D-16Gr	1-2面	151104 不明
8	W16042608	クリ	4区	PitNo.525	C-15Gr	1面	151023 不明
9	W16042609	クリ	4区	PitNo.535	D-15Gr	1-2面	151019 不明
10	W16042610	クリ	4区	PitNo.577	E-15Gr	1-2面	151117 345±20
11	W16042611	クリ	4区	PitNo.617	F-15Gr	1-2面	151019 不明
12	W16042612	クリ	4区	PitNo.1226	E-15Gr	1-2面	160118 不明
13	W16042613	クリ	4区	PitNo.1303	B-17Gr	1-2面	160116 310±20
14	W16042614	マツ属(複雑管束型)	4区	PitNo.1334	B-16Gr	1-2面	160118 325±20
15	W16042615	クリ	4区	PitNo.1338	F-15Gr	1-2面	160126 不明
16	W16042616	クリ	4区	PitNo.1348	C-15Gr	1-2面	160125 300±20
17	W16042617	クリ	4区	PitNo.1358	B-15Gr	1-2面	160125 不明
18	W16042618	クリ	1区	漆器	E-6Gr	1面	150710 不明

OxCal v4.3.2 Brook Ramsey (2017); r5 IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013)



第4表 年代測定値の分布

(1) モモ(核) *Amygdalus persica* L.

記載：すべての個体が破片であり、頂部、基部、背面、腹面がそろって観察できなかった。全ての側面には深い溝が認められた。個体により観察可能な範囲が異なるが、頂部は尖り、基部中央に湾入した臍がある。1本の明瞭な縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。

**年代測定値について**

今回の年代測定試料には、樹皮あるいは辺材（白太）が認められなかつた。このことから得られた年代測定値は、伐採年あるいは建物の建設時期を直接示すものではない。しかし、年代測定試料がいずれもクリ材で、生育が早いことから、今回の測定値が柱材の伐採年に近いものである事は、疑う余地がない。

年代測定値の分布（第3図）から明らかなように、全ての曆年較正値が誤差の範囲で重なり、木材が使われた建物の建設時期に差を見いだすことは難しい。一方、これらの測定年代の範囲は、神谷寿貞による石見銀山の採掘開始（AD1526）から、大森奉行所から大森代官所への格下げ時期（AD1675）とほぼ重なっている。

**用材について**

## (1) 柱

渡辺・中川（2013）によれば、島根県下では266試料の「柱（柱？含む）」の記載があり、そのうちおよそ半数の127試料がクリである。今回の年代測定値の室町時代以降に限ると87試料の内、60試料とおよそ2/3を占める。島根県西部地域では調査された件数が少なく、「柱（柱？含む）」の記載32試料中12試料がクリで、室町時代以降に限ると23試料の内、12試料とおよそ1/2に上昇する。また、大田市内に限定すると、ナメラ追遺跡で記載された6試料の柱は、全てクリであった。

今回同定した柱材17試料の内、15試料がクリであったことは、従来の傾向と一致するものである。また、クリ以外のシノキ属類似、マツ属（複維管束亞属）についても、数は少ないものの用材として認められていた。

## (2) 盆（漆器）

現在でも、盆には木目の美しい材が用いられることが多い。渡辺・中川（2013）によれば、盆の報告例が18試料ある。ほとんどが古代以前の試料で、ケヤキやニレ属の用例が多く、トチノキ、針葉樹も用いられている。今回の盆（漆器）の制作年代は不明であるが、前述の柱のAMS年代が全て15世紀中頃～17世紀中頃を示すことから、同時期に制作された可能性が高い。器種を例物・挽物に広げ、15世紀中頃～17世紀中頃に制作されていた椀、皿57試料を観ると、ケヤキは10%程度しか利用されず、トチノキが30%、クリが15%と続く。したがって、今回の盆（漆器）にクリが用いられていたことは、従来の傾向と一致するものであった。

## まとめ

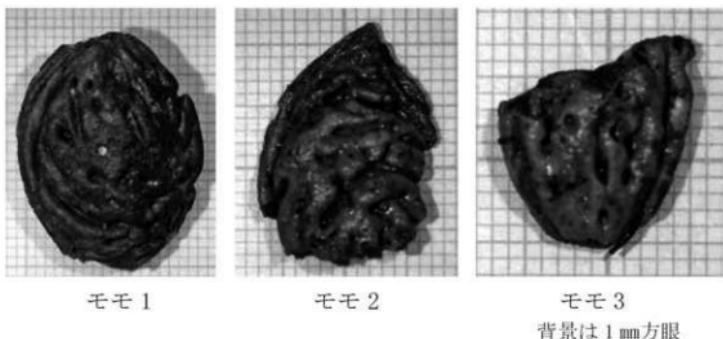
大国地頭所遺跡の発掘調査に伴い、AMS 年代測定、樹種同定、種実同定を実施した。この結果、以下の事柄が明らかになった。

- (1) AMS 年代測定値は、神谷寿貞による石見銀山の採掘開始（AD1526）から、大森奉行所から大森代官所への格下げ時期（AD1675）とほぼ重なった。
- (2) 樹種同定の結果、柱材のほとんどはクリで、シイノキ属類似、マツ属（複維管束亞属）：ニヨウマツ類がそれぞれ 1 試料であった。この結果は、既知の島根県内での中世後半～江戸時代にかけての柱の用材傾向と、一致するものであった。
- (3) 更に皿（漆器）はクリであった。この結果は、既知の島根県内での中世後半～江戸時代にかけての例物・挽物（椀・皿）の用材傾向と、一致するものであった。
- (4) 種実片は 3 個体から成り、いずれもモモであった。

## 【引用文献】

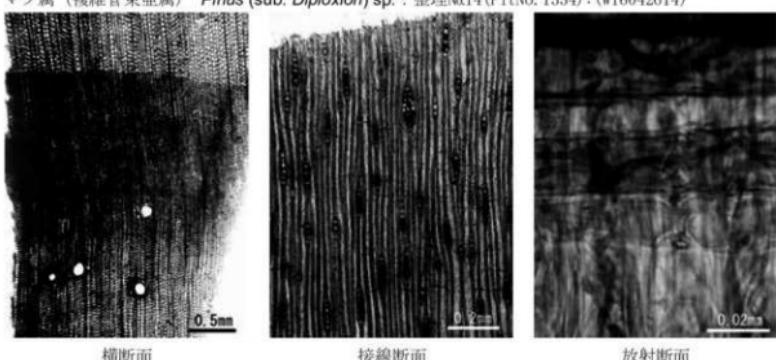
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 (1985) 木材の構造. 276p. 文永堂, 東京.
- 渡辺正巳 (2010) 木質遺物（埋没樹木）樹種同定. 必携 考古資料の自然科学調査法, 194-198. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳・中川 寧 (2013) 山陰の木製品の樹種と植生について. 木製品から見た古代のくらし, 37-48. 島根県古代文化センター.

## 種実同定写真

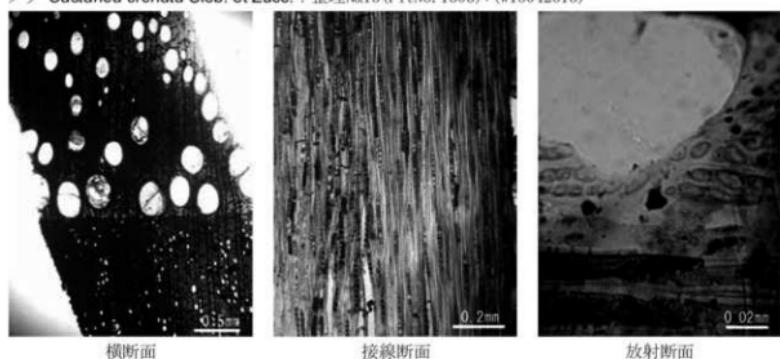


樹種同定顕微鏡写真

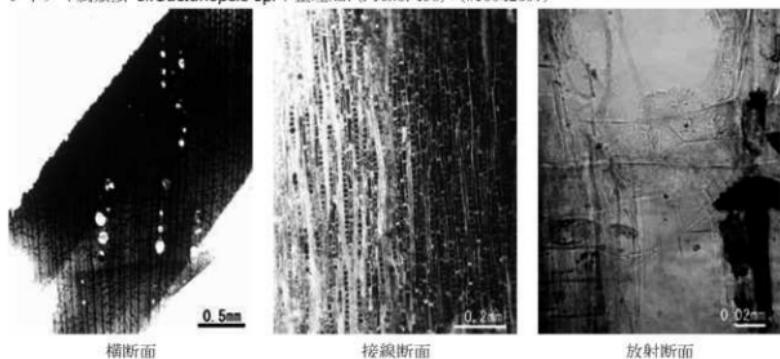
マツ属 (複維管束亞属) *Pinus* (sub. *Diploxylon*) sp. : 整理No.14 (Pit No. 1334) : (W16042614)



クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. : 整理No.13 (Pit No. 1303) : (W16042613)



シイノキ属類似 cf.*Castanopsis* sp. : 整理No.7 (Pit No. 498) : (W16042607)



## 第5章 総括

これまで、大国地頭所遺跡の発掘調査作業から整理作業において把握できた遺構や遺物について述べてきた。これらの成果に基づき、現段階で確認できた遺跡の変遷を整理し、遺跡の位置付けを行いたい。

### 第1節 大国地頭所遺跡の変遷

今回の調査において検出した遺構は、大きく弥生時代後期から古墳時代前期、古墳時代後期から古代、中世、中世末から近世に分けられた。

#### (1) 中世末から近世の様相

**遺構** 中世末から近世の遺構は、各地区で検出した。1区からSD03・04、3区からSD08、4区からSD09～11・13・14・102の溝跡、4区から礎石が確認できた<sup>①</sup>。SD03以外の溝跡は直線的で、主軸は北東から南東（N=30°～E）を測り、それに平行あるいは垂直に近い。礎石は、溝跡と同一面から検出されたが、一部は溝跡の上面から確認できた。礎石の残存が一部であり、建物を復元できず、さらに礎石の時期が不明のため、礎石と溝跡に時期差があるかは早急に判断できない。溝跡の時期は出土した遺物から17世紀初頭から中頃を中心とする18世紀前半までと考えられる。幅は30～60cm程度で、床面は北側から南側へ傾斜し、溝中には礫を充填していることから、暗渠状の排水溝の可能性がある。一方、SD03は土層観察から2時期あることが判明し、主軸が他の溝跡とずれており性格が異なっていた可能性もある。

また、周囲からは柱穴を検出し、柱根の一部についてはAMS年代測定を実施し、16世紀～17世紀中頃の結果が報告されている（第4章第2節）。明確な建物は復元できなかったが、溝を伴う掘立柱建物や礎石建物が存在した可能性が考えられる。潮川対岸の古屋敷遺跡からは、同時期の建物跡4棟、炉跡2基、石組遺構1基、土坑13基、溝跡2基が確認され（仁摩町1999）、遺跡の北側丘陵には、18世紀中頃の墓標が残る松林寺跡があり、周辺に居住・作業域が広がっていた可能性が考えられる<sup>②</sup>。

#### (2) 中世の様相

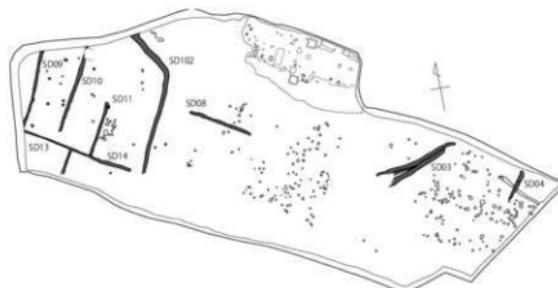
**遺構** 中世の遺構は溝跡、土坑、溝を作った石列、掘立柱建物跡等が検出された。遺物からある程度時期が判明する遺構は、1区からSD01・05、石積遺構、3区から石列2～4、SK08、4区からSK12、SD16、5区からSK17・18である。また、建物はほとんど復元できなかったが、柱穴の多くは検出面や出土遺物、埋土等から、中世と考えられる。柱根の一部はAMS年代測定を行い、16世紀から17世紀中頃の結果が出ている（第4章第2節）。

1区南東端で確認された石積遺構の性格は、土留め遺構と考えられ、その上面から中世以降の遺構

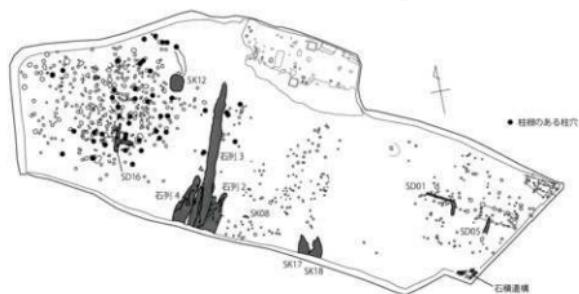
(1) 2区は擾乱が著しく、遺構から遺物が出土せず、時期は不明である。2区は丘陵を大きく削平し、平坦面を造成していることから、近世・近代以降の造成の可能性も考えられる。

(2) 遺跡南側に流れる潮川は、過去氾濫や蛇行を繰り返していたと考えられ、平野部に旧河道を確認することができる。当遺跡の南側で行った試掘確認調査においても砂層や礫を含んだ土層が確認され、洪水の影響を受けていたと考えられる。大国地頭所遺跡が集落として継続して存在したかは検討を要する。

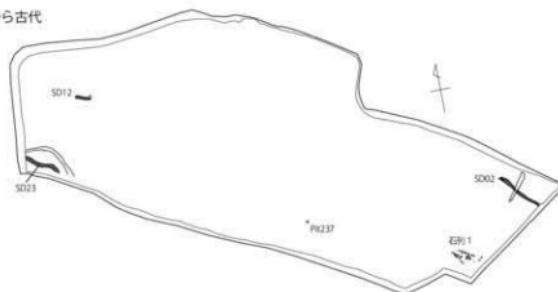
近世



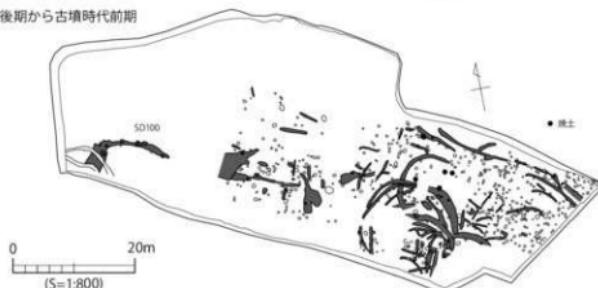
中世



古墳時代後期から古代



弥生時代後期から古墳時代前期



第106図 大国地頭所遺跡 遺構の変遷模式図 (S=1:800)

が検出され、下層からは古代の遺構が検出されたことから、石積遺構は中世前半に構築されたと考えられ、この時期、平坦面を大規模に造成していることが判明した。

そのほか、中世前半と考えられる遺構は SD01・05、SK08・17・18、石列2～4で、中世後半と考えられる遺構は SD16、石列2～4である。石列2～4の溝跡からは中世前半から後半の遺物が出土し、長期間継続していた可能性が考えられる。SK17・18は埋土から石材が多く検出され、溝跡から大量に石材が出土した石列2～4と同じ状況で、主軸も類似している。両遺構群の距離は20mを測る。石列2～4とSK17・18はそれぞれに切り合いがあり、同じ位置に石を多く含む溝状遺構を構築する必要性があったためと考えられる。性格は不明であるが、排水溝や区画溝、何らかの下部構造の可能性が考えられる。

石列3は長さ約24mを測り、調査区を2分する。石列3の西側から柱穴が多数検出され、切り合いで激しく、東側とは遺構の密度が異なり、石列3の西側はかなりの長期間、使用されていた。さらに柱穴の規模は、石列3の西側が大きく、柱穴内から石材が検出されたものも多く、石材は柱の根元を固定した「根巻き石」や不同沈下を防ぐための基礎石と考えられる。柱根は直径10～20cmを測り、平均約16cmと太く、他地域と比較検討することで建物跡の性格を推定できる可能性がある。

**陶磁器** 当遺跡からは数は少ないものの、11世紀後半から16世紀末の各時期の遺物が出土し、陶磁器について非掲載を含め集計した（第2表）。中国製青磁や白磁、備前、瓷器系陶器が多く、青花が少なく、大宰府分類や国立歴史民俗資料館等の分類を参考に、遺跡の時期を検討したい。

貿易陶磁器で見ると大宰府陶磁区分C期（11世紀後半から12世紀前半）は29点、D期（12世紀後半から13世紀前半）27点、E期（13世紀初めから13世紀後半）11点、F期（13世紀前半から14世紀前半）10点が確認でき、中世後期の15世紀20点、15世紀後半から16世紀前半29点、16世紀後半4点である。貿易陶磁器からみると14世紀は明確ではないが、東播系須恵器は12世紀中頃から13世紀前半、瓷器系陶器は13世紀後半から14世紀、備前は14世紀前半以降の形態が確認できる。総括すると、中世前半の12世紀から13世紀の遺物が一定量あり、一時的に出土量が減少し、15世紀から16世紀前半に増加し、16世紀後半以降減少している。

出土例の少ない陶磁器としては、青磁盤、白磁壺、青白磁、防長型瓦質土器と考えられる擂鉢、瓦質土器風がある。遺跡の性格を考える上で、以下、県下の事例を見たい。

**青白磁梅瓶** 大国地頭所遺跡からは青白磁梅瓶が出土した。県内では、夫敷遺跡（松江市東出雲町）で1点、天満谷遺跡（松江市大草町）で3点、鶴淵寺（出雲市別所町）で3地点6点、青木遺跡（出雲市東林木町）1点、円満寺遺跡（仁多郡奥出雲町）で1点、原田遺跡（仁多郡奥出雲町）で4点3個体、大国地頭所遺跡（大田市仁摩町）で1点、山根ノ下遺跡（益田市匹見町）で4点、森下遺跡（益

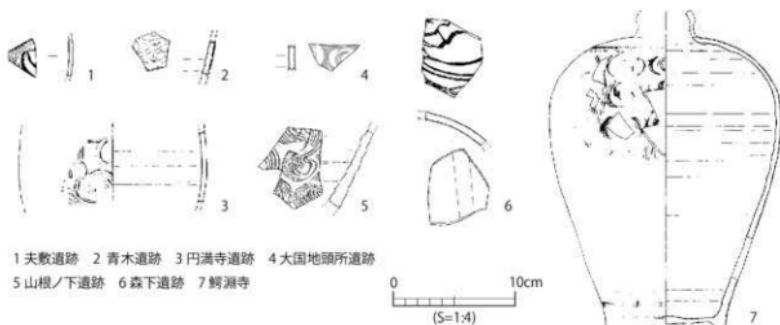
第2表 大国地頭所遺跡出土中世陶磁器集計表

青磁												白磁（磁・壺・皿・その他）																						
磁				三・糞・その他								磁				三・糞																		
昭	同	縫	B0	縫	B1	縫	B2	縫	B3	縫	B4	縫	C2	縫	D	縫	E	縫	不明	Ⅱ	N	V	V4	Ⅷ	N	XII	D	不明	Ⅱ	VII	D	E	壺・皿	不明
5	3	11	7	9	1	5	5	3	9	3	14	4	1	1	1	4	42	3	1B	3	4	2	1	3	1	12	1	4	4	5	9	17		
青花												青白磁																						
三・糞・その他				磁				新創陶磁器				古器				五貫土器				瓦質 瓦質土器				酒中世 瓦質土器				湯 湯器						
B1	B2	C	E	縫	不 同	縫	縫	小 器	本 他	和 同 目	和 同 目	白 磁	白 磁	白 磁	白 磁	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他	本 他			
1	1	1	2	1	1	1	2	24	5	1	2	6	3	2	6	13	6	3	3	1	9	2	3	16	24	44	24	5	2	9				

田市美都町)で2点1個体、の9遺跡23点が確認されている(第3表)。夫敷遺跡は出雲府中域に立地し、明確な遺構は確認されていないが、白磁壺・白磁高台抉入皿(D群)、龍泉窯系青磁蓮弁文碗B1類・雷文帶碗C2類・稜花皿・盤、古瀬戸瓶子、滑石製石鍋が出土し、13～15世紀に位置付けられ(島根県1983)、青磁盤や白磁壺、古瀬戸瓶子等奢侈品がある。天満谷遺跡は出雲國府跡に隣接した12世紀後半から13世紀の在庁官人の館や意宇川を介した水運の起点と想定されている(西尾・廣江2015)。円満寺遺跡は後背山頂には地域領主と考えられる布施氏の拠点である水手城跡がある。弘治3(1557)年の「三沢為清書状」に円満寺住持職之事(『覚融寺文書』)とみえ、16世紀中頃には存在を確認することができる。遺跡からは天目や備前壺、土師器皿等が出土している。円満寺遺跡に隣接する原田遺跡は、明確な遺構は確認されていないが、白磁壺あるいは水注、龍泉窯系青磁蓮弁文碗B1～B4類、雷文帶碗C2・C3類、端反碗D類、直口碗E類、白磁D群、青花碗B群、皿C群、青磁盤・蓋物・香炉、青釉小皿、美濃天目、小札等、14世紀後半から15世紀代を中心とした時期の遺物が出土している。周辺には「東垣内」、「竹ノ下」の字名があり、付近に館等が存在した蓋然性は高い(島根県2004)。山根ノ下遺跡や森下遺跡は出土遺物や掘立柱建物跡から在地領主の館と指摘されている(佐伯・西尾2015)。全国の青白磁梅瓶を検討した内野正によると、鎌倉時代を中心に日本にもたらされた青白磁梅瓶は、鎌倉を中心に東北から九州まで出土し、搬入の盛期は13世紀後半～14世紀前半とされる(内野1992)。さらに、出土遺跡の性格は城館や邸宅、寺院関

第3表 島根県内出土の青白磁梅瓶

遺跡名	挿図番号	所在地	調査区	破片数	報告書	挿図番号
夫敷遺跡	1	松江市東出雲町		1	島根県(1983)	8図5
天満谷遺跡		松江市大草町		3	西尾・廣江(2015)	表
鰐淵寺	7	出雲市別所町	A42 洞雲院跡採集	1		図版9-41
		出雲市別所町	等澍院南区 SK208	1	出雲市(2015)	112図4
		出雲市別所町	等澍院南区	3		116図15
		出雲市別所町	A64 本坊北側採集	1		図版9-42
青木遺跡	2	出雲市東林木町	I B 区	1	島根県(2004)	69図584
円満寺遺跡	3	仁多郡奥出雲町		1	奥出雲町(2005)	9図12
原田遺跡		仁多郡奥出雲町	1区	4	島根県(2004)	カラー図版2-15～18
大国地頭所遺跡	4	大田市仁摩町	5区	1	本書	103図15
山根ノ下遺跡	5	益田市匹見町		4	匹見町(2001)	19図43
森下遺跡	6	益田市美都町	3 A 地点	2	美都町(2004)	10図23



第107図 島根県内出土の青白磁梅瓶(S=1:4)

係が多く、16世紀代まで伝世された可能性がある事例も存在するという。

島根県内出土遺跡を検討すると、鰐淵寺や円満寺遺跡の寺院、夫敷遺跡、天溝谷遺跡、青木遺跡、山根ノ下遺跡、森下遺跡は在庁官人や地域領主の館と考えられており、全国的な出土遺跡の性格と一致している。時期については、包含層出土品が多く、明確にできないが13世紀から15世紀の遺物が出土する遺跡が多い。大国地頭所遺跡は12世紀から13世紀と15世紀から16世紀の遺物が一定量確認でき、この時期に該当すると考えられる。

**瓦質土器** 瓦質土器には鉢、火鉢、擂鉢、風炉があり、擂鉢は口縁部が内側に肥厚する防長型瓦質土器と考えられる（岩崎1988・1990）。防長型瓦質土器には脚が付く鍋と擂鉢があり、大国地頭所遺跡からは口縁部が肥厚する擂鉢のみ出土している。周辺からはコラスミ遺跡（仁摩町1998・1999）と原田遺跡（仁摩町2001）、善興寺橋遺跡（仁摩町2005）、石見銀山遺跡市場地区、安田家地點第3面から出土している（新川2013）。石見における大内式土師器について検討した大庭康時は、防長型瓦質土器との関連についても検討している（大庭2018）。それによると大内式在来系土師器皿が出土した遺跡においては、防長型瓦質土器の出土もあるが、防長型瓦質土器が出土するからといって大内式在来系土師器皿が出土するとは限らない。大内式在来系土師器皿の供給先が限られているのに比べ、防長型瓦質土器は日常雑器で広く流通していると想定している。新川隆は防長型瓦質土器の石見銀山遺跡周辺での出土分布から当時邇摩郡は大内氏の勢力下にあり、そうした背景の元に持ち込まれたと想定している（新川2013）。防長型瓦質土器うち、足鍋は益田市周辺からのみ確認され（岩崎2007）、擂鉢は前述のとおり大田市仁摩町周辺、安来市富田川河床遺跡（藤原2009）、松江市西川津遺跡（島根県2000）等出雲東部からも出土している（西尾他2011）。当地は備前擂鉢が主体的に分布する地域であり、出土量の極めて少ない防長型瓦質土器の性格は、分布の中心である山口市や益田市周辺と同様に単純に商品や広域流通品と考えてよいか、個別の事情があるのか、出土地周辺の歴史的背景も含めた検討が必要である。

**周辺遺跡の様相** 仁万平野には多くの中世遺跡があり、陶磁器が出土している。そのうち報告書に掲載されている貿易陶磁器を集計したものが第4表である。11世紀後半～12世紀前半の白磁（碗II・IV・

第4表 仁万平野の中世陶磁器消長表

	青磁				白磁				青花				その他										
	同安窯系 龍泉窯系 磁器一類	蓮井文鏡 B1群	蓮井文鏡 B2群	蓮井文鏡 B3群	蓮井文鏡 B4群	蓮井文鏡 B5群	直口無文鏡 B6群	雷文帶鏡 B7群	その他 不明	碗II・IV V類等	碗V-4類	碗VII類	碗IX類	皿D群	皿E群	皿C群	皿B2群	皿E群	その他 不明	華南系 高麗 磁器	中国 陶器	朝鮮 陶磁器	
仁万大橋遺跡	○									○	○								○				
善興寺橋遺跡	○	○	○			○	○		○	○				○								○	
白石遺跡	○	○	○			○			○	○				○	○								
清石遺跡	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○						
入石遺跡	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○					
千後田遺跡	○	○	○			○				○	○	○	○	○	○	○	○	○					
京原円通跡	○					○	○	○									○						
ヒヨトリケ市遺跡						○	○												○				
コラスミ遺跡						○				○	○									○			
大月遺跡	○					○	○			○	○								○				
孫四田遺跡		○																	○				
五丁遺跡	○																		○	○			
庵寺遺跡										○	○							○					
古屋敷遺跡	○	○								○	○							○					
古市遺跡	○	○								○	○							○					
大国地頭所遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

V類等)は各遺跡から出土し、次の龍泉窯系青磁碗I類や同安窯系青磁、白磁碗V-4類も継続している<sup>33)</sup>。その後、京円原遺跡や大月遺跡、古屋敷遺跡等、一時的に貿易陶磁器が出土しない遺跡がある。その後、白磁D群や龍泉窯系青磁碗D・E・C2類等15世紀代の遺物が各遺跡から再び出土し始め、15世紀後半から16世紀前半頃に出土する龍泉窯系青磁碗B4類が京円原遺跡、コヲヌミ遺跡、千後田遺跡、大月遺跡等限られた遺跡から確認されている。16世紀前半の青花が出土する遺跡は少なく、11世紀後半から16世紀まで継続して貿易陶磁器が搬入された遺跡はない。大国地頭所遺跡は龍泉窯系青磁碗B4類や青花も出土し、11世紀後半から出土量の増減はあるものの継続して出土している点が特徴である。

16世紀前半には石見銀山遺跡の再発見があり、以後東アジアを含め交易が活発になる時期であり、石見銀山遺跡周辺から遺物の出土量や出土遺跡が増えてもおかしくないが、石見銀山遺跡自体16世紀前半の遺物がほとんど確認できない(新川2013)。当遺跡は仁万平野から石見銀山遺跡へ向かう街道沿いに位置し、周囲には大内義興が永正14(1517)年に建立した石見八幡宮や世界遺産である石見城跡が存在する(鳥根県他1999)。調査地が位置する字「地頭所」は東西95m、南北25~35mの範囲で、中世の遺構が集中する石列3以西の区画は東西35m、南北25mを測る。一辺160m四方の大内氏館跡や東西約190m、南北約110mの三宅御土居跡など「守護」や「大国人層」の館跡と比較すると小規模である。「地頭」クラスの館跡の遺構や出土遺物は、明確ではない。一方、周辺には大田市五十猛町地頭所嘉庭、邑智郡美郷町地頭所など「地頭所」の地名が残り、これらの周囲には河川や山城があり、大国地頭所遺跡との共通点も多い。石見地域は大きな勢力が育たず、小規模な国人層が林立していたといわれ、地名はそれらの館跡由来との想定も可能である<sup>34)</sup>。大国地頭所遺跡はこのような景観や青白磁梅瓶や「大」の刻書を持つ硯等の特徴的な遺物や継続した遺物の出土から、地域の有力者の屋敷地として継続的に使用されて可能性が考えられる。

### (3) 古墳時代後期から古代の様相

**遺構** 古墳時代後期から古代の遺構は少なく、1区からSD02、石列1と土器群1・5、3区からPit237、4区からSD12・23の溝跡が確認できた。しかし、当該期の遺物は多く出土し、Pit237からほぼ完形の須恵器平瓶が出土する等、柱穴には古墳時代後期から古代のものが存在していたと考えられる。1区では中世の造成上下から土器群1が確認され、幅約3m、長さ約11.5mの帶状に土器が重なり合いながら出土した。土器を取り上げると石列1が検出された。石列1の性格は不明である。土器群1の遺物は須恵器や土師器、製塙土器、土製支脚、移動式竈、管状土錘、鉄生産関連遺物、耳環等が確認され、手捏土器が一定量出土した。須恵器は6世紀末の石見4期から8世紀末~9世紀初の石見9B期に該当する(柳原2010)。土師器は甕が多く、外面に煤が付着したものや二次的に激しく被熱したものを含んでいる。これらの遺物は、斜面が急になる場所から出土しており、流れ込みあるいは、廃棄・投棄・集積された可能性が考えられる。潮川が平野の手前にある丘陵にぶつかり、流れをL字状に大きく湾曲させる外側、攻撃面に遺跡は存在する。また、遺跡からは灌漑水路や水源、道路遺構は検出されなかったが、北側丘陵上には岩盤が露出し、東側には三角形を呈する石見城跡が

(3) 保元3(1158)年の石清水八幡宮文書には石見国大國保がみえ、範囲は不明ながら莊園とし開発されていたことがわかる。

(4) 江戸時代にも地域の有力者を地頭と呼んでいたともいわれており、地名の由来や成立時期は不明であるが、地域の有力者の存在が地名由来の一因である可能性は高いと考えられる。

存在する。立地や祭祀遺物の出土、多量の土器集積から水辺の祭祀遺跡を検討されているが（笛生2016）、当遺跡については祭祀後の痕跡とを考えることができるかは、周辺の遺跡を含めたさらなる検討が必要である。

**把手付鉢** 土器群1から把手付鉢が2個体出土した（第43図10・11）。口縁部は内傾し、脇部は下膨れで、把手が1箇所に付く。把手は端部が上方に立ち上がり、底部は広い平坦面を持つ。外面には煤が付着する類例が乏しい遺物である。出雲市御崎谷遺跡加工段3から脚付きの把手付鉢が出土し、時期は古墳時代後期である（島根県2009）。大田市諸友大師山横穴墓群1群2号穴から把手が欠損し、口縁部が外反する鉢が古墳時代後期の須恵器と共に出土している（大田市1983）。福岡県安武・深田遺跡では古墳時代後期の41号竪穴建物跡から口縁部が直線的に広がっている把手付鉢が出土している（福岡県1991）。形態はそれぞれ異なるが古墳時代後期であり、当遺跡の土器群1と重なる。また、古墳時代後期の把手を持つ須恵器が浜田市下長屋遺跡（金城町1983）や安来市穴神3号穴（島根県1995）から出土している。寺井誠によれば、慶尚南道南西部を中心に分布する6世紀前半の加耶土器に把手付鉢があり、把手も直線的伸び先端が短く曲がるものや藪手状になるもの、短く藪手状に仕上げるもの等バリエーションが存在するという（寺井2009）。周辺の類例では当遺跡出土品と全く同じ形態のものは確認できなかったが、器形的に朝鮮半島から日本列島に伝わり、各地に広がり、模倣されたのではないだろうか。外部から搬入された土器は壺等の貯蔵具が多いが、当遺跡の鉢は、胎土も他の土器と違和感なく、外面に煤が付着していることから煮沸具として実用的に使用された在地産と考えられる。

**鉄生産関連遺物** 土器群1を中心に、包含層から鉄生産関連遺物が出土し、第5表に集計した。羽口は小片が多いが、孔径1.5cmを測るものがある。先端はガラス質になっている。ガラス質滓は102.46gあり、羽口の先端か炉壁片や鉄滓片かは不明。鍛冶炉炉壁と炉壁と分類したが、明確でなく、被熱した土や焼土片を含んでいる可能性がある。鍛冶滓は8.013.18g出土し、鉄化したものが6.650gと約83%を占める。鉄塊系遺物は一部X線撮影ができず、製品を含んでいる可能性もあるが、メタル度H（○）が1点、L（●）が3点の計4点確認され、計624.46gを測る。土器群1は古墳時代後期から9世紀の土器が出土していることから、鉄生産関連遺物の多くは同時期と考えられる。周囲からは炉跡は確認されておらず、土器の出土状況から周辺からの廃棄あるいは流れ込みと考えられる。今回、分析を実施していないため、鍛冶原料や工程を復元することはできなかったが、調査区の周辺で精錬鍛冶や鍛錬鍛冶等の作業が行われていたと想定できる。

第5表 大国地頭所遺跡出土  
金属生産関連遺物種別計量表

種別	メタル度	重さ(g)
羽口		1,950.97
鍛冶炉炉壁？		61.31
炉壁？		880.86
ガラス質滓？	なし	102.46
鍛冶滓	なし	1,363.18
鍛冶滓	鉄化	6,650.00
鉄塊系遺物	H（○）	265.54
鉄塊系遺物	L（●）	358.92

重量については土砂等が付着しているものがある  
鉄塊系遺物の一部は鉄製品の可能性がある

#### （4）弥生時代後期から古墳時代前期の様相

**遺構** 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、溝跡、土坑、焼土がある。出土遺物や検出面から時期が判明する遺構は、1区2面の溝跡、土坑、焼土、ピット、3区2面の溝跡、ピット、4区SD100、5区2面の溝跡やピットである。土器群3・4・6・7・8・9は当該期の遺物である。土器群6・7は草田3期から小谷2式までの土器が含まれ、あわせて自然礫や地山ブロックが混ざる。

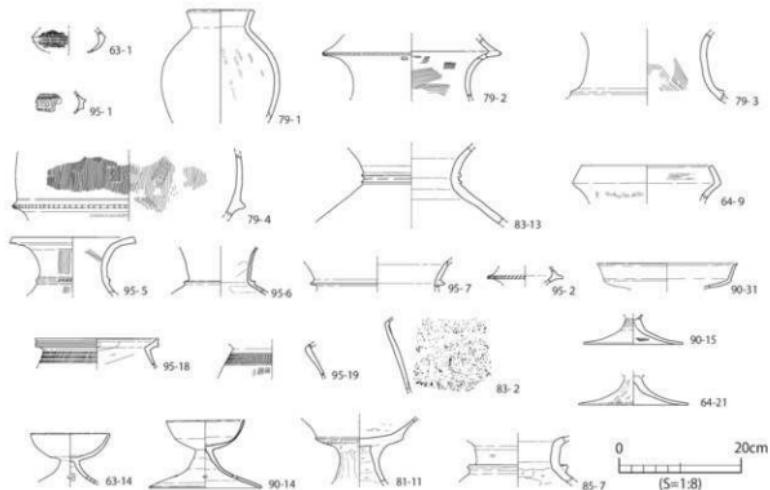
（5）集計作業は島根県古代文化センター東山信治専門研究員の指導を得た。

斜面から平坦面に傾斜が変わる場所から出土していることから、地滑りにより斜面上方から滑り落ちた可能性が考えられる。

溝跡は直線的なものと弧状を呈するものがある。直線的な SD27・29・40・41・103 は等高線に平行で、北側の斜面から平坦面に傾斜が変わる場所に位置する。これらの溝跡の南側に平坦面が広がり、弧状を呈する溝跡やピットが検出された。弧状の溝跡は切り合いにより SD62 が SD63 や SD71 より古く、SD52 が SD59・60 より古く、溝により時期差が存在している。これら弧状の溝跡の性格は断定できないが、建物に伴う周溝の可能性がある（岡本 2006）。しかし、弧状の内側から竪穴建物跡は未検出である。一方、溝跡を検出した面から焼上面を確認していることから、竪穴建物跡が削平され、周溝の一部が残存している可能性は低いと考えられる<sup>(7)</sup>。可能性として考えられることは平地式建物に伴う周溝である。弧状の溝跡は山側に存在し、平地側（南側）は開放している。直径は SD63 や SD68 が約 13m、SD62 が約 10m ほどである。SD62 の内側には焼土 4・9 がある。溝跡の直径は、弥生時代後期前半の松江市勝負遺跡 SI01 の周溝や後期後半の勝負遺跡 SI14 に伴う SD08 と同規模である（鳥根県 1992）。今回、切り合いやピットの数が多く、溝跡とピットの関係は明確にできず、建物跡は復元できなかった。

その他、特徴的な溝跡として、SD61 は溝内にピットを作り、布堀建物跡の可能性もあるが、対になる溝跡がなく、性格は不明である。

**非在地系土器** 当遺跡からは弥生時代後期から古墳時代前期の土器を中心に弥生時代中期から古墳時代前期の土器が出土し、その多くは在地産の土器と考えられる。その中に非在地系と考えられる土器が含まれており、集成したものが第 108 図である。



第 108 図 大国頭所遺跡出土の非在地系土器 (S=1:8)

(6) 周辺は地滑り防止区域であり、北側斜面に位置する松林寺遺跡の調査でも地滑りが確認されている。

(7) 調査区南側から検出された溝跡等の構造は深さが浅く、上面が削平されている可能性が高い。

(8) 非在地系や在地系とした場合その範囲を議論すべきであるが、今回は「石見地域であまりみない形態の土器」程度とする。

**台付装飾壺** 第63図1、第95図1は、「台」部分は確認されていないが、松井潔により「台付装飾壺」とされたものである（松井2013）。弥生後期中葉前半に確立する台付装飾壺は因幡地域を中心に分布し、西は壱岐市、東は富山市に至る日本海沿岸で確認されている。石見地域では江津市高津遺跡、大田市川合遺跡から出土しているといい、当遺跡はその間に位置する。

**北部九州・豊前～長門系** 第79図1～4、第83図13、第64図9、第95図2・5～7、第90図31の11点が確認できる。また、第76図4、5は内傾する口縁部に2～3条の四線を持ち、北部九州系土器の可能性がある。第79図1の直口壺や第79図2～4（同一個体の可能性がある）、第64図9の内傾口縁壺は胎土に白色の小砂粒を多く含み、後期後葉の下大隈式と考えられる。第79図2～4は茶褐色の色調であり、北部九州地域の土器と胎土や色調が類似し、搬入品の可能性が高い。<sup>9)</sup> 第64図9は搬入品と考えられている山持遺跡6区出土の北部九州系の土器（第49図1、2）と胎土や色調が似る（島根県2009）。一方、器形は豊前から長門系の土器の器形に類似するが、胎土は在地の土器と同じものがあり、全てが搬入品と考えることは難しい。時期は弥生時代後期後葉から終末が多いと考えられる。第90図31が高坏で、他は壺である。山陰地域から出土する豊前から長門系の土器は壺が多いことは以前から指摘され、当遺跡も同様であり、貯蔵容器として持ち込まれた可能性が考えられる。

**中国山地系** 第83図2、第95図18・19は塙町式系の壺である。中国山地の弥生時代中期後半と考えられる塙町式は仁万平野の孫四田遺跡（仁摩町1999）と川向遺跡（仁摩町1993）からも出土している。

**畿内系** 第63図14、第64図21、第90図14・15は脚部が低く大きく広がり、环部が丸みを持ちながら立ち上がる低脚环である。

**非在地系** 第81図11の高环や第85図7の壺はこの地域でみない器形である。

その他、非在地系土器ではないが、土器の胎土に2～5cm程度の白色粘土を含む土器が散見された。掲載した土器はSD28出土の第62図8・9、SD98出土の第66図11、土器群7出土の第86図5、第87図12、第89図21、第90図4、段1出土の第93図21、包含層出土の第96図4である。第89図21が鼓形器台、第90図4が低脚环である他は壺であり、器種としては、壺が多い。時期は草田6期を中心に、草田5～6期に集中している。白色粘土を含むこと以外の胎土の特徴や土器の色調は、器形は在地の土器と変わりがない。

以上を整理すると、弥生時代中期後葉には中国山地の塙町系土器があり、弥生時代後期から因幡地域の台付装飾壺や北部九州、豊前から長門系の土器が確認される。その後、古墳時代前期にかけて、畿内系の土器を確認することができ、時代により異なる地域から土器が搬入され、模倣していることが分かる。今後、周辺地域の非在地系土器の様相や当遺跡から多く出土している「く」の字単純口縁を持つ壺の出自等を検討することで、仁万平野の弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡の位置付けを行うことができると考えられる。

**赤色顔料付着土器** 今回の調査では、赤色顔料が付着した弥生時代後期から古墳時代前期及び古代の

(9) 福岡大学武末純一氏、山口大学田畠直彦氏のご教示による。

(10) 白色粘土を含むことは、土器の生産地を検討する上で、有効な指標となりえるかは、周辺の土器と比較して検討していく必要がある。

(11) 中川（2013）により「費B」と仮称され、出雲市吉本郷遺跡、川本町沖太遺跡、益田市浜寄地方遺跡等中国四国地方でみられる布留形壺に類似したものと考えられる。

第6表 赤色顔料付着土器

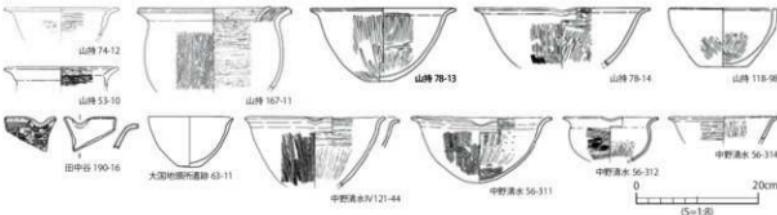
遺跡名	調査区遺構	発掘番号	種別	種類	分析箇所	検出元素	結果
神原古社古墳	埋納坑	第 17 号 -1	古式土器群	直口壺	内側	Fe	ベンガラ
神原古社古墳	埋納坑	第 17 号 -2	古式土器群	直口壺	外側	Fe	ベンガラ？
神原古社古墳	埋納坑	第 17 号 -3	古式土器群	直口壺	内側	Fe	ベンガラ？
神原古社古墳	埋納坑	第 17 号 -4	古式土器群	縁	内側	Fe	ベンガラ？
神原古社古墳	埋納坑	第 19 号 -1	古式土器群	直口壺	内側、外側	Hg, Fe, S	朱とベンガラ
神原古社古墳	埋納坑	第 19 号 -2	古式土器群	直口壺	内側	Fe	ベンガラ
神原古社古墳	埋納坑	第 19 号 -3	古式土器群	縁	内側	Fe	ベンガラ？
佐渡山古墳群	1号墳第6主体	第 24 回	古式土器群	円筒形台形土器	複数土器器外	Si, Fe, K	ベンガラ
田中古道跡	第 190 回 -16	共生土器	片口鉢	口縁部内面	Hg, S	水銀朱	
里上・上野跡	第 61 号 -12	共生土器	肩口壺	底部内面	Hg, S, Fe	水銀朱	
中野古道跡	4 区	第 56 回 -311	古式土器群	片口鉢	内面	Hg, S	水銀朱
中野古道跡	4 区	第 56 回 -312	古式土器群	片口鉢	内面	Hg, S	水銀朱
中野古道跡	4 区	第 56 回 -314	古式土器群	縁	内面	Hg, S	水銀朱
中野古道跡	IV 区	第 121 回 -44	古式土器群	片口鉢	内面	Hg, S	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 66 回 -1	共生土器	縁	底部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 66 回 -18	共生土器	縁	底部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 68 回 -23	共生土器	無縁壺	底部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 68 回 -33	共生土器	深鉢形壺	体部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 69 回 -39	共生土器	肩形器台	底部内面	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 69 回 -39	共生土器	肩形器台	側面土質	Fe, Hg	水銀朱付着？
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 71 回 -59	共生土器	肩形器台	側面土質	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 72 回 -64	共生土器	肩台	底部内面	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 1 主体	第 74 回 -72	共生土器	高环	底部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 4 主体	第 79 回 -12	共生土器	縁	底部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 4 主体	第 80 回 -26	共生土器	縁	体部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 4 主体	第 84 回 -127	共生土器	肩形器台	底部内面	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 4 主体	第 84 回 -142	共生土器	肩形器台	内面	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 4 主体	第 87 回 -159	共生土器	肩台	口縁部外周	Hg	水銀朱
西谷 1 号墓	第 4 主体	第 87 回 -159	共生土器	肩台	側面土質	Fe, Hg	水銀朱付着？
西谷 1 号墓	第 105 回 -205	共生土器	高环	底部内面	Hg	水銀朱	
西谷 1 号墓	第 105 回 -214	共生土器	高环	底部内面	Hg	水銀朱	
西谷 1 号墓	第 106 回 -225	共生土器	組合環	底部外周	Hg	水銀朱	
西谷 1 号墓	第 106 回 -228	共生土器	組合環	底部外周	Hg	水銀朱	
矢羽野跡	D 区	第 301 回 -13	共生土器	台形鉢	内面、外周	ベンガラ	
矢羽野跡	D 区	第 301 回 -14	共生土器	台形鉢	内面、外周	ベンガラ	
矢羽野跡	B 区	第 363 回 -7	共生土器	肩形器台	外周	ベンガラ	
矢羽野跡	B 区	第 363 回 -10	共生土器	肩形器台	外周	ベンガラ	
山持跡	1 区	第 74 回 -12	土師器	縁	内面	Hg, S	水銀朱
山持跡	II 区	第 167 回 -11	共生土器	片口鉢	内面	Hg, S	水銀朱
山持跡	4 区	第 97 回 -7	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	4 区	第 107 回 -14	共生土器	肩形器台	内面、外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	4 区	第 109 回 -2	石點品	砾石	使用目的のある赤色部分	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 17 回 -24	共生土器	縁	内面、外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 18 回 -1	共生土器	高环	内面、外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 18 回 -12	共生土器	高环	内面、外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 18 回 -13	共生土器	肩台	内面、外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 18 回 -15	共生土器	高环	外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 19 回 -4	共生土器	高环	内面、外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 18 回 -8	共生土器	肩台	内面、外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 19 回 -10	共生土器	肩台	内面、外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 19 回 -12	共生土器	縁	外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 20 回 -3	共生土器	試物壺	外周内壁	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 20 回 -6	共生土器	縁	内面、外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 20 回 -7	共生土器	肩形器台	外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 53 回 -9	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 53 回 -10	共生土器	縁	内面、口縁部、外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 59 回 -8	共生土器	肩	外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 63 回 -9	共生土器	肩形器台	内面、外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 64 回 -9	共生土器	低脚环	内面	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 64 回 -15	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S, Fe	水銀朱
山持跡	6 区	第 14 回 -9	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 15 回 -4	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 26 回 -2	共生土器	縁	外周	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 30 回 -47	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 31 回 -4	石點品	石片	赤色部分	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 79 回 -13	古式土器群	縁	内面	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 79 回 -14	古式土器群	片口鉢	内面	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 102 回 -10	石點品	石片	縫隙	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -80	共生土器	深鉢形壺	内面	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -81	共生土器	深鉢形壺	外周	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -83	古式土器群	肩形器台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -97	古式土器群	縁	内面	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -98	古式土器群	縁	内面	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -99	古式土器群	縁	内面	Hg	水銀朱
山持跡	6 区	第 118 回 -100	古式土器群	縁？	内面	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 119 回 -106	古式土器群	高环	内面	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 120 回 -125	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 120 回 -127	共生土器	肩形器台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 127 回 -31	共生土器	縁	内面	Fe	ベンガラ
山持跡	6 区	第 127 回 -33	共生土器	深鉢形壺	内面	Hg, S	水銀朱
山持跡	6 区	第 127 回 -36	共生土器	肩	内面	Fe	ベンガラ
山持跡	7 区	第 178 回 -5	共生土器	肩台	外周	Hg, S	水銀朱
山持跡	7 区	第 184 回 -21	共生土器	縁	内面	Hg, S	水銀朱
山持跡	7 区	第 202 回 -5	共生土器	肩台	外周	Hg, S	水銀朱

土器が出土した。その一部について赤色顔料の成分分析を蛍光X線分析により行い、その結果を第4章第1節に掲載した。弥生時代後期から古墳時代前期の土器はベンガラと水銀朱を、古墳時代後期から古代と考えられる土器はベンガラを確認した。

古墳の主体部や遺物に付着した赤色顔料を分析した島根県の事例が集成され（風土記の丘1990、松江市1994）、近年も縄文時代から古代の土器に付着した赤色顔料の分析が行われてきた（柴崎2009）。赤色顔料はベンガラや水銀朱が由来で、一部の水銀朱は中国製との結果も出ている（南2014）。

分析した資料には内面に水銀朱が付着していた鉢がある（第63図11）。鉢は片口を持ち、外面上には煤が付着する等「内面朱付着土器」とされたものと考えられる（本田1994、大久保1995）。県内では第109図のように、出雲市山持遺跡（柴崎2007、上山2010）、同市中野清水遺跡（柴崎2006）、松江市田中谷遺跡（柴崎2006）等から確認されている。山持遺跡第167図11は外反する口縁部の内面に粘土帯2条を貼り付け、注口を作り出している（島根県2007）。他の鉢は口縁部が外反し、一部が片口状を呈し、狭い平底を持つものが多い。また、山持遺跡の鉢にも外面上に煤が付着する。山持遺跡第167図11は形態が他と異なる上、時期が弥生時代後期前葉で、島根県では最古級に位置付けられる。その他の山持遺跡や中野清水遺跡の土器は弥生時代後期から古墳時代前期のものが多い。煤が付着する点や時期等、当遺跡出土品と重なる点が多い。山持遺跡と中野清水遺跡では水銀朱が付着した磨石も出土し、周辺で水銀朱の精製等の作業を行っていた可能性が指摘されている。当遺跡からは水銀朱付着の磨石は確認されていないが、同様な作業を行なっていた可能性も想定される。また、時期は異なるが、潮川の対岸に位置する庵寺古墳群の主体部から水銀朱やベンガラが検出され（南2014、上山2014）、仁万平野においても集落だけでなく、古墳からも水銀朱が確認されている。

赤色顔料が付着した土器は、弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓や出雲平野等の集落から確認されている（第6表）。赤色顔料の付着した土器を全て集成したわけではないが、山持遺跡や中野清水遺跡等出雲平野でも弥生時代後期から古墳時代前期の遺物量が多い遺跡から出土している。同時期の遺跡から必ず出土するわけではないよう、出雲平野で見た場合、「内面朱付着土器」や朱付着の磨石、赤色顔料の付着した土器が出土している遺跡は、集落規模が大きく、非在地系土器が出土している遺跡である。当遺跡からは北部九州や豊前から長門系の土器、畿内系の土器等が確認され、後述するが、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物もまとめて出土した。これらの点から周辺の発掘調査事例は少ないものの、仁万平野の拠点集落の1つと想定しておきたい。



第109図 赤色顔料付着土器 (S=1/8)

**周辺遺跡の様相** 潮川の対岸に位置する庵寺古墳群から弥生時代後期の建物跡や加工段が検出されている。弥生時代中期末に丘陵の開発が行われ、後期前葉に建物跡や加工段が構築され、草田3期の遺構はなく、草田4期は加工段27のみで、遺構数は減少する。谷部からは後期前葉から後期末までの土器が継続して出土しているという（島根県2014）。一方、大国地頭所遺跡では弥生時代中期からの遺物が出土し、弥生時代後期後葉（草田3期）から増加し、古墳時代前期前葉（小谷2期）まで一定量確認でき、古墳時代前期後葉以降減少している。庵寺古墳群の弥生集落と一時期併存している。庵寺古墳群は丘陵上に、当遺跡は平地に立地し、立地や遺物の出土量の違いがあり、その要因については今後の課題である。

以上、弥生時代後期から古墳時代前期について特徴的な事項について検討してきた。切り合いを持つ溝跡、非在地系土器や内面朱付着土器、鉄製品（第50図4）の存在、遺物の出土量等から当遺跡は仁万平野の拠点集落の1つと考えられ、石見地域の集落を検討するうえで、今回の調査の意義は大きいと考えられる。

## 第2節 その他の遺物の概要

**遺物の出土量** 今回の調査ではコンテナ（545×336×150mm）に換算して、229箱の遺物が出土した。内訳は、掲載は土器・土製品66.5箱、鉄器1箱、陶磁器0.5箱、石器3箱、木製品11.5箱、非掲載品は弥生土器中期0.5箱、弥生土器後期～古式土師器68箱、古墳時代後期から古代土師器・土製品32箱、須恵器5箱、中世土師器4箱、陶磁器3箱、石器4箱、木製品2箱、金属製品関連遺物1.5箱、試掘確認調査2箱、その他24.5箱である。コンテナ数からは、弥生時代後期から古墳時代前期の土器が最も多い。縄文土器はなく、弥生時代中期の土器が僅かに出土している。明確な遺構は確認できていないが、遺跡は弥生時代中期から始まり、弥生時代後期から古墳時代前期に盛期を迎える。古墳時代中期には一旦衰退するが、古墳時代後期後葉（石見4期）から遺物量が増加し、盛衰はあるものの中世を通じて遺物が出土する。江戸時代以降も遺物は出土しており、現在まで居住域として使用されていたことが判明した。

**石器** 大国地頭所遺跡からは第7表の石器が出土している。縄文土器が出土せず、弥生時代中期以降の土器しか出土していないことを考えると石器自体も弥生時代中期以降の蓋然性が高いと考えられる。黒曜石は9点出土しているが、多くは隱岐の島町の久見産の可能性が高い。隣接する縄文時代晚期を中心とした遺跡である古屋敷遺跡からはほとんど黒曜石は出土していない。磨石・敲石・凹石は36点出土し、凝灰岩や安山岩が多用されている。磨製石斧は6点確認され、安山岩、塩基性片岩や頁岩が使用され、古屋敷遺跡の傾向と同じである。

砥石は時期不明なものが多いが、形態は類似し、硯と同材を使用していることから、砥石の多くは中世の可能性がある。砥石は砂岩1点、安山岩1点、それ以外は変質した凝灰岩と思われる石材が使用されている<sup>12)</sup>。縄文時代の主体とする古屋敷遺跡の砥石は砂岩や流紋岩、凝灰岩等が使用され、傾向が全く異なり、時代や用途により石材の使い分けがあったと考えられる。中世では砥石は広域に動いていることも指摘されており、今後、硯と同様に中世のものの動きを復元することが可能である。石

(12) 石材の鑑定は島根県立三瓶自然館中村唯史氏のご教示による。中村氏より、砥石や硯に使用されている石材は変質した凝灰岩としたが、流紋岩の可能性も指摘された。デイサイトと安山岩の区分も目視によるものである。

白は緑色火山礫凝灰岩（通称福光石）が1点、凝灰岩が2点出土した。前者の使用は江戸時代以降の可能性がある。柱穴の下層に置かれた礫盤石は流紋岩や凝灰岩が使用されている。有孔円盤（第105図17）あるいは有孔石製品（第105図18）や表のみ掲載の石4・12・13・64は白色で軟質な凝灰岩が使用されている。古屋敷遺跡では同様の石材を使用した線刻巖や穿孔された巖が出土しており（島根県2017）、その関連について詳細な比較検討が必要である。表のみ50や106は明確に石器として認定できないが、黒色を呈する石材が使用されている。潮川や周囲から産出せず、円礫度が進み海岸等に存在した可能性が高く、遺跡に持ち込まれた可能性がある。

第7表 大国地頭所遺跡出土石器集計表

	黒曜石	玉髓	流紋岩	ディサイト	安山岩	凝灰岩	砂岩	緑色凝灰岩	凝灰岩	変質した 火成岩	碧玉	珪化木	花崗岩	玄武岩	凝灰岩	緑色火山 岩	鉄石英	めのう	不明	計
石鎚	1																			1
石錐	1																			1
楔形石器	1																			1
石核	1	1	1																	3
剣片	5	2	3	1		6											1	3	5	26
打製石斧		1																		1
磨製石斧					2					2	2									6
石包丁		1																		3
環					1			1	1											3
石錐		1			1	1														1
磨石等		1	2	7	7											11	3			36
延石	4	1	2	6	4	1	12					1								5
石臼					2												1			36
計	9	1	11	3	14	18	5	7	13	2	5	1	11	3	1	1	3	17	125	

磨石等は磨石・敲石・凹石を含む

## 【参考文献】

- 出雲市教育委員会 2015「出雲飼淵寺 埋蔵文化財調査報告書」
- 岩崎仁志 1988「防長地域の足鍋について」『山口考古』17
- 岩崎仁志 1990「防長型擂鉢について」『山口考古』19
- 岩崎仁志 2007「山陽西部における中世の土製煮炊具」『中近世土器の基礎研究』21
- 上山晶子 2010「矢野遺跡から出土した赤色顔料付着遺物について」『矢野遺跡：自然科学分析・考察編（第4分冊）』出雲市教育委員会
- 上山晶子 2010「山持遺跡から出土した赤色顔料について」『山持遺跡 Vol.6（4、6、7区）』島根県教育委員会
- 上山晶子 2011「堂ノ上遺跡で出土した土器に付着した赤色顔料について」『堂ノ上遺跡』島根県教育委員会
- 上山晶子 2014「庵寺15号埴輪出土赤色顔料の蛍光X線分析について」『庵寺古墳群II 大迫ツリ遺跡 小釜野遺跡』島根県教育委員会
- 上山晶子 2015「西谷3号墓の出土品に付着した赤色顔料の蛍光X線分析」「西谷3号墓発掘調査報告書」島根大学考古学研究室、出雲弥生の森博物館
- 内野 正 1992「青白磁梅瓶小考」『東京都埋蔵文化財センター研究紀要』XI
- 大久保徹也 1995「瀬戸地方における朱闌遺資料」『考古学ジャーナル』394
- 大田市教育委員会 1983「諸友大師山横穴群」
- 大庭康時 2018「石見における大内式土師器の分布とその意味」『島根県古代文化センター研究論集第18集 石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター
- 岡本淳一郎 2006「周溝をもつ建物の分類と系譜」「下老子篠川遺跡発掘調査報告」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 奥出雲町教育委員会 2005『印門満寺遺跡1』
- 金城町教育委員会 1983「金城町の文化財一町内の古墳一」
- 朽津信明 1997「塩津山1号墳の赤色顔料」「塩津山古墳群」島根県教育委員会
- 朽津信明 2002「神原神社古墳埋納坑出土土器付着の赤色顔料について」『神原神社古墳』加茂町教育委員会

- 佐伯昌俊・西尾克己 2015 「益田氏支配領域における城館遺跡出土の土器・陶磁器組成」『西国城館論集』Ⅲ
- 柳原博英 2010 「石見國の須恵器生産と出雲產須恵器」『出雲國の形成と國府成立の研究』島根県古代文化センター
- 笛生 衛 2016 「祭祀遺跡からみた古代の出雲」『古代祭祀と地域社会』島根県古代文化センター
- 柴崎晶子 2006 「中野清水遺跡出土土器付着の赤色顔料について」『中野清水遺跡(3) 白枝本郷遺跡』島根県教育委員会
- 柴崎晶子 2007 「山持遺跡出土土器付着の赤色顔料について」『山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区 Vol.2』島根県教育委員会
- 柴崎晶子 2009 「出雲國域における赤色顔料の使用について」『島根考古学会誌』第26集
- 島根県教育委員会 1983 「国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV」
- 島根県教育委員会 1987 「北松江幹線新設松江連絡新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 島根県教育委員会 1992 「一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IX 勝負遺跡」
- 島根県教育委員会 1995 「平ラⅡ遺跡 吉佐山根1号墳 六神横穴墓群」
- 島根県教育委員会 2000 「西川津遺跡Ⅶ」
- 島根県教育委員会 2002 「田中谷遺跡 球山古墳 下がり松遺跡 角谷遺跡」
- 島根県教育委員会 2004 「青木遺跡(中近世編)」
- 島根県教育委員会 2004 「家ノ脇II遺跡 原田遺跡1区 前田遺跡4区」
- 島根県教育委員会 2007 「山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区 Vol.2」
- 島根県教育委員会 2009 「山持遺跡 Vol.5 (6区)」
- 島根県教育委員会 2009 「御崎谷遺跡 間谷東遺跡 浅柄北古墳 間谷西II遺跡 間谷西古墳群」
- 島根県教育委員会 2009 「五丁遺跡 斧寺遺跡I 斧才追遺跡」
- 島根県教育委員会 2010 「梨ノ木坂遺跡 斧寺古墳群 斧寺遺跡II」
- 島根県教育委員会 2014 「斧寺古墳群II 大迫ツリ遺跡 小釜野遺跡」
- 島根県教育委員会 2017 「古屋敷遺跡(C・F・H・I区)」
- 島根県教育委員会・大田市教育委員会・仁摩町教育委員会・温泉津町教育委員会 1999 「石見銀山遺跡総合調査報告書第6冊」
- 島根県立八雲立つ郷土記の丘 1990 「島根の考古学と自然科学I」
- 新川 隆 2013 「陶磁器からみた石見銀山周辺地城・仁摩町出土資料を中心に -「世界遺産石見銀山遺跡の調査研究」3
- 寺井 誠 2009 「外交の窓口難波の考古学的研究」『古代瀬南と大阪の出会い』瀬南文化財研究院 大阪市文化財協会
- 中川 寧 2013 「山陰の古墳出現期における土器研究・近年の動向と課題」『古墳出現期土器研究』第1号 古墳出現期土器研究会
- 西尾克己・廣江耕史 2015 「遺跡から見た出雲府中」『松江市史研究』6号
- 西尾克己・守岡正司 2011 「山陰西部の陶磁器流通」『考古学と室町・戦国期の流通』
- 仁摩町教育委員会 1989 「仁摩健康公園造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書」
- 仁摩町教育委員会 1992 「仁摩健康公園開通事業に伴う白石遺跡発掘調査報告書」
- 仁摩町教育委員会 1993 「潮川小規模河川改修工事に伴う川向遺跡発掘調査報告書(1)」
- 仁摩町教育委員会 1998 「清石遺跡外発掘調査報告書」
- 仁摩町教育委員会 1999 「五丁地区遺跡群発掘調査報告書」
- 仁摩町教育委員会 2001 「原田遺跡外発掘調査報告書」
- 仁摩町教育委員会 2005 「仁万大橋遺跡 善興寺橋遺跡」
- 匹見町教育委員会 2001 「山根ノ下遺跡」
- 福岡県教育委員会 1991 「椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告(4)」
- 藤原久良採集陶磁資料調査研究会 2009 「島根・富田川河床遺跡の研究—藤原久良氏採集資料(II)一」『古代文化研究』17
- 本田光子 1994 「内面朱付着土器」『内面土器研究』Ⅳ
- 松井 肇 2013 「台付装飾壺」『みずほ別冊 幼生研究の群像』大和幼生文化の会
- 松江市教育委員会 1994 「釜代1号墳外発掘調査報告書」
- 松山晋弘 2000 「小谷式再考・出雲平野における新資料から -「島根考古学会誌」第17集
- 松山晋弘 2002 「神原神社古墳埋納坑出土土器について」『神原神社古墳』加茂町教育委員会
- 松山晋弘 1991 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」『島根考古学会誌』第8集
- 松山晋弘 2010 「最後の四隅突出型埴輪丘」『古代文化研究』18 県立島根県古代文化センター
- 松山晋弘 2015 「山陰」「前期古墳編年を再考するII」中国四国前方後円墳研究会
- 美郡町教育委員会 2004 「森下遺跡」
- 三宅博士他 1987 「仁摩・坂灘遺跡」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第ⅩⅢ集 岛根県教育委員会
- 南 武志 2014 「大田市庵寺9号墳出土赤色顔料—朱一の硫黄同位体比分析」『庵寺古墳群II 大迫ツリ遺跡 小釜野遺跡』

第8表 大国地頭所遺跡 遺構計測表

遺構名	区	面	グリッド	種類	長軸	短軸	深さ	出土遺物	遺構名	区	面	グリッド	種類	長軸	短軸	深さ	出土遺物
SK02	2	地山	G12	土坑	112	40	44		SD065	1	2	C6-06	溝	230	80	12	
SK03	2	地山	G11	土坑	75	46	28	削削	SD067	1	2	DB	溝	370	40	7	
SK04	1	1	E2	土坑	63	39	15	土師器	SD068	1	2	D7-C7-	溝	2520	80-30	21	赤土生土器 土師器 壁石
SK05	1	1	E2	土坑	59	48	21	土師器	SD069	1	2	D8-B8	溝	210	40	7	
SK06	1	1-1	C3	土坑	81	45	6	生土器	SD070	1	2	C7	溝	310	60-10	9	土師器
SK07	1	1-3	D5	土坑	118	75	19		SD071	1	2	C7	溝	260	30	12	土師器
SK08	3	1-2	B10-B11	土坑	91	27	14	中国褐色四目窓 油漆	SD072	3	2	EB-E9	溝	320	30	4	
SK10	4	1	D19	土坑	58	57	4		SD073	1	2	DB	溝	150	40	4	
SK11	4	1	E16-E17	土坑	77	72	22	土師器 鉄製品	SD074	1	2	EB-FB	溝	190	30	4	
SK12	4	1	E14-E15	土坑	275	236	27	土師器 中国褐色 中国白磁 中国褐地 陶器 朱雀瓦 瓦当等	SD075	3	2	E11-E10	溝	330	30	19	
SK13	1	2	D2	土坑	83	51	13		SD076	3	2	C12	溝	170	60	27	赤土生土器 鋼刀刃
SK14	1	2	C3	土坑	97	41	22	土師器	SD077	3	2	C10-D12	溝	800	50	13	赤土生土器 土師器
SK15	1	2	C1	土坑	87	57	18		SD078	3	2	B11-C11	溝	100	20	33	赤土生土器 土師器
SK16	1	2	D5	土坑	100	58	28	生土器 土師器	SD079	3	2	C10	溝	690	130-30	24	赤土生土器 土師器
SK17	5	2	A8-B9-B8	土坑	319	190	57	砂岩	SD080	3	2	C10-B10	溝	450	40	20	土師器
SK18	5	2	A8-B8	土坑	314	206	25	土師器 中国白磁 陶器 瓦當等	SD081	5	2	BB-B7-A8	溝	450	40	20	土師器
SK19	3	2	C9-D9-B8	土坑	394	152	22	生土器	SD082	3	2	C11-D11	溝	270	30	8	
SK20	3	2	C10-B10	土坑	272	179	15	生土器	SD083	3	2	C11	溝	120	50	6	
SD01	1	1	D4-D5	溝	720	70	28	土師器 中国白磁	SD084	3	2	C12	溝	80	40	7	
SD02	1	1	D3-3	溝	800	70	7	土師器	SD085	1	2	F7-F8	溝	140	50	9	
SD03	1	1	F5-E5-6	溝	1400	260	345	泥質瓦 瓦片 砂岩 刻文陶器 磁器	SD086	1	2	E7	溝	340	40	5	
SD04	1	1	D6-6	溝	530	100	22	泥質陶器 砂岩 刻文陶器 砂岩	SD087	3	2	E13	溝	160	20	14	
SD05	1	1	D9-C3	溝	310	70	13	土師器 中国白磁	SD088	1	2	09	溝	310	60	9	
SD06	1	1-1	D2	土坑	80	30	11	生土器	SD089	3	2	C10	溝	140	50	9	生土器
SD07	1	1-2	D4-D4	溝	410	60	27		SD090	3	2	D8-D9-C8	溝	480	40	4	赤土生土器
SD08	3	1	D11-D11	溝	1050	60	15	中国白磁 刻文瓷片 陶器	SD091	3	2	08	溝	270	50	10	鐵石
SD09	4	1	E10-B11	溝	1300	50	15	泥質陶器 黑瓦	SD092	3	2	C10	溝	230	30	10	赤土生土器
SD10	4	1	F17-C17	溝	1470	70	14	土師器 須恵器 芥川燒 信頼 磁器	SD093	3	2	C11	溝	150	40	22	土師器
SD11	4	1	D16-B17	溝	920	60	22	泥質陶器 信頤	SD094	3	2	C12-B12	溝	310	120	35	赤土生土器 土師器
SD12	4	1-2	D17-D16	溝	250	50	5	須恵器	SD095	3	2	C11	溝	50	30	9	
SD13	4	1	B17-B17	溝	1260	30	14		SD097	3	2	D11-E11	溝	450	60	10	赤土生土器
SD14	4	1	B15-17	溝	1040	60	12		SD098	3	2	C13-B13	溝	720	430-10	14	赤土生土器 土師器
SD15	4	1	C15	溝	150	20	5		SD100	4	1	C11-C16-A15	溝	1500	200	18	
SD16	4	1	C15	溝	470	80	13	土師器 生土器 泥質系灰陶 信頤	SD101	4	1-1	B14-B13	溝	650	130	13	赤土生土器 土師器 漆器
SD17	4	1-2	D16-D17	溝	380	40	4		SD102	1	1	F7-B14	溝	2740	60	26	泥質陶器 磁器
SD18	4	1-2	F14	溝	500	110	29		SD103	1	2	F7-E7	溝	750	20-300	15	
SD19	5	1-2	B3	溝	110	50	5	生土器	SD104	1	2	F1	柱穴	39	33	46	
SD20	3	1-2	A13	溝	190	50	6	鐵製品	SD105	1	2	F2	柱穴	28	25	30	
SD21	3-5	1-2	B12-A12	溝	640	110	39		SD106	1	2	F1	柱穴	24	20	30	杭
SD22	4	1-2	B16-16	溝	1010	50	28	鐵製品 磁器	SD107	1	2	F1	柱穴	39	35	37	赤土生土器 土師器 漆器
SD23	4	1-2	B16-B17	溝	620	70	15	土師器 須恵器	SD108	1	2	F1	柱穴	28	26	30	
SD24	1	3	D2-D3-4	溝	650	50	43	生土器 砂岩	SD109	1	2	F1	柱穴	35	30	42	土師器 陶器
SD25	1	2	C3-C4	溝	180	50	7	生土器	SD110	1	2	F1	柱穴	36	30	42	土師器 信頤
SD26	1	2	E2-E3	溝	470	30	11	土師器	SD111	1	2	F1	柱穴	40	38	30	
SD27	1	2	E3	溝	180	30	5		SD112	1	2	F1	柱穴	25	19	16	
SD28	1	2	E3-E3	溝	1010	50	9		SD113	1	2	E3	柱穴	39	31	9	中土師器
SD29	1	2	F3	溝	230	50	9		SD114	1	2	E3	柱穴	25	20	26	古式土師器 漆器
SD30	1	2	E2-E1	溝	430	180-80	43		SD115	1	2	E3	柱穴	49	44	35	古式土師器
SD31	1	2	E2	溝	170	20	3		SD116	1	1	D2	柱穴	43	35	30	土師器 小片
SD32	1	2	E2	溝	100	30	19		SD117	1	2	D2	柱穴	54	52	38	中土師器
SD33	1	2	D4-C4	溝	260	30	4		SD118	1	2	D3	柱穴	56	55	26	古式土師器 土師器 須恵器
SD34	1	2	D4	溝	260	20	8		SD119	1	2	D3	柱穴	49	43	20	中土師器
SD35	1	2	C4-C5	溝	260	30	11	土師器	SD120	1	2	D3	柱穴	41	40	23	赤土生土器 土師器 須恵器
SD36	1	2	C4-C3	溝	310	40	4	生土器	SD121	1	2	F2	柱穴	25	19	16	
SD37	1	2	C4-C5	溝	220	30	3		SD122	1	2	F2	柱穴	39	31	9	中土師器
SD38	1	2	C5-D5	溝	200	20	10	土師器	SD123	1	2	F2	柱穴	26	28	9	古式土師器 土師器 桂樹
SD39	1	2	D5-D4	溝	260	30	8		SD124	1	2	F2	柱穴	21	18	21	土師器
SD40	1	2	C4-E5-E5	溝	390	50	12	生土器	SD125	1	2	F2	柱穴	21	20	8	中土師器
SD40-2	1	2	F14-F13	溝	210	30	7		SD126	1	2	F1	柱穴	25	15	30	
SD41	1	2	B7-E5	溝	990	30	30	生土器	SD127	1	2	F1	柱穴	28	21	75	
SD42	1	2	C5	溝	110	40	4		SD128	1	2	F1	柱穴	53	44	50	桂樹
SD44	5	2	A5-B5	溝	550	60	23	土師器 生土器	SD129	1	2	F1	柱穴	50	29	23	
SD45	4	1	B2-B5	溝	460	100	16		SD130	1	2	E3	柱穴	50	40	29	中土師器
SD46	5	2	A6-B6	溝	300	50	8	生土器	SD131	1	2	E3	柱穴	39	29	31	古式土師器
SD47	5	2	B6	溝	360	50	8	土師器	SD132	1	2	E3	柱穴	52	46	23	古式土師器 土師器
SD48	5	2	B6-B7	溝	390	30	6		SD133	1	2	E3	柱穴	30	8	古式土師器 土師器	
SD49	5	2	A6-C6	溝	480	50	12	生土器	SD134	1	2	D4	柱穴	57	55	34	古式土師器 土師器 桂樹
SD50	5	2	A6	溝	400	40	6		SD135	1	2	D4	柱穴	42	39	54	古式土師器
SD51	5	2	B6	溝	350	20	5	生土器 土師器 桂樹	SD136	1	2	D4	柱穴	52	46	23	古式土師器 土師器
SD52-2	1	2	C4-C5-B5	溝	650	60	17	稻谷	SD137	1	2	D4	柱穴	30	35	35	
SD52	1	2	C5-C6-B5	溝	580	40	21	生土器	SD138	1	2	D5	柱穴	31	30	35	
SD55	1	2	B6-C6	溝	140	360	14		SD139	1	2	C10	柱穴	22	20	18	
SD57	1	2	B6-C6	溝	150	40	9		SD140	2	1	B8-9	柱穴	32	32	12	土師器 漆器
SD58	5	2	B6-C6	溝	240	40	21	生土器	SD141	2	1	B9	柱穴	27	20	26	土師器 桂樹
SD59	1	2	C6-C5-B5	溝	840	60	24	生土器	SD142	2	1	B9	柱穴	27	21	12	古式土師器 桂樹
SD60	1	2	C7-C7-B5	溝	1250	100	26	生土器 土師器	SD143	2	1	B9	柱穴	28	22	14	古式土師器
SD61	1	2	B6	溝	320	50	27	稻谷	SD144	2	1	C9	柱穴	49	30	29	中土師器
SD62	1	2	C7-E7-6	溝	1510	70	30	生土器 土師器 石臼丁	SD145	2	1	C10	柱穴	32	30	9	土師器 漆器 陶器
SD63	1	2	C7-E7-5	溝	1870	70	30	生土器 手提器 石臼丁	SD146	2	1	D10	柱穴	27	21.5	31	中土師器 桂樹
SD64	1	2	D6-C6-C5	溝	550	80-30	13	生土器 土師器 壁石	SD147	2	1	E12	柱穴	31	28	10	古式土師器 土師器 桂樹

遺跡名	区	面	クリード	標高	北緯	東経	大きさ
Pi027	3	1	E12	標高: 42	38	12	酒器、中世土師器、陶器、柱根
Pi031	3	1	D12	標高: 60	40	22	土師器、中世土師器、酒器
Pi036	3	1	C13	標高: 36	23	15	中世土師器、柱根
Pi113	3	1-2	B10	標高: 36	28	15	中世土師器、土師器
Pi028	3	1-2	C10	標高: 23	20	22	古式土師器、土師器
Pi048	3	1-2	E10・D10	標高: 24	22	20	古式土師器、土師器
Pi050	3	1-2	D9	標高: 24	21	15	中世土師器、酒器
Pi054	3	1-2	E13	標高: 49	44	66	柱根
Pi056	3	1-2	E12	標高: 89	59	64	土師器、柱根
Pi058	3	1-2	D12	標高: 42	39	48	土師器、中世土師器、酒器、柱根
Pi076	4	1-2	D17	標高: 22	23	12	酒器
Pi084	4	1-2	D16・E17	標高: 60	38	26	中世土師器、柱根
Pi085	4	1-2	C17	標高: 34	32	13	土師器、柱根
Pi092	4	1-2	E17	標高: 73	42	69	中世土師器、劉伯白陶、墓石
Pi099	4	1	D15	標高: 37	35	40	中世土師器、柱根
Pi100	3	1-2	B10・T11	標高: 18	17	41	古式土師器、中世土師器
Pi101	4	1-2	C16	標高: 47	43	32	柱根
Pi111	4	1-2	C16	標高: 44	41	53	中世土師器
Pi115	4	1-2	C16	標高: 31	30	7	柱根
Pi116	4	1-2	C16	標高: 25	33	26	柱根
Pi124	4	1-2	C16	標高: 72	44	13	中世土師器
Pi128	4	1-2	C16	標高: 46	39	21	中世土師器、柱根
Pi129	4	1-2	C16	標高: 30	29	13	中世土師器
Pi139	4	1	C15	標高: 37	34	30	中世土師器、柱根
Pi144	4	1	C16	標高: 47	36	33	古式土師器、中世土師器、酒器
Pi152	4	1-2	E10・D10	標高: 61	55	57	古式土師器、中世土師器、瓦葺土器、柱根
Pi153	4	1-2	E16	標高: 49	43	42	中世土師器、瓦葺土器、火鉢
Pi156	4	1-2	E18	標高: 56	47	40	中世土師器、柱根
Pi158	4	1-2	E17	標高: 38	36	26	柱根
Pi161	4	1-2	E17	標高: 36	45	39	土壤、中世土師器、聚落系系帯
Pi165	4	1-2	D18	標高: 77	70	30	土壤、中世土師器
Pi169	4	1-2	D16	標高: 43	28	35	土壤、中世土師器、柱根
Pi192	4	1-2	D16	標高: 65	52	72	中世土師器、柱根、石器
Pi195	4	1-2	C16	標高: 74	60	60	中世土師器、瓶
Pi198	4	1-2	D16	標高: 55	50	38	中世土師器
Pi206	4	1-2	D15	標高: 60	48	40	中世土師器、柱根
Pi208	4	1-2	D15	標高: 34	31	35	柱根
Pi312	4	1-2	D15	標高: 24	22	7	中世土師器
Pi25	4	1	C15	標高: 65	54	58	土壤、中世土師器、柱根
Pi335	4	1-2	D15	標高: 45	40	56	中世土師器、柱根
Pi452	4	1-2	D16・E16	標高: 91	54	81	中世土師器
Pi463	4	1-2	E16	標高: 64	64	71	土壤、中世土師器
Pi550	4	1-2	E16	標高: 29	24	22	中世土師器
Pi567	4	1-2	E15	標高: 33	27	11	中世土師器、柱根
Pi573	4	1-2	E15	標高: 43	36	37	柱根
Pi575	4	1-2	E15	標高: 37	37	31	中世土師器、柱根
Pi576	4	1-2	E15	標高: 53	48	27	中世土師器、聚落系系帯
Pi577	4	1-2	E15	標高: 48	43	67	中世土師器、柱根
Pi578	4	1-2	E15	標高: 44	44	28	古式土師器
Pi579	4	1-2	E15	標高: 31	29	31	土壤、中世土師器、石器
Pi585	4	1-2	E16	標高: 69	50	27	中世土師器
Pi586	4	1-2	E15・E16	標高: 43	38	36	中世土師器、铁軒
Pi592	4	1-2	F15	標高: 41	38	41	中世土師器
Pi593	4	1-2	F15	標高: 37	36	37	柱根
Pi595	4	1-2	E16	標高: 122	53	53	土壤、中世土師器、柱根
Pi593	4	1-2	D15・E16	標高: 123	60	60	中世土師器、聚落系系帯
Pi594	4	1-2	E15	標高: 46	37	15	中世土師器
Pi613	4	1	G15	標高: 32	32	48	柱根
Pi615	4	1	F15	標高: 58	55	70	柱根
Pi616	4	1	F15	標高: 58	43	69	中世土師器、柱根
Pi617	4	1-2	F15	標高: 35	32	62	柱根
Pi634	4	1-2	C14	標高: 32	28	22	古式土師器、柱根
Pi636	4	1-2	C15	標高: 44	38	45	中世土師器、柱根
Pi642	4	1-2	D14	標高: 27	23	19	土壤、柱根
Pi645	4	1-2	D14・C15	標高: 40	38	27	中世土師器
Pi647	4	1-2	D15・C14	標高: 50	35	41	土壤、青花
Pi651	4	1-2	D14	標高: 53	53	60	古式土師器、柱根
Pi652	4	1-2	D14	標高: 82	50	41	古式土師器、中世土師器、中国白器、柱根
Pi653	4	1-2	D14	標高: 36	30	16	中世土師器、砾石
Pi658	4	1-2	E14	標高: 51	44	35	中世土師器、柱根
Pi676	4	1-2	C15	標高: 55	46	37	中世土師器、柱根
Pi678	4	1-2	C15	標高: 61	53	60	中世土師器、柱根
Pi679	4	1-2	C15	標高: 35	29	6	古式土師器
Pi684	4	1-2	C17	標高: 50	48	39	中世土師器、聚落系系帯
Pi686	4	2	C16	標高: 79	57	88	土壤、中世土師器、柱根
Pi688	4	1-2	C16	標高: 59	37	51	中世土師器、柱根
Pi691	4	1-2	D15	標高: 35	32	11	中世土師器、柱根
Pi696	4	1-2	F15	標高: 63	56	46	古式土師器、中世土師器、青花、白玉器
Pi707	4	1-2	F15	標高: 60	46	36	古式土師器、中世土師器
Pi708	4	1-2	F15	標高: 62	48	52	中世土師器、柱根
Pi728	4	1-2	C12	標高: 25	23	30	土壤、中世土師器、柱根
Pi732	3	1-2	C10	標高: 23	22	19	古式土師器

遺跡名	区	面	クリード	標高	北緯	東経	大きさ	出土遺物
Pi730	5	1	A13	柱穴	43	35	25	柱根
Pi731	5	1-2	A13	柱穴	39	34	35	中世土師器、鍔頭鉗
Pi737	5	1-2	A14	柱穴	31	28	17	土師器、中世土師器、墓石?
Pi740	5	1-2	A14	柱穴	51	41	10	柱根
Pi742	5	1-2	A14	柱穴	42	29	38	石器片
Pi767	5	1-2	A12	柱穴	27	26	26	土師器、中世土師器
Pi805	5	2	A11・10	柱穴	28	26	20	中國土師器、柱根
Pi810	5	2	A10	柱穴	52	46	41	古式土師器、中世土師器
Pi815	5	2	A10・9	柱穴	31	31	20	古式土師器、宿石
Pi818	5	2	A9・9	柱穴	34	29	15	中世土師器
Pi892	1	2	D3	柱穴	34	29	3	萬葉山古墳
Pi828	1	2	D4	柱穴	23	23	30	柱根
Pi833	1	2	E4	柱穴	25	23	15	古式土師器、柱根
Pi1050	1	2	C5	柱穴	65	75	21	古式土師器、柱根
Pi124	3	2	C3	柱穴	107	139	18	古式土師器、柱根、藤原台
Pi137	3	2	E12	柱穴	70	109	30	古式土師器、柱根
Pi166	3	2	B10	柱穴	36	34	35	古式土師器、中世土師器
Pi195	4	1-2	E16	柱穴	44	38	17	柱根
Pi197	4	1-2	E17-D17	柱穴	81	46	13	古式土師器、酒器、柱根
Pi206	4	1-2	B16・C16	柱穴	57	50	74	柱根
Pi207	4	1-2	C17	柱穴	62	42	33	古式土師器
Pi216	3	2	B11	柱穴	40	33	17	古式土師器、木筋器、柱根
Pi224	3	2	E15	柱穴	39	54	16	古式土師器、柱根
Pi224	4	1-2	E15	柱穴	54	42	41	中世土師器、柱根、瓦質土器火鉢
Pi225	4	1-2	E15	柱穴	53	50	34	中世土師器
Pi226	4	1-2	E15	柱穴	76	44	40	古式土師器、中世土師器、瓦葺土器、柱根、腰済
Pi228	1	2	D7	柱穴	52	45	11	古式土師器、柱根
Pi241	4	1-2	E16	柱穴	41	34	18	古式土師器、柱根
Pi242	3	2	C9	柱穴	30	25	29	古式土師器、柱根
Pi274	3	2	C12	柱穴	36	37	21	柱根
Pi274	4	1-2	D15	柱穴	59	54	16	柱根
Pi284	4	1-2	D15	柱穴	61	56	44	44
Pi292	4	1-2	D18	柱穴	55	38	40	中世土師器、鐵町
Pi309	4	1-2	D16-E16	柱穴	55	38	40	古式土師器、中世土師器、柱根
Pi311	4	1-2	F15-E16	柱穴	49	42	31	中世土師器
Pi333	4	1-2	C16	柱穴	55	45	30	酒器、中世土師器、史器系系帯、開元
Pi338	4	1-2	F15	柱穴	53	50	48	柱根
Pi342	4	1-2	E16	柱穴	59	59	35	中世土師器
Pi345	4	1-2	E13	柱穴	46	39	10	柱根
Pi346	4	1-2	C15	柱穴	42	39	32	古式土師器
Pi346	4	1-2	C16	柱穴	89	85	55	柱根
Pi346	4	1-2	E17	柱穴	55	51	9	柱根
Pi337	4	1-2	E17-T18	柱穴	93	85	18	古式土師器、柱根
Pi338	4	1-2	E17	柱穴	49	43	42	柱根
Pi342	4	1-2	E16	柱穴	59	59	35	中世土師器
Pi378	4	1-2	C17	柱穴	66	43	40	土師器
Pi381	4	2	B15	柱穴	55	40	22	古式土師器
Pi382	4	2-1	C15	柱穴	56	40	16	柱根
Pi383	4	2-1	C15	柱穴	56	34	18	柱根
石井1	1	1	B3-B4-C3	石井	510	210	8	土師器、罐、中国白器
石井2	3-5	1-2	12-Lain	石井	270	170	53-1 30-青花、有田燒、官窯青花器、中国白器、聚落系系帯、砾石、青花、有田燒、白玉器、食器、石器、瓦質土器、鐵町、銅鏡、石器、毛利家、毛利土器、青花、有田燒、白玉器	
地井1	1	1	D2	地井	74	58		
地井2	1	1-3	C3	地井	49	27	14	
地井3	1	1-3	C3-D3	地井	79	52	10	
地井4	1	2	E6	地井	66	30	26	
地井5	1	1	E7	地井	70	56	9	
地井6	1	2	E7-T2	地井	89	48	18	
地井7	2	1	D6	地井	40	22	20	古式土師器
地井8	1	2	E6	地井	30	26	15	
地井9	1	2	D7	地井	40	37	3	
土壤1	1	1	E7	土壤	70	56	9	
土壤2	1	2	E7-T2	土壤	89	48	18	
土壤3	1	2	D6	土壤	40	22	20	移動式鐵町、土師器
土壤4	3	2	DB-O9-E8	土壤	290	115	土師器	
土壤5	3	2	E10-E11	土壤	530	250	古式土師器、土師器、石器、古式土師器	
土壤5	3	2	D9	土壤	200	70	移動式鐵町、土師器	
土壤6	3	2	DB-O9-E9	土壤	1720	560	古式土師器、砾石	
土壤7	1	2	C5-D5-N6	土壤	2340	400	古式土師器、土師器、聚落系系帯、移動式鐵町	
土壤8	1	2	C8-D8	土壤	500	200	土師器	
土壤9	1	2	C5	土壤	100	100	土師器	

第9表 大国地頭所遺跡 出土十器觀察表（陶磁器を除く）

樹種番号	品種番号	所在区	樹高	種別	樹形	葉形	花期	〔カツラの分類〕		色調	地土	地成	調整・文様	特徴	備考
								日本	西洋						
32 - 35 38 4	O17	1-2面	S012	須恵器	壇	(15.2)	秋	褐色	1m以下の砂粒多く含む 外: 黄一灰白色 内: 灰白色	地内: 回転ナメ	口縁部内面に沿				
32 - 36 4		1-2面	S012	須恵器	甕	(11.0)	(7.6)	4.1	外: 黄一灰白色 内: 灰白色	地内: 回転ナメ 植物生垣 外: 回転ナメ ナメ					
32 - 37 38 4	C15		S016	土師器	壇	(6.0)			1m以下の砂粒多く含む 褐色	地内: 回転ナメ 跡止糸切り					
32 - 38 38 4	C15		S016	土師器	壇	(5.4)			1m以下の砂粒多く含む 褐色	地内: 回転ナメ 回転糸切り					
32 - 39 38 4	C15	S016	古生土器	壇				1m以下の砂粒多く含む 灰白色	地内: 回転ナメ 調整不明						
32 - 41 38 5			S019	古生土器	壇				1m以下の砂粒多く含む 灰白色	地内: 回転ナメ 調整不明					
32 - 42 38 5			S019	古生土器	壇		(11.4)		1m以下の砂粒多く含む 内: 黄褐色	地内: 回転ナメ 調整不明	内面黒褐色付着				
32 - 43 38 4		1-2面	S021	土師器	甕	(7.6)			1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ	口縁内面に強いナメ				
32 - 44 38 4		1-2面	S021	須恵器	壇付付	(14.5)	(9.0)	4.45	灰白色	地内: 回転ナメ ナメ 静かあり 外: 回転ナメ ナメ					
38 - 2 38 1			Pt23	須恵器	甕	(13.0)	(6.5)	12	灰色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ	表面粗かなり扁平				
38 - 3 38 1	E2		Pt48	土師器	壇	(6.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ	内面黒褐色付着				
38 - 4 38 1			Pt50	須恵器	甕				1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 5 38 1			Pt81	須恵器	甕				2m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 6 38 4			Pt81	土師器	甕	(6.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 外: 灰白色 内: 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 7 38 1	1面		Pt90	土師器	甕	(8.0)	(5.7)	1.7	浅褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 8 38 1	E4		Pt136	須恵器	甕付	(13.0)			褐色斑点多く含む 灰白色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 10 65 3	3 89	1面	Pt217	須恵器	有縫付	(8.2)	6.5	19.4	四角	1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ 沈縫 ヘラクゼリ				
38 - 11 38 3			Pt244	須恵器	甕				1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 12 38 3			Pt264	古生土器	甕				2m程度の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ	草田1期				
38 - 14 38 3			Pt278	土師器	甕	(8.0)	4.2	20	1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 16 38 3		1-2面	Pt281	古生土器	甕	(13.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 外: 灰褐色 内: 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ	内面黒いクロコ目				
38 - 17 65 3			Pt348	土師器	壇				1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ	3-4面				
38 - 18 38 3			Pt350	須恵器	甕				1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 19 38 4		1-2面	Pt370	須恵器	甕				1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 21 38 4		1-2面	Pt392	土師器	甕	(5.7)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 22 38 4		1-2面	Pt392	土師器	甕	(10.0)	(7.6)	1.8	浅褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 23 38 4	1面		Pt400	土師器	甕	(6.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 24 38 4		1-2面	Pt411	土師器	甕	(6.1)			1m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 25 38 4	C16		Pt424	土師器	甕	(8.4)	(3.6)	2.4	灰色	1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ				
38 - 26 38 4	C16	1面	Pt444	土師器	甕	(7.2)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 27 38 4	E18		Pt453	土師器	甕	(7.6)	(4.1)	1.8	1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 28 38 4		1-2面	Pt453	土師器	甕	(7.1)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 29 38 4		1-2面	Pt453	土師器	甕	(7.6)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 31 38 4	E18		Pt456	土師器	甕	(6.2)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 32 38 4		1-2面	Pt461	土師器	甕	(13.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 34 38 4	1-2面	Pt465	土師器	甕	(14.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ						
38 - 35 38 4	D15	1-2面	Pt512	土師器	甕	4.3			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 36 38 4	E16	1-2面	Pt542	土師器	甕	(7.4)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 37 38 4	E16	1-2面	Pt550	土師器	甕	(5.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 38 38 4		1-2面	Pt561	土師器	甕	(5.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 39 38 4	E15	1-2面	Pt570	土師器	甕	(11.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 39 38 4	F15	1-2面	Pt576	土師器	甕	(6.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 39 38 4		1-2面	Pt578	土師器	甕	(15.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ケヌ					
38 - 3 38 4	E16	1-2面	Pt585	土師器	甕	(7.7)	5.0	1.5	1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 4 38 4	F15	1-2面	Pt592	土師器	甕	(8.0)	(6.0)	1.9	浅褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 5 38 4	F15	1-2面	Pt593	土師器	甕	(6.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 6 38 4	E16	1-2面	Pt593	土師器	甕	(7.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 7 38 4	E15	1-2面	Pt596	土師器	甕	(7.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 8 38 4	D16	1-2面	Pt604	土師器	甕	(7.4)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 9 38 4	C15	1-2面	Pt679	古生土器	甕				1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 12 38 4		1-2面	Pt684	須恵器	壇付付	(7.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 13 38 4	C16	1-2面	Pt686	土師器	甕	(11.5)	5.4	3.4	外: 黄一灰褐色 内: 黄褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 14 38 4			Pt690	古生土器	甕	(19.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 15 38 4			Pt702	土師器	甕	(12.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 16 38 3			Pt722	土師器	甕	(22.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 18 38 5			Pt767	土師器	甕	5.8			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 19 38 5			Pt810	土師器	甕	4.3			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 20 38 5			Pt810	土師器	甕	14.2	5.9	4.4	1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 21 38 5			Pt818	土師器	甕	(8.0)	3.2	2.1	外: 灰褐色 - 褐色 内: 灰色 - 褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 22 38 3			Pt1166	土師器	甕	(8.2)	3.5	1.8	浅褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 23 38 4			Pt197	古生土器	甕	(14.0)			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: 回転ナメ ヘラクゼリ					
38 - 24 38 4	C17	1-2面	Pt1207	土師器	甕	7.1			1.3m以下の砂粒多く含む 灰褐色	地内: 回転ナメ ナガキ 外: ヘラクゼリ					

捕獲番号	回収番号	地図	クワット	位置	遭遇	種別	固有種	(カニコロ付加)固有種 固有種 固有種	色調	胎土	構成	調整・文様	判別(航行型式)	備考	
39 - 25	39 4		Pt1224	土器部	壺			(6.5)	灰白色	0.5mmの砂粒少し含む	外: 調整ナメル 回転ホリ				
39 - 27	39 4	E15	1-2面	Pt1225	土器部	柱状質	無	(5.7)	灰白色	1mm以下の砂粒多し含む	内: 三面ナメル ナメ				
39 - 28	39 4		Pt1308	土器部	甕			(7.0)	灰白色	砂粒少し含む	外: 三面ナメル 回転ホリ				
39 - 29	39 4		Pt1311	土器部	壺	(12.2)	6.1	2.9	男: にごく-黄褐色 女: にごく-黄褐色	細粒微粒子含む	外: 土器部 内: 土器部			底部外表面のようX	
39 - 30	39 4		Pt1380	土器部	甕				灰白色	1-2mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部				
39 - 31	39 4		Pt1381	土器部	瓶	(19.3)	(16.0)	12.8	灰-黄褐色 内: 浅黄褐色 - 白灰色	1-2mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部				
41 - 1	39 1	B3	8層	土器群	壺	坪基	(13.0)	3.7	灰白色	2mm以下の砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部				
41 - 2	39 1	C4	7層	土器群	壺	坪基	(12.7)	4.0	灰白色	1-3mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			天井部-側面の辺りが厚い	
41 - 3	67 1			土器群	壺	坪基	13.1	7.0	3.3	灰白色	2mm以下の中粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		石見 6C 雪室壁つまみ	
41 - 4	67 1			土器群	壺	坪基	14.5	4.8	2.1	灰白色	2mm以下の中粒少く含む	外: 土器部 内: 土器部		石見 9B 鋸紋つまみ	
41 - 5	67 1	C4	7層	土器群	壺	坪基	16.3	2.8	2.8	灰白色	1-2mmの砂粒含む 内: 砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		ボタン状つまみ	
41 - 6	39 1			土器群	壺	坪基	(18.5)			1-2mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部				
41 - 7	63 1	C4	5層	土器群	壺	身	14.2	7.0	4.2	灰白色	1-2mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 8	39 1	B3	7層	土器群	壺	身	(11.2)			灰白色	0.5mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 9	63 1	B3	7層	土器群	壺	身	(9.9)	3.3	内: にごく-赤褐色 内: にごく-赤褐色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部				
41 - 10	63 1	B3	7層	土器群	壺	身	12.0		4.5	灰白色	1mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部		板状堆積	
41 - 11	63 1	C4	7層	土器群	壺	身	(12.3)	(9.9)	4.6	灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		内面溝	
41 - 12	63 1	C4	7層	土器群	壺	身	(13.6)	9.6	16	灰-灰-淡褐色 内: にごく-灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 13	39 1	B3	7層	土器群	壺	身	(13.7)	(9.9)	5.2	灰白色	1mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 14	39 1	C4	B1層	土器群	壺	身	(13.8)	(10.0)	4.1	灰白色	1mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 15	39 1	C4	B1層	土器群	壺	身	(10.8)		10.0	灰白色	1mm以下の中粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		底部外表面にへら記号「×」	
41 - 16	39 1	B4	7層	土器群	壺	身	(14.2)	(9.6)	4.1	灰白色	1mm以下の中粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 17	39 1			土器群	壺	身	(15.6)	(12.9)	4.7	灰白色	1mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 18	63 1	B4	5層	土器群	壺	身	(16.7)	(12.4)	5.6	灰-異色 内: にごく-灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		外にうすく自然軒がかかる	
41 - 19	39 1	C4	7層	土器群	壺	身	(19.8)			灰白色	白色微粒子含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 20	63 1	C4	7層	土器群	壺	身	15.4	9.7	4.7	灰白色	2mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		底部削減	
41 - 21	63 1	C4	7層	土器群	壺	身	15.6	10.5	7.2	灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 22	63 1	1層		土器群	壺	身	(15.0)	10.4	9.9	灰白色	2mm以下の灰色砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		直角部は現行 壁内側「高分子」直角部	
41 - 23	63 1	B4	7層	土器群	壺	身	13.9	7.8	5.2	白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 24	63 1	C4	7層	土器群	壺	身	高台付	18.0	10.6	8.0	灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		
41 - 25	39 1	C4	7層	土器群	壺	身	高台付	(10.5)			1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 26	63 1	C4	7層	土器群	壺	身	高台付	(12.6)	8.9	4.6	灰-灰色 内: にごく-灰白色	2mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		
41 - 27	39 1	B1層		土器群	壺	身	(13.0)	6.0	2.4	灰白色	白色微粒子含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 28	39 1	B4	8層	土器群	壺	身	(12.6)	(9.6)	2.0	灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 29	39 1			土器群	壺	身	(5.5)			灰白色	1mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
41 - 30	39 1	B4	8層	土器群	壺	身	高台	(11.6)			1mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		透かしSは3方向	
41 - 31	63 1	C4	1-1層 1-3層 1-5層 (1-10層)	土器群	壺	身				灰白色	1mm以下の砂粒僅かに含む	外: 土器部 内: 土器部		把手なし	
42 - 1	39 1	C3	7層	土器群	甕	長頸甕	6.1			灰白色	1-3mmの砂粒僅かに含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 2	64 1	B3	B-1層	土器群	甕	長頸甕	9.9			灰白色	1mm以下の砂粒多め多く含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 3	64 1	B3	B-1層	土器群	甕	長頸甕	11.0			灰白色	0.2mm以下の砂粒若干含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 4	64 1	B3	B-1層 1-1層	土器群	甕	長頸甕				灰白色	1mm以下の砂粒僅かに含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 5	64 1	B3	C4	7層	土器群	甕	(10.7)	9.9	10.0	灰-灰白色 内: にごく-灰白色 内: 深灰-暗灰 内: にごく-灰白色	0.2mm以下の砂粒若干含む	外: 土器部 内: 土器部		内面津波着	
42 - 6	64 1	B3	B2-5 B-1層 B-1層 (1-5層)	土器群	甕	長頸甕	9.9			灰白色	1mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 7	39 1			土器群	甕	身				灰-暗灰-オーピー黒色 内: にごく-灰白色	1-2mmの砂粒含む	外: 土器部 内: 土器部		自然軒付	
42 - 8	39 1	B3	7層	土器群	甕	身	(6.9)			灰白色	1mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 9	39 1	C3	8層	土器群	甕	身	(14.6)			灰白色	白色微粒子含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 10	39 1	B3	B-1層	土器群	甕	身	(15.6)			灰白色	1mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 11	39 1	B3	B-1層 C3	8層	土器群	甕	(16.7)			灰白色	1mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 12	39 1	B3	B-1層	土器群	甕	身				灰白色	1-2mmの砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
42 - 13	39 1			土器群	甕	身	(11.8)			灰白色	1mm以下の砂粒僅かに含む	外: 土器部 内: 土器部			
43 - 1	64 1	B3	B-1層	土器群	甕	身	16.0	9.3	10.0	灰-灰白色 内: 深灰-暗灰	2mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部			
43 - 2	40 1	B3	B-1層	土器群	甕	身	(18.0)			灰-深黄色 内: 黄褐色	2mm以下の砂粒少し含む	外: 土器部 内: 土器部		内面-口縁部外表面	

96回番号	名前	地区	グリッド	位置	種別	詳細	大きさ(三面の寸法)		色調	出土	地層	調査・文様	時期	(印)式	備考	
							横	奥								
43 - 3 64 1	C4	7層	土器群1	土器群	盆	(0.03) (16.6) 46	淡褐色		1mm以下の白色細粒含む	良好 内外 回輪ナデ ナデ				内蔵赤		
43 - 4	1	C4	7層	土器群17	土器群	盆	(18.8) 14.0	46 内:淡褐色 内:淡褐色	1mm以下の白色細粒含む	良好 内外 回輪ナデ ナデ				内蔵赤 深部内部の細 文は不明		
43 - 5 64 1	B4	7層	土器群17	土器群	盆	(19.2)	27 内:淡褐色		淡褐色	良好 内外 回輪ナデ ナデ				深部内に赤色細粒含む		
43 - 6 64 1		8-1層	土器群1	土器群	片	15.4 6.0	46 棕色		1mm以下白・淡褐色含 少し含む	良好 内外 コヨナデ ナデ						
43 - 7 64 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	片	14.8	6.2	褐色	1mm以下白色細粒含む	良好 内外 調査不明				外蔵黒斑		
43 - 8 64 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	片	(15.0) (8.2)	26 内: 棕色 内:淡褐色		1mm以下白色細粒含む食 石含む	良好 ヨコナデ ハケ目 面開口 ナデ						
43 - 9	1	C4	7層	土器群1	土器群	鉢	(18.8)	9.3	淡褐色	良好 ヨコナデ ナデ ハラズリ				外蔵下平に黑斑		
43 - 10 64 1	B3	8層	土器群1	土器群	手付手鉢	10.5 4.5	12.4	外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-2mmの白色細粒含む粗 粒含む	良好 内外 回輪ナデ ナデ				内蔵赤と青 色を含む最大径: 16.0cm		
43 - 11 64 1	B3	8-1層 上段	土器群1	土器群	手付手鉢	(9.0) (7.2)	12.0	淡褐色	1mm以下白・淡褐色含 む	良好 ヨコナデ ナデ 指画面直 接						
43 - 12 66 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	手付手鉢	2.2 2.2	18	外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下白色細粒含む	良好 内外 調査不明				最大径 1.4cm、さわいな 形で粘土に埋葬して 成れたか		
43 - 13 66 1	B3	8-1層	土器群17	土器群	手付手鉢	2.7 2.2	15	内: 淡褐色	0.2mmの白色細粒含む	良好 内外 調査不明 面開口直 接						
43 - 14 66 1	B4	7層	土器群17	土器群	手付手鉢	4.0 3.7	40	淡褐色	1mm以下白色細粒含む少 々含む	良好 内外 指画面直 接				最大径 6.4cm 深部外側 直角		
43 - 15 66 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	手付手鉢	5.3 3.5	5.0	浅褐色・褐色	2mmの白色細粒多く含む	良好 内外 調査不明 面開口直 接						
43 - 16 40 1	B3	8-1層	土器群17	土器群	手付手鉢	(6.6) 5.9	6.0	淡褐色	2-3mmの白色細粒多く含 む	良好 内外 ヨコナデ ハラズリ				内蔵黒斑		
43 - 17 40 1	B3	8-1層	土器群17	土器群	手付手鉢	5.6	6.0	外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-2mmの白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ 指画面直 接				内蔵黒斑		
43 - 18 66 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	手付手鉢	6.6 4.9	4.0	淡褐色	2mmの白色細粒多く含 む	良好 内外 調査不明				最大径 8.2cm		
43 - 19 66 1	C3	7層	土器群17	土器群	手付手鉢	8.0 4.3	6.0	褐色	1mm以下白色細粒含 む	良好 内外 指画面直 接				外蔵黒斑		
43 - 20 66 1	C4	7層	土器群17	土器群	手付手鉢	7.4 5.2	6.4	褐色	2mmの白色細粒多く含 む	良好 内外 ヨコナデ 指画面直 接				外蔵黒斑		
43 - 21 66 1	B3	7層	土器群1	土器群	小型鉢	(10.3) 5.4	8.3	外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-2mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				内蔵黒斑、稍い調整		
43 - 22 40 1	田	7層	土器群1	土器群	小型鉢	(12.0) 6.6	9.2	淡褐色	2mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ 深部外側 内: 淡褐色						
43 - 23 64 1			土器群1	土器群	鉢	(15.8)	15.5	外: 淡褐色 内: 淡褐色	2-3mmの白色細粒多く含 む	良好 内外 ヨコナデ ハラズリ						
43 - 24 58 1			土器群1	土器群	鉢	(17.8)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-3mmの白色細粒含 む	良好 内外 調査不明				外蔵黒斑、内蔵黒斑		
43 - 25 64 1			土器群1	土器群	鉢	18.8		外: 淡褐色 内: 淡褐色	2mmの白色細粒多く含 む	良好 ヨコナデ ヨコナデ クズリ				外蔵黒斑、内蔵黒斑行 方付近		
43 - 26 40 1			土器群1	土器群	鉢	(18.9)		褐色	4mm以下白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑		
43 - 27 40 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	鉢	(23.8)		褐色	5mm以下白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ?				外蔵黒斑、黒斑		
44 - 1 65 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	土器	22.0		外: 淡褐色 内: 淡褐色	2mm以下の石英、馬牙、石 の砂利含む。表面に浮き砂 利含む	良好 ヨコナデ ハラズリ				内蔵黒斑		
44 - 2 58 1			土器群1	土器群	土器	(22.6)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-2mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑、被施した色に なる。		
44 - 3 40 1			土器群1	土器群	土器	(22.6)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	2mmの白色細粒多く含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑、内蔵黒斑行 方		
44 - 4 58 1			土器群1	土器群	土器	(24.8)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-6mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑、工具による 削痕、内蔵黒斑		
44 - 5 65 1	B3	7層	土器群17	土器群	土器	25.0		外: 淡褐色 内: 淡褐色	5mm以下白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑、黒斑		
44 - 6 40 1			土器群1	土器群	土器	(27.0)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒に多 く含む	良好 ヨコナデ ハラズリ				口縁一部破損、外蔵黒斑		
44 - 7 58 1	B3	8-1層	土器群1	土器群	土器	(29.1)	(23.2)	外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-2mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				口縁一部破損、被施した色に なる。		
44 - 8 40 1			土器群1	土器群	土器	29.1		外: 淡褐色 内: 淡褐色	2mmの白色細粒多く含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				口縁一部破損、内蔵黒斑行 方		
44 - 9 65 1	C4	7層	土器群1	土器群	土器	30.5		外: 淡褐色 内: 淡褐色	5mm以下白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				当面は被施した色に おいている。		
44 - 10 1	B3	7層	土器群17	土器群	土器	(32.6)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	5mm以下白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑		
45 - 1 65 1	B3	8-1層 上段	土器群1	土器群	土器	21.7 12.7	23.5	褐色	1mm以下の白色細粒に多 く含む	良好 ヨコナデ ハラズリ				壁が2箇所対になってい る。		
45 - 2 65 1	B4	7層	土器群1	土器群	土器	(22.5) 14.4	22.9	褐色	5mm以下の白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				口縁一部破損、外蔵黒斑		
45 - 3 40 1			土器群1	土器群	土器	(24.0)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1-4mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ				口縁がひび、口縁部の底 に凹、小さく切欠		
45 - 4 64 1	B4	7層	土器群1	土器群	土器	(24.0)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	2mm以下の白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ						
45 - 7 66 1	D9	1層	土器群5	土器群	土器	(21.4)	7.0	3.7	灰色	0.5-2mmの白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ					
47 - 2 41 3	7層	土器群5	土器群	土器	片	17.0		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ						
47 - 3 66 3	6-3	7層	土器群5	土器群	土器	(11.6)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ						
47 - 4 41 3	7層	土器群5	土器群	土器	片	(12.7)		灰白色	2mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						
47 - 5 41 3	7層	土器群5	土器群	土器	片	(18.9)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 ヨコナデ ハラズリ						
47 - 6 41 3	D9	7層	土器群5	土器群	土器	(17.5)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明				口縁部内蔵黒斑		
47 - 7 41 3	7層	土器群5	土器群	土器	片	(17.5)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ				外蔵黒斑		
47 - 8 41 3	7層	土器群5	土器群	土器	片	(18.9)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明				最もしくは鰐の可能性 外蔵黒斑		
47 - 9 41 3	D9	7層	土器群5	土器群	土器	(19.0)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						
47 - 10 41 3			土器群5	土器群	土器	(28.5)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						
47 - 11 41 3	7層	土器群5	土器群	土器	片	(30.0)		外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ						
48 - 1 41 3	1-2層	土器群2	土器群	土器	片	(10.3)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ						
48 - 2 41 3	1-2層	土器群2	土器群	土器	片	(14.8)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明				口縁部平坦		
48 - 3 41 3	1-2層	土器群2	土器群	土器	片	(15.4)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明				口縁部平坦		
48 - 4 41 3	1-2層	土器群2	土器群	土器	片	(17.0)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑		
48 - 5 41 3	1-2層	土器群2	土器群	土器	片	(17.0)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ ハラズリ				外蔵黒斑		
48 - 6 24 3	1-2層	土器群2	土器群	土器	片	(12.2)		灰白色	2mmの白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						
57 - 1 41 1			SK14	土器群	土器	(10.3)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						
57 - 2 41 1			SK16	土器群	土器	(18.2)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 ヨコナデ 四縁						
57 - 3 41 1			SK16	土器群	土器	(14.0)		灰白色	4mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						
57 - 4 41 1			SK16	土器群	土器	(17.0)		灰白色	1mm以下の白色細粒含 む	良好 内外 調査不明						

第回審査回数	回数	地図名	地図名	位置	種別	面積	(カニコ内面積)	面積	色調	助土	構成	調整・文様	判別	(航行型式)	備考
57 - 5	41	3	SK19	生土村	堺	(17.6)			床白色	1mm以下の砂多く含む	小(内) 壁面 外(内) 調整不明				
57 - 6	41	3	SK19	生土村	御市西野(206)				浅黄褐色	2~3mmの砂多く含む	小(内) 壁面 外(内) 調整不明				
57 - 7	41	3	SK19	生土村	高坪	(16.2)			外- 浅色 内- 床白色	3mm以下砂多く含む	外(内) 壁面 外(内) 調整 不明				
57 - 8	41	3	SK20	生土村	堺	(16.6)			床白色	1~2mmの砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ 二方半 ヘタケ				
57 - 9	41	3	C10	生土村	堺				床白色	3mm以下砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
57 - 10	41	3	SQ20	生土村	堺				にごい緑色	2mm以下の砂多く含む	やや(内) 壁面 外(内) 調整 不明				
57 - 11	41	3	C10	2面	SQ20	生土村	堺		床白色	3mm以下砂多く含む	内(外) ヨコナナメ ハタケ目				
57 - 12	74	3	SQ20	生土村	低脚坪	6.0			にごい黄緑色	1mm以下の砂多く含む	やや(内) ヨコナナメ ヘタケ目 内(内) ナナ				
57 - 13	74	3	C10	2面	SQ20	生土村	堺	(15.9)	外- にごい黄緑色 内- 床白色	5mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
57 - 14	81	3	C10	2面	SQ20	生土村	堺		床白色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
57 - 15	74	3	C10	2面	SQ20	生土村	御市西野		褐色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
57 - 16	81	3	C10	2面	SQ20	生土村	高坪	(21.6)	床白色	3mm以下砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
62 - 1	42	1	SQ24	生土村	堺	(3.8)			床白色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ナナ				
62 - 3	42	1	SQ25	生土村	堺	(15.6)			床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 4	42	1	SQ25	生土村	高坪				褐色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 5	42	1	SQ26	生土村	堺	(9.8)			床白色	0.5mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 6	42	1	SQ26	生土村	堺	(16.0)			床白色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 7	42	1	SQ28	生土村	堺	(12.2)			床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				口縁端付半周
62 - 8	42	1	2面	SQ28	生土村	堺	(15.4)		浅黄褐色	1mm以下の砂多く含む、白色砂 土石含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目 内(内) ヨコナナメ ヘタケ目				草田6期
62 - 9	42	1	SQ28	生土村	堺	(14.9)			浅黄褐色	3mm以下の砂多く含む、白色砂 土石含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				草田6期
62 - 10	42	1	SQ28	生土村	堺	(16.2)			外- にごい褐色 内- 明緑色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ハタケ目				
62 - 11	42	1	2面	SQ28	生土村	堺	(14.3)		外- 床白色 内- 明緑色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 12	42	1	2面	SQ28	生土村	堺	(15.8)		外- 床白色 内- 明緑色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				外側葉斑
62 - 13	42	1	SQ28	生土村	峰	(21.0)			床白色	1~2mmの砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
62 - 14	42	1	SQ28	生土村	御市西野台	(19.0)			外- 床白色 内- 床白色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 15	42	1	SQ35	生土村	堺				床白色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 16	42	1	C4	2面	SQ36	生土村	堺	(19.0)	床白色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
62 - 17	42	1	SQ36	土耕原	堺				褐色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 18	42	1	SQ38	土耕原	堺	(16.9)			浅黄褐色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
62 - 19	42	1	SQ40	生土村	堺	(19.1)			床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ナナ				
62 - 20	42	1	SQ40	生土村	堺	(23.2)			床白色	1~2mmの砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ナナ				
62 - 21	42	1	2面	SQ40	生土村	堺	(33.6)		外- にごい褐色 内- 床白色	5mm以下の砂多く含む、白色砂 土石含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 22	42	1	SQ41	生土村	堺				外- 一様 内- にごい褐色	1.5mm以下の砂多く含む、白色砂 土石含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 23	42	1	SQ41	生土村	堺				外- 一様 内- にごい褐色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ナナ				
62 - 24	42	1	SQ41	生土村	堺	(2.6)			床白色	5mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
62 - 25	42	1	SQ41	生土村	堺				褐色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
62 - 26	42	5	SQ44	生土村	堺	(18.4)			外- にごい黄褐色 内- 床白色 - 黄褐色	1~2mmの砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ?				
62 - 27	42	5	SQ44	生土村	舞台				床白色	1mm以下の砂多く含む	小(内) 外(内) 調整 不明				中央に径0.5~1.2cmの草 生
62 - 28	42	5	SQ46	生土村	堺				外- にごい褐色 - にごい褐色 内- 浅黄褐色 - にごい褐色	1mm以上の砂多く含む、2mm 以上の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
62 - 29	42	5	SQ47	土耕原	堺				外- 黒褐色 - 黄褐色 内- 浅黄褐色 - 黄褐色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
62 - 30	42	5	SQ49	生土村	堺	(16.8)			外- 黃褐色 - 黑褐色 内- 白色 - 黑褐色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				外側保付
62 - 31	42	1	SQ53	生土村	堺	(17.8)			床白色	2mm以下の砂多く含む	外- 壁面 内- 調整 不明				
62 - 32	42	1	SQ58	生土村	堺	(9.7)			床白色	2mm以下の砂多く含む	外- 壁面 内- 調整 不明				
62 - 33	42	5	SQ58	生土村	堺	(18.4)			外- 黑褐色 - 黄褐色 内- 浅黄褐色	3mm以下の砂多く含む、白色砂 土石含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
62 - 34	66	5	SQ58	生土村	御市西野台	(13.7)			浅黄褐色	1~3mmの砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				
63 - 1	43	1	SQ52	生土村	堺	(0.2)			外- 床白色 内- にごい褐色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
63 - 2	43	1	SQ52	生土村	堺	(15.8)			床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
63 - 3	43	1	2面	SQ52	生土村	堺	(5.0)		外- にごい褐色 内- にごい褐色 - にごい褐色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
63 - 4	43	1	SQ52	生土村	堺	(21.1)			床白色	4mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				上げ道
63 - 5	65	1	2面	SQ52	土耕原	堺			床白色	赤色砂少々、白砂 半(内) 壁面	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
63 - 6	65	1	C5	8屋上	土耕原9	土耕原	(21.5)		床白色	3mm以下の砂多く含む、黒褐色砂 石黒多々含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
63 - 8	67	1	C5	2屋上	土耕原9	土耕原	202	4.6	床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
63 - 9	65	1	C5	2屋上	土耕原9	土耕原	17.6		床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				
63 - 10	43	1	C5	2屋上	土耕原9	土耕原	(16.8)		床白色	3mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ ヘタケ目				
63 - 11	66	1	C5	8屋上	土耕原9	土耕原	13.8	3.7	外- 床白色 - にごい褐色 内- 白色 - 黑褐色	1mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				外側葉斑 内側朱行者
63 - 12	76	1	C5	2屋上	土耕原9	土耕原	(13.7)	7.9	床白色	2mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				口縁付外側葉斑
63 - 13	76	1	C5	2屋上	土耕原9	土耕原	13.2		床白色	1.5mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ?				
63 - 14	76	1	C5	2屋上	土耕原9	土耕原	13.0		床白色	1.5mm以下の砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) ヨコナナメ				住内系
63 - 14	43	1	B5	2面	SQ59	生土村	堺		床白色	1~2mmの砂多く含む	内(外) 壁面 外(内) 調整 不明				

地図番号	面積	地区名	グリッド	位置	種別	詳細	風向(二カ方向)		色調	助土	地成	調整・文様	時間(日付式)	備考	
							日本	西風							
64 - 2 43 5			S059	先生土森	便				灰白色	2mm以下の砂粒多く含む	良好	外: 鹿児島 内: ヨコナデ	鹿児島 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 3 43 1			S059	先生土森	便				灰白色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ 内: ヨコナデ ヘラクズリ	鹿児島 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 4 43 1	85	2面	S059	先生土森	便かき	(21.6)			灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	外: 鹿児島 内: ヨコナデ	鹿児島 内: ヨコナデ ヘラクズリ	草田 3 期	
64 - 5 43 1			S059	先生土森	便				灰白色 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			外面坪付着 平面
64 - 6 43 1			S059	先生土森	便かき				灰白色 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: ヨコナデ			
64 - 7 76 1	2面	S059	先生土森	低排水	(16.4)	9.5	8.0	浅黃褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	外: 鹿児島 内: 调整不明	鹿児島 内: ヨコナデ	草田 3 期		
64 - 8 43 1	85	2面	S059	先生土森	高坪?	(21.5)			灰白色 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 9 43 1	85	2面	S060	先生土森	春	(21.5)			褐色	3mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目	北九州 島	
64 - 10 43 5			S060	土師森	春	(14.8)			灰 内: 灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: ヨコナデ			外露基底
64 - 11 43 1			S060	先生土森	便	(15.2)			灰 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	鹿児島 内: 調整不明	草田 3 期	
64 - 12 43 1			S060	先生土森	便	(15.2)			浅黃褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目	草田 3 期	
64 - 13 43 1			S060	先生土森	便	(15.2)			灰 内: 淡褐色	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 14 43 1	2面	S060	先生土森	便	(15.2)				灰 内: 灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 15 43 1			S060	土師森	便				浅褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 16 43 5			S060	土師森	便?				灰白色	1.5mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 17 43 1			S060	土師森	便?				褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 18 76 5			S060	土師森	高坪?	(11.0)			灰黃褐色	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	内: 三才 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 19 43 1			S060	土師森	高坪				灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: ハケ目 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 20 43 1			S064	先生土森	便				灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 調整不明			
64 - 21 76 1	C6	8面	S064	土師森	低排水	(18.0)			灰 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目	庄内系	
64 - 22 43 1			S064	土師森	高坪?				灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: 調整不明			
64 - 24 43 1	EH	2面	S068	先生土森	便	(15.6)			灰 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 25 43 1		2面	S068	土師森	便	(18.0)			灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
64 - 26 43 1			S071	先生土森	便	(17.2)			灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明		S068 と S071 接合	
64 - 27 66 1	EH	2面	S068	先生土森	磧台	8.9			灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ		島上は3~4箇所 内 S068[S071]	
64 - 28 45 5			S068	土師森	細苔	(22.0)			灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: ヨコナデ			
64 - 29 43 1	EH	2面	S068	土師森	高坪	(17.0)			灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: ハケ目 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
64 - 31 43 3		2面	S076	先生土森	便	(15.8)			灰白色	5mm以下砂粒多く含む	良好	外: ハケ目 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 32 43 3			S076	土師森	便				灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 調整不明		草田 3 期	
64 - 33 43 3		2面	S076	先生土森	便	(18.0)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
64 - 34 43 3		2面	S076	先生土森	便				灰 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	外: 三才 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
64 - 35 43 3			S076	先生土森	香か便				灰 内: 淡褐色	3mm以下砂粒多く含む	良好	内: ハケ目 内: 調整不明	ハケ目 内: 調整不明		
64 - 36 43 3		2面	S076	先生土森	野原	(19.6)			灰 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
65 - 1 43 1			S062	先生土森	香				灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: 三才 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	ハ種式	
65 - 2 43 1			S062	先生土森	便	(16.6)			灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: ヨコナデ		草田 3 期	
65 - 3 43 1			S062	先生土森	便	(12.2)			灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露坪付着	
65 - 4 43 1			S062	先生土森	便	(16.6)			灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
65 - 5 43 1			S062	先生土森	便	(16.8)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目	草田 3 期	
65 - 6 43 1			S062	先生土森	便	(16.8)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
65 - 7 43 1		5面	S062	先生土森	便	(22.0)			灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 調整不明			
65 - 8 43 1		2面	S062	先生土森	便	(16.6)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
65 - 9 44 1	D8	2面	S062	土師森	便	(16.8)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	草田 3 期	
65 - 10 67 1	D7	8面	S062	先生土森	細苔	(23.1)			淡褐色	2mm以下砂粒多く含む 内: 淡褐色	良好	外: 佐賀 内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露坪付着	
65 - 11 44 1			S062	先生土森	高坪	(13.0)			灰 内: 淡褐色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ			
65 - 12 44 1			S062	土師森	高坪				灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
65 - 14 44 1		2面	S063	土師森	便?				灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
65 - 15 44 1		2面	S063	土師森	便	9.4			灰 内: 淡褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
65 - 16 44 1		2面	S063	土師森	便?	(1.6)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 調整不明			
65 - 17 44 1		2面	S063	先生土森	便				灰白色	1~3mmの砂粒多量に含む	良好	外: 三才 内: 調整不明	ハケ目 内: 調整不明	外露坪付着	
65 - 18 44 1			S063	先生土森	便?				灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
65 - 19 44 1		2面	S063	土師森	便	(12.4)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露坪付着	
65 - 20 44 1		2面	S063	土師森	便	(17.3)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: 内外: 調整不明			
65 - 21 44 1	C5	2面	S063	土師森	便	(18.0)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	ハ種式	
65 - 22 44 1		2面	S063	土師森	便	(20.0)			淡黃褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	西風葉	
65 - 23 44 1		2面	S063	土師森	便	(15.7)			淡黃褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	西風葉	
65 - 24 44 1			S063	土師森	便	(16.2)			淡黃褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
65 - 25 44 1		2面	S063	先生土森	細苔?	(15.2)			灰白色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ナナ 内: 田代	ハケ目 内: ナナ ケヌ?	外露坪付着	
65 - 26 44 1		2面	S063	土師森	便				灰白色	4mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
65 - 27 44 1		2面	S063	土師森	細苔?	(17.5)			灰白色	2mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	外露基底	
65 - 28 67 1		2面	S063	先生土森	磧台	7.6 9.8	7.3	9.8	灰白色	5mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ	内露基底	
65 - 29 44 1	EH	2面	S063	土師森	細苔?	(21.0)			褐色	1mm以下砂粒多く含む	良好	内: ヨコナデ	ハケ目 内: ヨコナデ		

番号	固有番号	学名	クリア	単位	遺傳	種別	品種	法面(1m) （カッコ内は特徴）		色調	地土	被成	調整・特徴	点数 (併用式)	備考	
								日本	原種							
45 - 30 44 1	2	2面	S063	野生土種	真叶			内: 黄緑葉色 外: 淡黃褐色	1mm以下の細粒少含む	青白	沙質土	刈安	刈安文、沈緑、ハクサ？ 内: ナナ	IV級式	B3と同一個体	
45 - 31 66 1	1	EB	2面	S063	野生土種	基原	(13.4)	同上	2mm以下の中粒含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
45 - 32 44 1	1	C5	2面	S063	土耕種	真叶		淡黃褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
45 - 33 66 1	1	C5	2面	S063	土耕種	半厚葉	(5.0)	4.4	4.7	白	同上	同上	内: 外: ナナ	地元栽培		
46 - 1 44 3			S098	土耕種	青	(28.6)		外: 黄褐色 内: 黄色	1mm以下の細粒含む	青白	同上	刈安	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈安		
46 - 2 44 3			S098	土耕種	紫	(16.0)		同上	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
46 - 3 44 3			S098	野生土種	紫	(18.1)		同上	1mm以下の中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
46 - 4 44 3			S098	野生土種	紫	(20.8)		同上	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
46 - 5 45 3			S098	土耕種	紫	(16.4)		同上	1~3mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈安		
46 - 6 45 3			S098	野生土種	紫	(18.2)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
46 - 7 45 3			S098	野生土種	紫	(18.2)		同上	2mm以下の中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ナナ 外: ハラズリ	草田 3期		
46 - 8 45 3			S098	野生土種	紫	(15.6)		にぶい 黃褐色	1mm以下の中粒多含む	青白	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	波状紋 内: ハラズリ	草田 3期		
46 - 9 45 3			S098	野生土種	紫	(18.8)		同上	1mm以下の中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈安		
46 - 10 67 3			S098	野生土種	紫	(6.4)		同上	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈田 3期		
46 - 11 45 3			S098	土耕種	紫	(18.2)		にいし 黄褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	草田 5-6期		
46 - 12 45 3			S098	土耕種	紫	(16.2)		内: 黄褐色 外: 淡黃褐色	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	波状紋 内: ハラズリ	草田 3期	
46 - 13 45 3			S098	土耕種	紫	(23.3)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈田 3期		
46 - 14 45 3			S098	野生土種	紫			同上	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈田 3期		
46 - 15 43 3			S098	土耕種	紫	(14.4)		外: 波状紋 内: 黄褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 17 45 3			S098	土耕種	紫	(14.9)		内: 波状紋 外: 波状紋	1.5mm以下の細粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 18 3			S098	野生土種	紫			にいし 黄褐色	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 19 45 3			S098	土耕種	紫	(16.2)		内: 黄褐色 外: 淡黃褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 20 45 3			S098	土耕種	紫	(21.2)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	刈田 3期		
46 - 21 45 3			S098	土耕種	紫	(14.8)		同上	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 22 45 3			S098	土耕種	紫	(13.0)		内: 淡褐色 外: 淡褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 23 45 3			S098	土耕種	紫	(15.6)		にいし 黄褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	草田 5-6期		
46 - 24 67 3			S098	土耕種	紫			同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 25 47 3			S098	土耕種	紫	(13.6)		内: 波状紋	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	波状紋	刈田 3期	
46 - 26 67 3			S098	土耕種	紫			内: 波状紋 外: 波状紋	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ハラズリ 外: ハラズリ	波状紋	刈田 3期	
46 - 27 45 5			S081	土耕種	紫	(4.6)		外: 波状紋 内: 波状紋	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 28 45 3			S098	野生土種	紫	(11.9)	11.1	漢葉裡 - 紫	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 29 45 3			S098	野生土種	紫	(21.0)		内: 淡褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
46 - 30 45 3			S098	野生土種	紫	(21.2)		内: 淡褐色	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ハラズリ 外: ハラズリ	刈田 3期		
46 - 31 45 3			S098	野生土種	紫	(16.9)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	刈田 3期	
47 - 1 67 1	C7	R8	S070	土耕種	紫	26.6		淡褐色		同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	個體内面は色調が異なるものもいたがそれらを除く	
47 - 2 45 1			S071	土耕種	紫	(15.2)		同上	1mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 3 3			S071	土耕種	紫	(18.0)		同上	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 4 45 3			S071	野生土種	紫	(19.5)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 5 45 3			S071	土耕種	紫	(19.6)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 6 45 3			S071	野生土種	紫	(16.9)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 7 45 3			S071	野生土種	紫	(15.0)		内: 淡褐色	2mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	外周被熱	
47 - 8 45 3			S071	野生土種	紫			にいし 黄褐色	4mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	外周被熱	
47 - 9 45 3			S070	野生土種	紫	(13.0)		同上	3mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 10 45 3			S070	野生土種	紫			内: 黄褐色	3mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 11 45 3			S070	野生土種	紫			内: 淡褐色	3mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 12 45 3			S070	野生土種	紫			内: 波状紋	4mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 13 45 3			S070	野生土種	紫			内: 波状紋	4mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 14 45 3			S074	野生土種	紫	(19.2)		同上	1.5mm以下の細粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 15 45 3			S094	野生土種	紫	(17.5)		同上	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 16 45 3			S094	野生土種	紫	(24.0)		同上	1~3mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ナダ	草田 3期	
47 - 17 67 3			S094	野生土種	紫	(19.4)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ナダ	草田 3期	
47 - 18 46 3			S094	野生土種	紫	(21.4)		同上	1~2mmの中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	草田 3期	
47 - 19 46 3			S094	野生土種	紫	(17.4)		内: 淡褐色	2mm以下の中粒多含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 20 46 3			S094	野生土種	紫	(22.0)		内: 波状紋	2~3mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 21 46 3			S094	野生土種	紫	(17.6)		内: 波状紋	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 22 67 3			S094	野生土種	紫	(3.2)		内: 黄褐色	4mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	庭園が僅かに干透で少し凹む	
47 - 23 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	4mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	庭園	
47 - 24 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	4mm以下の中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	ハラズリ	庭園	
47 - 25 46 3			S094	野生土種	紫	(5.6)		同上	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 26 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 27 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 28 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 29 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		
47 - 30 46 3			S094	野生土種	紫			内: 波状紋	1~2mmの中粒少含む	同上	内: 外: 土壌肥沃	同上	内: 外: 調整不明	同上		

種類	品目	区分	グリッド	部位	種別	組織	色調	土壌	地成	調整・文様	時期 (H/I式)	備考
							カツラ(三色)集	口付 直付	西面			
67 - 27 46 4	SD100	先生土壌	便			内: 黄褐色 外: 明褐色 - 墓底色 内: 黑褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
67 - 28 46 4	SD100	先生土壌	他脚			内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色 内: 黑褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	内部保付養 蔡として使用?
67 - 29 46 4	SD101	先生土壠	便	(13.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色 内: 黑褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
67 - 30 46 4	SD101	先生土壠	便	(16.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色 内: 黑褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
67 - 31 46 4	SD101	先生土壠	便	(20.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
67 - 32 46 4	SD101	先生土壠	便	(16.0)		内: 黄褐色	2~3mmの砂粒多く含む 1mm以下の砂粒を多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
67 - 33 46 4	SD101	先生土壠	較形直付			内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色	1~2mmの砂粒含む	やや不良	内: 深褐色不明			
67 - 34 46 4	SD101	土師器	坪	(6.0)		黄褐色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
67 - 35 46 4	SD101	須恵器	坪	(6.0)		灰白色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
67 - 36 46 4	SD101	須恵器	坪	(6.0)		灰白色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
67 - 37 46 4	SD101	須恵器	坪	(13.0)		灰白色 - 灰色	0.5mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	内部内灰化色の事有り
79 - 1 46 1	Pt775	先生土壠	香	(14.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	2~3mmの砂粒多く含む 1mm以下の砂粒を多く含む	良好	内: ハクゾウ 外: ハクゾウ	内: ハクゾウ	H/I式	
79 - 2 46 1	Pt776	土師器	便	(18.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
79 - 3 46 1	Pt853	先生土壠	便			灰白色	2mm以下の砂粒含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
79 - 4 46 1	Pt880	先生土壠	便	(18.0)		灰白色 - 灰褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
79 - 5 46 1	Pt880	先生土壠	便	(14.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 普通 外: 普通	内: 普通	H/I式	
79 - 7 46 1	Pt897	先生土壠	便	(15.0)		灰白色	2~3mmの砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 8 46 1	E4 Pt933	先生土壠	便	(21.0)		黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 9 46 1	Pt1024	先生土壠	墓坪	(19.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 10 46 1	Pt1024	先生土壠	便			内: 黄褐色 外: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 11 46 5	Pt1064	先生土壠	便			灰白色	2mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 12 46 1	Pt1086	先生土壠	坪	(14.0)		灰白色	2~4mmの砂粒含む	良好	内: 深褐色不明 外: 深褐色	内: 深褐色	H/I式	外周保付石、墓塀
79 - 13 46 1	Pt1093	先生土壠	便	(15.0)		灰白色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 深褐色不明			
79 - 14 46 3	Pt1124	先生土壠	便	(18.0)		内: 白色 外: 白色 - 墓底色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 15 46 3	Pt1124	先生土壠	便	(20.0)		内: 白色 外: 白色 - 墓底色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 16 46 3	Pt1124	先生土壠	便			内: 白色 外: 白色 - 墓底色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 17 46 3	Pt1127	土師器	便	(14.0)		褐色	1mm以下の砂粒含む	やや不良	内: 深褐色不明			
79 - 18 46 3	Pt1137	土師器	墓口壺	(9.2)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	1~2mmの砂粒含む	やや不良	内: 深褐色不明			
79 - 19 46 3	Pt1137	土師器	便			内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色	3mm以下の砂粒含む	良好	内: 深褐色不明			
79 - 20 46 3	Pt1160	先生土壠	便	(17.0)		灰白色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 21 46 5	Pt1188	土師器	墓口壺	(11.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	1mm以下の砂粒少し含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ	H/I式	
79 - 22 46 3	Pt1239	先生土壠	便			黄褐色	3mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ		外系系	
79 - 23 46 3	Pt1242	土師器	便	(19.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	5-6期
79 - 24 47 3	Pt1248	先生土壠	便	(13.0)		灰白色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色不明			
79 - 25 47 1	Pt1248	先生土壠	便	(15.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	外周黑色付着
79 - 26 47 1	Pt1228	先生土壠	便	(20.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: 深褐色	H/I式	
79 - 27 47 3	Pt1264	先生土壠	便	(16.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	2mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: 深褐色	H/I式	
71 - 1 66 1	Pt14	先生土壠	便	(20.0)		浅褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ナダ	H/I式	
71 - 2 47 1	Pt14	先生土壠	便	(5.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	0.5~1mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ナダ	H/I式	外周被熱
71 - 3 47 1	Pt17	先生土壠	便	(17.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
71 - 4 47 1	Pt17	先生土壠	便			内: 黄褐色 外: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ヨコヅナ	H/I式	
71 - 5 47 1	Pt16	土師器	便	(6.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
73 - 2 47 1	Pt1242	土師器	便	(18.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
73 - 3 47 1	Pt1242	土師器	便	(14.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
73 - 4 47 1	Pt1242	土師器	便	(15.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
73 - 5 58 1	Pt1242	土師器	便	(22.0)		内: 黄褐色	2mm以下の灰 - 灰色砂粒 石質砂粒	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
73 - 6 47 1	Pt1242	土師器	便	(6.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
73 - 7 1	Pt1242	土師器	便	(5.0)		内: 黄褐色	1mm以下の砂粒含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
74 - 1 58 3	I DM E1	土師器	便	(29.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色	5mm以下の白 - 灰 - 灰褐色 砂粒多く含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ハケ目 ナダ	H/I式	
74 - 2 47 3	I-2-12 土	土師器	便			灰色	3mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: ハケ目	H/I式	
76 - 1 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(26.0)		内: 白色 外: 白色	3mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: 竹筒文 羽状文	H/I式 3期?	
76 - 2 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(28.0)		内: 黄褐色 外: 黄褐色 - 墓底色 内: 白色	4mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: 竹筒文 羽状文	H/I式 3期?	77-10と同一個体?
76 - 3 66 3	E11	I-2-12 土	土師器	(25.0)		内: 白色	4mm以下の砂粒含む	良好	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	内: 竹筒文 羽状文	H/I式	
76 - 4 68 3	E11	I-2-12 土	土師器	(19.0)		内: 白色	0.5mm以下の砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
76 - 5 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(15.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
76 - 6 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(12.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
76 - 7 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(12.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
76 - 8 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(12.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	
76 - 9 47 3	E10	I-2-12 土	土師器	(12.0)		内: 黄褐色	1~2mmの砂粒多く含む	良好	内: 深褐色 外: 深褐色	内: ヨコヅナ 外: ヨコヅナ	H/I式	

掲番	回答番号	地図	クワード	位置	遺傳	種別	面積	基準 (カニコ内性状) 口径 厚さ	色調	助土	構成	調整・文様	判別 (供用型式)	備考
外 内 裏	裏 外 内 裏	外 内 裏	外 内 裏											
76 - 10 47 3 E10		土蔵群4	生土蔵	壁	(22.6)				灰白色	1mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	裏 外 内 裏	草田3期
76 - 11 47 3 E10		土蔵群4	生土蔵	壁	(26.2)				灰白色	1~3mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ナデ 3~4期
76 - 12 48 3 E10		土蔵群4	生土蔵	壁	(19.0)				灰白色	2mm以上の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明 草田3期
76 - 13 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	生土蔵	壁	(15.2)				灰白色	1~2mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明 草田3期
76 - 14 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	生土蔵	壁	(15.1)				浅黄褐色	1~3mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明 草田3期
76 - 15 48 3 E10		土蔵群4	生土蔵	壁	(13.6)				褐色	1mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
76 - 16 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(13.4)				灰 内 外 裏	灰 内 外 裏	2mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
76 - 17 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(14.0)				灰白色	2mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
76 - 18 48 3 C11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(17.6)				浅黄褐色	1~3mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
76 - 19 48 3 E11		土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.0)				灰白色	2mm以上の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
76 - 20 48 3 E10		土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.2)				浅黄褐色	1~2mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 1 48 3 E10		土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 2 48 3 E10		土蔵群4	土蔵廊	壁	(20.6)				褐色	1~5mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 3 48 3 E10		土蔵群4	土蔵廊	壁	(22.8)				褐色	1mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 4 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.6)				灰 内 外 裏	灰 内 外 裏	2mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 5 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 6 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.0)				灰白色	2mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 7 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(16.9)				浅黄褐色	1~2mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 8 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(18.5)				灰白色	5mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明 草田6期
77 - 9 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(13.4)				灰 内 外 裏	灰 内 外 裏	1mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 10 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(24.2)				灰 内 外 裏	灰 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ハケ目 76-2と同一個体?
77 - 11 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(12.6)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 12 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(30.8)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	3~4mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	口縁部保付材
77 - 13 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(17.4)				浅黄褐色	1~2mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	やや 調節不明
77 - 14 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(17.6)				灰白色	1~2mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 15 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(20.2)				浅黄褐色	3mm以上の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	口縁部外周部
77 - 16 48 3 E10	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	(12.6)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 17 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	14.2				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2~3mmの細粒多く含む 5mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	口縁部底面付材
77 - 18 48 3 E11	1~2面	土蔵群4	土蔵廊	壁	5.5				灰白色	1mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	内面一部表板
77 - 19 3 E10		土蔵群5	生土蔵	壁					浅黄褐色	1mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ナデ
77 - 20 3 E10		土蔵群4	生土蔵	壁	5.2				灰白色	1mm以下の細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 21 3 E10	1~2面	土蔵群4	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	1.5mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
77 - 22 69 3 E10	1~2面	土蔵群4	生土蔵	高坪	14.0				外 内 外 裏	外 内 外 裏	5mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	内面一部 2号2方向の円通かし 小面表材
77 - 23 3 E10	1~2面	土蔵群4	生土蔵	高坪	(13.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1mm以下の細粒多く含む やや 不規則	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
79 - 1 48 3 D9	土蔵群6	生土蔵	壁		11.1				灰白色	1mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ハラクシ アラマツ
79 - 2 49 3 E10	9層	土蔵群5	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	1mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	下大屋式
79 - 3 49 3 C10	8層	土蔵群5	生土蔵	壁					褐色	1~3mmの細粒多く含む	灰白	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
79 - 4 49 3 D10	10層	土蔵群6	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	下大屋式
79 - 5 49 3 E10	19層	土蔵群6	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	内 外 内 裏
79 - 6 49 3 E10	19層	土蔵群6	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	5mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	内 外 内 裏
79 - 7 49 3 E10	19層	土蔵群6	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	10mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	内 外 内 裏
79 - 8 49 3 D10	11層	土蔵群6	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	1mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	内 外 内 裏
79 - 9 58 3		土蔵群6	生土蔵	壁	(18.5)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ 調節 ハケ目
79 - 10 49 3		土蔵群6	生土蔵	壁					外 内 外 裏	外 内 外 裏	2mm以下の細粒含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	IV種式
79 - 11 69 3		土蔵群6	生土蔵	壁	14.7				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	草田3期
79 - 12 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(14.0)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	草田3期
79 - 13 49 3		土蔵群6	生土蔵	壁	(16.7)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
79 - 14 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(16.2)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
79 - 15 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(30.3)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2~3mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	草田3期
79 - 16 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(21.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	外側保付材
79 - 17 3		土蔵群6	生土蔵	壁	22.0				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ハラクシ 調節
79 - 18 58 3		土蔵群6	生土蔵	壁	(20.3)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
80 - 1 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(29.0)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ハラクシ
80 - 2 57 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(19.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
80 - 3 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(25.2)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ミガ
80 - 4 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(31.7)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	調節不明
80 - 5 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(21.5)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	3mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	口縁部外周
80 - 6 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(22.6)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2mm以下	内 外 内 裏	内 外 内 裏	口縁部外周付材
80 - 7 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(26.0)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	4mm以下の細粒含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ハラクシ
80 - 8 49 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(21.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	2mm以下の細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ハラクシ?
80 - 9 57 3 D9		土蔵群6	生土蔵	壁	(21.4)				外 内 外 裏	外 内 外 裏	1~2mmの細粒多く含む	内 外 内 裏	内 外 内 裏	ココナデ ハラクシ?

地図番号	面積	地区名	グリッド	部位	種別	詳細	風向(二分法)		色調	助土	地成	調整・文様	範囲(印字式)	備考
							[北]	[東]						
80 - 10 49 3		土蔵群 6	生土生苔	便	(09.1)	にふい・黄緑色	4m以下の砂粒含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ミガキ ハラズリ					
80 - 11 49 3	8面	土蔵群 6	生土生苔	便	(19.6)	外:灰白色 内:米穀色	4m以下の砂粒含む	良好	内:調整不明					
80 - 12 49 3 D9		土蔵群 6	生土生苔	便	(17.3)	外:灰白色 内:米穀色	3m以下の砂粒含む	良好	内:ヨコナデ 波状文 内:ヨコナデ ハラズリ	草田IV期				
80 - 13 50 3		土蔵群 6	生土生苔	便	(17.4)	外:灰白色 内:米穀色	4m以下の砂粒含む	良好	内:調整不明 内:調整	波状文				
80 - 14 3		土蔵群 6	生土生苔	便	19.8	にふい・黄緑色	1m以下の砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ					
80 - 15 50 3 D9		土蔵群 6	生土生苔	便	(18.4)	外:にふい・黄緑色 内:米穀色	1m以下の砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ					
80 - 16 50 3		土蔵群 6	生土生苔	便		外:にふい・黄緑色 内:米穀色	1~2mの砂粒多く含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				内面黒斑	
80 - 17 50 3 D9		土蔵群 6	生土生苔	便	(6.0)	外:灰褐色 内:米穀色	1m以下の砂粒多く含む	良好	内:調整不明				連続保乳、わずかに上部 断続的に変色	
80 - 18 50 3 D9		土蔵群 6	生土生苔	便	3.8	外:灰褐色 内:米穀色	2m以下の砂粒多く含む	良好	内:ナダ				外面保付着	
81 - 1 50 1 D7	8面	土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(23.0)	浅黃緑・褐色	1~2mの砂粒多く含む	不良	内:調整 不良 内:砂粒混入 玉力手					
81 - 2 50 1 D7	8面	土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(18.6)	浅黃緑・褐色	1~2mの砂粒多く含む	不良	内:調整 不良 内:ヘラズリ				草田I期	
81 - 3 68 3 E9	8面	土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(17.7)	灰色	2m以下の砂粒多く含む 石英砂多く含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				草田I期	
81 - 4 3 D9+10 8面		土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(22.6)	7.0m 植物	2m以下の白砂利・金 葉母多く含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ					
81 - 5 68 3 D9		土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(22.8)	白	1~2mの砂粒多く含む	不良	内:調整 不明					
81 - 6 50 3 D10		土蔵群 6	生土生苔	廻行路		外:浅黃緑色 内:米穀色	1~2mの砂粒多く含む 石英砂多く含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				草田III期 内外赤色顔料	
81 - 7 69 3 D9	8面	土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(14.5) [11.2]	12.1m 植物	2m以下の砂粒多く含む 石英砂多く含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				草田III期	
81 - 8 68 3		土蔵群 6	生土生苔	廻行路	(22.3) [21.8]	10.6m 植物	1m以下の砂粒少し含む	不良	内:調整 不明					
81 - 9 3		土蔵群 6	生土生苔	露坪		にふい・黄緑色	1m以下の砂粒多く含む	不良	内:調整 不良 内:ヘラズリ					
81 - 10 3		土蔵群 6	生土生苔	露坪		褐色	4m以下の砂粒含む	良好	内:調整 不明					
81 - 11 69 3		土蔵群 6	生土生苔	露坪		外:浅黃緑色 内:米穀色	3m以下の砂粒含む	良好	内:ヨコナデ ナダ ハケ緑 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ				耕作地	
83 - 1 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	便	(21.6)	褐	2m以下の砂利・石英砂 内:米穀色	良好	内:ヨコナデ ナダ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ					
83 - 2 50 1		土蔵群 7	生土生苔	便		灰黃緑色	1m以下の砂粒含む	良好	内:ナダ 調整 別文				塩原式	
83 - 3 50 1 E6		土蔵群 7	生土生苔	便		外:灰黃緑色 内:にふい・米穀色	1m以下の砂粒含む	良好	内:調整 不良 内:ヨコナデ ナダ ナダ				E6種式	
83 - 4 50 1 E2		土蔵群 7	生土生苔	便	(21.2)	外:灰黃緑色 内:米穀色	1m以下の砂粒多く含む	良好	内:ヨコナデ バック ハケ緑 内:ヨコナデ ハケ緑				外面保付着	
83 - 5 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	高坪		にふい・黄緑色	1m以下の砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ナダ				N種式	
83 - 6 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	高坪		灰白色	2m以下の砂利・石英砂 内:米穀色	良好	内:ヨコナデ ナダ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ				N種式	
83 - 7 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	高坪		灰白色	1m以下の砂利含む	良好	内:ヨコナデ ナダ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ				N種式	
83 - 8 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	高坪		灰白色	1m以下の砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ナダ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ				N種式	
83 - 9 50 1 E2		土蔵群 7	生土生苔	高坪	(12.4)	浅黃緑色	1m以下の砂粒含む	良好	内:ヨコナデ 剣麻文 戸蘆 内:ヨコナデ ハラズリ				N種式	
83 - 10 67 1		土蔵群 7	生土生苔	便	(29.0)	にふい・黄緑色	1mの砂粒少し含む	良好	内:ナダ 調整 別文 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ				N種式 6-30と同一個体	
83 - 11 67 1	2面	土蔵群 7	生土生苔	便	(供)	にふい・黄緑色	1mの砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヘラズリ					
83 - 12 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	便	(15.0) [10.6]	外:にふい・米穀色 内:白色	1m以下の砂粒少し含む 石英砂多く含む	良好	内:ヨコナデ バック 露塗 内:ヨコナデ ハラズリ				露塗一門系	
83 - 13 69 1 D6 8面	2面	土蔵群 7	生土生苔	便		外:浅黃緑色 内:白色	1m以下の砂利・石英砂 内:米穀色	良好	内:ヨコナデ バック 露塗 内:ヨコナデ ハラズリ ナ				草田5期	
83 - 14 57 2面		土蔵群 7	生土生苔	便	(25.0)	にふい・浅黃緑色	1mの砂粒含む	良好	内:ナダ 調整 不良 内:ヨコナデ ハラズリ					
83 - 15 50 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	便	(20.2)	浅黃緑色	1~2mの砂粒多さ含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ					
83 - 16 16 1 E6 2面		土蔵群 7	生土生苔	便	(20.8)	白	2m以下の砂粒多さ含む	良好	内:ヨコナデ 別文 内:ヨコナデ ハラズリ				草田5期	
83 - 17 69 1 2面		土蔵群 7	生土生苔	便	22.3	外:灰白色 内:白色	1m以下の砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ヘラズリ					
84 - 1 69 1 E6 2面		土蔵群 7	土師器	便	20.7	灰白色	2m以下の砂粒多さ含む	良好	内:調整 不良 内:ヨコナデ ナダ ナダ					
84 - 2 69 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	(20.4)	灰白色	1.5mの砂粒を多く含む	良好	内:ヨコナデ ミガキ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ヘラズリ					
84 - 3 57 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	(23.9)	浅黃緑色	2~3mの砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ヘラズリ					
84 - 4 69 1 E6 2面		土蔵群 7	土師器	便	(22.4)	外:浅黃緑色 内:白色	1.5m以下砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ 内面文 道築 内:ヨコナデ ナダ ナダ				小6-3 口縫部内外面黑斑	
84 - 5 1 F3 2面		土蔵群 7	土師器	便	(17.9)	浅黃緑色	3m以下の砂粒多さ含む	良好	内:ヨコナデ ナダ ナダ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ヘラズリ					
84 - 6 58 2面		土蔵群 7	土師器	便	(15.6)	白	1.5mの砂粒を多く含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ケスリ				周辺外面黒斑	
84 - 7 69 2面		土蔵群 7	土師器	便	16.6	外:灰白色 内:白色	石英砂、灰白色多さ含む 相間	不良	内:ヨコナデ 羽状文 内:ヨコナデ				外面保付着	
84 - 8 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	17.0	浅黃緑色	1mの砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ヘラズリ					
84 - 9 51 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	(16.5)	外:第一灰白色 内:白色	1mの砂粒含む	良好	内:ヨコナデ ナダ					
84 - 10 51 1 E6 2面		土蔵群 7	土師器	便	(14.5)	相間	2m以下の砂粒少し含む	良好	内:調整 不明					
84 - 11 51 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	(16.0)	白	1mの砂粒含む	良好	内:ヨコナデ					
84 - 12 51 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	(11.9)	浅黃緑色	1mの砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ナダ ハラズリ					
84 - 13 51 1 2面		土蔵群 7	土師器	便	7	外:浅黃緑色 内:米穀色	1~2mの砂粒少く含む	良好	内:ヨコナデ 田園文 内:調整 不良				外面保付着	
85 - 1 70 1 F6		土蔵群 7	土師器	便口窓	8.8	外:褐色 内:相間	2m以下の砂粒多さ含む	良好	内:ミガキ ? 実塗 内:調整 不明					
85 - 2 70 1 E2		土蔵群 7	土師器	便口窓	(14.8)	浅黃緑色	1mの砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ナダ ナダ					
85 - 3 70 1 2面		土蔵群 7	土師器	便口窓	11.2	15.8 白	1mの砂粒少し含む	良好	内:ヨコナデ ナダ ハラズリ				底部外面黒斑	
85 - 4 1 2面		土蔵群 7	土師器	便口窓	13.9	浅黃緑色	1m以下の白、灰色相間	良好	内:ヨコナデ					
85 - 5 70 1 2面		土蔵群 7	土師器	便口窓	16.1	外:灰白色 内:米穀色	1~2mの砂粒含む	良好	内:ヨコナデ					
85 - 6 31 1 2面		土蔵群 7	土師器	便口窓	(14.2)	外:灰白色 内:白色	1~2mの砂粒含む	良好	内:ヨコナデ					



番号	品目番号	地区	グリッド	部位	遺構	種類	樹種	(活量(3) ×(カッコ内付生長量)) □付生長量 △付死生長量		色調	地土	焼成	調整・文様	(時間) (時間)式	備考		
								付生長量	付死生長量								
89 - 2	53	1	E6	土壌層	7	先生土層	黒	5.0		外：黒褐色～灰黑色 内：黒褐色	1~2mmの粒状含む	良好	内外：ナデ	延岡5期			
89 - 3	53	1	2面	土壌層	7	先生土層	黒	5.0		外：黒褐色～にごり黒褐色 内：黒褐色	1mmの粒状多く含む	良好	内：ナデ 外：ナデ	内田焼付着			
89 - 4	53	1	土壌層	7	先生土層	黒	100			外：黒褐色～灰黑色	1mmの粒状多く含む	良好	内外：ナデ	延岡外表面に核の痕跡			
89 - 5	53	1	E3	土壌層	7	土壌層	黒	(3.6)		外：黒褐色	1mm以下の粒状少し含む	良好	内外：ナデ	延岡1回焼付			
89 - 6	53	1	2面	土壌層	7	先生土層	黒	3.5		外：黒褐色 内：にごり黒褐色	1mm以下の粒状多く含む	良好	内：ナデ 外：ナデ	内田焼付着			
89 - 7	71		土壌層	7	土壌層	付移植	13.4			外：浅黒褐色 内：にごり 黒褐色	0.5mm以下の石炭、石墨、木炭等の粒状含む	良好	内：ヨコナデ 外：ナデ ハラミ	茅野5-6期	口縁部外反、内側面部付着 縁口縫隙外面部赤色斑点		
89 - 8	53	1	E5	土壌層	7	土壌層	灰	(7.0)		外：稍褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内外：ナデ	色色感?			
89 - 9	71	1	2面	土壌層	7	土壌層	灰	(11.7)	5.5	灰褐色	1mm以下の粒状多く含む	良好	内外：調査不明	ほぼ丸			
89 - 10	71	1	土壌層	7	土壌層	灰	(11.9)	3.8	4.1	灰褐色	1mm以下の粒状多く含む	良好	内外：ナデ ナデ	延岡外表面			
89 - 11	1	E2	土壌層	7	土壌層	灰	14.8	9.5	(4.6)	外：灰褐色 内：灰褐色	0.5mm以下の石炭、石墨、木炭等の粒状含む	良好	内：ナデ ナデ 外：ナデ	面接痕			
89 - 12	71	1	2面	土壌層	7	土壌層	灰	13.8		外：灰褐色 内：灰褐色	2mm以下の白灰、褐色の粒状含む 石炭、木炭多く含む	良好	内：ヨコナデ 面接痕	内田焼			
89 - 13	1	2面	土壌層	7	土壌層	灰	(14.4)	5.3		灰褐色	5mm以下の白灰、褐色の粒状含む 石炭、木炭多く含む	良好	内外：調査不明				
89 - 14	71	1	土壌層	7	土壌層	灰	14.7	7.0	16.8	外：浅黒褐色～深黒褐色 内：灰褐色～暗褐色	2mm以下の白灰色含む	良好	内：ヨコナデ ナデ 外：ナデ	三井瓦ナデ	僅かに平底 内面は暗褐色 外表面以下に付着土		
89 - 15	53	1	2面	土壌層	7	先生土層	灰	(13.8)		浅黒褐色	1mm以下の粒状多く含む	良好	内外：ナデ ハラミ				
89 - 16	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	22.1			褐色	1mm以下の白灰、褐色の粒状含む	良好	内外：ヨコナデ				
89 - 17	53	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	(21.0)		灰褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内外：調査不明				
89 - 18	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	(18.2)			灰褐色	1mm以下の白灰、褐色の粒状含む	良好	内外：ヨコナデ				
89 - 19	71	1	6面	土壌層	7	先生土層	付移植	20.7	18.3	11.7	浅黒褐色	1mm以下の白灰色含む	良好	内：ヨコナデ 外：ナデ	三井瓦ナデ		
89 - 20	1	E6	土壌層	7	先生土層	付移植	(22.1)	18.7	11.9	浅黒褐色	1mm以下の白灰色含む	良好	内：ヨコナデ 外：ナデ	ハラミナデ			
89 - 21	71	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	(25.2)		灰褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内外：調査不明	茅野5期			
89 - 22	1	E6	土壌層	7	先生土層	付移植	(24.0)			灰褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				
89 - 23	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	18.4			浅黒褐色	3mm以下の白灰、褐色の粒状含む 石炭、木炭多く含む	良好	内：ヨコナデ ハラミ				
89 - 24	53	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	(20.0)		灰褐色	2mm以下の白灰、褐色の粒状含む 石炭、木炭多く含む	良好	内：ヨコナデ				
89 - 25	71		土壌層	7	土壌層	付移植	22.5	19.2	11.5	灰褐色	1~2mmの粒状含む	良好	内外：ナデ				
89 - 26	71	1	E4	7面	土壌層	7	土壌層	付移植	19.0		浅黒褐色	2mm以下の白灰色含む	良好	内外：ナデ			
89 - 27	1	2面	土壌層	7	土壌層	付移植	(20.6)			褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：ナデ				
89 - 28	1	2面	土壌層	7	土壌層	付移植	(20.6)			灰白色	1mmの粒状含む	良好	内外：ナデ ケズリ				
89 - 29	71	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	(15.7)		外：にごり 黑褐色 内：灰褐色	1mm以下の白灰色含む	良好	内：ヨコナデ 外：ナデ ケズリ				
89 - 30	71	1	2面	土壌層	7	土壌層	付移植	(20.0)		灰褐色	1mm以下の白灰、褐色の粒状含む 石炭、木炭多く含む	良好	内外：ヨコナデ	足は1箇所のみ 内表面			
89 - 31	71	1	2面	土壌層	7	土壌層	付移植	(10.3)	(9.2)	8.7	浅黒褐色	1mm以下の粒状少しある	良好	内：ヨコナデ ハラミ 外：ヨコナデ ハラミ	脚部2方向円形透かし		
90 - 1	72	1	E5	土壌層	7	先生土層	低燃焼	18.6	5.4	4.4	褐色	2mm以下の石炭、白色的 砂利、木炭含む	良好	内外：調査不明			
90 - 2	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	19.6	5.7	5.6	浅黒褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				
90 - 3	72	1	2面	土壌層	7	先生土層	付移植	(22.1)	6.3	6.6	浅黒褐色	1mmの粒状多く含む	良好	内外：調査不明			
90 - 4	71	1	C5	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	7.4	2.3	4.0	浅黒褐色	1mm以下の白灰の粒状含む 石炭、木炭含む	良好	内：ナデ ハラミ 外：ナデ	面接痕	
90 - 5	71	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	(13.3)	5.8	4.5	浅褐色	1mm以下の白灰、褐色の粒状含む	良好	内外：調査不明			
90 - 6	52	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	(14.5)	4.9	4.1	浅褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：調査不明			
90 - 7	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	18.6	5.6		浅黒褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内：ナデ ナデ				
90 - 8	1	E3	土壌層	7	先生土層	低燃焼	18.4			灰褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内：ナデ ナデ				
90 - 9	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	9.1			浅黒褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内外：調査不明				
90 - 10	71	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	(11.0)		灰褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				
90 - 11	71	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	(13.7)	(8.4)	7.3	外：にごり 黑褐色 内：灰褐色	1mmの粒状多く含む	良好	内：ナデ 外：ナデ	複合窓で剥離している		
90 - 12	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	(14.7)			浅黒褐色	1mmの粒状含む	良好	内：ナデ 外：ナデ				
90 - 13	1	2面	土壌層	7	先生土層	低燃焼	16.0			外：浅黒褐色 内：灰褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：ナデ				
90 - 14	72	1	2面	土壌層	7	土壌層	低燃焼	12.8	18.4	11.2	浅黒褐色	1mm以下の白灰、褐色の 砂利、木炭多く含む	良好	内：ナデ ナデ 外：ナデ ケズリ	注内系 脚部4方向円形透かし		
90 - 15	1	2面	土壌層	7	土壌層	低燃焼	16.3			浅黒褐色	1mm以下の粒状含む	良好	内：ナデ 外：ナデ ケズリ	注内系			
90 - 16	52	1	2面	土壌層	7	土壌層	高			外：灰褐色 内：灰褐色	1.5mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				
90 - 17	72	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	20.3		浅黒褐色	1mm以下の白灰の粒状含む 砂利、木炭含む	良好	内外：ヨコナデ				
90 - 18	52	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	(22.4)		褐色	1mm以下の白灰の粒状含む 砂利、木炭含む	良好	内外：ヨコナデ ハラミ 外：ナデ	脚部4方向円形透かし			
90 - 19	52	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	(24.2)		灰褐色	1mmの粒状多く含む	良好	内外：調査不明	径 8m、深さ 5mの発掘			
90 - 20	71	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	(10.7)		灰褐色	1mmの粒状含む	良好	内：ヨコナデ ナデ ハラミ 外：ナデ ケズリ	発掘坑、工具の堆積 部、金物等を含む付着 して、工具の堆積部を 除いて、土質は良好と 評価			
90 - 21	2面	土壌層	7	土壌層	高	(12.2)			外：灰褐色 内：灰褐色	1mm以下の粒状少しある	良好	内：ナデ ナデ 外：ナデ ケズリ	外周のみが2箇所				
90 - 22	71	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	12.1		灰褐色	1mmの粒状多く含む	良好	内：ナデ 外：ナデ	脚部4方向円形透かし、外周 部			
90 - 23	1	E6	2面	土壌層	7	土壌層	高	14.6		灰褐色	1mm以下の粒状少しある	良好	内：ヨコナデ ハラミ 外：ナデ	脚部4方向円形透かし			
90 - 24	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	(13.9)			浅黒褐色	1mmの粒状多く含む	良好	内：ナデ ナデ 外：ナデ ケズリ	脚部4方向円形透かし			
90 - 25	1	2面	土壌層	7	土壌層	高	(14.2)			灰褐色	2mmの粒状多く含む	良好	内：ナデ ケズリ ナデ 外：ナデ	外周部付着			
90 - 26	1	E3	7面	土壌層	7	土壌層	高			灰褐色	1mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				
90 - 27	71	1	E5	7面	土壌層	高				浅黒褐色	1mm以下の白灰の粒状含 む	良好	内：ヨコナデ ナデ ハラミ 外：ナデ ケズリ	脚部筋痕			
90 - 28	1	E6	2面	土壌層	7	土壌層	高			浅黒褐色	1.5mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				
90 - 29	1	2面	土壌層	7	土壌層	高				浅黒褐色	1.5mmの粒状含む	良好	内外：調査不明				

斑図番号	斑図 番号	地図 クワッド	巣位	遺傳	種別	種種	(カニコ内性状) 口徑 直徑 高さ	色調	助土	構成	調整・文様	判別 (供用型式)	備考		
90 - 30	1	2面	土路群7	土耕器	高杯		13.8	淡白色	1mm以下の砂粒含む	骨粉	内外、調整不明		外表面に黒斑		
90 - 31	52	1	2面	土路群7	土耕器	高杯	(21.0)	淡白～黒褐色	1-2mmの砂粒多く含む	骨粉	内外、調整不明		黒斑二 重斑点		
90 - 32	52	1	2面	土路群7	土耕器	瓶	外：灰白色 内：灰褐色	3mm以下の砂粒多く含む 石英、重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			骨粉二 重斑点		
91 - 1	52	1	土路群7	土耕器	坪蓋	(13.2)	淡灰色	1mm以下の砂粒少し含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			外表面 立ち上がり高い		
91 - 2	52	1	2面	土路群7	土耕器	坪蓋	11.0	6.4	3.1	淡灰 内：灰白色	2-3mmの砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ		
91 - 3	52	1	3D	土路群7	土耕器	坪蓋	(11.2)	淡灰色	2mm以下の石英多く含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
91 - 4	52	1	E2	土路群7	土耕器	坪蓋	(13.4)	淡白色	1mm以下の砂粒少し含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
91 - 5	52	1	2面	土路群7	土耕器	坪蓋		淡白色	1mm以下の砂粒少し含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ		へら拭工具による の洗浄、外表面除毛		
91 - 6	52	1	E5	土路群7	土耕器	坪身	(10.4)	淡白色	0.5mm以下砂粒多く含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
91 - 7	52	1	E2 - 3	7面	土路群7	土耕器	坪身	(11.6)	7.6	3.5	灰～灰白色 内：灰白色	2mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ	全面自然化付帯
91 - 8	52	1	E3	土路群7	土耕器	坪身	(10.6)	9.2	3.3	灰～灰白色 内：灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ		
91 - 9	71	1	2面	土路群7	土耕器	高杯	(14.0)	12.6	13.0	灰白色	0.5-2mmの砂粒含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ	口縁部分も 透しなし	
91 - 10	52	1	2面	土路群7	土耕器	高杯		灰白色	1-2mmの砂粒含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ				
91 - 11	52	1	E5	7面	土路群7	土耕器	高杯			4mm以下砂粒含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ	カキ目 透なし		
91 - 12	52	1	E6	土路群7	土耕器	高杯			5.0	灰白色	5mm以下の砂粒含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ		
91 - 13	52	1	E5	土路群7	土耕器	柵				外：灰白色 内：灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ	外表面除毛付帯	
91 - 14	52	1	2面	土路群7	土耕器	柵				淡白色	1mm以下の砂粒多く含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ	自然除毛	
91 - 15	52	1	土路群7	土耕器	柵					外：灰白色 内：灰白色	1mm以下の砂粒多く含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ		
91 - 16	54	1	土路群7	土耕器	柵	(20.2)	白色			0.5mm以下砂粒含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ			
91 - 17	54	1	E2	土路群7	土耕器	柵				1mm以下の砂粒多く含む	骨粉	外：田舎ナチュ 内：田舎ナチュ			
93 - 1	72	1	E5	2面	1段1	生土器	壺	(17.9)	淡灰色	2mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：平野ナチュ 内：山野ナチュ	口縁部背面		
93 - 2	72	1	2面	1段1	生土器	壺	(9.2)	淡黃褐色	2mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：平野ナチュ 内：山野ナチュ				
93 - 3	54	1	E5	2面	1段1	生土器	壺	(16.6)	灰白色	2mm以下の砂粒多く含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	波紋文		
93 - 4	54	1	E5	2面	1段1	生土器	壺	(20.6)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 5	54	1	E6	2面	1段1	生土器	壺	(20.2)	灰白色	2mm以上の砂粒多く含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	外表面付帯		
93 - 6	54	1	E5	2面	1段1	生土器	壺	(17.0)	灰白色	1-2mmの砂粒多く含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 7	54	1	E5	2面	1段1	生土器	壺	(17.3)	灰白色	2.5mm以下砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 8	54	1	F5	2面	1段1	生土器	壺	(28.6)	灰白色	1-2mmの砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 9	1	14	F4	2面	1段1	生土器	壺	(18.8)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	外表面付帯		
93 - 10	54	1	F7	2面	1段1	生土器	壺	(20.3)	灰白色	1-3mmの砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 11	54	1	F2	2面	1段1	生土器	壺	(9.0)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 12	1	1	2面	1段1	生土器	壺	(12.8)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
93 - 13	54	1	F2	2面	1段1	生土器	壺	(15.3)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 14	54	1	F7	2面	1段1	生土器	壺	(15.4)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 15	54	1	F6	2面	1段1	生土器	壺	(15.9)	灰白色	2mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	外しきりした絆 一 面除毛		
93 - 16	1	1	2面	1段1	土耕器	壺	(16.0)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
93 - 17	54	1	F6	2面	1段1	土耕器	壺	(17.6)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 18	54	1	F6	2面	1段1	土耕器	壺	(19.6)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
93 - 19	55	1	F6	2面	1段1	土耕器	壺	(21.6)	灰白色	1-2mmの砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	外表面付帯		
93 - 20	55	1	2段	1	土耕器	壺	(25.6)	淡黃褐色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ヘタズ 内：ヘタズ				
93 - 21	72	1	2段	1	土耕器	壺	(10.9)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ヘタズ 内：ヘタズ	草田下部 以降			
93 - 22	55	1	F7	2面	1段1	土耕器	壺	(19.8)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ヘタズ 内：ヘタズ	口縁部内面 に黒斑		
93 - 23	55	1	E5	2面	1段1	土耕器	壺	(16.4)	灰白色	1-2mmの砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	外側行者 口縁部内面 には黒斑		
93 - 24	55	1	E7	2面	1段1	土耕器	壺	(16.0)	灰白色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	口縁部内 2mmの塗		
94 - 1	55	1	H6	2面	1段1	生土器	土壟	(21.2)	淡黃褐色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
94 - 2	55	1	H7	2面	1段1	生土器	土壟	(9.0)	淡黃褐色	1-1.5mmの砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	半塗		
94 - 3	55	1	F6	2面	1段1	土耕器	高杯		淡黄色	1.5mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	頭部との接合部分中央に 付いた"J"字		
94 - 4	55	1	H7	2面	1段1	土耕器	高杯	(14.7)	淡黃褐色	1mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ			
94 - 5	1	2面	1段1	土耕器	高杯	(10.6)	外：灰白～淡黄色 内：灰白～淡黄色	1.5mm以下の砂粒多く含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ					
94 - 6	1	2面	1段1	土耕器	高杯	(22.2)	褐色	1mm以下の砂粒含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	頭部の砂粒に付いて いた"J"字				
95 - 1	54	1	C3	8面	生土器	壺	(19.8)	灰白色	1mm以下の砂粒含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
95 - 2	54	3	C12	8面	生土器	壺		淡黄色	1-2mmの砂粒含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
95 - 3	54	3	D10	8面	生土器	壺	(17.9)	淡黃褐色	1mm以下の砂粒含む 重曹含有	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ	井戸地			
95 - 4	54	3	D9	8面	生土器	壺	(17.2)	淡黄色	1-3mmの砂粒含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				
95 - 5	4	10	8面	生土器	壺	(16.1)	灰白色	1-3mmの砂粒含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ					
95 - 6	54	3	C9	8面	生土器	壺	(16.2)	灰白色	1-2mmの砂粒含む	骨粉	外：ナチュ 内：ナチュ				

樹種名	学名	地区	高さ	過機	種別	樹種	基準(カッコ内分類) 日本 直見 西高	色調	地土	地成	調整・文様	時期 (英語式)	備考
95 - 12 72 1	E6 8.5m	土師器	西	26.0	(17.4)	灰白色	5cm以下:下の白、灰色紺細、 石多く含む	良好	外:ヨコナデ 竹籠文 有輪目 内:ヨコナデ ハラズリ				
95 - 13 72 3	C12 8.5m	土師器	直口巻 (13.0)			浅黃褐色	5cm以下:下の白、灰紺細、 石多く含む	良好	外:ヨコナデ ハケ目 内:ヨコナデ 指紋口直 ヘラ ケズリ				
95 - 14 3	C10 8.5m 2面	土師器	直口巻 (15.0)			灰白色	1cmの砂粒少し含む	不良	外:ヨコナデ ハケ目 裁文文 内:ヘラズリ				
95 - 15 54 4	C15 7.5m 1-2面	土師器	直口巻 (13.7)			灰白色	1cmの砂粒含む	良好	外:ヨコナデ ハケ目 裁文文 内:ヨコナデ ハラズリ				
95 - 16 3	D6 8.5m	土師器	直口巻	17.9	16.0	灰白色	1cmの砂粒含む	良好	外:ヨコナデ ハケ目 ナダ 内:ヨコナデ ハラズリ				
95 - 17 3	D12 8.5m	劣生土器	便	17.9		浅黃褐色	1-2cmの砂粒含む	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				
95 - 18 54 1	D5 8.5m	劣生土器	便 (20.2)			浅黃褐色	2cm以下:下の白、灰色紺細、 石多く含む	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ナダ		昭和時代		
95 - 19 54 1	2面	劣生土器	便			灰白色	1cmの砂粒少し含む	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				
95 - 20 3	D6 8.5m	劣生土器	便	14.2		浅黃褐色	3cm以下:下の白、灰色紺細、 石多く含む	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ナダ		外国採用		
95 - 21 54 3	E9 8.5m	劣生土器	便			浅黃褐色	1cm以下:下の砂粒多く含む	良好	外:ヨコナデ 三方直 内:ヨコナデ 裁文文		内外出来付着		
96 - 1 3	D11 8.5m	土師器	便	14.4		浅黃褐色	2cm以下:下の白、灰色紺細、 石多く含む	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ナダ		口縁部の内面一部黒斑		
96 - 2 58 3	B13 8.5m	土師器	便	14.6		灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細、 石多く含む	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				
96 - 3 58 1	2面	土師器	便	14.8 (5.7)	21.9	灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ハラズリ		当時一部採用付着 内面 のみ		
96 - 4 73 1	E6 8.5m 直口	土師器	便	15.0		浅黃褐色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				
96 - 5 54 1	D7 8.5m	土師器	便	15.6		灰白色	3cm以下:下の白、灰、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				
96 - 6 58 1	C5 8.5m	土師器	便	15.6		灰白色	3cm以下:下の白、灰、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ハラズリ				
96 - 7 1	C5 8.5m	土師器	便	15.7		浅黃褐色	3cm以下:下の白、灰、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ハラズリ				
96 - 8 73 1	E6 8.5m	土師器	便	15.0	25.0	灰白色	3cm以下:下の砂粒多く含む 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ		古墳時代 中期		
96 - 9 74 1	C2 1-1面	土師器	便	17.2		灰白色	3cm以下:下の灰、褐、黑色 内:浅黃褐色	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ハラズリ		内外赤茶色顔料		
96 - 10 73 4	F14 7.5m	土師器	便	15.2	21.3	灰白色	3cmの砂粒少し含む	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ		外国採用		
96 - 11 73 1	C4 7.5m	土師器	便	18.6		灰白色	2cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ヨコナデ 内:ヨコナデ ヘラズリ		古墳時代 中期		
97 - 1 54 3	C10 8.5m	劣生土器	把手			浅黃褐色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ハラズリ 内:ヨコナデ ヘラズリ				
97 - 2 2 54 1	D4 7.5m	劣生土器	把手			褐色	2cm以下:下の砂粒含む	良好	外:ナダ				
97 - 3 54 1	E7 1面	土師器	把手			灰白色	1cmの砂粒多く含む	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ハラズリ		内部平坦		
97 - 4 55 4	F14 8.5m 刷毛	劣生土器	便	4.5		褐色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ ハラズリ 内:ヨコナデ ハラズリ				
97 - 5 55 3	D10 8.5m	劣生土器	便	8.7		灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ナダ		外表面斑		
97 - 7 5 55 1	A14 2面	劣生土器	便	10.8		灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ナダ		外表面斑		
97 - 8 3	E12 8.5m	劣生土器	便	6.6		灰白色	3cm以下:下の砂粒多く含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ナダ				
97 - 9 55 1	E3 7.5m	劣生土器	便	(13.6)		灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ナダ				
97 - 10 74 3	D10 8.5m	劣生土器	鉢	(11.6) 3.6	7.2	灰白色	2cmの砂粒多く含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ				
97 - 11 55 1	C8 8.5m	劣生土器	鉢	(25.2)		褐色	2cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
97 - 12 55 1	E8 8.5m	劣生土器	鉢			浅黃褐色	3cm以下:下の砂粒少し含む 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ヨコナデ 内:ヨコナデ ヘラズリ		外国採用		
97 - 13 55 3	D10 8.5m	劣生土器	鉢	(12.6)		灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 裁文文 内:ヨコナデ ヘラズリ				
97 - 14 55 3	D8 8.5m	劣生土器	鉢			灰白色	3cm以下:下の砂粒多く含む 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ヘラズリ		外国赤茶色顔料		
97 - 15 55 1	D7 8.5m	劣生土器	鉢	(12.2)		浅黃褐色	3cm以下:下の砂粒多く含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ				
97 - 16 3	E10 8.5m	劣生土器	鉢			灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
97 - 17 55 3	C9 8.5m	土師器	鉢	(11.6)		灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ナダ				
97 - 18 74 3	D10 8.5m	土師器	低脚 (10.6)	6.4	5.5	灰白色	2cm以下:下の砂粒多く含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ ナダ				
97 - 19 3	C10 8.5m	土師器	低脚 (11.7)	7.6	7.7	褐色	2-3cmの砂粒少し含む 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ				
97 - 20 1	C6 1面	土師器	低脚 (17.0)	6.5	5.0	浅黃褐色	2cm以下:下の砂粒含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ		外表面斑		
97 - 21 1	E6 8.5m	土師器	低脚 (17.0)	5.6	6.3	褐色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ				
97 - 22 74 1	D3 7.5m	土師器	低脚 (4.8)			褐色	2-5cmの砂粒含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ		觸部をナデつける		
97 - 23 74 3	D9 8.5m	土師器	低脚 (5.8)			灰白色	1-2cmの砂粒含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ				
97 - 24 74 4	D17 7.5m	土師器	低脚 (7.0)			灰白色	1cm以下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ		内面赤茶色顔料		
97 - 25 3	E11 8.5m	土師器	低脚 (18.6)	14.0	9.4	灰白色	3cm以下:下の白、灰色紺細 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ		内面赤茶色顔料		
97 - 26 74 1	B4 8.5m 刷毛	土師器	高脚 (21.0)	(13.5)	14.0	淺黃褐色	4cm以下:下の白、灰、褐色 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ナダ 内:ヨコナデ ナダ				
97 - 27 1	C4 8.5m	土師器	高脚 (22.6)			灰白色	4cm以下:下の砂粒少し含む 内:灰白色	良好	外:ヨコナデ ナダ 内:ヨコナデ ナダ		内一部美斑		
97 - 28 2	C3 1-2面	土師器	高脚 (21.4)			淺黃褐色	5cm以下:下の白、褐色 内:灰白色	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ				
97 - 29 75 4	C15 1-2面	土師器	高脚 (31.6)			灰白色	1-2cmの砂粒多く含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ		口縁部内面付着、茎 部内面付着、底部、肩部 部内面付着		
97 - 30 75 3	B11 1-2面	土師器	高脚			灰白色	1-2cmの砂粒多く含む	良好	外:ナダ 内:ヨコナデ		内面付着		

項目番号	回収 場所	地図 場所	クワッド	単位	遺構	種別	(カニコ内)区分	出土 位置	直標	色調	出土 位置	埋成	調整・文様	判別 (供用型式)	備考	
97 - 31 74 3 D9 8層	土耕器	高坪	(16.2)	12.3	13.0	外:灰白色 内:淡黄色	2mm以下の細粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル		
98 - 1 75 1 D7 8層	土耕器	御田土器	11.8			灰白色	1mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル		
98 - 2 55 3 B11 7層	土耕器	御田土器	(12.0)			外:灰白色 内:淡黄色	1-2mmの細粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	口縁端部外側に押出し	
98 - 3 55 3 B11 1面	土耕器	御田土器				外:灰白色 内:灰色	1mmの細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面		
98 - 4 75 3 B11 1面 C10 1面 1-2面	土耕器	御田土器	40.6			外:白-墨色 内:灰色	1-3mmの細粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル			
98 - 6 55 1 D8 8層	土耕器	短縫管	(8.2)			灰白色	1mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色顔料		
98 - 7 1 84 7層	土耕器	皿	(22.0)			淡黄色-赤色	1mm以下の細粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色顔料 縮文字		
98 - 8 1 83 5層中	土耕器	片	(15.4)			外:淡黄色 内:淡黄色	0.5mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 9 3 89 7層	土耕器	片	(16.7)			褐色	0.5mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 10 1 E6 7層	土耕器	片	(18.2)			淡黄色帶	2mm以下の中粒多く含む 1-2mmの細粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	口縁部僅か外反		
98 - 11 1 E6 7層	土耕器	片	(16.2)			淡黄色-赤色	1mm以下の細粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	調整・文様		
98 - 12 1 83 7層	土耕器	片	(13.2) (4.1)	5.1	外:灰-黃色 内:灰-黃色	0.5mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	口縁部外反	
98 - 13 76 1 D3 土手内	土耕器	手押土器	3.4	2.5	4.0	褐色	3mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 14 76 3 E10 7層	土耕器	手押土器	(7.0)			褐色	4mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	口縁部内面は封緘		
98 - 15 76 3 E10 8層	土耕器	手押土器	(8.0)			淡黄色	3mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	口縁部内面は封緘		
98 - 16 1 C3 7層	土耕器	盤	(16.0)			褐色	3mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 17 1 B3 7層	土耕器	低輪環	(13.0)	8.6	9.5	褐色	4mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 18 1 C5 7層	土耕器	盤	(18.4)			褐色	3mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 19 55 1 C4 8層	土耕器	盤	(10.4)			外:淡黄色-灰白色 内:褐色	1-2mmの細粒多く含む 0.5-1mmの細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
98 - 20 6 74 1面	土耕器	盤	(13.3)	6.5	4.5	外:褐色 内:褐色	砂粒少し含む 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 7 1 C5 1面	土耕器	片	(13.2) (7.0)	5.0	5.0	外:灰-褐色	砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 8 3 B11	土耕器	片	11.9	6.0	4.0	外:淡黄色 内:淡黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 9 1 C3 1-1面	土耕器	片		5.4		外:灰-黃色 内:灰-黃色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 10 3 D10 1-2面	土耕器	皿	9.8	4.6	2.1	外:淡黄色 内:淡黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 11 3 D10 1-2面	土耕器	皿	(9.7) (4.6)	2.3	2.3	外:灰白色 内:明黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 12 76 3 D10 1-2面	土耕器	皿	(9.5) (4.8)	2.4	2.4	外:淡黄色 内:淡黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	外縁にはなる	
99 - 13 76 3 D10 1-2面	土耕器	皿	(9.9) (4.8)	2.4	2.4	淡黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	外縁にはなる 内底辺	
99 - 14 76 3 D10 1面	土耕器	皿	8.9	4.8	2.4	淡黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	内面コロナが無い	
99 - 15 76 1 C4 1面	土耕器	皿	7.7	5.6	1.7	外:淡黄色 内:淡黄色	砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 16 76 5 A12 7層	土耕器	皿	7.5	5.5	1.8	淡黄色	0.5mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	底部内面直邊 7mmのみ	
99 - 17 76 5 E16 6層	土耕器	皿	6.6	4.1	1.8	淡黄色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 18 5 A12 7層	土耕器	皿	7.2	5.0	1.4	淡黄色	3mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	口縁部薄い	
99 - 19 76 1 C5 7層	土耕器	皿	9.1	3.9	2.2	外:灰-黃色 内:灰-黃色	0.5mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 20 4 1 1面	土耕器	皿	8.2	5.1	1.7	外:灰白色	砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
99 - 21 55 3 D10 4層	土耕器	皿	(5.5)			褐色	0.5mm以下の中粒多く含む その他の砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	中世	
99 - 22 55 3 E11 1面	土耕器	皿	4.0			外:灰-褐色 内:褐色	2mm以下の中粒多く含む 0.5mm以下の細粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	底部に凹み	
100 - 1 56 3 E10 8層	須恵器	盤	(14.8)	3.5	3.5	灰白色	1-2mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	口縁部外周に凹み	
100 - 2 56 1 E10 8層	須恵器	盤	(14.6)	3.4	3.4	灰白色	0.5mm以下の中粒多く含む 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	口縁部内面や皿	
100 - 3 56 1 C4 7層	須恵器	盤	(14.4)	3.5	3.5	灰白色	0.5-2mmの砂粒多く含む	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
100 - 4 56 1 D6 7層	須恵器	盤	(14.1)			灰白色	1mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	瓶部外周に凹み	
100 - 5 56 3 D9 1-2面	須恵器	盤	(13.0)	3.8	3.8	灰白色	2mm以下の中粒多く含む 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	天井部外周に凹み、天井部の沈み、底部に凹み	
100 - 6 76 1 C3 B1-1面	須恵器	盤	13.5	4.0	4.0	褐色	1.5mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	瓶部内面平滑	
100 - 7 76 1 C4 7層	須恵器	盤				褐色	1mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	内面当て真	
100 - 8 76 1 E6 7層	須恵器	盤	(11.2)			褐色	1mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
100 - 9 3 C9 1面	須恵器	盤	(10.8)	3.7	3.7	外:灰白色 内:灰白色	0.5mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	内面僅いナゲ面	
100 - 10 56 1 C6 5層	須恵器	盤	(9.0)	2.85	2.85	外:灰白色 内:灰白色	0.6mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	瓶部内面平滑	
100 - 11 56 1 E5 1面	須恵器	盤	(9.1)			褐色	1-2mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	砂などの蓋?	
100 - 12 76 1 B5 6層	須恵器	盤	16.9	3.7	3.5	褐色	1-4mmの砂粒多く含む 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	ボタンガフス、口縁部外周に凹み、口縁部内面凹み	
100 - 13 56 1 B4 5層	須恵器	盤	(14.5)			褐色	1mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	ボタンガフス、口縁部内面凹み	
100 - 14 56 4 E14 青灰色 分離	須恵器	盤	(13.1)			褐色	1-2mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	つまみみ到達、外底自然 輪打模	
100 - 15 56 5 B4 8層	須恵器	盤	(9.1)			外:灰白色 内:灰白色	0.5-1mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	外底自然	
100 - 16 76 1 C2 7層	須恵器	盤	11.8	2.9	2.9	灰白色 内:灰白色	1mm以下の中粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	口縁部チャーブ	
100 - 17 56 1 D3 黄褐色 土	須恵器	身舟	(14.0)			外:灰白色 内:灰白色	2mm以下の中粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		
100 - 18 1 C3 1-3面	須恵器	身舟	11.8 (5.6)	3.8	3.8	灰白色	0.5mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	底部外周直線状に深くな	
100 - 19 4 D16 1-2面	須恵器	身舟	11.6	9.8	9.3	灰白色	1-2mmの砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色	ヘラカズリ	
100 - 20 4 F14 7層	須恵器	身舟	(13.0)	6.2	4.1	外:灰白色 内:灰白色	1mm以下の砂粒少しある 砂粒少しある	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	表面	外:ナチュラル 内:ナチュラル	内外面赤色		

地図番号	面番号	地区名	グリッド	位数	構造	種別	面積	【カッコ内分類】 □外 壁面 西側	色調	地土	地成	測量・文様	範囲 (W-E-N-S)	備考
100 - 21 56 1	C3	7層			直壁面	坪身	(12.6) (10.0)	3.15	灰色	1mmの砂粒含む	斜面	外:田舎ナダ ヘラケズリ	近郊外地面水平	
100 - 22 1	C2	8層			直壁面	坪身	(12.1) (8.2)	3.4	灰色	1mmの砂粒含む	斜面	外:田舎ナダ ヘラケズリ 内:田舎ナダ	近郊外地面平坦	
100 - 23 56 1	C3	8層			直壁面	坪身	(11.8)	32	外:灰色 内:白色 - 黄色	0.5m以下の砂粒含むが 含む	斜面	外:田舎ナダ 内:田舎ナダ	外壁面オーラー色の自然 壁面	壁面底に黒筋有り
100 - 24 3	D10 E10	7層			直壁面	坪身	(11.6) (6.4)	3.6	灰色	1~2mmの砂粒含む	斜面	外:田舎ナダ ヘラケズリ 板 内:田舎ナダ	板	
100 - 25 74 1	B3 1-1 2-1 3-1 4-1 5-1 6-1 7-1 8-1 9-1 10-1 11-1 12-1 13-1 14-1 15-1 16-1 17-1 18-1 19-1 20-1 21-1 22-1 23-1 24-1 25-1 26-1 27-1 28-1 29-1 30-1 31-1 32-1 33-1 34-1 35-1 36-1 37-1 38-1 39-1 40-1 41-1 42-1 43-1 44-1 45-1 46-1 47-1 48-1 49-1 50-1 51-1 52-1 53-1 54-1 55-1 56-1 57-1 58-1 59-1 60-1 61-1 62-1 63-1 64-1 65-1 66-1 67-1 68-1 69-1 70-1 71-1 72-1 73-1 74-1 75-1 76-1 77-1 78-1 79-1 80-1 81-1 82-1 83-1 84-1 85-1 86-1 87-1 88-1 89-1 90-1 91-1 92-1 93-1 94-1 95-1 96-1 97-1 98-1 99-1 100-1 101-1 102-1 103-1 104-1 105-1 106-1 107-1 108-1 109-1 110-1 111-1 112-1 113-1 114-1 115-1 116-1 117-1 118-1 119-1 120-1 121-1 122-1 123-1 124-1 125-1 126-1 127-1 128-1 129-1 130-1 131-1 132-1 133-1 134-1 135-1 136-1 137-1 138-1 139-1 140-1 141-1 142-1 143-1 144-1 145-1 146-1 147-1 148-1 149-1 150-1 151-1 152-1 153-1 154-1 155-1 156-1 157-1 158-1 159-1 160-1 161-1 162-1 163-1 164-1 165-1 166-1 167-1 168-1 169-1 170-1 171-1 172-1 173-1 174-1 175-1 176-1 177-1 178-1 179-1 180-1 181-1 182-1 183-1 184-1 185-1 186-1 187-1 188-1 189-1 190-1 191-1 192-1 193-1 194-1 195-1 196-1 197-1 198-1 199-1 200-1 201-1 202-1 203-1 204-1 205-1 206-1 207-1 208-1 209-1 210-1 211-1 212-1 213-1 214-1 215-1 216-1 217-1 218-1 219-1 220-1 221-1 222-1 223-1 224-1 225-1 226-1 227-1 228-1 229-1 230-1 231-1 232-1 233-1 234-1 235-1 236-1 237-1 238-1 239-1 240-1 241-1 242-1 243-1 244-1 245-1 246-1 247-1 248-1 249-1 250-1 251-1 252-1 253-1 254-1 255-1 256-1 257-1 258-1 259-1 260-1 261-1 262-1 263-1 264-1 265-1 266-1 267-1 268-1 269-1 270-1 271-1 272-1 273-1 274-1 275-1 276-1 277-1 278-1 279-1 280-1 281-1 282-1 283-1 284-1 285-1 286-1 287-1 288-1 289-1 290-1 291-1 292-1 293-1 294-1 295-1 296-1 297-1 298-1 299-1 300-1 301-1 302-1 303-1 304-1 305-1 306-1 307-1 308-1 309-1 310-1 311-1 312-1 313-1 314-1 315-1 316-1 317-1 318-1 319-1 320-1 321-1 322-1 323-1 324-1 325-1 326-1 327-1 328-1 329-1 330-1 331-1 332-1 333-1 334-1 335-1 336-1 337-1 338-1 339-1 339-1 340-1 341-1 342-1 343-1 344-1 345-1 346-1 347-1 348-1 349-1 350-1 351-1 352-1 353-1 354-1 355-1 356-1 357-1 358-1 359-1 360-1 361-1 362-1 363-1 364-1 365-1 366-1 367-1 368-1 369-1 370-1 371-1 372-1 373-1 374-1 375-1 376-1 377-1 378-1 379-1 380-1 381-1 382-1 383-1 384-1 385-1 386-1 387-1 388-1 389-1 390-1 391-1 392-1 393-1 394-1 395-1 396-1 397-1 398-1 399-1 400-1 401-1 402-1 403-1 404-1 405-1 406-1 407-1 408-1 409-1 410-1 411-1 412-1 413-1 414-1 415-1 416-1 417-1 418-1 419-1 420-1 421-1 422-1 423-1 424-1 425-1 426-1 427-1 428-1 429-1 430-1 431-1 432-1 433-1 434-1 435-1 436-1 437-1 438-1 439-1 440-1 441-1 442-1 443-1 444-1 445-1 446-1 447-1 448-1 449-1 450-1 451-1 452-1 453-1 454-1 455-1 456-1 457-1 458-1 459-1 460-1 461-1 462-1 463-1 464-1 465-1 466-1 467-1 468-1 469-1 470-1 471-1 472-1 473-1 474-1 475-1 476-1 477-1 478-1 479-1 480-1 481-1 482-1 483-1 484-1 485-1 486-1 487-1 488-1 489-1 490-1 491-1 492-1 493-1 494-1 495-1 496-1 497-1 498-1 499-1 500-1 501-1 502-1 503-1 504-1 505-1 506-1 507-1 508-1 509-1 510-1 511-1 512-1 513-1 514-1 515-1 516-1 517-1 518-1 519-1 520-1 521-1 522-1 523-1 524-1 525-1 526-1 527-1 528-1 529-1 530-1 531-1 532-1 533-1 534-1 535-1 536-1 537-1 538-1 539-1 539-1 540-1 541-1 542-1 543-1 544-1 545-1 546-1 547-1 548-1 549-1 550-1 551-1 552-1 553-1 554-1 555-1 556-1 557-1 558-1 559-1 559-1 560-1 561-1 562-1 563-1 564-1 565-1 566-1 567-1 568-1 569-1 570-1 571-1 572-1 573-1 574-1 575-1 576-1 577-1 578-1 579-1 580-1 581-1 582-1 583-1 584-1 585-1 586-1 587-1 588-1 589-1 590-1 591-1 592-1 593-1 594-1 595-1 596-1 597-1 598-1 599-1 600-1 601-1 602-1 603-1 604-1 605-1 606-1 607-1 608-1 609-1 610-1 611-1 612-1 613-1 614-1 615-1 616-1 617-1 618-1 619-1 620-1 621-1 622-1 623-1 624-1 625-1 626-1 627-1 628-1 629-1 630-1 631-1 632-1 633-1 634-1 635-1 636-1 637-1 638-1 639-1 639-1 640-1 641-1 642-1 643-1 644-1 645-1 646-1 647-1 648-1 649-1 650-1 651-1 652-1 653-1 654-1 655-1 656-1 657-1 658-1 659-1 659-1 660-1 661-1 662-1 663-1 664-1 665-1 666-1 667-1 668-1 669-1 669-1 670-1 671-1 672-1 673-1 674-1 675-1 676-1 677-1 678-1 679-1 680-1 681-1 682-1 683-1 684-1 685-1 686-1 687-1 688-1 689-1 689-1 690-1 691-1 692-1 693-1 694-1 695-1 696-1 697-1 698-1 699-1 700-1 701-1 702-1 703-1 704-1 705-1 706-1 707-1 708-1 709-1 710-1 711-1 712-1 713-1 714-1 715-1 716-1 717-1 718-1 719-1 720-1 721-1 722-1 723-1 724-1 725-1 726-1 727-1 728-1 729-1 729-1 730-1 731-1 732-1 733-1 734-1 735-1 736-1 737-1 738-1 739-1 739-1 740-1 741-1 742-1 743-1 744-1 745-1 746-1 747-1 748-1 749-1 749-1 750-1 751-1 752-1 753-1 754-1 755-1 756-1 757-1 758-1 759-1 759-1 760-1 761-1 762-1 763-1 764-1 765-1 766-1 767-1 768-1 769-1 769-1 770-1 771-1 772-1 773-1 774-1 775-1 776-1 777-1 778-1 779-1 779-1 780-1 781-1 782-1 783-1 784-1 785-1 786-1 787-1 788-1 789-1 789-1 790-1 791-1 792-1 793-1 794-1 795-1 796-1 797-1 798-1 799-1 800-1 801-1 802-1 803-1 804-1 805-1 806-1 807-1 808-1 809-1 809-1 810-1 811-1 812-1 813-1 814-1 815-1 816-1 817-1 818-1 819-1 819-1 820-1 821-1 822-1 823-1 824-1 825-1 826-1 827-1 828-1 829-1 829-1 830-1 831-1 832-1 833-1 834-1 835-1 836-1 837-1 838-1 839-1 839-1 840-1 841-1 842-1 843-1 844-1 845-1 846-1 847-1 848-1 849-1 849-1 850-1 851-1 852-1 853-1 854-1 855-1 856-1 857-1 858-1 859-1 859-1 860-1 861-1 862-1 863-1 864-1 865-1 866-1 867-1 868-1 869-1 869-1 870-1 871-1 872-1 873-1 874-1 875-1 876-1 877-1 878-1 879-1 879-1 880-1 881-1 882-1 883-1 884-1 885-1 886-1 887-1 888-1 889-1 889-1 890-1 891-1 892-1 893-1 894-1 895-1 896-1 897-1 898-1 899-1 900-1 901-1 902-1 903-1 904-1 905-1 906-1 907-1 908-1 909-1 909-1 910-1 911-1 912-1 913-1 914-1 915-1 916-1 917-1 918-1 919-1 920-1 921-1 922-1 923-1 924-1 925-1 926-1 927-1 928-1 929-1 929-1 930-1 931-1 932-1 933-1 934-1 935-1 936-1 937-1 938-1 939-1 939-1 940-1 941-1 942-1 943-1 944-1 945-1 946-1 947-1 948-1 949-1 949-1 950-1 951-1 952-1 953-1 954-1 955-1 956-1 957-1 958-1 959-1 959-1 960-1 961-1 962-1 963-1 964-1 965-1 966-1 967-1 968-1 969-1 969-1 970-1 971-1 972-1 973-1 974-1 975-1 976-1 977-1 978-1 979-1 979-1 980-1 981-1 982-1 983-1 984-1 985-1 986-1 987-1 988-1 989-1 989-1 990-1 991-1 992-1 993-1 994-1 995-1 996-1 997-1 998-1 999-1 1000-1 1001-1 1002-1 1003-1 1004-1 1005-1 1006-1 1007-1 1008-1 1009-1 1009-1 1010-1 1011-1 1012-1 1013-1 1014-1 1015-1 1016-1 1017-1 1018-1 1019-1 1020-1 1021-1 1022-1 1023-1 1024-1 1025-1 1026-1 1027-1 1028-1 1029-1 1030-1 1031-1 1032-1 1033-1 1034-1 1035-1 1036-1 1037-1 1038-1 1039-1 1040-1 1041-1 1042-1 1043-1 1044-1 1045-1 1046-1 1047-1 1048-1 1049-1 1050-1 1051-1 1052-1 1053-1 1054-1 1055-1 1056-1 1057-1 1058-1 1059-1 1060-1 1061-1 1062-1 1063-1 1064-1 1065-1 1066-1 1067-1 1068-1 1069-1 1070-1 1071-1 1072-1 1073-1 1074-1 1075-1 1076-1 1077-1 1078-1 1079-1 1080-1 1081-1 1082-1 1083-1 1084-1 1085-1 1086-1 1087-1 1088-1 1089-1 1090-1 1091-1 1092-1 1093-1 1094-1 1095-1 1096-1 1097-1 1098-1 1099-1 1100-1 1101-1 1102-1 1103-1 1104-1 1105-1 1106-1 1107-1 1108-1 1109-1 1109-1 1110-1 1111-1 1112-1 1113-1 1114-1 1115-1 1116-1 1117-1 1118-1 1119-1 1119-1 1120-1 1121-1 1122-1 1123-1 1124-1 1125-1 1126-1 1127-1 1128-1 1129-1 1129-1 1130-1 1131-1 1132-1 1133-1 1134-1 1135-1 1136-1 1137-1 1138-1 1139-1 1139-1 1140-1 1141-1 1142-1 1143-1 1144-1 1145-1 1146-1 1147-1 1148-1 1149-1 1150-1 1151-1 1152-1 1153-1 1154-1 1155-1 1156-1 1157-1 1158-1 1159-1 1159-1 1160-1 1161-1 1162-1 1163-1 1164-1 1165-1 1166-1 1167-1 1168-1 1169-1 1169-1 1170-1 1171-1 1172-1 1173-1 1174-1 1175-1 1176-1 1177-1 1178-1 1179-1 1179-1 1180-1 1181-1 1182-1 1183-1 1184-1 1185-1 1186-1 1187-1 1188-1 1189-1 1189-1 1190-1 1191-1 1192-1 1193-1 1194-1 1195-1 1196-1 1197-1 1198-1 1199-1 1200-1 1201-1 1202-1 1203-1 1204-1 1205-1 1206-1 1207-1 1208-1 1209-1 1209-1 1210-1 1211-1 1212-1 1213-1 1214-1 1215-1 1216-1 1217-1 1218-1 1219-1 1219-1 1220-1 1221-1 1222-1 1223-1 1224-1 1225-1 1226-1 1227-1 1228-1 1229-1 1229-1 1230-1 1231-1 1232-1 1233-1 1234-1 1235-1 1236-1 1237-1 1238-1 1239-1 1239-1 1240-1 1241-1 1242-1 1243-1 1244-1 1245-1 1246-1 1247-1 1248-1 1249-1 1249-1 1250-1 1251-1 1252-1 1253-1 1254-1 1255-1 1256-1 1257-1 1258-1 1259-1 1259-1 1260-1 1261-1 1262-1 1263-1 1264-1 1265-1 1266-1 1267-1 1268-1 1269-1 1269-1 1270-1 1271-1 1272-1 1273-1 1274-1 1275-1 1276-1 1277-1 1278-1 1279-1 1279-1 1280-1 1281-1 1282-1 1283-1 1284-1 1285-1 1286-1 1287-1 1288-1 1289-1 1289-1 1290-1 1291-1 1292-1 1293-1 1294-1 1295-1 1296-1 1297-1 1298-1 1299-1 1300-1 1301-1 1302-1 1303-1 1304-1 1305-1 1306-1 1307-1 1308-1 1309-1 1309-1 1310-1 1311-1 1312-1 1313-1 1314-1 1315-1 1316-1 1317-1 1318-1 1319-1 1319-1 1320-1 1321-1 1322-1 1323-1 1324-1 1325-1 1326-1 1327-1 1328-1 1329-1 1329-1 1330-1 1331-1 1332-1 1333-1 1334-1 1335-1 1336-1 1337-1 1338-1 1339-1 1339-1 1340-1 1341-1 1342-1 1343-1 1344-1 1345-1 1346-1 1347-1 1348-1 1349-1 1349-1 1350-1 1351-1 1352-1 1353-1 1354-1 1355-1 1356-1 1357-1 1358-1 1359-1 1359-1 1360-1 1361-1 1362-1 1363-1 1364-1 1365-1 1366-1 1367-1 1368-1 1369-1 1369-1 1370-1 1371-1 1372-1 1373-1 1374-1 1375-1 1376-1 1377-1 1378-1 1379-1 1379-1 1380-1 1381-1 1382-1 1383-1 1384-1 1385-1 1386-1 1387-1 1388-1 1389-1 1389-1 1390-1 1391-1 1392-1 1393-1 1394-1 1395-1 1396-1 1397-1 1398-1 1399-1 1400-1 1401-1 1402-1 1403-1 1404-1 1405-1 1406-1 1407-1 1408-1 1409-1 1409-1 1410-1 1411-1 1412-1 1413-1 1414-1 1415-1 1416-1 1417-1 1418-1 1419-1 1419-1 1420-1 1421-1 1422-1 1423-1 1424-1 1425-1 1426-1 1427-1 1428-1 1429-1 1429-1 1430-1 1431-1 1432-1 1433-1 1434-1 1435-1 1436-1 1437-1 1438-1 1439-1 1439-1 1440-1 1441-1 1442-1 1443-1 1444-1 1445-1 1446-1 1447-1 1448-1 1449-1 1449-1 1450-1 1451-1 1452-1 1453-1 1454-1 1455-1 1456-1 1457-1 1458-1 1459-1 1459-1 1460-1 1461-1 1462-1 1463-1 1464-1 1465-1 1466-1 1467-1 1468-1 1469-1 1469-1 1470-1 1471-1 1472-1 1473-1 1474-1 1475-1 1476-1 1477-1 1478-1 1479-1 1479-1 1480-1 1481-1 1482-1 1													

第10表 大国地頭所遺跡 出土土製品観察表

調査番号	出土地名	地区	グリッド	層位	遺構	種別	基盤	法量 (cm) (カッコ内残存値)	色調	地土	焼成	調整・文様・備考
38 - 9	38 3	3	C9	1面	Pt207	土製品	素状土器	高:3.7 埋:1.85	厚:0.6 にごり・褐色	1m以下の中粒含む	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色 重量: 10g
38 - 13	38 3	3	C10	1面	Pt269	土製品	移動式壺?		外: 淡青・黒褐色 内: 黑褐色	1m以下の中・灰色砂粗, 黒褐色含む	良好	内: ブラック 外: 黒褐色 48-62mm個体?
45 - 5	40 1	1	C4	B-1 面	土器群?	土製品	移動式壺?		外: 黑褐色	9cm以下の砂粒含む	良好	内: 黑褐色
45 - 6	40 1	1	C2	7 面	土器群?	土製品	素状土器	高: 0.91 埋: 1.2	厚: 0.2 浅褐色	0.5m以下の中粒含む	良好	外: オリーブ 内: 黄褐色 1.5m以下の中粒含む
45 - 7	66 1	3	B3	B-1 面	土器群?	土製品	土製支承	直径: 31.7	高: 15.4 にごり・褐色	1-3mmの砂粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色 陶器部凹凸
45 - 8	40 1	1	C4	B-1 面	土器群?	土製品	土製支承		にごり・黒褐色	1-3mmの砂粒含む	良好	外: オリーブ 内: 黄褐色 うち 2方向は退化 背面側が尖る
45 - 9	40 1	1	C4	7 面	土器群?	土製品	口口	外径: 3.5cm 内径: 2.5cm	内: 黄・にごり・褐色 外: 黄・灰・茶褐色	2.5m以下の中粒含む	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色 重さ: 3kg
45 - 10	40 1	1	C4	7 面	土器群?	土製品	口口	外径: 6.8-7.1 内径: 2.1-2.5	外: 淡青・灰褐色 内: 黄褐色	2.5m以下の中粒多く含む	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色 1.5m以下の中粒化 重さ: 2kg
47 - 12	41 3	3	D9	7 面	土器群?	土製品	移動式壺?		外: 浅褐色 内: にごり・褐色	1m以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色 陶器部分分か
48 - 7	41 3	3	C10	1-2 面	土器群?	土製品	移動式壺?		褐色	1m以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色 陶器部直角 45-62mm個体?
91 - 18	54 1	2	2面	土器群?	土製品	把手?	長: 10.0cm 幅: 1.5cm	幅: 1.5cm	浅褐色	青磁手子, 1m以下の白い砂粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
91 - 19	54 1	1	E5	2 面	土器群?	土製品	把手?	長: 9.8cm 幅: 1.6cm	幅: 1.6cm 灰・黒褐色	1m以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
91 - 20	54 1	1	E4	2 面	土器群?	土製品	把手?	長: 9.3cm 幅: 1.6cm	幅: 1.6cm 灰・黒褐色	0.5m以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
98 - 20	55 1	1	E3	7 面	土製品	土製支承			白色	1-2mmの砂粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
98 - 21	55 1	1	C5	7 面	土製品	土製支承			褐色	1-5mmの砂粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
98 - 22	75 1	1	D5	1-2 面	土製品	土製支承		直径: 11.5	にごり・褐・灰褐色	1-5mmの砂粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
99 - 1	75 3	3	D9	8 面	土製品	土製支承		直径: 12.7	高: 14.9cm 灰・黒褐色	5cm以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
99 - 2	55 1	1	D6	1 面	土製品	移動式壺?			褐色	2.5m以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色
99 - 3	56 4	3	E19	7 面	土製品	移動式壺?	口径: (32.8) 底径: (29.2)	高: 30.8cm 幅: 1.6cm	灰・褐・黒色	1-10mmの砂粒多く含む	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色
99 - 4	55 3	3	C10	7 面	土製品	素状土器	高: 10.1cm 幅: 2.9cm	幅: 2.5 にごり・褐・黒褐色	1-2mmの砂粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色 陶器部直角 重さ: 3kg 重量: 52g	
99 - 5	55 3	3	C10	7 面	土製品	煎茶器	径: 10.2cm	幅: 2.1cm 灰褐色	2mm以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	

第11表 大国地頭所遺跡 出土陶磁器観察表

調査番号	出土地名	地区	グリッド	層位	遺構	種別	基盤	法量 (cm) (カッコ内残存値)	色調	地土	焼成	調整・文様・備考	時間 (併行式)
22 - 23	59 5	石列 3			発掘系 石列	柱			灰色	0.5m以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	
22 - 24	59 3	812	石列 3		瓦葺土器	鉢			灰色	2mm以下の中粒含む	やや不良	外: 黄褐色 内: 黄褐色 1.5kg 1.5kg 下部下段ハリ目 鉢底ノリナマハリ	
22 - 25	59 5	石列 3			瓦葺土器	鉢			灰白色	積灰	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	
22 - 26	59 3	812	石列 3		瓦葺土器	鉢	(12.4)	灰色	灰色	積灰	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	
22 - 27	59 5	石列 3			中田白塗	皿			灰白色	積灰	良好	外: 下部直角 内: 黄褐色	必要系
22 - 28	59 3	C12 1-2 面	石列 3		中田白塗	皿	(6.8)		白色	積灰	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	Ⅰ期 山根系
22 - 29	59 5	石列 3			中田白塗	杯	(5.0)		灰白色	積灰	良好	外: 灰色直角 内: 黄褐色	Ⅱ期 山根系
22 - 30	59 3	石列 3			中田白塗	皿			白色	積灰	良好	外: 黄褐色	Ⅲ期 山根系
22 - 31	59 3	石列 3			瓦葺系 瓦葺	碗			灰褐色	積灰	良好	外: 1-2mmの砂粒 内: 黄褐色	Ⅳ期 山根系
22 - 32	59 5	石列 3			瓦葺系 瓦葺	皿	5.0		緑灰色	積灰	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	Ⅴ期 山根系
22 - 33	59 5	石列 3			青白釉	小僧			淡青白	積灰	良好	外: 黄褐色	
22 - 34	59 3	D12	石列 3		共青分唇	皿	4.4		灰緑色	白色砂粒含む	良好	外: 高温火からの灰色・暗灰色の斑目 内: 黄褐色	1400-1500 年代
22 - 46	59 3	石列 4			中田白塗	皿			白色	積灰	良好	外: 1-3mmの砂粒 内: 黄褐色	V 4 期 山根系
25 - 6	66 3	B10 1-2 面	SK08		中国 通販	四目巻	13.2		外: 泥質 (颗粒部分) 内: 泥質 (颗粒部分)・灰白色	積灰	良好	外: 1-3mmの砂粒 内: 黄褐色	初期 IV 期 山根系
25 - 13	59 4	4	SK12		中国陶器	雙			内: 灰褐色	1mm程度の細砂多く含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	Ⅳ期 山根系
25 - 14	59 4	4	SK12		中国陶器	雙			内: 灰褐色	1mm程度の細砂多く含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	Ⅳ期 山根系
25 - 15	59 4	4	E14 1-2 面	SK12	東晋青釉陶器	雙			外: 黄褐色 内: 灰白色	4cm以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	トトロ 山根系
25 - 16	59 4	4	SK12		偏筋	鉢			茶褐色	1mm程度の細砂含む	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	N 潟
25 - 17	59 4	4	SK12		偏筋	鉢	(13.6)		暗赤褐色 内: 灰白色	4cm以下の中粒含む	良好	外: ナチュラル 内: 黄褐色	
25 - 18	59 4	4	E14 1-2 面	SK12	偏筋	香			茶褐色	1cm以下の中粒少々含む	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	
25 - 22	59 5	A8	SD07		中国 青白	碗	(4.8)		灰褐色	積灰	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	トトロ 山根系
25 - 26	59 5	SK18	中国白釉			皿			白色	積灰	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	
25 - 27	59 5	SK18	中国白釉			皿	(4.4)		灰白色	積灰	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	V 5 期 山根系
25 - 28	59 5	SK18	壁面 青白			皿	(5.4)		灰褐色	積灰	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	壁面 山根系
32 - 2	59 1	SD01	中国白釉			皿	(14.6)		灰白色	積灰	良好	外: 多人いる 内: 黄褐色	
32 - 8	59 1	E5	SD03		陶器	鉢			灰白色	3cm以下の中粒含む	良好	外: 回転ナチュラル 内: ナチュラル	
32 - 9	59 1	1 面	SD03		瓦葺土器	火鉢	(26.2)		灰白色 外: 灰褐色 内: 灰褐色	灰白色	良好	外: 黄褐色 内: 黄褐色	トトロ 山根系
32 - 10	59 1	1 面	SD03		肥前陶器	皿	(4.6)		外: 灰褐色 内: 明治時代灰褐色	積灰	良好	外: 剥離直基 内: 基底直基	17世紀前半
32 - 11	66 1	1 面	SD03		肥前陶器	皿	(12.0) (5.4) (4.0)		内: 灰褐色 外: 灰褐色	2mm以下の中粒含む	良好	外: 回転ナチュラル 内: ナチュラル	近世
32 - 12	59 1	1 面	SD03		肥前陶器	鉢	(27.8)		内: 灰褐色 外: 灰褐色	積灰	良好	外: ロクヨウ 内: ロクヨウ	近世
32 - 13	66 1	E5	SD03		肥前陶器	瓶	(6.6)		内: 灰褐色 外: 灰褐色	積灰	良好	外: ロクヨウ 内: ロクヨウ	近世
32 - 14	66 1	E5	1 面	SD03	肥前陶器	世	(24.2)		内: 灰褐色	積灰	良好	外: タキラのナチュラル 内: ナチュラル	近世

地図番号	図面番号	地名	部品番号	部品名	部位	種別	器種	(カラーパレット) 素材			色調	胎土	焼成	調整・文様	時期(供行式)
								上塗	遮光	無塗					
32 - 15 59 1		1面	S003	肥前陶器	皿		(5.6)	褐色			褐色	良好	内: 黒ノ目鉛削ぎ 外: 銀ノ目鉛削ぎ	近世 1650-60年代	
32 - 16 59 1	F2	1面	S004	肥前陶器	器			灰白色			4mm以下の砂粒含む	良好	内: 外: 回転ナデ	近世	
32 - 17 59 1	E2	1面	S004	肥前陶器	器			灰白色	内: 淡黄褐色 外: 淡黄褐色		1mm以下の白粉少含む	良好	内: 外: ロココ彫形	近世	
32 - 21 59 1	D3	1面	S005	中国陶器	器			灰白色			褐色	良好	内: 外: 当施	近世	
32 - 23 59 1	D5	1面	S008	中国陶器	器	(16.8)		灰白色			褐色	良好	内: 花絵 外: 花絵	V-2b類	
32 - 24 59 2			S008	陶胎陶器	器			灰白色			褐色	良好	内: 朱引		
32 - 25 59 3	D12		S008	肥前陶器	器	(10.8)		外: 白色 内: 白色	淡黄色		褐色	良好	内: ハベアリ 外: ハベアリ	近世	
32 - 26 59 3	D13		S008	肥前陶器	器	(16.8)		外: 黄褐色 内: 黄褐色			褐色	良好	内: 白粉削ぎ 外: リクビツ白粉削ぎ	近世	
32 - 27 59 4			S009	肥前陶器	器	6.0		外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色			褐色	良好	内: 朱引 外: ナシ	近世	
32 - 28 59 4	C18		S009	真瓦	平瓦			外: 淡色 内: 淡色			褐色	良好	内: ナシ	近世?	
32 - 31 59 4	D17		S010	肥前陶器	片口皿	(19.9)		外: 淡色 内: 淡色	暗茶褐色		褐色	良好	内: 朱引ナデ 外: 朱引ナデ	近世	
32 - 32 59 4	D17		S010	肥前陶器	器	10.4		外: 淡色 内: 淡色	暗茶褐色		褐色	良好	内: ナシ 外: ナシ	近世 17世紀前	
32 - 33 59 4	D17		S010	肥前陶器	器	11.9		外: 淡色 内: 淡色	暗茶褐色		褐色	良好	内: 朱引ナデ	近世	
32 - 40 59 4	C15	1面	S016	鹿児島県 吉原	器			外: 淡色 内: 淡色			褐色	良好	内: 朱引	84類	
38 - 1 59 1			Pt11	肥前陶器	器			外: 淡色 内: 淡色			褐色	良好	内: 朱引	近世	
38 - 20 63 4	E17	1面	Pt302	鍋屋窯	器	5.2		淡白色			褐色	良好	内: ハベアリ 外: 白粉削ぎ	1460-1550年代	
38 - 30 59 4	E18		Pt453	瓦屋山窯	火鉢			外: 暗灰色 内: 暗灰色			褐色	良好	内: 朱引ナデ 外: 朱引ナデ	近世	
38 - 33 59 4	1-2面		Pt461	扇風機窯	坪			淡绿色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引	1-2d類	
39 - 9 59 4	1-2面		Pt667	青花	器	(13.2)		白色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引	82群	
39 - 17 59 5			Pt733	越前	器			淡绿色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引	近世	
39 - 26 59 4			Pt1244	瓦屋山窯	火鉢	(15.0)		灰			褐色	良好	内: ハベアリ 外: ハベアリ	近世	
98 - 5 55 4	C14	8星		柿輪	器			灰			褐色	良好	内: ハベアリ 外: 朱引タラキ		
103 - 1 60 1	B4	5星		中国白陶	器	(10.4)	高白透:	2.9	灰白色		褐色	良好	内: 朱引内ヘケズリ 外: 朱引	8-1 懸福建系	
103 - 2 60 4	B13	1面		中国白陶	器	(11.2)	高白透:	3.4	灰白色		褐色	良好	内: 朱引から高白透 外: 朱引中段段あり	8-1 懸福建系	
103 - 3 60 1	D5	7星		中国白陶	器	(11.2)	高白透:	3.4	灰白色		褐色	良好	内: 朱引	VII 様	
103 - 4 60 3	B12	7星		中国白陶	器	(10.4)	高白透:	3.4	灰白色		褐色	良好	内: 朱引削ぎ 外: 高白透 内: 朱引削ぎ	VII 様 懸福建系	
103 - 5 60 5	A5	5星		中国白陶	器	(10.0)	(3.6)	1.9	灰白色		褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引	D群	
103 - 6 60 3	B13			中国白陶	器			灰白色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引	II群	
103 - 7 60 4	E16	7星		問の葉葉	青瓦	10.7	5.3	2.2	褐:オリーブ色 灰:灰白色	石	1mm以下の白色砂粒若干含む	良好	内: 朱引塵物 外: 朱引みみへらによる文様、網工 内: ジヤクサ文	I-2b類	
103 - 8 60 5	A6/B6	6星		鹿児島県 吉原	器	(13.0)		褐色			褐色	良好	内: 朱引 外: 網工	II群	
103 - 9 60 4	E14	青瓦 砂利瓦		吉原	器	5.4		淡绿色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引	II群	
103 - 10 60 5	A6	6星		鹿児島県 吉原	器	(6.4)		灰:灰褐色 土:茶褐色			褐色	良好	内: 朱引 外: 田畠文、1次沈縫		
103 - 11 60 5	A12	7星		鹿児島県 吉原	器	(6.8)		褐:暗褐色 土:茶褐色			褐色	良好	内: 朱引 外: ハベアリ 内: 朱引	吉原	
103 - 12 60 4	D18	7星		鹿児島県 吉原	器			褐色			褐色	良好	内: スランプによる露文 外: スランプによる露文	C3類	
103 - 13 60 4	D16			鹿児島県 吉原	器			褐色			褐色	良好	内: 横筋形		
103 - 14 60 3	E12	7星		青瓦	器	(5.1)		黑白色			褐色	良好	内: 朱引 外: ハベアリ		
103 - 15 60 5	A10	7星		青白陶	陶板			外: 淡灰色 内: 淡灰色			褐色	良好	内: 朱引 外: 陶板工用による淡灰 内: 朱引ナデ		
103 - 16 60 5	B4/B5	4星		青白陶	小匣	(4.8)		青白白色			褐色	良好	内: 陶板 外: 陶板		
103 - 17 60 1	C7	8星		青白陶	合子蓋			青白色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 18 60 1	C5	7星		中国	器	(11.4)		外: じこい 内: 黄灰			1mm以下の白色砂粒少含む	良好	内: 朱引削ぎ 外: 朱引		
103 - 19 60 5	A12	7星		中国	器	(6.8)		珊瑚褐色			褐色	良好	内: ハケアリ 外: 朱引		
103 - 20 60 3	B11	5星		中國 朝倉窯	器			にじ 黄褐色			褐色	良好	内: 朱引ナデ 外: 朱引		
103 - 21 60 4	F15	7星		朝倉窯	器	(4.4)		外: 淡灰色 内: 白色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 22 60 4	C16 C9	1面		御器	拂			普褐色			1mm程度の砂粒多く含む	良好	内: 朱引 外: 朱引	株洲か頭頭	
103 - 23 60 1	C6			備前	拂			普褐色			1~2mmの砂粒含む	良好	内: 朱引ナデ 外: 朱引	N期	
103 - 24 60 4	C13	7星		備前	器	(11.6)		褐色			砂粒少含む	良好	内: 朱引 外: 朱引	N期	
103 - 25 60 4	E16	7星		備前	器			褐:暗褐色 土:灰褐色			2mm程度の砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引	N期	
103 - 26 60 4	E18	7星		瀬戸美濃	脚踏	(4.5)		褐:暗褐色 土:灰褐色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 27 60 4	C14	1面		備前	器			灰褐色			褐色	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 28 60 4	F17	7星		備前	器			灰褐色			1mm以下の砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 29 60 5	A12	7星		備前	器	(2.2)		灰褐色			砂粒少含む	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 30 60 2	F12			東屋樂	拂			灰			1mmの砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 31 60 3	C11	7星		瓦屋山窯	拂			灰白色			1mm以下の砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 32 60 3	F12			瓦屋山窯	拂			灰褐色			1mm以下の砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引	防長型	
103 - 33 60 4	C16	7星		瓦屋山窯	拂			灰褐色			1mm以下の砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 34 60 3				瓦屋山窯	香炉	(10.6)		灰白色			1mm以下の砂粒含む	良好	内: 朱引 外: 朱引		
103 - 35 60 1	C5	1面中		酒井賀土窯	不明			外: 淡色			5-10mmの小石僅かに含む	良好	内: 朱引		

第12表 大国地頭所遺跡 出土銭貨觀察表

発掘番号	回収番号	地区	グリッド	層位	遺構	名前	重量(g)				備考
							長さ	幅	内径	孔径	
51 - 1	77	4	C18	1-2面	Pt1333	開元市貢	23.8/24.3	21.0/21.0	6.7/6.7	1.10	2.11
51 - 2	77	1	E3	1面	Pt54	開元市貢	23.4/24.3	18.5/18.7	6.9/6.8	1.40	2.82
51 - 3	77	3	B13	灰褐色粘土質	Pt1226	元狩市貢	28.6/21.5	19.7/19.7	6.4/6.7	1.10	2.24
51 - 4	77	4	E5	1面	Pt1226	元狩市貢	24.8/24.0	なし	6.5/6.8	1.50	2.89
51 - 5	77	2	E10	透灰土	Pt1226	元狩市貢	24.5/24.7	19.6/20.0	5.3/5.2	1.40	4.10
51 - 6	77	4	B16	7層	Pt1226	元狩市貢	20.4/20.2	18.5/18.5	なし	1.70	4.47

第13表 大国地頭所遺跡 出土石器觀察表

発掘番号	回収番号	地区	グリッド	層位	遺構	種別	重量(g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
22 - 36	61	3			石列3	砾石	従2.7	幅	0.58	4	福井県 灰白色
22 - 37	61	5			石列3	石礫	11.4	9.5	1.7	232	砂岩
22 - 48	61	3	B12		石列4	砾石	(10.9)	(17.1)	4.4	531	福井県 鶴石 元は鶴形?
25 - 23	61	5	A8		SK17	砾石	19.7	9.8	7.9	1555	花崗岩 鶴石
25 - 24	61	5	A8	2面	SK17	石疊	口径(22.6)	底径(13.6)	高さ(13.6)	1525	白山市 口縁部が壊 平底 口径・底径は復元値
25 - 29	61	5	A8 - BB		SK18	砾石	(5.6)	(3.7)	0.9	22	安山岩 1面使用
32 - 18	61	1	E2		SD04	砾石	(5.0)	(2.5)	(1.7)	34	安山岩 2面使用
32 - 34	61	4		1面	SD10	砾石	(10.4)	(6.3)	(2.0)	117	福井県 風化等しい
38 - 15	61	3	B10	1-2面	Pt133	砾石	9.7	7.1	2.5	286	安山岩 湖底の底盤
39 - 10	61	4	D14	1-2面	Pt653	砾石	(21.2)	(14.8)	5.9	1540	福井県 復元値 転用して板状?
62 - 2	61	1			SD24	砾石	(6.1)	(5.2)	5.0	174	安山岩 湖底の底盤
63 - 6	61	1	C5	2面	SD52	砾石	12.2	7.2	6.8	777	花崗岩 1面使用
64 - 23	61	1		2面	SD64	砾石	7.1	7.1	6.1	444	花崗岩 1面使用
64 - 30	61	5		2面	SD68	砾石	6.2	3.3	3.3	110	安山岩 1面使用
65 - 13	61	1		2面	SD62	石芯丁	(3.1)	(4.8)	0.4	8	頁岩 1面使用
70 - 6	61	1	D3	2面	Pt692	石礫	4.6	1.7	7.5	4	黒曜石 有茎
77 - 24	61	3	E11	1-2面	土器群4	石疊	7.1	4.8	4.6	190	玄武岩 有茎
81 - 12	61	3	D19	8層	土器群6	砾石	18.6	8.0	7.3	1600	安山岩 湖底の底盤
91 - 21	61	1		2面	土器群7	石疊	8.9	4.8	3.1	114	玉髓(カクシ)
91 - 22	61	1		2面	土器群7	砾石	11.2	9.1	5.5	750	花崗岩 鶴石
91 - 23	61	1		2面	土器群7	砾石	10.5	9.7	6.1	841	花崗岩 1面使用
91 - 24	61	1		2面	土器群7	石疊	10.3	(9.0)	1.9	145	福井県 1面使用
91 - 25	61	1		2面	土器群7	砾石	(10.7)	(5.5)	14.8	257	砂岩 2面使用 転用
91 - 26	61	1	F4	2面	土器群7	砾石	(11.6)	(10.9)	2.5 - 4.1	590	黒曜石 有茎
104 - 4	62	1	D2	7層	石礫	3.05	1.5	0.75	348	黒曜石 隕石久遠産?	
104 - 5	62	3	E9	8層	大字石切7	砾石	(9.3)	(8.8)	1.3	89	泥紋岩 表面研磨
104 - 6	62	3	C10	8層	石礫	16.1	10.4	14.0	994	泥紋岩 後り4面所	
104 - 7	62	5	A10	7層	砾石	13.3	8.0	6.4	992	花崗岩 1面使用	
104 - 8	62	5			砾石	15.8	7.85	6.25	1069	玄武岩 1面使用	
104 - 9	62	1	D2	7層	砾石	84.5	3.5	3.6	318	玄武岩 1面使用	
104 - 10	62	1	D3	7層	砾石	11.7	10.9	5.7	1016	福井県 鶴石	
104 - 11	62	3	C10	8層	砾石	9.2	9.0	5.3	705	安山岩 1面使用	
104 - 12	62	3	D9		砾石	12.1	11.2	6.6	1242	安山岩 1面使用	
104 - 13	62	3	D9		砾石	8.4	7.6	3.8	426	玄武岩 1面使用	
105 - 1	62				砂岩	(9.3)	5.0	2.0	145	堆積性砂岩 1面使用	
105 - 2	62	1	D5	7層	砂岩	11.0	3.65	1.05	102	安山岩 安田丁寧な研磨による仕上げ成因	
105 - 3	62	3	D12	8層	砂岩	(5.3)	5.4	1.25	53	安山岩 1面使用	
105 - 4	62	1	D2	7層	砂岩	6.6	(3.2)	0.55	16	頁岩 打ち欠き像伊能	
105 - 5	62	3	C10	8層	砂岩	(3.25)	6.6	1.11	66	頁岩 表面に微 3mm, 深さ 1mmの貫通孔	
105 - 6	62	4	D18		砂岩	1.83	1.60	0.60	2.72	粗粒岩(流紋岩?) 暗灰色	
105 - 7	62	4	E17		Pt692	砂岩	1.9	1.7	0.8	4	流紋岩? 黒岩
105 - 8	62	1	D2	7層	砂岩	(11.8)	25.5 - 39.0	9.0 - 22.0	102	安山岩 表面に研ぐ跡	
105 - 9	62	1	C2	7層	砂岩	(8.3)	2.9 - 15.5	1.9 - 23.3	96	安山岩 表面に研ぐ跡	
105 - 10	62	1	E5	8層	砂岩	(1.2)	2.5 - 3.1	1.65 - 1.95	29	安山岩 表面に研ぐ跡	
105 - 11	62	1		4-1層	砂岩	(7.2)	5.5	4.0	154	砂岩 表面に研ぐ跡	
105 - 12	62	1	CB		砂岩	(6.4)	3.5	2.8	54	安山岩 表面に研ぐ跡	
105 - 13	62	3	B3	8層	砂岩	(5.4)	(2.9)	(3.3)	54	安山岩 表面に研ぐ跡	
105 - 14	62	3	D10	8層	砂岩	(13.1)	2.4	1.4	58	珪化木 1面使用	
105 - 15	62	4	C10	8層	砂岩	(9.0)	(4.7)	1.4	72	流紋岩? 波を転用するための溝	
105 - 16	62	5	B5	5層	砂岩	(7.0)	3.7	1.2	48	砂岩 凹凸面 4面使用 径 10mmの貫通孔	
105 - 17	62	1	D57	1面	有孔石	標記	5.1	0.6	11	福井県 白色 表面細緻	
105 - 18	62	3	B11	7層	有孔石製品	砂岩	9.4	3.9	9.35	33	福井県 白色 中央部貫通孔 2面所 複合貫通孔 1面所
105 - 19	62	4	E13	1面	石柱(17.4)	砂岩	(28.0)	5.4	1692	錦山山麓福井県 明オリーブ灰色 磯岩	
整理番号(以下同)											
石7		3	C10	8層	SOE1	砾石?	14.1	6.5	3.2	272	福井県 白色
石8		3	C10	8層	砾石	9.8	8.9	7.8	978	安山岩 花崗岩	
石10		3	D9		砾石	12.9	10.5	6.5	1256	安山岩 鶴石	
石12		3	D11以降		砾石	10.4	9.5	6.4	981	福井県 鶴石	
石13		3	E10	1-2面	土器群4	砂石	(15.1)	8.3	5.3	576	福井県 白色
石16		1	B4	8層	砾石	7.9	10.6	6.3	742	花崗岩 花崗岩	
石20		1		2面	土器群7	砾石	20.5	9.0	6.9	893	花崗岩 花崗岩
石22		1		2面	土器群7	砾石	7.5	6.9	4.5	319	花崗岩 花崗岩
石26		1	F4	2面	土器群7	砾石	(10.6)	9.4	5.5	717	緑色花崗岩 緑色花崗岩
石40		1	E5		土器群7	砾石?	4.9	2.8	1.0	26	安山岩 湖底の底盤
石50		1		2面	土器群7	砂石	5.4	5.2	2.1	98	泥紋岩 板状
石53		5	A10	2面	Pt615	砾石?	10.5	5.1	1.5	110	泥紋岩 板状
石54		4	A9		Pt616	砾石?	5.3	4.0	3.8	113	福井県 板状
石57		3	D10		Pt616	砾石?	(9.9)	(6.2)	2.1	177	福井県 白色
石58		3	D10	1面	砾石?	7.6	6.2	3.9	274	安山岩 黑色	
石60		3	E10		砾石?	(12.4)	(4.1)	8.3	590	安山岩 半分欠損	
石61		3			砾石?	(4.4)	(4.1)	1.9	26	花崗岩 2面使用	
es 62		4	E13	7層	砾石?	3.6	3.1	4.1	166	福井県 1面使用	

検査番号	出土地名	地区	グリッド	層位	遺構	法面 (cm) カッコ内持存値			重量 (g)	石材	備考
						長さ	幅	厚さ			
石64	4	C15	7層		磨石?	7.0	5.0	1.2	45	黒雲母岩	白色
石66	4	D16	1-2層	Pt492	磨石	3.5	3.2	3.1	36	電気火片岩	1面使用
石72					磨石?	4.0	2.5	0.8	10	流紋岩? 磨石岩?	斜井
石77	5	A14		Pt737	磨石?	1.8	1.3	0.5	3	青石	黒色
石80	3		石列2		研石	7.8	4.8	0.3	19	流紋岩	板状に剥離
石81	3	C10	8層		研石	7.3	4.0	4.1	123	流紋岩	赤色
石82	3	C10	8層		研石?	5.0	4.6	2.3	71	流紋岩	赤色
石84	4	C16		Pt422	削り	2.0	1.3	0.6	149	流紋岩	陽極見残?
石85	5	A13		Pt742	削り	0.9	0.8	0.1	0.14	流紋岩	
石86	4	E15	1-2層	Pt379	石板	6.9	3.1	2.6	54	流紋岩	陽極見残?
石88	3	E9	1層		削り	3.9	1.7	1.5	273	流紋岩	陽極見残?
石89	5	A14		Pt740	削り石	3.9	1.5	1.5	948	流紋岩	陽極見残?
石90-1		C13	1層		削り	1.4	0.9	0.5	683	流紋岩	
石90-2	4	C13	1層		削り	1.6	1.2	0.4	0.73	流紋岩	
石102	1	D6	6層		磨石?	7.7	6.2	5.0	335	流紋岩	
石106	1	B4	8-1層		磨石?	7.8	6.1	3.1	239	流紋岩	黒色
石107	1	B3	8層		磨石?	14.5	6.5	4.6	342	流紋岩	
石108	1	D3	1-1層		磨石?	12.9	12.2	7.5	1762	ディライト	断石
石110	1	E6	2層	土器群7	磨石?	5.0	3.1	2.3	35	花崗岩	緑斑?
石116	3		2層	S091	磨石	8.0	3.7	2.7	207	流紋岩	
石131	3	B13	8層		磨石	4.6	3.5	1.3	26	流紋岩	
石138	1	C8	5層		石臼	4.1	3.0	1.5	11	流紋岩	赤褐色
石140	1	E5	8層		石臼?	6.1	5.9	0.4	21	変質した凝灰岩	真透孔1箇所
石143	1	E6	7層		磨石	7.4	3.6	3.0	67	変質した凝灰岩	
石145	1	D4	7層		磨石	7.4	2.1	1.3	18	断石?	
石156	1		土器群7		磨石?	5.7	5.4	2.2	66	流紋岩	
石171	3	F12	灰褐色土		白石	4.2	2.4	1.6	13	変質した凝灰岩	
石183	5	B6	5層		磨石	5.4	3.7	1.2	31	流紋岩	
石188	5	T2			磨石?	2.26	2.44	0.43	4	ディライト	試掘
石189	13		8層		磨石	8.17	6.53	3.24	300	変質した凝灰岩	試掘
石190		T3	1層		磨石	13.06	6.5	5.15	466	ディライト	試掘
石191		T3	1層		磨石?	11.64	10.48	6.73	855	ディライト	試掘

第14表 大国地頭所遺跡 出土金属器観察表

検査番号	出土地名	地区	グリッド	層位	遺構	種別	法面 (cm) カッコ内持存値			重量 (g)	石材	備考
							長さ	幅	厚さ			
50 - 1	77	4	E14	2層		管?	145	0.8	0.2	6	50 - 17	77 3 C10 8層
50 - 2	77	1	B3	8-1層	土器群1	耳環?	1.9	2.7	0.5	934	50 - 18	77 3 E16 1層
50 - 3	77	1	B3	7層		敲打?	6.0	大3.2	0.45	50	50 - 19	77 4 C16 1層
50 - 4	77	3	C13	8層	板状鉄器	5.3	3.65	1.35	202	50 - 20	77 4 E16 1-2層	
50 - 5	77	7	D4	1-1層	鉄矛?	(6.0)	大3.8	大2.7	150	50 - 21	77 4 D18 1-2層	
50 - 6	77	3	C10	8層	鉄矛?	(6.0)	大6.0	(4.05)	188	50 - 22	77 4 D18 2層	
50 - 7	77	5	A10	7層	刀?	(10.0)	大2.7	0.4	69	50 - 23	77 4 C14 7層	
50 - 8	77	3	C1	2層	SD6	秋刀?	2.6	0.8	115.15	50 - 24	77 4 C13 7層	
50 - 12	77	1	C5	2層	板状鉄器	2.8	2	0.7	12	50 - 25	77 5 4層	
50 - 13	77	1	E14	1層	鐵?	0.9	2.5	0.45	44	50 - 26	77 5 E16 5層	
50 - 14	77	1	F14	2層	土器群7	鉄の釜?	0.6	0.7	0.1	11	50 - 27	77 1 E2 1層
50 - 15	77	1		2層	土器群7	組合せ型品?	5.0	3.05	0.4	43	50 - 28	77 1 C8 1層
50 - 16	77	5	A10	7層	鉄製品?	(8.2)	(3.0)	(1.8)	122	50 - 29	77 4 D17 1層	

第15表 大国地頭所遺跡 出土木製品観察表

検査番号	出土地名	地区	グリッド	層位	遺構	種別	法面 (cm) カッコ内持存値			重量 (g)	石材	備考
							長さ	幅	厚さ			
49 - 1	78	3	E13	1-2層	Pt354	柱根?	(41.2)	15.2	12.3		クリ	
49 - 2	78	4	D15	1層	Pt399	柱根?	(47.7)	12.8	10.2		クリ	
49 - 3	78	4	D16	1-2層	Pt492	柱根?	(55.4)	16.0	14.1		クリ	
49 - 4	78	4	D16	1-2層	Pt496	柱根?	(29.6)	14.2	11.7		シリノマ富士原似	
49 - 5	78	4	E15	1-2層	Pt577	柱根?	(65.5)	16.8	16.0		クリ	
49 - 6	78	4	B17	1層	Pt1303	柱根?	(54.0)	17.3	16.9		クリ	
49 - 7	78	4	B16	1-2層	Pt1334	柱根?	(55.0)	19.3	18.3		マツ属?	(複数個) (複数個) (複数個)
49 - 8	78	4	C15	1-2層	Pt1348	柱根?	(47.9)	15.7	14.0		クリ	
49 - 9	78	4	B15	1-2層	Pt1358	柱根?	(34.7)	17.0	13.5		クリ	
49 - 10	78	4	C16	1-2層	Pt1310	柱根?	(23.0)	15.4	13.5		クリ	
49 - 11	78	3	C8	1層	Pt218	縄?	(口径 19.2)					
49 - 12	78	1	E6	1層	漆器皿	口徑	(12.4)				クリ	内外塗装済 漆器部水溶
49 - 13	78	5	B4	8層	漆器皿	口徑	(12.4)				クリ	内外塗装済 漆器部水溶
49 - 14	78	4	E14	7層	漆器皿	口徑	(18.0)				モモ	3個体あり
木-2	3	E12	1-2層	Pt156-①	柱根?	(29.6)	19.2	(15.0)			クリ	
木-3	3	E12	1-2層	Pt156-②	柱根?	(28.5)	23.5	21.4			クリ	
木-5	4	E18	1-2層	Pt456	柱根?	(36.0)	12.0	12.5			クリ	
木-6	4	C15	1層	Pt525	柱根?	(17.2)	14.0	9.8			クリ	
木-9	4	D15	1-2層	Pt535	柱根?	(25.0)	15.5	12.5			クリ	
木-11	4	F15	1-2層	Pt517	柱根?	(20.6)	9.5	9.3			クリ	
木-12	4	E15	1-2層	Pt1226	柱根?	(14.4)	(10.0)	(6.8)			クリ	
木-15	4	F15	1-2層	Pt1338	柱根?	(38.0)	18.5	(12.0)			クリ	
木-19	3	D12	石列3		棒子?							

第16表 大国地頭所遺跡 出土玉観察表

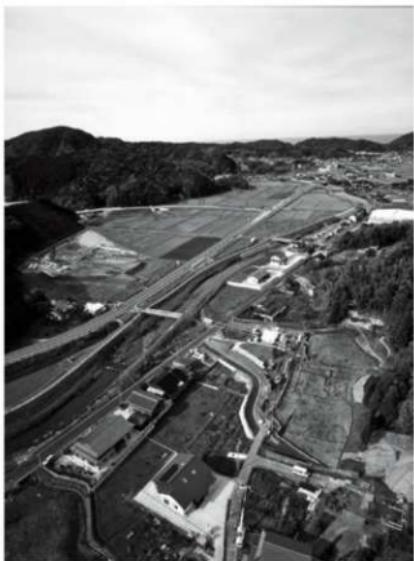
検査番号	出土地名	地区	グリッド	層位	遺構	法面 (cm) カッコ内持存値			重量 (g)	色調	材質
						長さ	幅	厚さ			
104 - 1	77	1	O7	2層	小玉	0.65	0.35	0.22	22	淡青緑色	ガラス
104 - 2	77	1	O3	1-1層	小玉	0.85	0.88	0.99	10	青色	ガラス
104 - 3	77	1	C5	7層	丸玉	3.0	0.9	0.5	278	青黄色	ガラス

# 写真図版

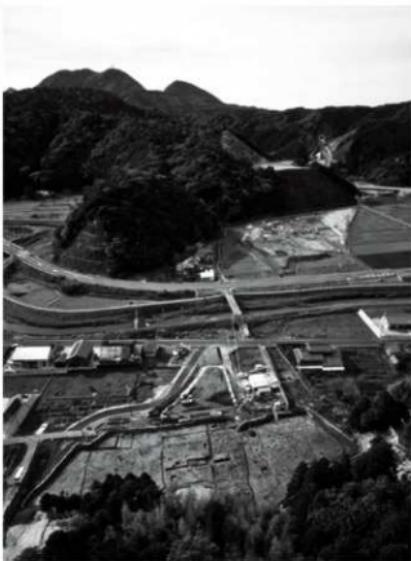




大国地頭所遺跡（上空：西から）



大国地頭所遺跡（上空：東から）



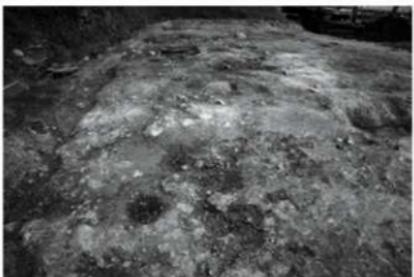
大国地頭所遺跡（上空：北から）



4区完掘状況（上空：下が東）



1・3区1面完掘状況（西から）



2区遺構検出状況（西から）



3区1面完掘状況（北から）



4区完掘状況（東から）



調査前近景（東から）



調査前近景（西から）



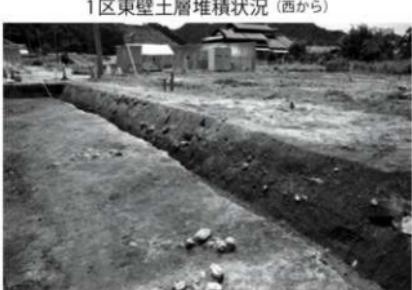
1区東壁土層堆積状況（西から）



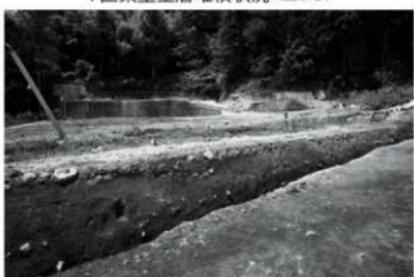
1区東壁土層堆積状況（西から）



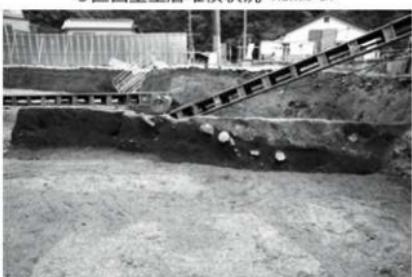
1区東壁土層堆積状況（西から）



3区西壁土層堆積状況（北東から）



3区西壁土層堆積状況（南東から）



5区T1東壁土層堆積状況（西から）

図版4



1区石積遺構（南から）



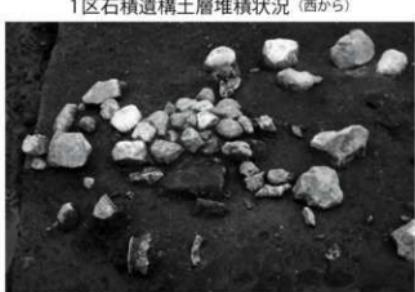
1区石積遺構（南東から）



1区石積遺構土層堆積状況（西から）



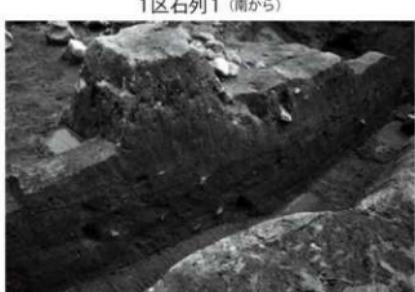
1区石積遺構（西から）



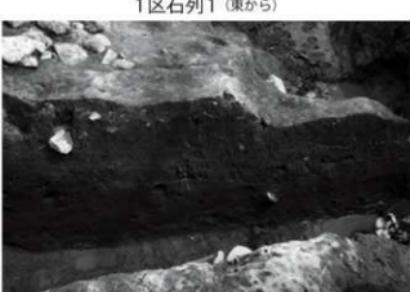
1区石列1（南から）



1区石列1（東から）



1区4ライン土層堆積状況（西から）



1区4ライン土層堆積状況（西から）



3区石列2（北から）



5区石列2（西から）



3・5区石列3（南から）



3・5区石列2～4（南から）



3区石列3（南から）



3・5区石列2～4完掘状況（南から）



5区石列2～4（東から）



5区石列2裾石（西から）

図版6



5区石列2・3南壁土層堆積状況（北から）



5区石列3・4南壁土層堆積状況（北から）



5区石列2～4南壁土層堆積状況（北から）



3区石列3土層堆積状況（南から）



3区石列4（南から）



3区石列4（北から）



2区SK03（北東から）



2区SK03土層堆積状況（南西から）



1区 SK04 土層堆積状況（南西から）



1区 SK06（北西から）



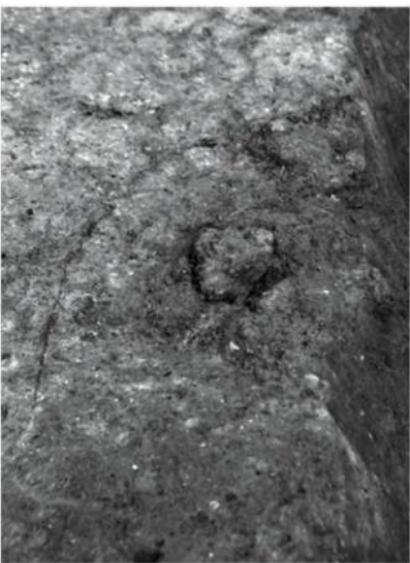
1区 SK06 土層堆積状況（南西から）



3区 SK08 遺物出土状況（北から）



1区 SK07（南から）

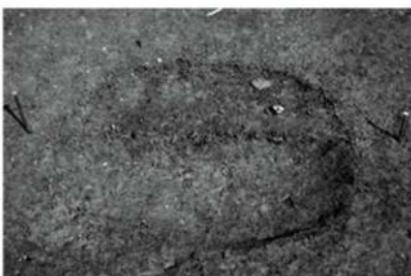


3区 SK08 鉄滓出土状況（西から）

図版8



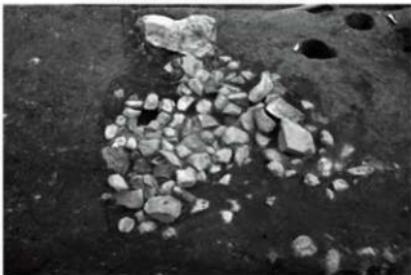
4区SK10完掘状況（南から）



4区SK10土層堆積状況（南から）



4区SK11（北から）



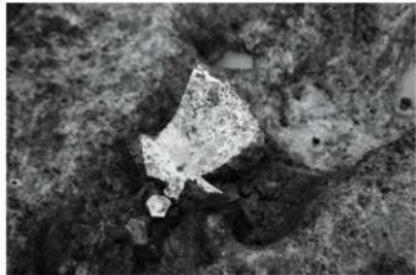
5区SK17（南から）



5区SK17土層堆積状況（南から）



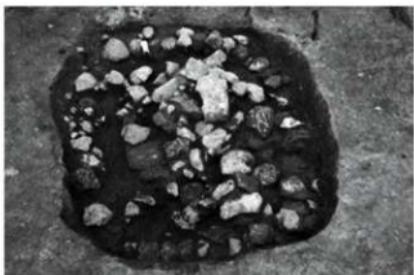
5区SK17完掘状況（南から）



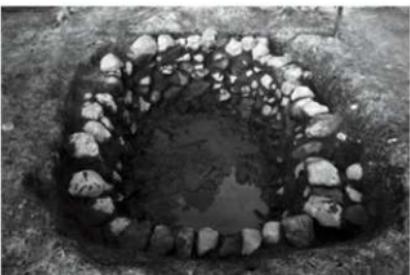
5区SK17遺物出土状況（西から）



5区SK18（南から）



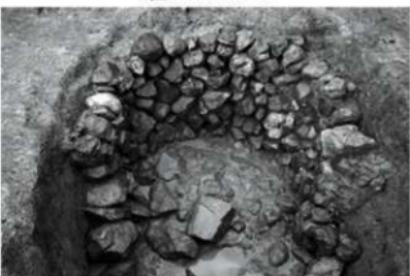
4区SK12検出状況（南から）



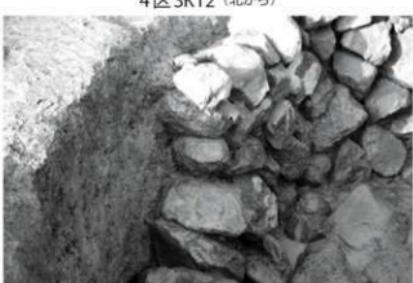
4区SK12（南から）



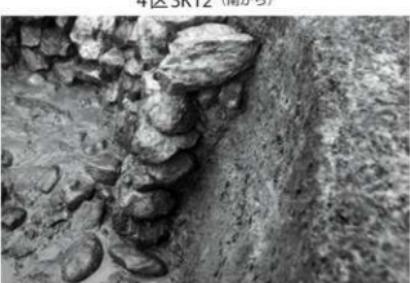
4区SK12（北から）



4区SK12（南から）



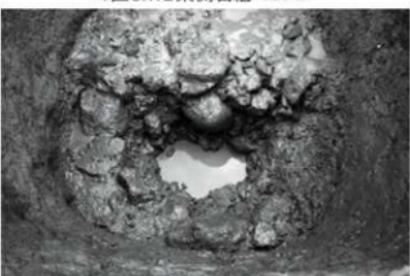
4区SK12西側石組（南から）



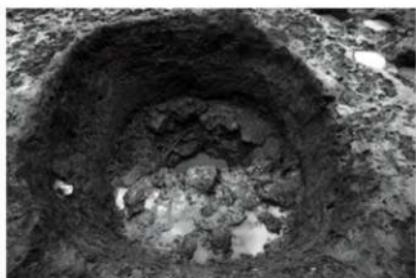
4区SK12東側石組（南から）



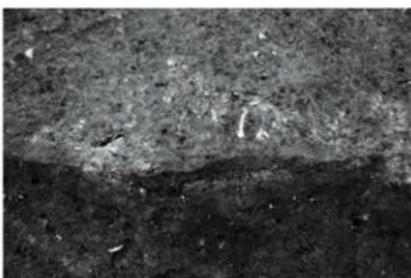
4区SK12土層堆積状況（南から）



4区SK12下層土層堆積状況（南から）



4区SK12完掘状況（北から）



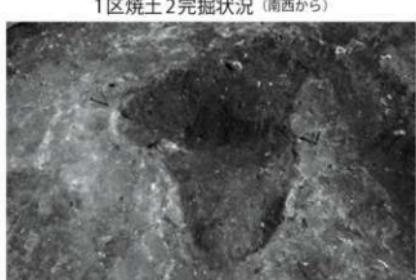
1区焼土2検出状況（南から）



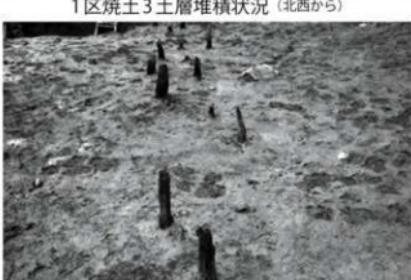
1区焼土2完掘状況（南西から）



1区焼土3土層堆積状況（北西から）



1区焼土3完掘状況（北西から）



4区杭列（東から）



1区北東端地山部分完掘状況（東から）



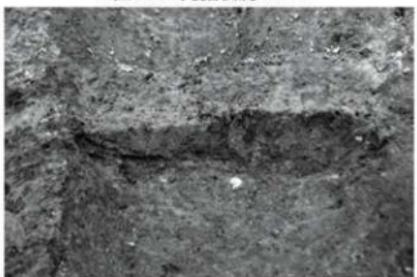
1区東側1面完掘状況（南から）



1区 SD01 完掘状況（南から）



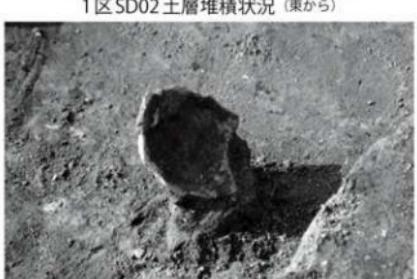
1区 SD01 土層堆積状況（東から）



1区 SD02 土層堆積状況（東から）



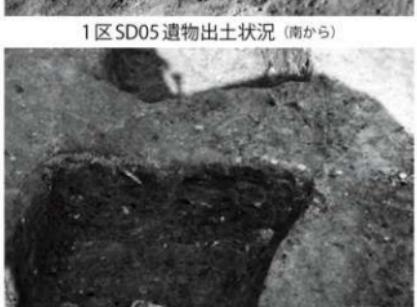
1区 SD03 完掘状況（南西から）



1区 SD05 遺物出土状況（南から）



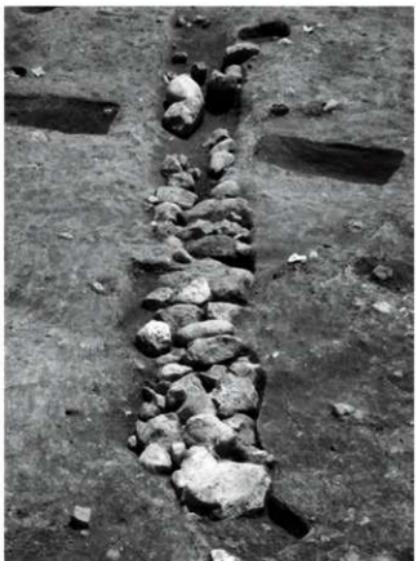
1区 SD06（北東から）



1区 SD06 土層堆積状況（南東から）



1区 SD07 土層堆積状況（南から）



1区 SD04 (南から)



1区 SD04 完掘状況 (南から)



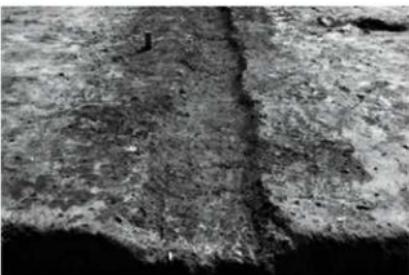
1区 SD05 土層堆積状況 (南から)



3区 SD08 検出状況 (西から)



3区 SD08 土層堆積状況（東から）



3区 SD08 完掘状況（西から）



4区 SD09～11 検出状況（西から）



4区 SD10 完掘状況（南から）



4区 SD09 完掘状況（南から）



1区 SB01（西から）



4区 SD11 (南から)



4区 SD13 (東から)



4区 SD13 (西から)



4区 SD14 完掘状況 (東から)



4区 SD13 完掘状況 (東から)



4区 SD16 (南から)



3区 Pit237 遺物出土状況 (東から)



3区 Pit313 遺物出土状況 (北から)



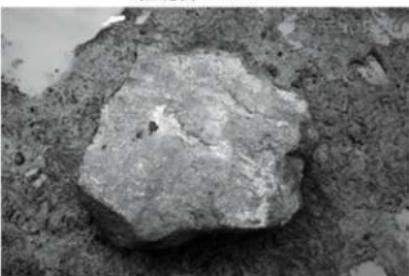
4区礎石 1 (西から)



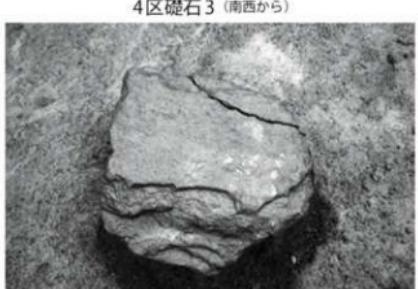
4区礎石 2 (南西から)



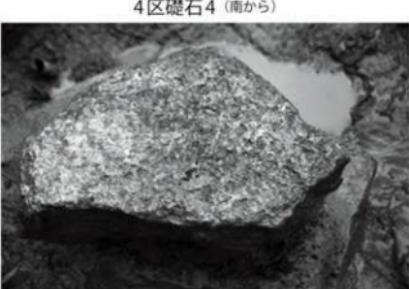
4区礎石 3 (南西から)



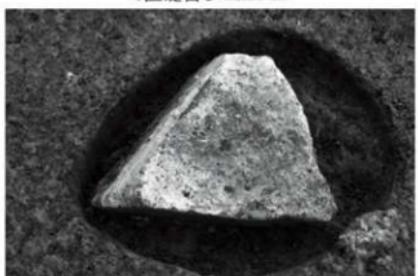
4区礎石 4 (南から)



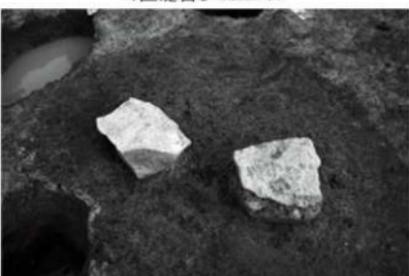
4区礎石 6 (南西から)



4区礎石 8 (南西から)



4区礎石 13 (西から)



4区礎石 10 (左) 級石 11 (右) (南西から)



4区基礎石 13 (南から)



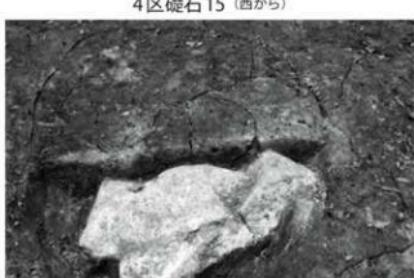
4区基礎石 14 (南から)



4区基礎石 15 (西から)



1区Pit01 土層堆積状況 (南西から)



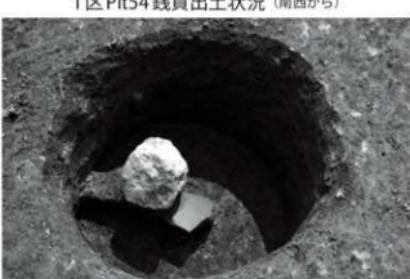
1区Pit08 土層堆積状況 (南西から)



1区Pit54 錢貨出土状況 (南西から)



1区Pit58 (左) Pit57 (右) (南東から)



1区Pit66 (北東から)



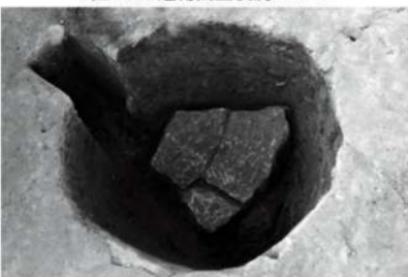
1区 Pit67 (南から)



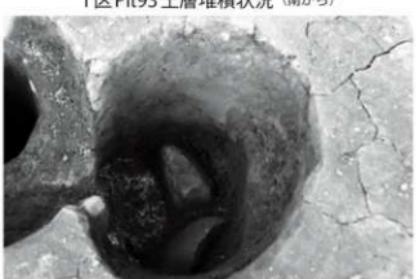
1区 Pit81 遺物出土状況 (西から)



1区 Pit93 土層堆積状況 (南から)



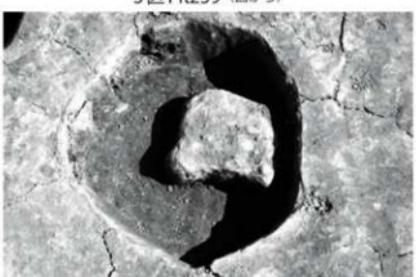
1区 Pit145 (南から)



3区 Pit259 (西から)



3区 Pit278 遺物出土状況 (南から)



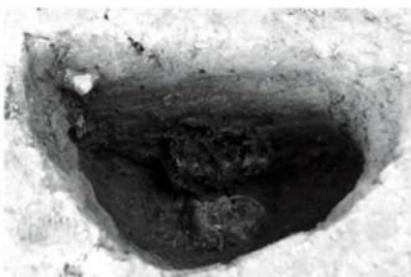
3区 Pit290 (北西から)



3区 Pit297 (西から)



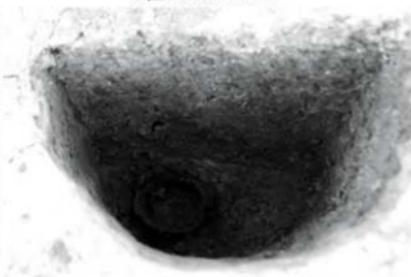
3区 Pit306 (東から)



3区 Pit358 (南から)



4区 Pit380 (北から)



4区 Pit399土層堆積状況 (南から)



4区 Pit410木製品 (第49図10) 出土状況 (北から)



4区 Pit428 (西から)



4区 Pit429 (北西から)



4区 Pit439 (南から)



4区 Pit456 (東から)



4区 確石 8 と Pit1337 (西から)



4区 Pit458 (北から)



4区 Pit491 (東から)



4区 Pit492 (西から)



4区 Pit498 (南から)



4区 Pit525 (東から)



4区 Pit535 (北西から)



4区 Pit573 (西から)



4区 Pit577 (南から)



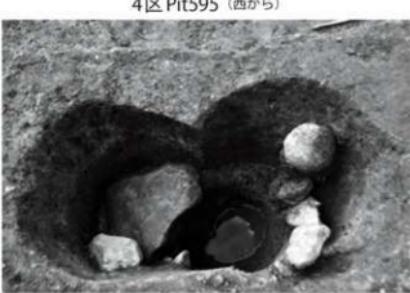
4区 Pit577 土層堆積状況 (南から)



4区 Pit595 (西から)



4区 Pit603 (西から)



4区 Pit616 (左) Pit615 (右) (北から)



4区 Pit617 土層堆積状況 (南から)



4区 Pit634 (南から)



4区 Pit636 (西から)



4区 Pit658 (南から)



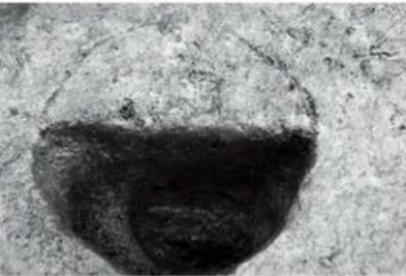
4区 Pit688 (南西から)



4区 Pit708 土層堆積状況 (南から)



5区 Pit730 (北西から)



1区 Pit928 土層堆積状況 (南から)



4区 Pit1195 (東から)



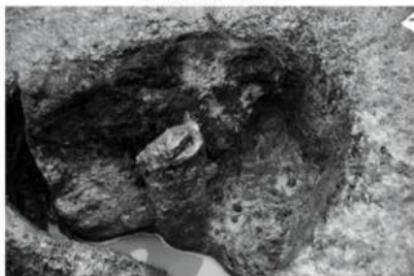
4区 Pit1197 (西から)



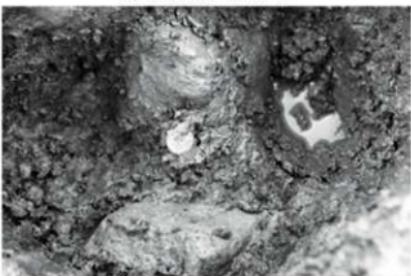
4区 Pit1206 (西から)



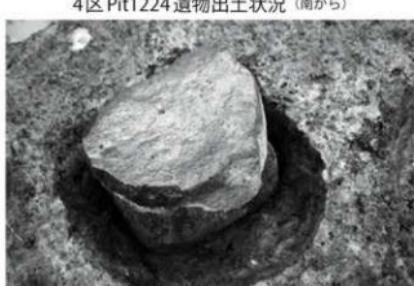
4区 Pit1222 (南東から)



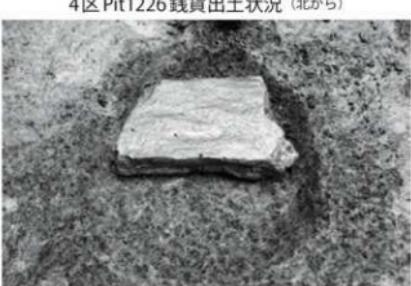
4区 Pit1224 遺物出土状況 (南から)



4区 Pit1226 銭貨出土状況 (北から)



4区 Pit1241 (南西から)



4区 Pit1283 (南西から)



4区 Pit1298 (西から)



4区 Pit1303 土層堆積状況 (南から)



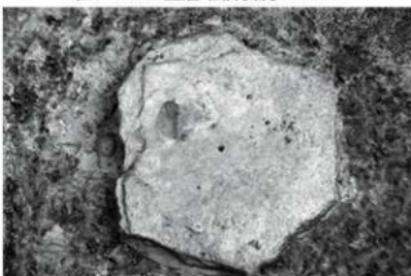
4区Pit1309（西から）



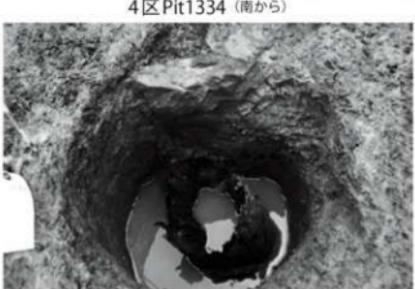
4区Pit1334 土層堆積状況（南西から）



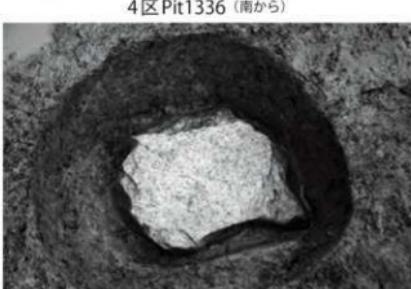
4区Pit1334（南から）



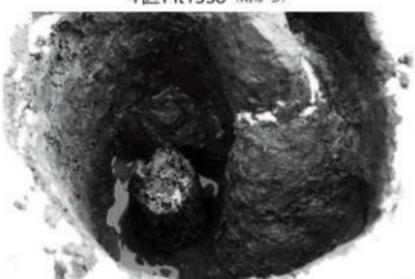
4区Pit1336（南から）



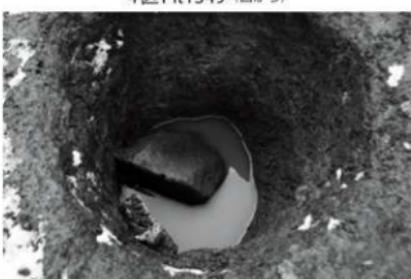
4区Pit1338（南から）



4区Pit1349（西から）



4区Pit1358（東から）



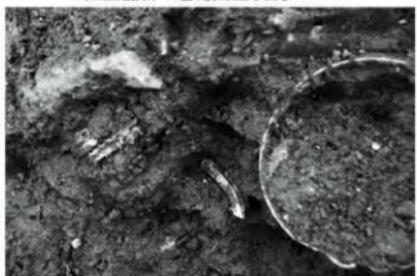
4区Pit1363(Pit453)（東から）



1区土器群1遺物出土状況（南から）



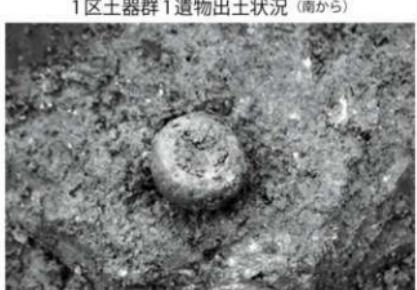
1区土器群1遺物出土状況（第43図10）（西から）



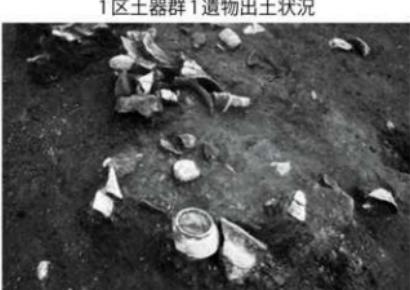
1区土器群1遺物出土状況（南から）



1区土器群1遺物出土状況



1区土器群1遺物出土状況（第43図13）（南から）



1区土器群1遺物出土状況（西から）



1区土器群1遺物出土状況（西から）



1区耳環出土状況（南から）



1区2面完掘状況（西から）



1区2面完掘状況（南から）



1区2面完掘状況（西から）



1区2面完掘状況（西から）



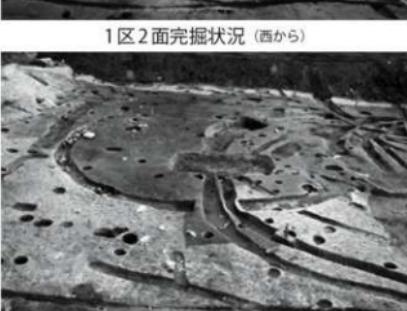
1区2面完掘状況（北から）



1区2面完掘状況（西から）



1区2面完掘状況（西から）



1区2面完掘状況（西から）



1区2面完掘状況（西から）



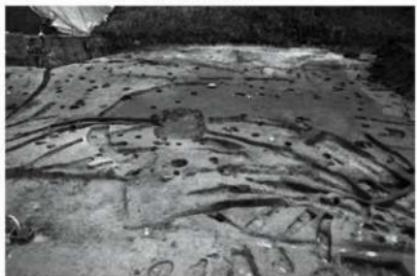
1区2面完掘状況（南から）



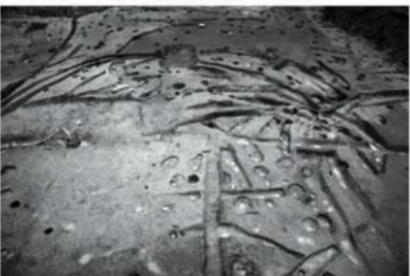
1区2面完掘状況（西から）



1区2面完掘状況（東から）



1・5区2面完掘状況（南から）



1・5区2面完掘状況（南から）



1・3・5区2面完掘状況（西から）



3区2面完掘状況（南から）



4区 SD22 (西から)



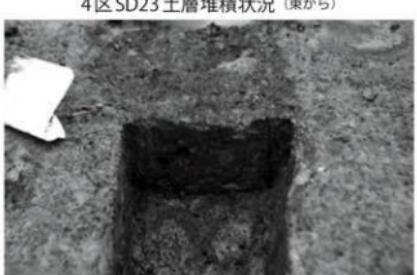
4区 SD22 (左) 土層堆積状況 (西から)



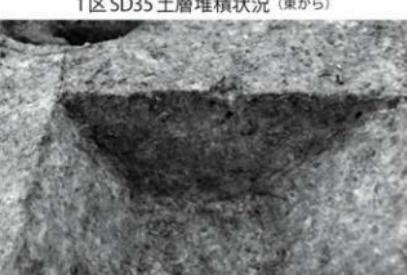
4区 SD23 土層堆積状況 (東から)



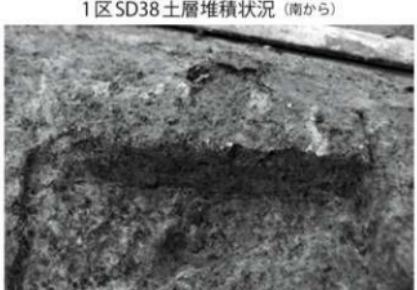
1区 SD35 土層堆積状況 (東から)



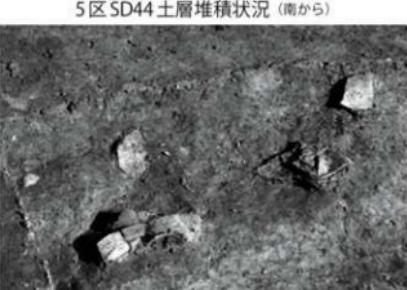
1区 SD38 土層堆積状況 (南から)



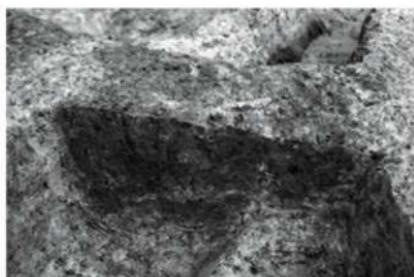
5区 SD44 土層堆積状況 (南から)



5区 SD46 土層堆積状況 (南から)



1区 SD52 遺物出土状況 (南から)



1区 SD53 (左) 土層堆積状況 (西から)



1区 SD58 遺物出土状況 (東から)



1区 SD58 土層堆積状況 (北から)



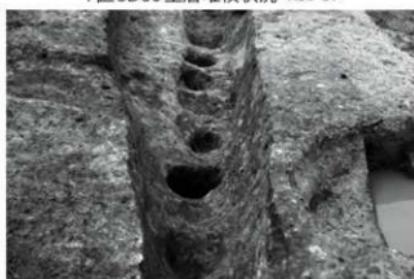
1区 SD59 遺物出土状況 (西から)



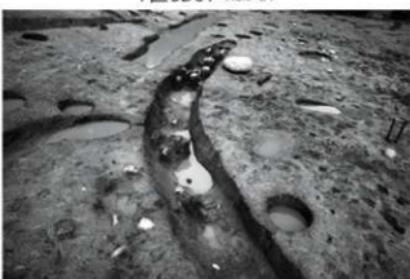
1区 SD60 土層堆積状況 (北から)



1区 SD61 (北から)



1区 SD61 (北から)



1区 SD62 (西から)



1区 SD62 土層堆積状況（西から）



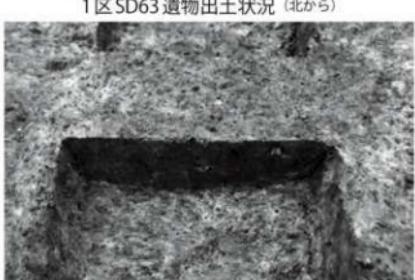
1区 SD63（横）SD62（縦）（北から）



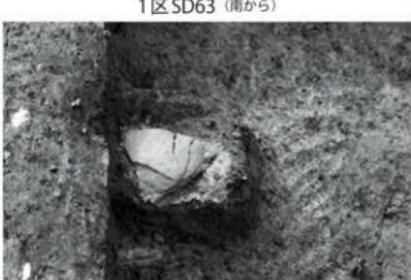
1区 SD63 遺物出土状況（北から）



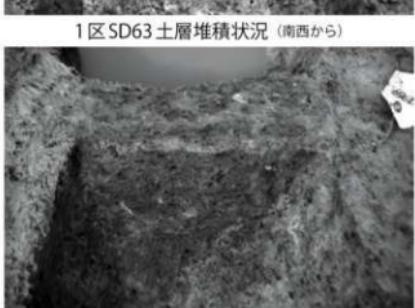
1区 SD63（南から）



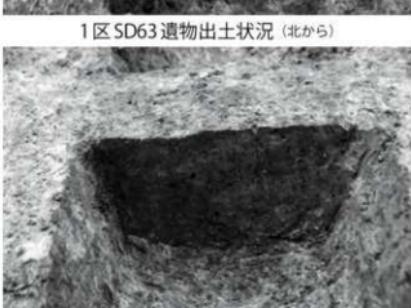
1区 SD63 土層堆積状況（南西から）



1区 SD63 遺物出土状況（北から）

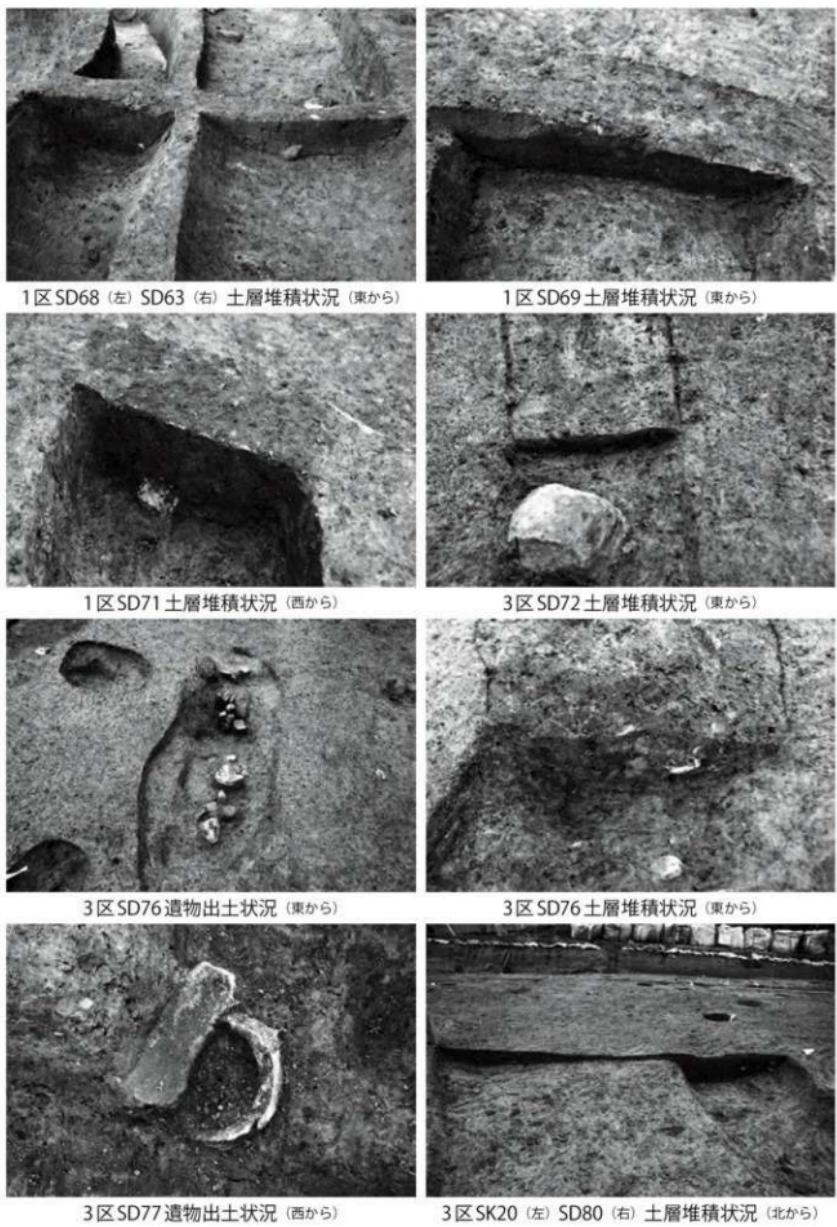


1区 SD64 土層堆積状況（東から）



1区 SD68 土層堆積状況（南西から）

図版30





5区 SD81 土層堆積状況（北から）



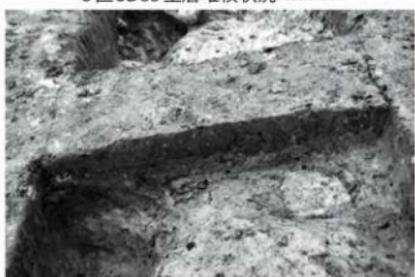
3区 SD82 土層堆積状況（北から）



3区 SD83 土層堆積状況（西から）



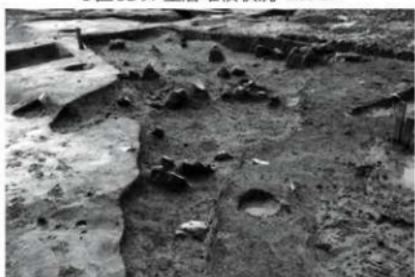
3区 SD94 遺物出土状況（東から）



3区 SD97 土層堆積状況（東から）



3区 SD97（東から）



3区 SD98 遺物出土状況（北東から）



3区 SD98 土層堆積状況（東から）



1区SK13土層堆積状況（西から）



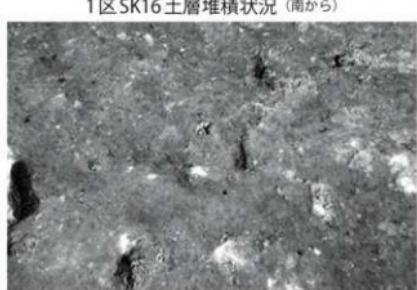
1区SK14土層堆積状況（東から）



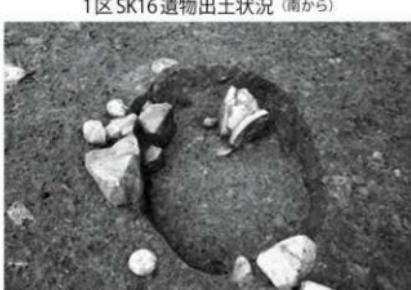
1区SK16土層堆積状況（南から）



1区SK16遺物出土状況（南から）



1区焼土4（南から）



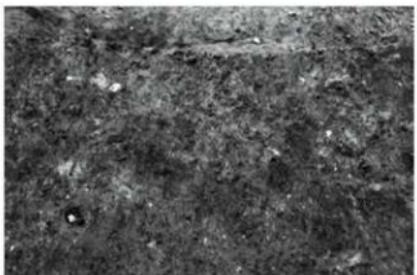
1区焼土4遺物出土状況（南から）



1区焼土4検出状況（西から）



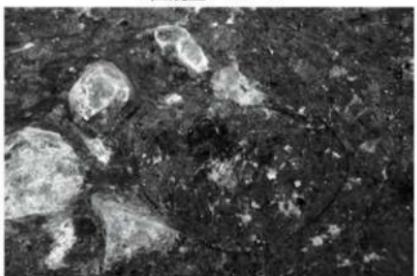
1区焼土6土層堆積状況（東から）



1区焼土 7 (北から)



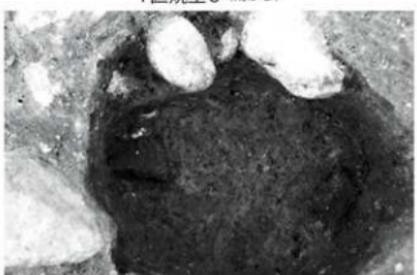
1区焼土 7 土層堆積状況 (北から)



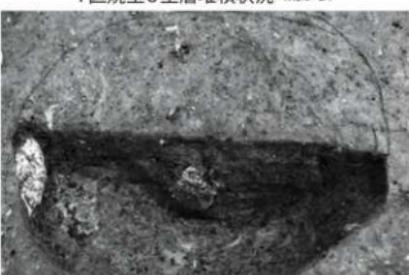
1区焼土 8 (南から)



1区焼土 8 土層堆積状況 (南から)



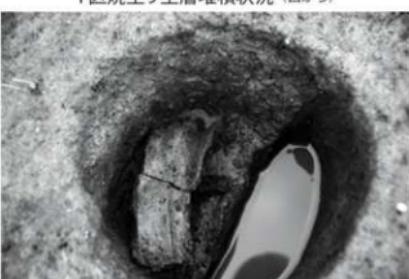
1区焼土 8 遺物出土状況 (南から)



1区焼土 9 土層堆積状況 (西から)



5区 Pit805 遺物出土状況 (南西から)



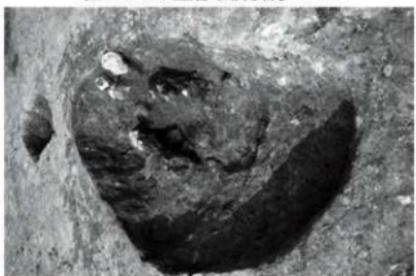
1区 Pit933 遺物出土状況 (西から)



1区 Pit1050 土層堆積状況（東から）



3区 Pit1124 遺物出土状況（南東から）



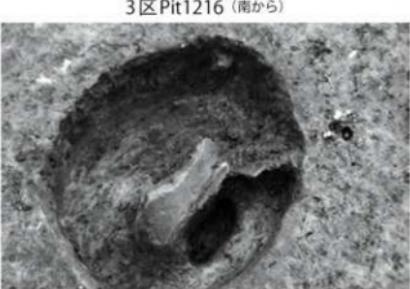
3区 Pit1137 遺物出土状況（南から）



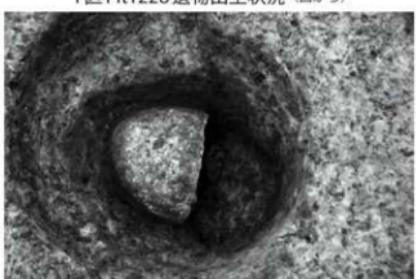
3区 Pit1216（南から）



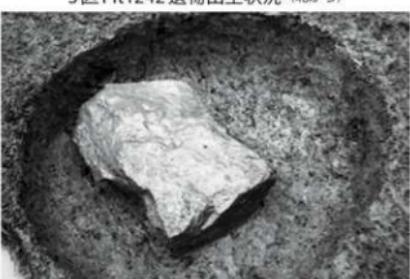
1区 Pit1228 遺物出土状況（西から）



3区 Pit1242 遺物出土状況（北から）



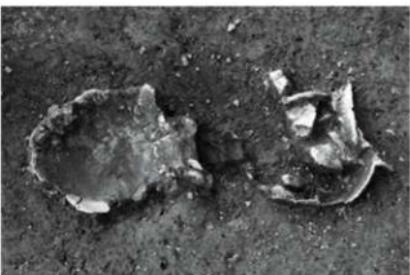
3区 Pit1274（東から）



4区 Pit1337（南から）



3区土器群8遺物出土状況（南東から）



3区土器群8遺物出土状況（南東から）



3区土器群3遺物出土状況（南から）



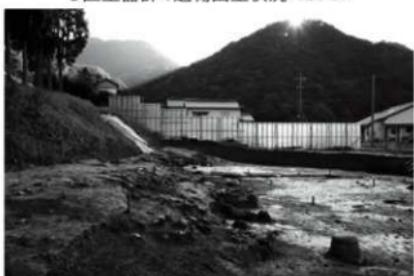
3区土器群3遺物出土状況（南から）



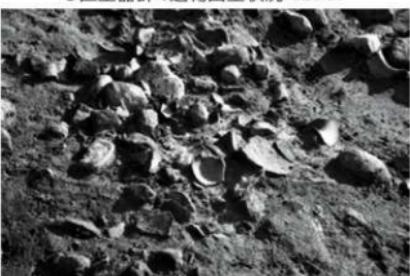
3区土器群4遺物出土状況（南から）



3区土器群4遺物出土状況（南から）



1区土器群7遺物出土状況（西から）



1区土器群7遺物出土状況（南西から）



1区土器群7遺物出土状況（南から）



1区段1（南から）



1区段1土層堆積状況（西から）



遺物出土状況（第97図29）（南から）



遺物出土状況（第98図4）（北から）



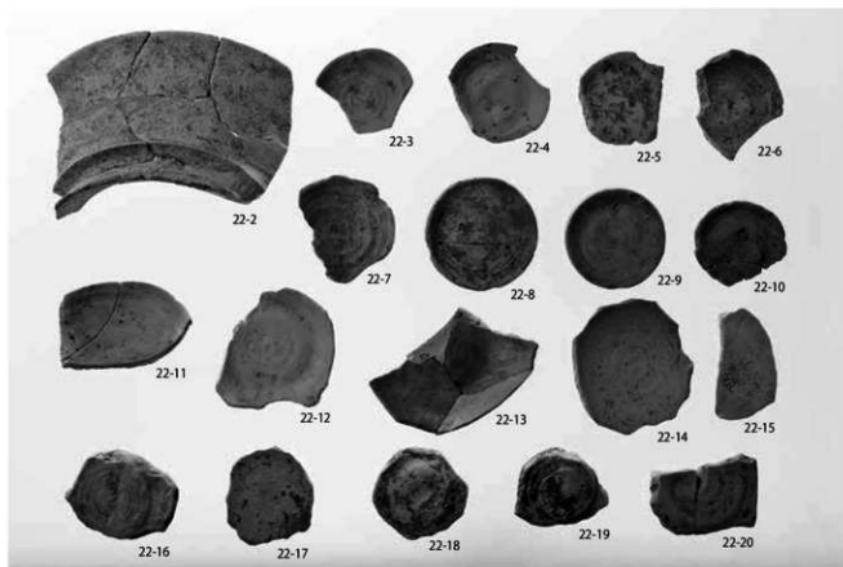
遺物出土状況（第98図4）（北から）



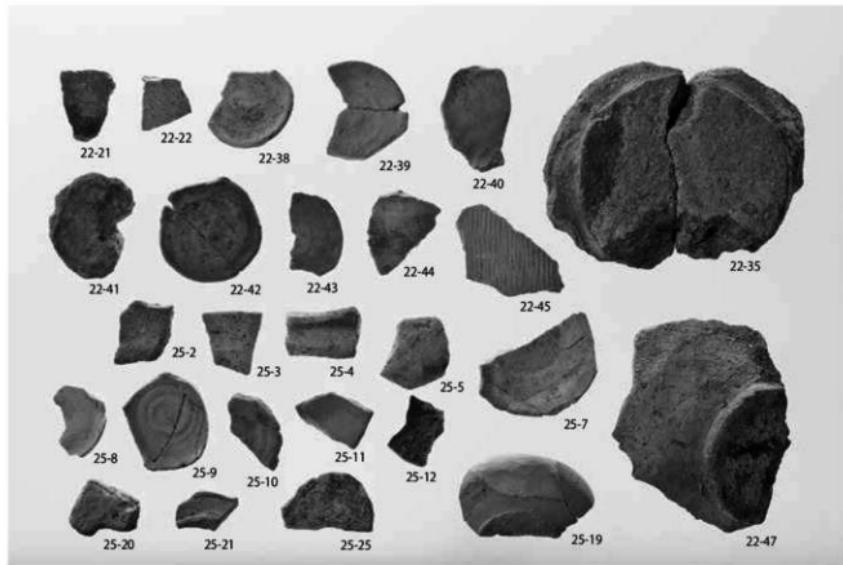
土器群9遺物出土状況（北から）



土器群9遺物出土状況（第63図11）（東から）



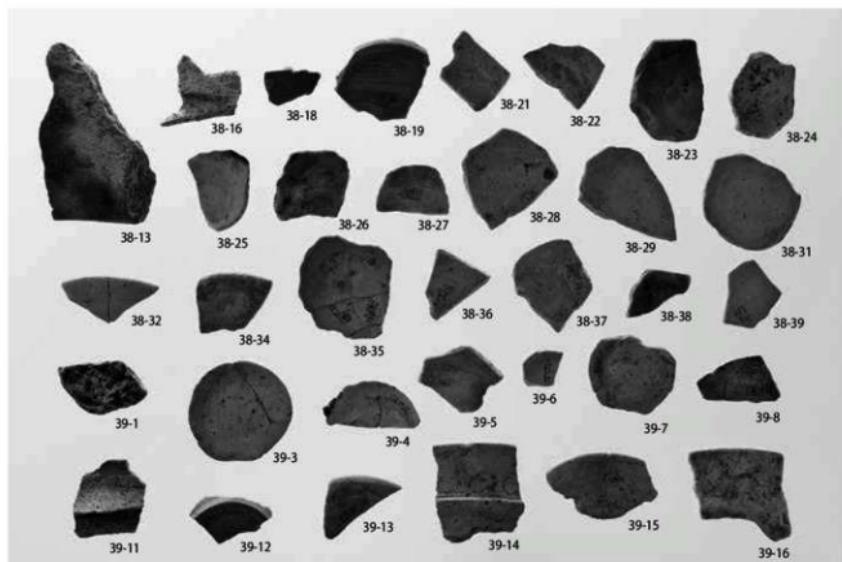
石列出土土器



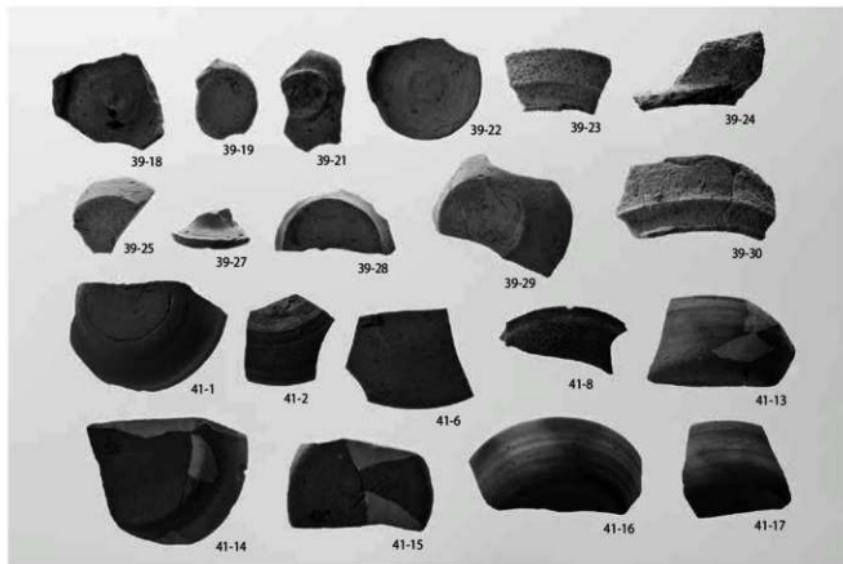
石列、SK出土土器



SD、Pit出土遺物



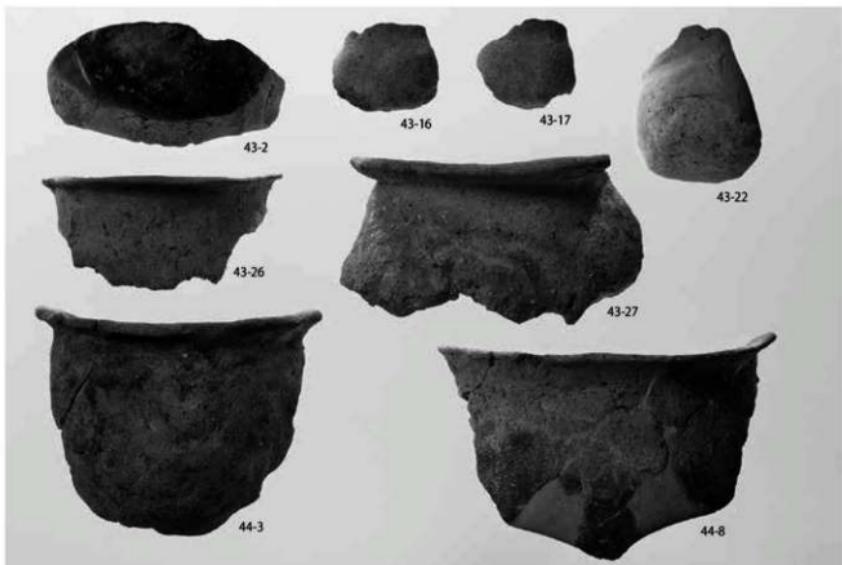
Pit出土遺物



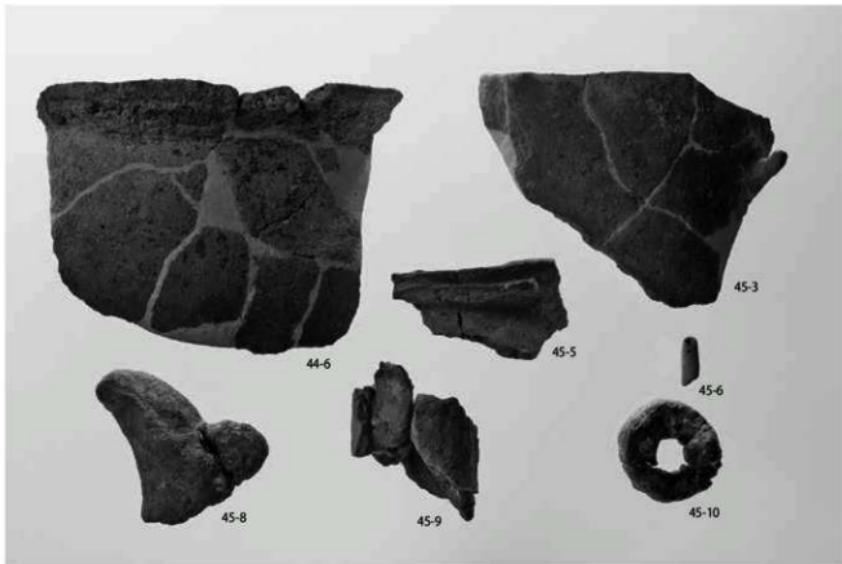
Pit、土器群1出土土器



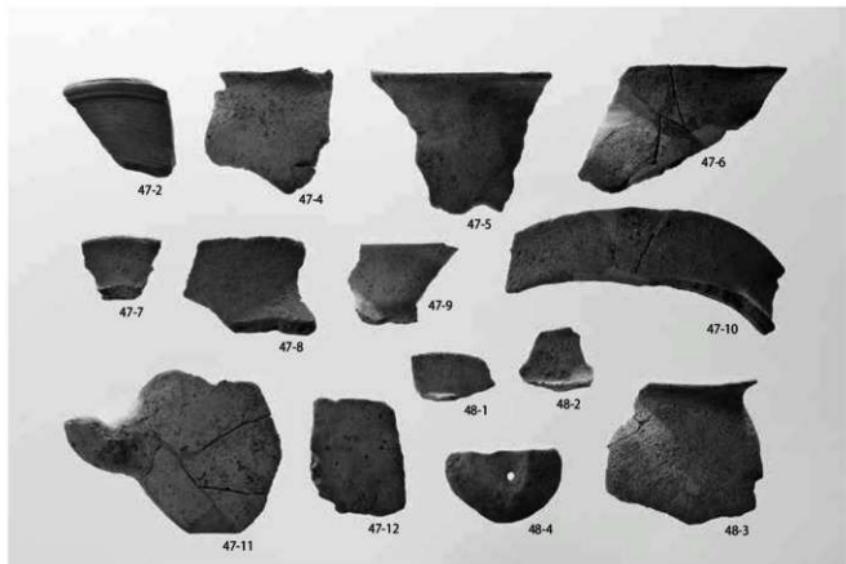
土器群1出土土器



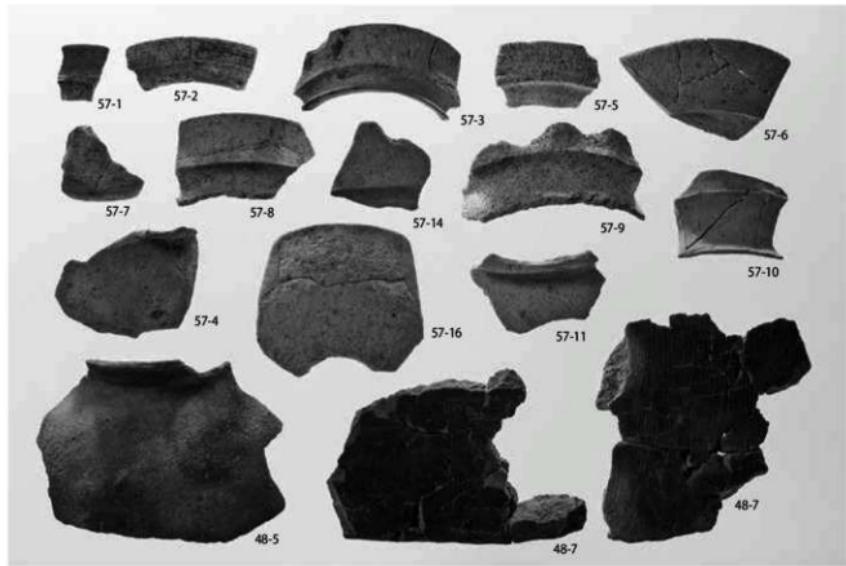
土器群1出土土器



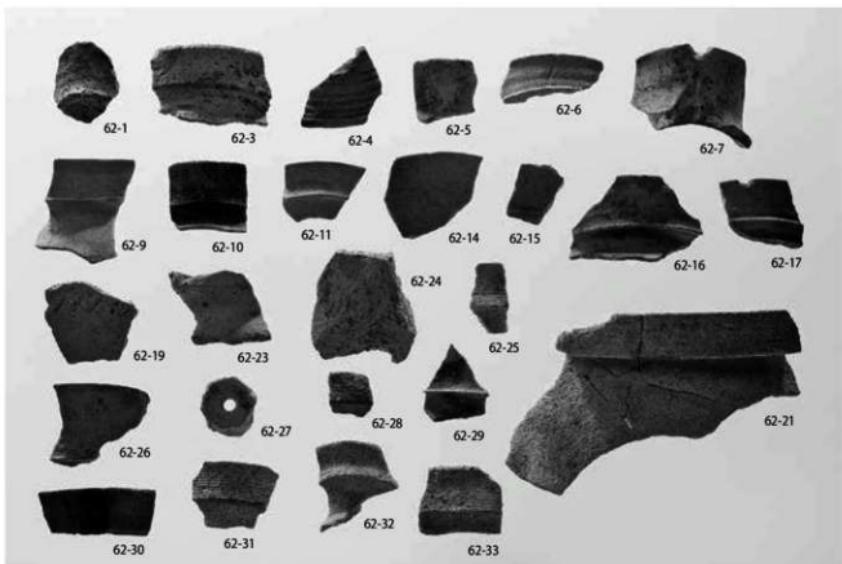
土器群1出土土器



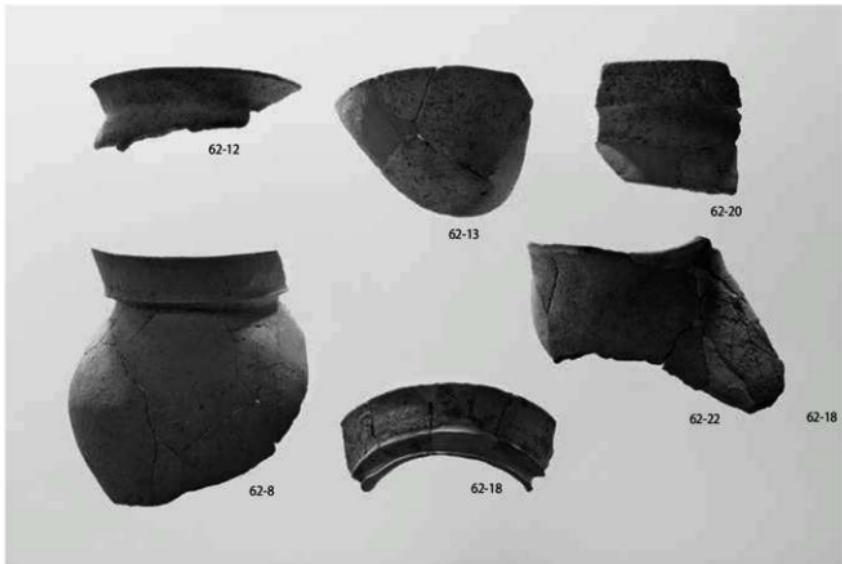
土器群5・2出土土器



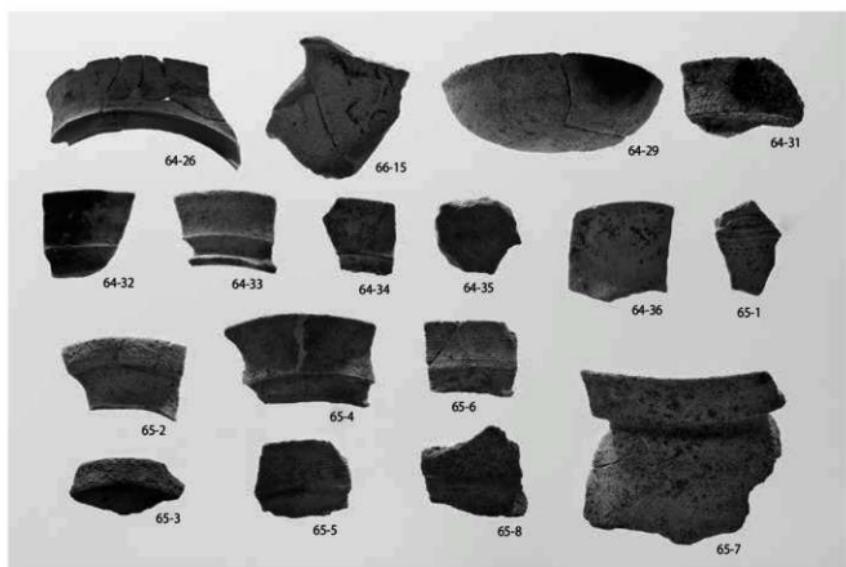
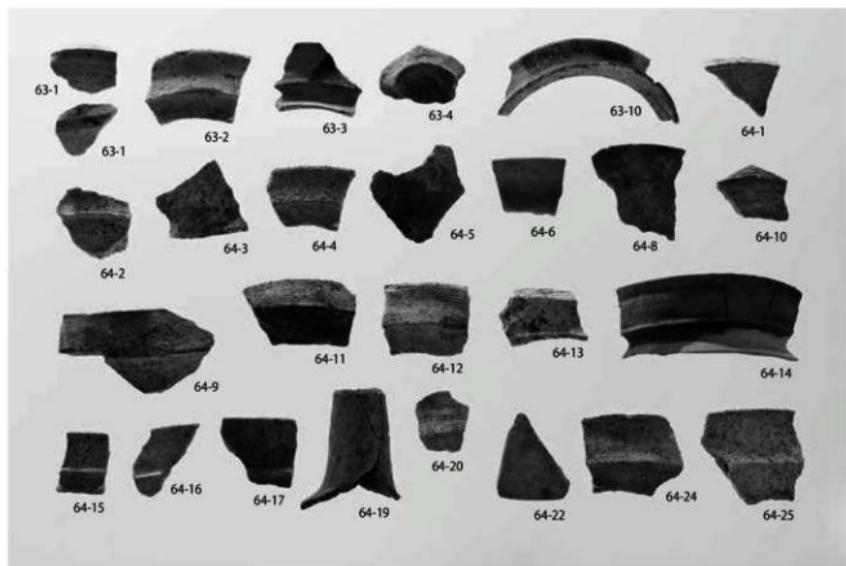
土器群2、SK出土遺物

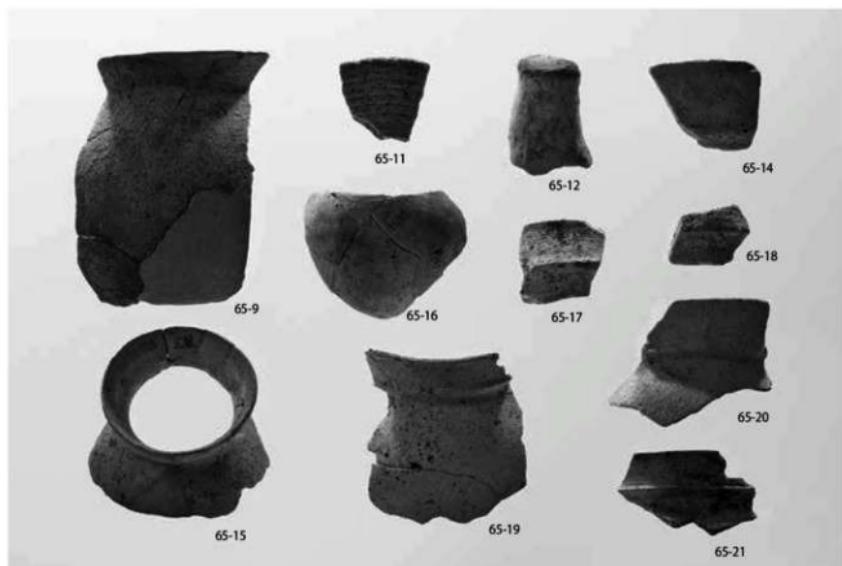


SD 出土土器

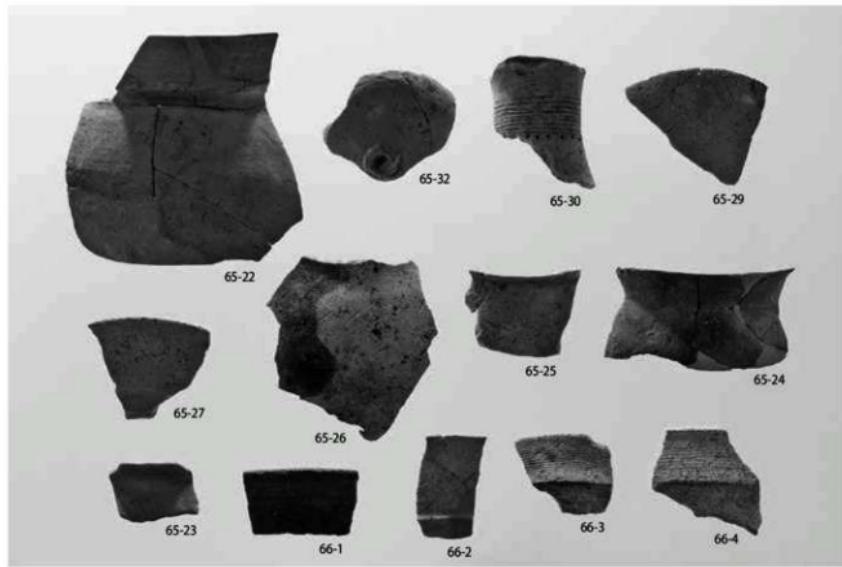


SD 出土土器

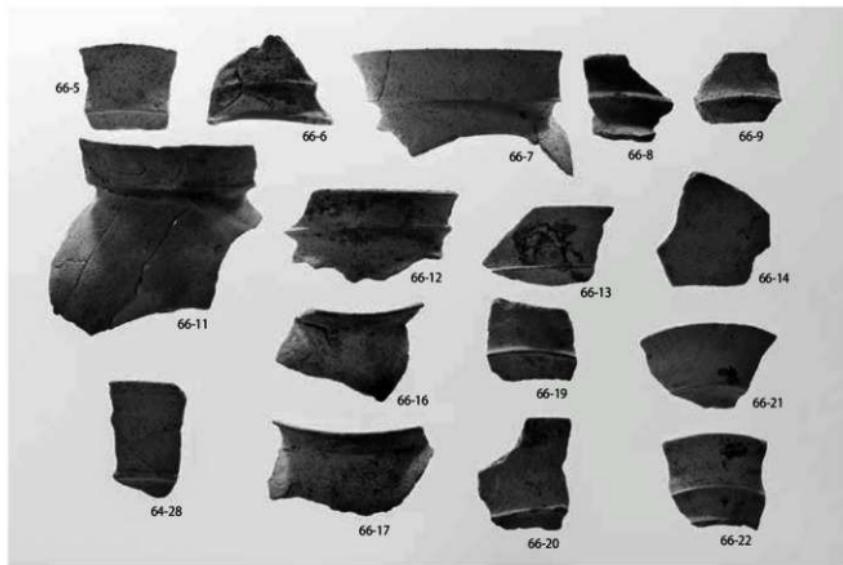




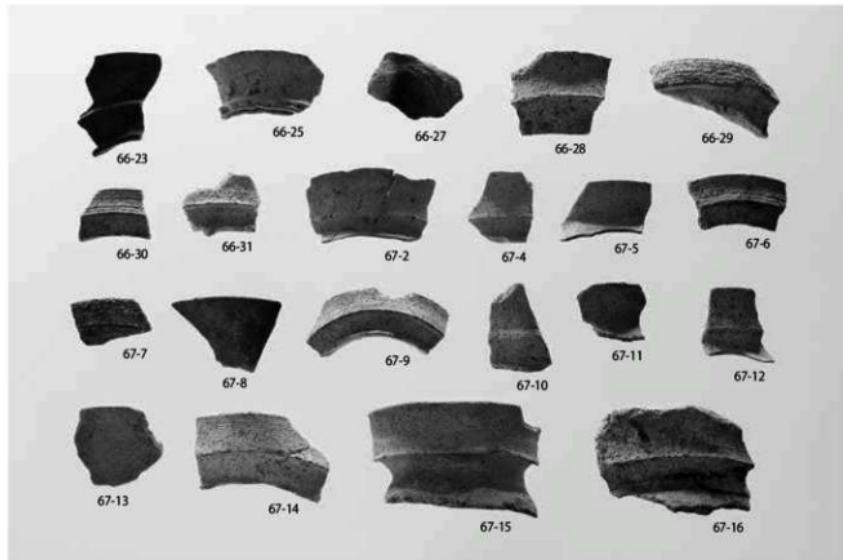
SD 出土土器



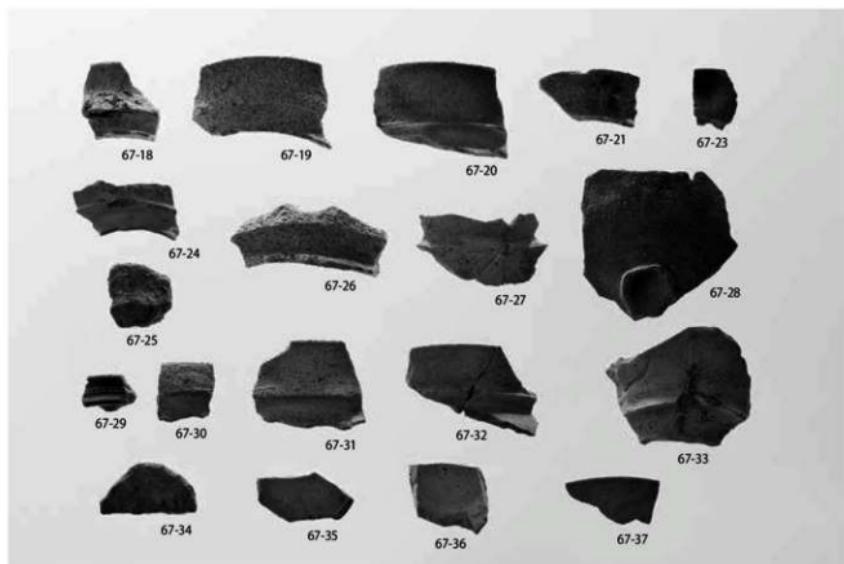
SD 出土土器



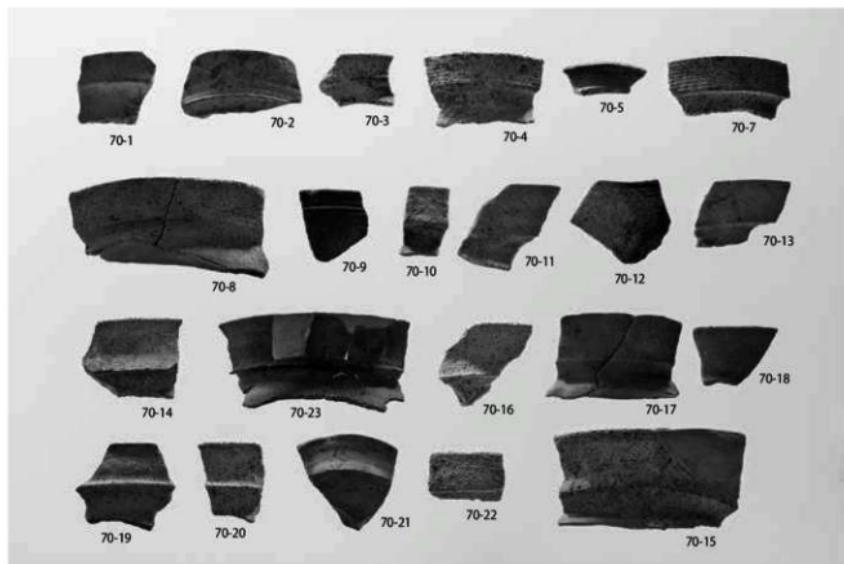
SD出土土器



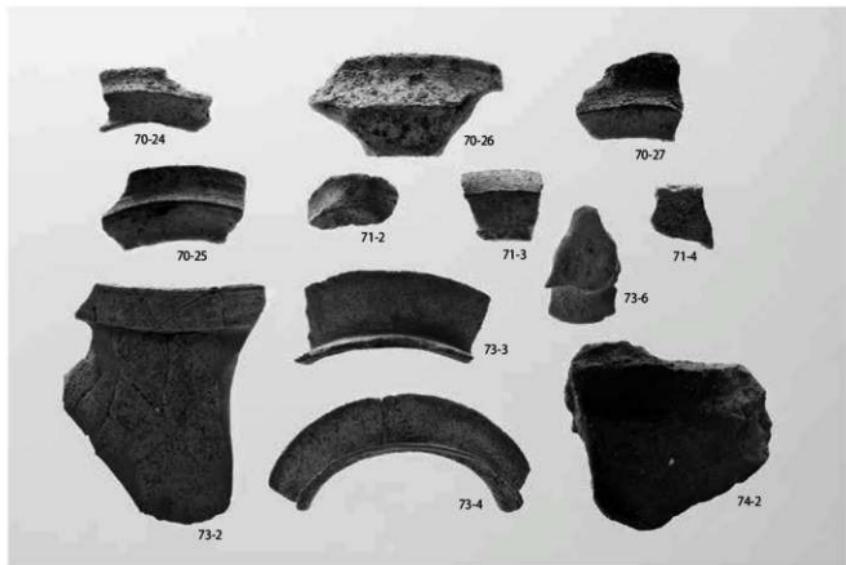
SD出土土器



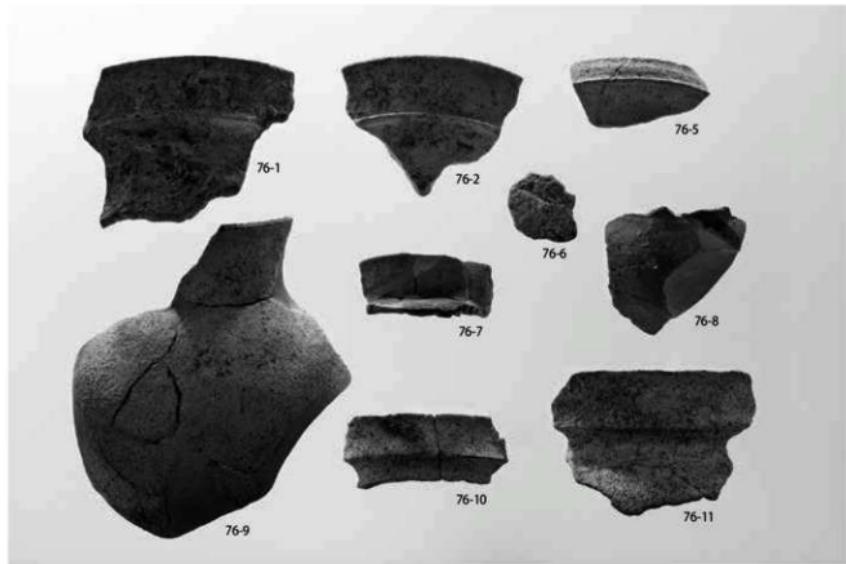
SD、Pit出土土器



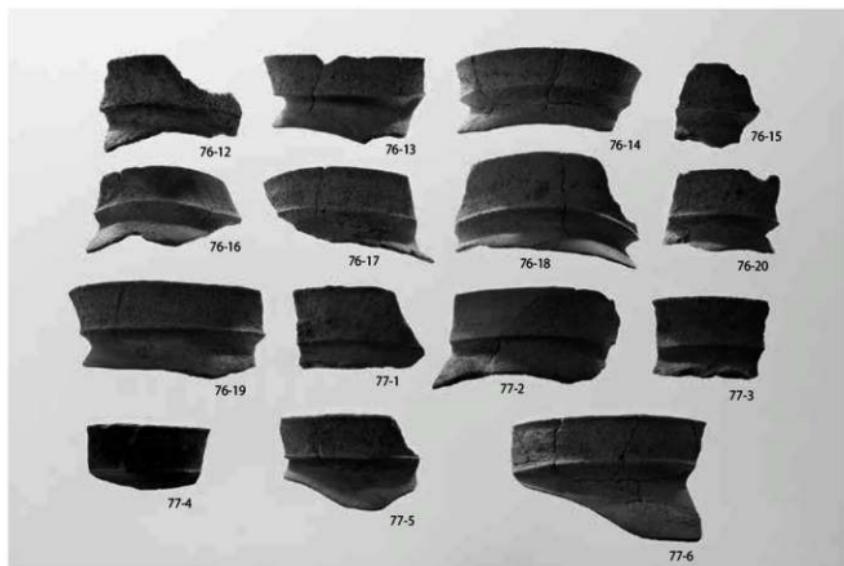
Pit出土土器



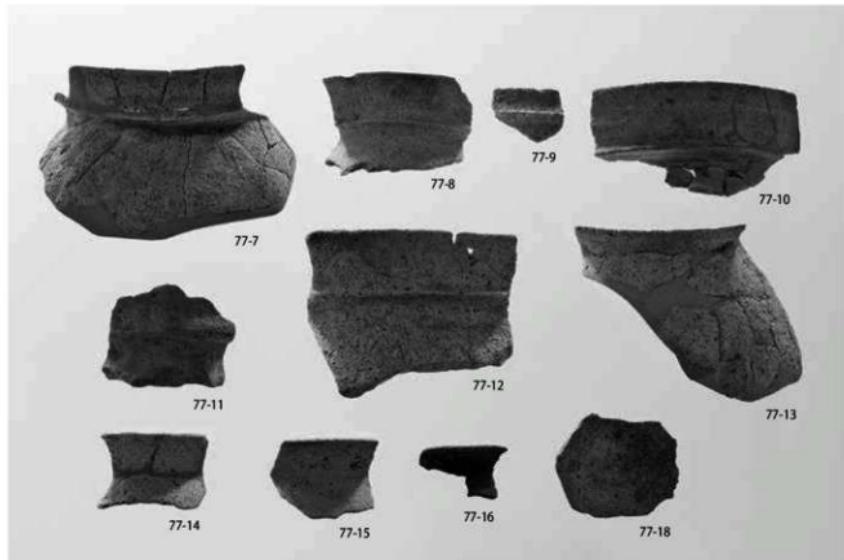
Pit、焼土、土器群出土遺物



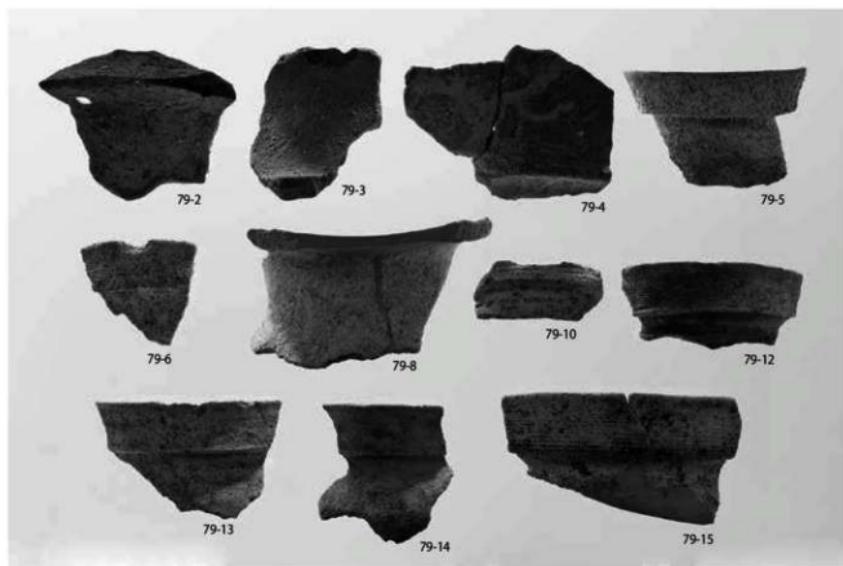
土器群4出土土器



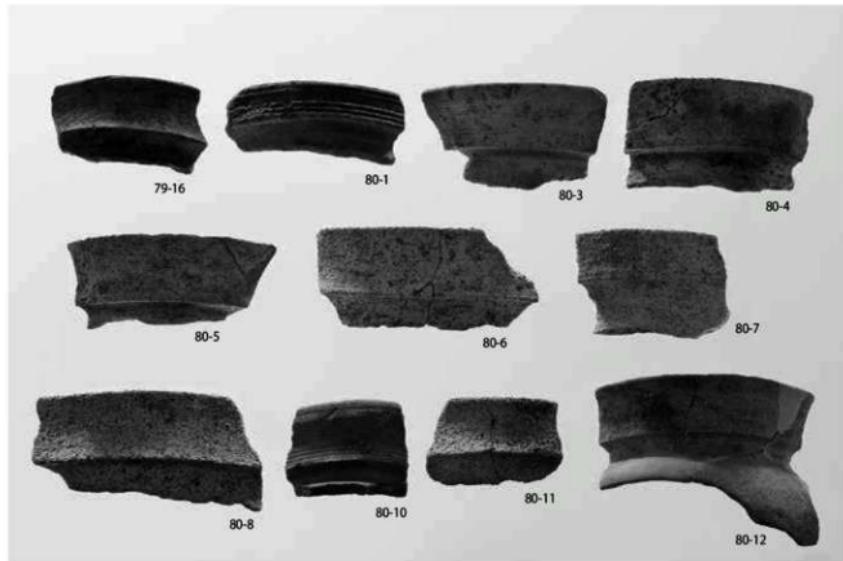
土器群4出土土器



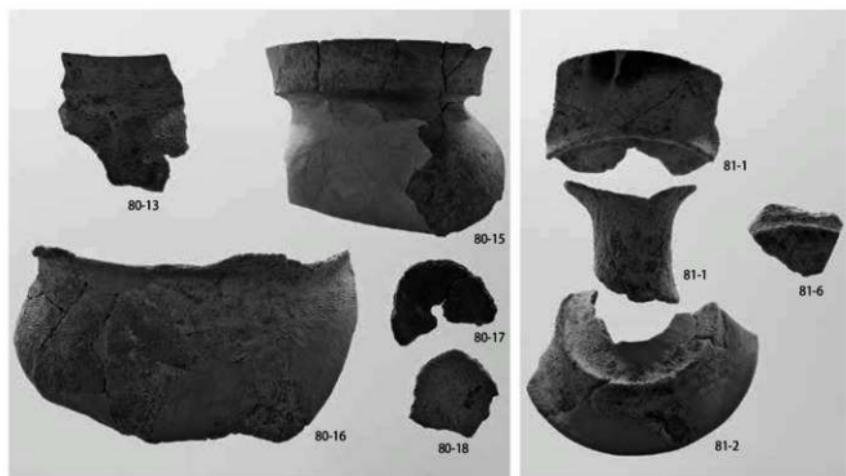
土器群4出土土器



土器群6出土土器



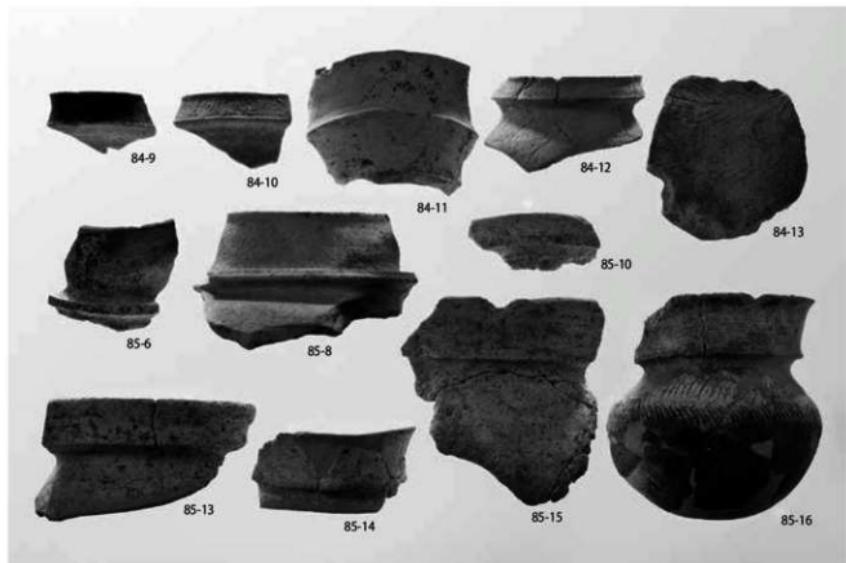
土器群6出土土器



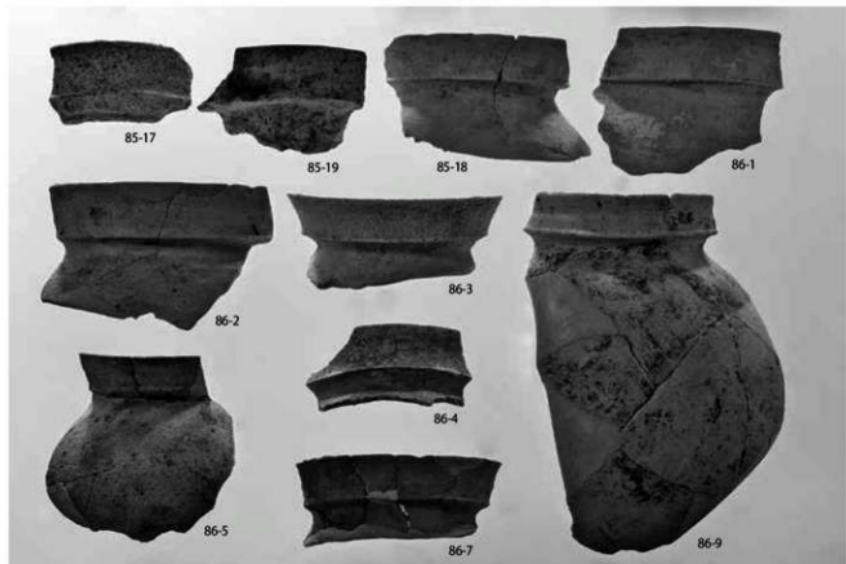
土器群6出土土器



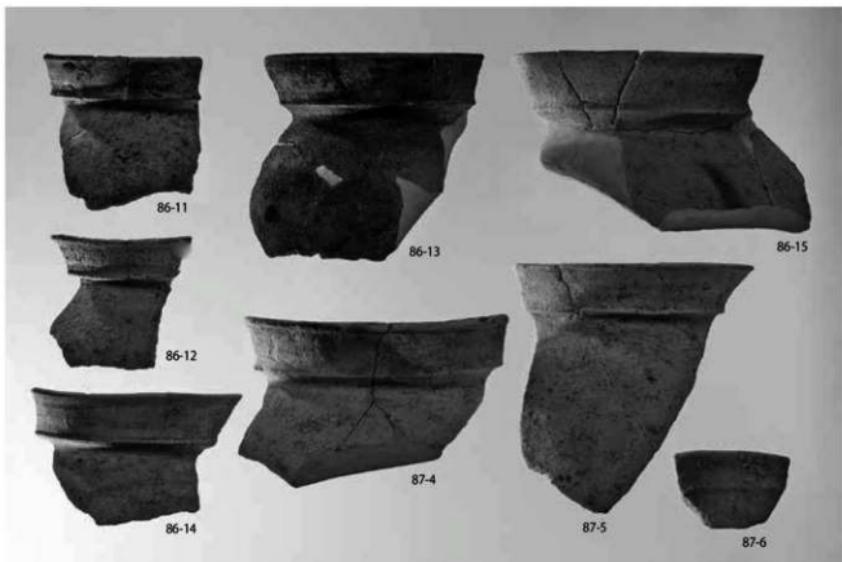
土器群7出土土器



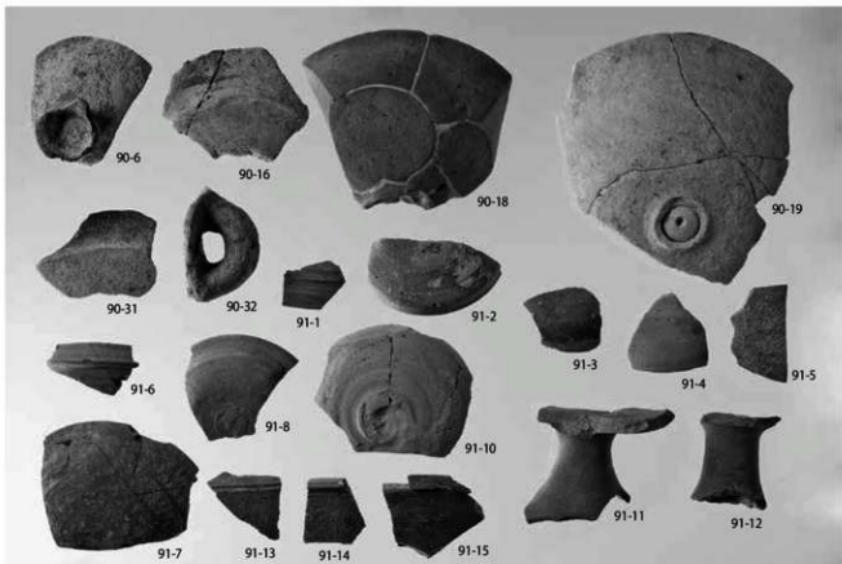
土器群7出土土器



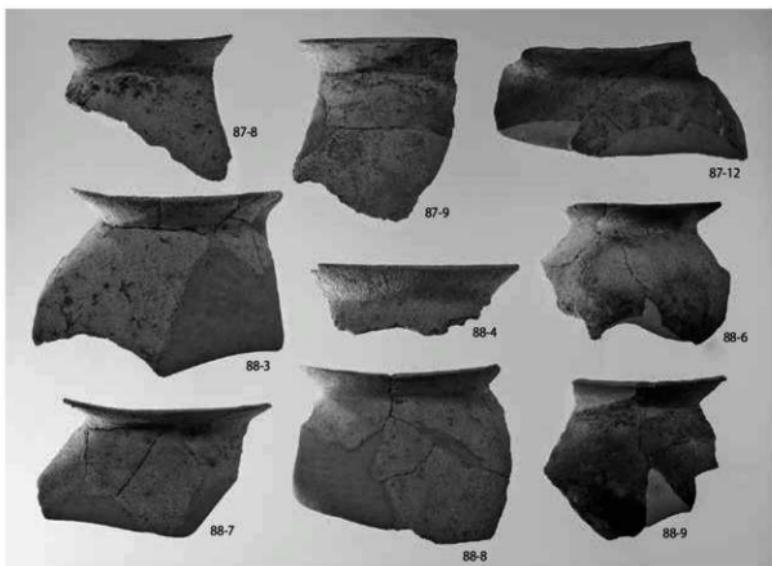
土器群7出土土器



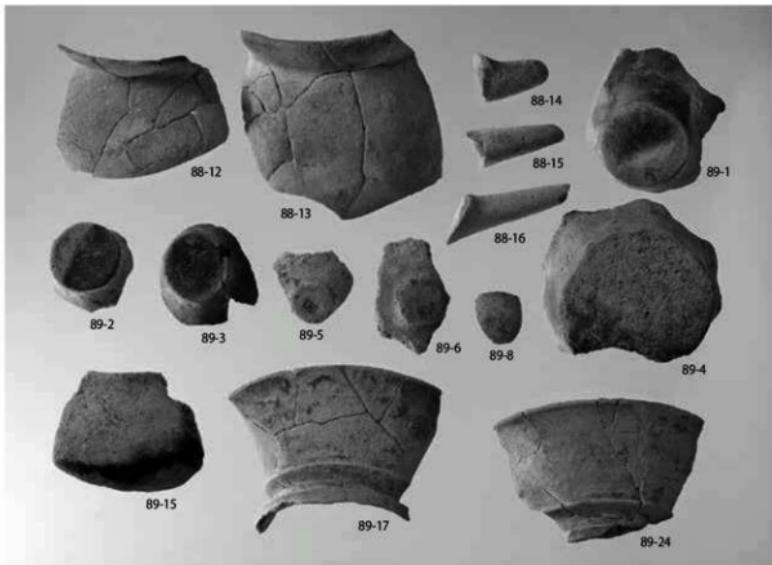
土器群7出土遺物



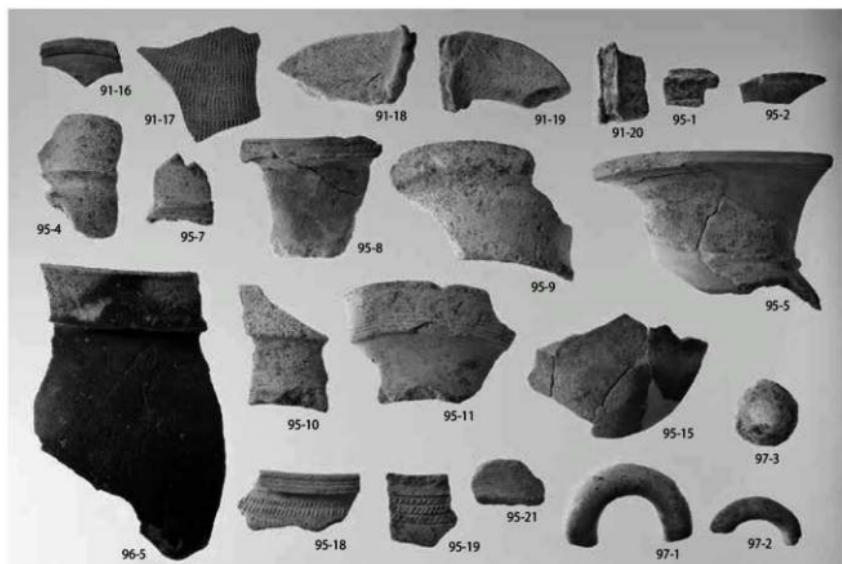
土器群7出土遺物



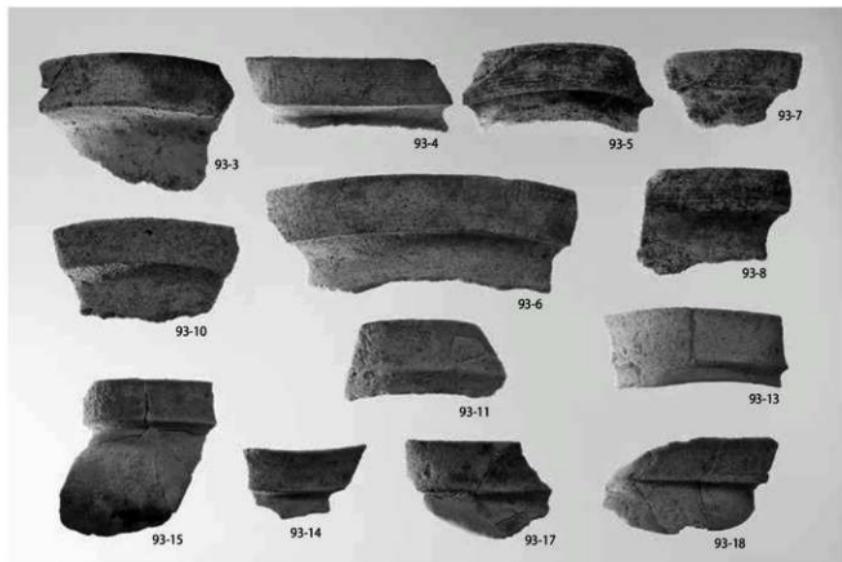
土器群7出土土器



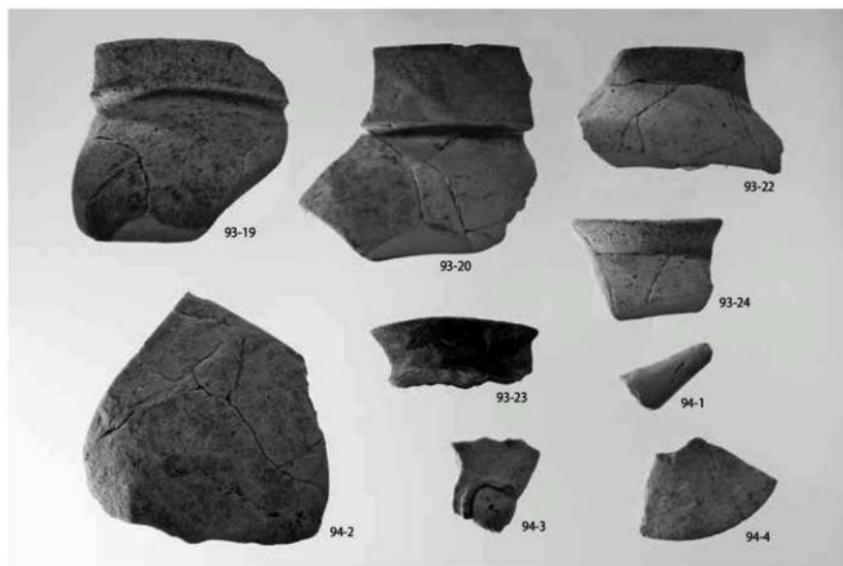
土器群7出土土器



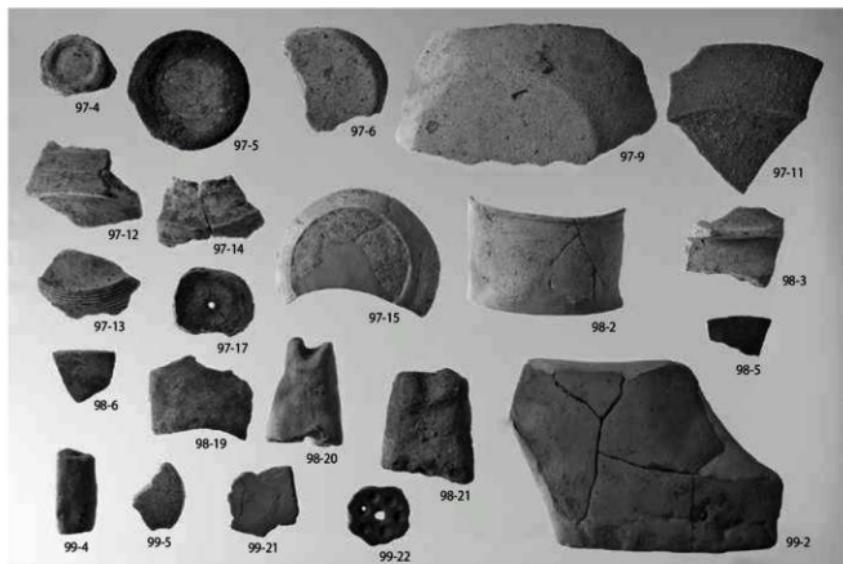
土器群7、包含层出土遗物



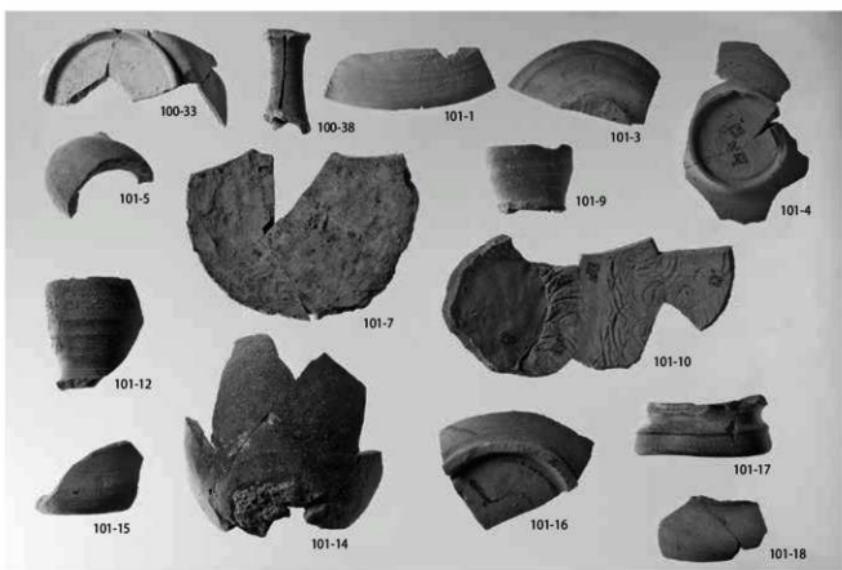
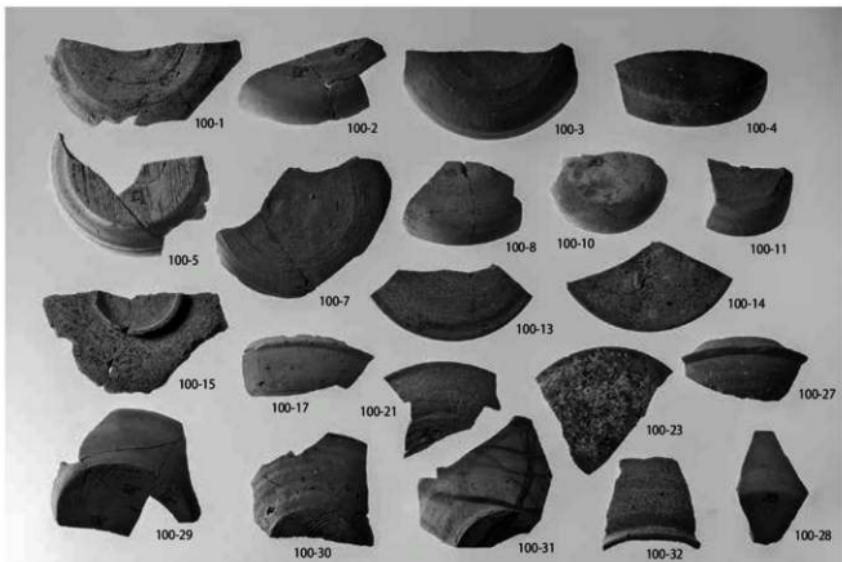
段1出土土器

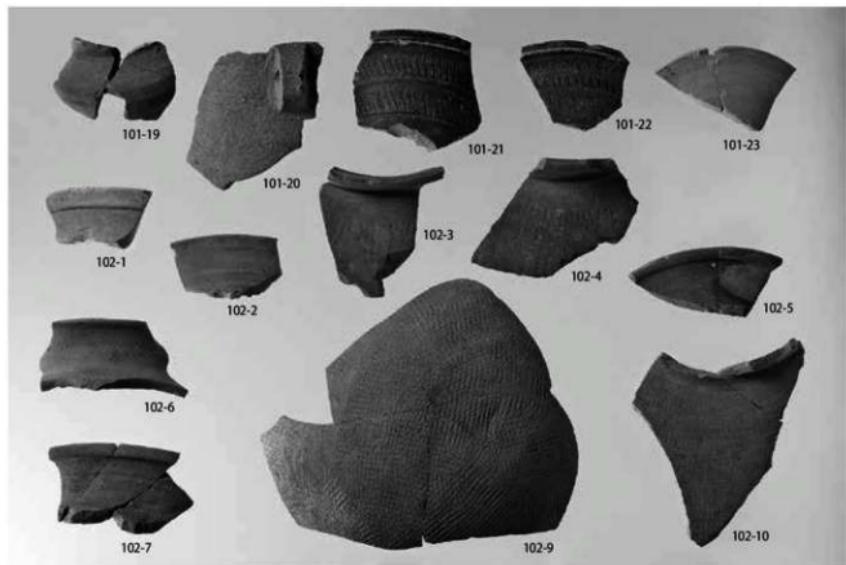


段1出土土器

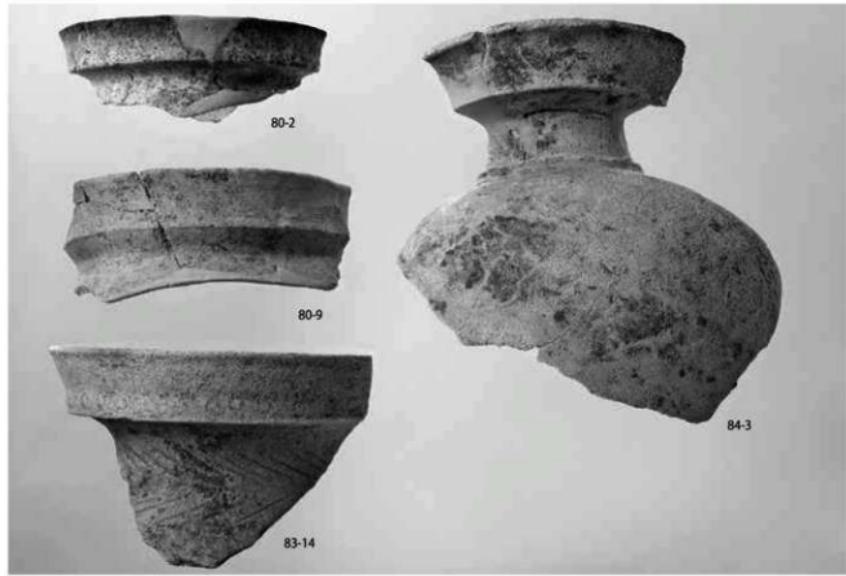


包含層出土遺物

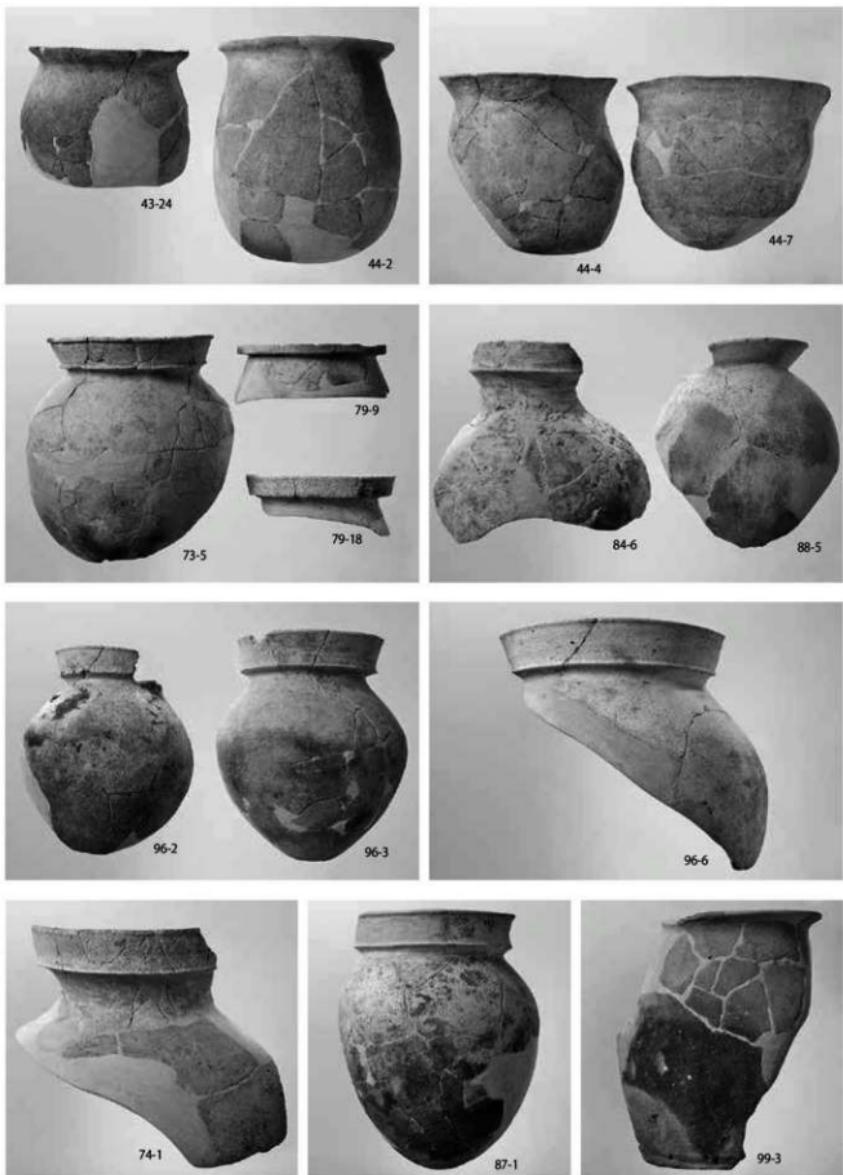




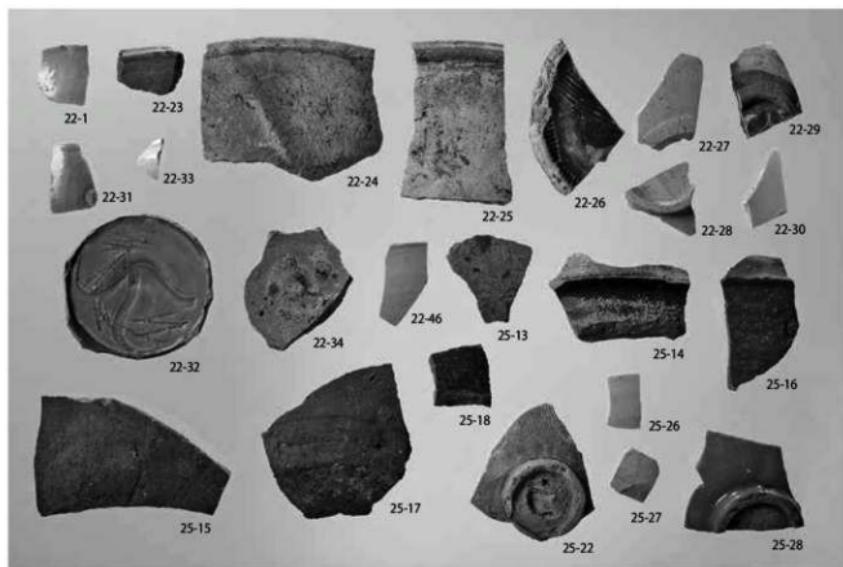
包含層出土土器



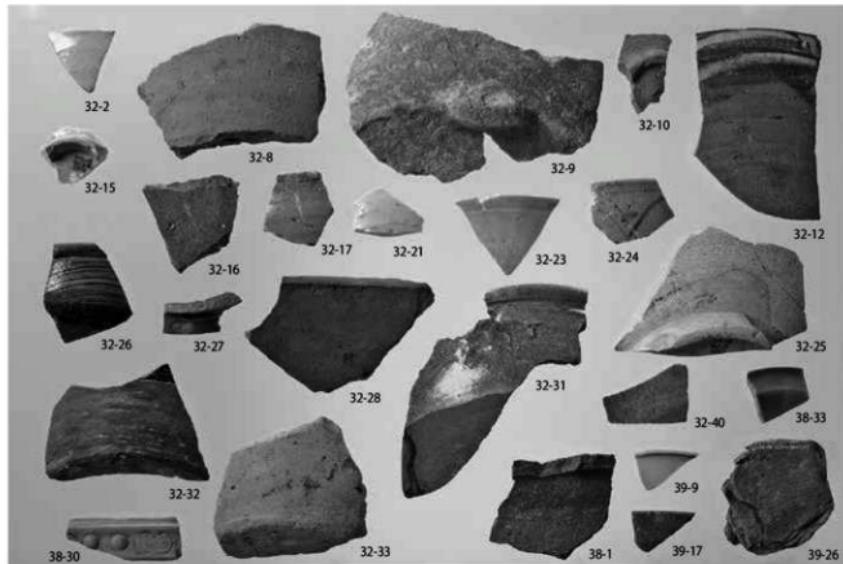
土器群6、土器群7出土土器



土器群、包含層出土土器



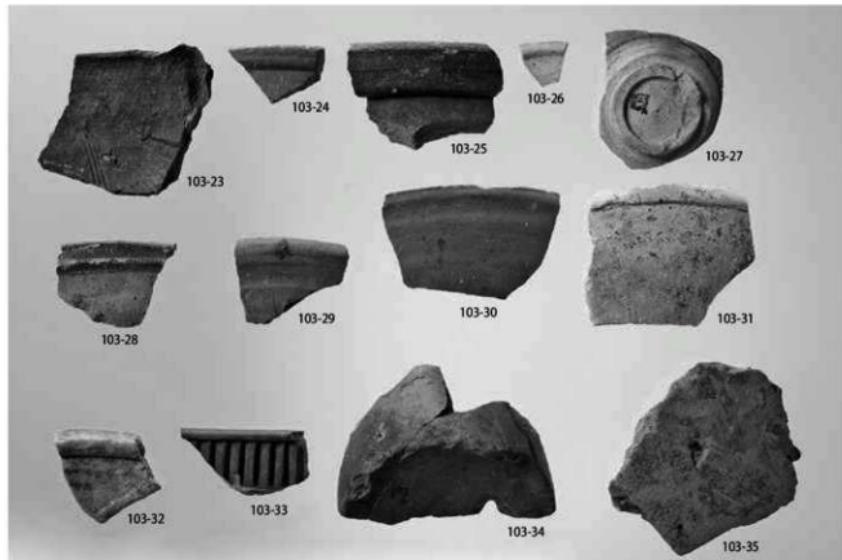
石列、SK出土陶磁器



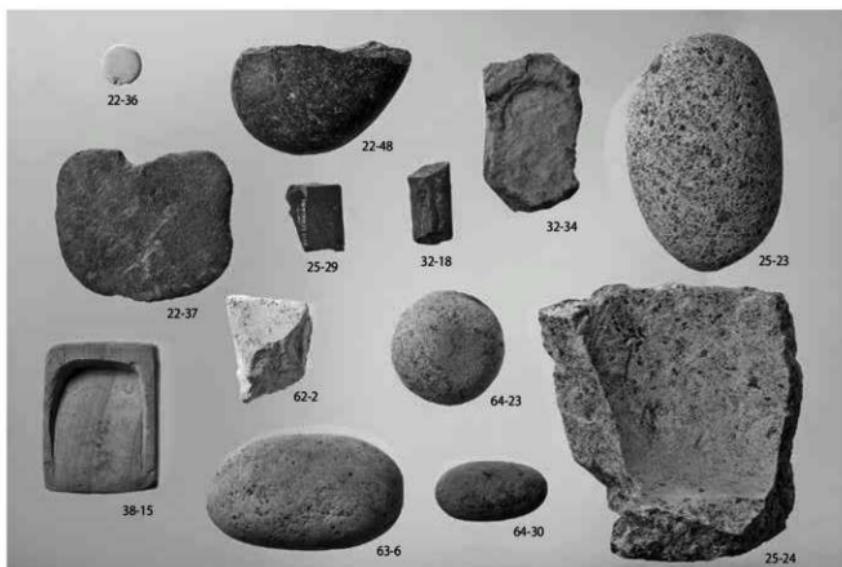
SD、Pit出土陶磁器



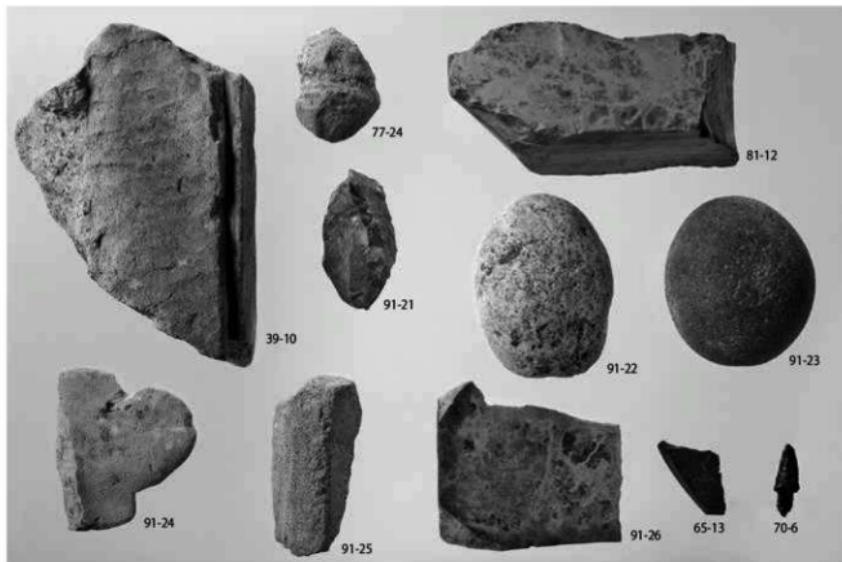
出土陶磁器



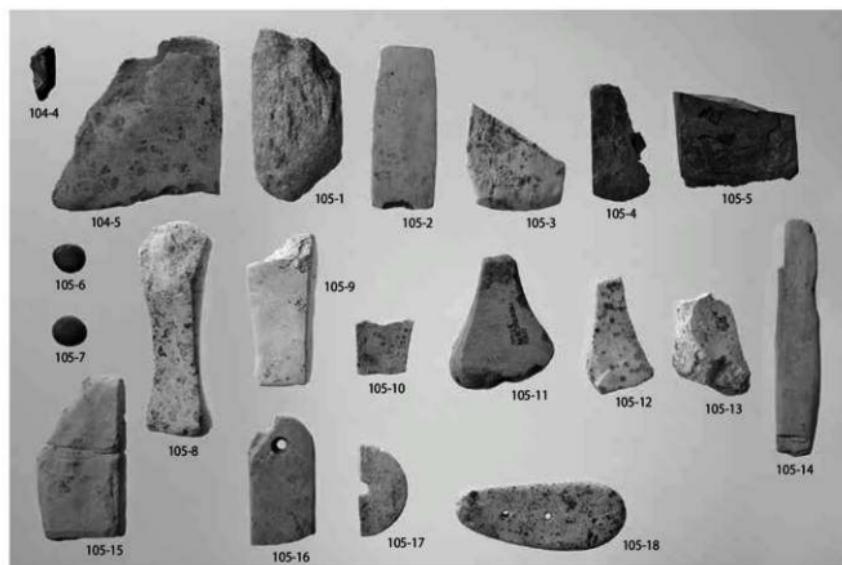
出土陶磁器



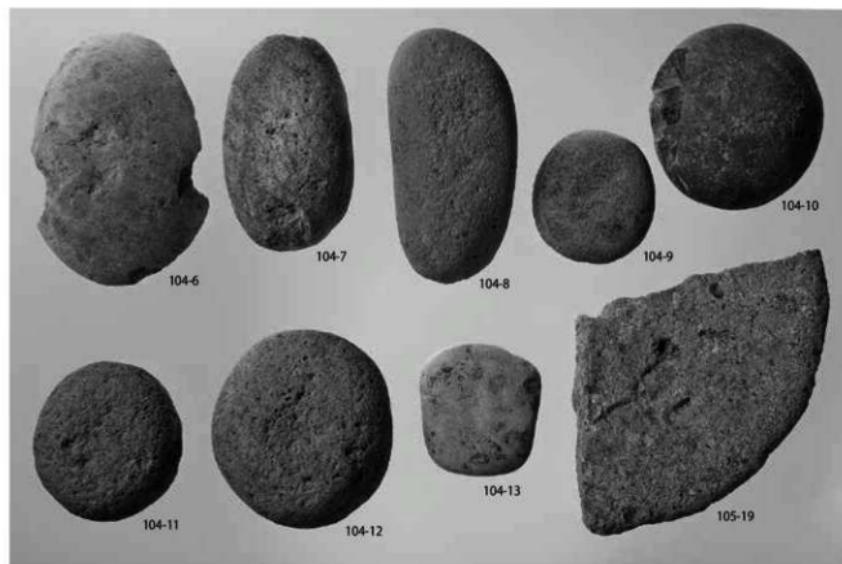
石列、SK、SD出土石器



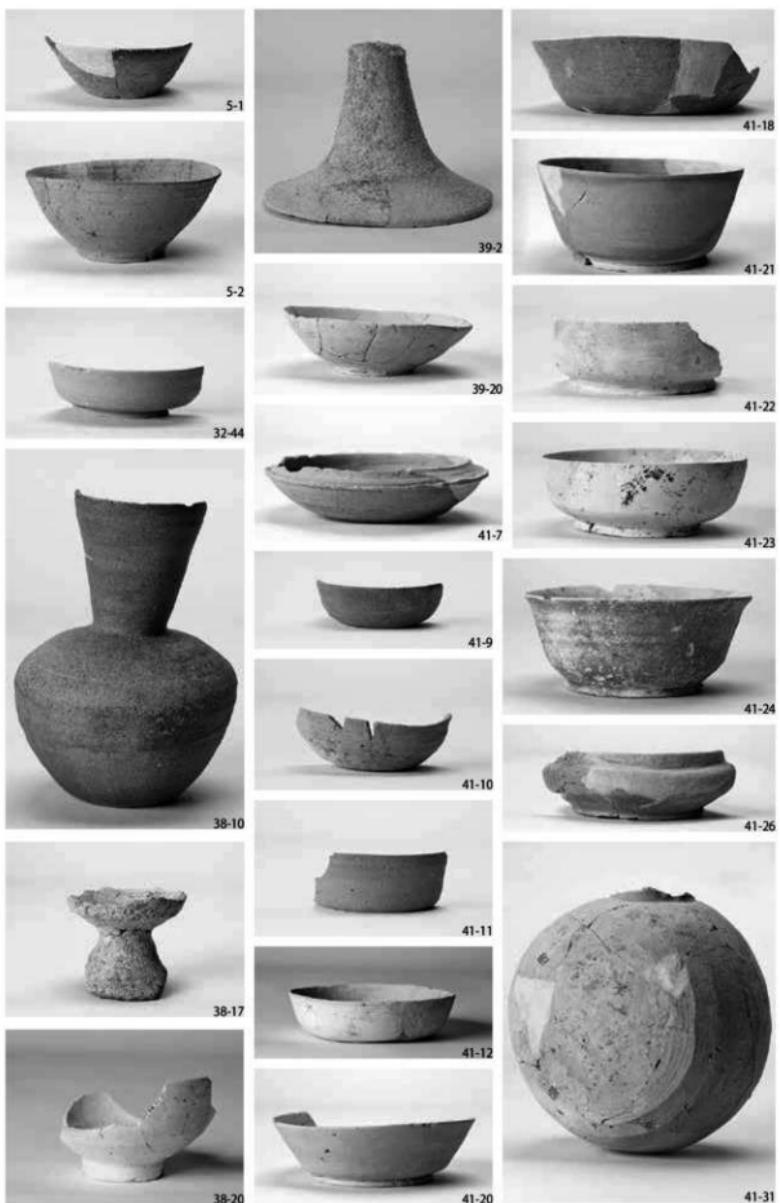
SD、Pit、土器群出土石器



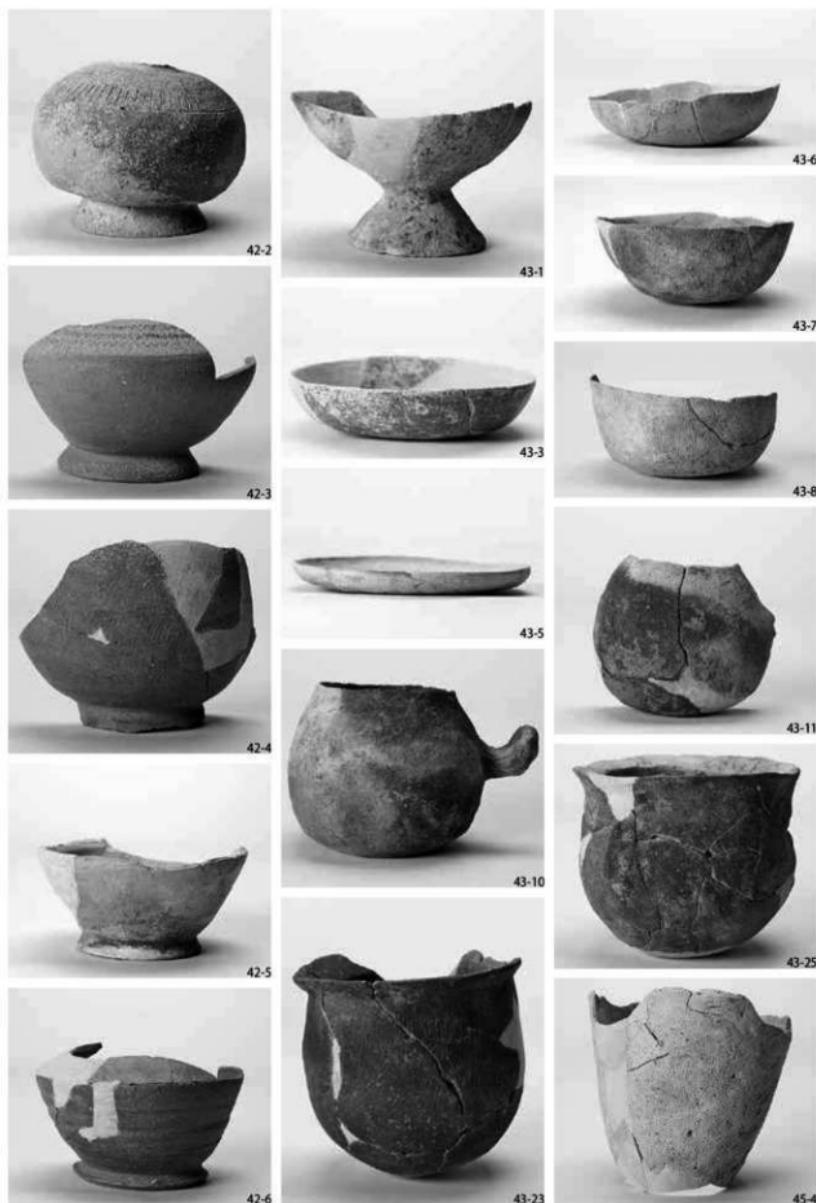
出土石器



出土石器



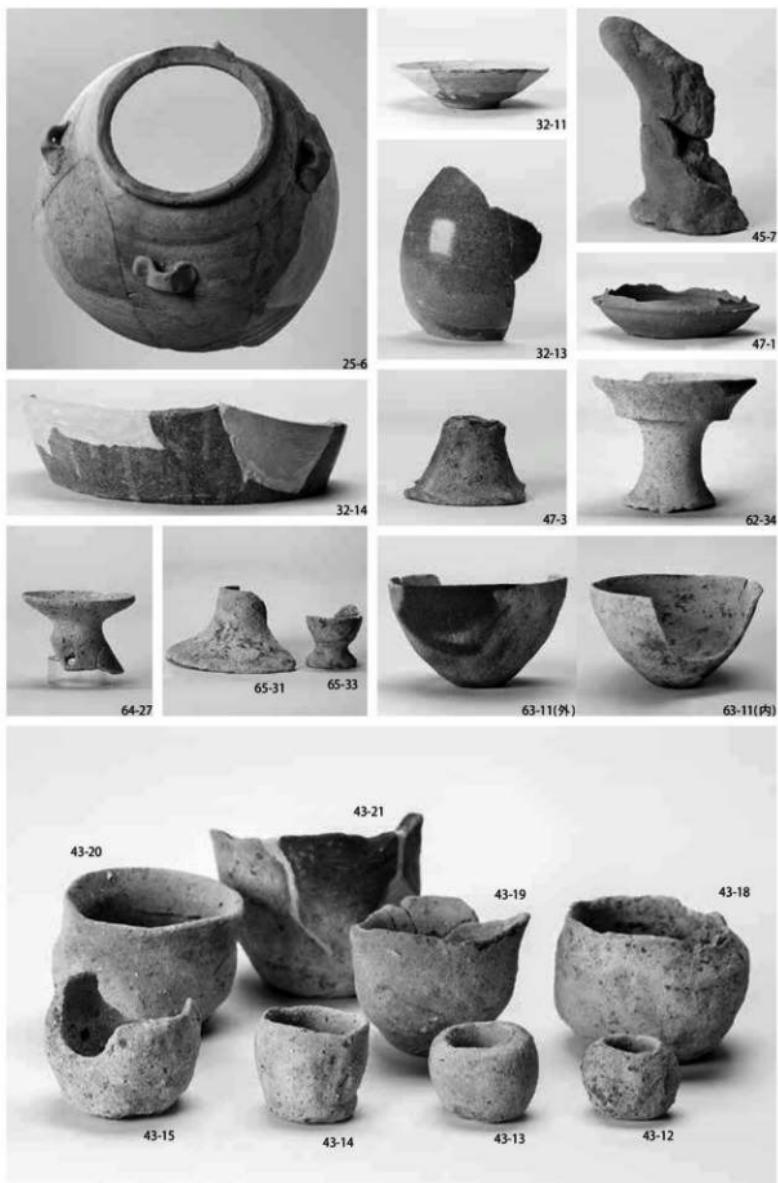
試掘、SD、Pit、土器群出土土器



土器群出土土器



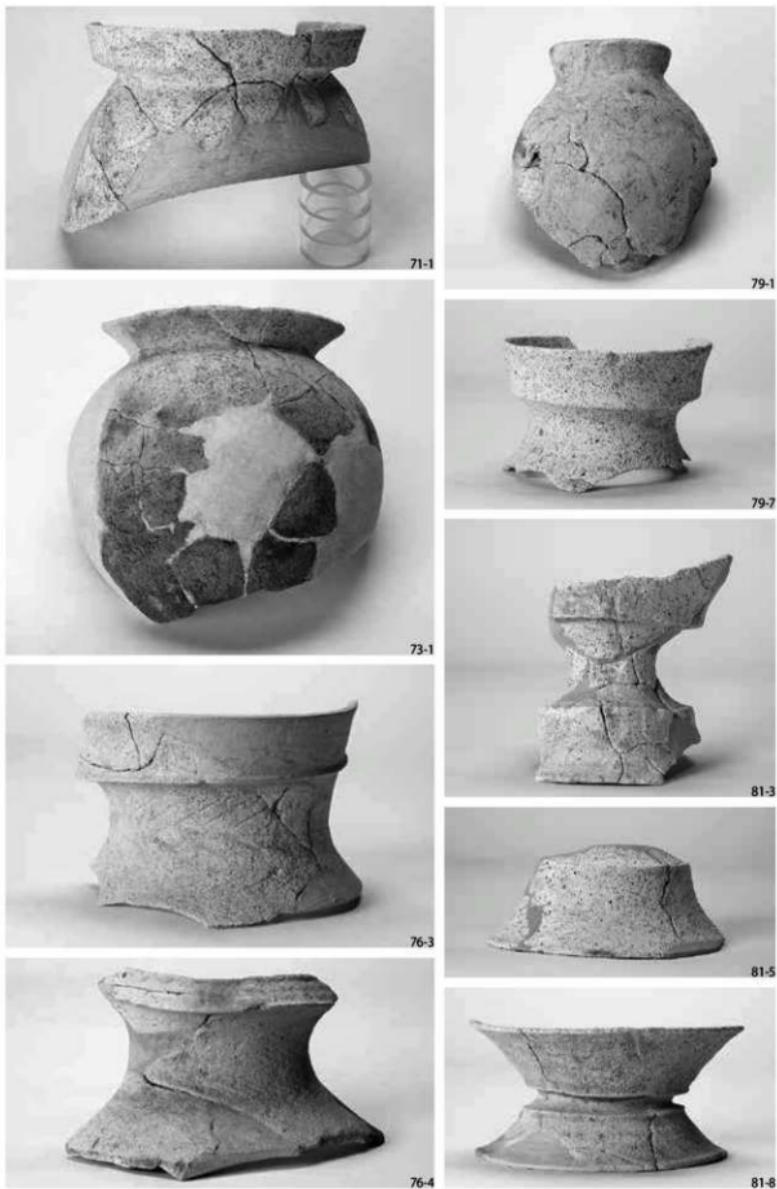
土器群、SD 出土土器



SK、SD、土器群出土遺物



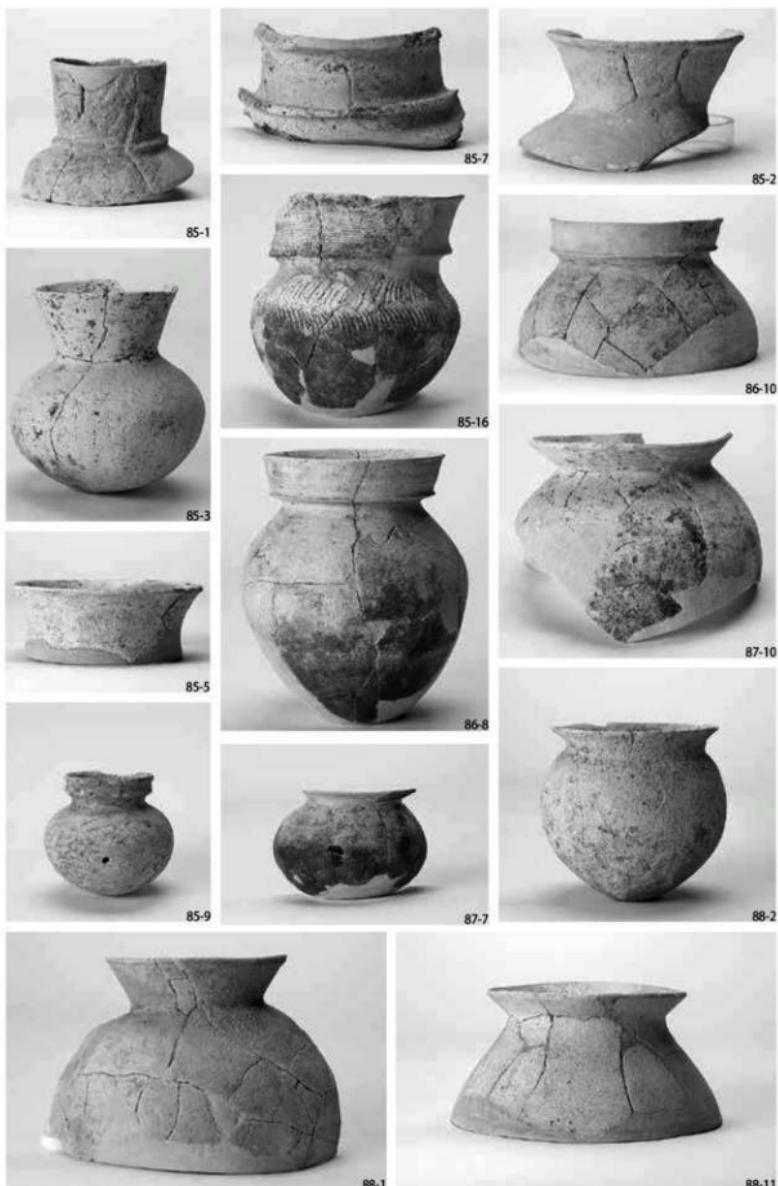
土器群、SD出土土器



焼土、土器群出土土器



土器群出土土器



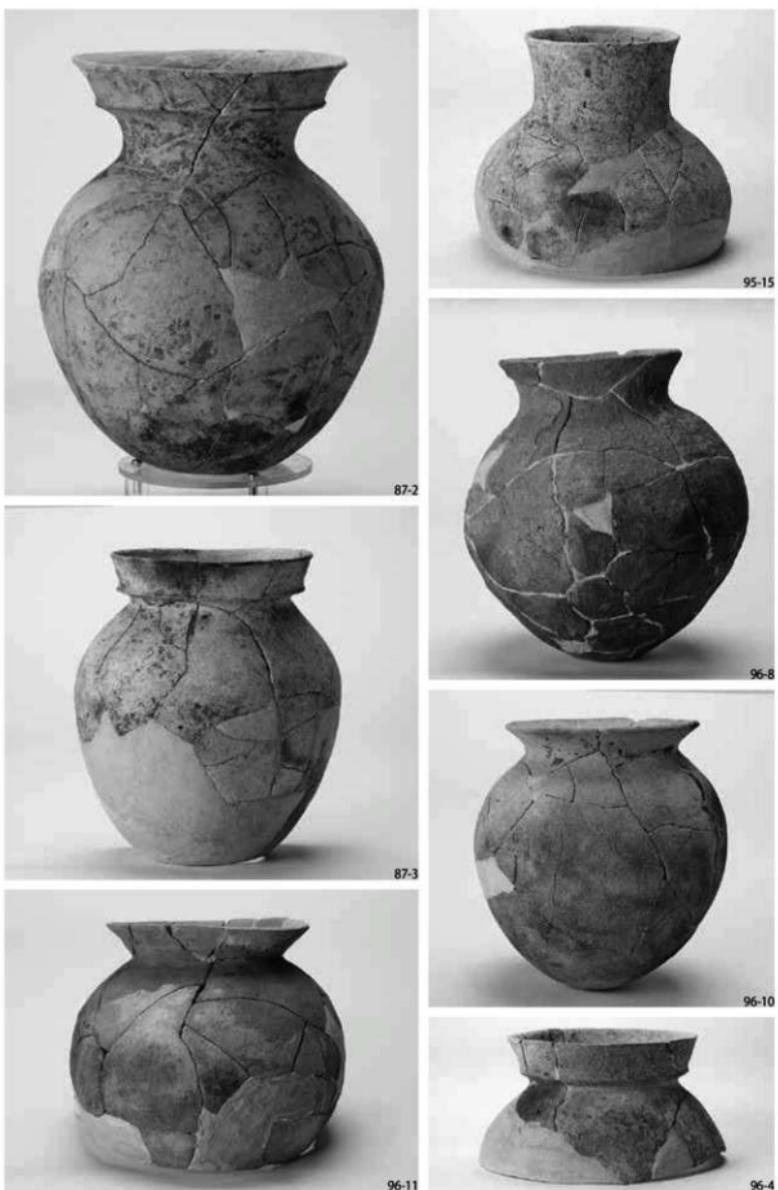
土器群7出土土器



土器群7出土土器



土器群7、段1、包含層出土土器



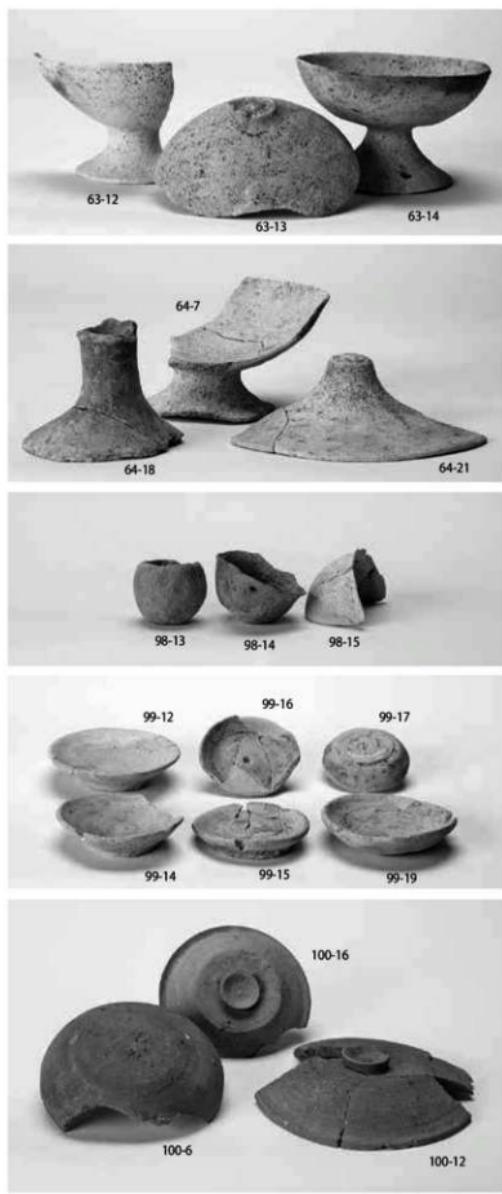
土器群7、包含層出土土器



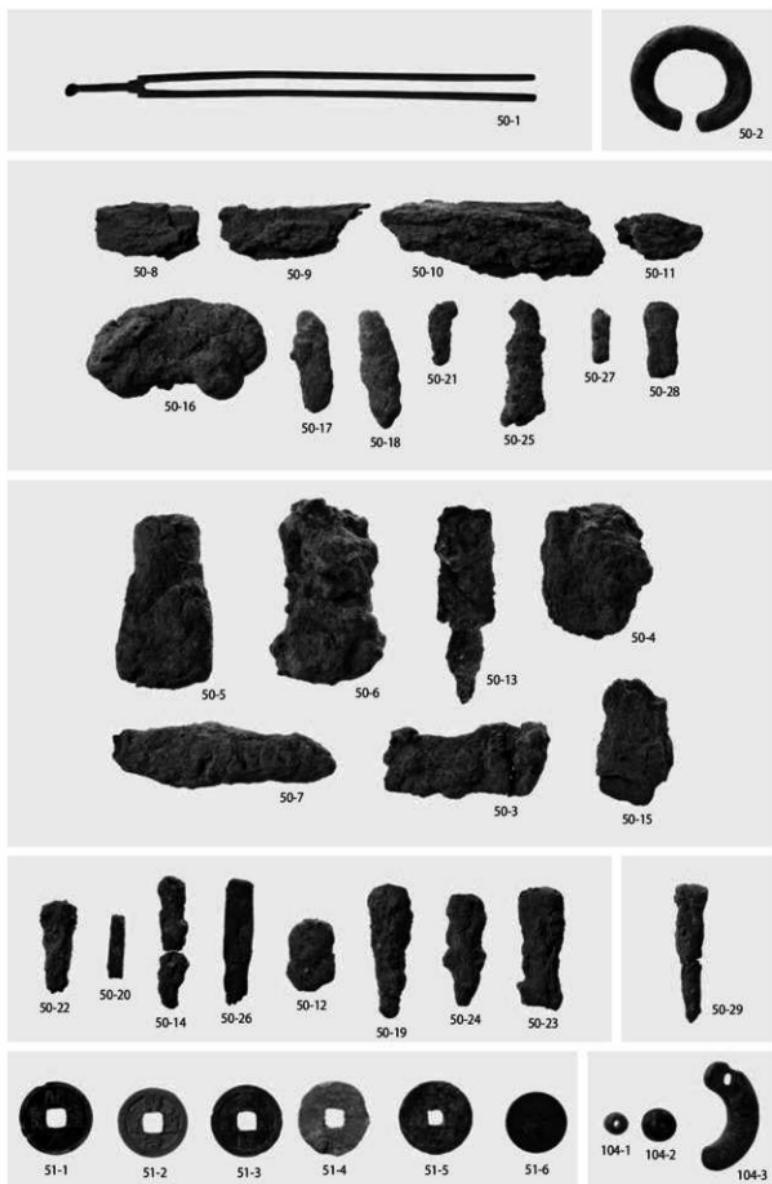
包含層、SK出土土器



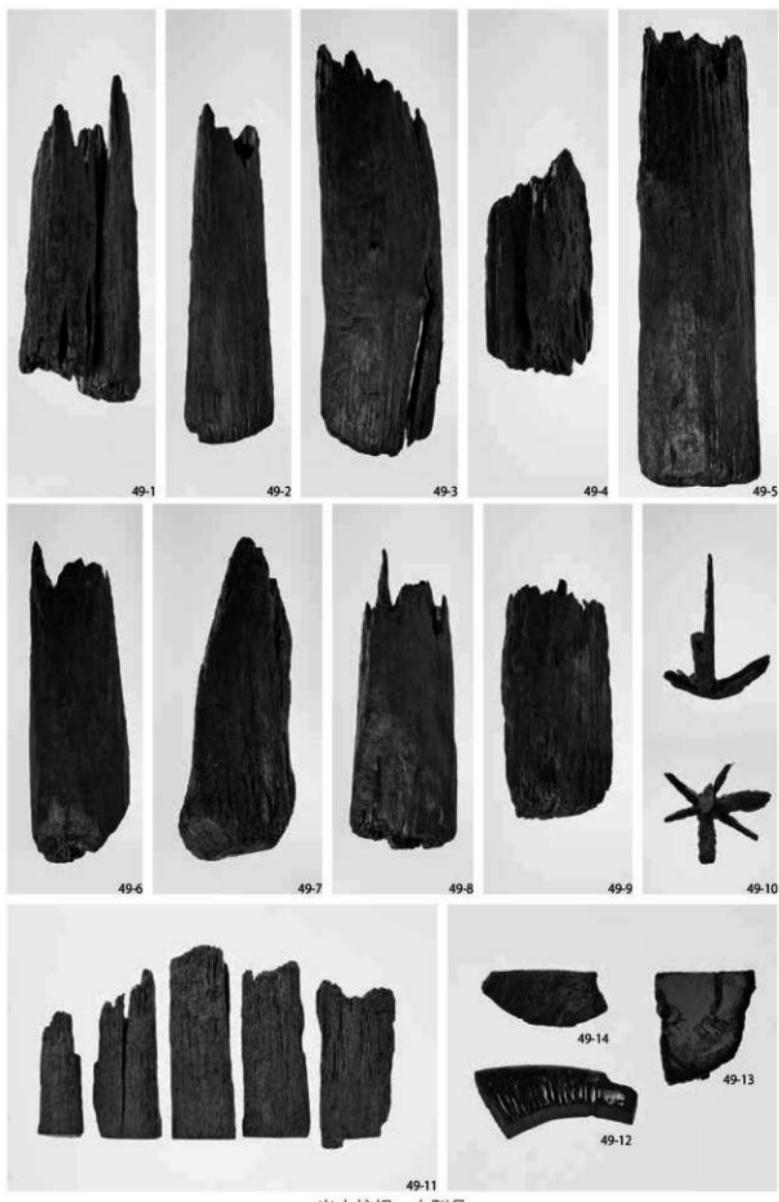
包含層出土遺物



SD、包含层出土土器



出土金属器、錢貨、玉



49-11  
出土柱根、木製品

## 報告書抄録

## 印刷仕様

紙 質 表 紙 レザック四六判 220kg  
本 文 上質紙A判 57.5kg  
写真図版 上質コート紙 A 判 70.5kg  
D T P Windows 7  
画像原稿 Adobe InDesignCC PhotoShopCS6 IllustratorCS5.1  
階調画像線数 175 線(AM スクリーン)

## 大国地頭所遺跡

一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書7

発 行 2018（平成 30）年 9 月  
発行者 島根県教育委員会  
編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター  
〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地  
電話 0852-36-8608  
印 刷 さんきゅう印刷株式会社